

# 年 報

Annual Report 2018

社会医療法人 愛 仁 会  
社会福祉法人 愛 和 会  
特定医療法人 蒼 龍 会

# AIJINKAI

Aijinkai Healthcare Corporation  
since 1958

# 年報

## Annual report 2018 目次

### I. 巻頭言

### II. はじめに・理念・沿革

### III. 施設概況

**a.** 千船病院

**b.** 介護老人保健施設ユーアイ

**c.** カーム尼崎健診プラザ

**d.** 介護付有料老人ホームスローライフおかじま

**e.** 尼崎だいもつ病院

**f.** 介護老人保健施設だいもつ

**g.** 高槻病院

**h.** 愛仁会リハビリテーション病院

**i.** しんあい病院

**j.** しんあいクリニック

**k.** 介護老人保健施設ケーアイ

**l.** 介護老人保健施設しんあい

**m.** 社会福祉法人愛和会（高槻地区）

**n.** 愛仁会総合健康センター

**o.** 愛仁会看護助産専門学校

**p.** 明石医療センター

**q.** 明石医療センター附属看護専門学校

**r.** 社会福祉法人愛和会（宝塚地区）

**s.** 社会福祉法人愛和会（豊中地区）

**t.** 特定医療法人蒼龍会

**u.** 愛仁会本部

### IV. 統計総括

### V. 業績集

# I . 卷頭言

(動画は[こちら](#))

## Ⅱ．はじめに・理念・沿革

# はじめに

本年報は2018年4月1日から2019年3月31日までの法人活動を対象とした業績報告である。

## 社会医療法人愛仁会 理念

1. 広く社会のためにより良い医療サービスを提供し、健康で豊かな生活の増進に貢献する。
2. 法人活動の成果は明日の医療の発展と福祉の向上に活用する。
3. 地域社会との協調を深め、創意工夫をこらして法人の健全な発展を図る。
4. 医療人としての使命を自覚し、学識・技術の研鑽と人間性の向上に努める。
5. 自主性と和の精神を重んじ、法人に働く誇りと喜びを共にする。

## モットー

●貢献 ●創意 ●協調

## 沿革

1958年11月 1日	医療法人設立認可	2001年 1月26日	あいわ診療所開院
1959年 1月11日	医療法人愛仁会千船診療所発足	4月 1日	中後勝先生 会長就任 根岸宏邦先生 理事長就任
1966年 5月 1日	千船病院開院 (94床)		千船病院 厚生労働省臨床研修指定病院に認可
1971年 5月 2日	千船病院増築竣工開院 (191床)		職員共済会「親愛会」発足
1977年 6月10日	本部事務局発足		
11月 1日	高槻病院竣工開院 (180床)	8月 4日	高槻病院 東館開設
1980年 4月 1日	愛仁会看護専門学校開校	10月 1日	高槻病院 総合周産期母子医療センター棟開設
1982年 4月 1日	高槻病院新築移転開院 (302床)		
7月 1日	千船病院新築移転開院 (292床)	2002年 1月10日	社会福祉法人豊中愛和会設立
1983年 4月 1日	理学診療科病院開院 (186床)	5月13日	中後会長 勲四等瑞宝章受章
1984年 9月 1日	杏和総合医学研究所設立	2003年 4月 1日	社会福祉法人豊中愛和会 総合福祉施設 ローズコミュニティ・緑地開設
1985年 3月23日	竹中普久先生名誉理事長就任	4月22日	本部保健福祉事業部 ISO9001取得
4月 1日	中後勝先生理事長就任	9月 9日	根岸理事長 救急医療功労者厚生労働 大臣賞受賞
1987年 3月18日	特定医療法人認可	12月15日	高槻病院 病院機能評価更新認定
8月 1日	高槻病院増築竣工開院 (477床)	2004年 2月 1日	高槻病院、愛仁会リハビリテーション病院 電子カルテシステム導入
1989年 4月 1日	愛仁会新理念制定	2月16日	千船病院 病院機能評価更新認定
1991年 4月 1日	本部事務局を愛仁会本部と名称変更	4月 1日	高槻あいわ保育園・あいわ児童館開設
1995年 8月 1日	介護老人保健施設「ユアアイ」竣工 (入所100名)	杏和総合医学研究所 滅菌センター開設	
1996年 8月 1日	訪問看護ステーション「ほほえみ」設立	7月 1日	千船病院附属千船クリニック開院
8月 1日	千船病院 開放型病院認可	千船病院、千船病院附属千船クリニック 電子カルテシステム導入	
1997年 4月 1日	愛仁会看護助産専門学校に改称 (助産学科新設)	7月24日	愛仁会リハビリテーション病院 日本リハビリテーション医学会研修病院認定
4月 1日	高槻病院 厚生省臨床研修指定病院に認可	12月 1日	愛仁会千船在宅サービスセンター設立
5月13日	中後理事長「藍綬褒章」受章	2005年 5月15日	愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価更新認定
9月 1日	介護老人保健施設「ケアアイ」竣工 (入所100名)	7月30日	千船病院 全館改修工事終了
12月 1日	高槻病院 開放型病院認可	8月31日	特別医療法人認可
1998年 2月 1日	訪問看護ステーション「スマイル」設立	12月28日	高槻病院 地域医療支援病院認定
2月 9日	千船病院 病院機能評価認定証交付	2006年 2月17日	根岸理事長、山門常務理事 大阪府知事賞受賞
4月 1日	在宅介護支援センター「ケアアイ」設立	2月20日	愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価付加機能(リハビリテーション機能) 評価認定
5月19日	高槻病院 病院機能評価認定証交付	4月 1日	高槻北地域包括支援センター、 緑地地域包括支援センター設立
1999年 1月26日	高槻病院 救急告示病院に認可	4月20日	本部 ISO9001取得
4月 1日	理学診療科病院、愛仁会リハビリテーション病院 に名称変更		
10月28日	社会福祉法人愛和会設立認可		
2000年 4月 1日	ヘルパーステーションユアアイ、ケアアイ 活動開始		
5月15日	愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価認定証交付		
10月 1日	社会福祉法人愛和会 複合福祉施設開設		

6月 1日	千船病院 7対1看護 承認 千船病院・高槻病院 NICU 増床	9月 1日	ケアプランセンター愛仁会富田開設
7月 1日	ケアプランセンターケーアイ開設	2012年 10月25日	第3回 日中韓看護学会参加 (於 ソウル)
7月29日	千船病院 人間ドック機能評価認定	2012年 1月 1日	ヘルパーステーション愛仁会富田開設
2007年 4月 1日	根岸宏邦先生 会長就任 筒泉正春先生 理事長就任	5月 1日	千船クリニック 千船病院へ統合
9月29日	第1回 介護福祉施設合同業務改善成果 発表会開催	5月19日	豊中愛和会 創立10周年記念行事開催
10月 1日	愛仁会リハビリテーション病院 増床 (225床)	6月 1日	医療法人社団 明石医療センター, 医療法人仁 愛会 田畑胃腸病院と合併
11月 8日	高槻病院 人間ドック機能評価認定	8月29日	第1回愛仁会グループリハビリテーション部門 学術大会開催
11月14日	千船病院 地域周産期母子医療センター 認定	2013年 1月 1日	おかじま病院開院, 介護付有料老人ホーム スローライフおかじま開設
2008年 1月29日	千船病院 卒後臨床研修評価認定	1月18日	千船病院 病院機能評価 Ver. 6認定
2月 9日	千船病院 病院機能評価更新認定	2月13日	第1回 愛仁会・神戸大学・フィリピン大学フ ィリピン総合病院国際会議開催
4月 1日	愛仁会総合健康センター開設 長尾地域包括支援センター設立	3月21日	医療法人社団 明石医療センター 特定医療 法人 承認
4月11日	千船病院 消化器内視鏡センター開設	4月 1日	社会福祉法人愛和会, 社会福祉法人豊中愛和会 を社会福祉法人愛和会として合併
5月 1日	愛仁会総合健康センター附属デイサービスセ ンター開設	4月 6日	愛仁会看護助産専門学校 新校舎移転, 看護学科2クラス定員80名に
5月18日	高槻病院 病院機能評価更新認定	6月 7日	「第41回日本小児神経外科学会」(於 大阪) 高槻病院 山崎麻美副院長を大会長として高 槻病院で運営を担当
8月 2日	高槻病院 WHO・ユニセフ「赤ちゃんに やさしい病院 (BFH)」認定	7月 1日	高槻病院院内保育園「にじっこ保育園」, 愛仁会看護助産専門学校1階に新設開園
10月 5日	愛仁会グループ創立50周年記念大スポーツ大 会開催 (なみはやドーム)	7月27日	明石医療センター南館オープン 許可病床数382床に増床
11月 1日	愛仁会グループ創立50周年記念行事開催	10月 1日	カムニ崎健診プラザ開設
2009年 1月 1日	特別・特定医療法人愛仁会から社会医療法人 愛仁会に移行	2014年 4月 1日	医療法人進愛会と合併 カムニ崎健診プラザ健診事業開始
3月30日	千船病院バースセンターリニューアル オープン	8月 1日	宝塚あいわ苑訪問看護ステーション開設
4月 1日	千船病院附属千船腎臓・透析クリニック開設 ユーアイサービスセンターなごみ開設 愛仁会本部学術部に国際課設置	10月 1日	社会福祉法人ますみ会を承継
5月31日	社会福祉法人豊中愛和会 多機能型事業所あ すなろ あすなろ麵, モンド・セレクション 2009金賞受賞 (2010年, 2011年と3年連続金賞 受賞)	10月27日	高槻病院 新病院 I 期棟 開設
10月 2日	「第11回フォーラム 医療の改善活動 in 大阪」筒泉理事長を大会長として運営を担当	11月 1日	明石医療センターNICU 稼動
11月16日	社会医療法人愛仁会 中期事業計画策定	12月 1日	高槻病院 PICU 開設
12月 4日	明石医療センター 病院機能評価 Ver. 6認定	2015年 1月 1日	明石医療センター 社会医療法人認可
2010年 3月 5日	愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価更新認定	1月 7日	明石医療センター泌尿器科外来開設
4月 1日	社会福祉法人豊中愛和会 ローズコミュニティ・豊中南開設	3月31日	筒泉正春先生 理事長退任
5月 8日	愛仁会看護助産専門学校 創立30周年記念 行事開催	4月 1日	内藤嘉之先生 理事長就任
6月 5日	第1回愛仁会フォーラム開催	7月 3日	高槻病院不整脈センター開設
10月17日	社会福祉法人愛和会 10周年記念を祝う会 開催	2016年 1月 4日	社会福祉法人愛和会 (宝塚地区) にあいわ結愛 ガーデン開設
11月 6日	「第20回日本新生児看護学会学術集会」 (於 神戸) 高槻病院で運営を担当	4月 1日	社会医療法人愛仁会, 社会医療法人明石医療 センターと合併 尼崎だいもつ病院開設
2011年 1月 7日	愛仁会リハビリテーション病院 病院機能評価 (リハビリテーション付加機能) 更新認定	10月23日	「第44回国際小児神経外科学会 (ISPN2016)」(於 神戸) 高槻病院 山崎麻美副院長を大会長とし て開催
1月30日	第1回愛仁会グループ看護・介護学会開催	2017年 2月 4日	第1回愛仁会学術大会開催
3月18日	フィリピン大学, フィリピン総合病院との 人材交流プログラム開始	4月 1日	社会福祉法人ますみ会と合併
4月 1日	医療法人社団明石医療センター設立	5月 8日	高槻病院 新病院 II 期棟 開設
7月 1日	愛仁会リハビリテーション病院 新築移転 (MUSE たかつき) 開院	6月 1日	介護老人保健施設だいもつ, レジリエンスだ いもつ開設
		7月 1日	千船病院 新築移転 開院
		7月20日	「第67回日本病院学会」(於 神戸) 内藤嘉之理事長を大会長として開催
		2018年 2月24日	「第11回日本医療マネジメント学会大阪支部学 術集会」(於 大阪) 愛仁会リハビリテーション 病院 吉田和也院長を大会長として開催
		3月31日	おかじま病院 閉院, 杏和総合医学研究所 閉所
		6月 1日	高槻病院新築Ⅲ期工事竣工 グランドオープン

### Ⅲ. 施設概況



# 千船病院

〒555-0034

大阪市西淀川区福町3丁目2番39号

URL:<https://www.chibune.aijinkai.or.jp/>



## 理念・基本方針

### <理念>

- ・千船病院（千船クリニック）は医療を通じて社会に貢献します

### <基本方針>

- ・患者さまに質の良い医療を提供します
- ・患者さまに安心と満足の頂ける公正な医療を提供します
- ・患者さまのプライバシーと権利を守ります
- ・開放型病院としての役割と自覚し効率の良い地域医療を提供します

## 施設概要

■病床数/292床 ■診療科目/21科

■病院機能/大阪府がん診療拠点病院, 救急告示病院, 開放型病院, 日本医療機能評価機構認定病院, 厚生労働省臨床研修指定病院, 卒後臨床研修評価機構認定病院, 地域周産期母子医療センター, 大阪市重症心身障がい児者等医療型短期入所実施機関

■特殊診療機能/バースセンター, 院内助産院, 消化器内視鏡センター, ICU, MFICU, NICU, GCU, 画像診断センター (MRI, CT, RI), 人工透析, リハビリテーションセンター

## 2018年度総括

当院が1958年に阪神電車本線「千船」駅南の佃の地で発足し、本年で創立60周年を迎えられたことは、西淀

川区医師会の諸先生、地域住民の方々、旧職員、現職員の皆様方に支えられてのことであり、心から感謝している。

2018年度は、地震、台風と自然災害の脅威を感じた年であった一方、活動実績は以下に述べる通り非常に好調な実績であった。

年間の活動実績は、入院医療収入72億円（前年比106%）、外来医療収入28億円（前年比108%）と入院・外来収入の伸びも加わり、合計100億円（前年比107%）と過去最高の実績を上げることができた。平均在院日数も9.5日と診療内容も充実してきたと言える。

手術件数は、鏡視下手術874件、da Vinci手術は泌尿器科疾患・婦人科疾患を合わせて41件、整形外科のナビゲーション手術127件、外科減量手術59件の他、血管外科の下肢静脈瘤手術、眼科手術など積極的に活動した結果、全体で3,211件（前年比111%）と増加した。da Vinci手術に関しては、今後は更に外科疾患にも対応できるように考えている。

分娩は集約化傾向となり、「地域周産期母子医療センター」においては、年間の分娩数は1,717件（前年比109%）と前年から大きく増加した。また、小児においては10月から大阪市重症心身障がい児者等医療型短期入所の受け入れ施設として地域医療にも貢献している。

2017年7月福町に移転したことにより此花区からの患者も増えており診療圏も拡大している。ID新患者数は前年比109%となり、他医療機関からの紹介患者数が前年比117%、オープン検査も前年比119%と順調に伸びた。入院支援センターでは、入退院に関連する加算を算定できる体制を徐々に整備しており、加算算定も前年比164%と順



調に推移した。

2018年度全体を俯瞰してみると、①新病院において診療面で大きく成長できた、②地域包括ケアシステムにおいて病院も地域の一員であることを認識して活動できた1年であった。

## 2018年度活動状況

- 4月 期首全集, 役職者辞令交付式, 診療部辞令交付式, 新卒辞令交付式, 新卒歓迎会, 育児サロン, 田守義和部長退職記念講演会
- 5月 2018年ふれあい看護体験, 業務改善リーダー研修, 院内感染防止対策研修会, フィリピン医師団研修プログラム
- 6月 第38回ICLSコースin千船, フィリピン医師団研修プログラム, 臨床研修病院説明会「eレジフェア2018inOSAKA」, 医療安全管理研修会, 名誉院長・院長就任パーティー, 第11回レインボーサロン
- 7月 レジナビフェア2018(学生向け), 特別全集, 第126回近畿MCLSin千船, 2017年千船病院研修医交流会, 第15回NCPRAコース, 第35回ちぶね健康教室
- 8月 平成31年度臨床研修医採用試験・面接, 第4回みおつくしISLSコース, 地域連携感染カンファレンス
- 9月 平成30年度上半期業務改善成果発表会, 平成30年度医師臨床研修マッチング中間発表
- 10月 ベビーマッサージ指導者養成講座, イルカサークル, 院内コンサート「Maria-Harp ☆こころのこんさ〜と☆オリジナル手話歌とともに」, 千船病院緩和ケア研修会, 職員定期健康診断, 大規模災害訓練
- 11月 法人創立記念特別食, 職員インフルエンザワクチン接種, 千船病院地域連携協議会, J-MELSベーシックコース, 認知症サポーター養成研修
- 12月 特別全集, 千船病院・千船クリニック・カーム尼崎健診プラザ合同60周年記念パーティー兼忘年会, 認知症サポーター養成研修, 院内感染対策研修会, 親子で病院探検隊, 納会
- 1月 新年互礼会, 鏡開き, あそびおもちゃクラブ

- 2月 平成31年度採用研修医赴任説明会, 第36回健康教室
- 3月 臨床研修病院説明会, 医療安全管理研修会, 研修修了前リスクマネジメント講演会, 研修医修了式及び専攻医勤務証明書授与式, 平成29年度採用臨床研修医修了お祝いパーティー, に〜よん地域包括ケアシステム委員会, 平成30年度下半期業務改善成果発表会, INARS Aコース, 第4回パス大会, 期末全集

## 2019年度に向けて

2019年度事業計画において必達目標は

- ①地域医療支援病院の認可
  - ②総合入院体制加算2の取得である。
- さらに、
- ①無痛分娩を24時間可能にし、分娩件数を増加させること
  - ②血管外科の診療開始, 眼科手術の再開により大幅に増加した昨年度の手術件数を更に上積みさせること
  - ③da Vinciによるロボット手術件数について, 泌尿器科においては, 一昨年14例から昨年は20例へ増加, 昨年度から保険適応となった産婦人科では17例を実施した。腹腔鏡下手術と棲み分けした上で, 2019年度は更なる増加を目標にしている。

292床という限られたベッドを最大限に活用するために, 新たな後方病床の開拓, 多職種によるチーム医療の実現, パスの適用範囲拡大を行い, 在院日数を更に短縮させ病床回転率を上げ, 断らない救急, 紹介率アップを実現させていきたい。また, 西淀川区医師会の在宅医療・介護連携相談支援室として積極的に地域の在宅医療・介護との切れ目のない連携体制を構築することが目標である。

その他, 働き方改革への対応も求められているため, とりわけコメディカルにおける勤務体制の見直し, 時間外労働の上限規制・管理体制の強化, 年次有給休暇についても適切に対応し, 働く環境を整えていきたい。

## 総合内科

### ■スタッフ紹介

二宮幸三

日本内科学会 総合内科専門医・指導医

日本循環器学会 専門医・指導医

日本動脈硬化学会 動脈硬化専門医・指導医

日本病院総合診療医学会 認定医

藤田芳正

日本内科学会 総合内科専門医・指導医

日本腎臓学会 専門医

ICD

井上真希

日本内科学会 認定内科医

### ■診療内容

2017年度より総合内科部門が立ち上がり、2年目を迎えた。

総合内科外来は、午前中は2診体制、午後は1診体制で行っている。主として各内科系の若手医師が対応している。また、別枠で総合内科専門外来を藤田医師が行っている。診療内容は主に初診を受け持ち、必要により専門診療科に振り分けている。当科でフォローできる患者や完結できる場合はそのまま継続診療もしている。

### ■2018年度のトピックス・実績

総合内科外来の患者数は、23,426人で、1日平均96.0人であった。入院患者数は、年間230人であり、疾患別にみると呼吸器系疾患98人(43%)、新生物20人(9%)、内分泌・栄養及び代謝疾患16人(7%)、損傷・中毒など外因の影響15人(7%)、腎尿路生殖器系の疾患14人(6%)、その他67人(28%)であった。

学会活動については、日本内科学会、日本病院総合診療学会にそれぞれ1演題発表した。

また、若手医師の教育については、藤田医師により内科全般の疾患と感染症診療をテーマに毎週1～2回定期的な勉強会を行っている。

### ■今後の展望

2018年度終了時に井上医師が兵庫医科大学に異動するが、2019年度の人員の数は変わらない予定である。今後も入院患者は高齢患者や感染症の疾患を中心に増やしていきたい。

また、初期研修医など若手医師の教育・育成も当科における重要な使命と考え、更に実習やカンファレンスを継続する予定である。

## 糖尿病内分泌内科（肥満・糖尿病内分泌センター）

### ■スタッフ紹介

高橋哲也（主任部長，1989年卒）

松山温子（医員，2013年卒）

佐藤洋幸（医員，2013年卒）

広中順也（専攻医，2015年卒）

### ■診療内容

2018年度の専門外来の診療体制であるが、高橋3単位、松山2単位、佐藤2単位、広中1単位を担当し、神戸大学糖尿病内分泌内科より、中島医師、西本医師が各2単位、田守医師が1単位、吉田医師が1単位を担当した。甲状腺エコーについては井上病院大野副院長が隔週で1単位を担当いただいた。また療養支援外来として前年より引き続き糖尿病認定看護師の田中友香看護師が週1単位を行った。

また、肥満・糖尿病内分泌センターとして、減量外来での患者は遠方からの受診も多く、高橋が随時糖尿病内分泌内科の併診対応を行い、必要な負荷試験などの検査は若手スタッフがよく対応してくれた。

病棟においては糖尿病及び高度肥満症の教育入院、内分泌検査入院とともに外科系各科周術期、化学療法や耳鼻科での顔面神経麻痺・突発性難聴に対する短期ステロイド療法時の血糖管理が中心となっている。

当院のNST活動についても引き続き、栄養管理科、薬剤科、理学療法科でチームを構成し週1回の活動を行った。

### ■2018年度のトピックス・実績

2018年度実績は外来糖尿病患者数1,667名、教育入院117名、減量外来初診数は開業医紹介と合わせて115名、年間手術件数59件で順調な結果であった。内分泌疾患は主に外来となるが、甲状腺疾患574名、副甲状腺疾患12名、下垂体疾患27名、副腎疾患28名であった。

肥満・糖尿病内分泌センターとしてのトピックは、減量糖尿病外科の北浜医師の努力もあり2018年4月に日本肥

満症治療学会の肥満外科治療施設の認定を受けたことである。全国では17施設となっている。日本全国での2018年度の総手術件数は617件と報告されているが、当院では59件と全国2位で10%近くを占める手術を行っている。また、進行した多発合併症を持つ2型糖尿病症例や60歳以上の症例、多発関節炎の症例に対しても手術を行った。

学術活動としては主要学会での発表が11件、論文発表が1件となっている。

### ■今後の展望

減量手術は特にMetabolic surgeryとして、糖尿病をはじめとする代謝異常を改善する手術として世界的にも注目され、本邦でも件数の着実な増加が見られている。当院では、現在、西日本で最も多い年間手術件数を達成しており、合併症を有する重症糖尿病症例や高齢者の手術も手掛けており、認知度はかなり高まっている。今後は中規模急性期総合病院としての強みを生かし、術前・周術期・術後及び長期的なフォローについてのサポートを充実させ、更に他の医療機関との差別化を図りたい。患者数の増加とともに術後の長期的な問題として栄養障害、糖尿病の再発・悪化、リバウンドなどに長期的に対応することも重要で、糖尿病内分泌内科としては減量手術を熟知しサポートできる糖尿病内分泌内科医の養成できる施設としても発展させたい。このため、糖尿病内分泌内科として若手医師の育成を通じてより質の高い診療内容、センターとしてのより円滑なチーム医療を確立したい。

2019年度4月からは神戸大学糖尿病内分泌内科より大島令子医師が専攻医1年目として派遣、また今年3月に大学院を修了予定の中島進介医師を医長として派遣いただき、若手研修医の指導体制の強化が期待される。

引き続き地域連携、大学との連携を深め、また学会、研究会などを通じて関西の主要病院の糖尿病内分泌内科へ“安全で安心な減量手術が行える施設”としてアピールをより進めていきたい。

# 消化器内科

## ■スタッフ紹介

船津英司（1998年卒）

日本内科学会総合内科専門医

日本消化器内視鏡学会指導医・専門医

日本消化器病学会指導医・専門医

日本肝臓学会認定肝臓専門医

那賀川 峻（2007年卒）

日本内科学会総合内科専門医

日本消化器内視鏡学会専門医

日本消化器病学会専門医

鍋嶋克敏（2010年卒）

日本消化器病学会消化器病専門医

日本内科学会認定医

吉安孝介（2011年卒）

日本内科学会認定医

板東正貴（2012年卒）

日本内科学会認定医

羽鳥広隆（2011年卒）

日本内科学会認定医

名方勇介（2015年卒）

日本内科学会認定医

## ■診療内容

船津は消化器内科主任部長として消化器疾患の診療全般の統括にあたり、他常勤医の技術指導・診療支援も行っている。また消化器内視鏡センター長として看護部及び技術部放射線技師との連携をとりながら、内視鏡センターの運営・統括を行っている。那賀川は消化器内科医長として、船津とともに後進の消化器内科医師の技術指導・診療支援を行いつつ、学会発表の指導にも尽力している。鍋嶋・吉安・板東・羽鳥は一連の消化器内視鏡技術を習得し、通常検査業務を主力としてこなしつつ、より高度な技術習得を目指し日々修練に励んでいる。名方は、後期レジデントとして日々消化器内科疾患の検査・診療において研鑽を積んでいる。診療体制は月曜日から金曜日の午前・午後に消化器専門外来を開設し、検査業務として月曜日から金曜日までの午前は上部消化管内視鏡検査・腹部超音波検査を行い、

月曜日から木曜日までの午後に下部消化管内視鏡検査を行っている。胆膵内視鏡検査は月曜日から金曜日の午後に行っている。夜間の診療体制は、オンコール体制にて消化器系救急疾患に緊急対応している。紹介患者に関しては、すべて消化器科専門医が初療にあたり、緊急を要する症例に対しては、救急外来にて迅速な診断・処置を行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度は2017年7月の新病院移転後より順調に内視鏡検査件数が増加してきているため、内視鏡センターの看護師を増員の上検査業務にあたっている。また大阪市胃癌内視鏡検診件数も増加し、事前に絶食来院を促すことで当日の検査に対応し、受診の手間を削減できるよう考慮している。6月・10月には愛仁会消化器カンファレンスを行い、愛仁会グループでの消化器診療のレベルアップを図っている。11月には「Chibune Gastroenterological Endoscopy Center News」を発刊し、地域開業医への情報提供を行い、超音波内視鏡を用いた膵癌早期発見に取り組むとともに、患者紹介の増加を狙っている。

## ■今後の展望

今後も苦痛の少ない内視鏡検査、超音波内視鏡検査などの専門的な内視鏡検査を提供していくことで、地域の中で特殊性をもった消化器診療を広げていく。また、症例蓄積を利用した学会報告を行っていくことにより、紹介患者の増加・地域医療への更なる貢献を実現していきたい。

表. 内視鏡検査実績

		(単位:件)	
上部消化管内視鏡検査総数	3,458	胆膵関連検査総数	269
胃癌検診	138	造影のみ	26
超音波内視鏡	225	EST	79
ポリープ切除	4	採石術	99
粘膜下層剥離術	23	砕石術	12
止血術	49	EBD/EMS	64
食道静脈瘤治療	27	膵管ステント	10
胃瘻造設	26	EUS下ドレナージ	5
消化管ステント・拡張術	12	PTGBA/PTGBD	34
下部消化管内視鏡検査総数	2,174		
ポリープ切除	780		
粘膜下層剥離術	12		
止血術	54		
ステント・拡張術	12		

# 循環器内科

## ■スタッフ紹介

前年度末で田辺慶司医長が退職し、2018年度は尾崎正憲副院長、板垣毅主任部長、濱田晶子医長、松森佳子医員、栗本浩行専攻医の5人体制となった。

## ■診療内容

循環器内科では、虚血性心疾患、心筋症、心臓弁膜症、二次性高血圧、不整脈疾患、閉塞性動脈硬化症、肺血栓塞栓症など循環器疾患一般について幅広く診療を行っている。外来診療では非侵襲的検査と必要に応じて侵襲的検査を組み合わせを行い、医学的根拠に基づいて治療方針を決定している。入院診療ではカテーテルによる心血管インターベンションに力を入れている。虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンション（PCI）、末梢動脈に対する血管内治療（EVT）、頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション、徐脈性不整脈に対するペースメーカー植え込み術、静脈血栓塞栓症に対する下大静脈フィルター留置などが施行可能である。また急性心不全、重症心不全症例に対してICU/CCUでの集中治療が可能である。原発性アルドステロン症については従来、手術適応を決めるための局在診断が困難であったが、局所的な副腎静脈採血（AVS）を行うことで原発巣の局在診断が可能となっており、泌尿器科との連携で根治術へと繋げることが可能となっている。近年、画像診断として心臓MRIが注目されているが当科でも遅延造影、T1mapの撮像が可能であり非侵襲的な診断補助手段として活用するようになり次第に件数

が増えている。

教育面では、毎週定期的に病棟カンファレンス、論文抄読会、心エコーカンファレンス、アンギオカンファレンスを行い、研修医にも積極的に参加を促し、抄読会は英語論文の読解力を向上し、最新の循環器系研究の知識を得る場としている。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年12月に常勤の血管外科医が着任したこともあり、下肢閉塞性動脈硬化症に対するインターベンションは更に積極的な治療が可能となった。

主な診療実績：心臓カテーテル検査 268件、PCI 122件、EVT 5件、アブレーション 6件、ペースメーカー植え込み 21件、IVCフィルター4件、AVS2件など

主な学術実績：第18回日本病院総合診療医学会、第223回日本内科学会近畿地方会において症例報告を行った。

## ■今後の展望

虚血性心疾患、心不全、不整脈などの心疾患をトータルで診療できるスタッフが揃っている。引き続き24時間のオンコール体制を維持し、救急患者を積極的に受け入れていく。西淀川区の中心的医療機関としてより質の高い医療を提供していくことが当院の使命であり、当院ででき得る限りの検査、治療を行い、共同診療医などと協力して西淀川区における医療の充実、サービスの向上に努めていきたい。慢性心不全の地域連携パス作成と実践に取り組みたい。

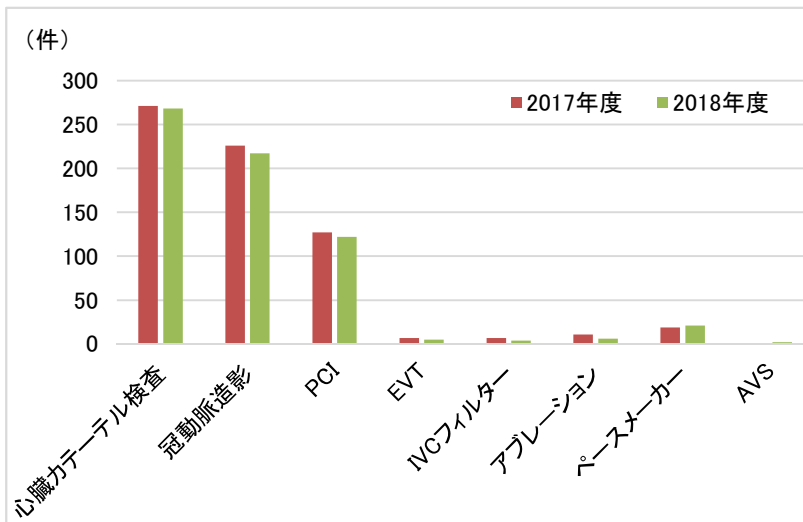


図. 診療実績

# 脳 卒 中 内 科

## ■スタッフ紹介

主任部長 瀧本 裕 (1997年卒)

日本内科学会内科認定医・総合内科専門医

厚労省認定認知症サポート医

日本認知症予防学会専門医

日本救急医学会認定 infection control doctor

日本プライマリ・ケア連合学会近畿地区代議員

## ■診療内容

### ①外来

毎週火曜日午後（もの忘れ外来）、水曜日午前（脳卒中外来）、木曜日午後（脳卒中外来）の枠を担当している。

### ②入院

主に脳梗塞の診療をしているが、めまいやしびれ、中枢神経感染症の治療にあたることも多く、救急部、耳鼻科、脳神経外科と共同診療することもある。西淀川区脳卒中地域連携パスを早い時期から導入しており、回復期リハ病院転院へのシームレスな運用に力を入れている。当院と後送病院の担当者（医師、リハ科、MSW）にて3か月に1度、定例会議を開き、地域医療・他職種連携を行っている。

### ③嚥下造影（VF）検査・嚥下回診

リハ科（言語聴覚士）と協同し、毎週水曜日にVF検査を行っている。近隣の施設（介護老人保健施設など）からの依頼が増加している。また、嚥下チームを組織し、隔週木曜日には入院患者を対象にした嚥下回診を行っている。

今後はVE検査を用いた回診方法を検討中である。

### ④もの忘れ外来

言語聴覚士による神経心理検査とVSRAD（脳MRIによる海馬傍回体積測定）、SPECT（脳血流IMP）などを行い、認知症診断を行っている。当院はSPECTが施行可能な点で非常に有利な環境であり、特にレビー小体型認知症の鑑別が容易である。認知症専門チームで診療することから、疾患そのものだけではなく、福祉サービス導入などの環境調整もきめ細かくサポートしている。このように、当科はハード面・ソフト面からも認知症診療に絶対的な自信がある。最近、初診患者が急増していることがそれを物語っている。さらに、瀧本は認知症サポート医として大阪

市認知症短期集中支援チーム（通称：陽だまり）の主要メンバーとして関わっており、行政面でも活躍の場を広げている。

### ⑤認知症サポートチーム（DST）

認知症による行動・心理症状やせん妄の発症により、身体疾患の治療への影響が見込まれる患者に対し、専門知識を有した多職種（医師、認定看護師、リハビリ科、薬剤師、栄養士、MSW）がチームとなり、週1回（火曜日）病棟ラウンドを行っている。急性期病院としては国内でも有数の院内デイケア（通称：福ちゃん）を週1回行っている。また、認知症に悩む本人や介護者のための相談会（通称：すみれの会）を月1回開催し、地域医療に貢献している。

## ■2018年度の特ピックス・実績

①2018年度の実績を表に示す。

②DST活動を院内に留まらず、エリア単位で行った。

③院内デイケア、認知症相談会を継続して実施した。

## ■今後の展望

①脳卒中診療の件数を伸ばす。

②「認知症診療に強い千船病院」として地域医療に貢献する。

③「認知症疾患医療センター」開設への準備をする。

④嚥下回診に嚥下内視鏡（VE）検査を導入する。

表. 実績

	症例	件数
脳梗塞 (入院)	アテローム性脳血栓症	12件
	ラクナ梗塞	22件
	脳塞栓症	14件
	TIA	20件
	分類不能	4件
認知症 (外来)	アルツハイマー型	71件
	脳血管性	21件
	レビー小体型	5件
	前頭側頭葉変性型	5件
	分類不能	10件

# 小 児 科

## ■スタッフ紹介

2018年の人事異動では、八尾市民病院で初期研修を行った角谷哲基医師が当院の小児科後期研修プログラムにて、神戸大学医学部附属病院のプログラムでの研修として河野一誠医師、兵庫医科大学病院のプログラムでの研修として佐浦龍太郎医師が、姫路赤十字病院に勤務していた東口素子医師が、4月にスタッフとして加わった。4月に、阿部真也医師が神戸大学医学部附属病院へ、森雅啓医師が大阪府立母子保健総合医療センターへ異動された。2018年度のスタッフは、吉井勝彦(1984年卒)、西野昌光(1978年卒)、下村真由美(1988年卒)、高寺明弘(1999年卒)、牟禮岳男(2002年卒)、水野洋介(2006年卒)、五條あい(2007年卒)、藤坂方葉(2009年卒)、榎本真由子(2011年卒)、甲斐智彦(2013年卒)、古林真佐美(2013年卒)、住吉倫卓(2014年卒)、東口素子(2014年卒)、岩田康平(2015年卒)、荻野加菜(2015年卒)、谷口公啓(2015年卒)、角谷哲基(2016年卒)、河野一誠(2016年卒)、佐浦龍太郎(2016年卒)の19名であった。

## ■診療内容

(外来診療)

午前は一般診察を行い、午後は一般診察に併行して、予防接種、乳児健診、神経外来、発達外来、腎外来、アレルギー外来、心臓外来、内分泌代謝外来などの特殊専門外来を実施した。神経外来は牟禮医師が、腎外来は下村医師が地域の小児神経、小児腎疾患で悩んでおられる児・家族に対応した。アレルギー外来は西野医師、下村医師により、精力的に展開した。心臓外来は、国立循環器病研究センター医師を招聘し、診療を行った。内分泌代謝外来では、兵庫医科大学小児科学教室の竹島泰弘教授による診療を行った。本年もシナジス外来、家族への感染症情報提供を継続した。表1に月別1日平均外来数、表2に月別時間外外来総患者数を示す。

(新生児センター)

当院の分娩数は過去3年間、1,460, 1,575, 1,717例と、近隣の分娩施設の閉鎖に伴い、徐々に増加を認めている。新病院への移転も影響した可能性がある。新生児センターへの入院数もそれに反映して834, 879, 1,023例と増加

傾向だった。近年、大阪府のNICU病床数は過剰状態であり、大阪府下の各病院の1,500g未満の極低出生体重児の収容数は減少傾向にあるが、当院では30, 30, 38例と昨年と同数であった。2,500g未満の低出生体重児では、204, 209, 233例と増加傾向だった。死亡例は4例であった。1例目は、未受診母体より出生の超低出生体重児で、慢性肺疾患関連肺高血圧症の増悪で生後8か月時に死亡した。2例目は、循環不全により日齢0で死亡した超低出生体重児だった。3例目は、循環不全により日齢1で死亡した超低出生体重児だった。4例目は、肺出血後の腎不全と重度浮腫で日齢55に死亡した超低出生体重児だった。死亡例については症例検討会を行い、臨床経過や治療についてスタッフ間で意見を共有した。表3に2018年度的新生児センターの保育成績を示す。地域周産期医療の啓蒙活動として、近隣の産科施設も参加可能な新生児蘇生講習会を定期的に行った。

(一般病棟)

表4に一般病棟の疾患別入院数を示す。入院数は過去3年間561, 693, 766例であった。外来、救急搬送、紹介として入院経路を過去3年間で比較したが、一昨年度 vs 昨年度 vs 本年度では、外来338(60%) vs 407(59%) vs 425(55%)、救急搬送94(17%) vs 126(18%) vs 167(22%)、紹介129(23%) vs 160(23%) vs 174(23%)であり、徐々に救急搬送での入院症例数が増加していることがわかる。また、紹介入院患者の絶対数の増加も確認できる。新築移転した2017年7月より日曜日、祝日も含め、1年通して一般当直を配置できるようになったことで救急搬送での入院が増加している他、土曜日の応需による紹介患者の増加があると推測された。本年度の死亡症例はいなかった。

## ■活動内容

神戸大学医学部5年次、6年次、兵庫医科大学6年次の病院実習を本年も受け入れた。病院実習の経験から初期研修病院で当院を選択する学生も多く、今後も丁寧な対応を行っていく。また、当院は新専門医制度での小児科専門研修プログラムの基幹病院に認定されており、小児科専攻医1年目、2年目の医師を各3名ずつ受け入れた。後期研修

医が小児科を専攻する場合、小児科専門医を取得することは勿論であるが、その後は subspeciality としての専門医取得も推奨している。当院で取得できる subspeciality 分野として、新生児領域の他、アレルギー領域の研修教育施設や小児神経領域の研修関連施設（研修認定施設 神戸大学附属病院の関連施設）の認定を取得し、将来の subspeciality を考えることのできる環境を作っている。臨床カンファランスでは、死亡例も含めリアルタイムでの症例検討を行っているが、前方視的な臨床研究検討も行い学会活動に繋げていきたい。本年度も、日本小児科学会、日本小児科学会兵庫県地方会、日本周産期新生児医学会、日本新生児成育医学会などでの学会活動を行った。地域での小児医療の研鑽として、西淀小児科懇話会で話題提供を行った。

#### ■カンファランス

周産期検討会 火曜日 午後 5 時 30 分～  
症例検討会 木、金曜日 午前 8 時 30 分～9 時

#### ■国際交流

フィリピン小児科医師研修プログラムを受け入れ、8 月から 10 月にかけて、レクチャー及び病棟案内を行った。

#### ■今後の展望

小児科研修を志す初期研修医も多く、症例確保が重要な課題となるため、スタッフ数を維持し、精力的な医療活動を行っていきたい。小児科の研修施設として、教育に当たる指導医の充実を図ることも重要である。

一方、スタッフが多くなれば、医療的知識だけでなく、スタッフ間の意思疎通の不備も見られてくる。回診時に、患者情報の共有を徹底し、スタッフ全員が同様の方針を確認できるよう配慮していく。新病院、特に NICU は患児の治療のみならず、その家族のケアまで包括する Family centered care の概念を取り入れて設計した。ハード面の充実のみでなく、心を通わせたソフト面も重視し、信頼してもらえる医療を提供していきたい。

表 1. 月別 1 日平均外来患者数

(単位:名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
83	90	87	96	92	86	94	90	109	117	89	99

表 2. 月別時間外外来患者数

(単位:名)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
176	220	191	223	204	185	158	143	259	393	162	150

表 3. 新生児センター入院数 (2018 年 4 月～2019 年 3 月)

(単位:名)

出生体重(g)	入院数	院内出生	緊急母体搬送	院外出生	人工換気数	転院数	死亡数	死亡率(%)
～499	0	0	0	0	0	0	0	0.0
500～999	26	25	17	1	22	2	4	15.4
1,000～1,499	12	12	4	0	10	2	0	0.0
1,500～1,999	43	42	12	1	16	0	0	0.0
2,000～2,499	152	148	22	4	23	2	0	0.0
2,500～	790	773	25	17	39	0	0	0.0
計	1,023	1,000	80	23	110	6	4	0.4



表 4. 一般病棟入院数 (2018 年 4 月～2019 年 3 月)

(単位:名)

呼吸器疾患		感染症	
気管支炎・喘息性気管支炎 (このうち RSV17, hMPV35)	117	インフルエンザ	18
肺炎・気管支肺炎 (このうち RSV14, hMPV9, マイコプラズマ1)	77	手足口病	5
細気管支炎 (このうち RSV42)	46	ヘルパンギーナ	5
気管支喘息	33	突発性発疹	5
クループ症候群	6	伝染性単核球症	3
急性扁桃炎・咽頭炎	18	麻疹	1
急性中耳炎	5	ウイルス性発疹症	1
急性上気道炎	7	カボシ水痘様発疹症	1
副鼻腔炎(上顎洞炎)	1	蜂窩織炎	9
		化膿性リンパ節炎	5
		深部膿瘍・扁桃周囲膿瘍	1
		新生児・乳児発熱	54
		腹壁膿瘍	1
消化器系		その他	
急性胃腸炎 (このうち ノロウイルス 12, ロタウイルス 20)	65	川崎病	26
細菌性胃腸炎	2	アナフィラキシー	19
腸重積症	7	特発性蕁麻疹	1
急性虫垂炎	8	周期性嘔吐症・アセトン血性嘔吐症	3
腸間膜リンパ節炎	1	ケトン性低血糖症	4
肥厚性幽門狭窄症	5	免疫性血小板減少性紫斑病	1
急性膵炎	1	IgA血管炎	1
神経系疾患		熱中症	1
熱性痙攣	102	好中球減少症	6
てんかん・無熱性痙攣	24	検査鎮静後	1
胃腸炎関連性痙攣	5	食物負荷試験	1
細菌性髄膜炎	1	異物誤飲	5
頭部外傷・脳震盪	2	被虐待児症候群	1
急性脳症	1	新生児黄疸	1
熱せん妄	1	吞気症	1
身体表現性障害	2	上室性頻拍	2
過換気症候群	1	心室中隔欠損症術後(震災対応)	1
腎尿路系疾患		卵巣嚢腫(茎捻転を含む)	2
尿路感染症	25	鼻出血	1
急性巣状細菌性腎炎	1	血球貪食症候群	1
ネフローゼ症候群	2	多発性筋炎	1
内分泌・代謝系疾患		高CK血症	1
甲状腺機能亢進症	1	肝機能障害(原因不明)	1
糖尿病性ケトアシドーシス	1	特発性頭痛	1
低身長精査	5	薬疹	1
合計			766

# 外科

## ■スタッフ紹介

2018年は従来の向井、山元、岡田、北濱、三原に加え4月から京都大学外科交流センターからの人事で桃野が加わり6名体制となった。また12月からは災害のため病床の利用が中止となったしんあい病院から心臓血管外科の松尾が加わり、血管外科を新設し7名体制となった。

## ■診療体制又は活動目標

肥満減量手術に加えて、逆流性食道炎に対する鏡視下手術の拡充と血管外科の立ち上げを行った。

## ■活動内容及びトピックス

手術の内容としては呼吸器外科 14 例、血管外科 5 例、乳腺 70 例、消化器一般 630 例、小児外科 34 例と多岐にわたり相変わらずのよろず外科である。

逆流性食道炎に対して検査科にはインピーダンスの測定機の導入、放射線科には排泄シンチの導入等の協力を得ながら、適応症例を確保し、以前高槻病院で研鑽を積まれた現テンプル大学の北方先生の協力の下、手術を軌道に乗せた。

内視鏡手術は桃野医師の赴任もあり更に症例数が増加した。

肥満減量手術は通算 100 例目を行い年間 60 例施行と西日本でトップの症例数へと飛躍した。

学会活動に関しては、こちらも減量外科を中心に国際学会 2 回、3 件の発表、8 件の全国学会発表を行い、著書としては 2 編が学会誌に掲載された。

## ■今後の展望

病院新築の効果は大きく、手術室の増加、外科医増員に伴い手術症例は増加した。また鏡視下手術症例も増加したため手術点数も過去最高を記録した。

次年度は血管外科も本格的に稼働すると思われるので更なる手術症例数の増加を目指したい。

一方残念ながら、やはり救急手術症例数は減少したままであり、増加傾向は見られない。

救急症例の積極的な受け入れ体制の強化と、症例数の増加は課題である。

肥満減量外科は目標としていた関西圏、西日本での核施設としての地位は確立されたと考えられる。

今後は先進医療として減量手術のバイパス手術の施設認定、逆流性食道炎の手術症例数の増加等が目標である。

新専門医制度がはじまり当院で初期研修を行った松下が 2019 年は後期研修医として愛仁会外科プログラムに登録することが決まった。今後も後期研修医の確保に努めていきたい。

外科領域でのダビンチ手術の運用を確立すべく環境整備を行う所存である。

表. 4 年間の手術症例数の推移

(単位:例)

	呼吸器	血管外科	消化器・一般	乳腺	頭頸部	小児外科	合計
2015年症例数	12	5	420	30	11	28	506
2016年度 NCD登録症例数	13	3	545	50	21	25	657
2017年度 NCD登録症例数	17	4	419	46	137	27	650
2018年度 NCD登録症例数	14	5	498	70	132	34	753

# 脳神経外科

## ■スタッフ紹介

部長	朝田雅博（1973年卒） 日本脳神経外科学会専門医
医長	立林洸太郎（2008年卒） 日本脳神経外科学会専門医，日本脳血管内治療学会専門医
主任部長	諏訪英行（1979年卒）（2019年3月退職） 日本脳神経外科学会専門医，日本脊髄外科学会認定医

## ■診療内容

2018年度末の人事異動で，長期にわたり千船病院で診療に従事された諏訪英行先生が退職し，脳神経外科の常勤医は2人体制となる。現在，当直は兵庫医科大学からの応援を得て，週3日行っている。外来についてはそれぞれ，脊椎外科を陰山博人医師（火曜日），小児脳神経外科，脳腫瘍について阪本大輔医師（水曜日）に大学より出向で担当していただいている。急性期脳虚血例については兵庫医科大学脳神経外科との連携で drip & ship システムを確立しており，本院での滞在時間を如何に短縮するかについて検討努力をしている。院内発症の急性期脳虚血例では院内での血栓回収療法（血管内治療）も可能な体制となっている。

2018年度の手術件数は104件であった。いわゆる major surgery である脳動脈瘤 11 例，脳腫瘍が 3 例，合計 14 例であった。

血管内手術は，昨年度の 1 例から 10 例と飛躍的に増加した。頸椎手術は前方，後方除圧術をあわせて 17 例，腰椎手術 10 例などであった。2019 年 4 月からは諏訪英行先生の退職に伴い，脊椎症例に関しては全例兵庫医科大学に紹介する予定である。

## ■今後の展望

当科で初期研修を積んだ先生が数名兵庫医科大学に入局しており，今後も大学と連携しながら，若手の先生方の勧誘を行っていく。また，今後彼らが当科のスタッフとして本院に戻ってくることを願う。スタッフの人員が 2 人と減少したことは当院における手術症例数の減少に繋がると考えられるが，血管障害や外傷の手術など救急症例を増加させ，救急隊及び地域救急病院としての信頼を広く得ることで，手術例が増えるように努力したい。今後も一人ひとりの患者を丁寧に治療するのみならず，国際学会，論文など少ない症例数の中でも学術的な面で発信を行ってきたいと考えている。

表. 実績

(単位:件)

		2018年度
脳血管障害	脳内出血	4
	くも膜下出血	2
	未破裂脳動脈瘤	7
	頸動脈内膜剝離術	1
	バイパス術	3
	血管内手術	10
脳腫瘍	髄膜腫	1
	膠芽腫	1
	海綿状血管腫	1
脊髄脊椎	頸椎前方除圧術	6
	頸椎椎弓形成術	11
	腰椎椎間板ヘルニア	1
	腰椎部分椎弓切除術	5
	腰椎固定術	6
機能外科	水頭症	8
	神経血管減圧術	1
	末梢神経減圧術	2
頭部外傷	急性硬膜下出血	2
	急性硬膜外出血	2
	慢性硬膜下血腫	19
	頭蓋形成術	1
その他		10
合計		104

# 救急診療部

## ■スタッフ紹介

主任部長：林 敏雅

救急医学専門医

医長：山下公子

救急科専門医

産婦人科専門医， 社会医学系専門医

日本 DMAT 隊員， JICA 国際緊急援助隊隊員

## ■診療内容

2011年4月に救急診療部として診療が始まった。2012年1月には救急科専門医指定施設に認定された。同年4月からは救急医2名による診療体制となったが、2016年には再び救急医1名となり、2018年より救急医2名による診療となった。院内にはもう1名、救急専門医がおり、院内の常勤の救急専門医は3名となる。主たる診療は、日勤帯の救急搬送、外傷、一般外来受診予定であった患者が外来で緊急性が高いと判断された場合の対応、院内の急変への対応も行っている。ER方式で行っており当科で初療を行った後に専門医の加療若しくは入院加療が必要な場合には該当科への引き継ぎを行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

昨年度は病院移転という大きなイベントがあったが、今年度はそれに匹敵するトピックである救急医の増員となった。立地条件が変わったことにより、搬送地域の若干の変化は見られ、救急搬送件数の増加に繋がったことも考えられるが、それだけでなく、救急専門医の増員による影響や小児救急を受け入れる体制の整備による影響が大きいと考えられる。

救急搬送件数も5,000件を大幅に上回って、6,000件に到達する勢いであるが、一方でwalkin件数は横ばいの状態である。

## ■今後の展望

市民には適切な救急利用が求められてはいるが、大阪市の救急搬送件数は年々、増加傾向にある。一般外来での受診と異なり、救急での受診はまさに緊急の受診であり、多くの受診を望むことは不適切なことではあるが、地域のニーズに合わせて、今後も積極的な受け入れを行ってきたい。

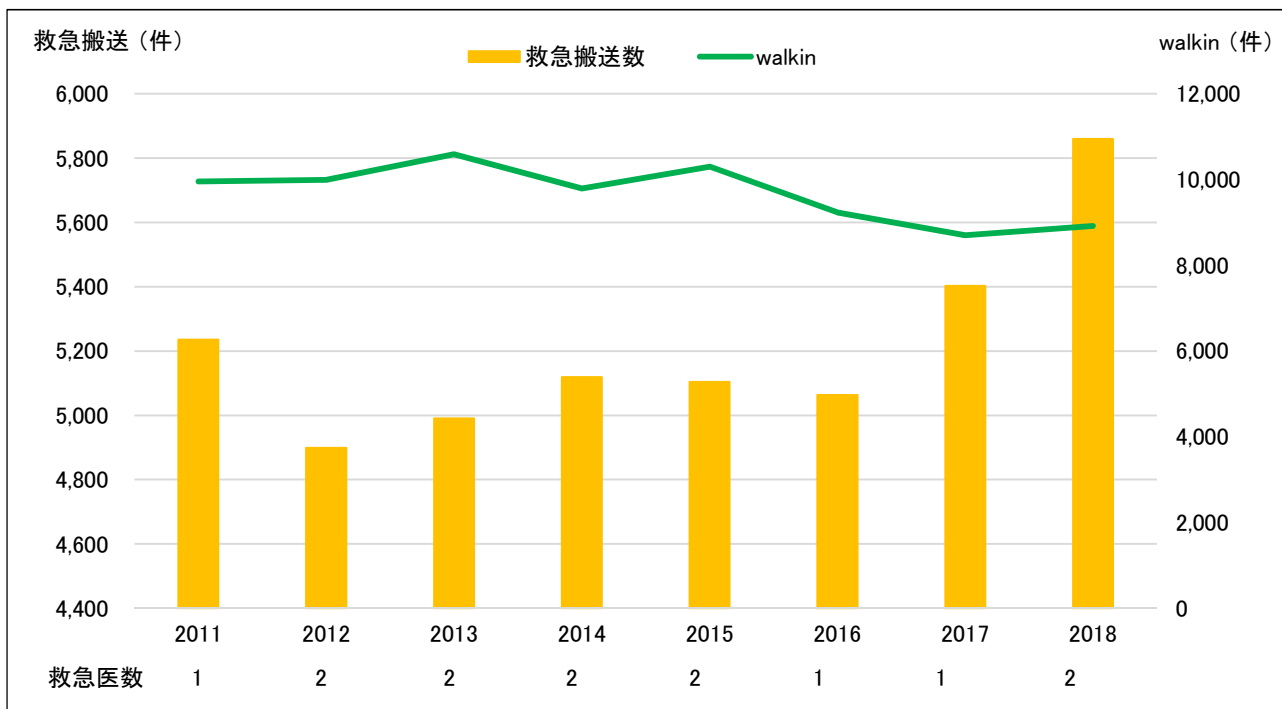


図. 救急センター受け入れ件数

# 泌尿器科

## ■スタッフ紹介

常勤医師	川口理作（1979年卒，部長）
	樋口喜英（1997年卒，副院長）
	楊 東益（2009年卒，医長）
	新開康弘（2013年卒，専攻医）
非常勤医師	野島道生
	長澤誠司

## ■診療内容

泌尿器科疾患を幅広く対応した診療を実践している。尿路生殖器の多様な疾患を治療対象としており、排尿障害や尿路結石以外の腫瘍性疾患や感染症そして機能障害疾患のほか、2014年以降では腹腔鏡手術・小児泌尿器疾患・腎移植診療も行っている。2016年に生体腎移植手術を、2017年にロボット支援手術を開始した。

## ■2018年度のトピックス・実績

- ・年間手術件数が多い軟性鏡を用いた尿管結石に対する経尿道的尿路結石除去術は、レーザー機器を常備することで適したタイミングで手術を施行できることとなった。
- ・腹腔鏡手術及び腎盂尿管鏡治療は安全性を確保した上で手術症例数は増加している。
- ・血液透析の内シャント造設手術、腹膜透析のカテーテル留置手術などへの対応は、腎臓内科・透析センターと協力し安全に施行できている。2015年に始まった腎移植外来では献腎登録や移植実施施設に関する相談なども行っている。2016年に施行した生体腎移植症例の術後経過は良好で免疫抑制療法を継続し腎センターにて経過観察中で、2019年1月に2例目の生体腎移植を行い順調に経過している。
- ・小児泌尿器科領域のさまざまな疾患への対応は、保存的治療に加え手術治療も積極的に行っている。
- ・2017年7月に開始した前立腺癌に対するロボット支援手術も安全に症例を重ねており、今年度は21例であった（表：主要手術実績）。

## ■今後の展望

- ・適応疾患への実施による腹腔鏡手術件数の増加。
- ・手術支援ロボット（ダヴィンチ Xi）の実施症例数の確保と維持・増加。
- ・ロボット腎悪性腫瘍手術の導入。
- ・腎センターの有効な活用による腎不全診療の質の向上。
- ・尿路結石に対するレーザー治療の利便性能の向上。
- ・前立腺肥大症に対する標準的なレーザー治療の安定実施。

表. 主要手術実績

（単位：件）

手術症例数（年度）	2018年度
移植用腎採取術（鏡視下）	1
生体腎移植術	1
腹膜透析カテーテル留置	2
自己血管ブラッドアクセス造設術	24
腹腔鏡下副腎摘出術	3
腹腔鏡下腎（尿管）悪性腫瘍手術	10
開腹腎（尿管）悪性腫瘍手術	2
膀胱全摘・尿路変向術	2
経尿道的膀胱腫瘍切除術	56
ロボット支援下前立腺全摘除術	21
経尿道的前立腺手術	23
体外衝撃波破碎術	45
経尿道的尿管碎石術	78
経尿道的膀胱結石碎石術	5
陰嚢水腫根治術	11
停留精巣固定術	10
精巣捻転手術	1
膀胱尿管逆流手術	4
尿道下裂形成手術	4

## 整形外科・関節センター

### ■スタッフ紹介

#### 常勤医師

- ・松田 茂 (1997年卒 リハビリテーション科部長)
- ・鄭 克真 (2002年卒 整形外科部長, 関節センター長)
- ・蓑田正也 (2007年卒 医長)
- ・東迎高貴 (2016年卒 後期レジデント)

※2018年4月1日～9月30日

- ・江原 豊 (2016年卒 後期レジデント)

※2018年10月1日～2019年3月31日

#### 非常勤医師

- ・仲野春樹 (1998年卒 大阪医大リハビリテーション科)  
昨年度より神戸大学整形外科より活気のある後期レジデントがスタッフとして1名赴任することとなった。

### ■診療内容

#### ①外来診療

初診を含めすべて予約制としている。2018年5月より紹介患者専用予約枠を確保し、地域の医療機関からの患者紹介を円滑に行えるよう努めている。紹介患者数も順調に増加している。また、2017年4月より各スタッフの専門性を活用し、従来行っていた水曜日午後の関節センター（鄭医師）の専門外来に加え、月曜日午後の小児整形外科（蓑田医師）、金曜日午後のリウマチ（松田医師）の専門外来を行い地域への浸透が進みつつある。

#### ②手術

2015年に年間600件を超えて以降、毎年その数を維持している。また、人工関節手術に関しては2013年11月よりナビゲーションシステムを導入し精度の高い手術を提供している。

#### ③病棟診療

主に7階西病棟を利用し、毎日医師1～4名による回診を行っている。病棟看護師は整形外科患者が持つ特有の病識や病態を理解し看護に努めている。

### ■2018年度のトピックス・実績

#### ①人工関節手術

ナビゲーションシステムの利用により術中のさまざまな条件でのデータ収集が可能になり、臨床研究と学会発表

に繋がっている。2017年に年間100件を超え2018年には更に増加した。(2011年:64件, 2013年:92件, 2015年:97件, 2017年:103件, 2018年:130件)。また、看護師(病棟, 手術室, 外来), 理学/作業療法士, 地域医療科スタッフら数多くのコメディカルの協力の下, 人工関節置換術後患者を集め行っている患者会(健歩の会)では、年に2回バス旅行を行っており、手術だけでなく術後のケアにも注力し満足度向上に努めている。そのため会を重ねるごとに応募者数も増加し好評を得ている。また、地域医師会での講演をはじめ市民公開講座を積極的に開催することで、人工関節手術を中心とした業務の拡充活動に尽力している。

#### ②多職種連携パス

当院では大腿骨近位部骨折を「高齢者の単なる骨折」としてではなく、「骨折を有している高齢患者の一疾患」とあるという概念の下、2017年より多職種連携アプローチに取り組んできた。整形外科医だけでなく救急医から麻酔科医、また、循環器内科・糖尿病内科・脳卒中内科を中心に各内科医による医師連携、そして看護部、リハビリテーション部、薬剤部、栄養管理科、MSWなどのコメディカル、更にはNSTやDSTによるサポートにより患者への包括的なアプローチを目標に多職種連携パスを構築した。2018年度より本格始動し、手術待機平均日数の短縮、入院日数の短縮を実感している。

※下記に2018年度の手術実績(表)を掲載する。

#### ③研修医への指導

初期研修医への教育指導の一環として、「スキルアッププログラム」と称し当科主導で研修医の指導を月に1度行っている。診療材料メーカー協力の下、豚皮を用いた縫合の練習や整形外科手術のワークショップを行うことで初期研修医の技術向上の一助となるよう努めている。

### ■今後の展望

#### ①大腿骨近位部骨折における地域連携パスの拡充

大腿骨近位部骨折患者を「骨折を有している高齢患者の一疾患」として捉えることを根底に多職種連携パスを導入することにより、当院でのスムーズな治療が実現しつつある。しかしながら、大腿骨近位部骨折患者はその診断が

いた時点で骨粗鬆症の診断もつく。すなわち当院退院後の骨粗鬆症治療が、対側の近位部骨折や他の骨粗鬆症性骨折を予防するために非常に重要である。そのためには地域近隣医療機関との連携，病診・病病連携の強化が不可欠である。したがって今年度は形だけの地域連携パスではなく，真の意味での地域連携パスを行えるよう，近隣医療機関に働きかけていく予定である。

②近隣医療機関との連携強化

当院でのナビゲーションを用いた人工関節手術は年々その数が増加している。これは偏に近隣医療機関への定期的な訪問や，まさに病診連携の賜物と考えている。昨年度より『e-case book』という近隣医療機関と気軽にコンタ

クトをとることができるシステムを構築した。これにより患者紹介の前におきたい相談事や情報の共有が可能となった。今後，科を超えた患者の紹介・逆紹介が更に積極的に行えることを確信している。

③初期研修医，後期レジデントの教育

初期研修医への教育指導の更なる充実はもとより，当科としての魅力を存分にアピールしリクルートも積極的に行っていく。2018年度より，しばらく途絶えていた後期レジデントを医局の人事で1名迎え入れることができた。引き続きリクルートを行い，更なる人員増加を目指す。その上で学術活動を支援し，大学関連病院の一関連施設として教育機関の役割も果たしていきたい。

表. 2018年度手術実績

(単位:件)

手術名		件数	
関節センター手術	人工関節置換術 (130)	TKA(人工膝関節)	97
		THA(人工股関節)	33
		関節鏡視下手術	21
大腿骨近位部骨折(HF) (121)	大腿骨頸部骨折	人工骨頭置換術	46
		骨折観血的手術	23
	大腿骨転子部骨折	骨折観血的手術	52
		外傷手術(HF以外)	232
		抜釘	88
		その他	50
合計		642	

# 産婦人科

## ■スタッフ紹介

本山 覚 1977 年卒, 名誉院長

・専門: 婦人科腫瘍, 周産期, 性感染症, 女性漢方

吉田茂樹 1990 年卒, 副院長・部長

・専門: 婦人科悪性腫瘍, 内視鏡技術認定医,  
骨盤臓器脱, 周産期, 日本がん治療認定医機構・  
がん治療認定医, 同機構・暫定指導医

岡田十三 1994 年卒, 周産期センター長・主任部長

・専門: 周産期, 産婦人科, 産婦人科救急, 子宮鏡手術

村越 誉 1996 年卒, 先端医療分野主任部長

・専門: 婦人科悪性腫瘍, 周産期, 胎児超音波検査,  
子宮筋腫, 内視鏡技術認定医, がん治療認定医

稲垣美恵子 1997 年卒, 女性科主任部長

・専門: 生殖内分泌, 内視鏡技術認定医, 周産期,  
日本頭痛学会認定専門医, がん治療認定医

安田立子 1998 年卒, 産科主任部長

・専門: 周産期, 婦人科一般, 骨盤臓器脱, 腹腔鏡手術,  
マンモグラフィー読影, がん治療認定医

大木規義 1998 年卒, 婦人科主任部長

・専門: 婦人科悪性腫瘍, 内視鏡技術認定医, 周産期,  
がん治療認定医

以下 専門: 周産期, 婦人科一般

成田 萌 2012 年卒, 医長

下川 航 2014 年卒, 医員 明石医療センター出向

濱田 萌 2014 年卒, 医員

細川雅代 2014 年卒, 医員 兵庫県立がんセンター出向

益子尚久 2014 年卒, 医員

山本貴子 2014 年卒, 医員 近畿大学からの出向

太田真見子 2015 年卒, 医員 兵庫県立がんセンター出向

松原 萌 2015 年卒, 医員

小川紋奈 2017 年卒, 医員

嶋村卓人 2017 年卒, 医員

田邊 文 2017 年卒, 医員

田中美喜歩 2017 年卒, 医員

北井沙和 2017 年卒, 医員

北口智美 2017 年卒, 医員

中川公平 2017 年卒, 医員 明石医療センター出向

杉野孝子 2017 年卒, 医員 六甲アイランド病院出向

## ■診療体制並びに活動目標

連携施設出向中の後期研修医 5 名 (明石医療センター 2 名, 兵庫県立がんセンター 2 名, 六甲アイランド病院 1 名) を除き, 産婦人科医師 18 名 (部長以上・指導医 7 名, 医長 1 名, 後期研修医 10 名) の体制で, 産科・婦人科の全領域をカバーしている。大阪府地域周産期母子医療センター指定により, 活発に同センター運営を行い母体搬送に対応するとともに, 大阪府産婦人科一次救急医療ネットワークにおいて産婦人科一次救急 (2018 年度 1,138 台) の半数を超える 655 台の救急車を受け入れ, 地域産婦人科救急の要として日々努力している。

## ■2018 年度のトピックス・実績

尼崎総合医療センター開院の影響を受け, 一昨年度一時的に減少していた分娩件数は急速に回復し, 2017 年度, 1,618 件, 2018 年度 1,755 件と連続して過去最高件数を達成し (図 1), それに伴い産科手術件数も増加した (図 2)。

一方, 婦人科の手術実績は本年度も更に増加し, 手術点数ベースで前年度比 123% と過去最高の実績 (産科婦人科で手術点数 3,730 万点) を達成した (図 2)。本年度, 吉田副院長が, 日本産婦人科内視鏡技術認定医を取得し, 現在, 指導医 4 名が同資格を取得し, これら技術認定医が中心となり, 腹腔鏡手術件数 (390 件, 前年度比 120%) が今期も増加したこと, 同じく婦人科悪性腫瘍手術件数が増加したこと (63 件) が大きく寄与したものと考える (図 2)。

特に婦人科領域において, より先進的な医療への取り組みを継続しており, これまで『腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体癌に限る)』の施設認定を受け, 子宮頸癌に対する腹腔鏡下広汎子宮全摘術で「先進医療」の施設認定を取得したが, 本申請は全国で 7 施設目になる。

また当院産婦人科は, 『新専門医制度・産婦人科研修プログラムにおける基幹施設』に認定されており, 2018 年度 8 名の定員枠に 10 名の応募があり, 枠いっぱいの 8 名の後期研修医を採用した。これは全国順位 7 位に該当する (表 1, 図 3)。これら多くの後期研修医の採用を背景に, 同系列の明石医療センターからの依頼により 2 名の後期研修医と当直医を派遣し, 同センター産婦人科運営をサポート



ートしている。

臨床成果の学術成果への記録活動も積極的に行っており、これら多数の専攻医の学会発表も積極的に行っている。

産科並びに婦人科年間総手術数は 1,200 件を超える勢いで増加しており、2018 年度の産科婦人科の活動状況のクリニカルインディケータを表 2 から表 5 に示す。

### ■今後の展望

24 時間対応可能な無痛分娩の導入により、大阪における無痛分娩のメッカとなることを目指し、これらを背景に更なる分娩数の増加を目指す。

また今春子宮筋腫並びに子宮悪性腫瘍に対するロボット支援手術が保険適応となったことから、すでに Intuitive Surgical Japan 社の da Vinci certificate を取得している産婦人科指導医 4 名を中心に、最新型「da Vinci Xi」を用いたロボット手術を積極的に導入し、更なる婦人科手術件数の増加に貢献できるものと考えられる。

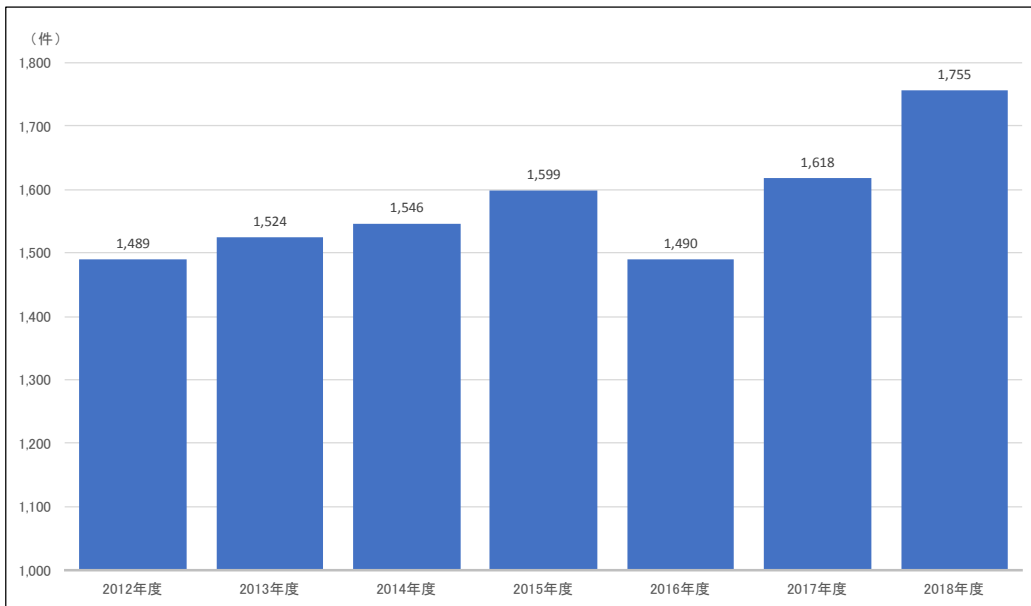


図 1. 千船病院産婦人科・分娩件数・年次推移

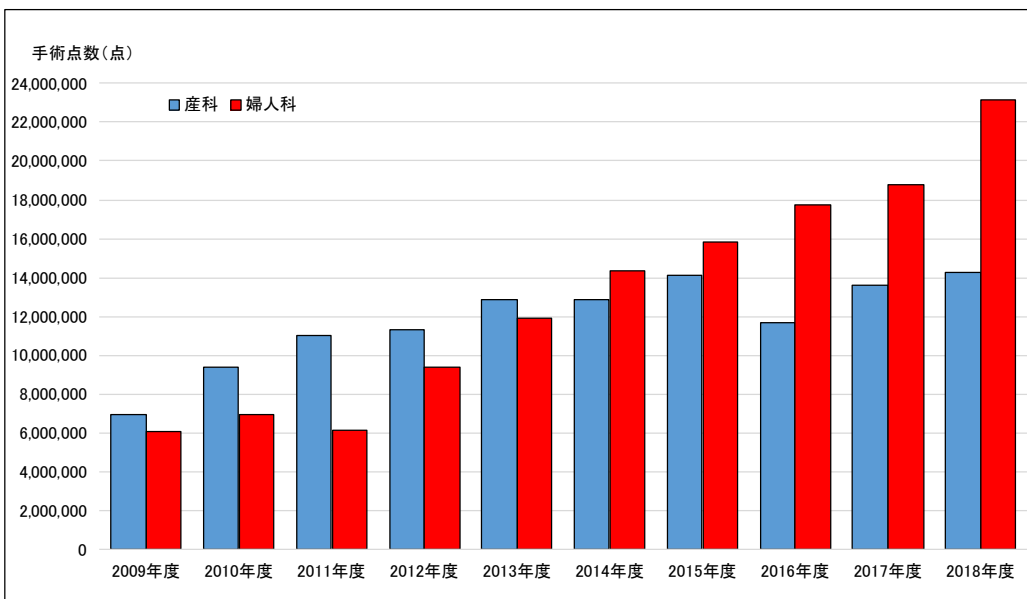


図 2. 千船病院産婦人科・手術実績・年次推移



図 3. スタッフ写真

表 1. 新専門医制度・産婦人科基幹施設における後期研修医登録数（全国版）（専門医機構 HP より抜粋）

(A) 全国版	都道府県	基幹施設名称	一次登録最終 後期研修医登録数		
			登録数	募集数	充足率
全国順位					
1位	東京都	東京大学医学部附属病院	16	20	80%
2位	大阪府	大阪大学医学部附属病院	15	18	83%
3位	愛知県	名古屋大学医学部附属病院	14	25	56%
4位	東京都	慶應義塾大学病院	12	15	80%
5位	茨城県	筑波大学附属病院	9	10	90%
6位	福岡県	九州大学病院	9	20	45%
7位	大阪府	愛仁会千船病院	8	8	125% (志願数10)
	鹿児島県	鹿児島大学病院	8	10	80%
	神奈川	横浜市立大学附属病院	8	10	80%
	福岡県	久留米大学病院	8	12	67%
	東京都	東京慈恵会医科大学附属病院	8	20	40%

表 2. 産科退院患者分娩統計

	件数(件)	割合(%)
分娩数	1,680	
正期産	1,506	89.6%
早産	169	10.1%
骨盤位分娩	92(経膣2)	5.5%
多胎分娩	34(経膣5)	2.0%
吸引分娩	158	9.4%
帝王切開	498	29.6%
出生児数	1,717	
外表奇形児数	6	0.3%
死産(22週以降)	5	0.3%
周産期母体死亡	0	0.0%

表 3. 産科退院患者疾患分類

(単位:人)	
	2018年度
産科入院患者	2,191
自然流産	17
人工流産	57
切迫流産	44
切迫早産	206
前期破水	37
子宮外妊娠	51
子宮内胎児死亡	12
胎児奇形	7
子宮内胎児発育遅延	8
羊水穿刺	18
自己免疫疾患	0
精神科疾患	1
合併症	
2018年度	
妊娠高血圧症候群	86
心疾患	1
甲状腺疾患	1
糖尿病	61
救急搬送患者(母体)	
2018年度	
	81

表 4. 婦人科退院患者治療分類

(単位:件)		
	術式	2018年度
腹式	単純子宮全摘術	32
	広汎子宮全摘術	8
	準広汎子宮全摘術	8
	附属器腫瘍摘出術	31
	子宮筋腫核出術	18
	卵巢癌根治術	21
	合計	118
内視鏡	子宮全摘術	175
	附属器腫瘍摘出術	162
	子宮筋腫核出術	49
	子宮鏡手術	99
	合計	485
腔式	単純子宮全摘術	0
	子宮腔部円錐切除術	62
	子宮脱根治術	16
	造腔術	0
	合計	78
化学療法のみ		92
手術+化学療法		2
化学療法+放射線療法		0
手術+化学療法+放射線療法		0

表 5. 婦人科退院患者疾患分類

疾患		件数	
外陰・膣	良性	2	
	悪性	0	0
		I	0
		II	0
		III	0
		IV	0
		不明	0
		維持療法	0
	合計	2	
	子宮頸部	良性	0
CIN(異形成)		I	1
		II	10
		III	49
悪性		0	4
		I	11
		II	6
		III	2
		IV	0
		上皮内癌	0
		不明	0
維持療法		14	
合計		97	
子宮体部	良性	243	
	悪性	0	0
		I	13
		II	6
		III	6
		IV	2
		不明	1
		維持療法	34
		合計	305

疾患		件数	
卵巢	良性	93	
	境界悪性	8	
	悪性	0	0
		I	7
		II	0
		III	6
		IV	7
		不明	1
		中間悪性群	0
		転移性	0
		維持療法	29
		合計	151
	卵管	良性	0
悪性		0	
合計		0	
腹膜	良性	0	
	悪性	不明	5
		維持療法	10
		合計	15
絨毛性疾患	胞状奇胎	5	
	侵入奇胎	1	
	存続絨毛症	1	
	絨毛性疾患	0	
	絨毛癌	0	
合計	7		

(単位:件)	
疾患	件数
卵管炎及び卵巣炎	6
PID	59
子宮内膜症	76
女性性器脱	23
卵巢, 卵管	40
月経障害	1
STD	4
先天奇形	1
その他内科合併症	50
その他外科合併症	214
その他	7
合計	481
総合計	1,058

# 眼 科

## ■スタッフ紹介

常勤医師 戸田景子 7月末退職

非常勤医師 5名

## ■診療内容

一般外来 月～金曜日午前，火，木，金曜日午後

特殊外来 火，水，木曜日午後

手術 月曜日午後

(眼科一般外来，未熟児網膜症外来（小児外来）など)

## ■2018年度のトピックス・実績

常勤医師退職以降，非常勤医師5名で外来診療に対応いただき，また手術も積極的に行っていただいた。

手術の実績は，「白内障手術」が34件と前年以上の実績を収めることができた。非常勤医師の先生方の頑張りに非常に感謝している。

## ■今後の展望

常勤医師の着任を切望するが，非常勤医師の先生方とは引き続き良好な関係を維持していきたい。また当院眼科の特徴である未熟児網膜症の治療においても，非常勤医師の協力をいただき，診療機能を維持する。

ロボット支援手術（ダヴィンチ）の術前検査，減量外来に関わる糖尿病性網膜症の増加への対応についても，滞りなく対応していきたい。

# 耳鼻咽喉科

## ■スタッフ紹介

常勤医師 伊集院隆宏  
奥西真帆  
輅津匡宏  
非常勤医師 原田倫子

## ■診療体制

耳鼻咽喉科外来担当医表参照（表1）。

## ■活動内容

診療体制は昨年と特に変わっていない。伊集院，輅津が外来及び病棟，手術等の診療を，奥西は外来診療を主に行

っている。原田医師は水曜日午前中の外来診察のみ担当頂いている。

外来診療内容に関して，年初より入院での PSG 検査導入及び CPAP 療法を開始し，より積極的に睡眠時無呼吸症候群に対して加療を行っていく方針である。

手術加療は，基本2人で行っている。専門性の高いものや2人で対応困難な症例には，より高次の病院との病診連携を密にして対処していく。

## ■今後の展望

引き続き近隣の開業医及び病院とのより丁寧な病診連携を行っていきたいと考えている。

表 1. 外来担当医表

	月	火	水	木	金
午前	伊集院	伊集院	原田・手術	伊集院	奥西
	奥西	奥西		奥西	輅津
午後	検査・外来手術 (完全予約制) 補聴器外来	検査・外来手術 (完全予約制)	手術	検査・外来手術 (完全予約制)	検査・外来手術 (完全予約制)

表 2. 手術状況（2018年4月1日～2019年3月31日）

手術名		例数	手術名		例数
耳科領域	鼓膜チューブ留置	14	喉頭・気管・食道領域	喉頭良性腫瘍摘出術	3
	その他	1		音声機能改善手術	2
鼻・副鼻腔領域	鼻中隔矯正術	4		喉頭微細手術	3
	内視鏡下鼻副鼻腔手術	14		その他	0
	下鼻甲介手術	10	顔面・頸部領域	甲状腺良性腫瘍摘出術	2
	鼻副鼻腔良性腫瘍手術	2		耳下腺良性腫瘍摘出術	1
	その他	0		頸部良性腫瘍・嚢胞摘出術	4
口腔・咽頭領域	口蓋扁桃摘出術(含むアデノイド切除術)	65	その他(リンパ節生検含む)	3	
	軟口蓋形成術	4	合計(件)	146	
	舌, 口腔・咽頭腫瘍切除術	13			
	その他	1			

# 皮膚科

## ■スタッフ紹介

常勤医師：松本いづみ

## ■診療体制又は活動目標

外来診療体制表参照.

## ■活動内容及びトピックス

外来診療：

- ・皮膚科一般
- ・病棟依頼診察
- ・褥瘡回診
- ・小手術
- ・ダーモスコピーによる非侵襲的検査・診断

・男性型脱毛症に対するプロペシア（自費）の処方

入院診療：

・带状疱疹，蜂窩織炎，褥瘡等

集学的治療の必要な悪性疾患，紫外線照射装置による検査・治療が必要な場合は，他院へ紹介している.

## ■次年度方針・抱負又は将来展望

外来・入院診療の質・量ともに向上するよう努めたい.

表. 外来診療体制

	月	火	水	木	金
午前	松本	松本	松本	松本	松本
午後	松本	検査・外来手術	褥瘡委員会 (第3水曜日)	褥瘡回診	松本

# 画像診断科

## ■スタッフ紹介

常勤医師 主任部長 田中 豊  
部長 前田哲雄

非常勤医師 放射線科医師 2名(隔週で土曜日あるいは日曜日に読影)

## ■診療体制

2017年は田中 豊部長, 前田哲雄部長の常勤医師2名と非常勤医師2名の診療体制になった。

## ■活動内容

### I. 読影

MRI, CT, RI, 消化管透視などの読影を行っている。  
ドック胃透視・胸部の読影。

### II. 血管造影, IVR

肝癌のTAEやUAEなどの婦人科疾患のIVRを行っている。

## III. カンファレンス

外科・検査科・放射線技師と毎週金曜日にマンモグラフィカンファレンスを行っている。

産婦人科・病理診断科とは毎週火曜日に婦人科病理カンファレンスを行っている。

## ■今後の展望

新病院移転後, CTとMRI装置が各々2台体制になった。MRI検査は30件の予約検査枠を設け対応している。CT・MRI等の検査も以前と同様にすべての時間帯に緊急検査に対応している。1日の検査数増加に伴う予約待ちの短縮や緊急検査などに対応できるようになった。また, 新たに心臓MRI検査をルーチンで撮像している。

オープン検査に関しては, 病診連携を強化し, 地域の画像センターとしての役割を果たしていかなくてはならない。CT・MRIは以前と同様に土曜日にオープン検査のために対応している。

表1. 診療体制

	月	火	水	木	金
午前	読影 血管造影	読影	読影	読影	読影 血管造影
午後	読影	読影	読影	読影	読影

表2. 過去3年の主な検査件数

(単位:件)

検査名	年度	総件数
MRI	2018年	6,343
	2017年	6,022
	2016年	5,391
CT	2018年	13,809
	2017年	13,372
	2016年	13,440
腹部血管造影検査	2018年	35
	2017年	20
	2016年	23
核医学検査	2018年	611
	2017年	544
	2016年	529

# 麻 酔 科

## ■スタッフ紹介

### 1. 常勤医

主任部長 岡本健志（1984年卒，専門医・指導医）

部長 河野克彬（1967年卒，専門医・指導医）

医長 上北郁男（2002年卒，専門医・指導医）

医長 星野和夫（2007年卒，専門医）

医長 大山泰幸（2008年卒，専門医）

### 千船病院麻酔科専門プログラム研修医

金岡由起（2014年卒，専攻医）

原田優美（2014年卒，専攻医）

### 2. 非常勤医

浮田英明（認定医）

野村文彦（認定医）

### 3. 臨床研修

初期研修医：

1年次 10名

黒川 晟，横山陽子，林 伸介，榊田千晶，  
福田祥直，宮井和也，山田真唯子，有吉偉雄，  
國廣貴志，瀨本麻希

2年次 3名 西川実沙，松下和子，河谷春那

### 4. 病院麻酔科の活動

4月：大山泰幸，日本麻酔科学会麻酔科専門医に

4月：上北郁男，日本麻酔科学会麻酔科指導医に

4～6月：金岡由起（専攻医），奈良県立医科大学附属病  
院で麻酔科研修

8月：原田優美（専攻医），明石医療センターへ異動

## ■診療内容

月曜日から金曜日，周術期管理（術前，術中，術後）及  
びICU管理を施行。

月・水・金曜日，麻酔科外来（術前）施行。

無痛分娩（硬膜外注入法）を随時施行。

ペインクリニック外来を水曜日午後に施行。

月曜日から金曜日の午前8時20分より麻酔科医，手術  
室看護師，臨床工学技士合同の術前カンファレンス。

週1回抄読会又は術後症例検討会を施行。

## ■2018年度のトピックス・実績

（手術件数）

2018年度（2018年4月1日～2019年3月31日）の  
総手術件数 3,166件，このうち麻酔科管理症例は 2,863  
件であった。

麻酔術前外来診：481件

無痛分娩：104件

ペインクリニック外来：138件

（学会発表）

上北郁男，坂本 元，三宅隆一郎，濱崎 豊，河合 建：ガ  
イドワイヤーにより重度僧帽弁逆流が惹起され rapid  
pacing 後の血圧回復を得られなかった TAVI 症例：日  
本心臓血管麻酔学会第 23 回学術大会，東京都，2018  
年 9 月 14～16 日

上北郁男，河野克彬，原田優美，金岡由起，星野和夫，大  
山泰幸：当初は脊髄くも膜下麻酔の合併症と考えられ  
た長期安静後の帝王切開術後歩行障害：日本臨床麻酔  
学会第 38 回大会，北九州市，2018 年 11 月 1～3 日

原田優美，星野和夫，金岡由起，大山泰幸，上北郁男：全  
身麻酔下子宮鏡下手術中に経皮的動脈血酸素飽和度  
（SpO<sub>2</sub>）の低下で発見し得た水中毒：日本臨床麻酔  
学会第 38 回大会，北九州市，2018 年 11 月 1～3 日

星野和夫，金岡由起，原田優美，大山泰幸，上北郁男，河  
野克彬：シャルコー・マリー・トゥース病の症状を呈  
した妊婦における帝王切開術の麻酔経験：日本臨床麻  
酔学会第 38 回大会，北九州市，2018 年 11 月 1～3 日  
（著書（編集））

白石としえ，上北郁男編集，肥満患者の麻酔，金芳堂，2018  
年 11 月 15 日

（著書（執筆））

上北郁男：1 章 肥満とその病態生理 7 血液の変化：白  
石としえ，上北郁男編集，肥満患者の麻酔，53-56，  
金芳堂，2018 年 11 月 15 日

上北郁男：2 章 術前評価と管理 1 術前評価：白石とし  
え，上北郁男編集，肥満患者の麻酔，64-73，金芳堂，  
2018 年 11 月 15 日

上北郁男：2 章 術前評価と管理 2 心機能評価：白石と  
しえ，上北郁男編集，肥満患者の麻酔，74-81，金芳



堂, 2018年11月15日

上北郁男: 2章 術前評価と管理 5 抗血栓療法: 白石としえ, 上北郁男編集, 肥満患者の麻酔, 98-104, 金芳堂, 2018年11月15日

上北郁男: 2章 術前評価と管理 6 物品準備: 白石としえ, 上北郁男編集, 肥満患者の麻酔, 105-108, 金芳堂, 2018年11月15日

上北郁男: 4章 術後管理 1 術後鎮痛: 白石としえ, 上北郁男編集, 肥満患者の麻酔, 168-174, 金芳堂, 2018年11月15日

上北郁男: 4章 術後管理 2 合併症とその対策: 白石としえ, 上北郁男編集, 肥満患者の麻酔, 175-183, 金芳堂, 2018年11月15日

上北郁男: 6章 帝王切開術: 白石としえ, 上北郁男編集, 肥満患者の麻酔, 213-234, 金芳堂, 2018年11月15日

上北郁男: 7章 小児: 白石としえ, 上北郁男編集, 肥満患者の麻酔, 235-251, 金芳堂, 2018年11月15日 (座長)

上北郁男: 座長: 若手研究奨励演題 14: 日本小児麻酔学会第24回大会, 神戸市, 2018年10月20~21日 (セミナー講師)

上北郁男: 輸液選択に必要な情報~医師から薬剤師へ~: 第9回 OHP 実務セミナー, 大阪市, 2018年8月26日

#### ■今後の展望

無痛分娩24時間対応が可能な体制を構築すること, 大腿骨近位部骨折に緊急手術として対応し術前待機時間の短縮を図ること. この2点を通じて患者満足度上昇と患者の早期回復に繋げたい.

# 腎臓内科

## ■スタッフ紹介

金 鐘一：日本透析医学会専門医・指導医，日本内科学会認定医・総合内科専門医，千船クリニック所長，日本病院総合診療医学会専門医

中西昌平：日本透析医学会専門医・指導医，日本腎臓学会専門医・指導医，日本内科学会認定医・総合内科専門医

服部英明：日本内科学会認定医，日本腎臓学会専門医

宇高千恵：日本内科学会認定医・総合内科専門医，日本腎臓学会専門医，日本透析医学会専門医

石井 圭：後期研修医

## ■診療内容

腎炎・ネフローゼ症候群，電解質異常，AKI，慢性腎不全，急性血液浄化などを中心に入院加療を行っている。

血液透析室では入院患者の血液透析と，腹膜透析血液透析併用患者の血液透析，腹水濃縮還流などを行っている。ICU と隣接している利点を生かし，重症患者は ICU にて血液透析を行っている。血液透析，持続血液濾過，腹水濃縮還流，他の実績は増加傾向である。

腎センター外来では，血尿など境界領域の紹介例，腎移植患者やドナー，内シャント造設準備中の患者などの診療を腎臓内科と泌尿器科が共同で行っている。紹介患者数，腎移植外来数とも増加傾向である。

金所長に加えて今年度から服部医長も透析患者の内シャント不全に対する経皮的血管形成術（PTA）を行っている。

また腎センター専属ナースにて血液透析・腹膜透析や腎移植外来の介助を行っている。腎看護外来（腎不全保存期の患者の生活指導，透析療法選択，透析導入のサポート，腎移植の紹介）や腹膜透析患者の退院前・退院後家庭訪問を行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

2例目の腎移植を2019年1月に行った。当院での保存期管理や腹膜透析を経て移植に至る流れを構築したい。

腹膜透析の治療法変更（CAPD から APD）を外来にて2件行った。

## ■今後の展望

泌尿器科樋口副院長に内シャント造設術を依頼していたが，血管外科松尾部長が入職後は2名体制となった。手術までの待機時間が少なくなり，人工血管，日帰り手術にも対応できるようになった。シャント閉塞は突発するため，PTA を現在の週2回から3～4回にできれば，日帰り手術・入院手術と合わせバスキュラーセンターとして宣伝でき，近隣の透析クリニックから頼られる存在になり得る。

表 1. 入院実績

CKDとその合併症	30件
AKI	8件
腎炎・ネフローゼ症候群	20件
電解質異常	40件
教育入院	2件
膠原病	1件
血管炎とその合併症	10件
血液透析導入	33件
血液透析の合併症	46件
腹膜透析導入	2件
腹膜透析の合併症	8件
腎生検	7件
PET検査	3件
PTA	53件
内シャント造設術	32件
腹膜透析カテーテル留置	1件

表 2. 血液透析実績

	2017年度	2018年度
総透析回数(回)	879	1,310
透析回数月平均(回)	97.7	109.2
導入患者数(人)	14	33
死亡患者数(人)	5	3

表 3. 急性血液浄化実績

	2017年度	2018年度
持続血液濾過(回)	0	23
エンドトキシン吸着療法(回)	1	4
血漿交換(回)	0	0
腹水濾過濃縮再静注療法(回)	8	34

# 病理診断科

## ■スタッフ紹介

医師：主任部長 名方保夫

(病理専門医, 1980年卒, 2004年7月着任)

部長 八十嶋 仁

(病理専門医, 1979年卒, 2014年4月着任)

医員 吉安可奈子

(2011年卒, 2014年4月着任)

臨床検査技師：常勤5名

伏見翔一郎 (国際細胞検査士),

佐藤 圭 (国際細胞検査士), 木下佳乃 (細胞検査士),

玉岡紗矢佳 (細胞検査士), 井上弘規 (細胞検査士)

## ■診療体制又は活動目標

病理診断科(病理検査室)の主たる業務は、病理組織診断、術中迅速病理組織診断、細胞診断、術中迅速細胞診断及び病理解剖である。各項目の2018年度実績は、図表1～3を参照。病理組織診は、生検及び手術標本診断に分類される。生検では腫瘍性か非腫瘍性か及び良性か悪性かの判定が、今後の患者の治療方針決定に重要である。手術標本診断は、腫瘍(特に悪性)において重要であり、その組織型の最終診断、切除標本における深達度、脈管侵襲の有無、切除断端における腫瘍細胞の有無及びリンパ節転移の有無などが、今後の治療方針決定の一助となり得る。術中迅速病理診断は、良性あるいは悪性の判定、リンパ節転移の有無及び切除断端の決定を短時間で標本を作製診断し、術中における治療方針決定の一助となり得るが、凍結標本での判定であるので、確診が困難な場合もあり得る。さらに細胞診断及び術中迅速細胞診断は、組織診断との併用や、組織採取が困難な部位(穿刺細胞診)あるいは体腔液診断に重要な場合が多い。病理解剖は、医師の卒前及び卒後の

医学教育や今後の臨床医学の発展に多大の貢献をもたらすものであり、当科の業務としては、極めて重要な位置付けにある。

なお、CPCは、原則として毎月第1火曜日午後5時30分より開催され、活発な論議も展開され、特に臨床研修医の卒後医学教育に役立っている。

## ■活動内容及びトピックス

毎週火曜日に婦人科、放射線科、病理診断科合同カンファレンスが開催されており、細胞検査士も参加している。

## ■今後の展望

病理診断科(病理検査室)の業務は、臨床各診療科、臨床検査部門、事務部門、看護部門の支援協力により2018年度は比較的円滑に遂行された。

なお、2019年4月には、兵庫医大より渡邊隆弘医長の赴任が予定され、更なる病理組織・細胞診断の精度向上が期待される。

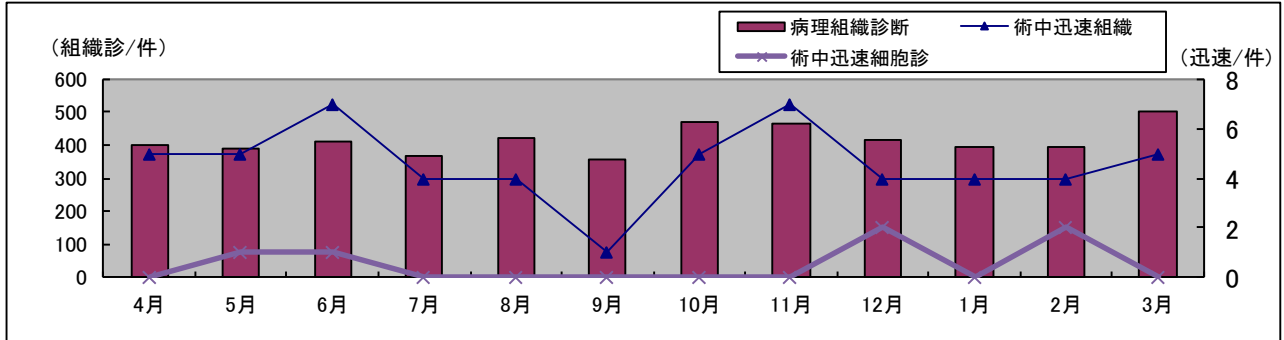
当院では、医師数の増加に伴い、病理組織・細胞診断数の増加が予想されるので、迅速かつ正確な病理組織診断、病理細胞診断が遂行されるよう、臨床検査技師スタッフと協力して更に努力を重ねたい。

今後は田中智洋検査科科长の下、臨床検査部門とも密に連携しながら、迅速な業務の遂行に努めたい。

最後に、卒前卒後の医学教育及び今後の臨床医学の発展のために、病理解剖を御承諾された御遺族の御篤志に深甚なる敬意を表するとともに、多忙な臨床の場において病理解剖の承諾を得るべく努力された診療部スタッフに謝意を述べたい。

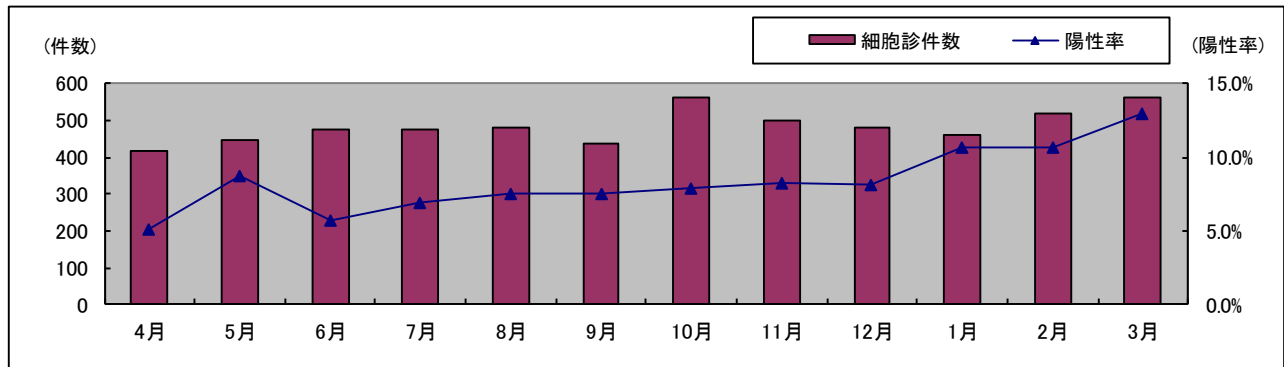
図表 1. 病理組織診断・術中迅速診断件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
病理組織診断	398	391	413	370	423	357	471	466	415	394	394	503
術中迅速組織	5	5	7	4	4	1	5	7	4	4	4	5
術中迅速細胞診	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0	2	0



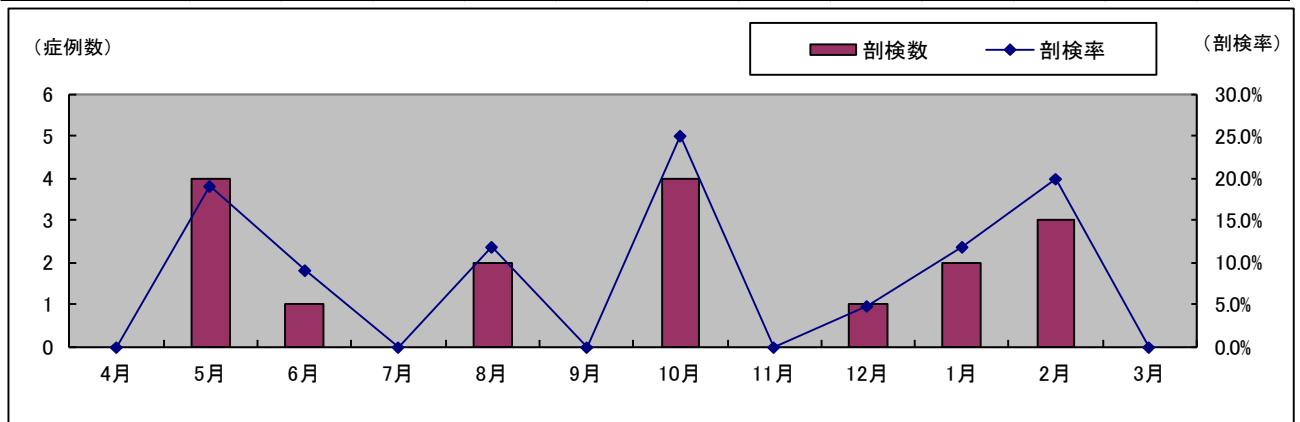
図表 2. 細胞診件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
細胞診件数	415	444	473	476	480	436	561	498	480	460	517	562
陽性数	21	39	27	33	36	33	44	41	39	49	55	73
陽性率	5.1%	8.8%	5.7%	6.9%	7.5%	7.6%	7.8%	8.2%	8.1%	10.7%	10.6%	13.0%



図表 3. 病理解剖数と剖検率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
剖検数	0	4	1	0	2	0	4	0	1	2	3	0
剖検率	0.0%	19.0%	9.1%	0.0%	11.8%	0.0%	25.0%	0.0%	4.8%	11.8%	20.0%	0.0%



# 看護部

## ■スタッフ紹介

看護職員数 412名

<内訳>

看護師 288名 助産師 78名

准看護師 7名 看護助手 42名

## ■各部署の状況

病床稼働率は概ね 90%前後で推移した。平均在院日数は9日であった(表1)。

## ■2018年度のトピックス

### 1. 安全への取り組み：転倒転落件数の減少

入院患者のうち高齢者でかつ認知症を有する患者は増加している。しかし、図1のように転倒転落の件数は年々減少傾向をたどっている。

転倒転落防止に効果的であった取り組みは①入院時のアセスメント及び計画修正の強化、②2013年からの夜勤帯における看護補助者の「見守り体制」の継続、③2017年移転時に離床センサーから「起き上がりセンサー」に変更したことなどがあると考えられる。

認知症を有する高齢患者が急性期の状態を脱した時にももとの生活レベルを維持するためには認知症を悪化させず、かつADLの低下を防ぐことが必要である。侵襲的な治療や処置がやむをえない急性期の状態でも抑制を最小限にしつつも転倒転落による骨折などの合併症を防ぐことは急性期医療を担う当院の役割として意義が大きい。今後も更に取り組むべき課題である。

### 2. 地域連携を踏まえたクリニカルラダーⅣの研修

前年度までも当院ではクリニカルラダーⅠ、Ⅱ、Ⅲそれぞれの対象者に2回/年以上の集合研修を行ってきた。

今年度はクリニカルラダーⅣの対象者全員が1日の訪問看護の研修を行った。目的は「地域で療養する人の生活を知る」ことと、「退院した患者さんの地域での生活の実際を知り、施設内での看護を振り返る。」である。ラダーレベルⅣの対象者32名中、30名が参加した。

結果、施設内と自宅での患者の様子の違いに気づき、看護の多様性の理解が深まるという学びが得られた。その後、退院カンファレンスにも活かした。

### 3. 6階病棟の再編成

6階病棟は2017年7月の移転時には55床の病棟としてスタートした。移転時から6階東フロアは小児科を主としていたが小児の患者が一定数になった経過を踏まえ、2018年4月より35床の6階西と20床の6階東病棟に再編成し6階東病棟とし、小児科の入院を受ける体制を整えた。これまで小児科の入院時はすべて付き添っていただくことを前提としていたが、共働きの世帯が増える中これを機に「付き添いなしの入院」対応も始めた。患者数の変化は図2の通りである。2019年度にはレスパイトの受け入れ等、当院のNICU、GCUを退院した患者の地域での生活の支援にも取り組む計画である。

### 4. 認知症患者ケアへの取り組み

認知症ケアでは院内デイサービス、見守り体制の継続及び、DTSのサポートを受け取り組んでいる。看護部としては2回/年の「ユマニチュード」の研修と、看護部の認知症ケア委員会の活動として事例検討を行い、認知症患者でも抑制を最小限にする取り組みを継続している(図3)。

### 5. 褥瘡防止の取り組み

院内での褥瘡発生率も年々減少傾向である(図4)。

## ■今後の展望

### 1) 有利な戦略

- ①病床稼働率の安定
- ②入院前からの入退院支援の強化

### 2) 内部強化

- ①周産期の強化、小児患児の入院体制の強化
- ②やりがい、働きがいを高める取り組み

### 3) 進出強化

- ①地域連携の促進と在宅ケアの質向上への貢献
- ②アドバンスドケアプランニングの浸透を図る

### 4) 不利戦略

- ①人材確保
- ②災害対策：BCPの立案

表 1. 各看護単位の状況

病棟	病床稼働率	平均在院日数	65歳以上割合	総入院数 (1日平均)	総退院数 (1日平均)	死亡患者数 (月平均)	主な疾患
8F 東	95.3%	12.0日	94.3%	1,100人 (3.0)	1,097人 (3.0)	62人 (5.2)	狭心症・心筋梗塞・心不全・呼吸不全 誤嚥性肺炎・COPD・肺炎
8F 西	91.9%	9.1日	80.3%	1,403人 (3.8)	1,406人 (3.9)	28人 (2.3)	尿管結石・前立腺がん・前立腺肥大 腎がん・膀胱がん・扁桃腺炎 突発性難聴・白内障
7F 東	92.5%	11.9日	77.8%	1,133人 (3.1)	1,130人 (3.1)	50人 (4.2)	総胆管結石・胃がん・大腸がん 出血性胃潰瘍・虚血性腸炎
7F 西	94.3%	9.9日	81.0%	1,387人 (3.8)	1,383人 (3.8)	6人 (0.5)	胃がん・大腸がん・胆石 大腿骨頸部骨折・変形性膝関節症
6F 東	65.3%	4.1日	4.6%	1,387人 (3.2)	1,383人 (3.2)	6人 (0.5)	小児科 腸炎・気管支炎・熱性痙攣・尿路感染 骨折・虫垂炎・尿道裂傷
6F 西	86.3%	6.3日	54.5%	1,771人 (4.9)	1,744人 (4.8)	15人 (1.5)	脳梗塞・慢性硬膜下血腫 脊椎管狭窄症・水頭症・子宮筋腫 子宮がん・卵巣がん・卵巣嚢腫
MFICU	81.3%	8.2日	0.0%	218人 (0.6)	217人 (0.6)	0人 (0)	
GCU	92.7%	6.2日		876人 (2.2)	817人 (2.2)	0人 (0)	母体疾患・GBS陽性・PROM 呼吸障害・低出生体重時
NICU	87.8%	12.6日		389人 (1.1)	389人 (1.1)	4人 (1.7)	突発性呼吸窮迫症候群 一過性多呼吸・超・極低出生体重児
ICU	54.5%	1.7日	58.7%	479人 (1.3)	479人 (1.3)	17人 (1.4)	侵襲の大きい手術後 意識障害又は昏睡 急性心不全・急性呼吸不全・ショック
5F	87.7%	6.3日	0%	2,096人 (5.7)	2,081人 (5.7)	0人 (0)	産科
	総分娩室	一般経産	帝王切開	院内助産		その他	
	1,716件	832件	475件	経産分娩	帝王切開	子宮内胎児死亡	
手術室	手術台稼働率			手術件数(前年比)			主な手術
	平均61.2% (前年 61%)			総数	時間内緊急	時間外緊急	
				3,165件	264件	254件	
救急	総来院患者数			前年比:111%			
	総数	14,812人		前年比:92%	前年比:118%		
	救急搬送	5,860人					
外来	総来院患者数(1日平均)		化学療法 外来患者数	1日平均採血患者数		1日平均点滴患者数	
	174,116人 (774.9)		1,224人	169人		10人	
院内透析	月平均透析回数		109件	導入患者数	29人		

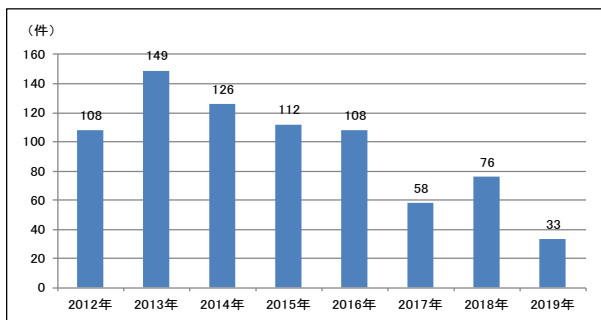


図 1. 年度別転倒・転落発生件数

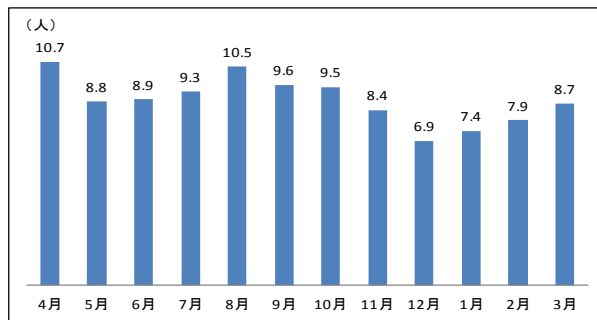


図 2. 6階東病棟 1日平均15歳未満入院患者数

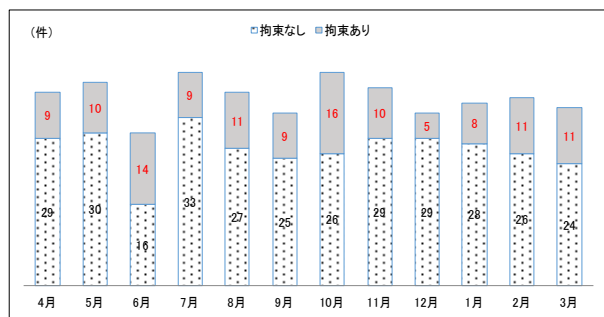


図 3. 身体拘束件数(認知症の患者のうち)

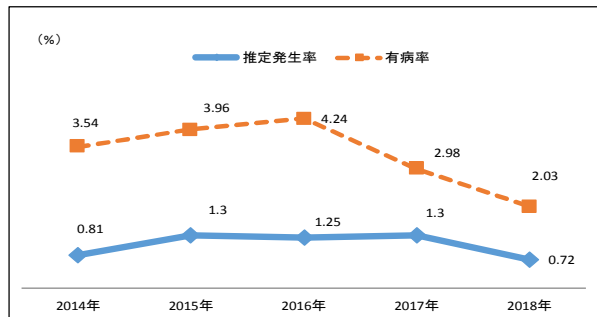


図 4. 褥瘡推定発生率・有病率

# 薬 剤 科

## ■スタッフ紹介

(科長) 木村真策

(副主任) 鶴崎 亮, 久保智士

三原瑞貴, 石田あい, 岡 紗智子, 高本早希, 今市沙有美, 土本寛子, 北村悠里子, 片江 蘭, 川口 恵, 吉住優里, 富永紗菜恵, 伊藤磨美, 原田千菜美, 芳野智美, 芦澤徳波, 兼保 薫, 宮城 景, 青木美沙, 生藤可奈, 長井梨紗, 安場麻里

## ■業務内容

新病院移転後、順調に稼働しているシステムではあるが、些細な点で不具合もあり、少しずつ修正しながらの運営となっている。薬剤師人数もほぼ一定となり、病棟業務、入院センター業務、手術室業務が安定して運用できるようになってきた。他部署からの要望にも少しずつ対応を行いながら、外来患者への指導、手術前薬剤の鑑別など、新たな業務拡大を行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

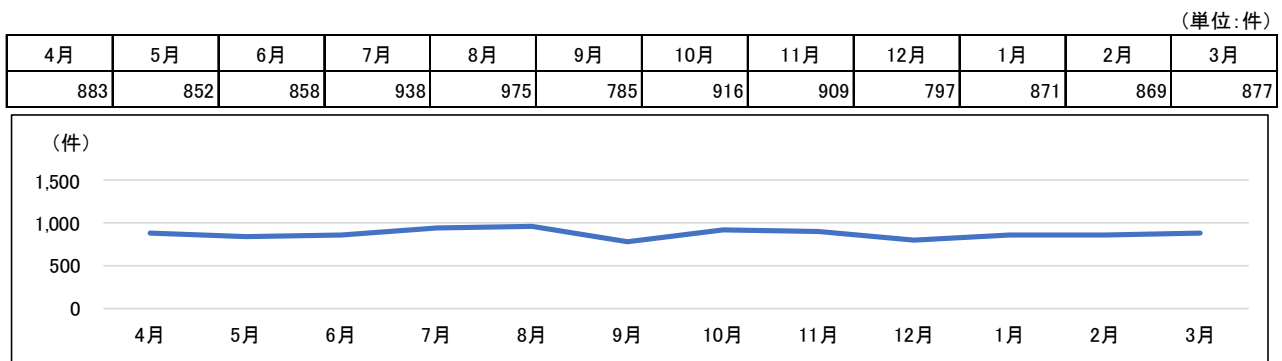
職員の異動・退職も例年同様見られたが、その中でも、糖尿病療養指導士、病院薬学認定薬剤師などの資格認定の取得者も生み出した。学会発表も6題行え、スキルアップが図れたと考えられる。

## ■今後の展望

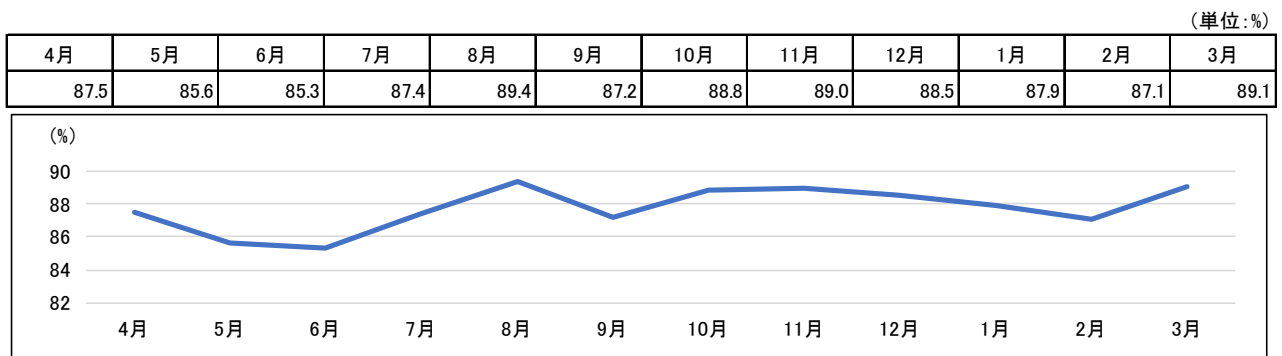
今までの入院患者中心の薬剤管理指導から、外来へのシフトを含め、地域連携の強化を図っていきたい。

また、若い薬剤師が多いためスキルアップの機会を増やし、資格認定や学会発表が増やせるような環境作りを行ってきたい。

図表 1. 薬剤指導管理料算定件数



図表 2. 後発品使用率



# 放射線科

## ■スタッフ紹介

- ( 科長 ) 田中寛人  
 ( 主任 ) 目黒雅一・久保伸平  
 ( 副主任 ) 坪田 明・田中大也  
 ( 科員 ) 藤野隆夫・中村亮太・三島彩子  
 品川 諭・橋本和樹・城本勇輝  
 轟木武司・栗山徳昭・伊東直博  
 田村正和・杉林 笑・上津千明  
 金元梨胡・森 大地・伊藤祐斗  
 佐伯奏海

## ■部署概要

- ① 一般撮影 (X線発生装置 3台・FPD ポータブル撮影装置 3台・乳房撮影装置 1台)
- ② 造影検査 (X線 TV 装置 2台・アンギオ装置 1台)
- ③ マルチスライス CT (320列・80列) 2台
- ④ MRI 装置 (3.0T・1.5T) 2台
- ⑤ RI 検査装置 1台
- ⑥ 骨塩定量装置 1台
- ⑦ 外科用イメージ 3台
- ⑧ 超音波検査

## ■2018年度のトピックス・実績

CTはCanon社製320列CTと80列CTの2台体制となり順調に運用している。

MRIはSiemens社製、3T MRI Skyraと1.5T MRI Aeraの2台体制となり各科のニーズに応えやすくなった。

地域病院への訪問活動を増やしPRを行ったことでMRI検査件数の増加に繋がった。また、前立腺MRIのMRSや心臓MRIの撮像も試みている。

表は近年3年度分の年度別検査件数の比較表である。

CT検査は前年比103%(437件増)と微増であったが、MRI検査は前年比105%(321件増)と順調に増加している。骨塩定量検査や消化管造影検査等の検査件数も順調に増加している。

## ■今後の展望

2019年度は、各モダリティの画質、線量の再調整等を行い、被ばくの適正な管理や放射線機器の安全利用の管理体制を構築していく。

今後とも、病診連携を強化し西淀川地区の中核病院としての役割を担っていく。

表. 年間検査件数実績比較表(2016年度～2018年度)

検査名	(単位:件)	
	年度	総件数
一般撮影	2018年	30,565
	2017年	31,113
	2016年	33,562
ポータブル撮影	2018年	7,739
	2017年	6,447
	2016年	6,471
乳房撮影	2018年	1,097
	2017年	1,004
	2016年	1,090
消化管造影	2018年	390
	2017年	249
	2016年	252
その他造影検査	2018年	1,085
	2017年	845
	2016年	832
CT	2018年	13,809
	2017年	13,372
	2016年	13,440
MRI	2018年	6,343
	2017年	6,022
	2016年	5,391
骨塩定量検査	2018年	1,054
	2017年	974
	2016年	757
心臓カテーテル検査	2018年	295
	2017年	317
	2016年	341
血管造影検査	2018年	122
	2017年	134
	2016年	195
核医学検査	2018年	611
	2017年	544
	2016年	529
内視鏡検査	2018年	5,458
	2017年	5,324
	2016年	5,093



# 臨床工学科

## ■スタッフ紹介

臨床工学技士 合計 10 名

科 長：稔野益男

手術心カテ担当主任：田口友和

血液浄化 ME 担当主任：木下 亮

OP 担当主任：沖田新一

副主任：田村 悠，八上政大

科 員：宮田 成，森下絢加，吉村健悟，辻野綾香

## ■業務内容

臨床工学科の業務内容詳細を下記に記す。

### 【血液浄化業務】

#### 1. 血液透析業務

入院患者中心に血液透析を行っている。ベッド数は個室 2 床を含む 10 床である。近隣の透析施設から透析患者の手術、検査、透析合併症の治療など、さまざまな状態の患者の血液透析に対応し、地域の透析基幹病院の役割を担っている。また透析患者の救急も 24 時間体制で対応している。表 1 に当院透析患者の状況を示す。

#### 2. その他の血液浄化業務

その他、緊急血液透析、持続緩徐式血液濾過透析療法、血漿交換療法、エンドトキシン吸着療法、腹水濾過濃縮療法、ECUM 療法など、主に ICU 内で施行している。表 2 に急性血液浄化実績を示す。

### 【ME 業務】

#### 1. ME 機器管理業務

ME 機器管理システムにて一元管理を行っている。中央管理機器にアクティブタグを設置し、所在確認と点検情報・使用状況をタブレット端末にて感知、管理を行っている。

#### 2. 中央管理業務

輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器の中央管理を行っている。人工呼吸器アナライザーにて人工呼吸器始業前点検を行い、回路交換、回路管理、トラブルや修理に対応している。当院における成人用人工呼吸器は ICU 以外の病棟はレンタルにて対応しており、点検管理を行っている。輸液・シリンジポンプは、使用後の機器の清掃、ポンプチェッカーでの保守点検を実施している。また稼働率の

把握に努め、ポンプの提供に役立っている。ME 機器修理も科内処理若しくは院外業者修理への対応を行っている。表 3 に科内修理の状況を示す。

#### 3. 医療機器安全管理業務

医療機器を新規購入した際に使用部署向けに勉強会の随時開催と、新人看護師研修を実施した。

また、業者による修理完了報告書の管理、定期点検を計画通り行うなど、医療安全に関わる業務を遂行した。医療機器に関するアクシデントにおいて、機器の操作履歴の確認、調査なども医療安全管理者の依頼の下で行った。

### 【NICU 業務】

NICU でも ME 機器管理業務と同様に ME 機器管理システムにて点検管理業務を行っている。保育器、小児用人工呼吸器などが重点管理機器となっており、定期点検の計画と実施、日常点検の実施などを管理している。また人工呼吸器の回路交換、回路のセッティング、NICU 内の ME 機器のトラブル対処、修理なども行っている。NO 療法も、回路の組み立てと機器の使用前点検などの対応を 24 時間体制（オンコール）で行っている。

### 【OP 室業務】

手術支援ロボット da Vinci Xi を使用した OP や腹腔鏡や胸腔鏡、関節鏡などカメラを使用する OP、デモ機器を使用する OP を中心に臨床技術提供を行っている。また麻酔器、高低体温維持装置など OP 室内の ME 機器の点検準備、またナビゲーションシステムやセルセーバ使用の OP にも立ち会っている。特に 7 月より産婦人科領域で da Vinci 手術が適応となり大幅に件数が増加した。OP 業務実績を表 4 に記す。

### 【循環器カテーテル業務】

アンギオ（血管造影）部門では、心臓カテーテル検査・冠動脈形成術・四肢動脈形成術・シャント血管形成術などに従事し、これらの検査・治療時に使用するさまざまな ME 機器の保守点検・操作を行っている。必要に応じて清潔介助業務も行っている。またペースメーカーの植え込み OP の立ち会い、テンポラリーの対応、ペースメーカー外来やペースメーカー患者の OP、MRI 検査時のペースメーカープログラマーの操作、ホームモニタリングシステムにも対応している（表 5）。

## ■2018年度の実績

2018年度の実績を表1～5に記す。

## ■今後の展望

千船地区臨床工学科は千船病院と千船クリニックに分離している。千船病院では、急性期医療での機器管理や臨

床技術提供を行い、千船クリニックでは、透析業務を中心に機器管理、患者管理、透析技術提供を行っている。今後は千船病院と千船クリニックと連携し、新人・科員のスキルアップや専門性、可能性も考え科員のローテーションを行っていく所存である。

表 1. 透析業務実績

	2018年度
総透析回数(回)	1,310
透析回数月平均(回)	109.2
導入患者数(回)	29
死亡患者数(回)	3

表 2. 急性血液浄化実績

	2018年度
持続血液濾過(回)	23
エンドトキシン吸着療法(回)	4
血漿交換(回)	0
腹水濾過濃縮再静注療法(回)	34

表 3. ME 機器管理業務実績

	2018年度
ME機器修理依頼件数(件)	578
ME機器修理依頼件数月平均(件)	48.2
当科処理件数(件)	425
当科処理件数月平均(件)	35.4
科内修理率(%)	73.5
ME機器保守・点検件数(件)	20,153
ME機器保守・点検件数月平均(件)	1,679.4

表 4. OP 室業務実績

	2018年度
OP立ち会い件数(件)	1,394
OP立ち会い件数月平均(件)	116.2
ME機器保守・点検件数(件)	2,813
ME機器保守・点検月平均件数(件)	234.1
ナビゲーションOP件数(件)	133
da vinci 件数(件)	41

表 5. カテ室ペースメーカー業務実績

	2018年度
CAG件数(件)	226
PCI件数(件)	127
体外式PM(件)	21
埋込式PM(件)	19
下肢AG・PTA・フィルター	38
ペースメーカー外来(件)	288
シャントPTA(件)	68
PCPS(件)	2

# 検査科

## ■スタッフ紹介

### 【臨床検査技師 26名】

科長	: 田中智洋
主任	: 田中 誠・岡本寛之
副主任	: 佐藤 圭・伏見翔一郎・武市恵里
科員	: 新保由紀・三輪絢美・坪井直美 糸井未来・畑 愛香理・伊藤友里 井手口小智子・関口絢子 木下佳乃・井上弘規・玉岡紗矢佳 近藤理香・荒木憲一・神崎七海 福井 颯・田澤友美・竹一舞香 竹谷 愛・竹中裕哉・西木里帆

### 《各種学会等認定取得者》

細胞検査士	: 5名
国際細胞検査士	: 2名
認定病理検査技師	: 1名
超音波検査士	
循環器領域	: 4名
消化器領域	: 2名
産婦人科領域	: 1名
二級臨床検査士	
循環生理学	: 1名
血液学	: 1名
微生物学	: 1名
病理学	: 3名

### 【眼科スタッフ 2名】

ORT	: 中内佑実
OMA	: 小川順子

## ■業務内容

当院検査科は検体検査部門、生理検査部門、病理検査部門に分け、業務の専任制を導入している。また、外来中央採血室での採血業務を一部担っている。

### 1. 検体検査部門

生化学・血液・尿一般・輸血・免疫検査を担っており、24時間、365日検査が行われている。日勤帯では生化学、血液項目をはじめ、HBs抗原、HCVなどの感染症、CEA、CA19-9などの腫瘍マーカー、TSHなど甲状腺関連項目も60分以内に報告している。

### 2. 生理検査部門

生体から得られる情報を解析する部門である生理検査部門では、心電図検査、肺機能検査、脳波、心臓超音波検査・腹部超音波検査・頸動脈超音波検査・下肢静脈超音波検査・乳腺超音波検査・甲状腺超音波検査・胎児超音波検査を主たる業務としている。

### 3. 病理検査部門

身体から採取された細胞や組織を顕微鏡で観察して病気、特に悪性腫瘍の診断を行う検査で、悪性腫瘍では、どの程度のレベルまで進行しているかまで診断される。また、生前の診断や治療の検証、同じ病気の方の今後の医療に役立てるために病理解剖も行っている。

## ■2018年度の特ピックス・実績

2018年度の実績を表に記す。

部門別主な項目の検査件数より2018年度の実績件数は、前年度対比114%であり、院内実施項目は年々増大している。生体検査においても超音波検査要員の教育が順調に進んでおり通常の予約、当日の緊急検査への対応も可能となっている。病理検査では免疫染色の増加が目立つ。

今期、検査科では病棟業務への参画を目指し、意識改革、病棟臨床検査技師の育成を目標にした。病棟で保管されている採血容器の在庫管理、使用期限の確認、輸血製剤の病棟までの運搬、翌日の生体検査の申し送り表作成を行い、臨床検査技師全員が何らかの形で「病棟」に関わり、看護師の業務負担軽減を試みた。



# 栄養管理科

## ■スタッフ紹介

### <直 営>

管理栄養士 7名 (NST 専門療法士 2名, 病態栄養専門管理栄養士 1名, 糖尿病療養指導士 2名)

### <委 託>

管理栄養士 3名, 栄養士 4名, 調理師 3名,  
パート調理員 13名

## ■業務内容

病院管理栄養士は栄養管理, 委託スタッフは給食管理を中心とし, 協力しあって業務にあたっている。

食数は表1に示したとおりである。一般食比率は33%, 特別食加算比率は27%となっている。

病院管理栄養士は, 栄養管理実施計画の入院時評価約30件/日・再評価約35件/日を実施し, 外来・入院患者に対しては, 個別(表2)・集団(表3)ともに幅広く実施している。

NST 活動は, 新規10件/月・継続12件/月に対してサポートを行っている。

学会は第36回日本肥満症治療学会学術集会において『当院におけるフォーミュラ食の使用状況について』・第22回日本病態栄養学会年時学術集会において『腹腔鏡下スリーブバイパス術により寛解できた高度肥満2型糖尿病の1例』について演題発表を行った。

## ■2018年度のトピックス・実績

チーム医療への参画としてNSTや糖尿病カンファレンス, 嚥下回診, 緩和ケアラウンド, 認知症ケアラウンド, 減量外科カンファレンスに参加している。

診療報酬の改定で入院時支援加算が新設され, PFM (Patient Flow Management) の体制構築する入院支援加算検討会の一員として携わり, 入院前の患者の栄養状態の把握, アレルギー食材の確認, 術後の回復遅延の予防などを目的に栄養相談・指導を開始した。

業務改善で取り組んだ『給食管理業務にかかる時間を短縮しよう』では, 以前から課題となっていた献立の整備・給食管理のシステム運用の見直しを行うことで, 訪床・ミールラウンドの時間を増やし患者対応が更に細かく行えるように目指した。

## ■今後の展望

科員のスキルアップを図りながら, 入院前より患者に介入することで, セルフケア能力を向上し退院後もより良い食生活が維持できるように相談・指導をしていきたい。

また, 訪床・ミールラウンドだけでなく, ベッドサイド栄養指導へと繋げていきたい。

表1. 食事提供実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
入院患者食	一般食	7,188	7,117	6,904	8,005	7,090	6,489	6,354	6,541	6,189	6,457	5,732	6,655	6,727
	特数非加算食	7,083	7,986	7,820	8,224	8,251	7,893	7,813	7,539	8,819	8,744	7,619	8,290	8,007
	特別加算食	6,306	5,337	5,535	5,721	5,418	4,951	4,654	5,483	5,357	5,571	5,943	5,216	5,458
入院外食	付添食	76	70	58	68	78	49	39	25	53	37	60	97	59
	その他	674	709	699	710	733	700	708	692	730	684	613	692	695
月間合計		21,327	21,219	21,016	22,728	21,570	20,082	19,568	20,280	21,148	21,493	19,967	20,950	20,946

表2. 個別栄養指導実績 (月平均)

種別	糖尿病		脂質異常症		心臓・高血圧		消化器疾患		腎疾患		肥満		その他		透析クリニック	訪床	計
	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院	外来	入院			
内訳	69	18	9	1	9	4	1	3	10	6	76	6	2	3	33	26	276
計	87		10		13		4		16		82		5				

表3. 集団栄養指導実績

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
回数(回)	6	3	5	5	6	5	5	4	5	4	5	6
参加延べ人数(名)	34	14	32	21	23	22	33	16	39	28	26	36

# リハビリテーション科

## ■スタッフ紹介

### 【理学療法士】

神谷亮平 北浦重孝

村田尚寛（12月にしんあい病院から異動）

井上健太 氏内康友 福里 環 太田彩子

鹿田麻理香 成原智子 山本恵造 佐々木宏樹

佐伯静香 野村真央 乙骨麻美 長谷川 愛

丸石善久 吉金隆裕 小宗英貴 松尾 舞

水野雄太

### 【作業療法士】

安西直人 江崎ひかる 沼田有紗

山本みな（5月に尼崎だいもつ病院に異動）

水野紀恵

### 【言語聴覚士】

加納瑞恵 廣木沙織 森重杏美 山根あや

## ■業務内容

### 1. 理学療法業務

当院の理学療法の対象は、整形外科疾患が最も多い。その他では、脳血管疾患を中心とした脳外科疾患、内科では糖尿病、慢性呼吸不全、急性心筋梗塞後、外科では術後の呼吸リハやADLの改善にも取り組んでいる。

退院に際しては、患者が円滑に日常生活を送れるよう退院時指導を行っており、引き続きリハビリテーションが必要な患者には、外来にてフォローを行っている。

### 2. 作業療法業務

入院患者では、主に脳血管疾患の急性期、上肢骨折などの整形外科疾患を中心に作業療法を実施している。また、長期臥床後の廃用症候群などについても退院に向けてのADL訓練に積極的に介入している。

外来患者では、主に手の骨折などの整形外科疾患を中心に作業療法を実施している。

### 3. 言語療法業務

言語療法は、主に内科、脳神経外科からの依頼をもとに失語症・構音障害・音声障害・嚥下障害などの言語聴覚療

法を行っている。

また、嚥下回診や、物忘れ外来、外来小児の言語発達検査等にも取り組んでいる。

### 4. 訪問リハビリテーション

訪問看護ステーションほほえみから訪問リハビリテーションを行っている。

また、当院を退院された患者で必要なケースについては訪問リハビリテーションと連携し、退院後スムーズに在宅生活を送れるように取り組んでいる。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度活動実績を表示する（表1～3）。

新病院移転後2年目となり、リハビリテーション室設備の有効活用、スタッフ数の増加により、更に充実したリハビリテーションが行えるようになった。

祝日の稼働は理学療法部門と言語療法部門のみであったが、継続したリハビリテーションが行えるよう作業療法部門においても7月より祝日の稼働を開始し、リハビリテーション科全部門において祝日の対応が行えるようになった。

学会発表も積極的に行っており、第36回日本肥満症治療学会学術集会、第30回大阪府理学療法学術大会、第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会、第22回日本心不全学会学術集会、第2回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会、第5回日本地域理学療法学術大会にて演題発表を行った。

## ■今後の展望

急性期病院のリハビリテーション科の役割として、今まで以上に早期介入、早期退院への取り組みが必要とされている。理学療法・作業療法・言語聴覚療法の3職種がチームとしての活動をより発展させ、早期退院や退院後の生活の安定に繋げていきたい。また、急性期から在宅へ幅広いニーズに対応できるように、それぞれの専門性を高め、技術の向上に努める。

表 1. リハビリテーション科活動実績

(単位:単位)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法	3,145	3,649	3,925	4,242	4,960	4,362	4,597	4,656	4,650	4,680	4,497	4,765	52,128
作業療法	1,465	1,377	1,389	1,488	1,558	1,285	1,508	1,424	1,349	1,326	1,295	1,298	16,762
言語療法	1,392	1,474	1,560	1,527	1,334	1,261	1,478	1,427	1,344	1,037	872	1,078	15,784
合計	6,002	6,500	6,874	7,257	7,852	6,908	7,583	7,507	7,343	7,043	6,664	7,141	84,674

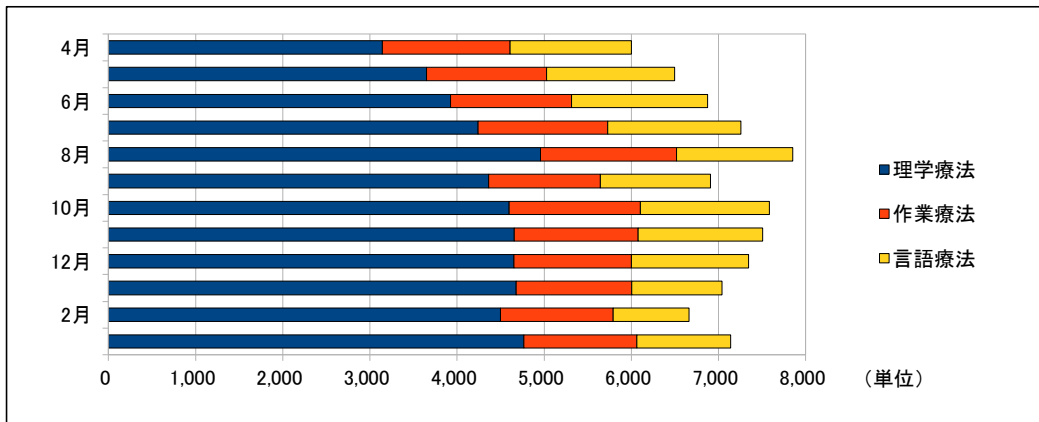


表 2. 疾患別リハビリテーション内訳

(単位:件)

	運動器	脳血管	廃用	呼吸器	心大血管
理学療法	11,865	3,981	10,620	5,180	1,521
作業療法	3,164	2,756	4,734	1,633	-
言語療法	-	2,727	6,547	-	-

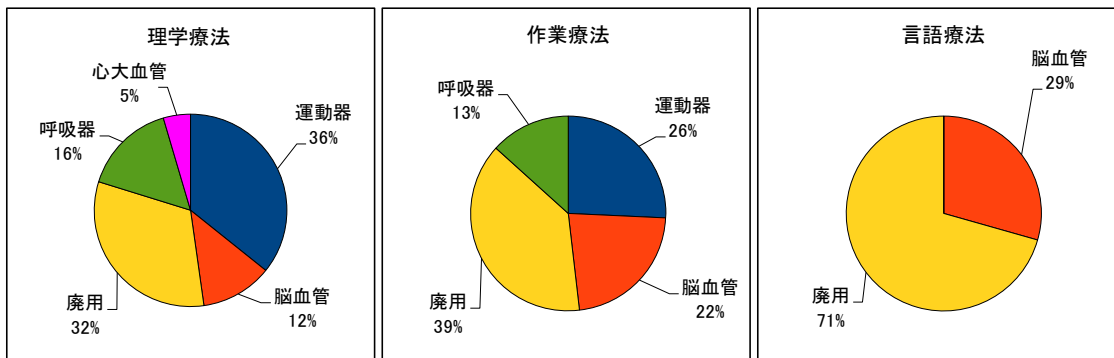
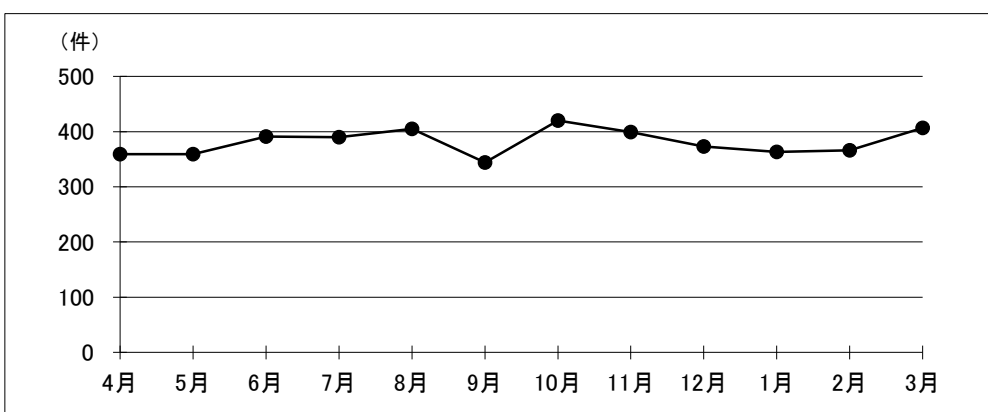


表 3. 訪問リハビリテーション活動実績

(単位:件)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
359	359	391	390	405	344	420	399	373	363	366	407	4,576



# 地域医療部 入退院支援センター

## ■スタッフ紹介

科長：大中湖月（西淀川区医師会在宅医療・介護連携相談支援コーディネーター）

主任：出路直子（患者さま相談窓口担当）

副主任：永田香織（退院支援調整担当）

西川絢子（入院支援担当）11月～産前休暇

入院支援看護師：永見洋子 平尾裕実

田中幸果 佐藤和美

退院支援調整看護師：家田真理子

## ■業務内容

・入院支援看護師は、予約入院患者（図1）に対し事務員、薬剤師、今年度より管理栄養士も加わり安全かつ安心に入院・退院が送れるよう取り組んでいる。

・退院支援調整看護師は、前年度より引き続き病棟専任退院支援員として、退院困難患者・家族の意向を踏まえて院内多職種カンファレンスをMSWと協働しながら行い、地域のサービス担当者と連携し患者支援をしている（図2）。

今年度は入院支援看護師が入院時面談の際、全例（小児・産科以外）退院困難患者スクリーニングを実施し、該当患者に対し入院支援看護師、退院支援調整看護師、MSWの3者で入院前カンファレンスを実施する体制が定着した。

・患者相談窓口は、当院に来院する患者・家族の病気に関する医学的な質問や生活上及び入院上の不安に対し、迅速できめ細やかな患者対応ができるよう取り組んでいる。そして医療事故予防対策委員会メンバーと毎週1回カンファレンスを開催し、相談内容から抽出した問題や課題を報告し検討している（図3）。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度の診療報酬で新設された「入院時支援加算」を踏まえ、上半期は多職種で入院支援検討会を定期的で開催しPFMシートの作成を行った。下半期からは算定にも繋がり入退院支援加算の増加にも繋がった（表1、図4）。

この経過を「日本医療マネジメント学会 大阪支部」で発表することができた。

## ■今後の展望

今後ますます病床機能分化が促進される中で急性期病院の入退院支援は役割拡充が必要とされる。患者が受ける医療や支援の質を担保しつつ業務の効率化も図れるように、PFMを院内更には院外多職種で取り組めるよう発信する。

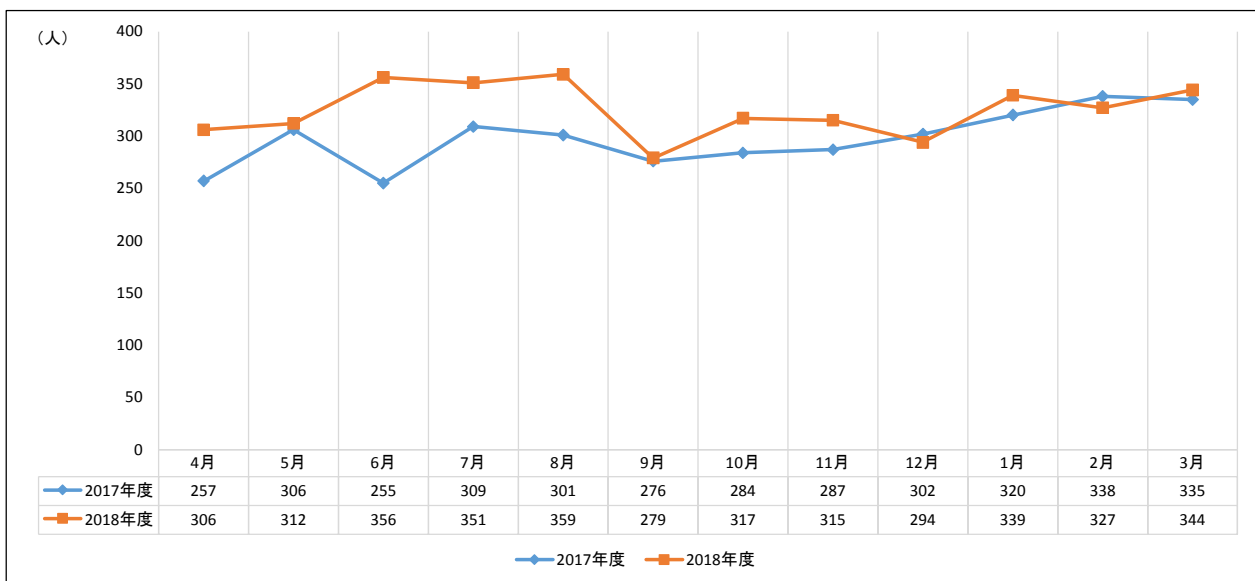


図1. 入院支援患者数の推移



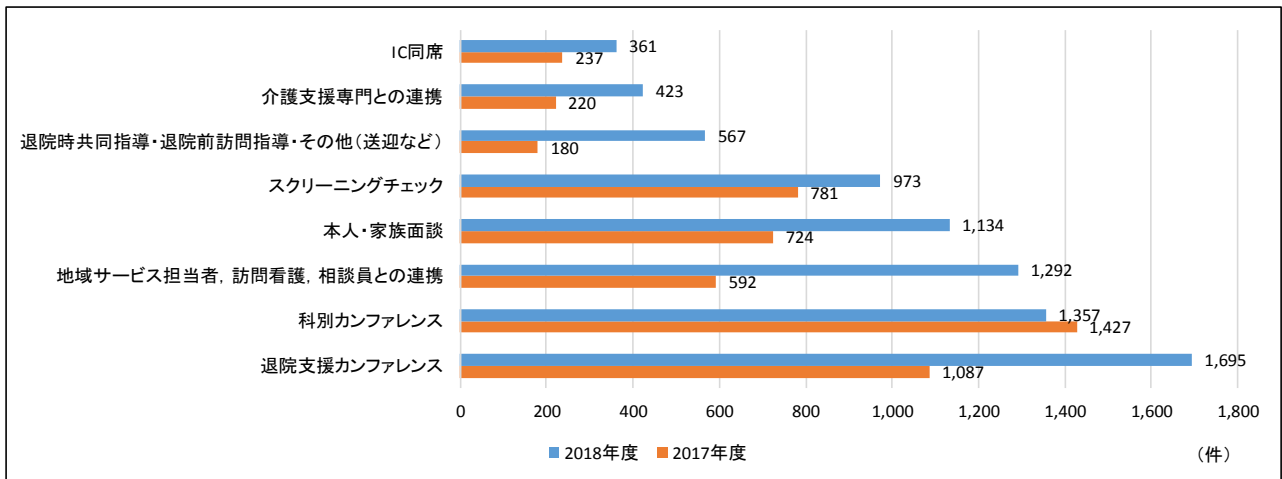


図 2. 退院調整看護師の活動状況

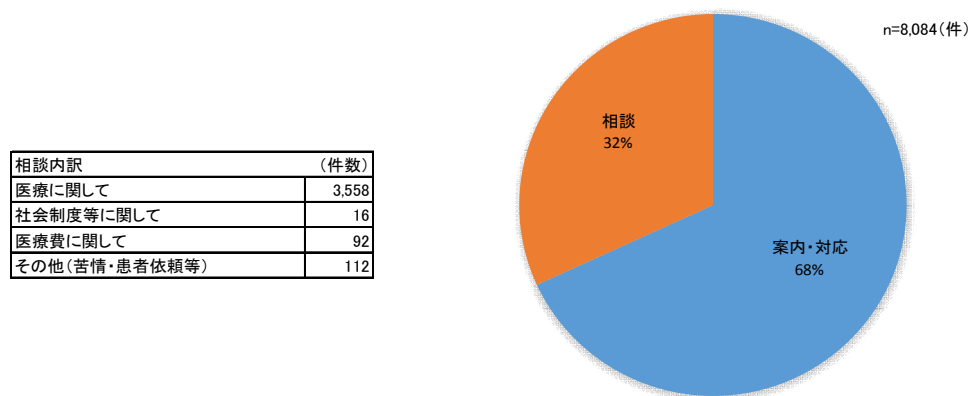


図 3. 患者相談窓口での相談と内容

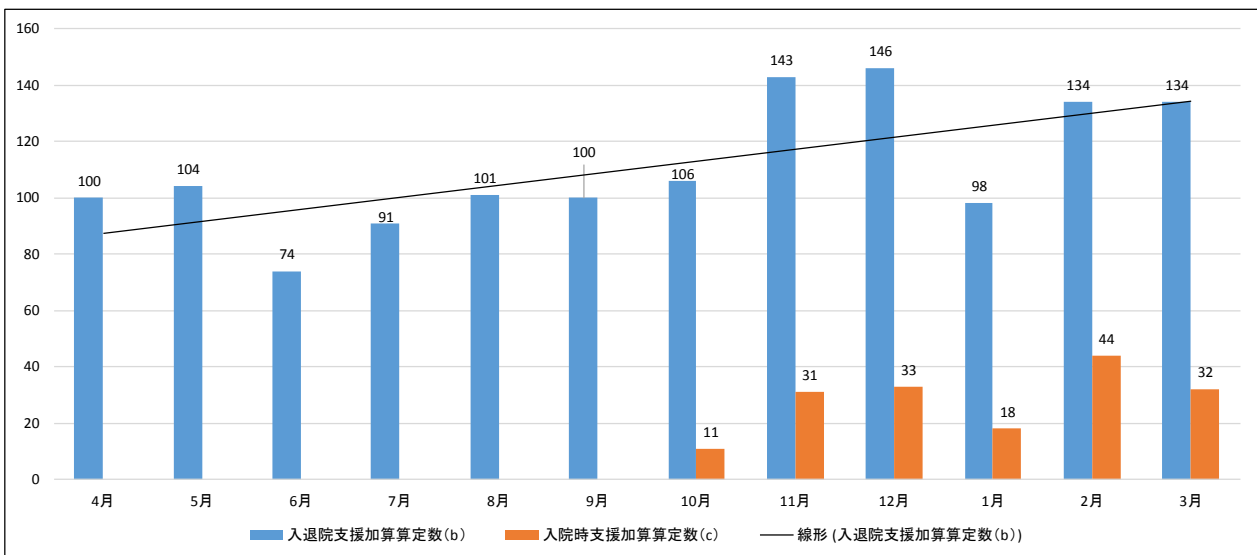


図 4. 2018 年度 入院時支援加算と入退院支援加算の算定動向

表 1. 2018 年度 総退院数からの入退院支援加算 1 の算定割合

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	全体
総退院患者数 (a)	844	858	781	909	893	839	823	805	863	761	731	863	9,970
入退院支援加算1算定数 (b)	100	104	74	91	101	100	106	143	146	98	134	134	1,331
総退院患者からの入退院支援加算1算定割合 (b÷a)	12%	12%	9%	10%	11%	12%	13%	18%	17%	13%	18%	16%	13%
入院時支援加算算定数 (c)							11	31	33	18	44	32	169
入退院支援加算1からの入院時支援加算算定割合(c÷b)							10%	22%	23%	18%	33%	24%	13%

# 地域医療科

## ■スタッフ紹介

科長 中根裕輝

副主任 田中弘治（地域担当）

科員 栗山はるみ, 森島怜子, 星野美佳, 松崎世里子  
 森坂麻未, 阪本佳奈（2018.6～）, 佐々木健輔  
 （2018.12～）, 谷口久美子（パート ～2018.12）  
 宇佐見愛（派遣）, 永井重松（救急救命士）

⑦登録医向け、患者向けの広報誌作成・配布

⑧紹介患者の緊急対応（救急、母体、新生児搬送等の救急搬送の受け入れ）

⑨千船クリニック、ユーアイ、尼崎だいもつ病院、カーム尼崎健診プラザ等の法人グループからの患者の受診・入院受け入れ相談窓口

⑩地域医療連携システム「a.i net」事務局

⑪西淀川区医師会「に～よん医療ネット協議会」事務局

## ■業務内容

地域医療科の紹介窓口では、受付・予約・患者案内など、紹介患者に係るすべての業務のほか、救急患者の転入院相談や転院搬送先の検索など緊急に対応する窓口としての役割も担っている。その他、紹介・逆紹介の推進等、地域の医師会や行政との連携窓口としても活動している。

（主な業務）

- ①紹介患者受け入れ（受付、診察・検査予約）
- ②紹介・逆紹介における問い合わせや手配（医療機関の検索、受診予約、転院受け入れ先の検索等）
- ③地域連携協議会の開催
- ④登録医への共同診療促進
- ⑤医療従事者への研修会等及び患者会の企画・開催
- ⑥紹介患者に関する活動報告、データ分析

## ■2018年度のトピックス・実績

地域担当による医療機関への訪問活動を積極的に実施した。特に医師同行による訪問を重視した活動を実施した。（2018年度：延べ訪問医療機関数 291 施設、うち医師同行による訪問医療機関数 91 施設）。

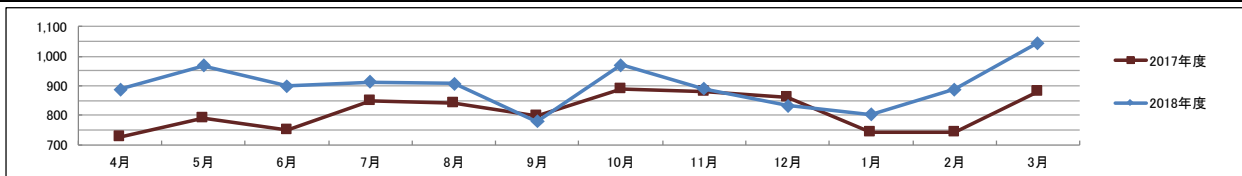
2018年度は、2019年度での地域医療支援病院の承認を目指した実績作りを目標に活動した。

## ■今後の展望

地域医療科では、紹介・逆紹介の推進、救急隊への渉外活動を通して手術症例や重症症例などを積極的に受け入れていきたい。また、2019年度での地域医療支援病院の承認へ向けて申請手続きを進めたい。

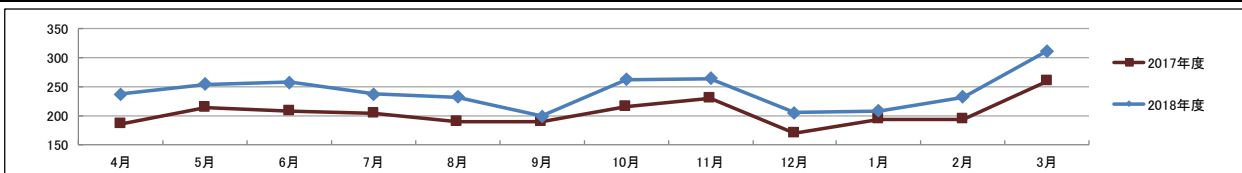
図表 1. 紹介件数

紹介件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比	月平均
2017年度	728	790	748	850	839	799	887	881	860	741	743	881	9,747		812.3
2018年度	888	968	899	913	906	778	970	890	831	803	887	1,046	10,779	110.6%	898.3



図表 2. オープン検査件数

オープン検査件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比	月平均
2017年度	185	213	208	204	190	189	216	230	170	194	194	259	2,452		204.3
2018年度	237	254	257	237	232	199	262	265	205	208	232	312	2,900	118.3%	241.7



# 医療福祉相談科

## ■スタッフ紹介

- 主任 齊藤りさ (社会福祉士・精神保健福祉士)  
 副主任 藪 青良 (社会福祉士)  
 高木快枝 (社会福祉士)  
 武本典子 (社会福祉士・精神保健福祉士)  
 原 朋子 (社会福祉士・育児休暇)

## ■業務内容

- ①心理・社会的問題を持つ患者家族に対する相談援助
- ②社会資源の収集と調整
- ③入退院支援
  - 転院調整
  - 在宅医療への調整
  - 施設入所への調整など
- ④介護保険等に関する支援全般
- ⑤自立支援医療に関する相談支援
- ⑥がん相談支援業務  
(がんに係るさまざまな相談業務)
- ⑦虐待対応
- ⑧その他院内ボランティア活動の援助

## ■2018年度のトピックス・実績

医療福祉相談科は社会福祉士の資格をもった5名のソーシャルワーカーが入退院支援センターの退院支援調整

表 1. 入院患者介入件数

	2018年度	2017年度
総介入件数	1,737件	1,483件
介入終了件数	1,638件	1,418件
次年度へ繰り越し件数	99件	65件

表 3. がん相談支援センター相談件数

	2018年度	2017年度
入院	432件	450件
外来	89件	74件

表 4. 退院支援加算

	2018年度	2017年度
退院支援加算1・600点	1,331件	892件
入院時支援加算1(10~3月)・200点	169件	
退院支援加算3・1,200点	35件	25件
地域連携診療計画加算・300点	12件	9件
介護指導連携指導料・400点	246件	146件
退院時共同指導料・400点	70件	37件
多機関共同指導加算・2,000点	23件	

看護師2名と協力し、入院のできるだけ早期から患者や家族に対して退院後のサービス調整等の早期退院に向けた支援を行っている。また、がん相談支援センターとしての相談業務や心理・社会的問題を持つ外来患者や家族への相談支援を行っている。

2017年度と比較すると、医療福祉相談科が介入した入院患者数は前年比116%増となった(表1)。また、外来での相談件数は174件と前年比121%増であった(表2)。がん相談支援センター相談件数はほぼ横ばいであった(表3)。退院支援加算においては、10月から入院時支援加算を取れる体制を整えたこともあり、前年比153%増となった(表4)。支援内容の中では特に身体障がい者手帳や更生医療、傷病手当申請等の社会保障制度に関する相談業務が、前年比193%増と大幅に増加している(表5)。

## ■今後の展望

今年度は外来患者を中心とした相談業務を強化させる体制を整えたい。さらに昨年と同様「大阪府がん診療連携拠点病院」を維持できるよう、特にがん支援を中心に相談支援センターの機能充実を図っていく。また、2019年度より新人ソーシャルワーカーが1名加わるため、定期的に勉強会を開催し、現職員とお互いに刺激しあってソーシャルワーカー個人の能力・質の向上に努めていく。

表 2. 外来患者介入件数

	2018年度	2017年度
相談件数	174件	144件

表 5. 支援内容

	2018年度	2017年度
介護保険申請補助	77件	91件
介護保険主治医意見書作成補助	898件	973件
自立支援医療意見書作成補助	15件	11件
新規ケアマネージャー等紹介	49件	47件
身体障がい者手帳申請補助	85件	31件
慢性特定疾患申請補助	5件	3件
更生医療申請補助	39件	35件
障がい年金申請補助	2件	1件
傷病手当申請補助	4件	0件
生活保護申請(行路申請含む)補助	12件	19件
成年後見申請(安心サポート含む)補助	3件	3件
新規施設等入所支援	40件	36件
退院前自宅訪問同行	11件	13件
訪問診療・訪問看護等手配	12件	11件
未受診妊婦等介入	25件	29件
小児虐待対応	7件	3件

# 保 育 科

## ■スタッフ紹介

保育士：川原みどり 森川亜希子 西川喜子  
野呂瀬幸代 横山奈緒子 大槻一葉  
藪内理恵子 坂根里奈 林美奈子  
木崎美由妃（5月より産育休）

## ■業務内容

保育科は、院内保育園「ひよっこ保育園」として、医師・看護師の子どもの24時間保育を業務としている。

保育士の人員体制は9名を基本とし、ローテーションにより夜間保育にも対応している。

0歳から就学前までの子どもたちへ充実した保育プログラムを実施し、個性を大切にしながら成長発達を促している。

家族と長時間はなれて過ごす子どもたちが「家庭的な雰囲気の中で、安心して生活する」ことができるように、安心・安全な、環境作りに配慮した保育園を目指すことを大切に、日々の保育を実践した。

## ■2018年度のトピックス・実績

新保育園に移転して2年目を迎え、次のような取り組みを行った。

①かるがも組（0, 1歳）、かもめ組（2～6歳）に分かれての保育を行い、年齢にあった保育の提供を行うことができた。

②リトミックやリズム遊びを日々の保育に積極的に取り入れ、乳幼児の身体作りを行った。年齢や特性により個人差はあるが、それぞれの子どもが楽しみながら無理なく参加することで成長が見られた。

③わらべうたや伝承遊びを日々の保育に取り入れて、ゆったりと語りかけたりスキンシップを取ったりすることで、人と関わることの心地よさを知り、安心して過ごすことができた。

④火災や地震などの災害を想定した避難訓練を月1回行い、職員が安全に子どもを避難誘導できるようにするとともに、子どもたちも避難訓練に参加することで防災意識を高めることができるように努めた。

## ■今後の展望

・大阪市の監査指導に従って、夜間保育の人員配置の見直し、整備ができるように、事務部・看護部に協力を得ながら実施していく。

・保育中の事故が全国的に取り上げられる中、安全な保育ができるように、事故防止及び事故発生時対応マニュアルを法人内の保育園共同で作成、運用できるようにする。

・新保育所保育指針に沿った子どもの自発性を尊重する保育を行うために、保育士の専門研修にも積極的に参加できるようにし、資質向上に努める。

表 1. 各月の利用状況の推移

(単位:人)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用園児数	462	429	397	411	439	372	462	487	525	459	567	611

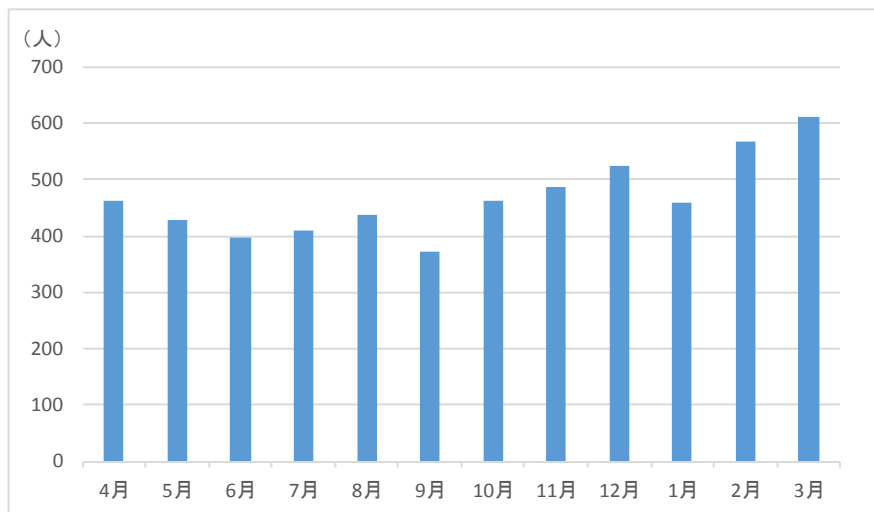


表 2. 年間行事報告

実施時期	行事概要
通年	「誕生日会」を年間通して実施(子ども一人ひとりの誕生日又は、最短前後日)
6月	個人懇談
7月 5日	保育参加 かもめ・かるがも 合同 七夕製作・感触遊び
9月 6日	保育参加 かもめ・かるがも 合同 夏祭りごっこ
10月 4日	運動会 かもめ・かるがも 合同 テーマ「探偵」
12月 15日	クリスマス会
2月 7日	保育参加・節分 (かもめ)鬼のパンツとくす玉作り (かるがも)鬼のお面作り
3月 7日	保育参加 (かもめ)春探しごっこ (かるがも)ピクニックごっこ
3月 19日	2018年度 年長児お別れ会

# 感染管理室

## ■スタッフ紹介

感染担当副院長：向井友一郎（医師）

総合内科：藤田芳正（医師）

感染管理室：高橋 文（看護師）

薬剤科：鶴崎 亮（薬剤師）他 4 名

検査科：岡本寛之（検査技師）他 1 名

## ■業務内容

- 1) 病院内の定期的な巡回
- 2) 病院感染に関する情報収集，調査，分析及び対応
- 3) 感染対策に対する教育，啓発及び情報提供
- 4) サーベイランスの実践と職員へのフィードバック
- 5) 感染対策マニュアルの作成，更新，実践に関する評価
- 6) 抗菌薬適正使用のための指導
- 7) 感染症のコンサルテーション

## ■2018 年度のトピックス・実績

### 1) AST 活動開始

ICD 藤田医師の着任に伴い，AST 活動を開始した。6 月からは特定抗菌薬の使用を届出制から許可制に変更した。

### 2) 各種会議の開催

- ①AST ラウンド：毎週水曜日 10 時～
- ②ICT 環境ラウンド：毎週木曜日 15 時～
- ③院内感染防止対策委員会：毎月第 4 木曜日 8 時～
- ④地域連携カンファレンス（井上病院，名取病院）：5 月 15 日，8 月 21 日，11 月 20 日，2 月 19 日

### ⑤感染防止対策地域連携加算 1-1 相互ラウンド

高槻病院：10 月 16 日（於高槻病院），11 月 1 日（於千船病院）

井上病院：3 月 13 日（於井上病院），3 月 20 日（於千船病院）

### 3) 法定研修（感染管理）

- ①5 月 18 日「特定抗菌薬の許可制について」「手指衛生」
- ②12 月 20 日「結核 Up To Date」「当院の抗菌薬使用状況～届出制から許可制へ～」

### 4) サーベイランス

- ①MRSA 院内発生率：0.56‰（2017 年度 0.70‰）
- ②手指消毒剤使用状況：1 日 1 患者あたり 8.5mL（2017 年度 6.0mL）
- ③広域抗菌薬，抗 MRSA 薬の使用状況（入院）  
カルバペネム 2.58%，第 4 世代セフェム 0.09%，広域ペニシリン 1.47%，ニューキノロン 2.54%，抗 MRSA 薬 0.82%

## ■今後の展望

- 1) AST 活動を充実させ，抗菌薬の適正使用と，耐性菌院内発生低減を目指す。
- 2) 手指衛生遵守率を向上させ，院内感染発生低減を目指す。
- 3) 感染制御に関する情報を積極的に発信し，職員一人ひとりが感染管理に興味を持てるようにする。
- 4) 外国人の積極的受け入れ開始準備として，インバウンド感染症対策の構築を目指す。

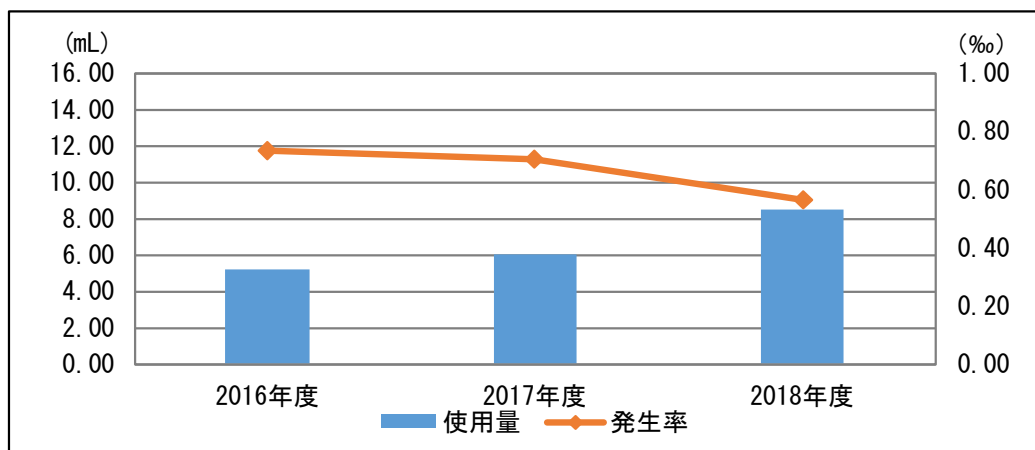


図 1. 1 日 1 患者あたり手指消毒剤使用量と MRSA 新規発生率の推移

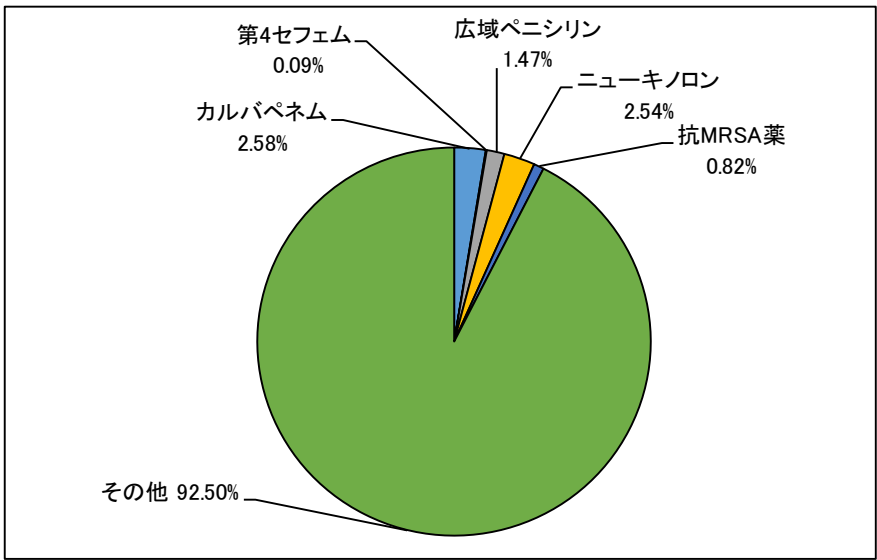


図 2. 抗菌薬使用状況

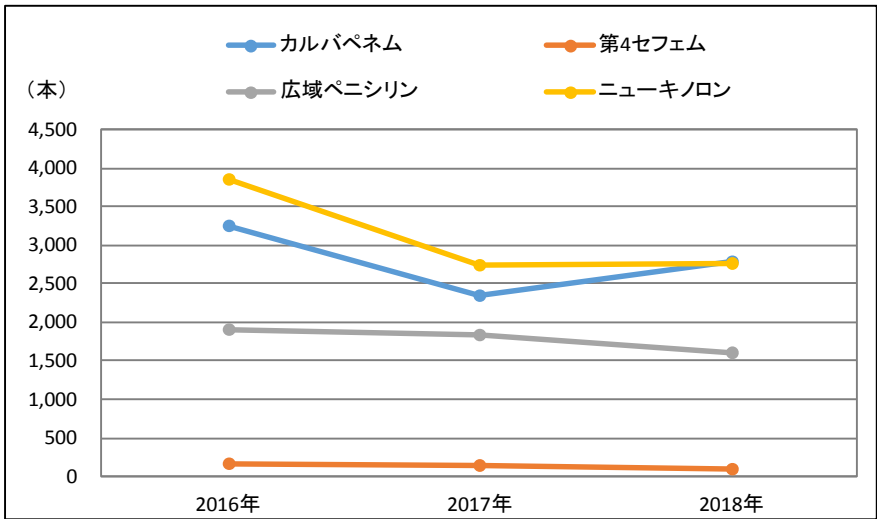


図 3. 広域抗菌薬使用量推移

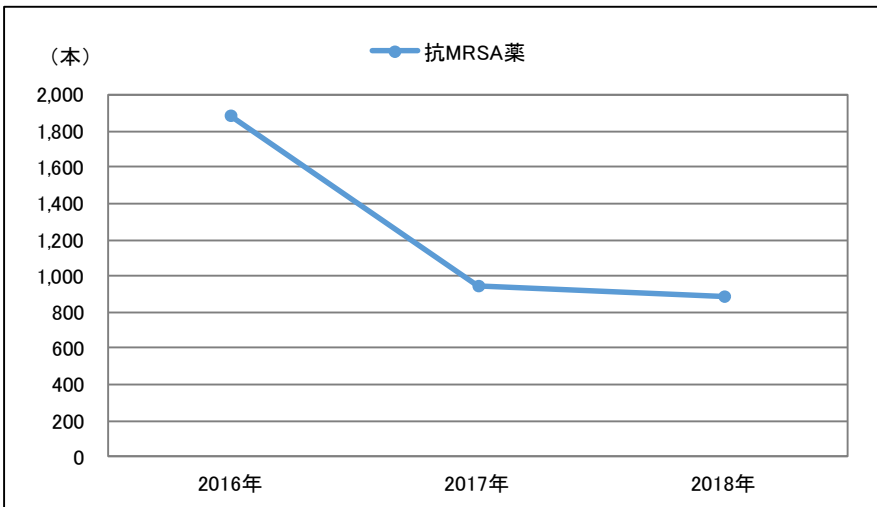


図 4. 抗MRSA薬使用量推移

# 医療安全管理室

## ■スタッフ紹介

医療安全担当センター長：岡田十三（医師）

医療安全管理室長：久保順子（看護師）

医薬品安全管理責任者：木村真策（薬剤師）

医療機器安全管理責任者：稔野益男（臨床工学技士）

## ■業務内容

### 1. 安全管理体制の構築

1) 医療事故予防対策委員会の開催 12回

2) 医療安全マニュアルの改訂

3) 看護部安全管理委員会の開催 12回

4) 医療安全ラウンドの実施 18部署

看護部：13部署 技術部：3部署 事務部：2部署

5) 医療安全地域連携ラウンドの実施：井上病院

6) 患者相談窓口との連携：苦情対応

### 2. 職員への教育・研修の実施

1) 全職員対象医療安全研修 2回

第1回：意外と知らない病院の常識 part.1

～車椅子でMRIにいてもいいの？

第2回：患者安全の全体像

名古屋大学医学部附属病院

医療の質・安全管理部 長尾能雅先生

2) 参加型医療安全研修

①医療機器研修：輸液ポンプ・シリンジポンプ・

人工呼吸器・離床センサー等

②助産師対象コミュニケーションスキル研修:SBARについて

3) 部門別医療安全研修

診療部：研修医研修（入職時・ヒアリハット報告）

看護部：ラダーレベル研修（注射技術，KYT）

事務部・技術部：入職時研修

3. 医療事故を予防するための情報収集，分析，対策立案，フィードバック，評価

1) 医療安全情報の発信

医療安全管理室からのお知らせ 12回

千船病院医療安全情報 10回

2) 事例の分析，対策立案，フィードバック，評価  
対応検討会 8事例

### 4. 医療事故への対応

インシデント・アクシデント発生時報告体制の見直し

## ■2018年度のトピックス・実績

・SBARを用いたコミュニケーションスキルの向上を目的に助産師対象に「SBAR ミニワークショップ」14回開催した。データの可視化によりSBARに対する行動変容に繋がった。

・医療安全強化月間（8月）に部・科別で安全活動を掲げ、ポスターを作成した。さらに作成したポスターと活動実績を掲示し、職員の投票にて優秀チームを決定し、表彰した。

・診療報酬改定により医療安全対策加算における医療安全対策地域連携加算が新設されたことから、病院間のコミュニケーション及び情報の共有を図り、医療事故防止の創意工夫を学ぶ目的で相互ラウンドを実施した。第三者的な視点で双方を点検することで医療安全の強化、改善に繋がった。

・患者相談窓口寄せられた意見の中で、医療安全上の問題点を抽出し、関係部署へ情報提供することで現場に応じた対策が検討できるように「患者さま相談窓口における各部署への検討依頼用紙」を作成した。関係部署と問題点を共有することができ、PDCAサイクルを視覚的に確認することができ、改善に繋がった。

## ■今後の展望

・SBARを用いたコミュニケーションスキルの向上のためのワークショップを継続して実施すること、今年度は助産師対象としたが、対象を徐々に広げていきたい。

・医療安全強化月間の取り組みは、個々の安全行動の振り返りと各部・各科におけるチームワークの強化、更に院内全体で情報を共有し刺激しあう機会となった。医療安全行動を身近に感じることで職員自身が日々意識した安全行動がとれるよう支援していきたい。

・今年度より医療安全対策地域連携が始まり、相互ラウンドの整備が十分でないため、相互ラウンドを積み重ねていくことで、効果的・効率的な相互ラウンドが実施でき、自施設の医療安全対策を強化していきたい。

・患者相談窓口寄せられた意見の中で、職員の接遇に対



する意見が多い。医療メディエーションとして職員がメディエーションマインドを獲得できるよう研修や機会教育等を取り組んでいく。

図表. 1 インシデント・アクシデント報告件数

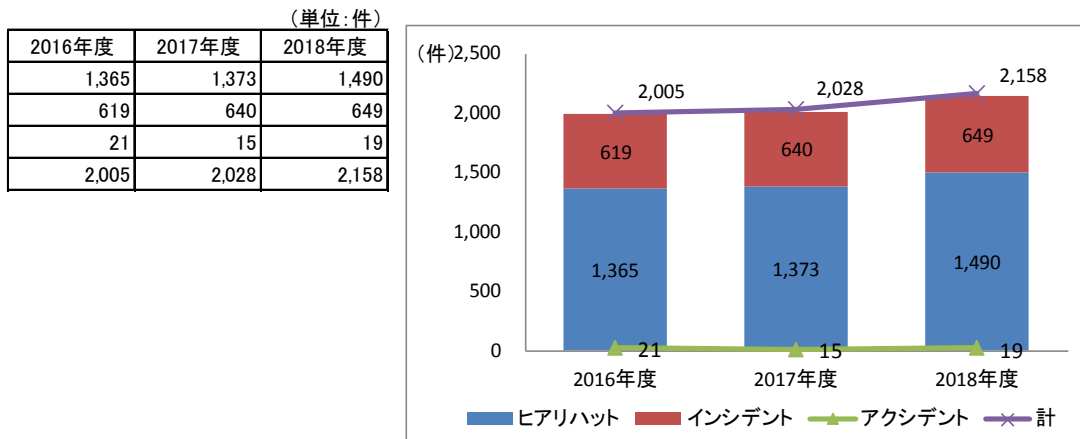


表 1. 部署別報告件数

(単位:件)

部署	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療部	21	27	26	26	22	18	28	22	17	20	12	16	255
技術部	22	19	38	35	39	15	28	37	26	28	18	20	325
看護部	118	112	176	177	140	103	125	154	131	123	106	83	1,548
事務部	74	88	165	115	85	70	97	62	35	60	51	61	963
合計	235	246	405	353	286	206	278	275	209	231	187	180	3,091

※事務部はサービスインシデント・アクシデント(SIA)報告含む

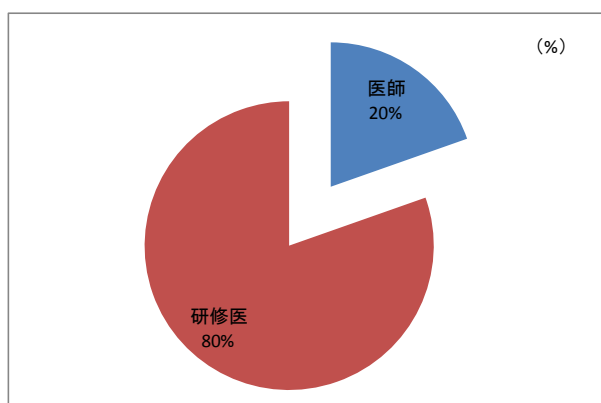


図 1. 診療部報告件数

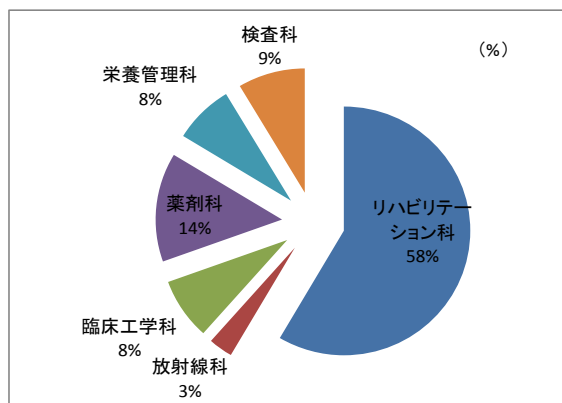


図 2. 技術部 科別報告件数

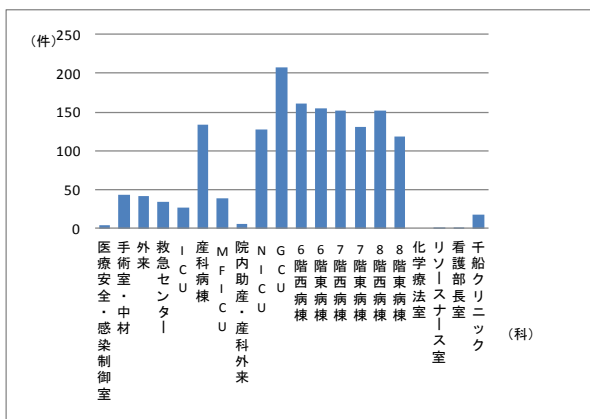


図 3. 看護部報告件数

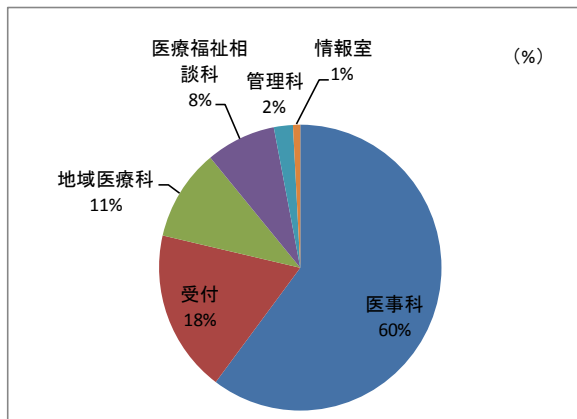


図 4. 事務部 科別報告件数

# 院内学術講演会活動報告

(期間：2018年4月～2019年3月)

開催月日	テーマ	講師	出席人数
4月12日	感染症に関するレクチャー 『感染症診療10の法則』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	13
4月20日	『重症度、医療看護必要度 ～ボーダーラインあがりました～（平成30年度版）』	千船病院：7階東病棟 科長 奈良崎由香	100
5月10日	感染症に関するレクチャー 『敗血症のガイドライン』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	15
5月18日	『特定抗菌薬の許可制について』 『手指衛生』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正 感染管理 副主任 高橋 文	354
5月24日	感染症に関するレクチャー 『結核、非結核性抗酸菌症の診察』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	14
6月14日	感染症に関するレクチャー 『アナフィラキシーショック』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	11
6月21日	『意外と知らない病院の常識』 ～車椅子でMRIに行ってもいいの？病院食の一口大って？ 嚥下回診って？～	千船病院：医療安全管理室、放射線科、 栄養管理科、嚥下回診チーム	372
6月27日	感染症に関するレクチャー 『呼吸器感染症①』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	13
6月28日	クリニカルパス大会に向けて	千船病院 診療部 副院長 船津英司 看護部 8階西病棟 科長 山田しのぶ	102
7月12日	感染症に関するレクチャー 『呼吸器感染症②』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	13
7月19日	『末梢神経障害の対策』 『千船病院の緩和ケアに関する実績報告』	千船病院：薬剤科 石田あい がん支援センター 副主任 岩本真由子	77
7月26日	感染症に関するレクチャー 『尿路感染症と性感染症』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	12
8月9日	感染症に関するレクチャー 『感染症における検査の有用性と限界』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	11
8月30日	感染症に関するレクチャー 『循環器疾患の感染症』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	12
9月13日	感染症に関するレクチャー 『髄膜炎・脳炎の診察』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	12
9月20日	『認知症診療における地域連携』	千船病院：脳卒中内科 主任部長 瀧本 裕	46
9月27日	『千船病院の褥瘡ケアの動向』 『ポジショニングについて』	千船病院：リソースナース室 皮膚・排泄ケア認定看護師 木下真由美 リハビリテーション科 副主任 氏内康友	67
10月11日	感染症に関するレクチャー 『抗菌薬総論』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	14
10月18日	『電子タバコの実害』 『ハラスメント対応の実際』	千船病院：腎臓内科 主任部長 中西昌平 愛仁会本部：人事グループ 部長 橋 宗一郎	53
10月25日	感染症に関するレクチャー 『ペニシリン系薬・アミノグリコシド薬の使用法』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	15

開催月日	テーマ	講師	出席人数
11月8日	感染症に関するレクチャー 『セフェム系薬・カルバペネム系薬の使用法』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	17
11月15日	『個人情報保護について』 『医療ガスの取扱』	千船病院：泌尿器科 副院長 樋口喜英 近畿医療設備：岩佐 氏	39
11月29日	『急性期病院が在宅医療をどう使うか？』 ～千船病院が急性期病院らしくあるために～	千船クリニック：在宅医療部門 主任部長 北 智之	58
12月13日	感染症に関するレクチャー 『マクロライド・テトラサイクリン系・ST合剤・CLDMの使用』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	17
12月20日	『結核 Up To Date』 『当院の抗菌薬使用状況～届出制から許可制へ～』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	330
12月27日	感染症に関するレクチャー 『キノロン・抗MRSA薬』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	16
1月17日	『倫理について幅広く考える』	愛仁会総合健康センター：所長 杉林 稔	48
1月24日	感染症に関するレクチャー 『皮膚軟部組織感染症』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	11
1月31日	『逆流性食道炎の外科治療について』 『当院における婦人科低侵襲手術ーロボット支援下手術ー』	千船病院：外科 医長 北濱誠一 先進医療担当 主任部長 村越 誉	69
2月8日	感染症に関するレクチャー 『インフルエンザとノロ』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	14
2月14日	『今日から実践！ 接遇心理学 ～クレーム対応・アンガーマネジメント～』	千船病院：脳卒中内科 主任部長 瀧本 裕	96
2月21日	『大腿骨近位部骨折の地域連携バスへの試み』 『大腿骨近位部骨折治療バスにおける当院でのリハビリテーション』	千船病院：診療部 整形外科 医長 養田正也 技術部 リハビリテーション科 副主任 井上健太	69
2月28日	感染症に関するレクチャー 『肝胆膵の感染症』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	16
3月8日	感染症に関するレクチャー 『薬剤耐性菌』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	16
3月12日	『患者安全の全体像』	名古屋大学医学部附属病院： 医療の質・安全管理部 教授 長尾能雅	434
3月14日	感染症に関するレクチャー 『薬剤耐性菌』	千船病院：総合内科 部長 藤田芳正	10
3月28日	『保険診療講習会～キーワードは ま・も・ル～』	千船病院：医事科 科長 清水香織 主任 大西由里子 医療秘書科 副主任 今 春美	27

# 千船クリニック（CKDセンター）

## ■スタッフ紹介

金 鐘一：日本内科学会認定医・総合内科専門医，日本透析医学会専門医・指導医，日本病院総合診療医学会専門医，千船クリニック所長

非常勤医師

神戸大学医学部附属病院腎臓内科医師他，計 4 名

## ■診療内容

透析室

- ・対象：慢性腎臓病（CKD）の初期から末期（透析患者）
- ・診察室（2 室）：主として透析未導入の慢性腎臓病
- ・透析ベッド 40 床＋隔離用個室 3 床：4 クールの血液透析治療（血液透析濾過治療を含む）
- ・看護外来：透析治療法選択時の情報提供，食事療法の食料等説明，腹膜透析治療の手指指導

## ■2018 年度のトピックス・実績

①維持透析患者（血液透析 HD 及び腹膜透析 PD）：維持透析患者数は 2018 年 3 月末で HD（含 HDF）130 名（前年 125），年間総 HD 回数 19,408 回（外来 19,719）で 7 月以降は外来患者のみになっているため，外来患者のみでの比較では前年比 1.6%減となっている。

②栄養指導：栄養科の協力で，維持透析患者のベッドサイド栄養指導を継続。

③研究報告（論文，学会・研究会報告）

・日本透析医学会 2018.6

「病院移転に伴う透析通信システム FNW+への移行～2 施設間の連携～」 中島僚太

「当院の死亡透析患者における糖尿病患者と非糖尿病患者の比較」 長澤雅世

「ABO 式血液型の違いが血液透析患者診療に与える影響」

金 鐘一

「当院シャント血管カテーテル治療の解析」 金 鐘一

・特許権：特許第 4328902 号（2009.6.26～2016.6.26）

発明の名称：オンライン型大量液置換型血液透析器

出願人・発明者：金 鐘一 権利消滅 2016.6.26

## ④対外活動

2018 年 10 月，地域かかりつけ医を対象とし，当院服部英明医師に OpeningRemarks，高橋哲也医師に講演として，それぞれのご専門分野についてご講演いただいた。

## ■今後の展望

当院の腎透析分野が診療科として独立し 15 年，附属クリニックが開業して 10 年が経過した。

2017 年の千船病院の移転に伴い運用上のデメリットは生じるが，現患者の利便性を重視して当クリニックは千船駅周辺に残ることを選択した。結果として，昨年度はクリニック開設以来最高の償却前利益を達成し，今年度も同程度の利益を確保できた。

この間の成果は，千船駅残留に伴い日々生じた諸問題を一つひとつ丁寧に解決してくれたクリニックスタッフ，また直接収益の発生しない諸々の業務を担ってくれた千船病院の多くの職員の支えがあってこそその成果である。

2018 年に名称を千船クリニックとし，在宅医療を始めることとなった。現在，利用者の需要に供給体制が追いつかない状況で，今後の成長が楽しみである。

慢性透析医療と在宅部門という患者の生活を支える医療の発展を今後も目指す。

兵の情は速を主とす

人の及ばざるに乗じて不慮の道に由り，

その戒めざる所を攻むるなりと

孫子「九地篇」

決断の早さの差が結果を変える

文責 金 鐘一

## 愛仁会地域ケアセンター

### ■スタッフ紹介

訪問診療：

医師 北 智之, 石村恵美

看護師 2名, 事務 2名, 診療アシスタント 1名

訪問看護ステーションほほえみ：

看護師 16名, 理学療法士 4名,

作業療法士 1名 (千船病院兼務),

言語聴覚士 1名 (千船病院兼務), 介護補助員 1名,

事務 3名

ケアプランセンターちぶね：介護支援専門員 8名

ケアプランセンター千船病院：介護支援専門員 2名

ヘルパーステーションちぶね：介護福祉士 6名

総合相談窓口アイ：看護師 1名

### ■業務内容

「私たちは在宅医療と介護を通じ、希望する場所で、患者さまとご家族が安心して有意義に過ごせる地域社会を目指します」という理念の下、各職種の専門性を活かし、緊密な連携を通して、家で過ごすことを望む人への包括的なサポートを行っている。

### ■2018年度のトピックス・実績

2018年7月に在宅に関連する部門が一体となって事業展開をする愛仁会地域ケアセンターが発足した。各職種の緊密かつスピード感のある連携が強みであり、法人内のみならず、近隣の多数の医療機関や介護事業所からの依頼に応じている。

### ■今後の展望

地域包括ケアシステムを構築する上で多職種の連携は必須であり、2025年問題へ重要な解決策の1つとなっている。今後ますます必要とされる分野にスピード感を持って対応していくべく体制を整えていく。特に在宅看取りは重要であり、人生の最終段階をいかに有意義に過ごしていただくかという観点を大切に、質・量ともに充実したエンドオブライフ・ケアを展開していきたい。

また、近年の大きなトピックである意思決定支援としてのACP（人生会議）を普及していく活動などを通し、行政とも協力しながら地域作りを行っていきたい。



# 介護老人保健施設 ユーアイ

〒555-0001

大阪市西淀川区佃2丁目2番58号

URL:<http://www.ajinkai.or.jp/yuai/>

## 理念

介護を必要とする高齢者が、その人らしく尊厳ある生活を実現できるよう支援します

## 施設概要

■入所者定員/100名（ショートステイ含む）

■通所者定員/50名

## 2018年度総括

今年度は、介護報酬改定で新設された超強化型老健として施設運営をすることができた。在宅復帰・在宅療養支援指標となる在宅復帰率、ベッド回転率良好で支援相談員、リハ専門職の配置割合も人員確保により超強化型基準要件を遵守できた。

入所稼働率は、インフルエンザ発症により、一時期下がったが、前半高稼働により予算目標の平均利用者数 97.8名を達成することができた。

通所リハビリは、1階機能訓練室のレイアウト変更により、リハビリ訓練をアピールすることができた。大阪府北部地震や台風21号の影響により営業できない日もあったが、平均利用者数44.6名で予算目標（43.0名）を達成することができた。

これまでも近隣住民や老人クラブ等との関係を重視し、各種活動に参加してきた。今年度は地域向けの「認知症サポーター養成講座」を3回開催し（5月、10月、3月）、地域住民、施設利用者の家族の参加があった。また、例年実施している「施設見学会」にも地域住民、家族15名の参加があり、活発な意見交換が行われた。特にリハビリテーションについて興味を示される家族が多かった。今後も継続して開催し、知名度アップを図りたい。

さらに、今年度は保育所跡地に多目的広場「ゆうゆう広場」を新設した。地域包括支援センターと協力して住民主

体の活動の場として活用スタートすることができた。具体的にはユーアイふれあい書道&サロンを開催することができた。次年度からは、毎月第4土曜日に開催することになった。

## 2018年度活動状況

- 4月 新入職員・異動者歓迎会、お花見
- 5月 認知症サポーター研修、西栄寺こころ塾
- 6月 佃幼稚園交流会、通所リハビリ遠足（ゆり園）
- 7月 全集・上半期褒賞発表会、全体学習会
- 8月 ユーアイ夏祭り、西栄寺バンド
- 9月 消防訓練、看取りについて考える会、全体学習会
- 10月 全老健全国大会、ふれあい書道&サロン、外出支援
- 11月 施設見学会、家族会、ユーアイ居酒屋、近畿ブロック老健大会、外出支援
- 12月 ゆうゆう学校、佃幼稚園クリスマス交流会、下半期褒賞発表会・忘年会、防災訓練、納会
- 1月 入所者初詣、入所者新年会、ゆうゆう学校、ふれあい書道&サロン
- 2月 豆まき、お相撲さんとのふれあい、ふれあい書道&サロン
- 3月 ユーアイ運動会、西栄寺バンド、ゆうゆう学校、ふれあい書道&サロン

## 2019年度に向けて

千船病院が新築移転したが、医療必要度が高い入所者層にとっては医療の質が高い高機能急性期病院が後方に存在することは大きな安心となっている。

千船病院ほか地域の医療機関との更なる連携強化、重度の医療、介護ケア必要者の受け入れを行う。

重度の医療ケアを必要とする利用者を受け入れるため、特定医行為研修をすすめる、修了者による施設内での喀痰吸引等（特定医行為）を利用者家族の同意を得て実施できている。今後も促進し継続する。

# 介護老人保健施設 ユーアイ

## ■スタッフ紹介

医師 1 名, 看護・介護職員 63.6 名, 施設ケアマネ 2 名, 理学・作業・言語療法士 9 名, 薬剤師 1 名, 管理栄養士 1 名, 支援相談員 3 名, 事務職員等 6.5 名であった。

## ■2018 年度のトピックス・実績

今年度は介護報酬改定で新設された超強化型で 1 年間継続して施設運営することができた。利用者獲得競争が激化する中, 千船病院ほか地域の医療機関より, 重度の医療, 介護ケア必要者を積極的に受け入れることができた。利用者の在宅復帰支援推進のため, 全国老人保健施設協会の R4 システムに相当する共有ケアプランを運用し, フロアスタッフもネットワーク上で入力を担当している。

計画的な在宅復帰支援を行いながら入所利用者確保を図った結果, 平均利用者数が 97.8 名と前年の 96.1 名から 1.7 名増となった。平均介護度は, 入所 3.56 (前年 3.51), 短期入所 3.28 (前年 3.39) であり, 重介護者のレスパイト目的での利用が多くあり在宅支援を果たしている。特養への退所者は 9 名 (前年 21 名) であり, 死亡者が 9 名 (前年 10 名) であった。

重度の医療ケアを必要とする利用者を受け入れるため, 特定医行為研修をすすめ, 修了者による施設内での喀痰吸引等 (特定医行為) の実施を利用者家族の同意を得て実施できている。

セラピストによる退所前後訪問を実施することで, 入所者が在宅復帰する際の問題点を明らかにし, 在宅生活が継続できるよう指導・助言を行った。在宅復帰には欠かせない活動であり, 今後も継続する。また, ターミナル期の利用者の受け入れを, ターミナルケア委員会を中心に利用者, 家族と向き合った活動を行った。ターミナルを迎えた利用者には, より自然な最期をその家族とともに過ごしていただ

き, 家族からは感謝されている。また, 年 1 回ではあるが, 今年度も利用者を偲ぶ家族会を開催することができた。

通所リハビリテーション部門では, 新規利用者が 68 名 (前年 61 名) で, うちケアプランセンターちぶね・ケアプランセンター千船病院からの紹介は 25 名であった。年度末時点での登録者は 141 名であった。延べ利用者数は 13,741 名で前年比 104.9%, 1 日平均利用者数 44.6 名で前年比 104.9% (+2.1 名) としたが, 収入については, 介護報酬改定による基本単価削減により前年比 100.0% となった。

これまでも近隣住民や老人クラブ等との関係を重視し, 各種活動に参加してきた。今年度は地域向けの「認知症サポーター養成講座」を 3 回開催し (5 月, 10 月, 3 月), 地域住民, 施設利用者の家族の参加があった。また, 例年実施している「施設見学会」にも地域住民, 家族 15 名の参加があり, 活発な意見交換が行われた。特にリハビリテーションについて興味を示される家族が多かった。今後も継続して開催し, 知名度アップを図りたい。さらに, 今年度は保育所跡地に多目的広場「ゆうゆう広場」を新設した。地域包括支援センターと協力して住民主体の活動の場として活用スタートすることができた。具体的にはユーアイふれあい書道&サロンを開催することができた。次年度からは, 毎月第 4 土曜日に開催することになった。

## ■今後の展望

千船病院はじめ近隣の病院, 介護施設, 訪問診療, 千船在宅サービスセンターなどの医療, 介護事業者との連携強化, リハビリ機能の充実, 認知症サポーター講習会などの活動を通じての地域交流の深化などを推進し, 入所者, 通所リハビリ利用者の獲得を進め, 超強化型を維持していく。

## ユーアイデイサービスセンターなごみ

### ■スタッフ紹介

管理者兼介護職員 1 名，看護師 1 名，介護職員 7.3 名，  
事務職員 1 名，生活相談員 1 名

### ■業務内容

年間の延べ利用者数 8,198 名（前年比 97.6%，以下同じ），  
1 日平均利用者数 26.6 名（98.2%），平均単価 9,115 円  
（101%），収入は 74,727 千円（98.5%）であった。

契約者数は 32 名（168%）と好調であったが，入院・  
入所や体調不良によるキャンセルがあり伸び悩み，前年度  
とほぼ変わりのない数値となった。契約者 32 名の内訳は  
ケアプランセンターちぶねは 10 名，ケアプランセンター  
千船病院は 3 名，愛仁会以外は 19 名であった。

### ■今後の展望

来期からは，利用者の日常生活動作の維持向上を目指し  
た個別サービスを実施していくことで，満足度の向上を図  
っていきたい。また，更なる営業活動を行うことにより，  
新規利用者の獲得を目指す。





# カーム尼崎 健診プラザ

〒531-0072

尼崎市御園町54番地 カーム尼崎2階

URL:[http://www.aijinkai.or.jp/calm\\_amagasaki/](http://www.aijinkai.or.jp/calm_amagasaki/)

## 理念・基本方針

<理念>

私たちは皆さまの健康づくりをサポートします

<基本方針>

1. 精度の高い健診を提供する。
2. 検査結果の十分な説明と指導を行う。
3. 受診者の権利を尊重し、個人情報を保護する。
4. 快適な受診環境を提供する。

## 施設概要

- ・ 日本人間ドック学会人間ドック健診施設機能評価認定施設
- ・ 労災保険二次健康診断等給付認定診療所
- ・ マンモグラフィ健診施設認定

## 2018 年度総括

施設内健診は利用者及び一人あたりの単価増加に向け、人間ドック大口顧客との契約を進めた。また、午後健診の実施・オプション検査利用奨励・特定保健指導の実施率向上への活動を実施した。出張健診は尼崎市住民健診において昨年受託できなかった4月～6月の健診再受託及び1月～3月に今回初めて健診を行い、受診者増加活動を実施した。その結果、利用者数は26,675人（前年比123.2%）、総収入は444,649千円（前年比117.2%）と増加した。

## 2018 年度活動状況

- 4月 健康だより発刊
- 6月 感染対策委員会「感染防止研修」、健康センター・カーム尼崎合同倫理研修会

- 7月 健康だより発刊、安全管理委員会「急変時対応訓練」、自衛消防訓練
- 8月 第59回日本人間ドック学会学術大会参加
- 9月 平成30年度上半期カーム尼崎健診プラザ業務改善活動成果発表会、健康センター・カーム尼崎合同倫理研修会、安全管理委員会「安全管理研修会」
- 10月 健康だより発刊、ジャパン・マンモグラフィ・サウンダー参加（受診者45人）、日本精神病理学会第41回大会参加
- 11月 自衛消防訓練
- 12月 企業懇談会、健康センター・カーム尼崎合同忘年会、感染対策委員会「感染防止研修」、品質管理委員会「事例検討研修」、健康センター・カーム尼崎合同倫理研修会
- 1月 健康だより発刊、ISO9001勉強会2回
- 2月 ISO9001勉強会2回、安全管理委員会「劇薬・薬品管理研修会」
- 3月 ISO9001勉強会、平成30年度下半期カーム尼崎健診プラザ業務改善活動成果発表会、運営諮問委員会「年間活動報告会」3回、健康センター・カーム尼崎合同倫理研修会

## 2019 年度に向けて

施設内健診は更なる施設利用者獲得に向け、協会けんぽ事業所を対象に営業活動を強化していく。出張健診は尼崎市住民健診を継続受託し、1出張健診ごとの利用者数の増加を目指し、実施時期や回数の調整を行っていく。施設全体として、健康センターとの協働による無駄の削減など固定費削減対策を徹底し、収益確保に努めたい。

# カーム尼崎健診プラザ

## ■スタッフ紹介

	医師 1 名
健診科	看護師 10 名 (パート 9 名を含む)
	臨床検査技師 4 名 (パート 1 名を含む)
	診療放射線技師 10 名 (パート 7 名を含む)
	保健師 6 名
情報科	事務員 10 名 (パート 5 名を含む)
管理科	事務員 2 名

## ■2018 年度のトピックス・実績

施設内健診に於いて、2018 年 9 月に 800 名を超える大口企業健診の契約を結ぶことができ、人間ドックの実績が大幅にアップした。

出張健診では、前年実施できなかった 4~6 月の実施及び 1~3 月の新たな実施ができ、実績が上がった。

また、第 3 期特定保健指導に速やかに対応した結果、実施人数が 50%アップとなり増収に貢献した。

## ■業務内容

当施設は阪神尼崎駅すぐの好立地に男女別で受診可能な健康診断専門施設として開設し、5 年を迎えた。千船病院からの既存顧客に加え、人間ドックや尼崎市・伊丹市住民健診、近隣の企業健診を積極的に実施している。

## ■今後の展望

施設内健診は更なる施設利用者獲得に向け、協会けんぽ事業所を対象に営業活動を強化していく。出張健診は尼崎市住民健診を継続受託し、1 出張健診ごとの利用者数の増加を目指し、実施時期や回数の調整を行っていく。施設全体として、健康センターとの協働による無駄の削減など固定費削減対策を徹底し、収益確保に努めたい。

表. 健診種類別実績

		年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	前年比	
施設内	人間ドック	2018	人数(人)	73	168	174	212	251	226	450	460	450	211	225	235	3,135	132.1%
		収入(千円)	4,598	8,640	9,004	10,952	11,634	10,778	19,768	20,223	20,349	11,299	10,672	12,182	150,099	120.6%	
		2017	人数(人)	71	158	223	234	189	264	276	266	180	148	213	151	2,373	102.6%
		収入(千円)	4,305	8,179	12,150	12,538	10,308	12,956	13,891	13,251	9,415	8,113	10,851	8,537	124,494	105.2%	
	一般健診	2018	人数(人)	681	793	853	948	916	846	1,046	1,298	902	720	774	853	10,630	107.1%
		収入(千円)	9,706	12,856	12,853	14,086	12,690	12,852	13,731	15,801	12,222	10,411	12,263	11,109	150,580	109.9%	
		2017	人数(人)	621	703	887	872	905	815	1,171	1,288	678	660	669	652	9,921	112.2%
		収入(千円)	8,519	10,612	13,534	11,989	12,790	12,558	15,392	14,608	9,935	9,549	9,125	8,390	137,001	111.3%	
	協会けんぽ健診	2018	人数(人)	234	370	459	457	278	212	288	252	167	184	241	290	3,432	107.8%
		収入(千円)	5,266	8,061	9,999	9,643	5,863	4,316	5,849	5,527	3,589	3,647	5,003	6,337	73,100	105.6%	
		2017	人数(人)	276	322	390	461	240	167	293	271	174	165	224	202	3,185	120.9%
		収入(千円)	6,089	7,335	8,297	9,845	5,380	3,745	6,043	6,075	3,613	3,846	4,806	4,134	69,208	121.7%	
特定健診	2018	人数(人)	11	54	42	51	46	39	72	73	67	79	96	143	773	100.8%	
	収入(千円)	191	866	632	817	640	621	1,193	1,080	1,101	1,239	1,438	2,046	11,864	104.4%		
	2017	人数(人)	31	43	63	44	52	59	77	74	69	53	85	117	767	102.7%	
	収入(千円)	374	666	906	747	852	887	1,047	1,193	1,005	866	1,237	1,583	11,363	102.2%		
特定保健指導	2018	人数(人)	41	59	54	75	29	46	68	46	31	41	68	72	630	151.8%	
	収入(千円)	535	786	656	1,045	688	742	1,075	813	593	681	920	955	9,489	162.0%		
	2017	人数(人)	26	50	34	50	38	20	30	33	31	33	34	36	415	167.3%	
	収入(千円)	340	569	385	565	513	339	578	456	442	629	491	552	5,859	151.2%		
出張健診	2018	人数(人)	983	1,058	1,677	629	1,281	459	418	656	322	259	244	73	8,059	161.5%	
	収入(千円)	5,872	6,097	9,139	4,194	8,485	2,822	2,513	3,841	2,081	1,552	1,488	1,188	49,272	157.7%		
	2017	人数(人)	0	0	0	1,184	1,228	828	292	1,015	444	0	0	0	4,991	54.4%	
	収入(千円)	84	32	32	8,649	7,770	4,537	1,649	5,667	2,726	32	32	32	31,242	58.6%		
二次検査	2018	人数(人)	1	2	3	4	1	0	0	3	0	2	0	0	16	200.0%	
	収入(千円)	17	34	67	53	1	0	0	49	0	24	0	0	245	170.0%		
	2017	人数(人)	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	1	2	8	10.8%	
	収入(千円)	0	0	17	20	0	0	17	29	6	0	11	44	144	13.7%		
合計	2018	人数(人)	2,024	2,504	3,262	2,376	2,802	1,828	2,342	2,788	1,939	1,496	1,648	1,666	26,675	123.2%	
	収入(千円)	26,185	37,340	42,350	40,790	40,001	32,131	44,129	47,334	39,935	28,853	31,784	33,817	444,649	117.2%		
	2017	人数(人)	1,025	1,276	1,598	2,846	2,652	2,153	2,140	2,948	1,577	1,059	1,226	1,160	21,660	90.1%	
	収入(千円)	19,711	27,393	35,321	44,353	37,613	35,022	38,617	41,279	27,142	23,035	26,553	23,272	379,311	103.2%		



# 介護付有料老人ホーム スローライフ おかじま

〒551-0021

大阪市大正区南恩加島5丁目4番5号

URL:[http://www.ajinkai.or.jp/slowlife\\_okajima/](http://www.ajinkai.or.jp/slowlife_okajima/)

## 理念

「地域に必要とされる介護サービスを提供し、貢献します」  
大阪市内という利便性に富んだ地でありながら、海を身近に感じる豊かな環境。そして、確かな運営理念と充実した看護・介護体制のもとで送るゆとりとやすらぎに満ちた暮らしを提供する。

また、併設するデイサービスセンター、ケアプランセンター、ヘルパーステーションでも家庭的できめ細やかなケアに努めていく。

## 2018年度総括

2018年4月期首には入居者数は54名であった。新入居者11名、退去者は死亡・転居を含めて8名であった。看取りは1人もなかった。2018年度平均入居者数は52.7名（前年度56.7名）であった。入居者の平均年齢も87.8歳と高齢で年間入院延数1,010名、年度1日平均2.8名が入院されていたことになる。施設で2名がお亡くなりになった。死亡原因は老衰である。

2016年4月からショートステイの受け入れを行った。2018年はショート利用者が423名（前年度488名）あり、3名（前年度3名）が入居に繋がった。

2018年度も介護福祉士による喀痰吸引等の研修を1名受講し、資格取得者は合計8名（うち1名ヘルパーステーション）となった。

## 2018年度活動状況

4月 期首全集、お花見

- 5月 消防訓練、ホテル鑑賞会、春の遠足（くらしの今昔館、関西テレビ見学）
- 6月 スローライフ運営懇談会、外食
- 7月 賞与全集・上半期褒賞
- 8月 花火大会
- 9月 スローライフ秋祭り（まぐろの解体）
- 10月 秋の外食（回転寿司）
- 11月 消防訓練
- 12月 下半期褒賞・忘年会、クリスマス会、南恩キャンドルナイト会（外出）
- 1月 年始全集、初詣、書初め、鏡開き（ぜんざい）
- 2月 節分（豆まき）、バレンタイン（チョコレートフォンデュ）
- 3月 ひな祭り、屋台寿司

## 2019年度に向けて

有料老人ホームは新規入居の紹介元は口コミが多いこともあり、入居者及び家族の満足度向上のため2018年度も引き続き外出（外食）の機会を増やし、行事・レクリエーション等の充実を図る。24時間看護師常駐体制のため、医療度の高い入居者も増加し、施設での看取りの希望も多くなってきた。胃ろう等医行為受講修了者は8名となり、今後は介護職員の喀痰吸引等も家族・入居者の理解・同意の下実施したい。入居者状況、空床があれば体験利用できるよう事業所全体で情報を共有し、常に待機者を確保し入居者の安定を図りたい。デイサービスは各事業所と連携強化し、新規利用者獲得を図る。

# 介護付有料老人ホーム スローライフおかじま

## ■スタッフ紹介

- ・有料老人ホーム  
管理者 1 名, 看護師 7 名, 介護福祉士 19 名  
介護員 8 名, 生活相談員 1 名, ケアマネジャー 1 名  
理学療法士 1 名, 事務員 4 名
- ・デイサービスセンターおかじま  
生活相談員 2 名, 介護福祉士 3 名, 介護員 1 名  
看護師 2 名, ドライバー 3 名, 事務員 1 名
- ・ケアプランセンターおかじま  
主任ケアマネジャー 2 名, ケアマネジャー 1 名
- ・ヘルパーステーション  
介護福祉士 2 名, 介護員 1 名, 登録ヘルパー 8 名

## ■業務内容

- ・有料老人ホーム（特定施設）  
入居定員：60 名  
介護給付算定に係る体制等状況：  
個別機能訓練体制加算，夜間看護体制加算，看取り介護加算，サービス提供体制強化加算
- ・デイサービスセンターおかじま（通所介護）  
利用定員：30 名  
介護給付算定に係る体制等状況：  
入浴介助サービス提供体制加算，個別機能訓練体制加算  
I・II.  
サービス提供時間：月～土曜日，8：30～17：00
- ・ケアプランセンターおかじま  
介護給付算定に係る体制等状況：特定事業所加算Ⅲ  
サービス提供時間：月～土曜日，8：30～17：00
- ・ヘルパーステーション  
身体介護，生活援助，自費サービス  
サービス提供時間：月～土曜日，8：00～18：00

## ■2018 年度のトピックス・実績

### 【有料老人ホーム】

2016 年 4 月よりショートステイを開始。近隣の居宅支援事業所を訪問し，地域のケアマネへの周知活動の結果，ショートステイ利用が 8 名おり，そのうち 3 名が入居に繋がった。

新入居者 11 名，退去者は死亡・転居を含めて 8 名と，入居数が退去数を上回り，2019 年 3 月末には 57 名となる。2018 年度平均入居者数は 52.7 名（前年度 55.4 名）であった。死亡者数 4 名のうち 2 名が施設で 2 名が病院であった。死亡原因は老衰であった。

### 【デイサービス】

2018 年 4 月，地域密着型通所介護から利用者定員を 30 名の通常規模とした。機能訓練指導員（作業療法士）1 名と看護師 2 名体制の強みを活かし，機能訓練プログラムの充実を図り利用者獲得に向けて取り組んだ。その結果，延べ利用者数 7,553 名となり前年度対比 170%。2018 年は 4 月通所リハビリからの新規，介護 29 件予防 12 件，その後新規 18 件解約 45 件で要介護者の解約（施設入所・入院）があり，新規は要支援が多かった。

### 【ケアプランセンター】

主任ケアマネ 2 名を含む 3 名のケアマネを配置。特定事業所加算Ⅲを算定している。2018 年度の新規ケース獲得数は，介護 17 名，予防 16 名で前年度を下回った。原因としては，ケアマネ 1 名の平均が 38～39 名で推移したことで，積極的な新規利用者の受け入れができなかったことである。前年度から引き続き，介護の利用者より支援の利用者の方が多い状態が続いており，年度末時点で要介護者が 68 名，要支援者が 85 名となっている。

### 【ヘルパーステーション】

2017 年夏の近隣訪問介護事業所閉鎖に伴い，その職員 2 名を当方で登録ヘルパーとして受け入れ，その結果，訪問介護の実績が昨年度より増加した。2018 年 4 月の利用者登録数は 41 名，1 か月延べ人数 412 名。2019 年 3 月登録数は 37 名，1 か月延べ人数 499 名で過去最高となった。有料老人ホームの自費サービスが毎月 8～18 万円（月平均 10 万円）ある。

## ■今後の展望

有料老人ホームは，病院が隣接，24 時間看護師・介護士常駐を強みとしてきた。2018 年 3 月末に隣接するおかじま病院が閉院した。2013 年 1 月の事業譲渡時もしばらく見学者が来ない状況があった。これまで新規入居の紹介先は口コミが多く，入居者及び家族の満足度向上のため，

特に外出（外食）の機会を増やし、行事・レクリエーション等の充実を図るようにしてきた。おかじま病院閉院後、千船クリニックから訪問診療が開始となった。訪問診療によりこれまで以上に安心感があることを刷新したパンフレットを持参し、広報・営業活動を行う。入居者状況・空床があれば体験利用できるように事業所全体で情報を共有し、ショート利用から入居へと繋げるように地域のケアマネに営業展開する。満床状態を目指し入居者の安定確保を図りたい。

デイサービスは病院閉院時、通所リハの利用者をデイサービスに移行し4月から定員30名とした。18名のデイから30名としたことで、送迎・入浴・食事・リハビリはもちろんのこと、契約書・介護計画書・リハ計画書等々の作成にも職員は奮闘した。デイサービスは1日平均利用者28名を目標とするとしていたが、平均利用者24.6名にとどまった。今後利用者を維持していくには、各事業所と連携を強化し、新規利用者獲得を図る。曜日による登録者数

の偏りがあるため利用者の均一化を図る。デイサービスから有料老人ホームのショート利用へ繋げ、入居へと流れを作る。

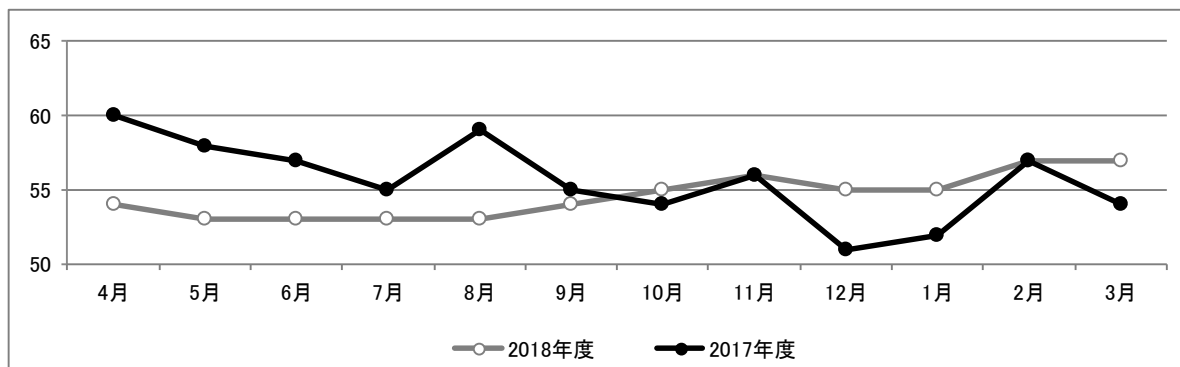
ケアプランセンターは昨年度に引き続き、地域の医療機関や介護保険事業所、地域包括支援センターとの関わりを大事にして関係性の強化を図ることで、新規の相談を少しでも多く貰い新規利用者の獲得に努める。要介護より要支援の利用者の方が多い状態が続いているため、できる限り要介護の利用者を中心に獲得していくようにする。新規の利用者については、自事業所のサービス利用に繋げることで、事業所全体のプラスになるように取り組んでいく。

ヘルパーステーションは、事業所内での情報共有の徹底を図り新規獲得に繋げる。事例を通してケアの質の向上を図りサービス提供責任者の育成をする。限られた人材の効果的活用を行う。今後は新規利用者獲得のため、営業活動を強化する。

図表1. 有料老人ホーム入居者数

(単位:名)

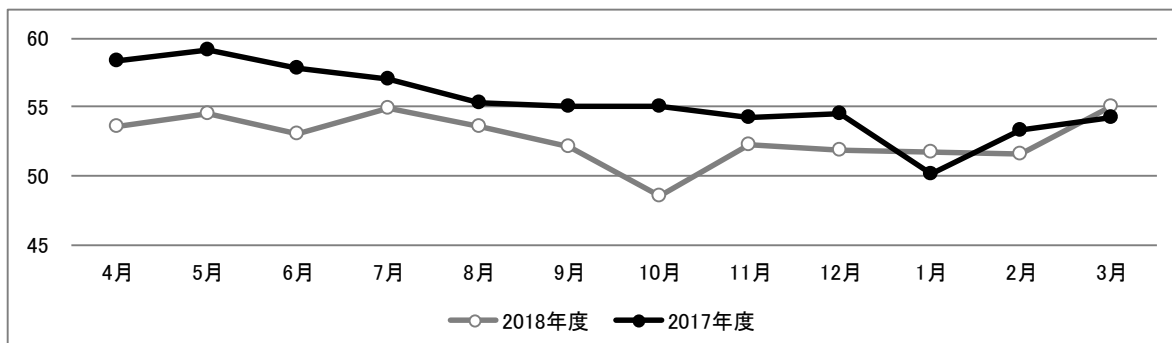
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年度	60	58	57	55	59	55	54	56	51	52	57	54
2018年度	54	53	53	53	53	54	55	56	55	55	57	57



図表 2. 有料老人ホーム平均利用者数

(単位:名)

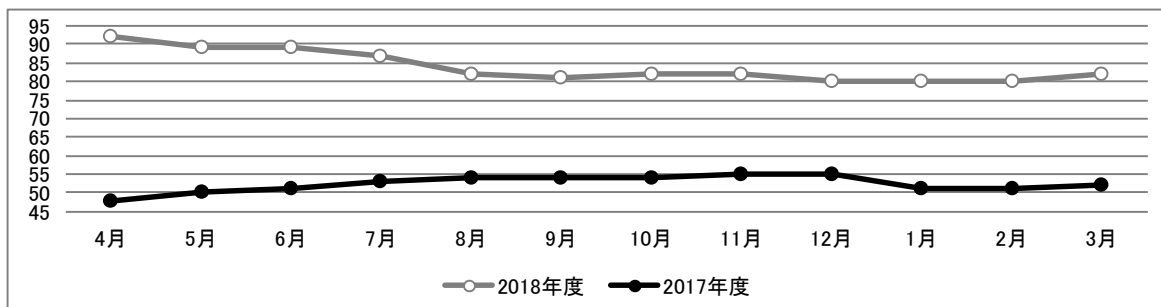
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年度	58.4	59.1	57.8	57.1	55.3	55.0	55.0	54.3	54.5	50.1	53.3	54.3
2018年度	53.6	54.5	53.0	54.9	53.6	52.1	48.5	52.3	51.8	51.7	51.6	55.0



図表 3. デイサービス利用実人数

(単位:名)

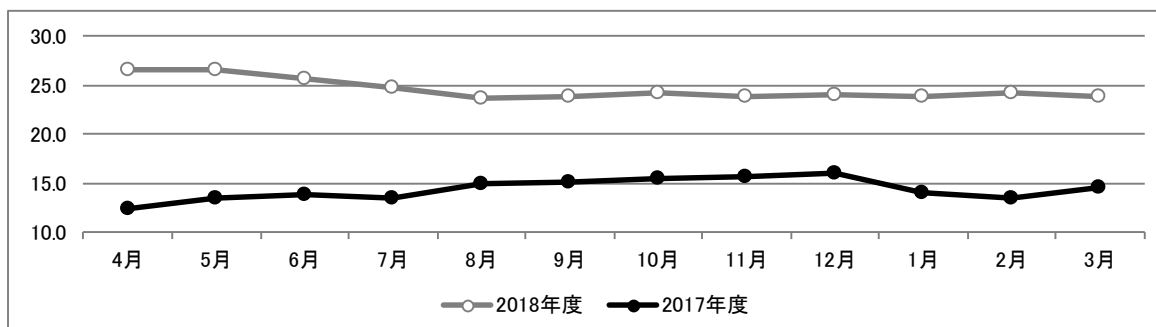
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年度	48	50	51	53	54	54	54	55	55	51	51	52
2018年度	92	89	89	87	82	81	82	82	80	80	80	82



図表 4. デイサービス平均利用者数

(単位:名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2017年度	12.4	13.5	13.8	13.5	14.9	15.1	15.4	15.7	16.1	14.1	13.5	14.5
2018年度	26.6	26.5	25.7	24.8	23.6	23.8	24.3	23.8	24.0	23.9	24.3	23.9





# 尼崎 だいもつ病院

〒660-0828

尼崎市東大物町1丁目1番1号

URL:<https://amagasaki-daimotsu.aijinkai.or.jp/>

## 理念・基本方針

### <理念>

住み慣れた地でいつまでも自分らしく生き活きと

### <基本方針>

- ・私たちは、患者さま・利用者さまに安全で質の高い医療、介護、サービスを提供します。
- ・私たちは、患者さま・利用者さまと情報の共有をはかり、患者さま・利用者さまが納得される医療、介護、サービスを提供します。
- ・私たちは、患者さま・利用者さまにふさわしい尊厳ある生活が過ごせるよう、プライバシーや人権を尊重した医療、介護、サービスに努めます。
- ・私たちは、患者さま・利用者さまが住み慣れた地域の中で切れ目のない医療、介護、サービスが受けられるよう努めます。
- ・私たちは、専門職としての誇りを持ち、自己研鑽に励み医療、介護、サービスの向上に努めます。

## 施設概要

- 病床数/199床
- 診療科目/9科
- 病院機能/回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、障がい者病棟

## 2018年度総括

新しい取り組みとしては、2018年4月から6階病棟30床を回復期病棟としてオープンした。その後12月に回復期リハビリテーション病棟1の施設基準を届け、人員の確

保を重点的に実施し、2019年4月から6階病棟をフルオープンできる体制が整った。心臓リハビリテーションの立ち上げに関して、全国各地の心臓リハビリテーション実施施設を見学し、知見を集め当院に相応しい体制が完成し、2019年1月から運用を開始した。既存病棟に関しては、高い稼働率をキープし施設基準も遵守できた。リハビリ部門に関しては、回復期リハビリテーション病棟1を堅持し、実績指数も40以上で安定しており、質・量ともに高いレベルでリハビリを提供できた。地域包括ケア推進センターの取り組みとして、通所リハで4月にサービス提供体制加算Iィを届け、定員も11月から45名に増進し、利用率も上昇した。その他の部門も、病院開設3年目となり地域連携部門の取り組みが根付いた結果、前方支援・後方支援ともに適切なケアマネジメントを実施できた。老健・サ高住の新館については、入所・入居ともに安定した結果を残せた。

## 2018年度活動状況

- 4月 新卒入社式、期首全集、役職者辞令交付式、新入職者研修、阪神リハビリテーション病院見学会、関西医事新報取材、日経メディカル取材
- 5月 地域包括ケア病棟連絡会（井上病院、しんあい病院、尼崎だいもつ病院）、国立循環器病研究センター視察（心臓リハビリテーション）、西記念ポートアイランドリハビリテーション病院視察（心臓リハビリテーション）、兵庫県民間病院協会総会・特別講演会、病院消防訓練
- 6月 愛仁会グループ消化器カンファレンス、西宮渡辺

脳卒中・心臓リハビリテーション病院内覧会，東  
阪神民間病院協会 事務長会・看護部長会合同役  
員会，兵庫県民間病院協会 院長会感染対策講習  
会「実践型 手指衛生」，医療安全研修会，日本  
病院学会

7月 上半期賞与全集，兵庫県事務長会，感染対策講習  
会「抗菌薬適正使用」

8月 平成30年度病院長・病院幹部セミナー，感染対  
策講習会「オムツ交換」，シードプランニング取  
材，中期事業計画方針説明会，ヴォーリス記念病  
院 視察来院，介護医療院開設に向けた研修会，  
学会発表合同予演会

9月 兵庫県障害福祉課身体・知的障害福祉班 視察来  
院，兵庫県看護協会就職セミナー，接遇研修「施  
設のホスピタリティ」，尼崎総合医療センター研  
修医受け入れ，療養病床研究会

10月 尼崎総合医療センター連携の会，リハビリテーシ  
ョンケア合同研究大会，三法人合同講演会，日本  
慢性期医療学会，全国介護老人保健施設大会，愛  
仁会グループリハビリテーション部門学術大会，  
兵庫県民間病院協会研修会

11月 愛仁会創立60周年記念式典，会計監査，ボラン  
ティア演芸会，尼崎市長選不在者投票，ハラスメ  
ント防止研修会

12月 兵庫県民間病院協会年末特別講演会，ハラスメン  
ト防止研修会，2018年度下半期褒賞発表式・忘  
年会兼愛仁会創立60周年記念パーティー（だい  
もつ地区），看護学生実習（愛仁会看護助産専門  
学校），看護学生実習（神戸大学，園田女子大学），  
医療安全連携会議（1・2連携）安藤病院，避難訓  
練（病院）

1月 心臓リハビリテーション開設，互例会，立入検査  
事前調査（尼崎市保健所），立入検査（尼崎市保  
健所），つかぐち病院開院記念式典，リハ技術部  
学生実習（平成リハビリテーション専門学校，作  
業療法士），リハ技術部学生実習（平成リハビリ  
テーション専門学校，作業療法士），予演会（回  
復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大  
会 in 舞浜・千葉）

2月 平成31年度新入職員赴任説明会（リハビリ職），  
看護学生実習（愛仁会看護助産専門学校），平成  
31年度新入職員赴任説明会（看護・リハビリ職  
以外），看護学生実習（園田女子大学），医学生実  
習（神戸大学医学部），看護学生実習（明石医療  
センター附属看護専門学校），リハ技術部学生実  
習（平成リハビリテーション専門学校，作業療法  
士），感染対策講習会，亀田総合病院視察，回復  
期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会  
in 舞浜・千葉，平成30年度新入職員赴任説明会  
医学生実習（兵庫医科大学）

3月 第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術  
集会，看護学生実習（明石医療センター附属看護  
専門学校），第2回あまつなぎ市民フォーラム，  
AGMC連携会議，第23回愛仁会グループ介護福  
祉施設合同業務改善発表会，研修医研修  
（AGMC），平成31年度愛仁会グループ管理職  
辞令交付式，平成31年度愛仁会グループ合同辞  
令会

## 2019年度に向けて

2019年度のだいもつエリアに関しては，下記を重点項  
目として実施する。

- ①6階病棟の早期満床と安定化
- ②心臓リハビリテーションの安定化
- ③音楽療法の定着
- ④老健における超強化型取得と安定稼働
- ⑤サ高住の新たな付加価値創設
- ⑥事務部門の働き方改革に向けての効率化
- ⑦会計監査に耐えうるコンプライアンス強化

上記の①～⑦を達成することにより，だいもつエリア全  
体で医療の質・介護の質を向上させるとともに，経常利益  
の早期黒字化を目指す。その結果として，老朽化している  
建物や構造物を補修しながら，近い将来建て替え計画を立  
案できるよう，職員一丸で努力を継続する。



## 診療部総括（病棟，外来）

### ■スタッフ紹介

松森良信（リハビリテーション科，消化器内科，院長），竹中和弘（呼吸器内科），加東 武（リハビリテーション科，整形外科），小牟禮 修（脳神経内科），南部誠治（リハビリテーション科），荒川鉄雄（循環器内科），中田秀史（リハビリテーション科），北 智之（総合診療科（訪問診療），循環器内科），石村恵美（総合診療科（訪問診療），消化器内科），山鳥嘉樹（循環器内科），嶋 聡子（リハビリテーション科）で診療活動を開始した。7月に，前野良人（総合診療科）が赴任，2018年3月末に南部誠治医師が退職した。

神経内科，糖尿病代謝内分泌内科，泌尿器科，整形外科，小児科，皮膚科は非常勤医師による診療も行った。

### ■診療内容

回復期病院として2018年度は3階障害者病棟29床，4階地域包括ケア病棟60床，5階回復期病棟60床，6階回復期病棟30床で運用。急性期を脱しても，まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者に対して，多職種がチームを組んで集中的なリハビリテーションを実施し，心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくために入院医療を展開した。

入院相談外来以外に，地域住民に対する還元を目的に内科，呼吸器内科，消化器内科，循環器内科，糖尿病内分泌内科，神経内科，泌尿器科を標榜し，午前診を中心に毎日2～3診体制で外来診療を行った。千船病院小児科の支援の下シナジス外来も継続し，ボトックス外来も開始した。

訪問診療は北医師，石村医師を中心に行った（別掲）。

### ■2018年度のトピックス・実績

2018年度診療・介護報酬改定に伴う回復期リハビリ病棟1，地域包括ケア病棟1の施設基準を堅持することができた。2018年4月から6階病棟を30床でオープンし順調に運用され，最短の期間で回復期リハビリ病棟1の基準を取得でき，良好に稼働できた。2019年1月から心臓リハビリテーションを立ち上げ運用を開始した。

各々の病棟で回復期リハビリ病棟1，地域包括ケア病棟，障害者病棟のすべての施設基準を堅持した。

1年間の退院患者は1,307名であった。平均在院日数は，

障害者病棟は52.5日，地域包括ケア病棟は38.1日，回復期リハビリ病棟は5階66.1日，6階61.9日であった（表1）。

病床利用率は稼働病棟179床に対して，平均175.4名，98%であった。

主病名のICD-10による疾患大分類は，3階障害者病棟では，パーキンソン病（37名），ALS（29名），進行性核上性麻痺（15名），多系統萎縮症（11名），脊髄小脳変性症（10名）などの神経難病が122名/208名と大部分を占めた。4階地域包括ケア病棟では，回復期病棟でのリハビリテーションが困難な骨折・脳血管障害，感染症治療後の廃用症候群の患者が多く，整形外科疾患が147名（25.9%）を占めた。5階回復期病棟では，脳血管障害を中心とした循環器系の疾患が167名（51.5%）と半数を占め，大腿骨頸部骨折など骨折患者を含む損傷，中毒及びその他の外因の影響が86名（26.5%），人工関節置換術を中心とした健康状態の影響要因が28名（8.5%）と脳血管疾患の受け入れが多かった（表2）。

紹介元は病院設立の経緯もあり，尼崎総合医療センターが48.4%を占めたが，50%を割り比率は低下してきている。尼崎市内の他病院が28.0%と増加傾向にあり地域で認知されてきた証と考える（表3）。

退院時の転帰は自宅退院が72.7%，病状悪化による急性期病院，療養病院など他病院への転院は15.0%，施設入所が9.5%であった。35名（2.8%）の患者がお亡くなりになった（表4）。

診療報酬から計算した在宅復帰率は，回復期病棟で86.7%，88.3%，地域包括ケア病棟では強化型老健，慢性期病院強化型が在宅復帰の対象から外れたため70%維持に苦労したが，75.3%であり，いずれも診療報酬上の施設基準を満たした（表5）。

外来診療は予約制とし，入院患者の退院時はかかりつけ医へ逆紹介することを原則とした。急性症状以外での受診は紹介状持参患者に限っており，1日あたりの受診患者（訪問診療を含む）は平均35.0名であった。

### ■今後の展望

4月から6階回復期病棟フルオープンとなり，4年目にして完全な形として運用が始まる。回復期リハビリ病棟

1, 地域包括ケア病棟1の施設基準の堅持しながら, 早期に満床達成し, 敷地内にある老人保健施設, サービス付き高齢者向け住宅とともに, 地域包括ケアの拠点としての役割が果たせるようチーム医療を展開していく。

表 1. 病棟別・退院患者数, 平均在院日数

病棟名	退院患者(名)	平均在院(日)
3階障害者病棟	214	52.5
4階地域包括病棟	605	38.1
5階回復期リハ病棟	335	66.1
6階回復期リハ病棟	153	61.9
総計	1,307	49.5

表 2. 疾患大分類 (ICD-10) 別・病棟別 退院患者数

	3階障害者病棟	4階地域包括病棟	5階回復期病棟	6階回復期病棟	総計
I. 感染症及び寄生虫症	1	19	0	1	21
II. 新生物	34	59	3	9	105
III. 血液及び造血器の疾患	0	1	0	0	1
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	5	27	0	0	32
V. 精神及び行動の障害	0	6	0	1	7
VI. 神経系の疾患	118	50	2	4	174
VII. 眼及び付属器疾患	0	0	0	0	0
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	0	0	0	0	0
IX. 循環器系の疾患	9	98	167	87	361
X. 呼吸器系の疾患	5	54	0	6	65
XI. 消化器系の疾患	1	27	0	0	28
XII. 皮膚及び皮下組織の疾患	1	15	0	0	16
XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患	4	34	36	16	90
XIV. 泌尿器系の疾患	1	21	0	0	22
XV. 妊娠, 分娩及び産後疾患	0	0	0	0	0
XVI. 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0
XVII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	0	0	0	0	0
XVIII. 症状, 徴候, 異常検査所見	2	9	0	0	11
XIX. 損傷, 中毒, 外因の影響	22	132	86	52	292
XX. 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0
XXI. 健康状態への影響要因	5	15	30	19	69
総計	208	567	324	195	1,294

表 3. 紹介元医療機関 (入院患者)

紹介元医療機関	紹介数	
尼崎総合医療センター・難病センター	604名	46.4%
(うち 尼崎総合医療センター)	547名	42.0%
(うち 難病センター)	57名	4.4%
尼崎市	365名	28.0%
兵庫県(尼崎市外)	86名	6.7%
大阪府	132名	10.1%
他都道府県	5名	0.3%
当院外来	37名	2.8%
ケアプランセンターだいもつ	22名	1.7%
だいもつ訪問診療	52名	4.0%
合計	1,303名	

表 4. 退院時の転帰

	退院数	
自宅退院	925名	72.7%
転院	191名	15.0%
うち 尼崎総合医療センター	90名	7.2%
転所	121名	9.5%
うち 老健施設	90名	7.1%
死亡退院	35名	2.8%

表 5. 在宅復帰率

	3階障害者病棟	4階地域包括病棟	5階回復期病棟	6階回復期病棟	総計
① 対象退院患者数	214名	605名	335名	153名	1,307名
1 居宅(自宅・特養・サ高住等)	126名	435名	274名	121名	956名
再掲: 自宅	112名	378名	262名	111名	863名
再掲: 特養	5名	11名	2名	3名	21名
再掲: 有料	5名	24名	3名	0名	32名
再掲: サ高住	3名	16名	3名	5名	27名
再計: 他	1名	6名	4名	2名	13名
2 老健	7名	40名	33名	10名	90名
3 転院					
急性期病院	52名	47名	17名	15名	131名
慢性期病院	20名	27名	7名	5名	59名
慢性期強化型病院	1名	0名	0名	0名	1名
転棟	3名	1名	1名	4名	9名
(参照) 死亡	4名	28名	2名	1名	35名
② ①のうち, 退院先が居宅等であった	126名	435名	274名	121名	775名
③ 在宅復帰率対象患者	210名	577名	316名	137名	
④ 居宅等復帰率(%) 100×②/③	60.0%	75.3%	86.7%	88.3%	76.5%

## 看護部

### ■スタッフ紹介

内訳：看護師	112名（うち認定看護師2名）
准看護師	2名
看護助手	32名
看護職員数	146名

（2019年3月31日現在）

看護職員勤務状況を昨年度と比較すると、平均超過勤務時間2.2時間/人/月、平均有給休暇取得8.1日/人/年は前年度と大差なく、離職率は、看護師8.8%は1.7%減少したが、看護助手33.3%で3.8%増加した。

### ■業務内容

2018年度看護部目標と活動実績

1. 安心・安全な質の高い看護・介護の提供
2. 在宅復帰に向けて多職種との連携強化
3. 日勤業務におけるPNS看護提供方式の定着
4. 看護・介護職員の教育体制の充実
5. 働きやすい職場環境作り
6. だいもつ地区の経営に参画する

#### 【主な実施項目】

#### 1. 病棟管理

- ・病床利用率：99.7%（179床稼働）

<各病棟の概況>

- ・障がい者病棟：障害比率78.5%
- ・地域包括ケア病棟：在宅からの入院16.3%、看護必要度（指示命令）39.3%、在宅復帰率78.2%
- ・回復期リハビリテーション病棟：日常生活機能評価10点以上41.4%、退院時の日常生活機能評価4点以上改善68.7%、在宅復帰率86.2%であり、条件をすべて維持できていた。

#### 2. 教育体制

尼崎だいもつキャリアラダーに沿って、年間研修計画の立案・実施、e-ラーニングによる研修の推進を実施。ラダーⅡ受講申請者37名、ラダーⅢ受講申請者58名であり、2名が次の段階へ承認された。看護研究への取り組みにおいては、6部署院内発表ができた。前年度取り組んだ4演題は、予定通りすべて院外発表を行い、今年度も同様に6

演題とも日本看護学会学術集会などの院外発表に登録している。

#### 3. 多職種との連携強化

全病棟で、毎朝多職種カンファレンスを開催し、入院時、月に1回1症例ごと多職種カンファレンスを実施継続できている。

### ■2018年度のトピックス・実績

#### 1. 6階病棟30床開棟

4月1日開棟し6月5日に満床の30床に達した。毎日の緻密なベッドコントロール会議運営の下、11月1日に回復期リハビリテーション病棟入院料1の届け出を行った。

#### 2. 心臓リハビリテーション稼働

前年度1月より開始し、平均3.0人/日、平均年齢71.5歳で、そのうち外来通院に至ったケースが2人であり、少しずつ退院後も継続して通院リハビリに繋がっている。

#### 3. 退院指導用パンフレットの作成

今年度から看護部委員会に、地域でのその人らしい生活を支えるための一環として、看-看連携退院支援委員会を設置した。看護師間のスムーズな連携支援システムを整えるために、病院・在宅・老健で共有できる統一した手順を考え、マニュアルを作成した。口腔・気管内吸引、胃瘻の管理が完成し使用開始している。

### ■今後の展望

開院4年目となり199床フルオープンとなる。今後も継続して高いベッド利用率を維持していくことは大きな目標となる。そのためにも医療チームの連携強化を図るとともに各病棟の機能を発揮して、それぞれの役割を果たしていきたい。特に、心臓リハビリテーションにおいては、看護の担う役割は大きく、計画的な知識・技術の向上を図り、人材育成に努めていきたい。また、安心・安全な質の高い看護の提供では、「看護チームにおける看護師・准看護師及び看護補助者の業務のあり方に関するガイドライン及び活用ガイド」に基づき、看護師と准看護師の協働、看護職と看護補助者の協働に看護部全体で取り組みたい。

# 理学療法科

## ■スタッフ紹介

2018年度、理学療法科は4月に9名の新入職員を迎え、計41名の理学療法士が活動した。

## ■業務内容

理学療法科では、関節可動域運動、伸長運動、筋力増強運動等の運動療法や、ホットパックや低周波刺激などの物理療法とあわせて、病棟生活が自立できるように起き上がりや立ち上がり、歩行などの基本動作練習を行っている。また退院後の生活を想定した外出練習や生活環境を調整するための退院前訪問指導などの院外活動も行っている。また長下肢装具や免荷式歩行装置、ロボットなどを使用した歩行練習を積極的に行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度の理学療法科の実績として単位提供数の月ごとの推移、病棟ごとの処方件数を下記に示す。

総提供単位数は152,498単位、また疾患別リハビリテーション料の処方件数は昨年度と同様に病棟ごとに特徴が表れた。2018年度より心臓リハビリテーションの開設を目的に院内でワーキングが立ち上がり、準備期間を経て2019年1月に開設へと至った。そのため、地域包括ケア病棟では心臓リハビリテーションの開設に伴い心大血管疾患リハビリテーション料の処方も見られた。

## ■今後の展望

2019年度は、回復期リハビリテーション病棟の110床フルオープンが控えている。そのため、継続して質の高いリハビリテーションを提供できる体制を準備し、また患者1人あたりの理学療法提供単位数の安定化を図っていく。

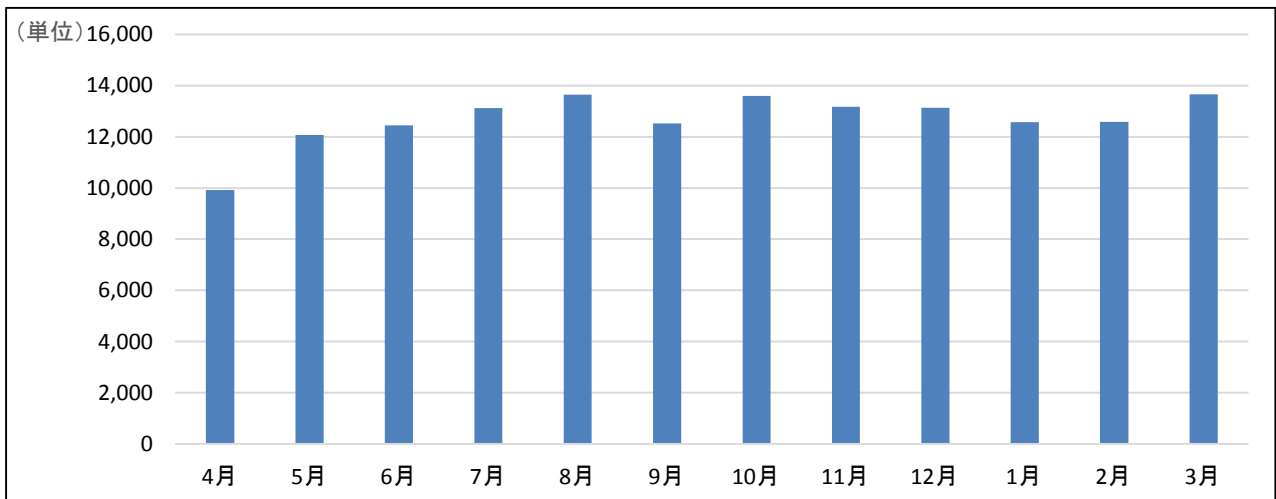


図. 理学療法単位数 (月別)

表. 理学療法処方件数

算定区分	回復期リハビリテーション病棟		回復期リハビリテーション病棟 6階		回復期リハビリテーション病棟 6階		地域包括ケア病棟		障がい者病棟		計	
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
脳血管疾患等リハビリテーション料	274	56%	184	56%	90	54%	75	16.3%	136	81%	485	43%
廃用症候群リハビリテーション料	1	0%	0	0%	1	1%	201	43.7%	10	6%	212	19%
運動器疾患リハビリテーション料	217	44%	142	44%	75	45%	163	35.4%	17	10%	397	35%
呼吸器疾患リハビリテーション料	0	0%	0	0%	0	0%	15	3.3%	5	3%	20	2%
心大血管疾患リハビリテーション料	0	0%	0	0%	0	0%	6	1.3%	0	0%	6	1%
計	492	100%	326	100%	166	100%	460	100%	168	100%	1,120	100%

(単位:件)

# 作業療法科

## ■スタッフ紹介

2018年度、作業療法科は4月に新入職員5名を迎え、計26名で活動した。

## ■業務内容

作業療法の内容として神経筋再教育、筋力増強、関節可動域改善、協調性改善や患者の日常生活における食事、排泄、家事動作等の生活行為に焦点をあてて、動作能力の向上を目的に作業活動を用いた訓練や、病棟訓練等を実施している。いずれも在宅復帰が目標であり、積極的に進めていくために入院時訪問、退院前訪問指導を実施している。入院時訪問は主に尼崎市内を対象に、住宅・生活環境を調査し、その情報をもとに訓練、動作指導を行っている。退院前訪問指導は自宅環境整備、生活の場での日常生活動作指導を患者、家族に実施し、介護支援専門員などの地域スタッフとも連携を取りながら行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度は認知症患者へのリハビリテーションの強化を目的に院内デイケアの安定稼働、もの忘れ外来検査や認知症回診の標準化、ほんまるセミナーにて「脳活」をテーマに地域住民への啓蒙活動を行った。また認知症患者の行動心理症状の理解を深めるために内部講師に加え、千船病院、森ノ宮医療大学から講師を招き「認知症・認知症ケア」について勉強会を3回開催した。

作業療法科の2018年度、月別作業療法実施単位数、月別訪問件数を下記の表に示す。総単位数93,691単位、入院時訪問件数23件、年間退院前訪問件数108件であった。

## ■今後の展望

2019年度は、「認知症」、「上肢機能」、「地域リハ」の3本柱を軸に、作業療法科としての独自性を確立し、療法師の知識・技術の向上はもとより、作業療法士の資質の向上、評価・治療の標準化に努めていきたい。

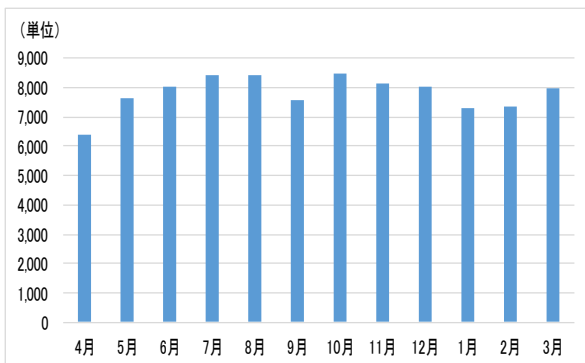


図1. 作業療法単位数 (月別)

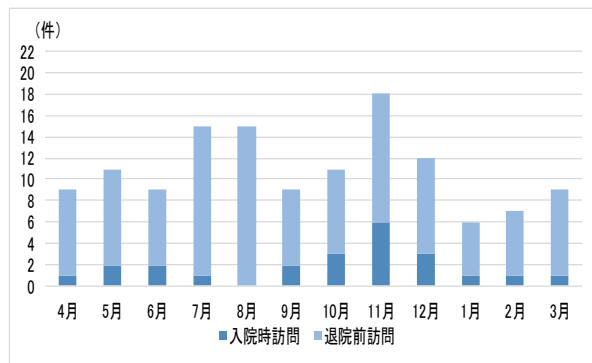


図2. 月別訪問件数 (月別)

表. 作業療法処方件数

算定区分	回復期リハビリテーション病棟		回復期リハビリテーション病棟 5階		回復期リハビリテーション病棟 6階		地域包括ケア病棟		障がい者病棟		計	%
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%		
脳血管疾患等リハビリテーション料	274	56%	184	56%	90	54%	52	18%	110	83%	436	48%
廃用症候群リハビリテーション料	1	0%	0	0%	1	1%	97	34%	7	5%	105	12%
運動器疾患リハビリテーション料	217	44%	142	44%	75	45%	131	46%	14	11%	362	40%
呼吸器疾患リハビリテーション料	0	0%	0	0%	0	0%	3	1%	1	1%	4	0%
計	492	100%	326	100%	166	100%	283	100%	132	100%	907	100%

(単位:件)

# 言語療法科

## ■スタッフ紹介

14名（2019年3月現在）

赤土 令, 柴田鮎美, 松尾智絵, 相川光男, 矢代 豪,  
田上優子, 波多野泰子, 網本祐美, 谷 早彩, 池内洋子,  
遠藤頌子, 瀬崎加絵, 原田真寿, 昇光太郎

## ■業務内容

言語療法では、脳血管疾患、中枢神経疾患、廃用症候群などにより、摂食嚥下機能やコミュニケーション能力に障がいを受けた患者を対象に、直接・間接摂食嚥下訓練などの各種訓練を行っている。また各種スクリーニングや嚥下内視鏡検査（VE）、嚥下造影検査（VF）を行うことで患者の摂食嚥下機能を評価し、適切な食形態を栄養管理科と協力して提供している。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度の言語療法科実績として、単位提供数の月ごとの推移、病棟ごとの処方件数を下記に示す。

今年度より病床数 199 床となり、処方件数は前年度比 1.47 倍と増加。それに伴い、入院患者への提供単位数も

増加していった。

また昨年と同様に疾患別リハビリテーション料の処方件数は病棟ごとに特徴が表れた。

総提供単位数は 49,135 単位、VE 件数は 15 件、VF 件数は 79 件であった。

## ■今後の展望

2018 年度診療報酬改定で、回復期リハビリテーション病棟におけるアウトカム指数はより高い数値となり、質の高いリハビリテーション医療の提供が求められている。

当科は来期 16 名のスタッフ在籍となるが、その 3 分の 2 が 1～3 年目の経験の浅いスタッフである。質の高いリハビリテーション医療の提供には教育体制の充実が必須となる。

今後、教育体制の充実を図るためには、経験の浅いスタッフが専門的な知識を得られる場となる、勉強会や研修会をより多く開催するとともに、リーダーとなるスタッフが新しい知識・技術を身につけられるよう専門分野の学会・研修会へ参加し、自己研鑽に努めることが必要であると考えます。

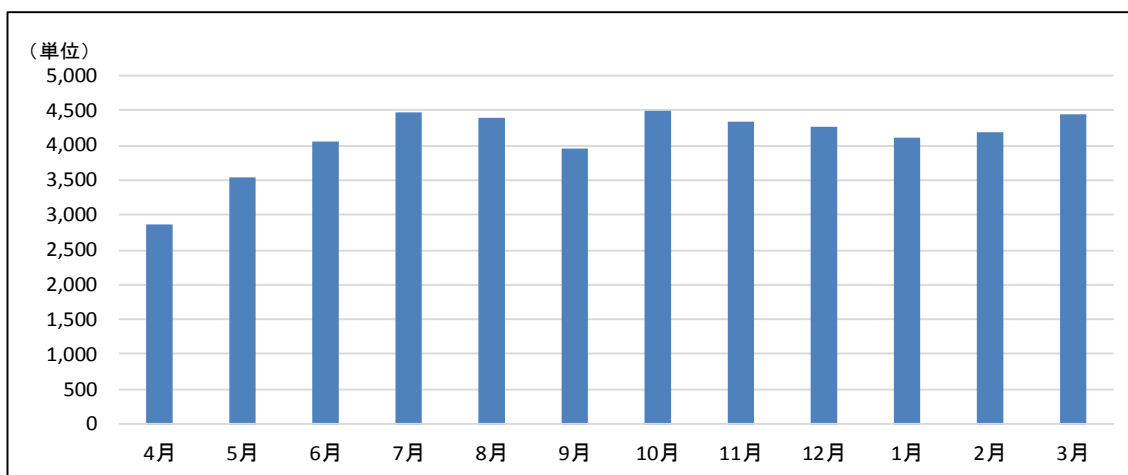


図. 言語療法単位数（月別）

表. 言語療法処方件数

(単位:件)

算定区分	回復期リハビリテーション病棟	%	回復期リハビリテーション病棟 5階	%	回復期リハビリテーション病棟 6階	%	地域包括ケア病棟	%	障がい者病棟	%	計	%
脳血管疾患等リハビリテーション料	257	100%	173	53%	84	51%	22	31%	126	95%	405	88%
廃用症候群リハビリテーション料	0	0%	0	0%	0	0%	50	69%	7	5%	57	12%
計	257	100%	173	53%	84	51%	72	100%	133	100%	462	100%

# 教育研修科

## ■スタッフ紹介

主任：岡部由美加（理学療法士）

## ■業務内容

リハ技術部全体に関する教育研修計画を企画実施し、横断的な教育を実施する。また、他部門と連携した教育研修も請け負う。

### ・Off - JT

#### ①新入職員研修（表 1）

千船エリアの療法士の新入職員（23 名）全員を対象とし、療法士として必要なリハビリテーション概論、各職種理解などを含めた基礎分野の研修を行った。

#### ②2 年次研修（表 2）

療法士として基本的に身に付けておくべき事項についての研修を行った。また、後方連携研修として退院患者の現況調査と振り返りの研修を行い、他施設連携に対する理解を深めた。

#### ③3 年次研修（表 3）

療法士として 3 年目に身に付けておくべき基本的事項と指導的役割を含む内容についての研修を実施した。

#### ④プリセプター研修（表 4）

新入職員の指導担当者を対象とし、指導者としての役割についての研修を実施した。

## ■2018 年度のトピックス・実績

更なる新人教育の充実を図るため、2 年次研修・3 年次研修を今年度より開催した。また、リハ技術部内各科との連携を密にし、各科で起こった教育的問題の吸い上げと、解決策を立案・実行することを目的とし、教育リンクセラピスト会を立ち上げ、定期的な会議を開催した。

## ■今後の展望

来年度も多くの新卒者の入職が予定されており、引き続き若手職員の育成と同時に、病棟に配属されたスタッフをまとめるリーダー的役割を持つ中堅職員の育成が課題となっている。次年度はそのリーダーを対象とし、リーダー研修を企画・実施し、更なる教育の充実を図る。また、教育リンクセラピストとの連携を更に深め、リハビリテーション医療の質の向上に向けての課題に取り組んで行く。

表1. 新入職員研修

日時	教育研修内容	日時	教育研修内容
2018年4月6日(金)	オリエンテーション	2018年5月9日(水)	評価について
2018年4月9日(月)	リハビリテーションとは	2018年5月16日(水)	リスク管理について
2018年4月10日(火)	施設基準・診療報酬・各種病棟機能について	2018年5月23日(水)	チーム医療について
2018年4月11日(水)	医療安全について①	2018年5月30日(水)	栄養管理について リハ栄養・褥瘡について
2018年4月12日(木)	感染予防について①	2018年6月13日(水)	入院時・退院前訪問指導について
2018年4月13日(金)	リハビリテーション医について	2018年7月24日(火)	脳画像と歩行能力
2018年4月16日(月)	理学療法について 作業療法について	2018年8月7日(火)	自立支援
2018年4月17日(火)	言語聴覚療法について リハビリテーション看護について	2018年8月22日(水)	摂食・嚥下
2018年4月18日(水)	MSWについて	2018年9月12日(水)	介護保険制度
2018年4月19日(木)	医療安全について②	2018年9月26日(水)	6か月の振り返り
2018年4月20日(金)	接遇①	2018年10月17日(水)	接遇②
2018年4月23日(月)	診療業務手順について	2018年10月23日(火)	BLS研修
2018年4月24日(火)	OJTの模擬：入院時合同評価 OJTの模擬：初回カンファレンス	2018年10月31日(水)	接遇③
2018年4月25日(水)	OJTの模擬：2か月目カンファレンス OJTの模擬：退院時カンファレンス	2018年11月28日(水)	感染予防について②
平成30年4月26日(木)	医療安全について③	2018年12月5日(水)	急性期・回復期のリハ医療について
2018年4月27日(金)	起居移乗動作について	2019年1月16日(水)	生活期のリハ医療について
2018年5月1日(火)	FIM（総論）(移動) (セルフケア) について	2019年2月13日(水)	症例検討会
2018年5月2日(水)	FIM（認知）について	2019年3月13日(水)	1年間の振り返り

表2. 2年次研修

日時	教育研修内容
2018年6月8日(金)	リハビリテーションの理解 目標設定・後方連携について
2018年9月21日(金)	医療安全・接遇・倫理
2018年10月12日(金)	自立支援
2018年12月7日(金)	摂食・嚥下とリハビリテーション栄養
2019年2月8日(金)	症例検討会
2019年3月8日(金)	教育ガイドラインを用いた自己評価 (振り返り研修)

表3. 3年次研修

日時	教育研修内容
2018年5月18日(金)	3年次の目標確認 教育ガイドラインの説明及び自己評価
2018年9月7日(金)	接遇・倫理
2018年10月5日(金)	地域連携について
2018年11月2日(金)	症例検討
2019年2月22日(金)	生涯学習・自己研鑽・研究について 教育ガイドラインを用いた自己評価

表4. プリセプター研修

日時	教育研修内容
2018年3月30日(金)	平成30年度プリセプター研修
2019年4月3日(火)	平成30年度プリセプター研修

表5. 看護部実技指導研修

日時	教育研修内容
2018年4月19日(木)	起居・移乗動作について(新入職員)
2018年7月4日(水)	起居・移乗動作について
2018年7月5日(木)	起居・移乗動作について

# 薬 剤 科

## ■スタッフ紹介

科長：ソディ保子

主任：山本里香

副主任：山下好彦（2019年2月退職）

大西暁枝，弓場優佳，武田千賀子（2018年9月退職）

小田彩加（2018年9月千船病院より転勤）

## ■業務内容

調剤・監査業務，服薬カートのセット業務，注射薬調剤業務を主として行い，処方監査，服薬管理指導業務，病棟配置薬管理，病棟の麻薬管理などは病棟担当者が実施している。

持参薬の継続等で，患者限定薬として頻用されない医薬品は，調剤薬局や他施設からの分譲買い等を利用して不働在庫の発生をなくすように努力している。

敷地内併設の老健に対し病棟と同様，持参薬の確認をし，また一包化調剤後服薬カートにセットし医薬品供給を行っている。

参加しているチーム回診は，NST 回診，褥瘡回診，ICT・AST 回診，皮膚科回診，糖尿病回診，認知症回診と多岐にわたり薬剤師としての処方提案等にて貢献している。また得られた患者情報を病棟担当者に伝達し薬剤管理指導業務に活かしている。

DI ニュースは8回発行した。

## ■2018年度のトピックス・実績

### 【調剤業務等実績】

処方箋枚数：2,291枚/月（前年度比117.2%）

うち，老健処方箋枚数：169枚/月

注射箋枚数：629枚/月（前年度比96.2%）

うち，老健注射箋枚数：4枚/月（前年度比44.4%）

院内採用薬：446品目（年度末時点，前年度比88.1%）

患者限定薬依頼件数：619件（前年度比219.5%）

168品目（内訳：内用外用薬151品目，注射薬17品目）

後発薬利用率：93.7%，カットオフ値63.1%（月平均）

後発医薬品使用体制加算Iを算定。

一般名処方加算算定率：83.4%（月平均）

### 【薬剤管理指導業務】

持参薬鑑別報告は，1,386件/年1日平均5.6件あった。薬剤管理指導は，1,007件/年であった。

退院時薬剤情報管理料は，919件あり退院患者の71.9%に算定していた。

### 【病・薬連携】

9月尼崎市薬剤師会研修会「糖尿病について」

講師：関西労災病院 山本恒彦先生

1月尼崎市薬剤師会研修会「褥瘡について」

講師：小林記念病院褥瘡ケアセンター長古田勝経先生

今年度目標であった尼崎薬剤師会との共催の研修会を2回当院で実施した。9月の研修会はグループセッション形式で2019年1月の研修会は実技を取り入れ，ともに好評であった。

### 【学会発表】

日本医療薬学会年会1題，日本病院学会1題，日本在宅薬学会学術大会1題，日本薬剤師会学術大会2題，全国介護老健保健施設大会1題，兵庫県病院薬剤師会尼崎支部大会2題。

## ■今後の展望

院内フォーミュラを実施し経済的効果も考慮した医薬品の適正使用を進める予定である。現在の病棟業務の効率化をはかり，どの病棟担当者も同じような業務量にし，全員が回診等に参加できるような体制を構築したい。薬剤科内での定期的なポリファーマシー症例会の実施を開始したい。さらに全員が学会発表できることを目標にしている。

表. 調剤業務等実績

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
処方箋枚数	2,062	2,249	2,281	2,354	2,322	2,130	2,594	2,345	2,400	2,344	2,235	2,173
(うち, 麻薬処方箋枚数)	(4)	(18)	(32)	(21)	(18)	(4)	(5)	(17)	(2)	(1)	(0)	(3)
注射箋枚数	624	652	656	754	599	525	705	763	592	601	461	618



# 放射線科

## ■スタッフ紹介

### 【診療放射線技師】

(科長) 山田友也

(主任) 秋葉秀樹

(科員) 有浦諒太

## ■業務内容

開院 3 年目で 6 階病棟開棟を迎えたが放射線科業務内容は昨年と同様に一般撮影, X 線ポータブル撮影, 超音波検査, CT 検査, 嚥下造影などの撮影業務, 他院画像情報の入出力, 画像閲覧環境整備や読影環境整備及び管理, 入院患者に対する MRI 検査予約手配などを行っている。

一般撮影では入院時の呼吸器, 整形領域の撮影や急変時の撮影を行っている。CT 撮影では中枢神経領域 (主に頭部), 脊柱・呼吸器・消化器領域及び急変時の撮影を行っている。超音波検査では腹部は放射線科で対応し, 心・血管関連は検査科が施行している。心臓・下肢静脈エコーに関しては適宜, 放射線技師が臨床検査技師に検査技術のご指導をいただいている。嚥下造影では外科用 C アームを用い検査を行い, 検査後動画編集ソフトにて編集を行い, 電子カルテから嚥下造影の動画閲覧を可能としている。

だいもつ病院放射線科では新規入職者に対して基礎的教育活動を行っており本年度も 1 名の対象者に対して行った。主として技術者・医療人としての心構えから回復期ならではの症例を用い撮影読影技術の習得を行った。

## ■2018 年度のトピックス・実績

検査実績として一般撮影では外来月間平均件数 58 件, 対前年比 135%, 入院月間平均件数 124 件, 対前年比 101%, CT 撮影では外来月間平均件数 21 件, 対前年比 110%, 入院月間平均件数 49 件, 前年比 107%であり, 一般撮影, CT 撮影において外来, 入院とも撮影件数の増加が認められた。

今年度は昨年度同様, 人事交流と人材育成に注力し, 高槻病院イメージングリサーチセンター放射線科医高橋哲部長のご協力を得て, 千船エリア (千船病院・カーム尼崎・だいもつ病院) におけるスペシャリスト技師育成に勤しんだ。今後の法人全体放射線技師の技術力向上と交流のため精進したいと考える。下半期には回復期勉強会 (だいもつ病院, リハビリテーション病院, しんあい病院) や法人放射線科対象での外部講師を招いた一般撮影勉強会をだいもつ病院にて開催し成功を収めた。その他, 鳥取県で開催されたリハケア学術大会にて大腿部筋エコーの発表を行った。また, だいもつ病院読影業務に関しては高槻病院所属放射線科医による読影が行われており診療機能向上に多大なご支援をいただいている。

## ■今後の展望

法人放射線科全体の技術力向上を目標に高橋部長を中心に高橋塾の設立並びに合同学術大会の開催を行いたいと考えている。また, 法人放射線科協議会開催や正式なアライアンスを来年度に控える蒼龍会井上病院との交流を念頭に活発な活動を行いたい。

表. 放射線科活動実績

(単位: 件)

2018年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
一般撮影	外来	61	47	54	49	57	63	52	55	57	62	73	70	700
	入院	117	144	115	125	155	119	132	128	127	128	111	97	1,498
CT	外来	21	22	21	23	24	23	22	24	15	15	22	23	255
	入院	49	46	42	58	38	44	57	42	65	46	44	61	592
TV	外来	2	0	2	3	0	0	1	0	4	3	3	0	18
	入院	8	9	12	10	12	7	12	13	8	12	11	11	125
エコー	外来	5	3	4	6	1	5	3	3	0	5	2	10	47
	入院	4	7	4	8	11	4	8	8	12	11	6	9	92

# 検査科

## ■スタッフ紹介

臨床検査技師 常勤 2名

早苗 広人

岡田 稚加

交差適合試験の際に必須となる特殊な DTT 処理を院内で実施できるように検査体制を整えた。

また 2040 年を見据えた心臓リハビリテーションの開設に伴い、心肺運動負荷試験における検査介助を開始した。

## ■業務内容

検体検査・生理検査を行っており、チーム回診として ICT 回診に参加している。

## ■今後の展望

今春の 6 階病棟フルオープンに伴う入院患者の増加に対応すべく看護師の負担減のためのタスクシフトとともに、検査結果早期報告のためのターンアラウンドタイムの短縮にも寄与する目的で、検査技師が入院時採血を行えるように調整し、ワーキンググループを立ち上げ話し合いを重ね、安全な採血業務を実施していく。

## ■2018 年度のトピックス・実績

急性期病院における高度な治療後のフォローアップに円滑に対応するため、輸血検査において多発性骨髄腫に対するダラツムマブ（分子標的治療薬）投与患者における

表. 院内実施検査件数

(単位: 件)

		月平均件数	累積件数	前年比
検体検査	末梢血液一般	379	4,548	109%
	HbA1c	209	2,510	132%
	総蛋白	325	3,903	123%
	アルブミン	325	3,895	123%
	Na	372	4,461	111%
	K	371	4,454	111%
	AST	327	3,919	112%
	ALT	327	3,919	112%
	血液ガス分析	5	56	73%
	ABO血液型	89	1,064	305%
	尿一般	198	2,372	114%
	尿沈渣(鏡検法)	180	2,165	109%
生理検査	心電図(12誘導)	114	1,373	118%
	心臓超音波	6	73	90%
	下肢静脈超音波	3	34	200%

# 栄養管理科

## ■スタッフ紹介

### 【管理栄養士】

- ・ 田中美穂・・・糖尿病療養指導士  
病態栄養認定管理栄養士  
介護支援専門員  
(5月中旬から産休・育児休業)
- ・ 山本華代子
- ・ 富山正俊・・・糖尿病療養指導士
- ・ 藤原桜子
- ・ 有佐美穂子・・・糖尿病療養指導士

## ■業務内容

新病院立ち上げから3年目となる今年、全病棟が開棟した。

### 1. 栄養管理業務

低栄養患者の対応・摂取量の評価・必要栄養量の算出など入院時の栄養に初期評価を全員に行い、早期に栄養介入できる体制となっている。入院患者全員に栄養管理計画書を作成し、定期的なフォローも含め退院まで継続管理している(表1)。嚥下機能評価の必要な方に検査食を作成しており、その作成件数はほぼ例年と同様である(表2)。

### 2. 給食管理業務

10月より6階病棟が開棟し、全病棟が稼働した。そのため食数は前年度対比127%増加。通所リハの提供食数も昨年対比130%増加(表3)。栄養指導に関してはその93%が入院患者への初回指導である(表4)。入院時には全患者に初回訪床を行い、必要な情報を収集しアセスメントを開始している。

## ■2018年度のトピックス・実績

### 1. 各種カンファレンス・回診の参加

回復期病棟のカンファレンスを中心に、NST回診・糖尿病回診・褥瘡回診・認知症ラウンド・定期カンファレンス・退院時カンファレンス等に常時参加できる人員配置となっている(表5)。

### 2. リハ科との連携強化

リハビリ後の栄養補給を強化したい患者に対し、リハ科・看護部と協力し補食として飲料を提供中。

### 3. 栄養サマリーの作成

退院後の栄養管理の特記事項や注意点を記した栄養サマリーは、栄養士からの目線で必要な情報提供を行っている。可能な限り徐々に件数は増加していく方向である。今年度は下半期より再開し、18件作成済。

## ■今後の展望

①通所リハ患者への栄養に関する情報提供・相談などを開始する予定。

②食事サービスへの要望と、ニーズへの対応にタイムリーに取り組めるようにする。

※科内では、上記の課題の改善に取り組む一方で、コスト削減や経費面の管理、働き方改革における勤務体制の見直しと業務の効率化を考えて活動していく方針である。

表1. 栄養管理計画書(新規・継続)

(単位:件)

2018年4月～2019年3月	2018年												2019年			総合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
栄養管理計画(新規)	96	121	102	97	112	118	105	108	118	100	117	110	1,304			
栄養管理計画(継続)	337	398	375	392	404	394	438	368	410	404	351	352	4,623			
合計	433	519	477	489	516	512	543	476	528	504	468	462	5,927			

表2. 嚥下検査食作成件数

(単位:食)

2018年4月～2019年3月	2018年												2019年			総合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
VF検査食	0	0	10	0	9	7	8	4	6	10	8	9	71			
VE検査食	0	0	0	0	3	3	1	3	0	2	2	6	20			
合計	0	0	10	0	12	10	9	7	6	12	10	15	91			

表 3. 食数実績

《病院・通所リハ》

(単位:食)

2018年4月～2019年3月	2018年												2019年			総合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
一般食	8,565	8,646	8,823	8,974	8,518	8,498	9,134	9,680	10,772	9,458	8,522	9,342	108,932			
特別非加算食	1,507	1,259	754	1,263	1,554	1,465	1,304	1,173	1,620	2,054	1,671	1,649	17,273			
特別加算食	2,494	3,643	3,947	4,209	4,409	4,084	4,218	3,422	2,647	2,568	2,981	3,149	41,771			
経管栄養	1,650	2,026	1,866	1,532	1,261	1,589	1,151	1,080	1,234	1,341	1,421	1,484	17,635			
通所リハ(昼)	462	514	479	518	543	515	628	633	551	601	622	699	6,765			
通所リハ(おやつ)	388	454	407	419	481	439	516	525	447	501	515	579	5,671			
検査	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	168	200	2,204			
合計	15,246	16,728	16,456	17,101	16,952	16,770	17,137	16,693	17,457	16,709	15,900	17,102	200,251			

表 4. 訪床件数と栄養指導件数

(単位:件)

2018年4月～2019年3月	2018年												2019年			総合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
訪床件数	184	205	196	216	281	260	357	304	296	256	286	273	3,114			
栄養相談(入院初回)	24	24	13	18	18	6	6	10	8	5	20	11	163			
栄養相談(入院2回目以降)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
栄養相談(外来初回)	1	2	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0	6			
栄養相談(外来2回目以降)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	4	7			
合計	209	231	210	234	299	266	363	315	306	262	307	288	3,290			

表 5. カンファレンス参加実績

(単位:件)

2018年4月～2019年3月	2018年												2019年			総合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
糖尿病カンファレンス	57	63	62	83	65	59	84	44	44	17	0	0	578			
嚥下カンファレンス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
カンファレンス	59	80	78	77	93	85	100	74	93	97	71	81	988			
NST回診	20	11	11	7	9	9	3	23	31	21	13	20	178			
褥瘡回診	27	17	18	17	22	26	17	32	15	21	4	29	245			
合計	163	171	169	184	189	179	204	173	183	156	88	130	1,989			

表 6. 併設する老健施設の食数実績

(単位:食)

《老健》	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
(食事)普通食	6,687	217	6,874	6,990	7,096	6,770	7,243	6,934	6,800	7,000	6,392	6,878	75,881
(食事)療養食	1,717	69	1,869	1,826	1,847	1,904	1,720	1,683	1,941	1,816	1,678	1,836	19,906
(おやつ)普通食	2,234	73	2,302	2,345	2,379	2,269	2,441	2,332	2,355	2,347	2,150	2,314	25,541
(おやつ)療養食	574	23	622	608	619	636	573	562	648	606	580	612	6,643
合計	11,212	382	11,667	11,769	11,941	11,579	11,977	11,511	11,744	11,769	10,780	11,640	127,971
経口維持加算	40	39	46	43	45	51	51	41	35	36	36	37	500
経口移行加算	3	3	3	2	2	1	1	2	3	2	3	2	27
合計	43	42	49	45	47	52	52	43	38	38	39	39	527

表 7. 誕生日食

(単位:食)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総合計
誕生日食(病院)	11	11	8	6	11	14	12	15	18	14	20	14	154
誕生日食(老健)	5	3	2	2	8	9	8	8	8	11	7	16	87
合計	16	14	10	8	19	23	20	23	26	25	27	30	241

# 地域包括ケア推進センター

## ■スタッフ紹介

- センター長 1 名
- ・地域医療連携室
  - 看護師 2 名 MSW 8 名 事務員 1 名
- ・通所リハビリテーション
  - セラピスト 3 名 社会福祉士 1 名 介護福祉士 6 名 介護員 5 名
- ・訪問看護ステーション
  - 看護師 9 名 セラピスト 4 名 事務員 1 名
- ・ケアプランセンター
  - 主任介護支援専門員 4 名 介護支援専門員 2 名
- ・ヘルパーステーション
  - 介護福祉士 6 名 介護員 5 名 事務員 1 名

## ■業務内容

地域包括ケアシステムの拠点として、回復期病院と在宅介護事業が一体となって、入院相談から退院後まで全患者介入、訪問診療や在宅サービスを利用し安心して在宅に戻れるように、また在宅に戻っても再入院やレスパイト利用がスムーズに行えるよう業務している。今年度は回復期病棟が 30 床開棟したため、特に病床管理に力を入れた。

## ■2018 年度のトピックス・実績

地域医療連携室は兵庫県立尼崎総合医療センターの後送病院としての役割を果たし、各病棟ともにはほぼ満床稼働であった。特に地域包括ケア病棟は地域での認知度が高まり、診療所やケアマネジャーからの相談も増加した。退院援助に関しては相変わらず MSW が在院日数や在宅復帰率の遵守に追われる状態であり 1 名増員した。介護事業は利用者数の増加で全体の収入は前年比 143%、予算対比

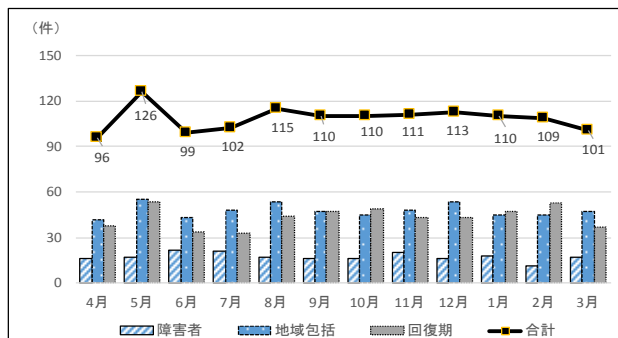


図 1. 病棟別入院相談件数

105%を達成できた。通所リハビリテーションは順調に利用者を増やすことができたが 6 月から 9 月の災害等の影響で予算は達成できず、前年比 123%に留まった。訪問看護ステーションは今年度も看護師の入退職が多かったが、それでも年間 1 万件を超える訪問で前年比 144%であった。ケアプランセンターはサ高住が満床となり、新規契約は一旦落ち着いたが主任介護支援専門員が 4 名となり、1 月より特定事業所加算 I を算定した。前年比 191%となっている。ヘルパーステーションは 8 月まで順調に推移したが、秋に職員の退職があり、最終的には月平均 730 件程度で前年比 160%になった。しかし年明けには特定事業所加算 II を算定し、職員間の連携強化・会議の開催を継続した。

## ■今後の展望

- ・地域医療連携室
  - 2019 年から全棟開棟で 199 床となる。常に満床を目指しており、前方支援・後方支援ともに各算定要件遵守に対して適切に業務を行う。MSW の増員が必要となる。
- ・通所リハビリテーション
  - 開所から 3 年が過ぎ、今後の成長どころとしては土曜日の開所しかないためセラピストの人員配置を進める。
- ・訪問看護ステーション
  - 訪問リハビリスタッフを増員予定。訪問看護は年間通して看護師の離職がないように業務調整したい。
- ・ケアプランセンター
  - 4 月より 1 名増員予定。特定事業所加算 I の継続と加算 IV の算定が可能になるように利用者を受け入れていく。
- ・ヘルパーステーション
  - 特定事業所加算 II の継続と安定した訪問件数の堅持、及びサ高住との連携強化を目指す。

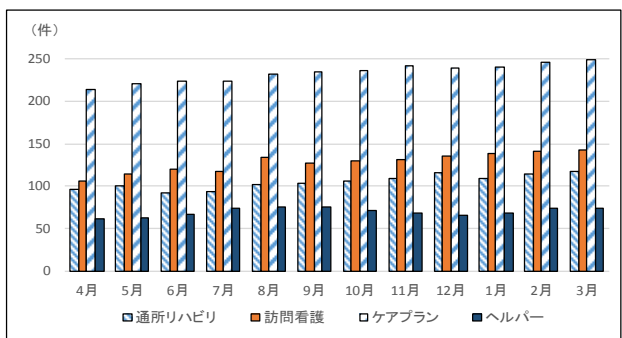


図 2. 介護事業契約件数

## 医療安全管理室

### ■スタッフ紹介

医療安全担当診療部長：加東 武

医療安全管理者：坂本陽子

医薬品安全管理責任者：ソディ保子

### ■業務内容

1. 医療安全管理委員会開催：毎月1回
2. 院内ラウンド：第1回2018年8月14日，第2回2019年2月12日，看護部委員会にて2回実施
3. 医療安全管理マニュアル作成・修正  
新規：3項目，修正：10項目  
看護部マニュアル：転倒転落アセスメントシート・  
薬剤自己管理移行アセスメントシート作成
4. 院内医療安全教育の実施：①新人看護師2回，②新人セラピスト1回，③中途採用者11回
5. 医療安全推進週間：2018年11月19日～25日
6. 第三者機関監査への対応：2019年1月18日  
尼崎健康福祉事務所立入調査
7. 医療安全臨時会議開催：①2018年6月地震発生後対策，②2018年11月3回：職員集団インフルエンザワクチン接種による副反応出現への対応検討，③2019年1月インフルエンザアウトブレイクの対応
8. インシデント事例検討会：2018年10月25日「定期薬カートセット間違い」事例のRCA実施
9. 学会参加：①2018年7月医療事故・紛争対応人材養成講座：副看護部長，②2018年7月・12月医療安全管理者養成研修・フォローアップ研修：看護主任，③2018年11月21日「医療安全に関するセミナー」近畿厚生局主催：セラピスト主任・坂本，④2018年11月医療の質・安全学会学術大会：坂本，⑤2018年12月医療事故調査制度支援団体等連絡協議会：加東，⑥2019年1月日本病院薬剤師医薬品安全管理責任者等講習会：ソディ
10. 院内全体研修：①第1回2018年6月22日「老健・3階病棟での取り組み」「医薬品・医療機器安全管理」（最終受講者率100%）

②第2回2018年12月14日「暴力などへの対応」「放射線被爆」「災害時の緊急対策」（最終受講率100%）

11. 医療安全地域連携会議：1-1 連携・1-2 連携とも1病院と連携，2018年10月30日会議，12月に各病院へ訪問にて相互評価・意見交換及びラウンド実施

### ■2018年度のトピックス・実績

1. 院内ラウンド：①栄養科食品保管場所の変更，②更衣室ロッカー棚上・床シューズ置き禁止ポスター掲示と9月12月に再度ラウンドにて撤去，③5階言語療法室ナースコール設置，④病室内不要な物撤去，ベッドサイド環境整備，⑤病棟薬品冷蔵庫内温度チェックの徹底
2. 安全管理事項の討議：①レスパイト入院患者の気切カニューレ取扱いについて，②身体行動制限としての身体行動制限用具以外の使用を禁止，③Ai・死亡解剖・DNAR等の同意書について，④薬剤管理マニュアルの見直し
3. 医療安全推進週間：取り組みテーマ『指差し呼称確認』取り組み期間中インシデント発生0件，期間後より3か月評価インシデント発生6件
4. 医療安全ニュース発行：インシデント発生に伴い発行  
①「口頭指示は原則受けない」②「離床センサーの配線接続は正しく」③「インスリン針付きシリンジ変更」④「足踏み式吸引器の使用法」⑤「マットレス洗濯タグの付け方」（近鉄スマイルと協議にて決定）⑥「ナースコールの接続は正しい方向で丁寧に差す」⑦「インチャージの方法と病棟マップ表記について」

### ■今後の展望

2019年度全病棟199床フルオープンとなり，2018年度医療安全管理マニュアル改訂にて，マニュアルの周知と徹底評価を行う。医療安全ニュースを定期的に発行し安全文化の醸成を図っていく。

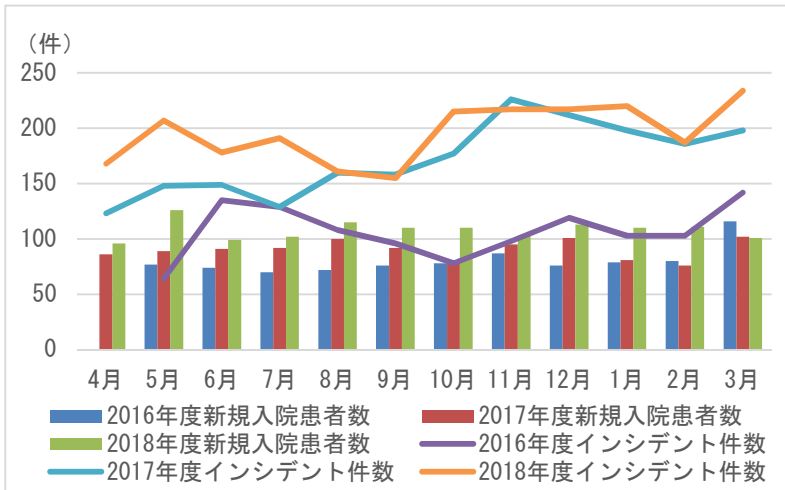


図1. 2016年度・2017年度・2018年度の新規入院患者数とインシデント

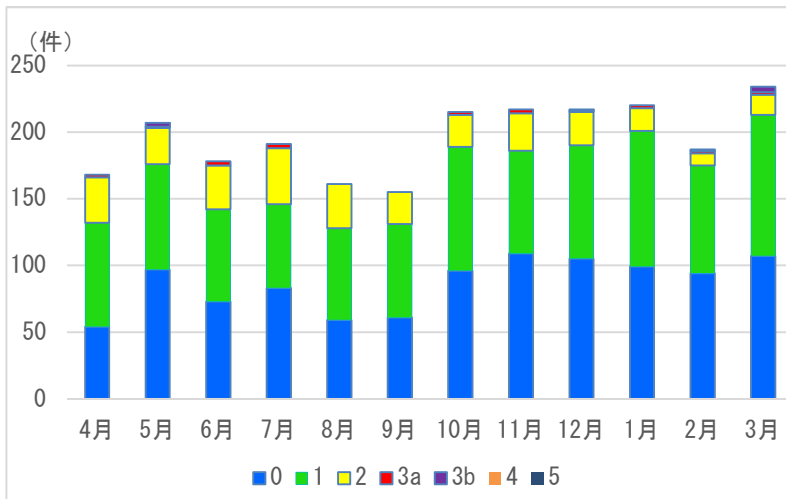


図2. 2018年度インシデントレベル別比較

表1. 2017年度・2018年度転倒転落病棟機能別転倒率（転倒転落インシデントレベル1以上）

障害者病棟													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2017年度転倒率(‰)	7.117	3.397	1.173	7.734	4.624	2.341	4.439	4.778	7.838	8.139	19.815	11.098	6.761
2018年度転倒率(‰)	15.494	8.303	4.889	9.09	7.015	4.618	4.571	3.601	6.88	4.613	4.287	5.82	6.577
地域包括ケア病棟													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2017年度転倒率(‰)	4.836	5.002	3.414	5.506	6.043	4.966	2.711	8.211	10.326	16.352	7.142	6.654	6.686
2018年度転倒率(‰)	13.03	2.807	6.214	9.486	8.653	5.694	7.107	4.618	3.882	5.861	3.367	5.485	6.358
回復期病棟													
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2017年度転倒率(‰)	2.284	3.796	4.507	1.633	3.26	4.499	6.907	2.813	5.952	8.313	3.715	2.396	4.178
2018年度転倒率(‰)	4.644	5.882	4.065	5.359	3.582	4.71	3.199	4.761	3.521	6.298	3.296	6.373	4.867

# 感染対策室

## ■スタッフ紹介

感染担当副院長：竹中和弘（医師）

感染対策室室長：木村美緒（感染管理認定看護師）

薬剤科担当：ソディ保子（薬剤師）

検査科担当：早苗広人（臨床検査技師）

## ■業務内容

- 1) 感染管理システムの構築
- 2) 院内サーベイランスの計画・実施・評価
- 3) 感染予防策の実施
- 4) コンサルテーション
- 5) 感染管理教育と訓練
- 6) 職業感染対策の計画・実施
- 7) ファシリティマネージメント
- 8) 抗菌薬適正使用支援

## ■2018年度のトピックス・実績

・各種会議の開催・参加

院内感染対策委員会（計14回）

毎月第4水曜日16時～ 計12回

臨時開催 計2回

抗菌薬適正使用支援チーム（AST）回診

毎週火曜日14時～ 計53回

感染対策チーム（ICT）回診

毎週火曜日14時30分～ 計53回

看護部感染管理委員会

毎月第3木曜日14時～ 計12回

感染対策加算合同カンファレンス

1-1 連携相互チェック

7月6日 尼崎だいもつ病院

7月27日 兵庫県立尼崎総合医療センター

1-2 連携カンファレンス 安藤病院 計4回

4月19日・5月25日・11月30日・2月28日

・手指衛生サーベイランス

前年度の平均値を目標値に定め手指衛生遵守の教育・指導を行った。結果、目標1患者1日あたり4.84回が5.71回に、直接観察での遵守率は59%から61%に上昇した（図1）。アルコール製剤の個人携帯推進が今後の課題となった。

・カテーテル関連尿路感染（CAUTI）

アウトブレイク基準を前年度の感染率の2標準偏差に定め、CAUTIの早期発見・予防に努めている。2018年6月にリハビリテーション室に給水機を設置し、リハビリ中の患者への飲水奨励に努めた。感染率は低下傾向であり（図2）、2019年度のアウトブレイク基準は2.49となった。今後も管理方法の徹底や水分摂取を励行するなど、予防に努めていく。

・冬期ウイルス性流行疾患対策

インフルエンザのアウトブレイクを経験したが、迅速な対応で短期間のうちに終息した。職員の体調管理と転院患者のワクチン接種状況の把握が課題となった。

・感染対策講習会

講義型・実践型・DVD上映会に分け開催し（表1）全職員が2回以上、平均3.2回の参加があった。2018年6月大阪府北部で地震が発生したため、「災害時の感染対策」を追加した。

## ■今後の展望

「アウトブレイクを未然に防ぐ環境づくり」を目標に掲げ、①手指衛生遵守率向上、②个人防护具適正使用、③職員の健康管理の徹底、に取り組んでいく。

感染対策講習会は全職員が年に2回以上参加することに加え、希望するテーマを選んで受講できるよう、開催回数・時間・内容だけではなく、周知方法を工夫していきたい。



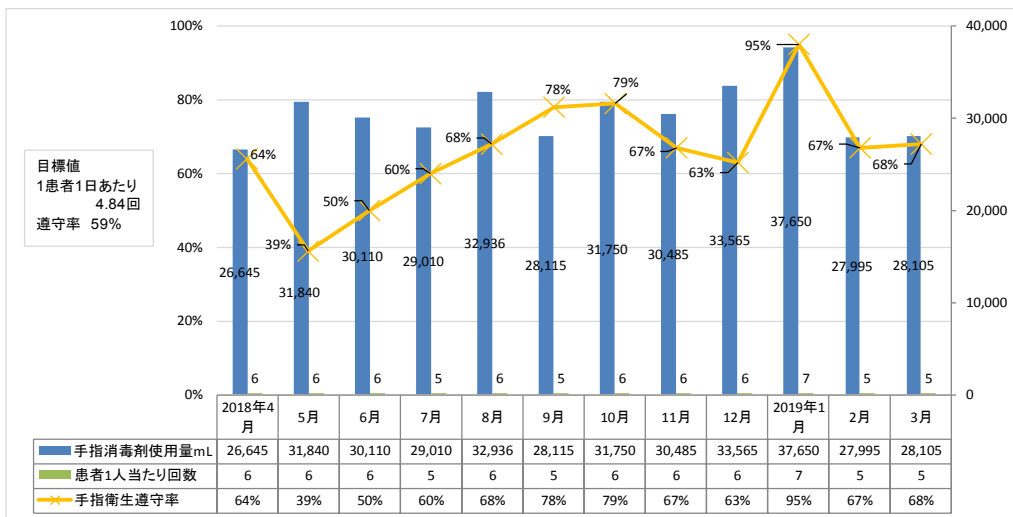


図 1. 2018 年度手指衛生サーベイランス結果

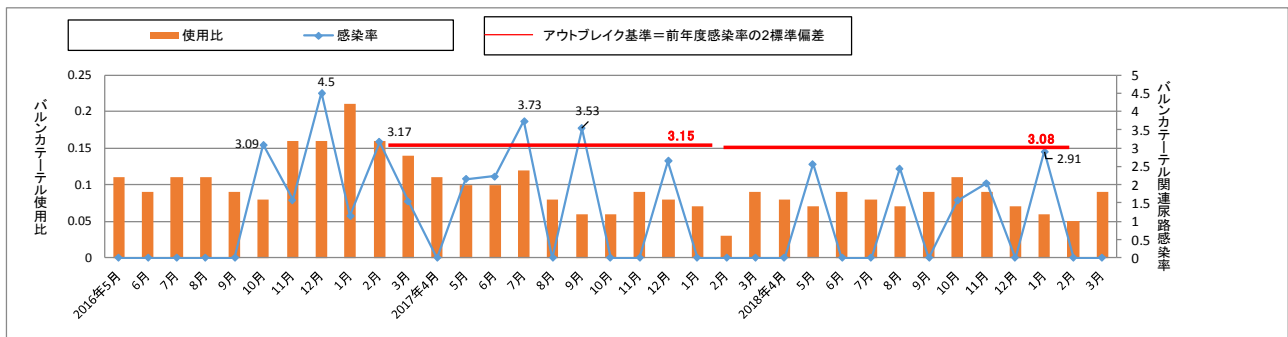


図 2. CAUTI 発生状況推移

表 1. 2018 年度感染対策講習会

日程	テーマ	講師	参加人数
4月16日～20日	<実践型>正しい手袋・エプロン・マスクの着用	木村美緒	206
5月25日	<講義型>基本的な抗菌薬治療の考え方	竹中和弘	178
6月12日～15日	<実践型>手指衛生	木村美緒	159
7月20日	<講義型>抗菌薬適正使用・手指衛生講習会報告	ソディ保子・木村美緒	129
8月13日～16日	<実践型>オムツ交換	木村美緒	53
9月3日～7日	DVD上映会「基本的な抗菌薬治療の考え方」		59
10月1日～5日	DVD上映会「抗菌薬適正使用・手指衛生講習会報告」		53
11月1日	<講義型>インフルエンザ・感染性胃腸炎	竹中和弘 木村美緒	56
12月25日～27日	DVD上映会「インフルエンザ・感染性胃腸炎」		15
2月15日	<講義型>結核	竹中和弘	87
2月18日～22日	<実践型>吐物処理	木村美緒	140
随時	<実践型>災害時の感染対策	木村美緒	172



# 介護老人保健施設 だいもつ

〒660-0828

尼崎市東大物町1丁目1番1号

URL:<https://amagasaki-daimotsu.aijinkai.or.jp/kaigoroujin/>

## 理念・基本方針

### <理念>

住み慣れた地でいつまでも自分らしく生き活きと

### <基本方針>

- ・私たちは、患者さま・利用者さまに安全で質の高い医療、介護、サービスを提供します。
- ・私たちは、患者さま・利用者さまと情報の共有をはかり、患者さま・利用者さまが納得される医療、介護、サービスを提供します。
- ・私たちは、患者さま・利用者さまにふさわしい尊厳ある生活が過ごせるよう、プライバシーや人権を尊重した医療、介護、サービスに努めます。
- ・私たちは、患者さま・利用者さまが住み慣れた地域の中で切れ目のない医療、介護、サービスが受けられるよう努めます。
- ・私たちは、専門職としての誇りを持ち、自己研鑽に励み医療、介護、サービスの向上に努めます。

## 施設概要

■入所者定員/100名（ショートステイ含む）

## 2018年度総括

2017年6月に開設した。

前期取得した在宅復帰加算型要件を維持しながら在宅復帰強化型を目指し、利用者獲得の営業活動を実施した。リハビリテーションについて高い評価を継続して得ることができたため、新規利用者獲得に結び付いた。

尼崎市のみでは新規利用者確保が不十分なため、西宮市や芦屋市、伊丹市・宝塚市に加え、神戸市東灘区へも営

業活動を実施することにより、1日平均利用者数97.1名を達成した。

## 2018年度活動状況

4月	桜どら焼き作り
5月	お好み焼き作り
6月	ベビーカステラ作り
7月	夏祭り、フルーツパフェ作り
8月	流しソーメン
9月	おはぎ作り
10月	運動会、スイートポテト作り
11月	たこ焼き作り
12月	クリスマスコンサート、ケーキのデコレーション、柚子湯
1月	初詣、児童ホームの子供たちとの交流会
2月	節分、新年会
3月	花見、ミックスジュースパーティー

## 2019年度に向けて

今後も定期的に紹介元医療機関へ営業活動を実施し、高い稼働率を維持しながら在宅復帰への取り組みを行う。

また、期首より超強化型老健を算定するため、その維持と新規利用者獲得を目指す。そのためには、セラピストによるリハビリテーションのみならず、介護職員による質の高いケアが必要であるため、介護職員には今後更に増加する認知症関連の外部研修を受講させ資格取得を促進し、更に介護福祉士実習指導者研修や喀痰吸引等研修を受講させ資格取得することにより、質の高い介護を担保するよう取り組みたい。

# 介護老人保健施設 だいもつ

## ■スタッフ紹介

今期期首の人員配置は、施設長(医師)1名、科長1名、看護師9名、介護職48名、理学療法士3名、作業療法士2名、言語聴覚士1名、薬剤師1名、管理栄養士1名、支援相談員2名、ケアマネージャー1名、事務3名であった。期中の異動者は、看護師2名、介護1名、中途退職者は1名であった。

## ■業務内容

入居平均人数は 97.1 名/日で経過しており、稼働率は 97%であった。ロング入退居総数はそれぞれ 141 名・147 名であった。入居経路は、在宅からの入居 35%、だいもつ病院など病院からの入居 51%、他老健からの入居 6%、有料などの施設からの入居が 8%であった。退居経路は、在宅 35%、有料などの施設 23%であり、特養 18%、入院 14%、他老健 4%であった。入居者の状態に応じてターミナルケアにも積極的に取り組み、年間 8 名の看取りを行った。平均介護度はロング 3.32、ショート 3.71 と介護度はショートの方が重い。平均入居期間は 5.2 か月であり、要介護 4 又は 5 の割合は、49.2%である。

## ■2018 年度のトピックス・実績

多剤内服によるポリファーマシーを防ぐための取り組みにも積極的に取り組んでいる。2017 年 6 月 1 日の当施設オープン当初から 2019 年 3 月末までの入退居者 224 名において薬剤種類数は入居時 6.3 種類より 4.7 種類へと 1.6 種類減薬。薬剤費は 1 日平均 437 円から 292 円へと 145 円減少した。4 月から新設されたかかりつけ医連携調整加算については、入居時にかかりつけ医と薬剤調整について FAX で意見交換を行い、退居時は、薬剤調整の経過など診療内容の報告を行いかかりつけ医との連携を行った。4 月から今年 3 月末までの退居者 150 名中 43 名にこの加算を算定することができた。高齢化、重度化する現状の中で、老健のケアを充実させるために看護と介護が協働し、胃ろうや吸引ができる研修に 7 名が参加し修了することができた。現在、10 名の介護職が医行為に携わること

ができる予定である。また、ユニットの特殊性を活かして利用者や家族のニーズに合わせた個別援助計画書を作成できるようにチームで取り組んでいる。4 月から新設された排泄支援加算においては、チームを立ち上げ取り組み加算の基準を作成し取得している。入退居前後訪問、退居前後訪問については、多職種が協働し実施できるように調整を行っている。経口移行は、11 名中 6 名が移行、4 名が一部移行、不可が 1 名であった。言語聴覚士を中心とした多職種のミールラウンドが効果的であり入居者・家族の満足度が高い。

毎月、行事食やおやつレクは実施しているが、7 月に実施した夏まつりには、入居者、家族が参加できるよう、また併設のサ高住の入居者が参加できるよう計画し実施した。

エリアの特殊性として、尼崎だいもつ病院との連携は、各種安全や感染などの研修だけではなく、入居者への CS などだいもつ地区全体で取り組むことができている。

## ■今後の展望

2018 年度の在宅復帰率は、年間平均 66.2%であった。これを維持するために定期的に紹介元医療機関へ営業活動を実施し、1 日平均利用者数を 95 名に設定しながら在宅復帰への取り組みを行う。そして、セラピストによるリハビリテーションの充実、看護・介護職員の質の高いケアを実施できるように、認知症ケアの向上を図る。そのために認知症チーム会を新たに発足し、事例を共有し各ユニットに水平展開ができるように関わっていく。認知症関連の外部研修や資格取得を促進し、更に介護福祉士実習指導者研修や喀痰吸引等研修を受講し、キャリアアップを行い、質の高い看護・介護の提供ができるように取り組む。

施設基準については、今期中、基本型の加算型を維持しながら、強化型の要件を満たすことが課題であったが、来期より超強化型老健の要件を満たすため、その要件を維持しながら、老健の役割が発揮できるよう各職種が連携してケアをしていく。



# 高槻病院

〒569-1192

高槻市古曾部町1丁目3番13号

URL:<https://www.takatsuki.>

[aijinkai.or.jp/](https://www.takatsuki.)



## 理念・基本方針

### <理念>

患者さまの満足する医療

### <基本方針>

- ・急性期病院として、診療機能の高度化・専門化を図り、常に医療サービス内容の充実に努める
- ・地域医療支援病院として、かかりつけ医との連携、救急医療の提供、地域医療従事者の資質向上のための研修など、地域における医療の確保のために支援を行う
- ・総合周産期母子医療センターとして、地域の周産期医療施設等と連携を図り、母体または児におけるリスクの高い妊娠に対する医療及び高度な新生児医療等の周産期医療を提供する
- ・臨床研修病院として、医師の人格涵養、診断能力修得の指導に努め、優秀な医師を輩出する
- ・市民病院的役割を果たすため、市民の健康診査、健康教育等、保健事業の推進に積極的に関わり、生活習慣病の発症予防等に寄与する

## 施設概要

■病床数/477床 ■診療科目/29科

■病院機能/厚生労働省臨床研修指定病院、地域医療支援病院、開放型病院、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、救急告示病院、日本医療機能評価機構認定病院、卒後臨床研修評価機構認定病院、BFH(赤ちゃんにやさしい病院)、認定病院(WHOユニセフ)、大阪府がん診療拠点病院

■特殊診療機能/周産期母子センター(MFICU・NICU・

GCU)、リハビリテーションセンター、血液浄化センター、院内助産センター、放射線治療センター、救急センター、ICU・PICU・手術センター、関節センター、内視鏡センター、不整脈センター、心臓・大血管センター、がん診療支援センター、臨床研究センター、臨床研修センター・イメージングリサーチセンター

## 2018年度総括

高槻未来プロジェクトも上空通路の延伸工事、病院外構工事が5月末で終了し、6月1日にグランドオープンとなった。愛仁会リハビリテーション病院3階の医局も同時に完成し、6月16日、17日に中井老泉ビルからの引っ越しを終え、プロジェクトも無事に完遂することができた。

6月18日7時58分ごろ、日本の大阪府北部を震源とした震度6弱の大阪府北部地震が発生した。建物は免震構造であるため被害はなかったが、公共交通機関が停止したため通勤できない職員や帰宅できない職員がいた。近隣の多くの病院が救急受け入れ困難と宣言する中、ほぼ通常と変わらない救急を受け入れ、また、国立循環器病研究センターが機能停止となったため、NICU、PICUへの受け入れ依頼があり、4名の患者を受け入れた。その他、救急搬送以外でしんあい病院から3名の患者を受け入れ、地震関連での直接転院は合計7名受け入れた。

4月の心臓大血管センター開設により心臓血管外科の手術件数は320例、人工心肺を伴う手術は95例、総手術件数も5,805例、前年度比106.6%と堅調に症例数を伸ばしている。2017年12月に整備した脳卒中ケアユニット(SCU)3床は順調に受け入れ患者数を増やし、5月には

6床増床させ高稼働となっている。また、2018年11月に大阪府より小児救命救急センターの指定を受け、救急センター、小児センター、PICUを中心に勉強会やシミュレーションを実施し、重症症例に対応する体制整備に努めている。

国際交流は、2016年度からタイ王国サミティベート病院との双方向研修を開始したが、同病院が隣接地に7階建ての日本人専門病院を2019年春に新規開設する計画を立て、これまで両病院間で行われてきた小児科・新生児科を中心とした連携から広く成人領域の診療連携に発展させようとする医療連携拡大に関する協定の調印式を12月6日に愛仁会リハビリテーション病院3階のふれあい広場にて執り行った。駐日タイ王国特命全権大使、在大阪タイ王国大阪副総領事、高槻市長を来賓として、先方CEOと当法人理事長との間で協定が締結された。本協定に基づき、次年度、医師と看護師が1年間タイに滞在して技術交流を図る予定である。2017年度に厚生労働省から指定を受けた外国人医師修練病院としてはミャンマーから整形外科医師2名が当該制度を利用して研修を修了し、次年度もミャンマーからの2名が研修する予定もあり、当院における国際交流は活発に進んでいる。

第三者評価としては、日本医療機能評価機構、卒後臨床研修機構（JCEP）ともに更新年度となった。日本医療機能評価機構は、7月24日、25日に3rdG:Ver.2.2を受審、5年間の更新認定となった。卒後臨床研修機構は、9月27日に受審、4年間の更新認定となった。

## 2018年度活動状況

- 4月 臨床研修開始式、ボランティア総会・茶話会、第26回市民公開講座、関西大学初等部エピペン講習会、正面ロータリー運用開始
- 5月 関節セミナー、第27回市民公開講座、第10回Catheter Ablation Course for AF、上空通路開通式
- 6月 医学生のため的高槻病院説明会、第28回市民公開講座、第42回2次救命処置コース、医局・臨床研修研究センター・リソースナース室引越し
- 7月 日本病院機能評価更新審査
- 8月 第29回市民公開講座、第19回救急隊員勉強会、第20回ゆりかご会
- 9月 緩和ケア研修会、第2回BFNICUワークショップ、

第4回高槻病院総合周産期母子医療センター懇話会、卒後臨床研修評価機構更新審査、医療機関向け虐待対応プログラムBEAMS1・2、第30回市民公開講座、慢性腎臓病予防の市民公開講座

- 10月 地域医療検討会・開放型登録医懇親会、Sotos症候群家族の会、第43回2次救命処置コース、関節セミナー
- 11月 第31回・第32回市民公開講座、大阪府児童虐待防止ネットワーク事業症例検討会、Dr.Branchによる研修医対象ワークショップ、災害研修会
- 12月 タイ王国サミティベート病院との医療連携拡大に関する協定の調印式、関節セミナー
- 1月 三島医療圏がん診療連携拠点病院合同第2回市民公開セミナー、災害研修会
- 2月 第34回市民公開講座、地域住民研修会、関西大学中等部がん授業、第44回2次救命処置コース
- 3月 第33回・第35回市民公開講座、第4回高槻病院周産期看護セミナー、高槻病院キッズセミナー、関節セミナー、災害研修会

## 2019年度に向けて

外傷をはじめ急性腹症など広い範囲をカバーし術後の集中管理も包括する急性期外科を立ち上げ、当該診療科を核として昨年11月に認可された小児救命救急センターと従来からの救急総合診療科と合わせて総合救急医療センターを発足させる。小児から成人、軽症から重症まで、すべての救急患者に対応できる救急医療センターをコンセプトに、成人領域では外傷対応の強化、小児領域では大阪府下のみならず近隣の京都府、滋賀県からの重症患者の集患を促進する。加えて、今まで以上に地域連携を重視し、循環器・呼吸器・脳神経系の重症患者受け入れ増加を図る。

がん診療では、手術件数の増加はもちろん化学療法・放射線治療に力を入れ、コメディカルスタッフの充実を図り診療実績の向上を目指す。

人材育成では、サミティベート病院など海外施設との交流を行いながら、各部門の幹部候補生、フレイル・認知症に対応できる人材、重症患者に対応できる人材育成を図る。

国際化としては、大阪府外国人患者受け入れ地域拠点医療機関への選定、外国人患者受け入れ医療機関認証制度（JMIP）の認定を目指していきたい。

## 総合内科

### ■スタッフ紹介

主任部長：筒泉貴彦

医員：笹木 晋，濱田 治，花篤弘一

三木綾子，平山沙織，伊佐敷頌太

丹羽諒太郎，向井拓也，高石絵美

(花篤，高石は 2019 年 4 月より着任予定)

### ■診療内容

外来：総合内科は高槻病院の初診外来を担当しており、種々の症状を呈する患者の初期評価を行っている。病態や疾病にあわせて総合内科での対応を継続して行くか、あるいは専門医の評価及び加療が必要であるかを判断する。再診外来では主に初診外来で対応した患者の加療が短期間である際のフォローアップ、あるいは総合内科に入院されていた患者の退院後の複数回のフォローアップに利用している。いずれも病態が安定した際は極力かかりつけ医に患者をお返すようにしており、急性期病院と開業医との良好な関係を維持できるように努力している。2018 年度より救急外来の日中の診療及び若手医師の指導も開始している。

入院：一般外来及び救急外来からの急性期疾患が入院患者の多くを占めている。高齢者において頻度の高い誤嚥性肺炎、尿路感染症、複数の病態が関与する食欲不振や衰弱 (Failure to thrive) 症例が多いが、不明熱、多関節炎などの診断に難渋する症例も相談されるケースが増加している。基本的に入院依頼のあった症例については特殊な理由がない限り全例受け入れており、必要に応じて専門科と協力の上診療を行う。予定入院とは異なり、緊急性を伴う病態が多いが柔軟な対応を心掛けている。入院チームは科内 3 チームで構成されており、日替わりで入院の対応を行っている。各チームは 1 名の指導医、2 名の後期研修医、初期研修医 1~2 名及び診療看護師で構成されている。診療看護師も診療に関与しており、看護師としての側面から患者の診療の質の向上に大きく役立っている。

教育：若手医師及び看護師への教育面においても役立つべく、毎朝のカンファレンスや回診時の教育セッション、看護師勉強会において尽力している。

しんあいクリニック：2019 年 1 月より診療が開始となったしんあいクリニックにおける 19 床の病棟管理も総合内科が請け負っている。急性期病態を脱し、今後退院あるいは施設への入所を目指す症例を対象としており併存疾患、内服管理を含めた高齢者特有の種々の病態に対して高齢者包括診療をモットーとして日々対応している。

### ■2018 年度のトピックス・実績

初年度に引き続き、高齢患者の種々の病態の対応を行っていることに加えて非高齢患者の重症例や膠原病疾患の頻度も増加してきている。加えて、2018 年度より整形外科疾患であり大腿骨近位部骨折及び椎体骨折に対する診療を、当科を主科として整形外科と協力して行うことが開始されている。欧米では Orthopedic Co-Management (OCM) と呼ばれており、整形外科の病態以外の種々の内科疾患、周術期管理、安全な退院のための準備などを包括的に診療することで患者への診療の質の向上を目指して行っている。高齢患者のニーズに即しているためか、1 年を通じた入院患者数は 1,000 名以上と昨年度より大幅に増加しており、昨年度同様、他科の外来及び入院患者のコンサルテーションも随時行っている。

### ■今後の展望

高齢社会である本邦においてはますます種々の病態をバランスよく診療する総合内科医にニーズが高まることが予想される。高槻病院、しんあいクリニックでの診療を継続しつつ、往診業務への着手も計画中である。また、これらの診療による社会への貢献を臨床研究として発表することも引き続き積極的に行っていく。

# 救急総合診療科

## ■スタッフ紹介

主任部長：前納一三（1979年卒）（2019年3月転属）

主任部長：稲本真也（1992年卒）（2019年4月着任予定）

## ■診療内容

平日日勤帯の救急外来の管理と初期研修医の診療サポートを行っている。初期研修医が二次救急に従事することによって、外来診療の手がかりを学んでもらうと同時に、入院のトリアージと各科へのコンサルテーションを経験する。

## ■2018年度のトピックス・実績

表. 初期研修医救急外来担当症例数（平日日勤帯）

（単位：件）

研修期間	症例数
2018年4月	165
5月	181
6月	203
7月	239
8月	223
9月	164
10月	207
11月	204
12月	192
2019年1月	174
2月	163
3月	157

症例カンファレンスを引き継ぎ患者が不在の時には毎朝行っている。

## ■今後の展望

2019年度から総合救急医療センターが発足し、当科はその内科診療部門として新たなスタートを切ることになる。高槻病院が地域中核病院としての機能をこれまで以上に発揮できるよう、急性期外科と密接に連携しつつ救急の受け入れ件数と応需率の更なる向上を目指したい。また現場においてはこれまで以上に診療の効率化を図り、研修医の受け入れ件数の拡大と診療の質向上に備えたい。

# 呼吸器内科

## ■スタッフ紹介

船田泰弘（1995年卒，部長）  
 中村美保（2002年卒，医長）  
 奥野恵子（2003年卒，医長）  
 梅谷俊介（2009年卒，医長）  
 小濱みずき（2013年卒，専攻医）  
 山田 潤（2014年卒，専攻医）  
 福井崇文（2014年卒，専攻医）  
 小嶋真理子（2015年卒，専攻医）  
 吉村遼佑（2015年卒，専攻医）

## ■診療内容

肺炎，喘息，COPDなどのcommon diseaseをはじめ，肺癌の集学的治療，重症呼吸不全患者の集学的治療，チーム医療で取り組む慢性呼吸器疾患など幅広い診療を行っている。中村は緩和ケアチーム，奥野は感染制御チーム（ICT），梅谷は人工呼吸器サポートチーム（RST）の中心的役割を担い診療科横断的に活動している。

## ■2018年度のトピックス・実績

昨年度に引き続き屋根瓦方式のチーム制（3チーム制）で診療及び初期研修医・専攻医の指導を行っている。

今年度の入院患者数は延べ789名（昨年度793名）で

あった。入院患者の内訳は，肺炎・気管支肺炎156，誤嚥性肺炎51，結核9，肺膿瘍9，胸部悪性腫瘍211（非小細胞肺癌163，小細胞肺癌41，悪性胸膜中皮腫7），気管支喘息42，COPD増悪33，間質性肺疾患40，気胸38，血痰・喀血2，胸水貯留6，膿胸10などであった。肺癌と肺炎（誤嚥性肺炎含む）で過半数を占める点は昨年と同様であるが，胸部悪性腫瘍が増加傾向であった。死亡退院は40例のうち剖検は5例（剖検率12.5%）と剖検数（率）が増加した。入院検査は終夜睡眠ポリグラフィ（PSG）73，気管支鏡検査66（外来検査136；総計202），局所麻酔下胸腔鏡検査3であった。気管支鏡検査，PSGともに昨年よりも増加した。気管支鏡検査は，新規肺癌患者のリクルートのためにも更に件数を増やしていきたい。なお，今年度も神戸大学附属病院西村善博教授による隔月のカンファレンス，呼吸器内科・外科・放射線治療科・病理診断科・メディカルスタッフが参加する毎月の肺癌カンサーボードを開催した。

## ■今後の展望

2018年度は誤嚥性肺炎が減少し，胸部悪性疾患が増加傾向であった。次年度は特に肺癌症例（化学療法・手術症例とも）を増やすため，患者のリクルートに努め，気管支鏡検査の件数増加を目指す。

表. 2018年度の延べ入院患者数と転帰（ ）内は昨年度

（単位：名）

	患者数	死亡		患者数	死亡
<b>呼吸器感染症</b>			<b>呼吸器悪性腫瘍</b>		
肺炎・気管支肺炎			非小細胞肺癌	163(138)	19(18)
細菌性肺炎	156(146)	6(15)	小細胞肺癌	41(49)	3(4)
マイコプラズマ肺炎	1(1)		悪性胸膜中皮腫	7(2)	1(0)
ウイルス性肺炎	1(2)		<b>閉塞性肺疾患</b>		
レジオネラ肺炎	0(1)	0(1)	気管支喘息	42(63)	
ニューモシチス肺炎	5(1)		COPD増悪	33(34)	0(4)
誤嚥性肺炎	51(66)	8(5)	気胸	38(47)【手術10(13)】	
結核/非結核性抗酸菌症	9(6)/6(4)	1(1)	胸水	6(9)	0(1)
肺膿瘍	9(13)	0(3)	気管支拡張症	2(5)	
膿胸	10(12)	2(2)	血痰・喀血	2(3)	
<b>間質性肺疾患</b>			血管炎・肺泡出血	1(4)	0(2)
肺線維症・非特異性間質性肺炎	22(20)	2(4)	肺塞栓症	0(0)	
特発性器質化肺炎	4(7)				
過敏性肺臓炎	6(4)		その他	24(31)	0
薬剤性肺炎	1(5)		<b>検査入院</b>		
放射線肺臓炎症	4(4)		終夜睡眠ポリグラフィ検査	73(56)	
慢性好酸球性肺炎	2(1)		気管支鏡検査	66(54)【入外合計202(186)】	
膠原病関連間質性肺炎	1(4)	0(1)	局所麻酔下胸腔鏡検査	3(4)	



# 消化器内科

## ■スタッフ紹介

中島卓利 (1985年卒 主任部長)  
 長谷川和範 (1995年卒 部長)  
 大須賀達也 (1997年卒 部長)  
 角山沙織 (2004年卒 医長)  
 澤井寛明 (2005年卒 医長)  
 小川浩史 (2007年卒 医長)  
 谷本直紀 (2012年卒 医員)  
 権田真知 (2012年卒 医員)  
 池内愛実 (2013年卒 医員)  
 石田亮介 (2016年卒 専攻医) 計 10名

## ■診療内容

外来業務は、消化器内科初診外来を3人の部長が担当し、その他のスタッフは主として再診外来を担当した。救急外来や地域の医療機関と密接に連携し、オープン検査などで内視鏡検査の積極的な受け入れを行い、より専門的な検査治療を目指している。がん診療においては、澤井医長を中心に最新のガイドラインに準拠した治療を積極的に取り組んでいる。前年度までと同様に、非常勤医師として近畿大学医学部奈良病院 田村孝雄教授、菅野雅彦先生に指導いただいている。

## ■2018年度のトピックス・実績

外来は近医への逆紹介が進み、延べ患者数は制限できた。一方、外来化学療法が軌道に乗ったことなどで、平均単価が大幅に増加した。内視鏡総数は減少したが、超音波EUS-FNA, ESDなどにより専門的な検査治療は増加した。

## ■今後の展望

権田真知が大学院進学のため退職するが、千船病院から鍋嶋克敏(2010年卒)が異動してくる。内科学会後期研修プログラムの一環として、石田亮介が異動するが、明石医療センターから徳永貴史が加わる。

総合内科の拡充、化学療法が入院から通院加療に移行したこと、周辺に内視鏡可能な施設が増加したことなどにより、新入院数、内視鏡検査数などは減少傾向にある。当科は、高度急性期病院ならではの、より高度な専門的かつ迅速な診療や多くの併存疾患、問題点を有した症例にも幅広く対応することが求められており、一般的な消化器診療に加え、質の高い診療を行うことを目指し、地域医療に貢献していきたい。

表 1. 診療活動実績

	2017年	2018年
新入院数(人)	1,605	1,504
平均在院日数(日)	11.8	11.0
外来延べ患者数(月平均)(人)	1,638	1,478
平均単価(外来)(円)	20,467	23,089
化学療法(外来)(件)	700	902
化学療法(入院)(件)	296	229

表 2. 内視鏡活動実績

(単位:件)

	2017年	2018年
総数(うち治療)	6,496(1,452)	6,216(1,303)
上部(うち治療)	3,602(269)	3,567(268)
下部(うち治療)	2,620(933)	2,410(804)
ERCP関連(うち治療)	274(254)	239(231)
超音波内視鏡	146	166
EUS-FNA	27	33
ESD	67	88

## 循環器内科

### ■スタッフ紹介

高岡秀幸	(1986年卒)	
安部博昭	(1992年卒)	
中島健爾	(2002年卒)	
村井直樹	(2003年卒)	
佐野浩之	(2008年卒)	
佐々木 諭	(2010年卒)	
湯口 賢	(2010年卒)	
瀬戸悠太郎	(2013年卒)	
朝倉絢子	(2014年卒)	
田中友望	(2014年卒)	
上村航也	(2015年卒)	
竹内仁一	(2015年卒)	
藤岡知夫	(2016年卒)	計 13 名

### ■診療内容

冠動脈形成術 (PCI), 下肢動脈形成術 (EVT), 救急心不全加療を主軸にしている。日中は循環器ホットラインを引き、開業医から直接電話を受けられるようにしており、また、平日は従来の内科当直に加えて循環器内科当直を立て、夜間救急患者の受け入れを強化している。しかし、2018年度は主軸の PCI 件数は年間 350 例とここ数年で初めて減少に転じた。入院患者数に大きく変わりはないが、下肢の EVT も同様の傾向であり、危機感を強く感じており、解決及び打開策を模索しているところである。糖尿病内科医師の減少に伴う院内紹介の減少や、外来透析患者数を減らしたことによる影響は少なくないと考えている。時代のニーズに合わせて、大学病院や国立病院では実施しにくい日帰り手術を増やすために、日帰りセンターの整備が必要かもしれないと感じている。その他、非侵襲的検査の心エコー件数などは増加傾向である。

### ■2018年度のトピックス・実績

当院循環器内科への入職を希望する若手医師の数は安定的で、総勢 13 名を維持している。心臓カテーテル検査数は 770 件、冠動脈インターベンションは 350 件。そのうち緊急心臓カテーテル検査は 32 件であった。ロータブレーター治療は 87 件、DCA は 25 件施行した。心臓 CT は 578 件。末梢動脈インターベンションは 92 件、うち下肢 EVT 56 件であった。非侵襲的検査については、経胸壁心エコー図検査 7,029 件、経食道心エコー図検査 362 件、頸動脈エコー 1,216 件、ホルター心電図 1,233 件、トレッドミル運動負荷検査 380 件、マスター負荷心電図 958 件で、いずれの検査も年々件数が増加中である。中でもエコー件数の増加が著しい。

### ■今後の展望

主軸の冠動脈インターベンション (PCI) 件数の巻き返しを図りたい。なぜ件数が減少したかを法人一丸となって分析し、早急に手を打たなければ今後もっと傷口が大きくなりそうである。更なる低侵襲化と入院期間短縮化を時代の一步先にいく形で提案していきたい。また、心臓大血管センターに大北センター長が着任され、心臓血管外科の症例数が増加しても、それが循環器内科の症例数には全くフィードバックがないことも意外な結果であり、相互関係の強化と患者の共有化を目指したい。

## 糖尿病内分泌内科

### ■スタッフ紹介

富永洋一(1987年卒 主任部長), 陳慶祥(1995年卒 部長), 佐久間純(2012年卒 医員), 平賀千尋(2013年卒 医員)の4名体制であった。

### ■診療内容

糖尿病及び内分泌全般を主な対象としつつ、富永はNST 担当医として病院横断的に活動し、陳は内分泌疾患及び1型糖尿病を担当しつつ病棟のマネージメントを行い、佐久間と平賀は糖尿病専門医、内分泌専門医取得を目指し、自己の研修を行いつつ、病棟で初期研修医の指導、他科からの血糖及び内分泌のコンサルトを引き受けている。腎移植患者の糖尿病診療や産婦人科との連携での妊娠糖尿病や糖尿病合併妊娠の管理も行っている。1型糖尿病患者においてインスリン強化療法でコントロール困難な患者に積極的にCSII(持続インスリン皮下注入)療法を導入している。血糖変動の激しい患者はCGM(持続血糖モニター)を用いてインスリンの微調整を行っている。NST 委員会の下部組織である医師、看護師、栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、事務員からなる「糖尿病ケアチーム」が月1回ミーティングを行い、糖尿病教育入院、外来糖尿病公開講座の企画・運用を行っている。山下みどり糖尿病看護認定看護師が、糖尿病看護外来にて、糖尿病性腎症進展予防の指導、妊娠関連の糖尿病患者の指導、外来インスリン導入、CSII患者の療養指導、フリースタイルリブレの指導などを行っている。糖尿病足病変の患者の拾い上げを行い、外科外来に開設された「フットケア外来」にも加わり、足のケアや療養指導を行っている。診療支援科が中心となって糖尿病患者友の会(よもぎの会)のサポートを行っている。内分泌疾患が疑われる患者は、入院にて内分泌負荷試験を行い、詳細な病態解析を行っている。

### ■2018年度のトピックス・実績

学会発表は例年より少なめで、糖尿病関連3題であった。そのうち研修医が1題筆頭者として発表した。外来糖尿病管理患者は1,572名(うち1型糖尿病141名)、入院患者は208名である。CSII療法は51名の患者が導入中であり、昨年並みである。内分泌疾患の入院患者として間脳・下垂体疾患6名、甲状腺疾患2名、副腎疾患12名である。外来では甲状腺穿刺細胞診検査92件と昨年並である。前年度まではCSII施行時に、同時に血糖変動もわかるSAP(Sensor Augmented Pump)の患者がCSII患者の大部分を占めていたが、SAPから血糖測定器でありながら、同時に腕のセンサーに測定器をかざすだけでリアルタイムに血糖値のわかるフリースタイルリブレに移行する患者が増えている。

### ■今後の展望

佐久間の退職、富永の愛仁会総合健康センターへの異動でスタッフが2名となる。しかし、当地域の糖尿病及び内分泌の拠点であることには変わりなく、可能な範囲で地域からの紹介患者の受け入れ、病院全体からの血糖コントロール及び内分泌疾患のコンサルトを積極的に受ける。

常勤医師減少のため、血糖コントロールの安定した患者の逆紹介を更に進め、入院の必要な患者の紹介を増やし、入院患者増に繋げたい。

産婦人科との連携による妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠、妊娠合併甲状腺疾患診療の強化、糖尿病患者の定期的な合併症精査による血管病変の早期発見により、虚血性心疾患、脳血管疾患、下肢閉塞性動脈硬化性疾患の新規患者の掘り起こしにも努め、他科との連携を強めたい。昨年度は停滞していた学会発表の件数を増加させ、研修医にも積極的に学会発表をさせたい。2017年4月1日より内分泌学会認定教育施設となり、糖尿病専門医とともに内分泌専門医も取得可能な施設となった点を強調し、後期研修医や中堅若手医師の獲得に努めたい。

# 血液内科

## ■スタッフ紹介

岡本雅司（1993年卒）

日本血液学会認定血液専門医

日本内科学会総合内科専門医

## ■診療体制

火曜日

血液内科専門外来

月～金曜日

骨髄穿刺・生検

化学療法

病棟回診・処置

## ■活動内容及びトピックス

腫瘍性疾患（白血病・悪性リンパ腫・骨髄腫・骨髄異形成症候群・骨髄増殖性疾患など）、免疫性疾患（再生不良

性貧血・免疫性血小板減少性紫斑病など）、血栓・出血性疾患（血友病・抗リン脂質抗体症候群など）といった幅広い領域の血液疾患を診療している。造血幹細胞移植や若年者の急性白血病など、当院の設備上の問題で高度な無菌管理を要する疾患の治療はできないため、これらの患者に対しては、整備の整った施設を紹介している。高齢の患者が多くなっていることと、疾患の専門性の高さから、他院への転院に時間が掛かり、どうしても入院日数が長くなる傾向にある。

## ■今後の展望

可能であれば造血幹細胞移植を施行したいと考えている。自家末梢血幹細胞移植が施行可能になると、より若年の患者を診ることができ、患者数が増加することが見込める。非専門的な疾患から造血幹細胞移植まで幅広い血管疾患を診療してきた。その経験を活かしていきたい。

# 不整脈センター

## ■スタッフ紹介

山城荒平：副院長，不整脈センター長

山下宗一郎：医長

坂田憲佑：医員

黒田奈巳：非常勤

## ■診療内容

不整脈専門外来を月・火・水・金曜日の午前に行っている。月・水曜日は山城が担当し，火曜日は黒田，金曜日は山下が担当している。また，水曜日にデバイスチェックの外来を行っている。

不整脈に対するカテーテルアブレーション治療を月曜日から金曜日に，ペースメーカーなどデバイスの植え込みを適宜行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

持続性心房細動に対して心房細動中に多極カテーテルでマッピングし，ローターを検出する方法で良好な成績をあげ，注目されている。

ブルガダ症候群に対する心外膜アブレーションや下大静脈欠損や，先天性心疾患術後に伴う頻脈に対してのアブレーションなど，他院で取り組むのが困難な症例に対してカテーテルアブレーションを施行してきた。

リモートマグネティックナビゲーションシステム(米国，

ステレオタキシス社製)を有するため，今まで不可能であったカテーテル操作が可能になり，他院のアブレーション不成功例に対して不整脈の根治に成功している。

また，詳細なマッピングが可能なりズミアマッピングシステム(ボストン・サイエンティフィック社製)を大阪で初めて導入し，複雑な回路を有する頻拍に使用している。

ホームページをリニューアルし，我々の施行可能な医療を伝えている。Youtubeの動画を公開し，すべての人に理解しやすいようにしている。

## ■今後の展望

あらゆる不整脈に対応できる利点を活かして，より遠方からの紹介患者が増えるように広報活動を行う。

外来，病棟，カテ室の看護師が病棟所属のナースで統一され，初診から入院，退院までシームレス看護が可能となった。患者が安心して治療できるシステムを強固にしてい

く。  
大阪高槻心房細動アブレーションライブは市民講座，シンポジウム，ライブデモを一体として当院で開催している。毎年参加者が多く，市民講座も好評である。3日間の参加者は600名に達した。

市民講座などを通じて，アブレーション治療の有用性を今後も広めていく。

表. 不整脈治療(2018年)

カテーテルアブレーション(心筋焼灼術)	344例
マグネティックナビゲーションを用いたアブレーション	136例
心房細動に対するアブレーション	256例
心室性不整脈に対するアブレーション	37例
デバイス植え込み	71例
徐脈用ペースメーカー	56例
植え込み型除細動器	6例
心不全用両心室ペースメーカー	7例
植え込み型心電計(ILR)	2例

## 腎臓内科・人工透析科（高槻腎センター）

### ■スタッフ紹介

高橋利和（1994年卒）：

日本腎臓学会腎臓専門医・指導医

日本透析医学会透析専門医・指導医

日本内科学会認定内科医

日本内科学会総合内科専門医

徳島大学臨床教授，大阪医科大学臨床教育教授

山根光貴（2015年卒）：

後期研修医

### ■診療内容

腎炎・ネフローゼ，透析導入などの入院受け入れを随時行っている。腎生検は検査日を火曜日午後とした。

人工透析科：2017年6月より高槻病院3階へ移転。25床で運用している。

重症患者に対してはICUにて血液透析や特殊血液浄化を行った。

### ■2018年度のトピックス・実績

1) 腎炎，ネフローゼを中心とした腎疾患の治療と末期腎不全の加療が入院患者の中心であった。

2) 腎病理の臨床的な評価や後期研修医の教育のため，大阪や京都での腎病理検討会へ加盟し，定期的な研修を行った。大阪医科大学と連携し，合同の腎臓内科症例検討会を2か月に1回行っている。

3) 末期腎不全・透析に至る前の慢性腎臓病の段階での生活指導や病気に対する理解を深めることを目的とした腎臓病教育指導外来を2011年度より開始。対象患者をCKDstageIIまで拡大し，今年度は計99件行った。また，腎臓病療法指導士の資格取得のための研修施設に今年度も指定された。

4) 各教育・施設認定に関する活動

2011年度より高橋が徳島大学臨床教授となり，徳島大学の学生の学外教育の受け入れを行っている。また，2015年度より大阪医科大学臨床教育教授となり，大阪医科大学6年生の学外実習も行うようになった。昨年に引き続き大阪医科大学泌尿器科後期研修医に対する腎不全教育目的で透析室への受け入れを行った。

5) 透析室としての活動

2017年6月に愛仁会リハビリテーション病院から高槻病院へ透析室が移転し，25床の透析室として運用。

LDLアフェレーシス，LCAP，PMA等の特殊血液浄化も昨年同様積極的に行っている（表参照）。

2018年度は35名の透析導入を行った。

6) 地域での活動

慢性腎臓病の啓発及びCKDネットワークの構築のため各方面への講演活動を行った。2018年9月1日には，大阪慢性腎臓病対策協議会の協力，大阪府，高槻市の後援の下，大阪医科大学と共同で市民公開講座を開催し盛況であった。また，2018年4月21日には大阪府茨木保健所の協力の下，茨木市でも慢性腎臓病についての市民公開講座を行った。

### ■今後の展望

当医療圏での腎臓内科の需要に対し専門医が不足している状況が続いている。今年度は，大阪医科大学泌尿器科・腎臓内科と定期的なカンファレンスや会合のみならず学生教育においても連携が図れた。今後もより積極的に連携をとっていきたい。

2018年度は三島医療圏における慢性腎臓病の啓発活動を精力的に行うことができた。地域の連携を更に深化し，CKDネットワークの構築を目指したい。

表. 特殊血液浄化件数

(単位:件)

GMA	PMX	CRRT	CART	PE
13	1	213	3	10

# 小児科・新生児小児科（外来・小児病棟）

## ■診療内容

外来は午前一般診療を3～4診体制で行い、午後は専門外来、乳児健診、予防接種を主に行っている。専門外来は当院スタッフのみならず他大学・施設スタッフとの連携を行い、アレルギー外来、心臓外来、神経外来、腎臓外来、内分泌・代謝外来、発達相談外来、在宅ケア外来を開設している。時間外、救急診療では、外傷も含めた二次、三次救急疾患の受け入れを断ることなく対応する体制を整えている。

小児病棟は初期研修医・後期研修医・指導医で構成する主治医グループ制をとり、日々の診療のみならず、プレゼンテーション、学会発表、論文作成などの教育も精力的に行っている。研修医の指導を目的とした朝、夕のカンファレンスや、部長・医長病棟回診、週1回の長期入院患者のカンファレンスを行い情報共有を行っている。その他看護師向けの勉強会や研修医向けの勉強会、英文論文の抄読会も定期的で開催している。当科は医学生の見学者も多く、熱心に対応している。

## ■2018年度のトピックス・実績

外来延べ患者数は34,989名であり、時間外患者は4,064名であった。入院患者数は2,016名で、日勤帯の入院患者数は884名、時間外入院患者数は1,132名であった。他院からの紹介患者数は2,481名であり、そのうち入院した患者数は999名であった。小児アレルギー専門医の着任に伴い経口免疫療法を含めたアレルギー負荷試験入院患者数も増加している。

## ■今後の展望

2017年度より小児センター（病棟）、小児科外来は新病院での運営が始まった。小児センターでは個室が増加し、感染隔離も徹底して行えるようになった。モニター設備もより一層充実し、厳密な管理を要する重症患者も併設するPICUと連携して受け入れ可能である。

外来と小児センターとの距離が近くなり、スムーズな入院が可能になった。今後も患者のニーズに応じたケアを提供できるような体制を作っていく。また他院との連携を更に深め、さまざまな病態に対応し得る外来・小児病棟の運営を行っていく。

表. 主な入院主病名

(2018/4/1～2019/3/31退院患者)

主な入院疾患名	件数(件)
ウイルス性肺炎/細菌性肺炎	332
ウイルス性腸炎/細菌性腸炎	196
急性上気道炎/中耳炎	167
気管支喘息	155
痙攣	154
RSウイルス肺炎	137
川崎病	68
アレルギー負荷試験	63
インフルエンザA/B	57
てんかん発作/重積	53
頭部打撲/脳振盪	44
心疾患(心臓カテーテル検査・治療を含む)	42
腎炎/腎盂腎炎	40
アナフィラキシー	35
ケトン血性嘔吐症	32
虫垂炎	28
新生児黄疸	26
リンパ節炎	24
低身長症	23
頭蓋骨骨折/頭蓋内出血	23
腸重積症	22
頭部以外の骨折/外傷	18
IgA血管炎/紫斑病	15
腸間膜リンパ節炎	15
低血糖	13
熱傷	12
脳炎/脳症	12
急性薬物中毒	11
蜂窩織炎	11
哺乳不全	11
ウイルス性髄膜炎/細菌性髄膜炎	10
呼吸不全	8
心身症	7
イレウス	6
消化管異物	6
糖尿病	6

## NICU・GCU

## ■スタッフ紹介

2018年の新生児専任医師は10名、後期研修医3～4名、初期研修医1～2名である。専任医師は全員小児科学会専門医を取得しており、更に上級医は周産期新生児専門医も取得している。専任スタッフはそれぞれが何らかのサブスペシャリティーを持っており、総合的な新生児医療のスキルUPはもちろんであるが、それぞれのサブスペシャリティーを活かしたより高度な新生児医療を提供できるように研鑽を積んでいる。後期研修医には将来新生児医療の道に積極的に進みたいと思ってもらえるような経験やサポートを行って、未来の新生児医療の担い手の育成を行っている。

## ■診療内容

現在NICU21床、GCU27床で運営している。当直は2名体制で行っており、院内出生児のみならず、院外からの搬送入院に対しても、迅速に対応できるような態勢をとっている。朝の回診は看護師や理学療法士、臨床心理士、NICU 薬剤師などコメディカルとともに患者の情報共有や、治療方針についてディスカッションを行い、夕方は主にNICUの重症児について医師のみの回診を行っている。またあらゆる新生児疾患に対応すべく、小児外科・小児脳神経外科疾患・先天性心疾患についても常時即応体制にあり、PICUとの連携により、ECMOや血液浄化・透析などが必要な症例の受け入れも行っている。また近年、胎児診断技術の向上によって、さまざまな疾患が胎児期よりわかるようになってきた。しかし、診断後にその分娩計画や児の治療計画、両親の心的面のサポートなどへの体制は十分ではない。このような胎児診断がされた胎児・両親を病院の総力を挙げてサポートするために、2012年より「プレネイタルサポートチーム」が発足した。

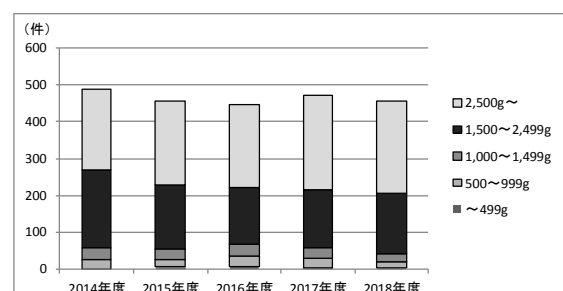


図1. 出生体重別入院数の変化

産科・新生児科・小児外科・小児脳神経外科による診療部と各部門の看護師、SW、心理士、理学療法士などによる多職種カンファレンスを行っており、各部署での情報共有や診療方針についてディスカッションを行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度を振り返ると、2017年度に病棟の移転を行いNICUにおいては本邦初の11床の個室を整備したが、そのハード面の大きな変化にかなり適応して、より家族を中心とした医療環境を提供できるようになった年度であった。実績面では457名の入院数で、うち出生体重が1,000g未満の超低出生体重児は20名、1,500g未満の極低出生体重児は43名であった(図1)。入院経路は緊急母体搬送からの入院数が100名前後。新生児搬送数も100名前後でこの数年は大きな変化はない(図2)。死亡症例は4名であったが、前年までの課題であった超早産児の重症の壊死性腸炎による死亡例は0例であった。また何らかの外科手術を行った症例は34名で2017年度で激減していた外科症例が例年通りの数値となった。

## ■今後の展望

2017年にNICU・GCUともに新病棟へ移転を行い、NICUでは日本では初めての完全個室管理を行える11床のベッドを用意した。今日の周産期医療の発展に伴い、合併症なく退院できる重症例が増加している。しかし入院中の母子分離がその後の発達へ影響を与えることや、NICU退院児に対する虐待などの問題が生じてきているのが現状である。そのような問題に対して高槻病院では集中治療の質を落とすことなく、家族が家族として過ごすことができるような環境の提供と家族全体のサポートを更に実践していき、日本の新生児医療の先駆けとしての取り組みを行っていく。

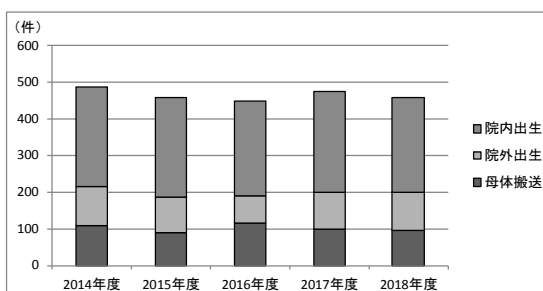


図2. 経路別入院数の変化



# P I C U

## ■スタッフ紹介

起塚と大西が専従医として原則的に PICU 内に常駐している。

## ■診療内容

重症小児の集中治療を内因性/外因性にかかわらず対応している。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度の入室者は411名で例年並みの入室患者数となった。そのうち、肺炎、脳症、腫瘍といった内因性疾患が362例（88%）、外傷、異物誤嚥などの外因性疾患が49例（12%）であった。内因性疾患の内訳では気道呼吸器系疾患と神経疾患が多いのが特徴である。外因性疾患は頭部外傷が多かった。術後管理を除いた症例における気管挿管例は27例で例年並みであったが、CRRT、ECMO等の

集中治療管理は減少傾向であった。引き続き、患者集約につとめていく必要がある。

## ■今後の展望

2018年11月から当院は小児救命救急センターの指定を受けた。救急隊から重症症例を専用のホットラインによる連絡経路を新たに導入した。このシステムによる患者集約に期待したい。当院救急外来に搬入された小児重症患者をスムーズに診療するため、PICU看護師の応援体制を確立し、シミュレーション教育を行った。今後も院内の連携を進めていきたい。

最後に我々の施設は日本集中治療医学会が運営する小児集中治療協議会のメンバーに2019年度登録されることになった。日本の他のPICUと情報交換し切磋琢磨し、更に日本のPICU医療にも貢献していきたい。

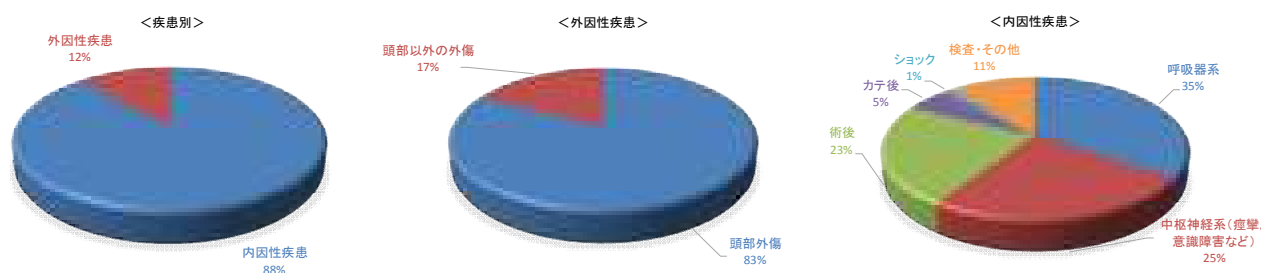


図. PICU 入室患者の疾患分類

表. PICU 入室者総数の推移

(単位:名)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
入室患者総数	390	352	329	411

2014年12月PICU開設

(単位:件)

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
気管挿管(術後除く)	14	13	24	28	35	24	27
CRRT			1	1	3	5	1
PE			1	1	4	5	2
ECMO				1	2	3	1
脳保護				13	11	18	8
ICP			1	2	5	3	4

# 小児外科

## ■スタッフ紹介

2018年度の小児外科は小児外科主任部長 津川二郎(日本小児外科学会指導医・専門医), 小児外科部長 西島栄治(日本小児外科学会指導医・専門医), 小児外科医長 岡本光正(日本小児外科学会専門医), 小児外科医員 服部健吾(日本小児外科学会専門医)の4名のスタッフ及び後期研修医 渡部 彩の5名体制で診療を行った。また初期研修医の小児科コース, 外科コースの外科研修の一環として初期研修医を受け入れ指導した。

## ■診療体制

日本小児外科学会認定施設であり, 小児外科医療における高次医療機関として365日24時間小児外科患者を受け入れ, 診療を行っている。外来診療はスタッフを中心に交代で月曜日, 水曜日, 木曜日, 金曜日の午前診を行っており, 水曜日, 木曜日は午後にも学童を中心とした外来診療を行っている。金曜日の午前中には西島部長が小児排泄・便秘外来を行っている。この外来ではWOC看護師とともに習慣性慢性便秘症や二分脊椎症に伴う管理困難な便秘に対して排泄管理・指導を行っている。病棟では毎日朝8時からPICUでの小児科, 小児脳神経外科, 小児麻酔科との合同カンファレンスを行い, その後に小児センター, NICU, GCUの総回診を行っている。入院症例の定期手術日は月曜日, 火曜日, 木曜日, 金曜日, 日帰り手術は火曜日, 木曜日, 金曜日の午前に行っている。診療時間外は2名体制で24時間オンコール体制をとっており, いつでも患者の受け入れ及び緊急手術が施行できる体制となっている。

## ■活動内容・トピックス

表に2018年の手術症例, 新生児手術症例の内容を示す。総手術数及び新生児外科手術症例はわずかに増加した。鼠径ヘルニア根治術は94例で前年度よりやや減少したが, 鼠径ヘルニアの手術術式に鏡視下手術を導入し, 94例中13例は鏡視下手術を行った。鼠径ヘルニア手術の多くを日帰り手術で行っているが, 鏡視下手術でも安全に日帰り手術が行えており, 今後も症例数の増加が期待できる。新生児外科手術は20例で, 2017年よりわずかに増加した。

当科では, 重症心身障害児に対する医療にも積極的に取り組み, 気管切開や胃瘻造設術, 誤嚥性肺炎に対する喉頭気管分離術などの手術件数は増加傾向にある。また小児の気道疾患に対する検査, 治療にも力を入れており他府県からの紹介も多く, 積極的に行っている。特に声門下腔狭窄症の難治症例に対して Partial cricotracheal resection (PCTR) に取り組み, 今まで抜管困難であった症例の治療に成功している。2018年は2例の喉頭気管形成術を行い, 全例気管切開カニューレの抜去に成功した。鏡視下手術にも積極的に取り組み, 噴門形成術や胸腔鏡手術も増えつつある。急性虫垂炎は全例で鏡視下手術を行った。PICUでの運営管理に, 小児外科も積極的に携わっている。小児外科から見たPICUのメリットは, 限られた外科医のマンパワーを有効活用できることと教育の場を共有できることにあると考えている。周術期の重症管理を共同で行うため, 少ない外科医でより多くの手術に集中できる環境が可能となる。また複数診療科, 多職種による管理や回診は, 当該科だけではなく小児科の若い医師にとっても多数の経験を積むことが可能と考えている。

## ■次年度方針・抱負又は将来展望

当院は大阪北部の母子周産期総合医療センターであり, 母体搬送や低出生体重児の受け入れを積極的に行っており, 新生児症例も先天奇形のみならず早産, 低出生体重児の周産期管理に起因する症例も多い。しかし産科からの出生前診断症例は減少傾向である。全国的な出生数の減少, 小児の人口減少だけでなく, 当院近隣にも小児外科施設ができたため大阪北摂地域は, 小児外科医療にとって過当競争となりつつある。医療圏を越えて高槻病院小児医療(小児科, 新生児科, 小児集中治療科, 小児外科, 小児脳神経外科, 小児麻酔科)のレベルの高さ, チーム力をアピールし症例の増加を目指したい。小児の気道疾患について大阪府下や府外から多くの症例を紹介いただいている。昨年に引き続き積極的に治療に取り組み, 小児の気道外科, 特に喉頭狭窄に関しては全国一を目指していく方針である。近年小児外科領域でも腹腔鏡下手術などの内視鏡手術の導入が広がってきており, 当科でも適応疾患を広げて積極的に行っている。2018年度からは小児泌尿器疾患の手術,

検査にも取り組んでおり、小児科医と協力して症例を増やしていきたい。また、小児外科学会認定施設として、豊富な症例を生かして小児外科専門医の育成に力を入れており、今後も後期研修医を積極的に受け入れていく方針である。

表. 2018年手術症例

(単位:例)

手術	手術症例数	新生児手術症例数
横隔膜ヘルニア, 弛緩症手術	7	5
膿胸手術	0	
気胸手術	1	
肺葉切除術	1	
気管形成術(喉頭気管形成術含む)	2	
動脈管結紮術	5	2
漏斗胸手術	1	
喉頭気管分離術	4	
腕頭動脈離断術	1	
気管切開術	12	
新生児消化管穿孔, 壊死性腸炎手術	0	
食道閉鎖症根治術	1	1
噴門形成術	5	
幽門筋切開術	3	1
十二指腸閉鎖症手術	3	3
腸閉鎖症手術	0	
腸回転異常症手術	1	1
臍帯ヘルニア(腹壁破裂)手術	5	2
Hirschsprung病根治術	2	
直腸生検術	1	
中間位・高位鎖肛手術	1	
低位鎖肛手術	1	1
イレウス手術	8	1
卵巣捻転・卵巣腫瘍摘出手術	3	1
人工肛門造設術	4	
胃・小腸瘻造設術	11	2
胃瘻・人工肛門閉鎖術	1	
腸重積症(観血的整復)	3	
痔瘻・痔核手術	0	
胆道閉鎖症手術	0	
胆道拡張症手術	0	
鼠径ヘルニア手術	94	
停留精巣手術	21	
精巣摘出術	1	
精巣捻転手術	1	
包茎手術	2	
尿管遺残症手術	2	
虫垂切除術	41	
臍ヘルニア手術	25	
梨状窩瘻手術	1	
リンパ管腫硬化療法	0	
副耳切除術	1	
耳前瘻孔摘出手術	1	
舌小帯切離手術	1	
気管支鏡検査, 処置	73	2
消化管内視鏡(上部・下部)検査	4	
プロビアクカテーテル挿入・抜去術	6	
その他	34	
総症例数	395	22

# I C U

## ■スタッフ紹介

部長：岡 隆紀

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構），  
日本外科学会指導医・認定医，日本胸部外科学会認定医，  
日本外科学会外科専門医

## ■診療内容

毎日（土日祝日除く）：ICU 回診・カンファレンス

## ■2018 年度のトピックス・実績

毎朝 8 時半から医師（高岡院長・櫛副院長・大北センター長も含め）・ナース・臨床工学技士・理学療法士・薬剤

師・栄養士・事務員で回診を行い，患者の治療方針について検討を行っている。

現体制も 5 年目を迎え，“高槻病院の最後の砦” の役割も周知されてきたようである。今年度も産婦人科の妊婦高血圧の症例を数例ではあるが経験した。スタッフのモチベーションも高く，all for the patient を合言葉に日々研鑽している。

## ■今後の展望

スタッフ教育，特に日本集中治療学会総会への参加・発表，研修医・新人ナースの教育の充実を図りたい。

# 呼吸器外科

## ■スタッフ紹介

部長：椎名祥隆（1986年卒）

医員：大隈宏通（2012年卒）

## ■診療体制

日本呼吸器外科学会認定施設修練施設

外来：月曜日（午後）椎名

水曜日（午前）岡村・椎名

手術：予定手術は火曜日と木曜日に行い、緊急手術は随時行っている。

病棟：呼吸器外科病棟は新館7階南病棟で、症例によってはICUで術後管理を行った。

## ■2018年度のトピックス・実績

呼吸器疾患病棟である7階南病棟において、内科・外科の枠を超えた呼吸器領域の診断・治療を行った。さらに看護師・薬剤師・理学療法士・栄養士・ケースワーカーによるチーム体制で方針を決定し、一貫した診療を行った。今年度は呼吸器外科医が1名から2名体制となったので、診断・治療がより早く効率的になったと思われる。一方、内科的治療で改善の見込みがないと判断された場合は、すぐに呼吸器外科と検討が行われるため外科治療の開始がより至適になった。今年も多かった気胸の遷延性症例は、すぐに呼吸器内科から連絡され手術が遅れることはほとんどなかった。

心臓・大血管浸潤の疑いがある肺悪性腫瘍は以前は神戸大学病院で紹介していたが、心臓血管外科に大北先生が赴任されたので今年からこのような症例は心臓血管外科の協力の下にすべて当科で手術を行った。また、呼吸器外科医2名体制になったので、これまで神戸大学病院へ紹介していた重症な肺癌症例も当科で手術することができた。その結果、肺悪性腫瘍の手術数は昨年の24例から、今年度は36例に増えた。一方、気胸等を含む全手術数も昨年の59例から、今年度は78例に増加した。

呼吸器・縦隔領域の悪性腫瘍に対しては、今後も大阪府がん診療拠点病院として呼吸器内科・呼吸器外科・放射線

腫瘍科がこれまで以上に良好に連携し、効率的で専門化された治療を行う。

## ■今後の展望

高齢で呼吸機能低下を伴う肺癌手術が多くなってきている。高齢者症例の多くは体力低下のみではなく心疾患・肺気腫・糖尿病などの併存疾患があるので、術前評価として「運動能力・PS」「呼吸機能」「心機能」「併存疾患の管理・治療」が重要と考えている。

・高齢者手術の基本方針

### (1) 低侵襲手術

キズが小さな手術（胸腔鏡手術）と、症例に応じて肺切除量も少ない手術（縮小手術）も行っている。肺悪性腫瘍手術のほとんどが完全胸腔鏡下手術で行われた。

### (2) 包括的なリハビリ

肺切除後に呼吸機能は更に低下するので外科手術のみでは良好な成績を出すことはできない。したがって、呼吸リハビリが重要となる。術前からリハビリスタッフが真剣に取り組んでおり、実施内容と評価方法も具体的で充実している。これはとても有用であり、また特色になっている。低侵襲手術と優れたリハビリがよく連携しているため、引き続き的確な術後評価を継続していく必要があると考えている。

・心臓・大血管に浸潤する肺悪性腫瘍

前述のように、今後もこのような症例は心臓血管外科の協力の下に当科で手術を行っていく。

表. 手術数

(単位:例)

疾患名	例数
肺悪性腫瘍手術	36 (肺癌32+転移性肺腫瘍4)
良性腫瘍	2
縦隔腫瘍	1
気胸	31
血胸	2
生検	3
その他	3
計	78

## 心臓血管外科

### ■スタッフ紹介

心臓大血管センター センター長：大北 裕

日本外科学会専門医，日本胸部外科学会理事長，日本外科学会指導医，代議員，日本循環器学会専門医，評議員，日本脈管学会特別会員，日本血管外科学会名誉会員，日本心臓血管外科学会特別会員，日本心臓血管外科専門医認定機構委員，日本冠動脈外科学会評議員，日本心臓血管外科手術データベース機構委員，The Society of Thoracic Surgeon: Member (1996-)，The European Association for Cardio - Thoracic Surgery: Member (1996-)，The International Society of Cardiovascular Surgery: Member (1994-)，American Heart Association Fellow in the Council in Cardiovascular Surgery (2002-)，American Association for Thoracic Surgery: Member (1999-)，Asian Society for Cardio-Thoracic Surgery: Council (2011-)

主任部長：岡 隆紀

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構），日本外科学会指導医・認定医，日本胸部外科学会認医，日本外科学会外科専門医，ヨーロッパ胸部外科学会正会員

部長：常深孝太郎

心臓血管外科専門医（心臓血管外科専門医認定機構・修練指導者），日本外科学会外科専門医，日本外科学会指導医・認定医，日本心臓リハビリテーション学会指導士，日本脈管学会専門医，日本血管外科学会血管内治療医

専攻医：川端 良

### ■診療内容

成人心臓疾患・大血管（胸～腹部の動脈）疾患・末梢血管（手足の動脈）疾患・静脈疾患など。

### ■2018年度のトピックス・実績

大北センター長就任に伴い，日本全国から手術依頼も増加してきている。

特に大動脈弁の自己弁温存手術は日本トップクラスの症例数・成績を誇っている。

大動脈手術依頼も多く，それに伴い大動脈ステントグラフトの症例数も増加した。

### ■今後の展望

心臓血管疾患をオールラウンドにこなしていき，地域の方のニーズと期待に応えていきたい。

# 消化器外科

## ■スタッフ紹介

常務理事：家永徹也

主任部長：川崎健太郎

部長：岡崎太郎

医長：大和田善之

医員：細野雅義

専攻医：岩瀬瀬怜奈， 田中聡志

## ■診療体制

外来：一般外来は、月曜日から金曜日までの午前診として9時から12時まで、火曜日は午後診も行っている。専門外来として、火曜日から金曜日の午前ないしは午後に適宜ストーマ外来を行っている。

病棟：新館6階の24床が割り当てられている。毎朝8時40分から回診、火曜日の16時から全体回診を行っている。

大手術や重症例は新館3階のICUで管理している。

手術：予定手術は月曜日から金曜日まで行っている。緊急手術に対しては24時間体制で対応している。

## ■2018年度のトピックス・実績

消化器悪性及び良性疾患に対する外科治療を主として担当している。手術件数は609件であった。

### ・腹腔鏡手術

腹腔鏡手術を積極的に導入し、食道、胃、大腸、胆嚢、虫垂、ヘルニア、腸閉塞、消化管バイパス術などにも行い、幅広く対応している。症例によっては更なる整容性を目指したReduced ports surgeryも取り入れている。腹腔鏡手術実施件数は、2015年度は約190件であったが、2018年度は約467件と飛躍的に増加している。

### ・消化管悪性疾患に対する治療

診療ガイドラインに準拠して治療方針を決定している。手術は基本的に鏡視下手術を行っている。進行癌には術前や術後に化学療法を加えることにより生存率の向上を目指している。

食道癌には進行癌であっても、全例腹臥位鏡視下手術を行っている。積極的に三領域郭清の手術を行う。

胃癌は、早期癌はもとより進行癌に対しても腹腔鏡手術で対応している。幽門輪温存などの機能温存も行っている。

大腸癌も大部分を腹腔鏡手術で対応している。下部直腸癌に対しては可能な限り肛門を温存するために、(場合により一時的回腸瘻造設)超低位前方切除術を、進行度を考慮して選択している。肝転移や肺転移に対しては、切除可能であれば切除を第一選択とし、切除できない場合には化学療法を行っている。

### ・肝胆膵悪性疾患に対する治療

肝癌、膵癌、及び胆道癌は悪性度が高く予後不良であるが、消化器内科や放射線診断科とも連携し、予後向上のために集学的治療を積極的に展開している。局所進行癌においても血管合併切除、他臓器合併切除を行って切除率を高めている。非切除例に対しては、基本的に放射線療法、化学療法を各科と連携して行い症状緩和に努めるが、腫瘍縮小が得られれば切除へのコンバージョンも検討している。

### ・良性疾患に対する治療

胆嚢結石症や急性胆嚢炎も腹腔鏡で全例行っている。炎症の軽いものにはReduced ports surgeryを導入している。

急性虫垂炎は基本的に腹腔鏡で対応している。虫垂周囲膿瘍形成を伴う急性虫垂炎に対しては、侵襲を減らすため待機的腹腔鏡下虫垂切除術(IA)を導入している。

鼠径ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニアも全麻可能症例には腹腔鏡で対応している。2018年度は鼠径ヘルニアの85%(105/123)を腹腔鏡で行った。

## ■今後の展望

### ・消化器外科診療のレベルアップ

地域医療支援病院、がん診療拠点病院の認定を受ける急性期病院では、救急診療、がん診療が消化器外科診療の2本柱となる。現在、高槻病院が三島医療圏救急医療の一翼を担っていることから、現在の緊急手術対応体制を維持しつつ、術後生存率や在宅復帰率の向上に努めていきたい。また、がん診療においては現在の消化器内科、放射線診断科、病理診断科との効率的な連携を維持しながら、治療方針の標準化と治療水準の向上をこれまで同様に目指していく。今後の外科診療は一層の高度な専門性と高い治療成績が求められることが予想され、高槻病院消化器外科は今後も三島医療圏での確固たる地位確立を目指す。

表. 手術実績

(単位:件)

臓器	疾患	術式	開腹	腹腔鏡下	小計
食道	食道癌・その他			3	3
胃	胃癌	幽門側胃切除術	3	19	22
		胃全摘術	7		7
		その他	4		4
	その他(GIST含む)	胃部分切除術	3	5	8
結腸	結腸癌		9	52	61
	その他		4	3	7
	虫垂炎		9	33	42
直腸	直腸癌		6	15	21
	その他			14	14
肛門	痔核・痔瘻・肛門周囲膿瘍		12		12
	その他		7		7
肝	原発性若しくは転移性肝癌		14		14
	肝嚢胞				0
胆嚢	胆石症, 総胆管結石		6	101	107
	胆嚢癌		3		3
胆管					0
膵臓	膵癌	膵頭十二指腸切除術	5		5
		膵体尾部切除	4	1	5
	その他				0
小腸	イレウス, 腫瘍他		22	3	25
その他	鼠径/大腿ヘルニア		18	105	123
	腹壁癒痕/臍ヘルニア		6	14	20
	汎発性腹膜炎			5	5
	人工肛門造設術			11	11
	CVポート造設術			70	70
	その他				13
合 計			142	467	609



## 乳腺外科

### ■スタッフ紹介

常勤医：三成善光，家永徹也

非常勤医：下山京子

### ■診療体制又は活動目標

週2日（月曜日/午前，火曜日/午前・午後）を手術日とし，週3～4例の乳癌手術を行う体制を整えている。

週1回（木曜日午後）を乳腺生検検査日に充て，ステレオタクティック吸引式針生検（マンモトーム生検），針生検（VAB，CNB），吸引細胞診を行っている。

外来は常勤医による週4日・6コマの外来，非常勤医による週2日・2コマの外来を行っている。

### ■活動内容及びトピックス

当科では乳腺疾患全般に対して診療を行っており，乳癌については検診から検診精査，乳癌の診断，初期治療，再発治療を行っている。近年，医療の質の向上，医療の均てん化が重要となっており，ガイドライン等を参考に，データ，エビデンスに基づく診療，標準的な診療を行うよう心掛けている。

乳癌の診断については，デジタルマンモグラフィ装置，乳房超音波検査，MRIなどの画像検査や，穿刺吸引細胞診，CNB，ステレオタクティックマンモトーム生検装置などの生検デバイスを駆使し，的確に病変部を描出，把握し，低侵襲に確定診断までができるようにしている。また乳癌の診断の段階で，腫瘍の状況（大きさ，リンパ節転移の有無），臨床病理学的な検索による癌の悪性度，性質（Intrinsic subtype）等を把握し，より有効な治療法を検討している。腫瘍の状態や患者の状況によっては術前療法を行い，腫瘍の縮小，down stagingを行ってから，根治手術に繋げるようにしている。手術については整容性，低侵襲性を考慮した乳房温存手術はもとより，cN0症例に対してはセンチネルリンパ節生検により腋窩郭清省略を行い，更に非浸潤癌症例に対してはセンチネルリンパ節生検そのものの省略も行い，術後の腕のリンパ浮腫の発生の低減を図っている。昨年は全乳癌手術症例72例中，58例にセンチネルリンパ節生検を行った。近年では乳癌の根治性のみならず，整容性も重要となってきた。2013年か

らは乳癌に対して，乳房全切除後にプレスト・インプラントを用いた乳房再建が保険診療の適応となっており，当科でも乳房切除が必要となる乳癌症例において，乳房再建が適切にできるように，形成外科と協力している。さらに早期の乳癌に対しては，二次再建だけでなく一次（同時）再建も行える体制を整えており，昨年度は2例の一次再建を行った。

術後の補助療法や，再発治療においては多数の新薬（分子標的薬，免疫チェックポイント阻害薬等）が登場し，治療が多彩となるとともに，複雑となってきた。加えて，患者と医療者の協働意思決定（Shared decision making）が求められるようになってきており，患者が適切な治療法を選択できるようにデータやエビデンスを情報提供し，患者の状況や腫瘍の状態，悪性度を考慮して，より良い治療法を提案できるよう心掛けている。

乳癌診療においても多様化，複雑化する診療に対して，多職種への参画によるチーム医療が重要となってきた。当科でも多職種からなる高槻乳癌臨床支援チームで定期的な乳腺カンファレンスを行い，症例検討を行っている。近年のがん診療では，通常の診療に加え，がんリハビリテーションや，心のケア（サイコオンコロジー）などが求められるようになっており，外科医，放射線科医，形成外科医，精神科医，薬剤師，看護師，理学療法士，臨床心理士などの多くの専門職との連携を図っている。

### ■次年度方針・抱負又は将来展望

検診の普及や診断技術の向上による早期乳癌の増加などにより，乳癌の治療成績の向上に加えて，より侵襲の少ない手術，患者のQOLを重視した治療が求められるようになってきている。また，若年齢層の乳癌患者に対しては，若年女性の抱える社会的な要因（妊孕性保持，授乳期乳癌，就労支援）に対しても配慮が必要になっている。

また，がんゲノム医療が徐々に普及してきており，今後，がん遺伝子にかかわる診療が重要性を増してくると考えられる。乳癌領域では遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）が知られているが，2019年，当院は遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設の施設認定を取得した。今後，地域の遺伝性乳癌卵巣癌症候群の診療に貢献するべく，体制を整える。

地域連携はいよいよ重要性を増し、地域診療所と連携強化が必要になる。従来、乳癌患者に対して地域連携バスを用いて診療連携を行ってきたが、今後も引き続き、病院、診療所間の連続したきめの細かい診療を行えるよう取り組んでいく。

表. 乳腺外科手術件数

(単位:件)

術 式		症例数
乳房悪性腫瘍手術	乳房温存手術	32
	乳房切除術	40
	小計 (うちセンチネルリンパ節生検)	72 (58)
乳房良性腫瘍手術	乳房腫瘍切除術	15
CVポート造設・除去術		29
その他(リンパ節生検等)		7
手術合計		123

## 神経内科

### ■スタッフ紹介

松下達生（1990年卒 部長）

日本内科学会 認定内科医・指導医

日本神経学会 専門医・指導医・代議員

日本頭痛学会 専門医

清家尚彦（2007年卒 医長）

日本内科学会 認定内科医

日本神経学会 専門医

### ■診療内容

専門医2名体制で、月曜日から金曜日まで午前は初診、紹介及び再診外来（月・水・金曜日：松下，木曜日：清家），午後は週4日（月・水・金曜日：松下，木曜日：清家）の再診外来，また水・木曜日午前は非常勤医の応援を得て2診体制での診療を行っている。松下は引き続き第3火曜日午後に千船病院での外来診療を行っている。

主に木曜日午後に筋・神経生検や針筋電図など侵襲手技を行い，火曜日午前は病棟カンファレンス，午後にはリハビリテーション科とともに臨床カンファレンスを定期的に行っている。

### ■2018年度のトピックス・実績

スタッフ数は2名のままで固定しているが，外来患者数は初診407名，再診6,170名の計6,577名であった。入院患者数は247名で，主な疾患では脳血管障害217，パーキンソン病や多系統萎縮症，認知症など変性疾患が44，てんかん関連が73，筋疾患13，神経感染症15，ギランバレーや多発性硬化症など神経免疫疾患18などであった。

脳血管障害については，超急性期のt-PA治療はICU，急性期治療はSCUで行い，合併症の複雑な例については外来にて一次・二次予防を継続し，また機能障害についても適宜リハビリテーション科と連携し経時評価しつつ治療を行い，頸動脈高度狭窄など観血治療適応症例は脳神経外科にて血管内治療を依頼している。また脳卒中地域連携パスを導入しており，その件数も年々増加している。パーキンソン病を中心とした変性疾患，特に特定疾患対象患者

の外来患者数は，地域の高齢化を反映し増加傾向にあるが，エリアの多くを担当し，三島地区の治療の要として活動している。大阪医科大学附属病院神経内科，当科，藍野病院と近隣三市医師会，保健所，地域包括センターなどによる三島圏域難病医療ネットワークにおいて，パーキンソン病早期発見・診断のための地域連携ツールの開発を進めている。またリハビリテーション病院との連携で，パーキンソン病入院リハビリプログラムを設定し，今後適応数を増やしていく方向である。てんかん患者は近年社会的注目が集まっているが，近隣に担当科が依然寡少であり，他地域からの紹介や小児科からのcarry over例などを含めて，検査部生理検査部門の迅速な対応を得て入院，外来数とも増加している。認知症は当地域も例に漏れず高齢化とともにADはじめDLB，SD，VDなど増加傾向にある。特に錐体外路症状など神経症状を呈する例について，PD，DLBなどの鑑別診断にRI検査が近年非常に有用視されているが，当院では設備がないため近隣施設でのRI検査を利用しつつ診断，マネジメントに専門性を発揮できるよう努めている。また頭痛外来など専門外来の設置は物理的には不可能だが，松下は頭痛学会専門医であることからネット上各サイトを見ての来院者も増加している。

### ■今後の展望

学会専門医2名体制は変わらず，引き続き日本神経学会准教育施設認定を維持し，神経疾患の診療，教育に努める。また新たな治療手段が一般化してきた脳血管障害，認知症，てんかんや，新ガイドラインの元，新規薬剤が増えてきているパーキンソン病はじめ神経変性疾患，免疫性感染性神経疾患などの担当領域において，更に専門性，先端性を高めていく。長年のことだが三島圏域に神経内科常勤の急性期病院が依然として増えておらず，特に高齢化に伴い増加していく変性疾患等，専門的治療を要する分野では当圏域での診療の中心的役割を担うよう引き続き努めていく。また生活習慣病の増加から脳血管疾患の増加，特にtPA症例の更なる増加も見込まれるが，地域連携パスを通じ病診連携による逆紹介数の増加を目指したい。

## 精神科

### ■スタッフ紹介

2018年度のスタッフは、井上由香主任部長、伊藤晴子医長、家田麻紗医長、島田 稔医師（週半日非常勤）、竹村幸洋医師（週半日非常勤）。

臨床心理士は常勤4名（小寺智子、鈴木佳子、山本百合子、中村彩香）。

### ■診療内容

- (1) 外来診療の継続。
- (2) コンサルテーション・リエゾン活動の継続。
- (3) 精神科リエゾンチームの継続的活動。
- (4) 認知症ケアチームの活動開始。
- (5) 緩和ケアチームへの継続的参加。
- (6) 関連施設（ケアアイ）への週に1回の出向を継続。
- (7) 高槻市の認知症対策連携強化事業の嘱託医を継続。
- (8) 医師卒後研修における精神科の必修化に伴い、当院所属の臨床研修医全員に1か月、若しくはそれ以上の精神科研修指導。

### ■2018年度のトピックス・実績

#### ・外来

2018年度の初診患者数（院内他科からの紹介を含む）は361名〔前年710名〕であった。そのうち、院内他科からの紹介患者数は214名（59.3%）〔前年276名（38.9%）〕であった。

他病院・医院からの紹介患者は135名（37.4%）〔前年223名（31.4%）〕であった。

疾患別の患者数は、表1のとおりである。

#### ・入院

診療体制の変更に伴い精神科主科での入院対応は休止中である。

身体疾患を持つ患者に対する心理的ケアについて、他科の医師や看護スタッフの相談に乗り、連携して治療にあたるコンサルテーション・リエゾン活動を随時行い、精神科リエゾンチームの介入を積極的に行った。

#### ・認知症ケアチーム活動

チーム活動開始にあたり、テンプレート等電子カルテ上のシステムの構築、マニュアル作成、リンクナースの教育、研修会開催等を行った。2018年12月よりカンファレンス・回診を含めた活動を開始した。

#### ・その他

精神科リエゾンチームについては、家田医長を中心として常勤スタッフにて活動した。

緩和ケアチームについては、チーム員として伊藤医長が参加した。

認知症については、通常精神科外来での対応に加えて、介護老人保健施設ケアアイでのコンサルテーション・リエゾン活動、高槻市の認知症対策連携強化事業の嘱託医を井上主任部長が行った。

#### ・心理療法、心理検査

2018年度の心理士による心理療法は1,279件〔前年1,356件〕、心理検査は68件〔前年126件〕であった。患者のさまざまな心理的問題に対し、カウンセリング等を行った。NICU、周産期センター、小児科病棟での心理ケアにも取り組み、心理士による訪床と随時カンファレンスを行った（表2～4）。

### ■今後の展望

今後も他科との連携を深めながら、活発な臨床活動を展開していきたい。

表 1. 精神科外来新患疾患分布

(単位:人)

	2016年度	2017年度	2018年度
器質性症状性精神障害			
認知症(アルツハイマー型, 血管型, 等)	181	173	92
軽度認知障害	32	40	26
せん妄	81	91	60
器質性精神障害	42	25	18
症状性精神障害	2	1	3
その他	6	0	1
精神作用物質使用による精神及び行動の障害			
アルコール依存症	13	9	5
薬物依存症	0	0	0
統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害			
統合失調症(近縁疾患を含む)	16	17	11
妄想性障害	2	5	1
気分(感情)障害			
単極性うつ病	43	40	22
双極性障害(そううつ病)	9	14	3
単極性そう病	0	1	1
神経症性, ストレス関連性及び身体表現性障害			
不安神経症(パニック障害)	78	22	22
社会不安障害	4	35	0
恐怖症	0	2	0
心気症	2	1	0
強迫神経症	4	5	3
心因反応・適応障害	99	104	40
解離性障害	6	6	1
身体表現性障害(不定愁訴群を含む)	20	14	5
摂食障害	7	3	1
睡眠障害	44	39	12
人格障害	3	2	0
小児科領域			
発達障害	10	6	3
注意及び破壊的行動障害	4	3	2
摂食障害	0	0	0
心因反応, 神経症	2	12	5
その他	5	1	5
その他			
心身症	7	2	2
その他	2	11	2
相談のみ(認知症を心配して受診した例含む)	4	11	6
精神疾患なし(同上)	15	15	9
合計	743	710	361

表 2. 臨床心理 活動報告

(単位:件)

	新規ケース	カウンセリング	心理検査	オープン検査	小児科 発達検査	小児脳外 三角頭蓋 心理検査
4月	5	106	12	1	15	2
5月	5	113	9	1	12	1
6月	1	101	2	0	14	1
7月	3	109	3	0	14	1
8月	3	107	4	0	26	2
9月	5	98	10	1	14	0
10月	4	120	8	0	15	1
11月	11	101	3	0	20	0
12月	6	107	2	0	18	2
1月	6	105	5	0	17	1
2月	4	103	1	0	20	0
3月	5	109	9	1	16	3
合計	58	1,279	68	4	201	14

表 3. 精神科外来・心理新規ケース

(単位:件)

	2016年	2017年	2018年
精神作用物質使用による精神及び行動の障害			
アルコール依存	0	0	0
薬物依存	0	0	0
大量服薬後	0	0	0
統合失調症型障害	3	0	1
気分・感情障害			
単極性うつ病	5	5	3
単極性うつ病(産褥)	1	1	0
双極性障害	3	4	5
神経症性, ストレス関連障害及び身体表現性障害			
不安神経症	13	13	8
強迫神経症	2	2	4
心因反応・適応障害	23	23	14
解離性障害	2	0	0
身体表現性障害	6	10	4
摂食障害	2	1	3
人格障害	2	4	2
発達障害	7	3	5
知的障害	3	3	3
脳機能不全	0	2	0
小児科領域			
神経症	2	4	2
心身症	2	1	0
心因反応	1	3	4
発達障害(疑い)	0	3	0
知的障害	1	0	0
不登校・引きこもり	2	1	0
非行	0	0	0
抜毛	0	0	0
吃音	0	0	0
緘黙	0	0	0
大量服薬後	0	1	0
家族相談	0	0	0
合計	80	84	58

表 4. 小児・周産期リエゾン活動

	月	火	水	木	金
AM	NICU	NICU	NICU	NICU	小児病棟
PM	NICU/ 小児病棟		NICU/産科	NICU	NICU

- その他
- ・精神科リエゾンチーム回診参加(毎週水曜日15時~16時)
  - ・プレネイタルサポートチーム会議参加(随時)
  - ・小児在宅支援チーム会議(毎週金曜日13時~14時)
  - ・周産期心理士ネットワーク関西地区研修会開催(4月・11月・1月)
  - ・実習生受け入れ(10月~2月 2名)

# 脳神経外科

## ■スタッフ紹介

前野和重

有田英之

福屋章悟

宇津木玲奈

## ■診療内容

外来 月曜日～金曜日・午前

専門外来 水曜日・午後 脊椎脊髄専門外来

木曜日・午前 脳血管内専門外来

木曜日・午後 脳腫瘍専門外来

検査 月曜日・木曜日

手術 木曜日

病棟 8階東病棟 SCU

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年は当科で初めて後期研修医を受け入れることとなった。これから脳外科を目指す宇津木先生が加わり病棟は活気づいている。また2019年1月から福屋先生から有田先生に人事変更があった。気持ちもリフレッシュされて

治療に臨んでいる。若いメンバーになったため緊急症例に対しても、積極的に手術を行っている。手術は脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、水頭症など多岐にわたり、2018年度手術件数は158件であった。脊椎脊髄、脳血管内、脳腫瘍と3つの専門外来も軌道に乗っており急性期高度専門病院としてのアピールも順調に行っている。さらに2017年12月に開設したSCU（脳卒中専門ケアセンター）も順調である。24時間体制で脳卒中患者を診察加療しており地域に貢献している。

## ■今後の展望

現在、当科の臨床診療は比較的軌道に乗っていると思われる。今後は教育・研究にも力を入れていきたい。研修医・看護師の教育を積極的に行い未来に向けた活気ある診療体制を構築しなければならない。同時に学会発表、論文投稿を行い社会的に認知も広めていく必要がある。さらに周囲からの期待・信頼を勝ち得るためにも、確実に診療実績を積み上げることが必要である。故山崎麻美先生の遺志を継ぎ、これまで以上に積極的に脳卒中を含めた脳外科救急に取り組み、地域医療の充実に貢献したい。

表. 手術実績

(単位:件)

主な項目	手術数
脳腫瘍	21
開頭クリッピング術	3
脳血管内手術	19
ステント留置術	11
開頭血腫除去術	7
慢性硬膜下血腫洗浄ドレナージ術	53
総手術件数	158

# 小児脳神経外科

## ■スタッフ紹介

原田敦子（1996年新潟大学医学部卒業）

宇都宮英綱（1980年福岡大学医学部卒業）

木本優希（2015年大阪大学医学部卒業）（2019年3月退職）

宇津木玲奈（2016年神戸大学医学部卒業）（2019年4月着任予定、脳神経外科と併任）

## ■診療内容

脳神経外科の中で、子どもの中枢性疾患すべてを取り扱う診療科であるが、日本で小児神経外科を標榜する医療機関は、子ども病院を除くとまだ数か所しかない。当院は大阪府最大の総合周産期母子医療センターであり、全国でもトップの周産期医療を担っている。そうした中、小児脳神経外科は2012年4月に開設され、2019年3月で丸7年経過した。北摂、京滋での小児脳神経外科の拠点病院としての役割を果たすだけでなく、臨床的・学術的な質の向上にも努めている。

## ■2018年度のトピックス・実績

開設当初より、小児頭部外傷の受け入れを小児科と連携して24時間体制で行ってきた。2014年にPICUが開設されたことにより、重症小児頭部外傷への対応も可能となった。2018年11月には小児救命救急センターの認定を受

けたため、頭部外傷が以前にもまして増加している。手術や低体温療法などの超急性期治療から亜急性期リハビリテーション、在宅復帰へとシームレスな対応を行っている。

2015年に開設した「赤ちゃんの頭の形外来」は軌道に乗り、2019年3月現在までに209例の頭位性斜頭に対してヘルメット治療を行った。それに伴い、頭蓋変形を主訴とした頭蓋骨縫合早期癒合症の手術症例が増加しており、本年度は18例の手術加療を行った。頭蓋骨縫合早期癒合症の症例の中には、顔面や手指の疾患を合併することが多いため、2016年10月より大阪医科大学形成外科 上田晃一教授、市立奈良病院再建形成外科 久徳茂雄先生の協体制の下、治療にあたっている。

本年度は脳神経外科とともに、大阪大学脳神経外科の研修プログラムに在籍する後期研修医を2名受け入れ、指導を行った。

## ■今後の展望

前任の故山崎麻美先生がライフワークとされていた児童虐待、胎児診断については、どちらも医師の責任と裁量を問われる分野であるが、今後も小児科、新生児科、産婦人科と協力しながら、山崎先生の御遺志を継いで取り組んでいきたい。また、上述のヘルメットを頭蓋骨縫合早期癒合症の術後に応用する新しい治療法についても、更に症例を重ねていきたいと考えている。

表. 手術実績内訳

分類	疾患	術式	
		術式	件数
先天性疾患	水頭症	シャント再建・抜去術	12
		脳室腹腔シャント術	8
		脳室ドレナージ術	7
		内視鏡手術	3
	二分脊椎症	脊髄脂肪腫摘出術	8
		脊髄髄膜瘤修復術	2
		先天性皮膚洞摘出術	1
		キアリ奇形減圧術	1
	頭蓋縫合早期癒合症	頭蓋形成術	12
		内視鏡下頭蓋開溝術	3
		脳圧センサー設置術	2
		骨延長器抜去術	2
腫瘍	脳腫瘍	脳腫瘍摘出術	1
	脊髄腫瘍	脊髄腫瘍摘出術	1
	頭蓋骨腫瘍	頭蓋骨腫瘍摘出術	2
外傷	硬膜外血腫	開頭血腫除去術	1
	脳挫傷	脳圧センサー設置術	1
血管障害	脳動静脈奇形	動静脈奇形摘出術	1
	モヤモヤ病	バイパス術	4
	計		74

# 泌尿器科

## ■スタッフ紹介

- ・主任部長 右梅貴信  
出身大学：大阪医科大学  
卒業年度：1997年  
専門分野：泌尿器科一般・排尿機能  
学会など：日本泌尿器科学会専門医・指導医  
大阪医科大学泌尿器科臨床准教授
- ・専攻医 市橋 淳
- ・専攻医 谷口俊理
- ・非常勤医師 濱田修史  
出身大学：大阪医科大学  
卒業年度：1999年
- ・非常勤医師 西田 剛  
出身大学：大阪医科大学  
卒業年度：2000年

## ■診療内容

泌尿器科では、泌尿器科領域でのがん治療、尿路結石治療、排尿障害及び尿路感染の治療を行っている。外来診療はこれまでと同様、毎日（月～金曜日）診療を行い、予約なしの患者も可能な限り対応している。入院診療はこれまでの手術症例に加え、大阪医科大学泌尿器科と連携を取り、同院で行っている膀胱癌に対する膀胱温存治療症例に対する内視鏡手術を積極的に行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

膀胱癌内視鏡手術症例数が昨年に比べ約50例増加した。また、結石手術（体外衝撃波結石破砕、内視鏡下破砕）の症例数も約50例増加した。

## ■今後の展望

泌尿器科は常勤3名体制となり、これまで同様、外来・入院診療ともに患者のニーズに応えられるよう努める。特に尿路結石、前立腺がん患者の増加が顕著であり、患者の希望にあった治療が可能となるよう対応していきたい。

表. 診療実績

(単位:件)

術式	件数	術式	件数
TUR-Bt	273	骨盤腹膜外膿瘍切開排膿術	2
ESWL	172	腎瘻造設術	4
TUR-P	16	残存尿管摘出術	1
尿膜管摘出術	1	尿管切石術	1
TUL(f-TUL含む)	77	尿道腫瘍切除術	1
TUC	2	尿道狭窄拡張術	1
尿管ステント留置, 抜去	312	腹腔鏡下副腎摘除術	2
前立腺全摘除術	3	膀胱瘻造設	2
精巣摘除	4	体腔鏡下腎摘除術	16
包茎根治術	11	開腹腎摘	1
陰嚢水腫根治	5	前立腺生検	129



# 腎移植科

## ■スタッフ紹介

客野宮治:腎移植医, 1979年大阪大学医学部医学科卒業,  
泌尿器科専門医, 同指導医, 日本移植学会移植  
認定医, 日本臨床腎移植学会認定医

## ■診療内容

現在, 週 5 日 1 診の腎移植患者対象の外来診療を客野,  
高原史郎 (関西メディカル病院), 今村亮一 (大阪大学),  
阿部豊文 (大阪大学) が行っている.

また, 腎移植患者の検査入院, 急性疾患発病時の入院治  
療を担当している.

## ■2018年度のトピックス・実績

現在, 外来にてレシピエント 210 名とそのドナーの方  
の腎機能維持並びに健康管理を担当している.

昨年 1 年間で大阪大学泌尿器科より 18 名の移植後の新  
患を受け入れた.

死亡された方は 1 名で, 透析再導入になった方は 5 名  
であった.

## ■今後の展望

当院での腎移植開始を目指している.

表. 腎移植科統計

(単位: 件)

月平均外来数	217
年間入院数	92
年間手術件数	73

## 整形外科・関節センター

### ■スタッフ紹介

#### コンサルタント（スタッフ医師）4名

平中崇文（1988年卒部長）人工膝関節・関節鏡

岡本剛治（1992年卒部長）脊椎外科

藤代高明（1997年卒医長）人工股関節

飛田祐一（2000年卒医長）膝関節鏡・スポーツ医学

（2019年3月に退職，4月より田中聡一（2009年卒）着任予定）

#### レジデント（研修医）4名

藤田雅広（2012年卒），高瀬恭平（2013年卒），尾ノ井勇磨（2014年卒），西田亮太（2015年卒）が神戸大学卒業研修として勤務した。

### ■診療内容

人工膝関節（関節センター）：総手術症例数は全国12位，部分人工関節手術症例数は全国1位であり，該当手術では国内トップクラスの施設である。

人工股関節（関節センター）：年々手術症例数が増加している。簡易ナビゲーションを用いた手術を行っており先進的な医療に取り組んでいる。

脊椎外科：岡本医師着任以来，症例数が増加の一途をたどっている。大きなトラブルもなく，信頼の厚い診療を行っている。

再生医療（関節センター）：全国に先駆け脂肪組織由来再生細胞（ADRC）を用いた膝軟骨再生医療を行っている。2017年10月以来3月末までで35例58膝に施行している。

#### ・医工連携

JOSKAS学会や日本骨折治療学会で医工連携セッションの企画を日本医工もの作りコモンズとともに行った。さらに，ものづくり企業向けの講演を3回行ったり，当院で開発したインプラントのセミナーで講演を行ったりしている。

### ■2018年度のトピックス・実績

#### ・海外交流

外国人医師修練のプログラムに則り，2名のミャンマー医師が3か月間研修を行った。そのほか，香港からの短期

（1～4週）の短期研修生が研修した。また，8月にミャンマー訪問，11月にミャンマー整形外科学会で招聘講演，2019年2月にベトナム軍病院で招待講演。

#### ・学術活動

国内学会は合計17編，海外1編の発表を行った。例年よりやや少なめであったが，これは論文発表，特に英論文発表に注力した結果であり，結果 impact factor のつく英文雑誌に合計6編掲載された。

#### ・総合内科との共同治療

大腿骨近位部骨折を総合内科主治医，整形外科執刀とお互いの特徴を生かした先進的な取り組みを行っている。

### ■今後の展望

#### ・関節センター

適切なプロモーションを行うことで，症例数の増加を図る。

#### ・脊椎外科

診療内容の更なる充実を目指して，技術習得の機会を作る。

#### ・再生医療

症例数を更に増やすばかりでなく，海外からのインバウンドを狙う。対象疾患を変形性股関節症や変形性足関節症，脊髄損傷に広げる。

#### ・海外展開

国際医療センターの医療技術等海外展開事業にプロジェクトが採択されたので，公的予算を使用してミャンマー国との交流を図り，日本の技術と医療器具を広める。来年度中に2度同国を訪問し，1度同国からの研修生を受け入れる。そのほかにも海外留学生を積極的に受け入れる。また，タイサミティベート病院，ベトナムの病院，香港大学，台湾の病院などとも交流を深め，技術指導の機会を増やす。

#### ・医工連携

高槻病院開発の医療器具を上市して，高槻病院のブランド向上に寄与する。兵庫県立大学や，各種企業とともに医療画像管理システムを開発する。

#### ・学術活動

英語論文の執筆を更に推奨して，10編以上の publish を目指す。特に研修医の英論文執筆を強く推奨する。

# 産科

## ■スタッフ紹介

小辻文和	：1971年卒	部長
大石哲也	：1983年卒	部長
中後 聡	：1988年卒	総合周産期母子センター長
加藤大樹	：2005年卒	医長
徳田妃里	：2007年卒	医長
柴田貴司	：2007年卒	医長
細野佐代子	：2008年卒	医員
小寺知揮	：2010年卒	医員
西川茂樹	：2011年卒	医員
福岡泰教	：2012年卒	医員
飯塚徳昭	：2013年卒	医員
神谷亮雄	：2014年卒	後期研修医

産婦人科のスタッフは以上12名であった。

## ■診療内容

入院病床はMFICU6床を含め計60床で、OGCS基幹病院、大阪北地区の産婦人科一次救急体制の中心である。通常の帝王切開はすべてMFICU内に設置された産科専用手術室で行い、緊急時は病院到着後20分以内に児を出産できる。外来は専門外来制を、病棟はチーム診療制を採用し、円滑な運営のみならず教育面でも効果を発揮している。

## ■2018年のトピックス・実績

分娩数は昨年とほぼ同数で、本年も緊急母体搬送は全例受け入れした結果、大阪府内で受け入れ数は1位であった。それに伴い、入院患者のリスクが医学的にも社会的にも上がり、対応に苦慮するケースも増加したが、スタッフの協力により、無事1年を終えることができた。

## 【トピックス】

予定帝王切開を特定日に集中させ、新病棟に設置されたハイリスク分娩室と帝王切開手術室を交互に使用しつつ人的資源を集中することで、日勤帯に1日4件の帝王切開を行い、業務を効率化した。

働き方改革を先取りし、産婦人科当直に従事した医師は翌日午前10時で帰宅できるようにした。外来担当者や当直医担当者を数か月先まで1日単位できめ細かく設定することで、診療チーム体制を壊すことなく実現できた。

## ■今後の展望

スタッフ数が減少した中で、業務を創意工夫で効率化し、診療のパフォーマンスを落とすことなく活動してきた。次年は、この努力を続けつつ新たな人材育成に励みたい。

表. 2018年度実績

項目	(単位:件)	
	件数	
分娩件数(母の数、死産を含む)	1,247	
帝王切開数(帝王切開率 32.7%)	408	
緊急帝王切開	187	
腹膜外帝王切開	58	
子宮底部横切開	18	
妊娠子宮全摘数(産褥期を含む)	10	
子宮頸管縫縮術数	66	
緊急母体搬送数	238	
Back transfer症例数	80	
妊娠28週未満の早産	18	
胎児異常	39	
FGR	42	
多胎	62	
切迫早産	252	
前置胎盤	18	
常位胎盤早期剥離	9	
妊娠高血圧症候群	74	
糖尿病合併妊娠(妊娠糖尿病含む)	90	

## 婦 人 科

## ■スタッフ紹介

産科とは区別せず12名で業務にあたった。

## ■診療内容とトピックス・実績

①手術数は横ばい。

②産科母体搬送の増加に伴い、婦人科症例も感染重症例や手術困難例が増加しており、重症度が上がっている。

## ■今後の展望

腹腔鏡手術指導を受ける体制をとり、腹腔鏡専門医取得を目指す。

骨盤臓器脱手術で培った技術を生かし、腔式手術を増やし、腹腔鏡手術とともに低侵襲手術を増加させることにより、手術数の回復を目指す。

婦人科腫瘍専門医、細胞診専門医、がん治療認定医取得を継続する。

表 1. 良性疾患手術

(単位:件)

	2015年	2016年	2017年	2018年
腹式単純子宮全摘術	58	57	53	53
開腹子宮筋腫核出術	22	17	18	21
開腹良性卵巣腫瘍手術	14	6	22	26
開腹子宮外妊娠手術・卵管切除術	8	7	7	7
骨盤臓器脱手術	78	64	56	50
腹腔鏡手術	84	128	98	104
TCR	13	13	20	15
その他	11	8	7	6
計	288	300	281	282

表 2. 内視鏡手術

(単位:件)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
卵巣腫瘍手術	73	57	83	65	64
子宮筋腫核出術	4	2	3	3	2
子宮外妊娠	13	11	19	10	15
TLH	6	14	23	20	23
TCR	14	13	13	20	15
計	110	97	141	118	119

表 3. 悪性腫瘍関連手術

(単位:件)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮腔部円錐切除(LEEP)	59	42	44	32	38
子宮頸がん手術	5	6	8	6	6
子宮体がん手術	16	9	12	13	16
卵巣がん手術	23	25	16	14	21
その他	1	2	2	2	2
計	104	84	82	67	83

表 4. 婦人科悪性腫瘍

(単位:件)

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
子宮頸癌CIN-3	56	39	35	27	43
I A期	3	2	6	9	5
I B期	3	2	3	5	2
II A期	0	0	1	1	1
II B期	0	0	0	1	1
III A期	0	0	0	0	0
III B期	1	0	0	1	1
IV A期	0	2	0	0	0
IV B期	0	0	0	1	1
計	63	45	45	45	54
子宮体癌AEH	1	0	1	0	2
I A期	5	4	2	6	5
I B期	5	1	3	2	4
II 期	0	1	3	0	2
III A期	0	0	1	2	4
III B期	0	1	0	0	1
III C期	0	2	0	2	1
IV A期	0	0	0	0	0
IV B期	4	2	3	1	2
計	15	11	13	13	21
卵巣癌 I A期	7	12	5	5	3
I B期	0	0	1	0	0
I C期	2	1	1	4	3
II A期	0	0	0	0	1
II B期	0	1	1	0	3
III A期	0	2	1	0	0
III B期	3	0	3	1	0
III C期	6	5	2	5	7
IV 期	4	3	2	5	3
計	22	24	16	20	20

# 眼 科

## ■スタッフ紹介

医師：清水一弘・宮本麻起子・奥田吉隆

許勢文誠・丸山会里

ORT：中内・嶋本・山中

検査員：山本

看護師：松原・藤野

小児外来：渡邊浩子

## ■診療内容

一般外来：月～金曜日

小児外来：木曜日午後

検査：月～金曜日午後

手術：月曜日午前・火曜日終日・木曜日終日

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年4月 許勢先生赴任

2018年6月 丸山先生赴任

## ■今後の展望

新たに手術経験の豊富な医師が赴任することが決まっております。次年度は眼科手術件数の増加と小児眼科の充実を目標としている。ここ数年、常勤医師の出入りが激しく、医師の平均年齢も若年化したため手術件数の減少が続いてきたが、ようやく歯止めがかかってきた。今期の白内障手術は前期より若干だが増加し、今後も増加するものと思われる。個々の手術件数は増加しているため、手術件数もいずれ1,000件を超えるものと思われる。白内障手術用機器はセンチュリオン、手術用顕微鏡はサージカルガイダンス付きの最新型が入り、乱視矯正の精度も上がり、北摂地域では最も優れた機種で手術ができる環境が整っているため、高槻病院で行われている白内障手術が秀でた手術であることをアピールしていきたい。2.2mmの極小切開や精度の高い乱視矯正は近隣の大学病院でも行われていない技術でLASIK眼や円錐角膜眼への眼内レンズ挿入も行

っている。さらにフェムトセカンドレーザー白内障手術システムが導入され4年が経過したが、確実に件数は増加している。フェムトセカンドレーザーは大阪府下で6施設あるが、手術用顕微鏡や周辺機器と連動したシステムとしては日本初導入である。今後はホームページの充実、パンフレットの作成、説明会などで手術件数増加に取り組みたい。

近年、斜視や弱視など小児眼科を専門とする眼科医が減少する傾向にある。当院では未熟児網膜症や眼科小児奇形などにも対応できる小児眼科専門医が診療にあたっており、3名の国家資格を持った視能訓練士とともに診療の充実を図っている。

最近では地域に硝子体手術ができる施設が減少しているのが現状だが、当院ではコンステレーションとリサイト付きルメラ手術用顕微鏡などの充実した設備で手術を行っている。次年度には経験豊富な硝子体術者の赴任が決定している。

大学病院にもないような機器が導入され、眼科地域医療をリードし、貢献できる眼科を目指している。

表. 診療実績（2018年4月～2019年3月）

項目名		(単位:件) 件数
外来総数	一般外来	12,750
検査総数	蛍光造影検査	47
	視野	670
	光干渉断層計	2,420
手術総数	白内障手術	650
	(再掲)ECCE	2
	(再掲)IOL縫着	2
	緑内障手術	2
	麦粒腫切開術	2
	霰粒腫切除術	5
	翼状片切除術	14
	腫瘍切除術	0
	斜視手術	0
	内反症手術	10
	眼瞼下垂	24
	硝子体切除術	8
	ケナコルトテンン嚢下注射	16
	硝子体注射	85
	YAGレーザー後嚢切開術	82
	部分・汎網膜光凝固術	170
	未熟児網膜症光凝固術	5

## 耳鼻いんこう科

### ■スタッフ紹介

常勤医 星島秀昭  
非常勤医 愛宕利英  
服部康人  
荒木南都子

### ■診療内容

昨年同様常勤医師 1 名と大阪医科大学耳鼻咽喉科からの応援医師 1 名，大学医局出身者 2 名の応援医師とともに外来診療を実施している。外来診療については月曜日は原則初診患者のみの 1 診体制，火曜日と木曜日は非常勤医師とともに，2 診体制で外来患者，病棟診療にあたっている。木曜日は第 1，3，5 週を服部医師，第 2，4 週を愛宕医師の交代で診療にあたっている。火曜日は昨年に引き続き大阪医科大学附属病院より荒木医師が 2 診を担当している。水曜日は手術日となっており，午後に関しては月曜日に外来手術若しくは検査，火，木，金曜日はエコーガイ

ド下の細胞診検査，内視鏡下生検，特殊聴覚機能検査及び術後処置などを行っている。入院については，ステロイド治療を要するものの，糖尿病などの合併症を有する突発性難聴や顔面神経麻痺症例や，扁桃炎，咽喉頭炎などの急性炎症患者の治療を行っている。

### ■2018 年度のトピックス・実績

前年に比べ突発性難聴は重症例がやや減少傾向にあった。末梢性顔面神経麻痺については症例数に関しては，例年通りであったが，妊娠女性の発症例がやや目立ち，治療時の投薬内容に注意を要した。

### ■今後の展望

昨年同様，周囲の開業医院との連携を取りながら，大学病院にお願いすべき症例，当科で対応可能な症例を日々見極めつつ診療に当たっていく。

# 皮膚科

## ■スタッフ紹介

大桑 慎子 2015 年卒 (2018 年 4 月～)  
 高山 恵律子 2006 年卒 (～2018 年 8 月)  
 菊澤 亜夕子 2007 年卒 (2018 年 9 月～)  
 瀬戸 英伸 1984 年卒

## ■診療内容

### 【外来】

1 日平均外来患者数: 55 人←58 人 (2017)←61 人 (2016)  
 紹介患者数: 761 人←594 人 (2017)←520 人 (2016)

### 【入院】

入院患者数: 118 人←129 人 (2017)←107 人 (2016)  
 病棟依頼: 863 件/年 (うち往診 240 件)  
 褥瘡回診: 195 件/年 (毎週月曜日)

### 【手術】

手術件数(手術室): 222←224 件 (2017)←231 件 (2016)  
 手術総件数(手術室+外来処置室): 305←331 件 (2017)  
 ←395 件 (2016)  
 悪性腫瘍摘出術: 26 件←26 件 (2017)←40 件 (2016)  
 有茎皮弁・植皮術: 12 件←6 件 (2017)←12 件 (2016)  
 全身麻酔: 17 件←10 件 (2017)←7 件 (2016)

## ■2018 年度のトピックス・実績

年に 1 例経験するか否かの壊死性筋膜炎が、前年の 4 例から 7 例と更に増加している。その結果、それら患者の創閉鎖のため全身麻酔・植皮術の件数が増加した。アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬に対しての生物学的製剤の導入が順調に増加しており、外来単価のアップに繋がっている。本年度より病棟依頼・褥瘡回診の件数も詳細に集計した。

- ・入院患者内訳 (表 1)
- ・皮膚科の手術 (表 2)
- ・皮膚良性腫瘍 (表 3) : 生検のみの良性腫瘍も含む
- ・皮膚悪性腫瘍 (表 4)

## ■今後の展望

紹介患者数が前年度に比べ 167 人増加した。その中には高齢者の皮膚癌の紹介も増してきており、丁寧な手術と正確な病理組織診断(皮膚科医と病理医によるダブルチェック)を紹介元の病院にお示しし、入院手術件数の増加に繋がりたい。

表 1. 入院者内訳

(単位:人)

細菌感染症	
蜂窩織炎	22
丹毒	8
壊死性筋膜炎	7
ウイルス感染症	
帯状疱疹	32
水痘	0
カポジ水痘様発疹症	1
皮膚良性腫瘍	9
皮膚悪性腫瘍	12
中毒疹・薬疹	11
皮膚潰瘍・褥瘡・足壊疽	4
天疱瘡・類天疱瘡	2
湿疹皮膚炎	1
蕁麻疹・アナフィラキシー	1
結節性紅斑	1
血管炎	1
その他	6
合計	118

表 2. 皮膚科の手術

(単位:件)

良性腫瘍摘出術	180
悪性腫瘍摘出術	26
皮膚生検術	66
有茎皮弁作成術	4
遊離植皮術	8
デブリードメント	13
その他	8
合計	305

表 3. 皮膚良性腫瘍

(単位:件)

母斑細胞性母斑など	13
類表皮嚢腫など	70
脂漏性角化症	38
線維腫など	12
皮膚付属器腫瘍	7
脂肪腫	16
血管腫など	7
その他	23
合計	186

表 4. 皮膚悪性腫瘍

(単位:件)

基底細胞癌	7
有棘細胞癌	9
ボーエン病	6
ページェット病	1
その他	3
合計	26

# 形成外科

## ■スタッフ紹介

常勤医：黒川憲史

朝井まどか（2019年4月着任予定）

## ■診療内容

常勤医2名で診察を行っている。外来は、月・火・木・金曜日の午前中、水曜日は午後に初診を受け入れている。手術は、月曜日午後に主に全身麻酔を要するもの、水曜日午前中に局所麻酔を要するものを行っている。

## ■2018年度の特ピックス・実績

2018年度の実績を表1、2に示す。また、日本形成外科学会教育関連施設に認定されている。

## ■今後の展望

従前通り、適切な形成外科的な治療や手術を提供し、必要に応じて関連施設との連携をとり、良好な協力体制を維持していく。

表1. 形成外科新患者数・入院患者数・手術件数

形成外科新患者数	753名	形成外科手術件数	入院手術	全身麻酔	63件
形成外科入院患者数(重複入院は除く)	113名			腰麻・伝達麻酔	3件
				局所麻酔・その他*	47件
			外来手術	全身麻酔	0件
				腰麻・伝達麻酔	0件
				局所麻酔・その他*	135件

\*その他:無麻酔や分類不明

表2. 手術内容区分

(単位:件)

疾患大分類手技数	入院手術			外来手術			計
	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	全身麻酔	腰麻・伝達麻酔	局所麻酔・その他	
外傷	24		10			61	95
先天異常	13		1			5	19
腫瘍	18		24			58	100
瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	1		2			4	7
難治性潰瘍	5	2	5			3	15
炎症・変性疾患	1					2	3
美容(手術)							0
その他	1	1	5			2	9
Extra レーザー治療							0
大分類計	63	3	47	0	0	135	248



# 放射線診断科

## ■スタッフ紹介

部長 清水雅史  
 部長 横川修作  
 部長 高橋 哲 (イメージングリサーチセンター)  
 医員 中森美和  
 医員 松田耕平  
 非常勤医師 4名

## ■診療体制

2018 年は、清水雅史部長、横川修作部長、中森美和医員、松田耕平医員、非常勤医師 4 名 (神戸大学放射線科 1 名、大阪医科大学放射線科 3 名) の診療体制であった。

## ■活動内容

CT・MRI の件数と内訳、血管造影・IVR 件数と内訳はそれぞれ表の如くである。

CT の検査件数、MRI 件数は順調に増加している。

血管造影・IVR 件数はほぼ同様である。

## ■今後の展望

CT は 320 列 Aquilion ONE と 64 列マルチスライス CT 2 台と 16 列治療用 CT の 4 台体制で、特に心臓 CT の件数は増加している。

MRI は Siemens 社製 3TMRI Skyra と 1.5TMRI Aera の 2 台体制で、心臓 MRI の撮像も試みている。

腹部血管造影は、CT-like image を用いて高精度の塞栓術を施行している。

今後とも、病診連携を強化し、地域の画像センター、放射線治療センターとしての役割を務めていかなければならない。

表 1. 診療体制

	月	火	水	木	金	土
午前	読影	読影/ 血管造影	読影/ 血管造影	読影	読影	休診
午後	読影	読影	読影	読影	読影	読影

表 2. 血管造影・IVR 内訳

(単位:件)

部位		IVR	合計
肝	肝癌	35(TAE)	35
		3(動注)	2
胃	胃静脈瘤	1(BRTO)	1
小腸	小腸出血	1(動注)	1
子宮	産褥出血	1(TAE)	1
総計			40

表 3. CT・MRI 検査件数

(単位:件)

撮影区分 CT	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
頭部系	393	410	370	382	387	380	398	412	501	427	366	359
頸部系	11	9	4	14	8	9	9	10	6	10	6	9
胸部系	336	331	372	331	367	354	343	355	416	382	352	436
腹部系	277	302	373	342	384	325	333	339	352	309	306	322
骨盤系	75	76	79	72	60	62	45	42	68	63	63	67
脊椎系	17	25	33	25	41	31	32	35	25	39	31	40
上肢系	14	20	28	16	16	14	14	17	9	26	27	34
下肢系	73	92	101	86	91	97	96	76	95	88	89	97
広範囲	475	462	494	486	519	477	538	456	475	479	517	507
計	1,671	1,727	1,854	1,754	1,873	1,749	1,808	1,742	1,947	1,823	1,757	1,871
合計											21,576	

撮影区分 MRI	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
頭部系	377	372	434	410	458	410	393	409	424	382	410	440
頸部系	5	4	4	2	9	4	6	8	10	5	4	4
胸部系	9	16	9	10	15	12	12	23	11	16	12	21
腹部系	92	70	89	96	81	93	105	95	87	76	85	97
骨盤系	99	86	110	116	96	83	112	91	97	79	92	101
脊椎系	103	130	158	121	164	122	129	108	142	124	118	172
上肢系	14	17	21	13	20	18	17	15	20	10	9	17
下肢系	43	55	54	58	49	46	50	39	56	57	34	53
広範囲	0	1	2	0	1	1	0	0	1	0	0	0
計	742	751	881	826	893	789	824	788	848	749	764	905
合計											9,760	

# 放射線治療科

## ■診療体制

2018年4月より非常勤医による診療体制となった。

神戸大学医学部附属病院放射線腫瘍科の医師3名が月曜日、水曜日、金曜日に治療患者の外来診察と治療計画にあたっている。

高精度放射線治療が適応となる患者については、患者の希望を聞きながら近隣他施設への紹介となっている。

## ■2018年度の実績

2018年度の実績は表を参照されたい。残念ながら、新患者数、照射件数も減少傾向となった。

## ■今後の展望

診察日が週3日となったため、コンサルテーションから治療開始まで日数を要している現状がある。現場の放射線治療担当技師とも協力しスムーズに開始できるよう努めていきたい。

表. 治療内訳

件数	2016年度	2017年度	2018年度
新患者数 (人)	138	133	108
放射線治療部位数 (件)	233	182	139
総照射件数 (件)	4,465	3,975	2,440

新患原発部位別患者数	(単位:人)		
脳・脊髄	6	1	3
頭頸部	1	0	0
肺・気管・縦隔	27	33	27
食道	4	7	3
胃・十二指腸・小腸	4	1	3
大腸・直腸・肛門	3	5	5
肝・胆・膵	4	1	1
乳腺	60	49	51
泌尿器(含 前立腺)	18	25	5
子宮	4	8	9
その他女性生殖器	4	2	0
骨・軟部腫瘍	0	0	0
悪性リンパ腫	2	0	1
その他造血器	1	0	0
原発不明癌	0	1	0
良性疾患	0	0	0
小児	0	0	0
その他	0	0	0
計	138	133	108

# 麻 酔 科

## ■スタッフ紹介

2018年度は中島正順（主任部長）、土居ゆみ（部長）、内藤嘉之（理事長）、三宅隆一郎（医長）、西田隆也（医長）、松尾佳代子（医長）、宇仁田 亮（医長）、田原慎太郎（医員）、棚田和子（医員）、小野嘉史（後期研修医）、佐藤千花子（後期研修医）、原田みどり（後期研修医）、千船病院及び神戸大学医学部附属病院、兵庫医科大学病院、関西医科大学附属病院からの応援医師、非常勤医師2名で診療を行った。

また2018年度は麻酔科臨床研修として計16名の初期臨床研修医が診療に加わった。

## ■診療内容

手術室及び手術室外（血管造影室、内視鏡室、不整脈センター、MFICU等）での全身麻酔、全身麻酔+硬膜外麻酔、全身麻酔+伝達麻酔、脊髄くも膜下麻酔+硬膜外麻酔とリスクの高い患者の脊髄くも膜下麻酔や局所麻酔時の全身管理等を担当した。水曜日、木曜日、及び金曜日の午前に術前外来を行った。また小児麻酔部門ではPICU管理にも参加している。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度の活動実績として、我々の担当した手術室内外のすべての全身麻酔症例とその他の麻酔症例（つまり各科で行った静脈麻酔、脊髄くも膜下麻酔、局所麻酔等を除いたもの）を日本麻酔科学会の症例統計報告基準に準拠した麻酔方法、年齢、手術部位別に集計し、各々表1～3に表示する（ただし、年齢区分に学会区分と一部違いあり）。

麻酔科管理件数が麻酔科医師数減により減ることがないように毎年愛仁会各施設と連携して対応してきたが、今

年度の麻酔科医師数は昨年度末の1名異動に対し、4月に田原医師と小野医師、7月に原田医師を迎え、8月に佐藤医師が異動、2月から棚田医師が入職となり年間を通じて昨年度より減ることなく維持できた。おかげで待望の新病院完成により受診者数や手術件数の増加が見込まれる中、麻酔科管理症例数を前年度より29例増やすことができた。また土居部長が1か月弱アイオワ大学に留学することもでき長年続けているアイオワ大学麻酔科との交流を更に深めることができた。

麻酔科の活動は手術室内の麻酔以外にPICU、MFICUやICUの患者管理や麻酔、検査やカテーテル治療時の麻酔等の需要に答えて年々拡大していけるようにと考えてきたが、今年度は不整脈センターでの全身麻酔が75例、小児心臓カテーテル検査の全身麻酔が20例、MFICUでの麻酔科管理症例数が45例と前年度より順調な伸びを示した。そしてICUでも4月から集中治療専門医を取得した宇仁田医師がICU管理に携わり始めることができた。

## ■今後の展望

看護師の特定行為研修において3領域をパッケージ化することになりその中に術中麻酔管理領域も含まれている。働き方改革が進み今までの仕事をより短時間で効率的に終わらせることが望まれる中、周麻酔期看護師として麻酔科医とともに働き麻酔業務を補助してくれる人材の育成を試みていくことが今後は必要になると考える。それと同時に麻酔科医師を確保し続けるため、これまで通り大学病院との連携を深めながら新専門医制度で基幹研修施設として魅力あるプログラムの提示をして人材を確保・育成していこうと思う。これらの人材育成・確保により来年度も手術件数・麻酔科管理症例数増加に対応していく。

表1. 麻酔方法別

項目	症例数
全身麻酔(吸入)	940
全身麻酔(TIVA)	288
全身麻酔(吸入)+硬・脊・伝麻	976
全身麻酔(TIVA)+硬・脊・伝麻	455
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	73
硬膜外麻酔	0
脊髄くも膜下麻酔	76
伝達麻酔	3
その他	6
計	2,817

表2. 年齢別

項目	症例数
～1か月	29
2か月～12か月	89
1歳1か月～5歳	215
6歳～19歳	234
20歳～64歳	929
65歳～84歳	1,125
85歳～	196
計	2,817

表3. 手術部位別

項目	症例数
開頭	102
開胸	73
心臓・大血管	210
開胸+開腹	20
開腹(除:帝王切開)	943
帝王切開	95
頭頸部・咽喉頭	136
胸壁・腹壁・会陰	213
脊椎	108
四肢(含:末梢血管)	826
その他	91
計	2,817

## 病理診断科

### ■スタッフ紹介

常勤医師：2名

伊倉義弘（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）

岩井泰博（病理専門医研修指導医，細胞診指導医）

専攻医：1名

横川 暢

非常勤医師：4名（うち病理専門医3名）

検査技師：6名（うちサイトスクリーナー5名）

事務職員：1名

### ■診療内容

病理科の業務は組織・細胞標本の診断と剖検とで構成される。主に病理標本の顕微鏡観察所見に基づいて、患者様の治療方針を決定する重要な病理診断を行っている。患者様が不幸にして亡くなられた場合には剖検を行い、臨床診断と治療が適切であったか否かを検証する。いずれも病院が提供する医療の質の維持に関わる重要な業務であり、スタッフはその重責に応えるべく、外部評価機関のサーベイへの参加などを通じて日々研鑽を積んでいる。

常勤医師2名に加え、4名の非常勤医師と、細胞診スクリーナー5名を含む6名の病理検査技師で構成される診断チームが、迅速かつ質の高い病理・細胞診断、病理解剖症例の詳細な検討、臨床科カンファレンスへの参加、積極的な研究活動支援を目標に掲げ、精力的に取り組んでいる。2016年からは事務支援を受けてバーチャルスライドの本格運用が開始となり、病理をより身近なものに感じていただけるよう努めている。

### ■2018年度のトピックス・実績

- 1) 組織診断件数：5,588件（図1）
- 2) 術中迅速診断件数：137件（図2）
- 3) 細胞診断件数：6,494件（図3）
- 4) 剖検数（剖検率）：17例（5.6%）（図4）

専門医機構の取り組みに先行して病理学会では2017年度より新たな病理専門研修プログラムを推進し、当院も基幹施設として専攻医1名の教育にあたることになった。現在までに当院、千船病院、神戸大学病院のローテーションを通じて順調に病理診断の経験を積み上げてきており、2019年4月からは明石医療センターで3年目の研修に臨み、更なる診断技術のブラッシュアップを目指す。

### ■今後の展望

専門医機構による新専門医研修プログラムが本格的に開始となったが、残念ながらこれまでに新たな病理研修希望者を採用するには至っていない。専攻医リクルートにあたっては、愛仁会プログラムの長所（豊富・多彩な検体、先進的教育インフラ、充実した指導スタッフ）のアピールに並行して、他の基幹施設との連携を増やし、コンスタントな採用を目指したい。なお2020年度からは新たに徳島大学プログラムの連携施設となり、ローテーターの受け入れを予定している。

病理検査の基本技術の1つである細胞診については、近年、liquid-based cytology（LBC）に多くの施設が移行しており、愛仁会内でも未導入はもはや高槻病院のみとなった。できるだけ早急にLBC導入を図りたい。

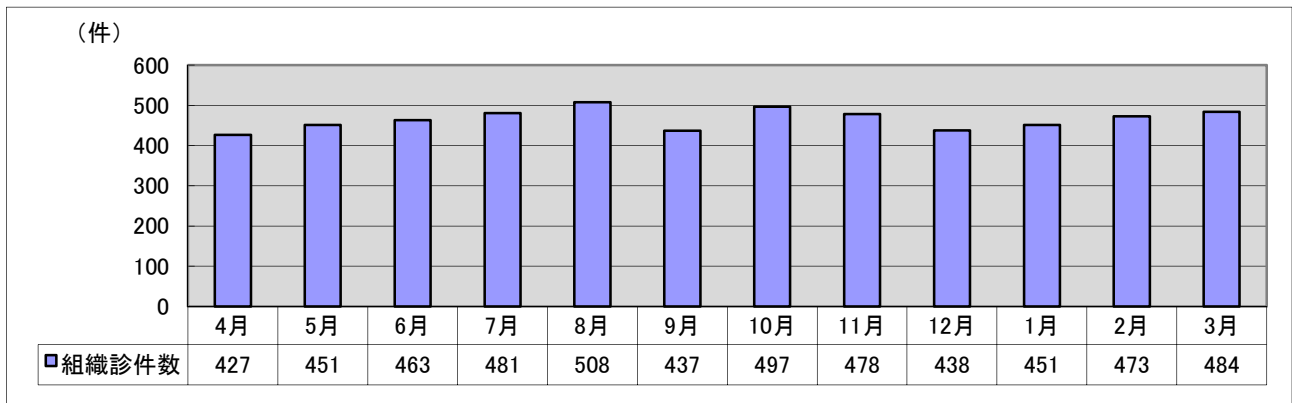


図 1. 組織診断件数

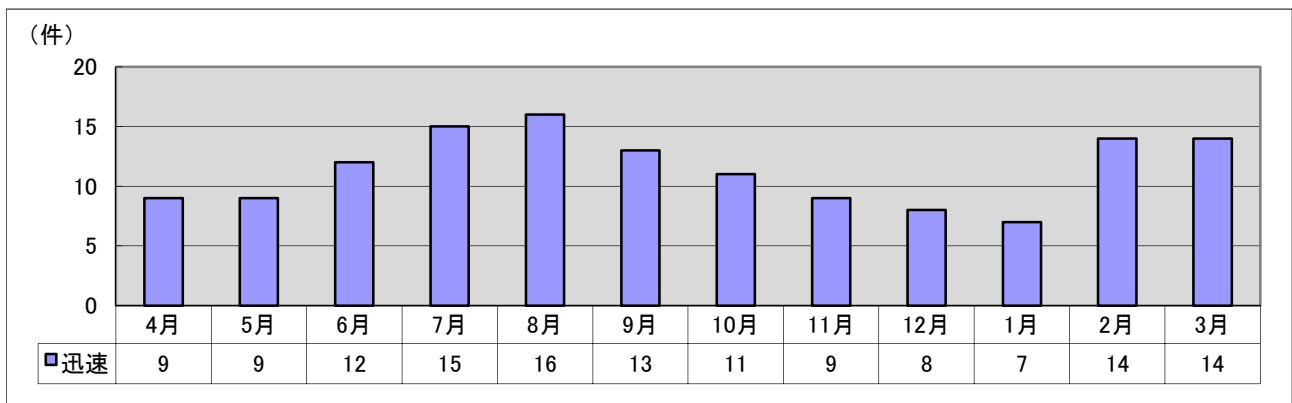


図 2. 迅速診断件数

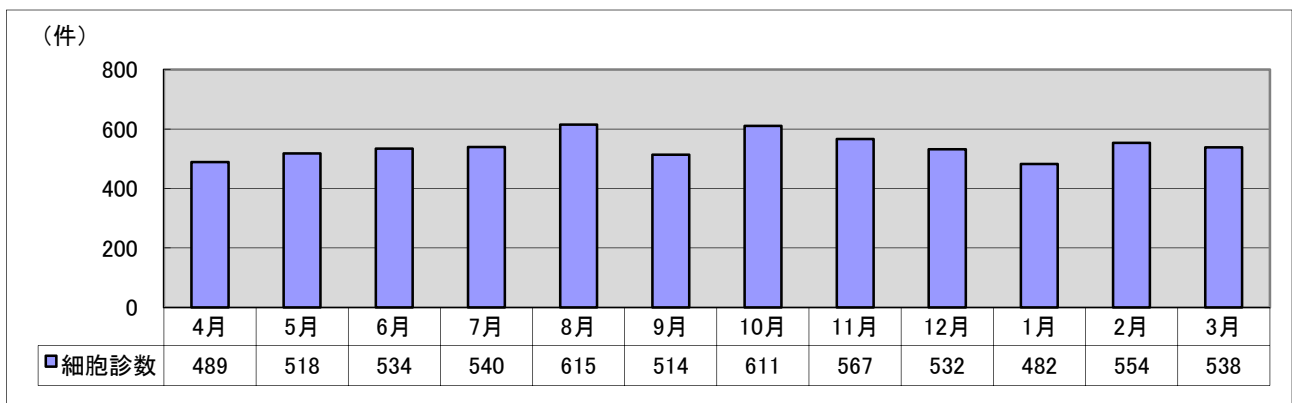


図 3. 細胞診断件数

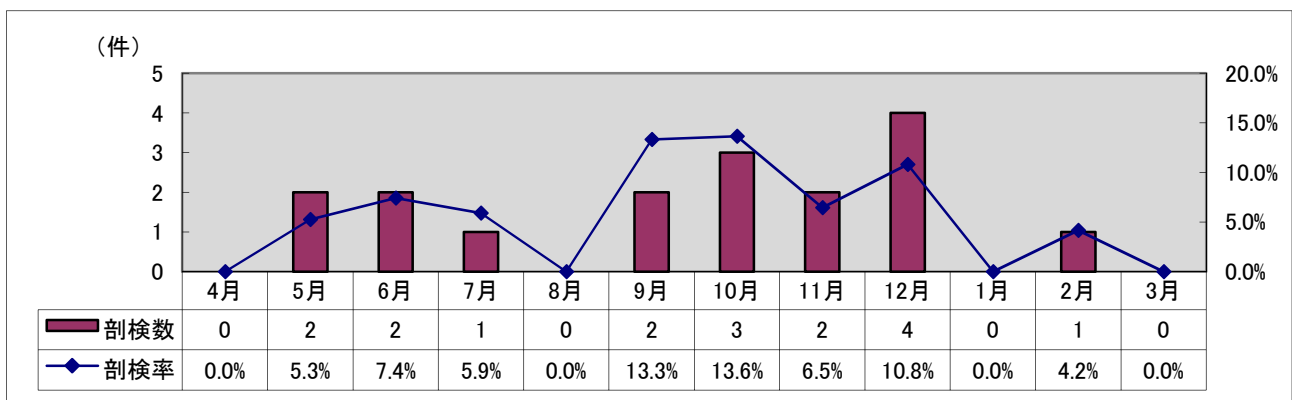


図 4. 剖検数・剖検率

## リハビリテーション科

### ■スタッフ紹介

樺 篤 (けやき あつし)

1979年 名古屋大学医学部卒

1986年 京都大学医学部大学院卒

京都大学医学博士

副院長, 技術部長, リハビリテーションセンター長

日本リハビリテーション医学会 代議員

日本リハビリテーション医学会近畿地方会 幹事

リハビリテーション科専門医・指導医・認定臨床医

日本脳神経外科学会 近畿地方会評議員

脳神経外科専門医

日本認知症学会 代議員

認知症専門医・指導医

日本脳神経外科認知症学会 理事・総務委員長

関西脳神経外科認知症研究会 副代表世話人

摂食嚥下リハビリテーション認定士

心臓リハビリテーション指導士

初級・呼吸ケアリハビリテーション指導士

日本医師会認定産業医・健康スポーツ医

大阪医科大学非常勤講師

### ■診療内容

あらゆる急性期疾患に対応するリハビリテーション医療を行うべく、隣接する愛仁会リハビリテーション病院の回復期病棟、障害児(者)病棟、在宅部門、しんあいクリニックと密接な連携を取り、新生児から高齢者まで、急性期から生活期まで連続したリハビリテーションを行う最初の窓口として機能できるように努めている。

脳卒中をはじめとする脳神経疾患等のリハビリテーション、整形外科の人工関節や脊椎・脊髄疾患にはクリニカルパスを運用した運動器リハビリテーションを、また循環器内科や心臓血管外科、呼吸器外科・内科とも連携し心大血管疾患、呼吸器リハビリテーションを行っている。また2012年秋から“がん患者リハビリテーション料”も算定実施できるようになった。大阪府のがん診療連携拠点病院として、がん患者に外科手術前後のみでなく、化学療法や放射線治療中も機能障害、能力低下を来すことなく治療が受けられるようにリハビリテーション医療を提供している。2018年4月現在、PT9名、OT5名、ST4名の計18名の療法士が“がんリハビリテーション研修”を受け、がんリハビリテーション料を算定できる体制が整っている。

### ■活動内容

激増する高齢者の誤嚥性肺炎の原因となる嚥下機能障害に積極的に取り組み、入院直後の絶食期間中から鼻咽頭ファイバーを駆使してベッドサイドで言語聴覚士や管理栄養士、看護師と嚥下機能の初期評価を行い栄養提供方法を検討し、かつ間接嚥下機能訓練を開始している。頸部

嚥下関連筋への電気刺激装置も導入された。認知症に対してはリハビリテーションの視点から“初期もの忘れ外来”として特色のある診療を行っている。リハビリテーション科医師が診察を行い、リハビリテーション専門職(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)が神経心理検査のみでなく基本運動能力や簡単な嚥下機能評価も同時に行う。これは認知症が高齢者の抱えるフレイル、サルコペニアといった運動器障害や誤嚥性肺炎の原因となる摂食嚥下機能障害と密接に関連していることにある。運動機能や摂食嚥下機能が低下すると認知症は確実に進行する。また認知症の進行に伴い運動機能が低下し転倒の危険性が高まり、嚥下機能の低下により誤嚥性肺炎を併発しやすくなるといった負のサイクルに陥る。それぞれの障害を早期に発見し訓練・指導を行うことにより、国民病となっている認知症の発症並びに進行抑制に寄与したいと考えている。

摂食嚥下チームを結成し、ST、OT、PTなどリハビリテーション専門職のみでなく看護師や管理栄養士も加わり、カンファレンスとベッドサイドでの嚥下内視鏡検査を行う摂食嚥下チームラウンドを行い、昼食時には食形態から食事姿勢を含めた環境、そして摂食嚥下状況をリハビリスタッフと管理栄養士を交えてラウンドする摂食嚥下ランチラウンドも行っている。“いつまでも口から食べる楽しさをあきらめない”をモットーに夢のある摂食嚥下リハビリテーションを行っていききたい。

### ■2018年度のトピックス・実績

リハビリテーションセンターは5月の第Ⅱ期棟オープンに伴い3階に移転した。治療室床面積は若干狭くなったが、心肺運動負荷検査装置(CPX)が検査室からリハビリテーションセンターの心臓リハビリエリアに移動となり、検査技師とPTが協力して評価に参加できるようになった。現在、理学療法士3名、医師1名が心臓リハビリテーション指導士の資格を有し、質の高い急性期心臓リハビリテーションを提供している。また嚥下関連筋刺激装置VitalStimと干渉波による刺激装置GentleStimを使用し、従来の頸部、顔面、舌や喉頭の運動訓練と併用した効果的な嚥下リハビリテーションを展開している。経頭蓋直流電気刺激(tDCS)も導入され、脳卒中後の上肢麻痺や失語症、嚥下障害に対し中枢と末梢からの電気刺激を併用し、効果的なリハビリテーションを実施している。

実績は技術部リハビリテーション科を参照。

### ■今後の展望

在院日数が短縮する中で急性期病院に特化した効率的かつ質の高いリハビリテーションをこれからも実施していきたい。

# 看護部

## ■スタッフ紹介

### 1. 職員数（平均年齢）

部長・副部长・科長	29人（45.3歳）
主任	24人（40.2歳）
副主任	19人（37.4歳）
看護師スタッフ	538人（32.1歳）
看護助手	52人（49.3歳）
合計	662人

### 2. 勤務状況

#### 1) 長期休暇者（前年比）

産休者：48人（100%）・育休者：63人（110.5%）  
介護休暇者：1人（50%）・退職者：6人（150%）

#### 2) 有給休暇取得状況：10.8日（前年度 9.6日）

#### 3) 全体離職率：9.2%（前年度 10.3%）

新人離職率：8.4%（前年度 5.3%）・中途退職者：5人

## ■業務内容

### 【2018年 看護部運営目標】

- 急性期機能を発揮できる看護実践力の維持・向上
- 役割が発揮できる人材の育成と活用
- 看護の視点で経営参画
- 働きやすく、やりがいを感じる職場環境の整備

### 【主な実施内容】

- 新たな外傷受け入れや、高度化する医療、重症化する患者に対応する体制整備がすすめられた。救急応需率4%以内であり積極的な受け入れを維持していた。
- 看護師のクリニカルラダーシステムにおいて、ラダー認定のための受講要件を満たしている看護職員が50人となった。
- 患者の早期退院を目指し在宅療養に向け入院前から支援することでDPCⅡ期以内での退院患者の割合は70%を維持できていた。
- 働き続けられる環境整備のために看護師経験年数4～5年目看護師対象に院内留学制度を実施した。

表 1. 活動状況

	平均在院日数	病床利用率	在宅復帰率	分娩件数(前年比)	手術件数(前年比)	救急件数(前年比)
2018年平均	9.9日	87.1%	96%	1,235件(102.4%)	5,805件(106.6%)	7,697件(102.1%)

表 2. 褥瘡発生数比較

	年平均	年間発生件数
2016年度	0.34%	40件
2017年度	0.41%	41件
2018年度	0.47%	30件

## ■2018年度のトピックス・実績

### 1. 病院機能評価 3rdGVer.2.0 認定

機能評価項目 89 項目中、S 評価 7 項目、A 項目 80 項目という結果であり、ケアプロセス、部署訪問とサーベイヤーから高い評価を受けた。

2. サミティベート病院との医療連携拡大に関する協定調印式が行われた。2016 年から 18 人の医師、看護師が当院を訪問し、研修を受けた。

### 3. 度重なる災害対応

大阪府北部地震や台風 21 号と、近隣の病院が救急患者受け入れや外来診療がストップする中、救急の受け入れ、外来診療、入院患者のケアも滞りなく実施した。

### 4. 小児救命救急センターの指定

11 月 1 日大阪府内で初の指定を受けた。小児看護の強化を図った。

### 5. 赤ちゃんにやさしい病院（BFH）の認定継続

再認定更新年となり、BFH 再認定された。

## ■今後の展望

少子・超高齢・多死社会を迎え、医療提供体制の在り方は病院完結型から地域完結型へと変革を迫られ、医療や看護に関わる法制度も変化している。ますます、重症化する患者に対応できる看護実践能力を身につけることが最優先課題である。産科領域においてもハイリスクな妊産婦が増え、助産師は緊急時に対応できる体制を強化する必要がある。専門・認定看護師は高度な看護実践を提供することに加え、スタッフの教育・指導、コンサルテーションへの対応等看護職の実践力の向上に貢献することが期待される。重症度、医療・看護必要度データを活用した経営参画を継続し、また部署や個人が問題を抱えることがないように、働きやすく、やりがいを感じる職場環境を整備していく。

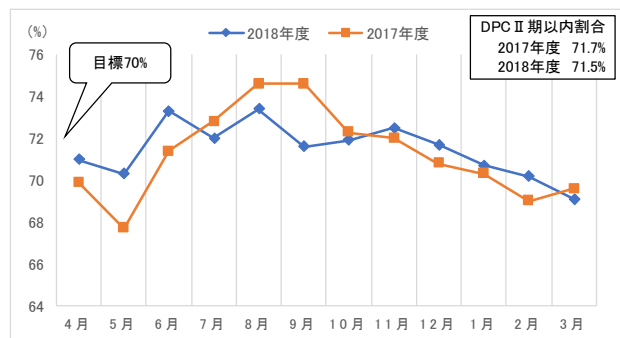


図. 活動実績：全患者 DPCⅡ期間内退院割合

## 薬 剤 科

### ■スタッフ紹介

科長：岩城晶文

主任：川村めぐみ、手島慶子、庄野直美、川崎文雄

副主任：北村史恵、小山 葵、川畑大輔

高谷陽子、矢敷祐子、高松祐子、西川えり子、井上味波、矢野沙幸、澤田憲明、吉田麻希子、谷生千尋、西居祐美、三宅永華、和下田真美、奥村理紗、三宅沙央莉、奥村暢子、信太恵理菜、藤谷 彩、川端美穂、徳永由紀、香川彩奈、古杉夕歌、藤田洋子、長澤祥子、足立文香、北野恵莉華、中村 光、(助手) 佐伯真也子

### ■業務内容

医薬品管理、患者の処方対応、時間外業務に対応する当直体制を維持している。患者への関与が更に求められており、病棟カンファレンスへの参加を増やしている。病棟薬剤業務実施体制（薬剤管理指導業務を含む）、チーム医療への参画を実施した。調剤・監査業務、注射剤の払い出し、TPN・抗がん剤の混合調製、院内製剤、在庫管理、薬品管理、DI (Drug Information) 業務、治験薬管理、学生実習の受け入れ業務も積極的に行っている。

#### 【DI 業務】

医薬品情報の収集・整理を行い院内スタッフへの情報提供、問い合わせの集約、病棟薬剤業務の支援を行っている。病棟薬剤師とのミーティングを定期的の実施し連携強化をはかっている。院内副作用の報告も収集している。

#### 【マスタ管理】

後発医薬品の採用、限定薬品の増加、臨時採用を希望する医師が増えたこともあり、マスタ更新作業が増え、担当者の負担増となっている。

#### 【病棟薬剤業務（薬剤管理指導業務）】

薬剤師人員確保の上、病棟配置を実施し病棟業務実施体制加算を継続算定している。また、重症系病棟にも担当者を配置しカンファレンスへの参加、ルートトラブル回避、薬剤管理を重点的に行っている。持参薬鑑別・報告、定期指導、手術や抗がん剤治療に応じた臨時指導、退院時指導を行い、安全な薬物治療を推進することを目指している。

#### 【チーム医療】

専任者を配置し薬剤師の職能を発揮する活動を行っている。カンファレンスへの参加や病棟担当者からの相談にのり薬物療法の適正なコントロールに大きな役割を果た

している。

（感染対策・AST）抗菌剤管理（投与日数・薬剤選択）、抗 MRSA 薬のスケジュール管理、TDM 実施。感染対策算定要件に伴い院内・院外ラウンドへ参加、予防接種事業、感染対策室事業へ積極的に関与している。

（緩和ケア）カンファレンスへの参加、処方提案を実施。（NST）カンファレンスへの参加、処方提案を実施。本年は専従者として従事。

#### 【後発医薬品対策】

後発医薬品の使用量を継続して増加する努力を行っている。院内使用量の多い薬剤、高額薬剤の後発医薬品やバイオシミラーの発売も積極的に執り行っている。薬剤購入費用の観点からも継続していく必要があり、各科・診療科の協力の下推進している。

#### 【在庫管理】

月末棚卸を実施し、高額薬品の差異調査を行っている。後発医薬品へスムーズな変更ができるように適切な在庫管理に努めている。採用薬品の見直しを提案できるよう在庫量の確認を実施し、棚の配置などを適宜見直している。愛仁会リハビリテーション病院・しんあい病院と採用薬剤の共通化・情報共有、在庫管理の調整を実施し患者移動に伴う薬剤不足・不良在庫の発生を防止している。

### ■2018 年度のトピックス・実績

薬剤管理指導は、昨年度の実績を上回った。調剤数・注射せん枚数は昨年度より減少傾向である。

後発医薬品の使用率は高水準を維持している。病棟での薬剤師活動が充実することで処方の適正化が進むと考える。業務時間を有効に使う工夫を継続していく必要がある。

### ■今後の展望

院内における薬剤師活動を活発にするため、薬剤師の人員確保、教育体制整備、資質向上を重要項目として取り組む必要がある。また、チーム医療への貢献に繋がる認定薬剤師の養成も課題として残る。

地域連携・協力関係の構築が課題であることから、薬剤師間の連携強化にも努めていく。薬剤師の役割を明確にし、各薬剤師のスキルアップと更なる活動範囲の拡大と充実のため工夫を行っていく。



## 放射線診断科・放射線治療科

## ■スタッフ紹介

## 放射線診断科

(科 長)・奥田 悟  
 (主 任)・桑田 智・中山喬資・北田直宏  
 (副主任)・高西博利・竹井直樹  
 (科 員)・森田 一・尾崎里子・渡邊ひとみ  
 ・馬淵淳子・上山裕美・石上智也  
 ・上床さやこ・中川大和・高田博紀  
 ・杉江慶太郎・三島綱太・赤塚大輔  
 ・小山泰平・近藤美希・中山裕志  
 ・竹内悠介・中田早人・大上志織  
 ・小川 葵・中山奏子・中村美緒  
 ・樋口幸三  
 (助 手)・十川都至子・前田里美

## 放射線治療科

(科 長)・久保田智之  
 (主 任)・藤井倫洋  
 (副主任)・尾崎征司  
 (科 員)・有持利彦

## 放射線不整脈センター

(科 長)・伊澤一郎

## ■業務内容

- ①一般撮影 (X線発生装置4台・CR2台・FPD8台・ワイヤレス FPD9台・乳房撮影装置1台・乳腺生検装置1台・移動型X線撮影装置4台)
  - ②各種造影検査 (X線 TV3台・血管造影装置3台)
  - ③CT検査 (320列マルチスライス1台・64列マルチスライス1台・16列マルチスライス1台)
  - ④MRI検査 (3テスラ1台・1.5テスラ1台)
  - ⑤放射線治療 (リニアック1台)
  - ⑥超音波検査 (3台)
  - ⑦骨塩定量検査 (1台)
- 以上の業務を行っている。

## ■2018年度の特ピックス・実績

放射線科各部門における2018年度の実績を下記に記す(表1~3)。

## ■今後の展望

総合救急医療センター設立に伴い、放射線部門における救急対応の強化に向けた体制整備を行っていく。また、各分野のスペシャリスト育成に向け、法人グループ各施設と連携し、人材の育成に取り組むたい。

表1. 放射線診断科活動実績

						(単位:件)		
検査名	年度	合計件数	検査名	年度	合計件数	検査名	年度	合計件数
一般撮影	2016年度	61,650	胃透視	2016年度	307	超音波検査	2016年度	9,094
	2017年度	62,629		2017年度	248		2017年度	8,699
	2018年度	65,515		2018年度	99		2018年度	8,282
乳房撮影	2016年度	1,954	腸透視	2016年度	165	血管造影 (頭部、腹部、四肢)	2016年度	255
	2017年度	1,714		2017年度	100		2017年度	285
	2018年度	1,503		2018年度	60		2018年度	277
CT	2016年度	20,814	骨塩定量	2016年度	1,645	心臓カテーテル検査	2016年度	1,033
	2017年度	21,725		2017年度	1,524		2017年度	1,166
	2018年度	22,275		2018年度	1,311		2018年度	1,137
MRI	2016年度	9,546	TV室造影検査	2016年度	2,016			
	2017年度	9,750		2017年度	1,985			
	2018年度	10,248		2018年度	1,856			

表2. 放射線治療科活動実績

			(単位:件)	
年度	全放射線治療件数	全照射件数		
2016年度	233	4,465		
2017年度	182	3,975		
2018年度	139	2,440		

表 3. 不整脈センター活動実績

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均	前年度 月平均
心臓電気生理検査	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	0.2	0.7
経皮的カテーテル心筋焼灼術(心房中隔穿刺)	25	25	26	26	29	24	26	25	22	28	25	28	309	25.8	23.2
経皮的カテーテル心筋焼灼術(心外膜アプローチ)	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0.2	0.2
経皮的カテーテル心筋焼灼術(その他)	2	6	3	5	6	3	4	2	3	2	5	7	48	4.0	4.3
ペースメーカー移植術	1	3	2	1	0	0	3	1	1	0	1	2	15	1.3	
植込型除細動器移植術	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0.2	
両心室ペースメーカー移植術	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0.3	
両室ベレーシング機能付き植込型除細動器移植術	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0.3	
その他*	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	0.3	
経皮的カテーテル心筋焼灼術合計	27	32	29	31	35	27	30	28	25	30	30	35	359	29.9	27.6
総合計	28	35	33	35	36	27	35	29	27	31	33	38	387	32.3	30.1
前年度合計	29	33	31	26	33	29	33	28	35	33	21	30	361	30.1	

\* 2/7 静脈造影 2/8, 3/1 ペースメーカー交換術

磁気ナビゲーション	10	12	12	13	10	9	16	16	7	12	5	9	131	10.9	15.9
-----------	----	----	----	----	----	---	----	----	---	----	---	---	-----	------	------

アブレーション前CT	単純3D	5	9	8	5	8	4	8	5	4	8	3	8	75	6.3	6.5
	造影3D	16	19	12	15	25	9	21	24	23	20	36	20	240	20.0	17.3
合計		21	28	20	20	33	13	29	29	27	28	39	28	315	26.3	23.8

※ペースメーカー、ICD、CRT-P、CRT-Dの移植及び交換件数は、不整脈センターで行ったもののみで、手術室で行ったものは含まない。

# 検査科

## ■スタッフ紹介

【高槻病院検査科】2018年4月

臨床検査技師 40名（パート含む）

准看護師 1名

検査事務 3名

《各種学会等認定取得者》

超音波検査士

循環器 5名

消化器 2名

体表臓器 1名

健診 1名

産婦人科 1名

血管診療技師 3名

認定輸血検査技師 1名

細胞検査士 5名

国際細胞検査士 4名

二級臨床検査士

病理 4名

血液 2名

臨床化学 1名

神経生理 1名

循環生理 1名

緊急臨床検査士 2名

医用質量分析認定技士 1名

医療情報技師 2名

管理栄養士 4名

## ■部署概要

当科では検体検査部門（生化学、血液、一般、輸血、免疫血清、細菌、遺伝子検査等）、生理検査部門（循環器、肺機能、神経生理、耳鼻科、産科超音波等）、病理検査部門（組織、細胞診、病理解剖等）の業務を行っている。

その他では、採血業務をはじめ、ICTやNST、糖尿病教育といったチーム医療にも参画している。また法人検査部門協議会を発足させ、各施設間での情報共有や人事交流を行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

法人の検体検査業務を集約していた杏和総合医学研究所が2018年3月をもって閉所したことに伴い、院内で処理される検体検査件数は生化学部門を中心に増加している。また2017年度に開設した細菌検査室の運用も軌道に乗り、感染症診療において大きな一助となっている。

2018年12月に施行された医療法の改正では、検査精度の確保の基準が明確に示された。これに伴い測定標準作業書や機器管理台帳など多くの帳票類の準備を行った。また外部精度管理調査への積極的な参加に努め、その結果も良好に保っている。

## ■今後の展望

臨床検査機器の発展はめざましく、特に遺伝子検査関連機器は感染症診断や薬剤耐性菌の判定に有効である。今後、東京オリンピックや大阪万博などワールドワイドなイベントが開催されるが、諸外国から持ち込まれるであろう感染症リスクへの備えとして当院でもこれらの機器の導入準備を進めている。

検査品質管理室を設立させ、検査精度の更なる向上に努める。また法人内での内部監査体制の仕組みを構築し、自らの業務を自らの目で客観的評価を行い、業務の改善に繋げていく。

検査部門協議会の発足に伴い、愛仁会他施設の臨床検査部門との組織横断的な連携体制の強化が急務となっている。

引き続き、スタッフの学術的活動の推進や認定資格取得などのスキルアップ、他施設横断的なローテーションや、キャリアパス制度の運用を進めていきたい。

表1. 高槻病院検査年間総件数

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
血液検査	230,708	247,955	282,669	299,971	106%
一般検査	104,003	105,488	95,541	80,883	85%
細菌検査	163	187	27,924	57,376	205%
輸血検査	15,749	14,229	29,188	27,103	93%
血清検査	76,120	78,543	117,936	116,884	99%
生化学検査	1,262,901	1,334,253	1,627,651	1,770,480	109%
生理検査	37,158	39,917	41,538	43,757	105%
超音波検査	11,954	12,878	13,075	12,931	99%
病理検査	19,743	20,753	20,983	22,238	106%
総合計	1,758,499	1,854,203	2,256,505	2,431,623	108%



## 臨床工学科

### ■スタッフ紹介

科長 谷 昌樹  
主任 田仲達也  
主任 前田美由紀  
副主任 渡邊恵三  
副主任 原田雄貴  
副主任 野崎雄大  
副主任 西野 功  
その他 科員 19名

臨床工学科 科員総数：26名

(認定士など関連資格)

体外循環認定士，呼吸療法認定士，不整脈治療専門技士，  
透析療法認定士，臨床 ME 専門認定士など

### ■業務内容

#### 【手術室・泌尿器外来業務】

6名が従事し，2～5名で日々の業務に対応している。点検業務として，麻酔器・生体情報モニターなどを行っている。また臨床支援業務として人工心肺・補助循環・脳外ナビゲーション・再生医療・レーザー照射装置・血液浄化療法・膀胱鏡（泌尿器外来）などの特殊機器操作を行っている。

人工心肺件数：101件 ナビゲーション：20件  
セルサーバー：156件 始業・終業点検：3,599件  
膀胱鏡（泌尿器外来）：832件

#### 【アンギオ室・不整脈業務】

11名が従事し，アンギオ業務は1～2名で，不整脈業務は2～3名で日々の業務を行っている。心臓カテーテル検査治療・下肢アンギオ・ペースメーカー・アブレーション・補助循環などの臨床支援業務を行っている。

CAG：705件 PCI：317件 ABL：359件

#### 【内視鏡業務】

4名が従事し，1名で日々の業務に対応している。内視鏡装置・ファイバー・洗浄装置・電気メスの操作及び点検を行っている。また肝悪性腫瘍の凝固に使用するラジオ波装置の操作件数は8件である。

### 【医療機器管理業務】

医療機器管理ソフトによる一元管理を行い，特定医療機器の定期点検・日常点検を実施している。人工呼吸器に関しては，管理のほかに病棟ラウンドによる使用中点検やRSTに参加している。また血液浄化療法・ECMO・脳低温療法装置などの特殊機器の対応も行っている。小児在宅チームを作り，小児在宅呼吸器業務も積極的に行っている。

(保守管理) 始業・終業：9,133件

使用中点検：14,982件 定期点検：760件

### 【血液浄化業務】

2017年6月に愛仁会リハビリテーション病院から高槻病院に透析室が移設され，急性期中心の透析室という方針で業務を行っている。9名が従事し，3～5名で日々の業務に対応している。

血液透析：10,657件 CHDF：214件 PE：10件

腹水濾過濃縮静注法：3件 GCAP・LCAP：13件  
PMX：2件

透析装置定期点検：234件 オーバーホール：12件

### ■2018年度の実績

#### 【実績】

(1) 第11回植込みデバイス関連冬季大会 演者：佐藤寛也名 “ステレオタキシス社製リモートマグネティックナビゲーションシステム使用環境下でICD機能が適切に作動せず電池電圧が電池交換指標となった一例”

### ■今後の展望

人工心肺症例の増加に伴い，臨床工学科として部署の整備・教育などを進め人材育成を進めて行く。また，臨床工学技士が不在である系列病院を支援し，臨床工学科が愛仁会グループに貢献できるよう尽力する。

# 栄養管理科

## ■スタッフ紹介

(直営) 管理栄養士 8 名 (常勤)

備後安輝子 (2017 年 10 月より産休中)

中川弘子 (12 月からしんあい病院より転属)

上野有里・高野佳那・尾崎郁香・堀 美友紀・西村雄二

梶部尚子 (7 月退職)・岡本太佳代 (6 月入職)

福重 舞 (9 月入職)・内野友理恵 (6 月から産休)

上田美智子 (6 月から産休)

(委託) 管理栄養士 3 名 (常勤)

栄養士 5 名 (常勤) 1 名 (パート)

調理師 7 名 (常勤) 3 名 (パート)

調理員 23 名

糖尿病療養指導士 5 名

病態栄養認定管理栄養士 3 名

がん病態栄養専門管理栄養士 1 名

NST 専門療法士 1 名

特定保健指導実践者 2 名

## ■業務内容

### 【入院食事管理】(表 1)

- ・食種は成分別管理, 個別対応, 選択食対応, 月 1 回行事食対応, 分娩の祝膳実施 (月約 100 件), 誕生食実施 (月約 20 件)

- ・調乳・分注管理 (調乳室にて)

NICU・GCU・小児センター・PICU 合計約 50 名程度

- ・経腸栄養剤管理 (薬品系も含む)

半固形化対応, 腸管免疫補助栄養剤など数種類の管理も含む。

- ・緩和ケア食提供 (完全個別対応)

緩和ケアチームより依頼後, 1 日 3 名まで受け入れ, 病院の栄養士にて作成。テーブルコーディネートで演出している。

### 【食事温度管理】

- ・温冷配膳車 12 台で対応

- ・検査で食事時間が遅れる場合は, 延食 (14 時, 15 時の 2 回配膳) で対応。対象者を放射線科にて情報収集し, 病棟へ連絡確認するシステム。

### 【栄養管理】(表 2)

- ・栄養管理計画

全患者実施している。入院時栄養評価 約 1,100 件/月  
再評価 約 1,780 件/月

- ・入院栄養相談

(個別) 予約栄養指導, 食欲低下時の訪床相談 (NST・褥瘡・緩和ケア患者も含む)

(集団) 糖尿病教育入院教室: 週 2 回, 心不全教室: 週 1 回

- ・外来栄養相談

(個別) 予約栄養指導, 離乳食相談

外来栄養相談では, 糖尿病患者が中心であり 2 型糖尿病, 妊娠糖尿病や CSII や SAP 療法の 1 型糖尿病, 腎移植前後が多い。

(集団) 糖尿病教室: 月 1 回, 母親教室: 月 3 回, 緩和ケア講座: 年 1 回

### 【チーム医療】

- ・NST (栄養サポートチーム), 褥瘡, 緩和ケア, 嚥下, 糖尿病, 脳外科, 消化器内科, 心不全, 呼吸器内科

## ■2018 年度のトピックス・実績

- ・高槻病院がんに市民公開講座 2/23  
「免疫力を高める食事のとり方」

## ■今後の展望

昨年度よりスタッフの入れ替えが継続しており, 今年度も見込まれる。臨床部門では, 人材育成・新人教育に力を注ぐと同時に各個人のレベルアップを図っていききたい。

給食部門では, 今年度は食材料費見直しを必要とされている。経費削減・業務内容見直しを行った上でも, 患者満足度を維持した食事を提供できるよう努力していきたいと考える。また, 妊産婦入院患者の満足度向上に向けて, 分娩食の改善に取り組み, 産婦人科病棟のレベル向上に貢献したいと考える。

表 1. 年間食数状況

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
一般食数	11,527	12,723	13,829	11,200	12,467	11,751	11,079	10,524	11,405	10,845	11,010	12,519
特別非加算食数	5,766	6,020	5,212	5,589	6,057	5,179	6,480	6,327	7,182	7,794	6,839	7,162
特別加算食数	11,392	10,581	11,231	11,067	10,951	9,560	10,335	10,821	11,177	12,030	10,282	12,711
合計食数	28,685	29,324	30,272	27,856	29,475	26,490	27,894	27,672	29,764	30,669	28,131	32,392
調乳件数	1,206	1,533	1,603	1,780	1,589	1,409	1,387	1,361	1,245	1,457	1,471	1,652

表 2. 栄養指導件数及び栄養管理件数

(単位:件)

	入院指導	外来指導	訪床	離乳食指導	集団指導参加延べ数	総数	集団指導件数	栄養管理計画書作成件数	NST回診	褥瘡回診	緩和ケアカンファレンス・回診	摂食嚥下回診	他カンファレンス
4月	75	109	187	7	46	424	15	2,955	67	15	83	8	79
5月	54	86	163	6	48	357	13	3,411	56	29	161	11	43
6月	34	85	141	12	47	319	15	2,791	52	19	95	7	68
7月	48	97	176	7	41	369	17	2,919	89	26	119	8	33
8月	56	92	159	9	51	367	12	3,175	89	19	144	12	130
9月	36	75	115	7	33	266	10	2,466	53	8	92	8	5
10月	52	98	170	6	89	415	17	3,287	77	29	108	17	68
11月	64	91	130	9	32	326	13	3,141	86	15	119	13	169
12月	65	91	218	2	44	420	11	2,741	45	25	150	9	169
1月	74	85	175	5	54	393	13	3,028	68	29	123	9	127
2月	70	86	183	6	56	401	13	2,832	84	26	105	11	125
3月	58	98	163	10	81	410	11	2,928	89	34	133	6	149
合計	686	1,093	1,980	86	622	4,467	160	35,674	855	274	1,432	119	1,165

# リハビリテーション科

## ■スタッフ紹介

<理学療法士> 28名

山木健司（主任），山下真人（主任），  
井上知哉（主任），飯塚崇仁（副主任），  
清水和也（副主任），村川佳太（副主任）

<作業療法士> 10名

松下浩尚（主任）

<言語聴覚士> 8名（2名途中退職，1名転属）

俵屋章則（副主任），宮川美香（副主任）

## ■業務内容

### 【診療体制】

・月～土曜日の全日

### 【対象疾患】

・理学療法（表1）

処方数は整形外科からの処方件数が一番多く，人工関節や各種骨折，脊椎疾患など術前より介入を行っている。次いで総合内科，消化器内科，循環器内科からの処方件数が多く，高齢社会における総合病院の役割として認知症・サルコペニア・フレイル予防を含めた高齢者リハビリテーションにも力を入れている。がん患者に対して，予防的・回復的・維持的・緩和的すべてのフェーズに対応したがんのリハビリテーションを提供している。また，総合周産期母子医療センターとして，療法士も新生児から評価・治療を実施し小児リハビリテーションに取り組んでいる。

・作業療法（表2）

多様化する在宅生活に対して介護指導や応用動作の獲得だけでなく，日常生活や社会的役割の損失がないように入院早期やICUから介入している。従来から実施している応用動作，実践的ADL訓練の介入に留まらず，初期もの忘れ外来や糖尿病教育入院患者の認知機能検査などにも携わり，退院後の生活の質向上のため，家族を含めた指導を行っている。またターミナルを含めた在宅生活や，地域で暮らす不安を解消するべく，退院前訪問指導や外出訓練などの取り組みも行っている。

・言語聴覚療法（表3）

急増する高齢者の肺炎の原因となる嚥下機能障害に対して積極的に介入している。“いつまでも口から食べる楽しさをあきらめない”をモットーに，経口摂取に挑戦する

摂食嚥下リハビリテーションに取り組んでいる。また小児科と連携して成長発達を評価・促進する取り組みを行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度高槻病院リハビリテーション科の疾患別リハビリテーション料の総単位数は，脳血管疾患等リハビリテーション料40,319単位（昨年度36,853単位），運動器リハビリテーション料47,763単位（昨年度37,780単位），呼吸器リハビリテーション料25,877単位（昨年度22,343単位），心大血管疾患リハビリテーション料40,806単位（昨年度14,115単位），廃用症候群リハビリテーション料28,505単位（昨年度69,341単位），がん患者リハビリテーション料6,651単位（昨年度9,791単位）であった。

各療法別に見ると，理学療法における総単位数は単位102,595（昨年度97,174単位），作業療法における総単位数は39,694単位（昨年度39,748単位），言語聴覚療法における総単位数は23,816単位（昨年度23,362単位）であった。

## ■今後の展望

高度急性期病院の役割として，超急性期から積極的なりハビリテーションの実施と，リハビリテーション医療の質の向上を追求していくために，各療法士の専門・認定療法士資格や関連領域の資格取得の促進，各療法士の技術的評価の標準化を図り，関連職種の学術大会にも積極的に参加し，見識を深めていく。

また，経頭蓋直流電気刺激，頸部嚥下関連筋電気刺激機器（Vital Stim，Gentle Stim），低周波治療器（G-TES，MUROソリューション），免荷式リフトPOPO，体組成計（INBODY-S10），ロボティックリハビリテーション（HAL単関節用）と組み合わせた各療法を実施していく。

そして，引き続き法人内のリハビリテーション病院の回復期棟，障害児（者）病棟，また在宅部門とも密接な連携を取り，新生児から高齢者まで，急性期から維持期までの連続したトータルヘルスケアシステムの最初の窓口として機能できるように努めていきたい。



表 1. 理学療法 入院患者実績

(単位:件)

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	818	15.8%	耳鼻科	1	0.0%
脳神経外科	275	5.3%	皮膚科	37	0.7%
小児外科	16	0.3%	産婦人科	145	2.8%
消化器・一般外科	244	4.7%	泌尿器科	138	2.7%
心臓血管外科	187	3.6%	精神神経科	0	0.0%
呼吸器外科	69	1.3%	放射線治療科	0	0.0%
糖尿病内分泌代謝内科	57	1.1%	形成外科	15	0.3%
呼吸器内科	494	9.5%	リハビリテーション科	5	0.1%
消化器内科	578	11.1%	小児脳神経外科	136	2.6%
循環器内科	524	10.1%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	44	0.8%	腎移植科	0	0.0%
神経内科	145	2.8%	乳腺外科	74	1.4%
血液内科	28	0.5%	不整脈内科	21	0.4%
小児科	369	7.1%	総合内科	687	13.2%
新生児科	80	1.5%	合計	5,187	100.0%

表 2. 作業療法 入院患者実績

(単位:件)

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	296	12.1%	耳鼻科	0	0.0%
脳神経外科	265	10.9%	皮膚科	24	1.0%
小児外科	7	0.3%	産婦人科	4	0.2%
消化器・一般外科	29	1.2%	泌尿器科	23	0.9%
心臓血管外科	155	6.4%	精神神経科	0	0.0%
呼吸器外科	9	0.4%	放射線治療科	0	0.0%
糖尿病内分泌代謝内科	68	2.8%	形成外科	11	0.5%
呼吸器内科	295	12.1%	リハビリテーション科	3	0.1%
消化器内科	229	9.4%	小児脳神経外科	5	0.2%
循環器内科	268	11.0%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	10	0.4%	腎移植科	0	0.0%
神経内科	136	5.6%	乳腺外科	4	0.2%
血液内科	0	0.0%	不整脈内科	11	0.5%
小児科	17	0.7%	総合内科	571	23.4%
新生児科	0	0.0%	合計	2,440	100.0%

表 3. 言語聴覚療法 入院患者実績

(単位:件)

	処方件数	%		処方件数	%
整形外科	30	1.7%	耳鼻科	0	0.0%
脳神経外科	261	14.7%	皮膚科	2	0.1%
小児外科	23	1.3%	産婦人科	4	0.2%
消化器・一般外科	18	1.0%	泌尿器科	24	1.4%
心臓血管外科	99	5.6%	精神神経科	0	0.0%
呼吸器外科	3	0.2%	放射線治療科	1	0.1%
糖尿病内分泌代謝内科	13	0.7%	形成外科	7	0.4%
呼吸器内科	186	10.5%	リハビリテーション科	1	0.1%
消化器内科	140	7.9%	小児脳神経外科	23	1.3%
循環器内科	171	9.6%	眼科	0	0.0%
腎臓内科	8	0.5%	腎移植科	0	0.0%
神経内科	132	7.4%	乳腺外科	3	0.2%
血液内科	3	0.2%	不整脈内科	8	0.5%
小児科	52	2.9%	総合内科	546	30.7%
新生児科	17	1.0%	合計	1,775	100.0%

# 感染対策室

## ■スタッフ紹介

担当副院長：宮本典子（看護師）

担当部長：片山義規（医師：ICD）

室長：鳴美英智（感染管理認定看護師）

診療部担当：奥野恵子（医師：ICD）

看護部担当：佐藤裕美（看護師）

大年和可奈（感染管理認定看護師）

薬剤科担当：川崎文雄（薬剤師）

検査科担当：川崎純一（臨床検査技師）

事務部担当：勝田 篤（事務員）

## ■業務内容

1) 感染管理組織の運営

2) 抗生剤使用状況の確認（抗生剤の適正使用）

※毎週1回の指定抗菌薬ラウンド

指定抗菌薬：抗MRSA薬、カルバペネム系薬

キノロン系薬、TAZ/PIPC、第4セフェム系薬

3) 感染対策室による毎週1回の定期ラウンド

4) 感染症発症患者の把握

5) 定期的なサーベイランス（JANIS事業参加）

ICU, SSI, NICU, 全入院患者, 検査のすべての部門

6) 現場への介入

7) 院内感染対策マニュアルの整備

8) 職業感染防止対策と針刺し事故への対応

9) 結核感染対策の取り組み

10) 患者・職員の教育・啓発活動

11) 感染防止対策加算に伴う地域連携活動

## ■2018年度のトピックス・実績

今年度より、感染対策室に担当部長を配置し、院内の感染制御活動の強化を図った。

各種サーベイランス（JANIS事業）では、参加している他病院（300～500病院）とのベンチマークにおいて、

著しい差は認めていない。

2018年度の新規MRSA検出率は0.96であった。1.0未満ではあるものの前年度より増加している（新規MRSA検出率＝新規検出者数/延べ入院患者数×1,000）。

アルコール手指消毒薬遵守率向上の一環で、診療部各科への現状把握のためのヒアリングとミニレクチャーを実施した。

アルコール手指消毒薬使用調査の結果は、患者1人1日あたり19.6mL（13.0回）で前年度より3割程度の増加があった。しかし、領域別に調査するとWHO推奨値を超えて使用できているのは、集中治療系の病棟で、一般病棟では推奨値を大きく下回っている病棟もある。

針刺し関連事故発生総数は43件であった。エピネット日本版サーベイ2011の病床規模別の針刺し切創発生率の400～799床のデータ（6.7/100床あたり）と比較しても、上回る結果となった（当院：9.0/100床あたり）。

職員対象の院内感染対策研修会は、例年通り年間4回実施した。全体の参加率は、ほぼ100%を達成できている。表1、2に示す。

2018年度は、流行性感染症によるアウトブレイクは認めていない。各種薬剤耐性菌の新規発生については、発生状況のモニタリング、早期介入、現場の対策強化により拡大発展することはなかった。

感染防止対策加算に関する連携カンファレンス及びラウンドは、計10回実施した。表3に示す。

## ■今後の展望

今後、2020年の東京オリンピック、2025年の大阪万博が控えており、海外からもたらされる感染症にも注意を向けていく必要がある。そして、感染症の脅威に対応するために基本的な感染対策である標準予防策や感染経路別予防策を確実に実践することが求められている。

表 1. 院内感染対策研修会の実施内容

開催回	開催日	テーマ	講師	所属
第1回	7月3日	地域ネットワークで取り組む 薬剤耐性菌対策	朝野和典	大阪大学大学院医学系研究科 感染制御学講座 感染制御学 教授
第2回	7月10日	誰のために感染対策をするのか!?	下間正隆	京都第二赤十字病院 感染制御部 部長
第3回	11月21日	あなたは知っていますか？ -結核の現状(診療と感染対策)-	鈴木克洋	国立病院機構近畿中央呼吸器センター 統括診療部長
第4回	11月27日	あなたは知っていますか？ -高槻病院における結核の現状 (診療と感染対策)-	奥野恵子 鳴美英智	呼吸器内科 医長・ICD 感染対策室 室長・CNIC

表 2. 院内感染対策研修会の参加状況

( )内は2017年度の結果

	研修会の参加者	DVD視聴した者	対象者	参加率
第1回+第2回	877人(823人)	351人(346人)	1,219人(1,175人)	100%(99.5%)
第3回+第4回	851人(786人)	357人(353人)	1,209人(1,157人)	99.5%(98.4%)

表 3. 感染防止対策加算に関わる連携カンファレンス及び相互ラウンド

開催日	連携病院	開催の分類
7月12日	北摂四医師会感染対策ネットワーク (連携施設 計26病院)	北摂四医師会感染対策ネットワーク 平成30年度 第1回世話人会
8月31日	うえだ下田部病院 三島南病院	平成30年度 第1回 加算1-2連携カンファレンス
9月6日	北摂総合病院	平成30年度 加算1-1連携相互ラウンド(高槻→北摂)
10月16日	千船病院	平成30年度 加算1-1連携相互ラウンド(千船→高槻)
10月31日	うえだ下田部病院 三島南病院	平成30年度 第2回 加算1-2連携カンファレンス
11月1日	千船病院	平成30年度 加算1-1連携相互ラウンド(高槻→千船)
11月30日	北大阪警察病院	平成30年度 加算1-1連携相互ラウンド(北大阪→高槻)
12月21日	うえだ下田部病院 三島南病院	平成30年度 第3回 加算1-2連携カンファレンス
2月15日	うえだ下田部病院 三島南病院	平成30年度 第4回 加算1-2連携カンファレンス
3月29日	北摂四医師会感染対策ネットワーク (連携施設 計26病院)	北摂四医師会感染対策ネットワーク 平成30年度 第2回世話人会

# 医療安全管理室

## ■スタッフ紹介

医療安全担当副院長：岡 隆紀（医師）

医療安全管理室長：松木裕子（看護師）

医薬品安全管理責任者：岩城晶文（薬剤師）

医療機器安全管理責任者：一瓢綾子（臨床工学技士）

## ■部署概要

医療事故防止対策の検討に関する事項

1) 各部門リスクマネージャーと医療安全カンファレンスを実施

2) 医療安全推進ラウンド（17 部署実施）

3) 医療事故分析及び再発防止に関する事項  
看護安全管理委員会でインシデント分析

4) マニュアル改定に関する事項  
医療安全マニュアル改定

5) 事故防止に関する広報・教育・研修に関する事項

・医療安全ニュースの発刊 11 回

・全職員対象医療安全管理研修 2 回

第 1 回「チーム医療で進める医療安全～チームステップス～」(参加率：99.7%)

関西医科大学 医療安全管理センター

副センター長 理事長特命教授 宮崎浩彰先生

第 2 回「医療安全管理の全体像」(参加率：99.1%)

名古屋大学医学部附属病院 副病院長

医療の質・安全管理部 教授 長尾能雅先生

診療部：研修医研修，インシデント共有

看護部：新人看護師研修（入職時，静脈注射，KYT など）・ラダー研修

技術部：入職時研修

事務部：入職時研修

## ■2018 年度のトピックス・実績

2018 年度診療報酬改定により医療安全対策地域連携ラウンドが開始された。医療安全対策加算 I・II を算定している医療機関と連携し，相互に医療安全ラウンドをチェックリストに基づいて実施し，医療安全対策に関する評価を行った。

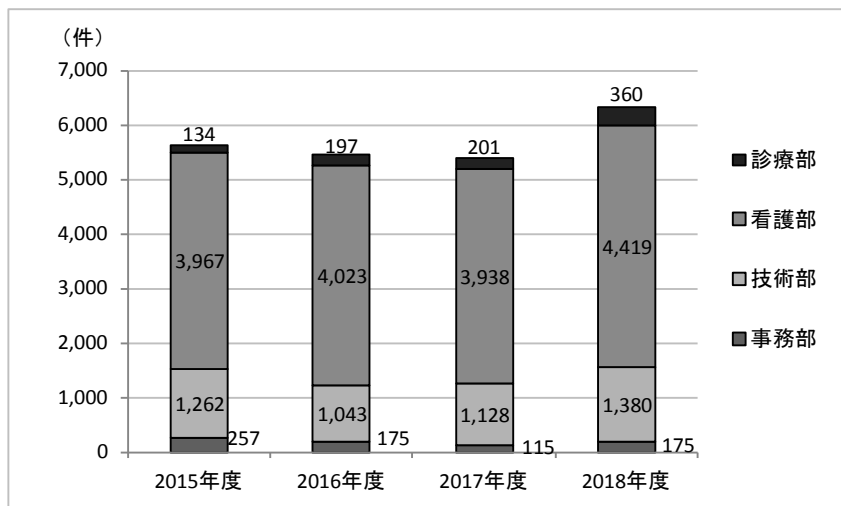
## ■今後の展望

インシデントレポートの報告件数は，昨年度の 5,382 件から 6,334 件へ増加している。合併症や偶発症などの報告やアクシデント発生時には，タイムリーに報告がされるようになり，医療安全文化も根付きつつあると感じている。今後もタイムリーな報告とタイムリーな行動・対策を実施していきたい。

図表 1. インシデント・アクシデント報告件数

(単位:件)

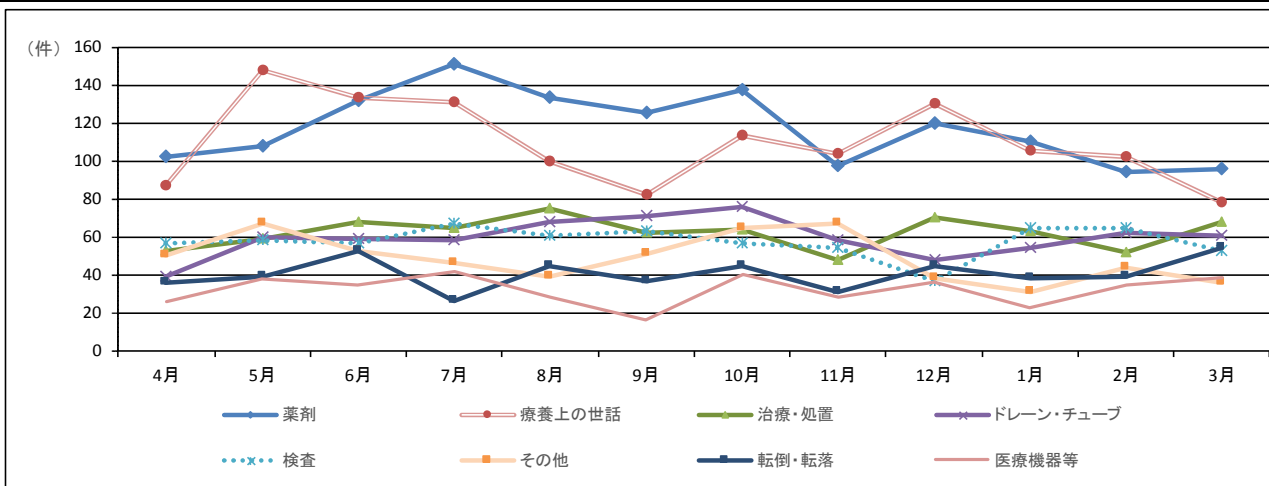
所属	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
診療部	134	197	201	360
看護部	3,967	4,023	3,938	4,419
技術部	1,262	1,043	1,128	1,380
事務部	257	175	115	175
総計	5,620	5,438	5,382	6,334



図表 2. 分類別インシデント・アクシデント件数

(単位:件)

分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	平均
薬剤	102	108	132	151	133	125	137	97	120	110	94	96	1,405	117
療養上の世話	87	148	133	131	100	82	113	104	130	105	102	78	1,313	109
治療・処置	53	59	68	65	75	62	64	48	70	63	52	68	747	62
ドレーン・チューブ	39	60	59	58	68	71	76	58	48	54	62	61	714	60
検査	57	58	57	67	61	63	57	54	37	65	65	53	694	58
その他	50	67	53	46	39	51	65	67	38	31	44	36	587	49
転倒・転落	36	39	53	26	45	37	45	31	45	38	39	54	488	41
医療機器等	26	38	35	42	28	16	40	28	36	23	35	39	386	32
総計	450	577	590	586	549	507	597	487	524	489	493	485	6,334	528



## 地域医療部

### ■スタッフ紹介

部長 岡 隆紀

科長 家山温子

副主任 中西満子, 井阪真規子, 河野美咲

道正幸枝, 大園陽子, 梅村里沙, 築地留美, 佐伯友湖,

加井美穂, 黒田昌樹, 波々伯部芳里, 佐伯亜希子,

加藤亜季, 堀池晃弘

### ■業務内容

地域医療支援病院としての役割である①紹介患者の受け入れ, ②かかりつけ医への逆紹介, ③救急医療の提供, ④施設の共同利用, ⑤地域の医療従事者に対する研修などの充実を図っている。また, 広報活動としてさまざまな広報誌や病院パンフレットの発行を行っている。さらに地域への社会貢献として月 1 回さまざまなテーマでの市民公開講座の開催, 地域の小中学校で講演会や救命講習会, 教職員対象のエピペン講習会などを行っている。

### ■2018 年度のトピックス・実績

紹介件数 (図 1) は月平均 1,871 件 (対前年比 95.8%), 紹介率 84.75% (図 2), 逆紹介件数 (図 3) は月平均 1,218 件 (対前年比 81.4%), 逆紹介率 55.19% (図 4) と地域医療支援病院としての要件である紹介率 65%以上, 逆紹介率 40%以上はクリアしている。施設の共同利用 (オープン検査) (図 5) については月平均 417 件 (対前年比 98.7%) であった。

救急搬送件数は月平均 649 件 (対前年比 102%) で, 年間平均不応需率は 4.9% (前年 5.5%) であった。7 月は 755 件以上を受け入れしており救急重複でのお断りが多く, 1 月, 2 月は季節的に満床でのお断りが多かった。1 月には過去最高となる 792 件の救急搬送を受け入れた。

今年度は地域医療支援病院の実地検査があり, 大阪府より指定された 3 か月分の紹介状や逆紹介状についての内

容確認, 研修会の案内状や参加者名簿などの業務報告書の内容に係る資料の確認, 地域医療支援病院の承認要件などの現場について確認された。今までになく厳しい検査ではあったが問題なくクリアした。

また, 登録医の先生方より, 高槻病院の紹介状専用封筒 (写真 1) や「当院は高槻病院と連携しています」というプレート (写真 2) を作成して欲しいとの要望がかねてよりあったため, それらを作成した。現在, 紹介状専用封筒はたくさんの登録医の先生方にご利用いただいている。連携プレートの配布のため登録医に持参しているが, すぐ待合に貼っていただけることもあった。

さらに, がん患者が継続的に口腔管理を受けられるよう, がん患者の療養に携わる医療機関スタッフの口腔ケアに対する理解の促進, がん診療拠点病院と歯科との連携促進を図ることを目的に大阪府が医科歯科連携推進事業を 3 年計画で行っており, 三島圏域では当院が協力病院となり当院医師や看護師などのスタッフ向け研修会や医科歯科連携推進員として週 2 回入院支援センターのスタッフとともに周術期口腔ケアの重要性について患者に説明や歯科口腔に関する専門的助言をいただいている。

### ■今後の展望

連携の中心にあるのは「患者」であること, 地域医療部の原点である「紹介患者はお断りしない」などを新任スタッフにも継承し, 全スタッフが同じ意識の下, 紹介・逆紹介が円滑に進むように医療連携の推進部署として人材育成に取り組んでいきたい。

また, 現在も医科歯科連携推進員として入院支援センターで口腔と全身との関係性や口腔ケアの重要性を患者に伝えていただいているが, 当院から歯科へ診療情報提供書の発行には至っていないため, 今後は文書での患者紹介をスムーズに行えるよう院内でのシステム構築と歯科との更なる連携に取り組んでいく。

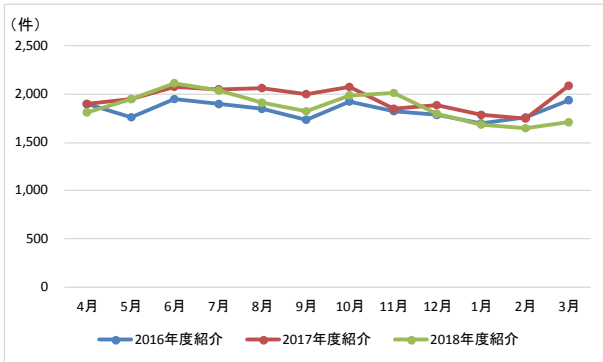


図1. 紹介件数

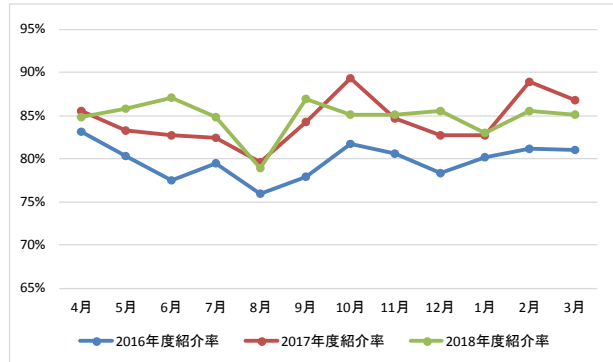


図2. 紹介率

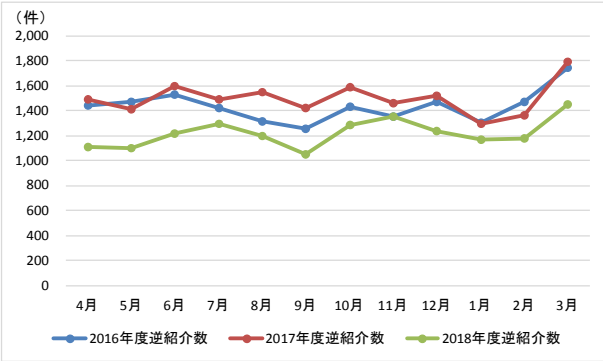


図3. 逆紹介件数

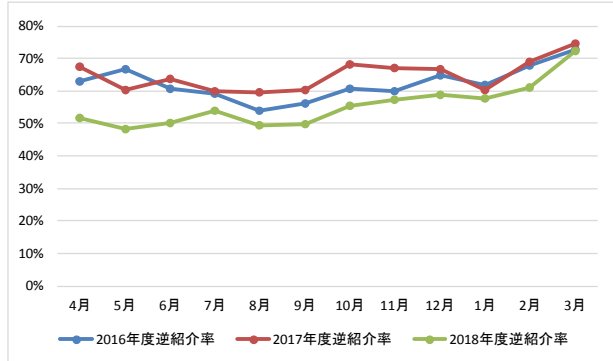


図4. 逆紹介率

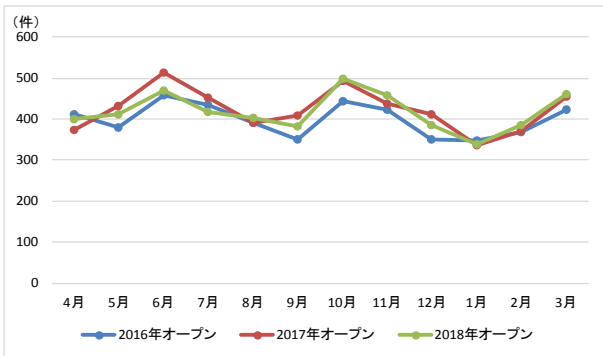


図5. オープン検査件数

写真1. 紹介状専用封筒

(表面)



(裏面)

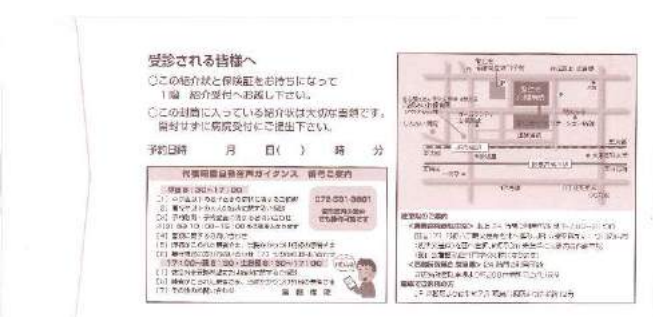


写真2. 連携プレート



## 患者相談室 医療福祉相談

### ■スタッフ紹介

患者相談室 室長 宮本典子（看護部長）

副室長 安庭和孝（事務部長）

スタッフ（社会福祉士 10名）

科長 田口眞規子

副主任 宮城雅代 芝田佑子

スタッフ 内藤 愛 中原琢斗 小形美菜子

日当瀬 雅 原田紗希 藤原亜悠

小川美沙

臨床心理士 4名（精神神経科参照）

### ■業務内容

①心理・社会的問題を持つ患者に対する支援（患者相談窓口）、②医療スタッフ・地域保健医療福祉機関とのネットワークワーキング、③がん相談支援センター業務、④院内児童虐待防止チーム（CPT）事務局、⑤大阪府性暴力被害者支援ネットワーク強化事業協力医療機関事務局、⑥大阪府児童虐待防止医療ネットワーク事業・産前産後母子支援事業（モデル事業）の委託事業にかかる活動を行っている。

### ■2018年度のトピックス・実績

・退院支援：昨年度に引き続き、退院調整看護師と更なる連携を行い、退院支援体制構築に尽力した。退院支援ケースの分担内容を看護と見直しを行ったことで、総件数は昨年比減となったが、よりきめ細やかに心理・社会的問題を持つ患者に対する支援を行えた。

・がん相談：宮城を専従とし、がん相談、がん患者サロン運営（1/2 か月第3水曜日）、がん地域連携パス推進等に加え、介護と連携し、就労支援にも力を入れて取り組んだ。

・周産期支援：NICU・GCUに小形を専任配置し、インテーク面接の定着化に取り組んだ。また大阪府より児童虐待防止医療ネットワーク事業・産前産後母子支援事業の委託（府下2病院）を受け、産前産後母子支援事業については田口がコーディネーターとして活動を行った。

・教育：高槻地区MSW対象にグループスーパービジョンを月1回開催した。

### ■活動

○大阪小児在宅医療連携協議会委員（田口）

○大阪医療ソーシャルワーカー協会理事（内藤）

○三島圏域ソーシャルワーカー連絡会代表（田口）

○日本医療社会福祉協会主催「周産期からはじまるソーシャルワーク研修」講師／「基幹研修I『医療における家族の理解』」講師（田口）

○第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会発表「がん相談支援センターを診断早期より利用してもらおう～がんと生きる患者さんに寄り添える支援を目指して～」（芝田）

○日本看護協会神戸研修センター主催「医療依存度の高い子どもの在宅移行に向けた病院看護職の役割」研修講師『医療依存度が高い学童に必要な制度と保障について』（田口）

○第10回日本子ども虐待医学会学術集会発表『大阪府児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院としての当院の取り組み』（田口）

○大阪府相談支援従事者専門コース別研修講師「医療的ケアが必要な重症心身障がい児（者）の特性と支援における留意点」（田口）

○西日本子ども虐待セミナーシンポジスト「周産期からの虐待予防～MSWの役割～」（田口）

### ■まとめと今後の展望

今年度はスタッフが増え、今後新たに取り組む業務について改めて目を向ける機会を持てた。府2事業に加え、法人外とのアライアンス連携会議を宮城・芝田を中心に看護とともに取り組んだ。来期は更に、専門性の高い、地域に貢献できる人材育成に励み、社会福祉士として患者家族の尊厳や権利が守られるよう引き続き活動を行う。



表 1. 総件数

(単位:件)

	2017年度	2018年度	前年比
新規ケース数	1,811	1,525	84%
終了ケース数	1,838	1,498	82%
延べ件数	8,238	5,418	66%

表 2. 問題総数

(単位:件)

経済的問題	346
社会福祉制度	0
退院支援	3,078
受診受療相談	866
心理・社会的問題	2,036
家族への支援	685
社会復帰支援	38
問題その他	0
総計	7,049

表 3. カンファレンス開催状況 (入退院支援室含む)

(単位:件)

	2016年度	2017年度	2018年度	前年比
退院前合同カンファレンス (実施数)	47	39	46	118%
合同カンファレンス (介護支援連携指導科算定)	192	148	138	93%
病棟カンファレンス	649	707	618	87%
チーム医療カンファレンス	68	65	133	205%
その他カンファレンス	100	109	95	87%

表 4. 会議等

(単位:件)

研修・学会・患者会	45
院外会議	112
その他会議	247

# ボランティア活動報告

## ■ボランティア事務局スタッフ紹介

ボランティア窓口は高槻病院地域医療部にあり、中西、大園が担当し、愛仁会リハビリテーション病院地域医療室、水本、細川、松山とともにボランティア「マザーグース」と高槻病院・愛仁会リハビリテーション病院とのコーディネートを行っている。

## ■活動の実績

下記の表 1～6 参照

## ■今年度のトピックス

### ①クリスマスコンサート開催

音楽グループ「オルゴール」の皆さんを招いて、コンサートを開催した。ピアノを囲んで、鉄琴や木琴、鈴にタンバリン、かっこう笛やみず笛などいろいろな音色の楽器を組み合わせ、コミカルな合奏で楽しいひとときとなった。病棟へのボランティアメンバーによる送迎はなくなり、会場での案内であったが、入院中の方も自ら参加されたり、看護助手が入院中の患者を搬送してきたりと、盛況であった。「きよしこの夜」「赤鼻のトナカイ」「夕焼け小焼け」「故郷」では、皆一緒に歌を歌い、和やかな楽しいひとときとなった。毎年恒例となった手作りのクリスマスカードは、ボランティアメンバーから入院中の患者一人ひとりに手渡され、心温まるひとときとなった。

### ②七夕飾り

毎年、七夕の笹は生の笹を使用していたが、枯れて笹の葉が落ちたり、アレルギーなどの問題があるため、人工笹を購入し、1階と2階に設置し、人工笹にボランティアメ

ンバーでさまざまな飾りつけを行った。

患者などたくさんの方が、短冊に願いを込めて笹の葉に結びつけて、素晴らしい七夕飾りとなった。

願いの込められた短冊は、日吉神社に奉納し神主に祈禱していただいた。

### ③地域の方々のご好意を役立てる

今年度も、地域の方々のご好意が病院に届けられた。患者を元気づけたいとコンサートで音楽を届けてくださる方、本の寄贈など、地域の方々のご好意が患者に届くよう「マザーグース」が催しを企画運営している。

## ■今後の課題

病院ボランティアの活動が日本で始まり 50 年が過ぎた。当院ボランティアは 1987 年に設立し、30 周年を迎えた。昨年度に引き続き今年度も、「ボランティアの減少」「ボランティアの高齢化」など直面する課題について話し合いを重ねてきた。結果、退会年齢は設けず、入会時に年齢制限（70 歳）を設けることとなった。メンバーからは自身の心身が許す限り活動を継続したいという意見が出された。今後も継続して活動が展開できるようメンバーとともに知恵を出し合い、ボランティアだからこそできること、ボランティアでなければならないことをモットーに、患者の療養生活をはじめとした地域住民の支えになれるよう取り組んでいきたい。自らの意思ですすんで役立とうとするボランティア精神が最大限に生かせるよう、高槻病院・愛仁会リハビリテーション病院でのボランティア活動が、活動する側にとっても魅力的な場であるよう、今後ともに歩んでいきたい。

表 1. 活動実績（2019 年 3 月末現在）

	2018年	2017年
会員数	41人	42人
新規入会者数	1人	2人
退会者数	2人	3人
年間総活動時間	3,998.5時間	4,142.5時間
年間総活動回数	1,560回	1,579.5回
1人あたりの年間活動時間	97.5時間	98.6時間
1人あたりの年間活動回数	38回	37.6回
1人1回あたりの活動時間	2.3時間	2.3時間

表 2. グループ別活動時間と活動回数 (2019年3月末現在)

グループ名	活動時間(時間)	活動回数(回数)
ボランティアルーム	217	105
洗濯	779.5	301
受付	1,227	643
移動図書	968.5	336
裁縫	806.5	175
合計	3,998.5	1,560

表 3. ボランティア委員会の開催日程と議事内容

日付	内容
5月14日	各行事の企画委員の選出, 七夕行事関連
7月9日	七夕飾り反省, 夏休みについて
9月10日	クリスマスコンサートについて, 新年会について
2月25日	クリスマスコンサート反省, 次年度役員・グループ委員選出, 次年度活動計画と予算について, 総会について

表 4. 行事の日程と内容

行事	日程	内容
総会・茶話会	4月24日	会計・活動報告と次年度の会計案と活動案の承認及び役員の選出・病院より感謝状贈呈
七夕飾り	7月2日～7月9日	1階と2階に人工笹を設置. 短冊を準備し願い事を綴り飾りつけていただいた
クリスマスコンサート ツリー飾りつけ	12月17日	コンサート(参加者約95名). 当日に全入院患者へ手作りクリスマスカードのプレゼント
新年会	1月21日	メンバーの親睦を目的として「プルメリアリゾート」にて開催. ボランティア22名, 事務局2名の参加

表 5. 日本病院ボランティア協会主催行事への参加

行事	日程	会場	内容
総会・病院ボランティアの集い	10月24日	ホテルアウィーナ大阪	1,000時間感謝状対象者: 2名

表 6. 在宅酸素療法友の会レクリエーションへの参加

	日程	ボランティアの参加人数	行先
春	5月22日	2名	京都府 八つ橋庵しゃなり・京都鉄道博物館
秋	10月23日	2名	ミシガンクルーズ・湖の駅 浜大津おいしや

# 健康講座・院内行事

## ■助産師 活動実績

	年間延べ開催回数	会の名称	開催場所	参加延べ人数
1	25回	育児サークルにっこにこ	高槻病院5階東病棟 指導室2	162
2	48回	おっばいクラス	高槻病院	422
3	45回	お産準備クラス	高槻病院	434
4	60回	マタニティヨガ	高槻病院	224
5	10回	ママのためのにっこにこくらぶ	西武高槻店6階多目的ルーム	100

## ■がん患者さまサロン たんぽぽ 活動実績

	開催日	テーマ	開催場所	担当者	参加人数
1	5月16日	お金と暮らし	高槻病院3階 大会議室1, 2	宮城雅代	12
2	7月18日	知っておこう痛み止めの話	高槻病院3階 大会議室1	川畑大輔	12
3	9月19日	治療もしながら自分もケアしよう～ハンドケア・頭皮ケアのお話、ウィッグ・ケア用品・肌によさしい下着の展示・紹介～	高槻病院3階 大会議室1	がん化学療法看護認定看護師 南出美砂	8
4	11月21日	ヨーガでこころと身体をリラックス	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	ヨーガインストラクター&セラピスト 大澤美智子	13
5	1月16日	婦人科がんのお話	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	福岡泰教	12
6	3月20日	「泌尿器科のがんのお話」～前立腺がん・腎がん・尿路上皮がんについて～	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	谷口俊理	12

## ■関節セミナー開催実績

	開催日	テーマ	開催場所	担当者	参加人数
1	5月17日	最新の人工関節について	愛仁会リハビリテーション病院9階 アイワホール	平中崇文, 藤代高明	24
2	10月18日	「最新の人工関節について人工関節手術について」「関節に関する個別相談会」	愛仁会リハビリテーション病院9階 アイワホール	平中崇文, 藤代高明	13
3	12月13日	「最新の人工関節手術について」「関節に関する個別相談会」	愛仁会リハビリテーション病院9階 アイワホール	藤代高明, 平中崇文	22
4	3月16日	「最新の人工関節手術について」「関節に関する個別相談会」	愛仁会リハビリテーション病院9階 アイワホール	平中崇文	20

## ■HOT レクリエーション開催実績

	開催日	会の名称	開催場所	担当者	参加人数
1	5月22日	第45回HOTレクリエーション	八つ橋庵しゃなり, 京都鉄道博物館	中村美保	7
2	10月23日	第46回HOTレクリエーション	滋賀県大津港ミンガンクルーズ	中村美保	6

## ■ACLS 開催実績

	開催日	受講生(院内)	受講生(院外)	スタッフ数
1	6月17日	24	0	29
2	10月28日	18	0	28
3	2月24日	18	0	32

■糖尿病教室講座活動実績

	開催日	会の名称	テーマ	開催場所	担当者	参加人数
1	4月20日	糖尿病教育講座	インスリンについて	愛仁会リハビリテーション病院 地域交流スペース	薬剤師	15
2	5月18日	糖尿病教育講座	自分でできる血糖値を下げる食事	愛仁会リハビリテーション病院 地域交流スペース	山下みどり	25
3	6月15日	糖尿病教育講座	糖尿病性腎症って何？運動で腎臓を守ろう	愛仁会リハビリテーション病院 地域交流スペース	理学療法士	27
4	7月20日	糖尿病教育講座	塩分減の食事について	愛仁会リハビリテーション病院 地域交流スペース	透析室看護師	23
5	8月24日	糖尿病教育講座	筋肉を作る食事と水分の取り方について	愛仁会リハビリテーション病院 地域交流スペース	管理栄養士	20
6	9月21日	糖尿病教育講座	低血糖について	愛仁会リハビリテーション病院 地域交流スペース ふれあい広場	管理栄養士	25
7	10月19日	糖尿病教育講座	外食時の食事ポイントと簡単なレシピ	愛仁会リハビリテーション病院 地域交流スペース ふれあい広場	管理栄養士 上野有里	30
8	11月16日	糖尿病教育講座	この検査値はどう見る？	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	富永洋一	30
9	1月18日	糖尿病教育講座	災害時の対応はどうする？	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	糖尿病認定 看護師 山下みどり	20
10	3月15日	糖尿病教育講座	糖尿病から腎臓を守ろう！	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	透析看護師	25

■その他 地域に向けての研修活動

	開催日	会の名称	テーマ	開催場所	担当者	参加人数
1	4月20日	エビベン講習会	エビベン講習会	関西大学初等部	郷間 環	40
2	2月7日	地域住民研修会「冬の皮膚乾燥」	皮膚の乾燥とかゆみ	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	皮膚・排泄ケア認定 看護師 根岸 睦	48
3	3月16日	高槻病院キッズセミナー	病院ってどんなところ？医師ってどんな仕事？	高槻病院 3階大会議室	岡 隆紀, 川端 良, 朝倉 力, 服部健 吾, 渡部 彩	23(子ども13 名, 保護者 10名)

■高槻病院市民公開講座開催実績

	開催日	テーマ	開催場所	担当者	参加人数
1	4月21日	変形性膝関節症、スポーツ外傷に対する再生医療	よみうり松坂屋高槻文化センター	平中崇文	27
2	5月17日	「不整脈を治して健康寿命を延ばそう！」 「食事療法学の大転換」(CACAF)	高槻現代劇場中ホール	・山城荒平 ・北里大学北里研究所病院糖尿病センター長 山田 悟	239
3	6月30日	「糖尿病診療最前線～かくれ糖尿病に要注意～」 「自分でも出来る！血糖値を下げるポイント」	よみうり松坂屋高槻文化センター	・富永洋一 ・山下みどり	27
4	8月10日	第3回ハートの日、『知らないうちに大きくなる大動脈瘤』	愛仁会看護助産専門学校6階 ナイチンゲールホール	大北 裕	100
5	9月1日	慢性腎臓病(CKD)を予防しよう～健康寿命の延伸のために～	高槻市生涯学習センター	・高槻市保健所健康づくり推進課 保健師 近藤康子 ・健栄会三康病院 管理栄養士 田中春日 ・大阪医科大学附属病院 腎臓内科 科長 森 龍彦 ・高橋利和	300
6	9月15日	COPDってどんな病気？	よみうり松坂屋高槻文化センター	船田泰弘	13
7	11月17日	夜間頻尿について	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	右梅貴信	28
8	11月24日	知っているようで実はよく知らない乳がんという病気	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	三成善光	15
9	1月19日	もっと知ろうよ！がんのこと～消化器がん～	愛仁会看護助産専門学校6階 ナイチンゲールホール	・北摂総合病院 佐野村 誠 ・高槻病院 澤井寛明 ・高槻赤十字病院 岩井真理絵, 藤原和子 ・大阪医科大学 李 相雄	127
10	2月23日	がんの”免疫治療”	高槻現代劇場(文化ホール3階会議室)	船田泰弘, 上野有里, 井上知哉, 川村めぐみ	137
11	3月9日	背骨のお話～高槻病院における脊椎関連手術について～	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	岡本剛治	31
12	3月29日	日常診療においてよく見られる皮膚感染症	愛仁会リハビリテーション病院3階 愛仁会ふれあい広場	瀬戸英伸	36



# 愛仁会 リハビリテーション 病院

〒569-1116

高槻市白梅町 5 番 7 号

URL: <http://www.aijinkai.or.jp/reha/>



## 理念・基本方針

### <理念>

再びその人らしい生活に

### <基本方針>

リハビリテーションの"re"は「再び」、"habilis"は「人間にふさわしい」の意味があります。障害を克服し、その人が望む、その人にとってふさわしい生活に私たちはどのような援助をしてあげたら良いのでしょうか。リハビリテーションの意味する言葉、その本質を私たちは理念として掲げました。患者さまの、その人らしい生活。答えはひとつではありません。無数にあると思います。職員ひとりひとりがその実現に向け、共に考え、行動すること、そして障害に悩む患者さまの人格を尊重する姿勢を常に持ちつづけることが大切であると私たちは考えています。

1. 私たちは、患者さま一人ひとりの尊厳を守り人権を尊重します。
2. 私たちは、患者さまの主体性を重んじ、安全で質の高い医療を提供します。
3. 私たちは、各職種間の連携を密にし、持てる技術を最大限に発揮できるチーム医療を実践します。
4. 私たちは、患者さまと診療情報を共有し、患者さまが納得される医療を提供します。
5. 私たちは、患者さまが地域社会において生き生きと暮らせるように、地域の人々と共にリハビリテーションサービスの向上に努めます。

## 施設概要

■病床数/264 床    ■診療科目/8 科

■病院機能/回復期リハビリテーション病棟、障がい者病棟、三島圏域地域リハビリテーション地域支援センター、日本リハビリテーション医学会認定研修施設、日本医療機能評価機構認定病院、同病院機能評価付加機能（リハビリテーション機能）評価認定病院

## 2018 年度総括

2018 年 1 月の 42 床増床に加えて、2018 年度診療報酬改定により回復期リハビリテーション病棟 1 の施設基準の厳格化がなされた。特にアウトカム評価については、従前の 27.0 から 37.0 へ基準値が引き上げられたが、リハ技術部や看護部など多職種が密に連携を図るなど活動した結果、年間平均 46.3 と基準値を大きく上回った。

また、病床稼働率は 100%を維持すべく、積極的な前方連携病院への営業活動を実施するとともに、ニーズに対して適切かつ迅速に対応し続けてきた結果、目標を達成することができた。

更には、外来リハや口腔ケアを含む歯科領域などの充実を図り、リハビリテーション医療の質や患者 ADL の向上に寄与することができた。

その他にも三島圏域地域リハビリテーション講演会を開催するなどし、地域の医療従事者への教育及び連携強化を図るとともに、愛仁会ふれあい広場にて地域住民向けイベントを多数開催するなど地域への貢献にも力を注いだ。

## 2018 年度活動状況

- 4月 愛仁会グループ合同辞令式, 役職者辞令交付式, 新卒辞令交付式, 期首全集, 新入職員歓迎会, Rプロジェクト施主検査・引き渡し, 事業計画説明会, 歯科標榜・診療開始
- 5月 三島圏域地域リハビリテーション連絡会・第2回講演会・多職種交流会, R ラウンジオープン, 上空通路開通式
- 6月 三島圏域地域リハビリテーション協議会, メンタルヘルス研修会, ゴスペルコンサート, 院内感染対策研修会, 特別全集, 大阪府北部地震対応, 大阪 JRAT 活動
- 7月 第5回 AIJINKAI 脳卒中下肢装具セミナー, わかりやすいリハビリテーション教室, 第3回愛リハ ACLS, 上半期褒賞発表式・ビアパーティー
- 8月 高槻ミュージズ・リハビリ実践講座, 栄養・褥瘡対策研修会, 監査法人中間監査, 摂津医誠会病院見学来院
- 9月 上半期業務改善成果発表会, 歯科診療体制整備, 健康診断, 季美の森リハビリテーション病院見学来院, 元気体操クラス病院見学ツアー
- 10月 三島圏域地域リハビリテーション協議会, 第16回北大阪 ISLS, トピックス研修, 韓国脊髄損傷協会病院見学, 大阪府障がい者自立相談支援センターひまわり見学
- 11月 ピアノ・ヴァイオリンコンサート, 第4回愛リハ ACLS, 第2回大阪 BHELP 標準コース, MUSE たかつき防災イベント, トピックス研修会
- 12月 認知症サポーター養成講座, 納会
- 1月 新年互例会, 鏡開き, 認知症サポーター養成講座, 京都私立病院協会病院見学, 三島圏域地域リハビリテーション連絡会症例検討会, 院内感染対策研修会
- 2月 院内感染対策研修会, 三島圏域地域リハビリテーション協議会, 監査法人期中監査, 第3回 AIJINKAI 高次脳機能障がいセミナー, 別府重度障がい者センター情報交換会, 症例検討会, 海外研修受け入れ (ベトナム, 香港, タイ)

- 3月 三島圏域地域リハビリテーション連絡会, 下半期業務改善成果発表会

## 2019 年度に向けて

回りハ病棟 210 床すべてで回復期リハビリテーション病棟 1 の施設基準を遵守するとともに, 障がい者病棟を含む 264 床すべてにおいて稼働率 100% を目指す。とりわけ, 当院にはリハ専門医をはじめとする多くの専門医が在籍しており, 合併症や脊損患者などにも対応することが可能なため, 前方連携を中心とした新たな入院患者確保に努める。

退院した患者支援を図るべく, 心リハやボトックスなど外来リハをより充実させ, 加えて訪問看護・訪問リハの介入を積極的に行う。特に在宅サービスセンター組織内での課題が明確化され, 2019 年度よりセンター長の配置や各部門への権限移譲を進め組織の活性化を進める。また, 業務の効率化をより一層進めるため, タブレットを用いた記録システムを導入予定である。

最後に, 2019 年度は 5 年ごとに実施される病院機能評価更新審査を受審予定である。これを機に改めて医療安全や感染防止をはじめ病院全体の組織体制を見直すこととし, リハビリテーション医療の質向上を目指した積極的な取り組みを実施しリハビリテーション専門病院としての確固たる地位を確立していく。

## 診療部総括

### ■スタッフ紹介

リハビリテーション科は、吉田和也（日本整形外科学会専門医，院長），砂田一郎（日本脳神経外科学会専門医，副院長），磯島さおり（日本内科学会総合内科専門医，副院長），兒島正裕（日本脳神経外科学会専門医，副院長），清水洋志（日本循環器学会循環器専門医，副院長），李容桂（日本小児科学会専門医），住田幹男（日本リハビリ医学会専門医），清水富男（日本整形外科学会専門医），城戸崎裕介（日本脳神経外科学会専門医），湯川弘之（日本脳神経外科学会専門医），福田和浩（日本神経学会神経内科専門医），和田佳子（日本小児科学会専門医），磯山浩孝（日本リハビリ医学会専門医），松岡美保子（日本リハビリ医学会専門医），寺田明佳（日本小児科学会専門医），永田大樹（日本循環器学会循環器専門医），中島敦史（日本神経学会神経内科専門医），藤井優子（日本リハビリ医学会専門医），水野佐枝（日本内科学会総合内科専門医），吉澤賢志で診療活動を行った。（資格は代表1つのみ提示，リハビリはリハビリテーションの略）。

### ■診療内容

前年度末より回復期病棟を増設して，回復期リハビリ5病棟210床，障がい者病棟1病棟54床（重症心身障がい児病床を含む）にて入院診療を行った。既存の回復期リハビリ4病棟は，回復期リハビリ病棟入院基本料1と病棟専従医による体制強化加算を堅持した。新設の回復期リハビリ病棟でも，当初は回復期リハビリ病棟入院基本料5を，9月からは回復期リハビリ病棟入院基本料1を取得した。外来診療は入院相談外来に加え，専門外来として脊損外来，装具外来，ボトックス・ITB外来，心大血管疾患リハビリテーション外来（心リハ外来），書類外来，通院リハビリを展開した。心リハ外来では1日の診療枠を20人に増枠して，診療体制の強化を行った。またチーム医療の一環として，認知症・せん妄支援チームを立ち上げて認知症ケア回診を実施して，認知症ケア加算Iを取得した。さらに歯周病変の治療，口腔衛生改善による誤嚥性肺炎予防，摂食嚥下機能向上を目的に，4月より当法人初となる歯科診療を開始した。当初は新入院患者の口腔内アセスメントと義歯調整のみであったが，6月からは可搬式歯科ユニッ

ト導入で病棟内での歯科的処置が可能となり，10月には診察チェアを設置した歯科診察室を開設して本格的な歯科診療を開始した。さらにリハビリ専門病院として退院患者のフォローアップの質向上のため，在宅サービスセンターを4月より当院へ再編入し，介護報酬改定に基づいたみなし事業としての訪問リハビリを7月より開始した。引き続き三島圏地域リハビリ地域生活支援センターや大阪府重症心身障がい児者地域生活支援センターの責務も担っており，日本リハビリ医学会や日本脳卒中学会の研修施設として専門医の養成にも携わっている。

### ■2018年度のトピックス・実績

1年間の退院患者数は新病棟増設の影響で1,835名（月平均152.9名）と昨年より増加した。一方平均在院期間は52.5日（2017年は46.8日）と前年よりやや延長している（表1）。主病名のICD-10による疾患大分類では，脳血管疾患を含む循環器疾患が28.0%（前年23.5%），大腿骨頸部骨折など骨折患者を含む損傷・中毒外因疾患が34.7%（前年32.2%）と，総退院患者数に対する二大原疾患の割合がともに増え，特に脳血管疾患症例が増加していた（表2）。紹介元では，高槻病院は30.5%（前年36.1%）と減少傾向が継続しており，高槻市内の他医療機関は39.6%（前年36.9%），大阪府下（高槻市外）の医療機関は22.6%（前年20.8%）と紹介先の範囲がより一層広域となる傾向が見られた。退院後の転帰は自宅退院が79.8%，手術目的や病状悪化による急性期病院への転院は9.5%であった（表3）。診療報酬から計算した居宅等復帰率は88.4%（前年84.5%）と若干前年より高い比率となった（表4）。

今年度の大きな出来事としては，4月の診療・介護報酬の同時改定と昨年度より継続していた“Rプロジェクト”の完成があげられる。前者では，診療報酬改定に伴って回復期リハビリ病棟の入院基本料Iの条件に，アウトカム評価を含みリハビリ評価指数の充実が求められるようになり，他部署とも連携してリハビリ実績指数の維持に努めた。後者では，新設した回復期リハビリ病棟の安定稼働に加え，4月にはSPD室が稼働を開始，6階の小児病床も4月に改修を完了して，5月には職員用ラウンジの「Rラウンジ」



がオープンした。また5月31日には長らく閉鎖されていた高槻病院との上空通路が再開して、同院への受診や当院への転院で利便性が向上した。学会活動としては、筆頭演者として日本リハビリ医学会総会などに10演題の発表を行った。また7編の論文の投稿を行っている。更には今年度も新たに2名の日本リハビリ医学会専門医を輩出することができた。6月18日に発生した大阪府北部地震では大阪JRATを通じて被災者支援活動を行っている。

### ■今後の展望

「再びその人らしい生活に」の理念の下、引き続き日本一のリハビリ専門病院を目指していく。「Rプロジェクト」の完成によるハード面の拡充に伴い、「飛躍の幕は開いた

さあ飛び出そう!!!」を合言葉に、ソフト面を重点的に充実させて、リハビリ医療の更なる質向上を目標に掲げている。回復期リハビリ5病棟は、入院基本料1を引き続き堅持するとともに、新設回復期リハビリ病棟も専従医を置いて体制強化加算を取得する。一方、外来部門では各種専門外来を一層充実させるとともに、退院後もシームレスな医療や介護の提供ができるよう、通院リハビリの充実、更には在宅サービスセンターや高槻エリアとも密に連携していく。歯科では、歯科衛生士の増員、歯科診療日の増枠、歯科電子カルテの導入、周術期口腔管理の導入など、更なる診療拡充を予定している。診療の質向上に寄与するため、来年度9月には、機能評価受審を予定している。(兒島正裕, 吉田和也)

表1. 診療科別・在院期間・退院患者数

診療科	退院患者(名)	平均在院(日)
リハビリテーション科(回復期)	1,145	65.7
リハビリテーション科(障害成人)	239	46.3
リハビリテーション科(小児)	342	14.5
リハビリテーション科(その他)	109	45.6
計	1,835	52.5

表2. 疾患大分類(ICD-10)別診療科別退院患者数

	(単位:名)				
	回復期	障害	小児	その他	総計
I 感染症及び寄生虫症	1	0	0	0	1
II 新生物	7	2	0	0	9
III 血液造血器疾患及び免疫疾患	0	0	0	0	0
IV 内分泌栄養代謝疾患	0	1	11	0	12
V 精神及び行動疾患	0	0	3	0	3
VI 神経系疾患	19	60	200	3	282
VII 眼及び付属器疾患	0	0	6	0	6
VIII 耳乳様突起疾患	0	0	0	0	0
IX 循環器疾患	412	53	0	48	513
X 呼吸器疾患	0	0	0	0	0
XI 消化器疾患	0	0	0	0	0
XII 皮膚皮下組織疾患	0	0	0	0	0
XIII 筋骨格結合組織疾患	135	6	0	12	153
XIV 泌尿生殖器疾患	0	0	0	0	0
XV 妊娠分娩産褥期疾患	0	0	0	0	0
XVI 周産期疾患	0	0	15	0	15
XVII 先天奇形・染色体異常	1	13	89	0	103
XVIII 症状・徴候・検査異常	0	0	10	0	10
XIX 損傷・中毒外因性疾患	494	94	8	40	636
XX 健康状態の影響要因	76	10	0	6	92
計	1,145	239	342	109	1,835

表3. 紹介元医療機関

紹介元医療機関	紹介数	
高槻病院	564名	30.5%
高槻市内	732名	39.6%
大阪府下(高槻市外)	418名	22.6%
大阪府外	133名	7.2%
当院外来	0名	0.0%
計	1,847名	100.0%

退院時の転帰

転帰先	退院数	
自宅退院	1,465名	79.8%
転院	175名	9.5%
うち 高槻病院	85名	4.6%
転所	192名	10.5%
うち 老健施設	84名	4.6%
死亡退院	3名	0.2%

表4. 在宅復帰率

①対象退院患者数	1,055名	
1. 居宅	824名	
2. 介護老人福祉施設	19名	
3. 介護老人保健施設	74名	
4. 他の回復期リハ病棟	2名	
5. 4を除く病院、有床診療所	20名	
転棟	15名	
高槻病院	11名	
その他	0名	
6. その他(有料老人ホーム等)	90名	
②	上記①のうち、退院先が居宅等であった	933名
③	居宅等復帰率 $100 \times ② / ①$	88.40%

# 看護部

## ■スタッフ紹介

職員数 224名 (産休・育休者 10名)

内訳: 看護師 179名 (平均年齢 40歳, 平均経験年数 7.5年)

看護助手 45名 (平均年齢 45歳, 平均経験年数 8.1年)

### 離職率

看護師 (常勤) 6.5%, 看護師 (非常勤) 17.4%, 離職理由は子育てが最も多く, 専門分野への興味等であった。  
看護助手 (常勤) 7.2%, 看護助手 (非常勤) 25%, 離職理由は進学や他分野への興味, 適正や能力への不安であった。非常勤職員の離職率が高い傾向にある。

## ■病床活動状況

褥瘡発生率: 0.45%, 褥瘡治癒: 61% (前年度比 164%)

褥瘡有病率: 2.81%

経鼻経管栄養から経口摂取への移行率: 65% (前年比 151%)

入退院支援算定率: 63% (年間退院総数 1,242名中算定総数 787名)

## ■看護部事業

### 目標 1. ICF の概念を活用した看護実践

ICF は 2001 年に改訂された "WHO 国際障害分類" であり, 医学モデルから生活モデルへの転換が進んでいる社会状況を見据え, 看護展開においてアセスメントに取り入れることに取り組んだ。アセスメント展開図の改定に向けて

主任会では ICF の概念を基にアセスメント様式の改定を行い, 記録委員会では電子カルテ上の看護記録を見直す活動を行った。入院患者全体の 35% に体重減少があることから, 副主任会では食事量や体重増減に着目した栄養アセスメントの標準化に取り組んだ。

その結果, 体重減少率の改善は見られなかったが, 上記要素に加え BMI や ALB, 食習慣や腸内環境など広範囲にわたる栄養カンファレンスを病棟が実施できるようになった。栄養改善とともに腸内環境を整える必要があるため, 次年度は栄養に加え排泄ケアに関わるアセスメントの標準化を課題とする。

### 目標 2. クリニカルラダーによる人材育成

2017 年度はクリニカルラダーを見直し, 2018 年度より運用を開始した。ラダーⅡ 6名 / (8名申請中), ラダーⅢ 3名 / (5名中) が認定を更新できた。科長によるキャリア面接に活用するためには法人が示すキャリアパスとラダーレベルの整合性を持たせる必要があり今後の課題である。

## ■今後の展望

2018 年度 1 月に回復期病棟を開設し病院機能は更に拡大した。今後は誤嚥性肺炎予防や認知症ケアなど, リハビリテーションを妨げる合併症, 脳血管障害患者割合の増加に向けたケアの充実と人材の育成の強化, 更にはアジア医療構想における技能実習体制を整備し, スムーズな研修運営を図る。

表 1. 病棟活動状況

病棟	平均在院日数	病床利用率	入院B項目	在宅復帰率	FIM利得	1日1人あたり平均単位
4階東病棟	67	99.2%	39.9%	87.1%	48.6	42,538
4階西病棟	67	99.1%	42.2%	88.3%	47.7	42,650
5階東病棟	63	99.1%	38.5%	87.2%	46.2	42,105
5階西病棟	67	99.0%	42.2%	86.5%	44.3	43,569
8階病棟	61	95.4%	39.3%	92.3%	44.9	38,349
6階病棟	27	91.0%	障がい者比率: 74.5%			37,262
全体	50.5	96.9%	40.4%	88.3%	46.3	40,966

表 2. 臨地実習受け入れ状況一覧表

(単位: 人)

学校名	人数	内容	学校名	人数	内容
A 愛仁会看護助産専門学校	52	基礎看護学実習Ⅰ	D 大阪医専	14	基礎看護学実習Ⅰ
	19	基礎看護学実習Ⅱ		20	成人看護学実習 リハビリ期
	43	老年看護学実習Ⅱ		33	成人看護学実習 慢性期
	18	統合実習		44	小児看護学実習
	17	地域実習(助産学科)	E 摂南大学	29	小児看護学実習
B 藍野大学	16	基礎看護学実習Ⅱ	F 梅花女子大学	11	老年看護学実習Ⅱ
C 京都光華女子大学	24	成人看護学実習Ⅰ		10	小児看護学実習
	16	統合実習			

# 理学療法科

## ■スタッフ紹介

2018年4月1日より13名の新入職員が入職し、計83名の理学療法士が活動した。

## ■業務内容

理学療法の対象疾患は脳血管障害後遺症を中心とした中枢神経疾患と大腿骨近位部骨折等の整形疾患が多く、近年は脊髄損傷も増加傾向にある。筋力増強運動、関節可動域運動、神経筋再教育、協調性運動等の運動療法を行うのと同時に、病棟での日常生活に結びつくように基本動作練習を行っている。また、入院早期に自宅環境を確認するための入院時訪問、退院後の生活を見据えた外出練習や退院前の自宅環境を調整するための退院前訪問指導など、院外での業務も積極的に行っている。さらに、退院後の生活について確認するための退院後訪問も行っており、より実生活を踏まえた理学療法が提供できるよう取り組んでいる。

心臓リハビリテーション外来では、急性期病院を退院した患者に対し、運動療法だけでなく医学的評価と患者教育・生活指導（2次予防教育・心不全管理）及びカウンセリングを医師・看護師とともに実施している。

また、装具や脊損・車椅子、筋電・ロボット、InBodyなど、臨床グループによる研究活動や新しい知識の習得、研鑽も積極的に行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年4月1日～2019年3月31日までの総患者数は1,838名。入・退院時のADL状況を図1に示す。2018年度理学療法診療報酬件数は理学療法288,537件であった。また、心大血管リハビリテーションの実施件数は2,946件（前年比189%）であった（表1）。

2017年12月にリハビリテーションセンターが2階に移転した。室内に1周75mのトラックエリアや検討会スペースを設け、認知症予防や心疾患対応の機器などを取り入れることで、より個別性の高い理学療法が提供できる環境を整えた。

また、患者を治療ベッドに寝かせて行うのではなく、全身の筋活動を伴う寝かせないリハビリテーションで積極的な運動を提供した。

## ■今後の展望

年々、在宅生活への早期移行が進む中、より急性期・生活期との連携を密にすることが求められている。入院中から退院後の生活を見据えた情報共有を前方・後方連携はもとより横（他部署）への連携を積極的に行うとともに、退院後の継続的リハビリテーションサービス提供体制の拡充と強化を図っていきたい。

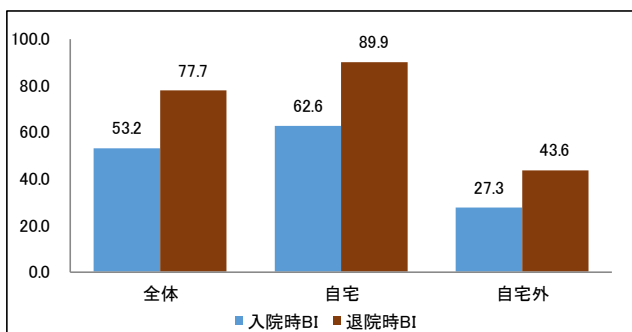


図1. 入・退院時 ADL 状況

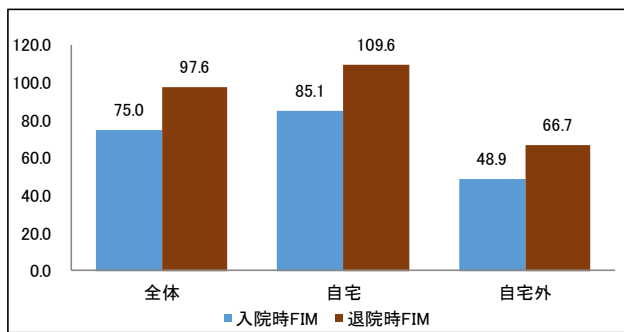


表1. 理学療法診療報酬件数

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
理学療法 (入院)	23,475	20,230	24,773	26,175	26,776	23,976	25,839	25,078	23,991	22,947	21,665	23,612	288,537
理学療法 (心リハ外来)	215	267	203	218	194	191	225	211	279	308	327	308	2,946

# 作業療法科

## ■スタッフ紹介

2018年度、作業療法科は4月に10名の新入職者を迎え、69名の体制で活動を開始した。異動、退職者をあわせて62名となり2019年3月末現在に至る。

## ■業務内容

2017年12月に高槻病院の外来部門の移転に伴い、リハビリテーションセンターが3階から2階に移った。自宅を模した和室やリビング、キッチンがあるADL室、パソコン室も新設され、充実した設備となった。

対象疾患は脳血管障害、脳性麻痺、脊髄損傷、大腿骨頸部骨折等である。

作業療法の内容として患者の日常生活における食事、排泄、家事動作等の応用動作能力の向上を目的に、神経筋再教育、筋力増強、関節可動域改善、作業活動の利用、病棟訓練等を実施している。いずれも在宅復帰が目標であり、積極的に進めていくために入院時訪問、退院前訪問指導を実施している。入院時訪問は主に三島圏域を対象に、住宅・生活環境を調査し、その情報をもとに訓練、動作指導を行っている。退院前訪問指導は自宅環境整備、生活の場での日常生活動作指導を患者、家族に実施している。いずれも理学療法士、医療ソーシャルワーカーの院内スタッフ

との連携にとどまらず、介護支援専門員などの地域スタッフとも連携を取りながら行っている。2014年度より退院後訪問調査を実施しており、退院後の実際の生活を見ることで患者満足度、セラピストの学習効果の促進を図っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

第3回 AIJINKAI 高次脳機能セミナーを2月に開催。外部講師の講義を通じて高次脳機能障害の理解を深めることができた。また麻痺側上肢に対して、CI療法を実践するようになった。処方数の増加は、病床増床上昇率と同様で、単位数は、作業療法士数の増加率と同様となった。9月の単位数の落ち込みは、台風による影響があり、2日間、療法が十分に提供できなかった影響である。

### ・実績

- ①年度別処方件数 (図1)
- ②訪問件数 (図2)
- ③月別総単位数 (図3)

## ■今後の展望

今年度は増床に伴い作業療法士の増員があった。療法を量的な提供から質的な提供を重視し、教育体制や作業療法の体系を構築していきたい。

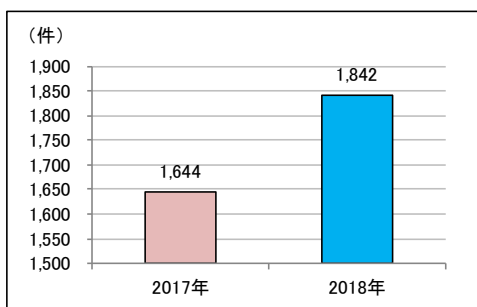


図1. 作業療法科処方件数

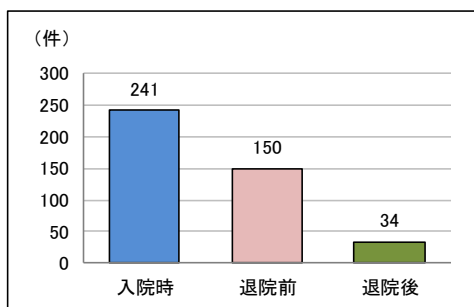


図2. 作業療法科訪問件数

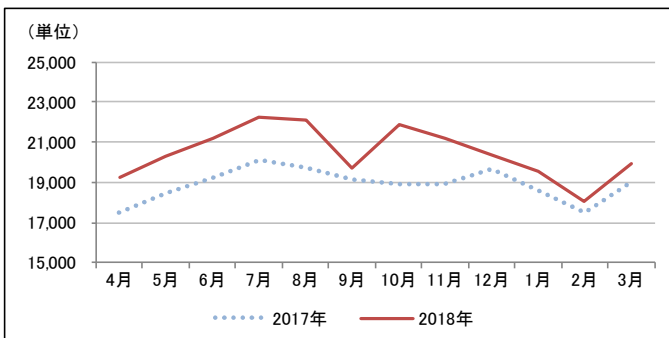


図3. 作業療法科総単位数

# 言語療法科

## ■スタッフ紹介

27名（2018年4月現在）

西島浩二	大内裕美
石井和樹	山岡伶子
池上智之	河田紀子
飯田久美	川村 悠
田中菜美	湯室友莉
平尾さやか	梶川紗緒里
直山夕子	長岡実咲
原 さやか	坂田華佳
生田 匠	岩見瑤子
原田成実	高橋 円
上土井美理	長谷川勝紀
小島諒子	神垣友里奈
寶谷香奈	岡村春華
白井麻矢香	

## ■業務内容

脳卒中・頭部外傷・中枢神経疾患・廃用症候群などの原因によりコミュニケーション機能の障がいや摂食・嚥下機能の障がいがある方に、また周囲の方々に対して、評価・訓練・指導・助言・援助を行う。

回復期病棟、障がい者病棟にて活動することで、成人だけでなく小児疾患への介入も行っている。

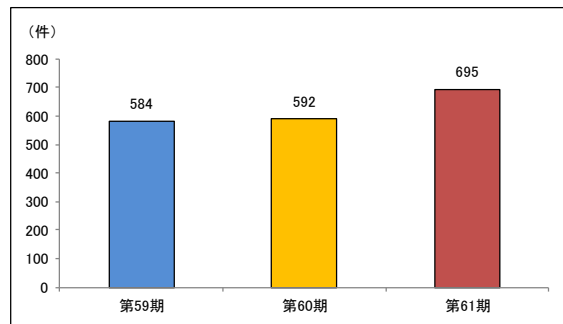


図 1. 処方数

## ・対象障害

失語症、構音障害、音声障害、言語発達障害、高次脳機能障害、摂食嚥下障害、重度心身障害など

## ■2018年度のトピックス・実績

### ・トピックス

言語療法科内で統一されていなかった口腔アセスメントを、OHAT (Oral Health Assessment Tool) に統一し、口腔ケアプロトコルの運用を開始した。

### ・実績

①処方数 (図 1)

②単位数の推移 (表)

③嚥下検査件数 (図 2)

## ■今後の展望

処方数・単位数とも年々増加傾向であり、それに伴ってスタッフ数も増員している。ただ、その半数以上が経験の浅いスタッフとなっている。

今後、より良いリハビリテーションを提供していくためには、言語療法科全体の質の向上が必須である。

そのためにも、より充実した勉強会の実施や学会・研究会への積極的参加を促し、研鑽機会や研鑽意欲を高めることが必要であると考えます。

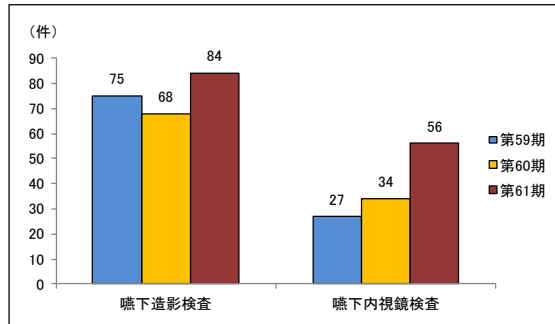


図 2. 嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査件数

表. 単位数の推移

(単位: 単位)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
第59期	5,965	6,189	6,298	6,811	6,544	6,350	6,525	6,379	6,491	6,246	6,010	6,610	76,418
第60期	6,347	7,157	7,710	7,830	7,734	7,157	7,427	6,801	7,655	7,202	7,146	7,765	87,931
第61期	7,717	7,979	8,414	8,849	8,421	7,389	8,277	7,765	7,689	7,609	6,989	7,590	94,688
前年同月比	121.6%	111.5%	109.1%	113.0%	108.9%	103.2%	111.4%	114.2%	100.4%	105.7%	97.8%	97.7%	107.9%

# 教育研修科

## ■スタッフ紹介

主任：貞末仁美（理学療法士）

副主任：白井宏樹（理学療法士）

副主任：横山武志（作業療法士）

科員：上本武子（言語聴覚士）

## ■業務内容

リハ技術部全体に関する教育研修計画を企画実施し、横断的な教育を実施する。また、他部門と連携した教育研修も請け負う。

### 1. Off-JT

#### ①新入職員研修（表1）

全新入職員（リハ技術部、看護部、診療技術部、事務部）を対象とし、愛仁会リハビリテーション病院の職員として共通して必要な病院理念・施設概要、各職種理解など基礎分野の研修を行った。

#### ②2年次研修（表2）

療法士として基本的に身につけておくべき事項について研修を展開した。症例報告会を行い、自らが行った評価、治療を振り返り、要点をまとめ伝える演習を行った。

#### ③3年次研修（表3）

療法士として基本的に身につけておくべき事項に加え、指導的役割や地域連携などについても取り挙げた。2年次症例報告会に参加して指導補助を行うことで、指導的視点を養う演習を行った。

#### ④指導者（プリセプター）研修（表4）

新入職員の指導にあたるプリセプターに対し、新入職員研修のあり方や指導者の役割、新入職員のサポート方法について研修を行った。また「整形外科疾患」について理解を深めるために、事前質問に答える形式で吉田院長に講義をして頂いた。

#### ⑤リーダー研修（表5）

リハ技術部スタッフはチーム医療促進のため病棟配属制となっている。病棟リーダー及びチームリーダーに対し、その役割とチームマネジメントについて研修を行った。

#### ⑥役職者研修（表6）

愛仁会リハビリテーション病院、高槻病院合同で副主任以上のセラピストを対象に研修を行った。樗副院長、大垣部長より、役職者としての心得などをお話いただいた。

また、新任副主任を対象に目標管理を中心とした新任副主任研修を行った。

#### ⑦全体研修（表7）

リハ技術部の全職員を対象にリトルアン、AED トレーナーを使用した BLS 研修を行った。

## 2. OJT

Off-JT で取り入れた知識を臨床場面で活用できるようにするため、カンファレンスや治療場面で併診し、指導を行った。

## ■2018年度の特ピックス・実績

①Off-JT の評価として受講者及び教育担当者に対してアンケート調査を実施し、次年度に向けての改善点を確認した。その上で内容・手法の確認が必要な箇所について変更を行った。

②新入職員に対して、指導者の業務伝達内容に過不足が生じないようにチェックシートを使用。また KTP シートを用いて月々の目標設定と進捗の確認を行った。

③教育ガイドラインリスク管理項目に基づいたスキルチェックシートを活用し、知識・技術の習得状況の確認を行った。

④後方連携の充実に向けた取り組みとして、退院後の外来見学や退院前訪問指導の同行状況の確認を行った。

## ■今後の展望

リハ技術部内各科との連携を密にし、セラピストが専門職として最大限の能力が発揮できるよう支援する。

また、各セラピストがチームの一員として円滑に協働できるよう、多角的な視点での支援に努めたい。

表 1. 新入職員研修

日時	教育研修内容	目標
2018年4月6日	オリエンテーション	・第1期新入職員研修の理解 ・当院概要の理解(疾患構成含む) ・当院リハビリテーション科の理解 ・東仁会グループリハビリテーション部門研修ガイドライン
2018年4月9日	施設基準・診療報酬 回復期リハビリテーション 障害者医療について	・施設基準の理解 ・診療報酬についての理解 ・回復期リハビリテーション療養の理解 ・増加する需要についての理解
2018年4月10日	リハビリテーションとは	・リハビリテーションの理解
2018年4月10日	教育ガイドライン	・東仁会グループ教育ガイドラインの理解
2018年4月11日	医療安全について①	・医療安全管理の理解 ・当院におけるインシデント、アクシデントの傾向の理解 ・ローチャートの理解(転倒転落・急変時) ・転倒予防 ・リハ技術部事故対応マニュアルの理解
2018年4月12日	感染予防について①	・感染予防の理解(スタンダードプリコーションの理解) ・職員感染時の対応の理解 ・感染予防の理解(リハ技術部)
2018年4月13日	リハビリテーション室について	・自理解・他職種との役割を理解し、連携に活かす ・リハビリテーション室を理解する
2018年4月16日	理学療法について 作業療法について	・自理解・他職種の役割を理解し、連携に活かす ・理学療法及び作業療法を理解する
2018年4月17日	言語聴覚療法について リハビリテーション看護について	・自理解・他職種の役割を理解し、連携に活かす ・言語聴覚療法及びリハビリテーション看護を理解する
2018年4月18日	MSWについて 医療事務について	・MSWを理解する ・管理科、医事科、診療情報管理科の仕事の理解
2018年4月19日	医療安全について②	・吸引器、心電図モニター、人工呼吸器の使用目的の理解 ・医療安全上の留意点の理解 ・当院で使用頻度の高い薬剤の効果及び副作用の理解 ・放射線について(X線画像、CT、MRI、VFについて)
2018年4月20日	接遇①	・接遇の基本について理解する ・よくある事例をもとに接遇、倫理、医療安全について理解する
2018年4月23日	回復期リハビリテーション病棟について 診療業務手順について	・チーム制 ・カンファレンス(入院時訪問・退院前訪問指導・入院から退院までの流れの理解 ・カンファレンスの重要性や総合監護計画の理解 ・日常生活機能評価(看護必要度4項目)の理解 ・日/週の業務の流れの理解
2018年4月24日	OUTの概要・入院時共同評価 OUTの概要・退院前カンファレンス OUTの概要・2か月目カンファレンス OUTの概要・退院前カンファレンス	・入院時共同評価のありべき姿を理解する ・初回カンファレンスのあるべき姿を理解する ・2か月目カンファレンスのあるべき姿を理解する ・退院前カンファレンスのあるべき姿を理解する
2018年4月25日	評価について	・臨床的評価過程を理解する ・JCFに基づいた評価の捉え方を理解する
2018年4月26日	医療安全について③	・転倒予防 実践
2018年4月27日	起居室稼働動作について	・起居、移乗動作時の注意点を理解する ・起居、移乗動作時の注意点を踏まえながら実施できる
2018年5月1日	FIM(リハ技術部)①	・正確にFIMをつけることができる(移動)
2018年5月1日	FIM(リハ技術部)②	・正確にFIMをつけることができる(セルフケア)
2018年5月2日	FIM(リハ技術部)③	・正確にFIMをつけることができる(認知)
2018年5月8日	急性期・回復期・生活期のリハ医療について①	・法人業務エリアの各病院・施設におけるリハビリテーション部門の理解し、連携のイメージを具体化する
2018年5月15日	FIM	・FIMを用いたADL評価について理解する
2018年5月22日	リスク管理について	・リスク管理に関わる理解機能を理解する
2018年5月29日	チーム医療	・リハビリテーション病棟のチーム医療における取り組みを知る (医療安全、感染)、診療回診、認知症回診、胃腸回診、NST回診、褥瘡回診・・・様々など含む
2018年6月5日	選出業務見学について	・選出業務見学オリエンテーション
2018年6月18日～6月29日	選出業務見学	・看護部の日勤帯業務の動きや役割を理解する ・患者の自立行動のADLの能力を理解する
2018年7月10日	選出業務振り返り	
2018年7月24日	脳画像と歩行能力	・脳画像と歩行能力について事例を通じて理解する ・装置の役割について知る
2018年8月7日	自立支援	・自立支援の観点より福祉用具の導入の意味を理解する
2018年8月21日	摂食・嚥下	・姿勢管理なども含めた包括的視点から嚥下障害を理解する
2018年9月11日	介護保険制度	・介護認定までの期間や流れの理解、施設の特徴の理解
2018年9月25日	6か月目の振り返り	・教育ガイドライン 6か月目自己評価 ・半年間得たものを整理し、下半期に向けた目標を設定する
2018年10月18日	接遇②	・高次脳機能障害の理解及びかわり方を学ぶ
2018年10月30日	接遇③	・認知症の理解及びかわり方を学ぶ
2018年11月13日	車椅子について	・「重しず」の理解 ・調整のしかたを理解する
2018年11月20日	BLS研修	・緊急時の初期対応を実践を踏まえて理解する
2018年11月27日	BLS研修(予備日)	・緊急時の初期対応を実践を踏まえて理解する
2018年12月4日	感染予防について②	・感染予防の理解、職員感染時の対応の理解 ・感染予防の理解(リハ技術部)
2019年1月22日	急性期・回復期のリハ医療について	・急性期・回復期のリハビリテーション医療の役割と意義を理解する
2019年2月12日	生活期のリハ医療について	・生活期のリハビリテーション医療の役割と意義を理解する
2019年3月12日	1年間の振り返り	・教育ガイドライン 12か月目自己評価 ・1年間得たものを整理し、次年度に向けた目標を設定する

表 2. 2 年次研修

日時	教育研修内容	目標
2018年5月10日	2年次の目標確認 リハビリテーションの理解	・教育ガイドラインを参考とした2年次の目標確認 ・リハビリテーションの理解を深める ・Case studyについての説明 ・説明と同意、守秘義務、個人情報保護の観点も踏まえて
2018年6月7日	医療安全 接遇・倫理	・動作時の転倒の危険を予測し、安全を確認できる(転倒予防実践) ・チェックリストを用いた日々の接遇の振り返り ・動画(事例)を通じて接遇・倫理・医療安全について理解する
2018年7月2日～ 10月15日 毎週月曜日	症例報告会	・倫理的配慮を含めた各療法のプロセス、リスク管理、連携について学ぶ ・各自が行った評価、治療を振り返り、次に繋げるために内省する ・実感を共有し、自分自身の意思を述べ、学ぶ ・各自が行ったリハビリテーションを自立して第3者に提示することができる ・外部での発表に向けた症例発表のプロセスを学ぶ
2018年12月6日	連携	・多職種協働の意味と価値をわきまえ、チーム医療を実践できる ・自ら率先して活動に前向きに取り組む ・前向きな、後向きな連携の重要性を理解し、情報提供を行うことができる
2018年2月7日	1年間の振り返り	・(Case study)を通じて学んだことを振り返る ・今年度の振り返り、来年度の課題を見つけ、目標を立てる

表 3. 3 年次研修

日時	教育研修内容	目標
2018年5月18日	3年次の目標確認 基本的概念のフォローアップ研修	・教育ガイドラインを参考とした3年次の目標確認 ・指導的役割の理解 ・リハビリテーション、JCF、臨床推論の理解を深める ・2年次Case studyのオリエンテーション
2018年6月14日	医療安全 接遇・倫理	・動画(事例)を通じて日々の接遇・倫理・医療安全の視点を養える ・指導的視点を持つことができる
2018年7月2日～ 10月15日 毎週月曜日	2年次症例報告会への参加	・2年次研修に参加して指導補助を行うことで、指導的視点を養うとともに 日本のJCFに活かすことができる ・学生や後輩の指導補助ができる
2018年11月8日	地域連携について	・前方連携、後方連携の重要性を理解し、情報提供を行うことができる ・地域包括ケアについての理解を深める
2018年2月21日	自己研鑽について 1年間の振り返り	・各職能団体の生涯学習の流れについて理解する ・日々の臨床の振り返りと研究や学会発表、研修参加等の意義の理解 ・4年目以降の目標を持つことができる

表 4. 指導者(プリセプター)研修

日時	教育研修内容	目標
2018年4月3日	指導者の役割について	・第60期新入職員研修のあり方を理解する ・指導者の役割が理解できる
2018年9月29日、30日 9月5日、6日	指導者の役割について	・新入職員研修の進捗状況を理解し、今後の予定を確認する ・新入職員のリポート方法について確認する
2018年10月11日、25日	整形外科疾患について	・整形外科疾患についての理解を深める

表 5. リーダー研修

日時	教育研修内容	目標
2018年5月24日	リーダーの役割とは	・リーダーとしての役割を認識する、リンクセラピストについて理解する ・チームの課題を明確にして、リーダーとして目標を立案する ・今年度の教育研修計画について
2018年11月6日	チームマネジメント	・上半期に立てた目標の確認と見直し ・チームマネジメントについて理解する

表 6. 役職者研修・新任副主任研修

日時	教育研修内容	目標
2018年4月4日	リハ技術部今期の目標について	・今期のリハ技術部目標について理解する ・役職者としての役割を認識する
2018年5月30日	副主任って? 東仁会リハビリテーション病棟の概要	・副主任の役割について理解する ・回復期リハビリテーション病棟に関わるさまざまな数値の理解
2018年7月18日	東仁会グループリハビリテーション部門の概要 東仁会グループ教育ガイドラインについての理解	・東仁会グループリハビリテーション部門について理解を深める ・教育ガイドラインについて理解する
2018年9月19日	経路管理のポイント	・科内及び自己の課題について目標管理を行い、課題解決に繋げる
2019年2月20日	課題解決Skill 科内、自己の問題解決→対策	・実践結果について振り返る

表 7. 全体研修

日時	教育研修内容	目標
2018年 8月9日、10日、17日	BLS	・急変時の適切な初期BLSを理解する

## 薬 剤 科

### ■スタッフ紹介

(主任) 奥西美奈

(副主任) 吉田弥生

愛知 祥, 若林沙季, 与那城知夏, 前田早紀, 瀬戸 梓  
松下比奈子 (10月から転属)

### ■業務内容

内服薬・外用薬・注射薬の調剤業務, DI 業務, 薬剤管理指導業務, 持参薬管理, 医薬品管理, 薬品マスター管理を中心に薬剤科業務を行っている。また, チーム医療や患者教室への参加, 学生実習の受け入れなども行っている。

#### 【調剤業務】

処方箋枚数: 2,171 枚/月 (前年度比 113.4%)

調剤件数: 4,714 件/月 (前年度比 118.0%)

注射箋枚数: 217 枚/月 (前年度比 114.8%)

疑義照会件数: 120 件/月 (前年度比 120.0%)

#### 【DI 業務】

薬剤情報の収集・整理を行い, DI ニュースとして電子カルテのトップページに毎月掲載し, 院内スタッフに情報提供している。また科内では, DI ミーティングを行い, 全スタッフで情報共有している。

#### 【薬剤管理指導業務】

全入院患者を対象に, 入院日, 新規処方開始日, 定期投薬日, 退院日を中心に薬剤管理指導を実施し, 患者・家族の服薬への理解が深まるよう努めている。

#### 【持参薬管理業務】

全入院患者を対象に, 173 件/月 (前年度比 110.2%) の持参薬識別報告を実施している。追加持参薬を含めると入院患者 154 人/月に対し, 112.3%の識別件数に達する。

#### 【医薬品管理】

採用薬品数: 403 品目 (年度末時点)

採用後発品数: 174 品目 (年度末時点)

後発品採用率 (品目): 75.7% (年度末時点)

後発品使用率 (使用数量): 95.1% (今年度月平均)

毎月月末に棚卸を実施し, 適切な在庫管理に努めている。また, 院内の薬品配置場所における保管環境を毎日確認し, 薬品の品質管理を行っている。

#### 【チーム医療】

ICT・AST・DST などのチーム医療に参画し, 毎週の病棟回診へも参加している。

#### 【患者教室】

わかりやすいリハビリ教室脳卒中編, 脊損教室では, 患者・家族を対象に薬の役割についての講義を実施している。

#### 【学生実習】

薬学部 5 年次学生実習 3 名の受け入れを行った。薬剤師業務だけでなく, リハビリテーション医療における多職種協働の取り組みなど, 当院の特徴を取り入れた内容で実習を構成し, 大学からも良い評価を受けた。

### ■2018 年度のトピックス・実績

2018 年 1 月の新病棟開設・増床に伴い, 2018 年度の調剤・持参薬管理・薬剤管理指導のいずれにおいても, 前年度比 110%を超える業務実績となった。

#### 【薬剤管理指導実績】

2018 年度も全入院患者を対象に薬剤管理指導を実施し, 薬剤管理指導件数は 10,042 件 (前年度比 113.9%) と増加した。

#### 【薬剤総合評価調整加算】

診療部・医事科・薬剤科での情報共有・連携により, 積極的に継続処方薬の減薬調整に努め, 2018 年度は 78 件 (前年度比 104.0%) の算定に繋がった。

### ■今後の展望

他職種との連携を強化し, リハビリテーションにおけるチーム医療の一員として, 薬物療法の実践及び薬品に関わる安全管理を行っていききたい。また, 経験年数の浅い薬剤師も多く, 科員一人ひとりのスキルアップが課題となる。

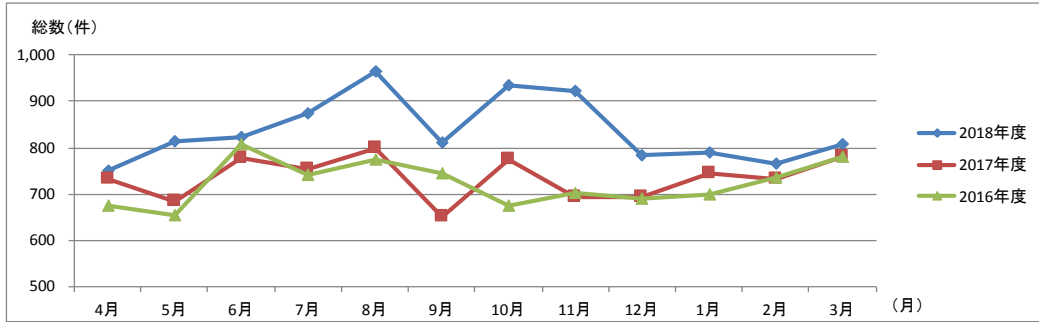
さらに, 2019 年度は治験薬管理業務を新たに開始する。当院では初導入となるため, 関連職種と連携し, 適切な運用管理を図っていききたい。



図表 1. 薬剤管理指導実績

(単位:件)

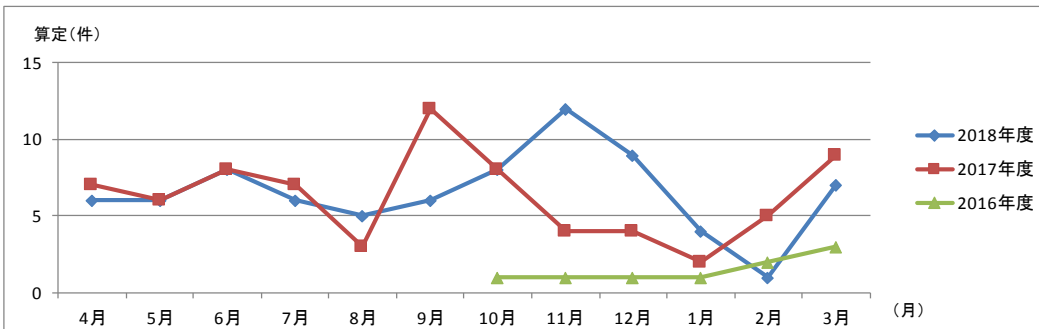
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
薬剤管理指導1	434	436	458	463	559	486	491	505	407	422	419	431	5,511
薬剤管理指導2	234	278	269	300	301	227	324	307	283	251	241	248	3,263
退院時薬剤情報管理指導	83	99	96	110	106	97	121	109	95	117	105	130	1,268



図表 2. 薬剤総合評価調整加算算定実績

(単位:件)

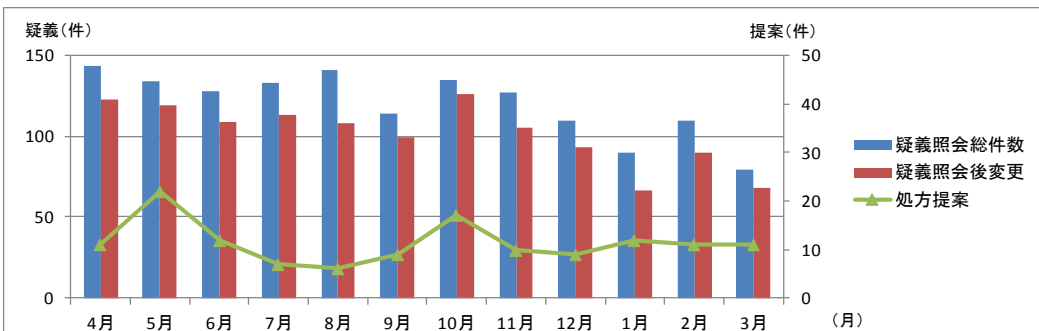
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
退院患者数(回復期)	77	85	101	104	96	96	103	96	91	95	91	110	1,145
対象患者数	15	18	22	15	12	15	18	19	15	14	9	15	187
算定患者件数	6	6	8	6	5	6	8	12	9	4	1	7	78



図表 3. 疑義照会/処方提案実績

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
疑義照会総件数	143	134	128	133	141	114	135	127	110	90	110	79	1,444
疑義照会后変更	123	119	109	113	108	99	126	105	93	66	90	68	1,219
処方提案	11	22	12	7	6	9	17	10	9	12	11	11	137



## 放射線科

### ■スタッフ紹介

(主任) 高橋大造 (科員) 和田 尚

### ■業務内容

TV 検査は VF 検査, 膀胱造影, PEG 交換等. エコー検査は腹部, 表在, 下肢深部静脈は放射線技師. 心臓, 頸動脈は担当医が行っている. 一般撮影, CT 検査は当院で行い, MRI 検査, 骨塩検査等は高槻病院の協力の下行っている. 当院の特色として一般撮影では車椅子検討会直後に車椅子に座ったまま撮影を行う車椅子全脊椎撮影を行っている.

### ■2018 年度のトピックス・実績

2018 年度より下肢深部静脈エコー検査を放射線技師が担当するようになり, いつでも検査が行えるようになったこと, 前年度より循環器内科医師が着任され, 心エコーのオーダーが多くなったこと, 膀胱造影の事前検査として腹部 (膀胱) エコーをルーチン化したことが要因となり, エコー件数は前年比 157% (+212 件) と大幅に増えた. 上空通路再開通に伴い高槻病院で行われる MRI 検査や骨塩検査の件数が前年比 136% (+20 件), 200% (+5 件) とそれぞれ増加し, 当院で行われる CT 検査の件数は前年比

130% (+263 件), 一般撮影の件数は前年比 111% (+200 件), TV 検査の件数は前年比 114% (+25 件) と増加した. トピックとして 2018 年 4 月より週 1 回歯科診療を開始した. それに伴い 9 月には歯科用 X 線撮影機器を 2 機導入し, 2019 年 3 月までにパノラマ撮影が 35 件, デンタル撮影が 19 件で計 54 件歯科の撮影を行った. それらを合わせ, 放射線科全体の撮影件数は前年比 115% (+723 件) の増加となった. 主な要因としては 2018 年 1 月より 8 階病棟 42 床が新たに稼働したことと考える.

### ■今後の展望

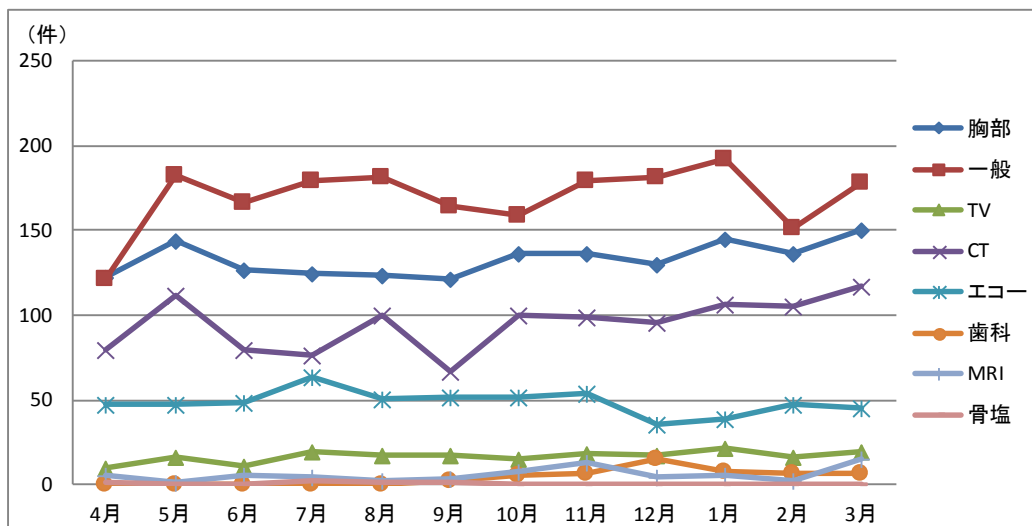
2019 年 4 月より歯科診療が週 1 回から 2 回に増えるため, 歯科撮影は昨年度の 2~3 倍は増えると予測する.

昨年度から始まった放射線技師による下肢深部静脈エコーは順調に推移すると考える. D ダイマー高値などの緊急性を要する検査にもすぐに対応でき, 中枢側に血栓を認めた場合, 必要性があれば肺動脈造影 CT を行うなど放射線科で両方の検査を行える利点を生かし迅速な対応を行う. 脊損患者の膀胱造影は入院中に 2 回検査を行う症例が増えており, また外来患者のフォローも行うなど膀胱造影のニーズは益々高まっているので対応していきたい.

図表 1. 2018 年度活動実績

(単位:件)

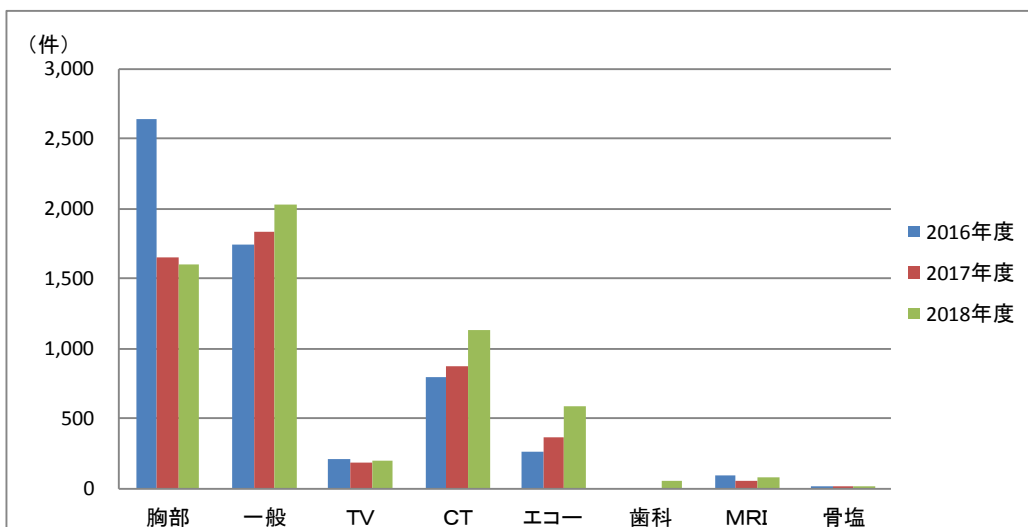
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
胸部	123	144	127	125	124	122	137	137	130	145	136	150	1,600
一般	121	182	166	179	181	164	159	179	181	192	152	178	2,034
TV	10	17	11	20	18	18	15	19	18	22	17	20	205
CT	80	112	80	76	100	67	100	99	96	106	105	117	1,138
エコー	48	48	49	64	51	52	52	54	36	39	48	45	586
歯科	0	0	0	0	0	3	6	7	16	8	7	7	54
MRI	6	2	6	5	3	4	8	13	5	6	3	15	76
骨塩	2	0	0	3	2	2	1	0	0	0	0	0	10
合計	390	505	439	472	479	432	478	508	482	518	468	532	5,703



図表 2. 3年間の活動実績

(単位:件)

	胸部	一般	TV	CT	エコー	歯科	MRI	骨塩	合計
2016年度	2,637	1,747	209	799	269	0	97	8	5,766
2017年度	1,656	1,834	180	875	374	0	56	5	4,980
2018年度	1,600	2,034	205	1,138	586	54	76	10	5,703



# 検査科

## ■スタッフ紹介

(副主任) 中山智子

## ■業務内容

(検体検査)

一般尿検査・尿沈査

血液ガス検査

インフルエンザなどのウイルス検査

(生理検査)

心電図

ABI

肺機能

筋電図 など

(他) ICT などのチーム医療にも参加している。

## ■2018年度のトピックス・実績

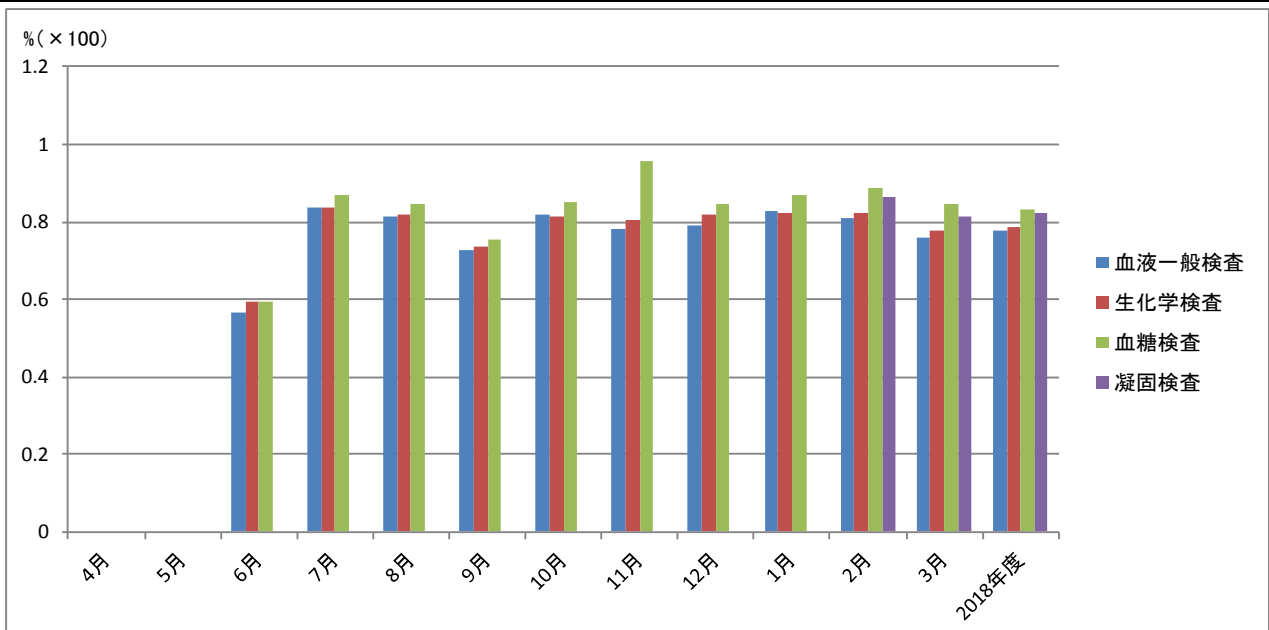
2018年6月まで、検体検査は高槻病院で測定していたが、至急以外を外注にし、朝の採血検体の結果を13時までに報告してもらうことにした。凝固検査は、外注先の機器の都合により2019年2月から外注することとなった。凝固検査も朝の採血結果は13時報告で統一された。外注率は、ほぼ80%である。

## ■今後の展望

科員1名であるため、勉強会、有給休暇所得時の応援体制など今まで以上に、高槻病院と連携を図っていきたい。

図表1. 外注率

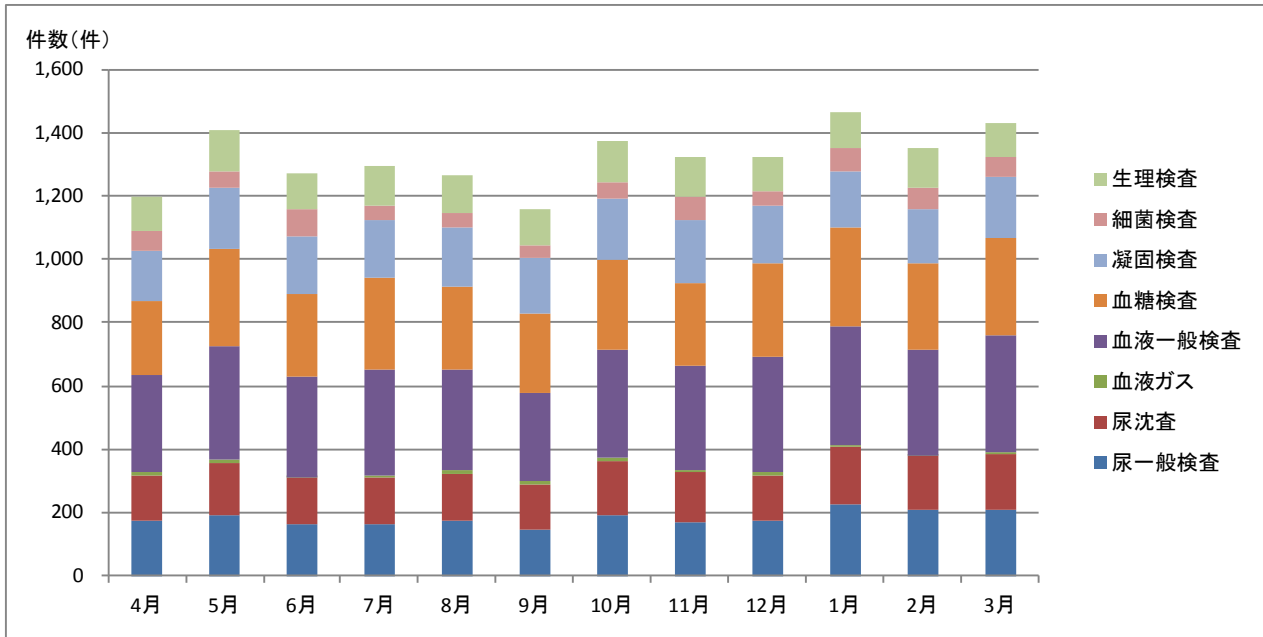
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2018年度
血液一般検査	/	/	57%	84%	82%	73%	82%	78%	79%	83%	81%	76%	78%
生化学検査	/	/	60%	84%	82%	74%	81%	80%	82%	82%	83%	78%	79%
血糖検査	/	/	59%	87%	84%	75%	85%	96%	85%	87%	89%	85%	83%
凝固検査	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	86%	81%	82%



図表 2. 主な検査件数

(単位: 件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
尿一般検査	171	191	162	164	172	148	191	169	176	222	209	208	2,183
尿沈査	147	162	148	145	152	137	173	156	139	182	167	174	1,882
血液ガス	9	12	2	4	8	13	8	7	10	7	5	8	93
血液一般検査	306	362	319	340	321	279	344	328	366	378	330	371	4,044
生化学検査	281	352	302	330	317	291	340	330	354	369	326	366	3,958
血糖検査	235	304	260	288	258	248	280	266	297	311	278	305	3,330
凝固検査	161	196	180	182	189	179	195	196	180	179	170	192	2,199
細菌検査	61	52	88	45	46	42	49	74	44	73	68	63	705
生理検査	108	126	110	125	119	110	134	126	110	114	122	108	1,412



## 栄養管理科

### ■スタッフ紹介

直営：管理栄養士（常勤）3名

委託：管理栄養士（常勤）1名 栄養士（常勤）2名

調理師 3名 調理補助 13名

主に病院栄養士は献立・栄養管理業務と訪床業務中心、委託スタッフは、給食管理業務と調理・配膳を中心に協力し業務に従事している。また医療安全活動として週1回のミーティングで事例検討、問題点に対して改善を行ってきた。また年間のデータを集計し、スタッフへ情報提供するようにしている。

### ■業務内容

#### 【入院食事管理】

- ・選択食メニュー（週10回）・お誕生日祝膳
- ・アレルギー、嗜好、摂食・嚥下障害などによる個別対応
- ・月1回の行事食
- ・適時配膳と温冷配膳車による適温給食（6台管理）

#### 【給食管理】

・電子カルテによる献立管理・部門システム内での帳票管理

- ・患者嗜好調査（年2回）

#### 【栄養相談と訪床業務】

- ・個別栄養指導（入院時・退院時・外来）
- ・初月・嚥下カンファレンス・退院時カンファレンス参加
- ・入院時の訪床業務（食事内容説明）
- ・栄養管理計画書作成（電子カルテ内）
- ・入院時栄養スクリーニング・日々の採血結果の確認

- ・栄養指導指示受け確認・報告記録入力

- ・退院時栄養サマリー作成（NSTや必要例）

#### 【その他活動】

- ・NST・褥瘡防止委員会勉強会（年2回）

- ・わかりやすいリハビリ教室（年3回）

- ・チーム医療体制 NST活動（毎週水曜日）

- ・褥瘡回診同行（毎週水曜日）

- ・脊椎損傷回診同行（毎週金曜日）

### ■近況データの提示及び統計データの説明

給食実施件数実績（表1）では入院患者の食数割合を示す。特食加算の割合は全体の約20.9%を占める。経管栄養患者の経口摂取訓練として5段階の訓練食をコード化、直接訓練として活用している。栄養指導は加算のみを表記し、算定対象外については訪床件数に含む。その他の活動として褥瘡回診件数やリハビリカンファレンスなどへの参加件数は表にて示す。

「栄養サマリー」とは、転院先・かかりつけ医・在宅ケアスタッフへ入院中の経過や今後の注意点をまとめたものである。作成状況は1,080件/年である。

NSTミーティング・回診実績（表4）では、対象者数を示す。全入院患者にスクリーニングを行い、摂食障害・褥瘡がある・経管栄養・低栄養などの条件で抽出された方を対象とし、実績状況は累計221件である。また勉強会やNST活動報告・症例報告会を開催し、栄養障害によるトラブルを早期に回避でき、情報提供を行えるようにしている。勉強会は年2回開催した（表5）。

### ■今後の展望

管理栄養士が2名から3名に増員となり、定期カンファレンスへの参加、栄養サマリーの作成、必要な患者への栄養指導の実施を行い、昨年度よりも大きな実績を上げることができた。サルコペニアの患者も多く、入院中から退院後の食事内容についても検討する必要がある。そういった先を見据えた管理栄養士の育成が今後の課題である。

表 1. 給食実施数

(月合計:食/単位)

	一般食数	特別食加算	特別食非加算	訓練食数	VF検査食
4月	9,895	3,595	7,870	204	4
5月	9,716	4,263	6,842	224	6
6月	8,441	3,924	8,108	252	5
7月	7,956	3,459	9,736	232	3
8月	8,826	3,615	8,823	288	7
9月	8,909	3,343	9,694	284	7
10月	8,739	3,672	10,753	322	7
11月	7,050	4,366	10,507	263	7
12月	8,135	4,903	9,559	241	8
1月	8,005	4,028	10,175	207	9
2月	7,659	13,527	10,206	168	5
3月	8,822	4,226	10,179	261	8
合計	102,153	56,921	112,452	2,946	76

表 2. その他の活動

(単位:件)

	栄養科サマ リー作成数	褥瘡回診同行	カンファレンス 参加
4月	76	11	203
5月	81	29	238
6月	98	27	234
7月	99	19	221
8月	95	24	251
9月	78	20	227
10月	105	26	219
11月	85	23	219
12月	77	20	241
1月	94	21	219
2月	92	22	220
3月	100	26	231
合計	1,080	268	2,723

表 3. 栄養相談件数 (加算対象件数のみ)

(単位:件)

	栄養相談	訪床
4月	27	332
5月	31	285
6月	15	265
7月	28	299
8月	23	307
9月	24	245
10月	23	316
11月	24	344
12月	26	274
1月	20	265
2月	20	278
3月	11	299
合計	272	3,509

表 4. NST 実績表

(単位:件)

	新規	継続	合計
4月	4	11	15
5月	5	12	17
6月	6	13	19
7月	5	13	18
8月	5	14	19
9月	4	11	15
10月	8	14	22
11月	2	10	12
12月	5	10	15
1月	8	13	21
2月	6	15	21
3月	9	18	27
合計	67	154	221
平均	6	13	18

表 5. 栄養・褥瘡対策委員会勉強会

	実施年月日	テーマ
栄養・褥瘡対策 委員会勉強会	8月3日	低栄養の栄養管理
	2月25日	スキンテアについて

表 6. 年間行事食

日時	内容
4月6日(金) 昼食	豆ご飯&桜デザート
5月2日(水) 夕食	八十八夜
6月15日(金) 夕食	夏バテ予防食
7月7日(土) 夕食	七夕
7月25日(火) 夕食	土用の丑の日
8月22日(水) 昼食	涼料理
9月17日(月) 夕食	敬老の日
10月16日(火) 夕食	さつまいもご飯
11月12日(月) 夕食	秋の味覚
12月25日(火) 夕食	クリスマス
1月1日~3日(火~木)	お正月
2月3日(日) 夕食	節分
2月14日(木) 夕食	ヴァレンタインデー
3月3日(日) 夕食	雛祭り

# 地域医療部

## ■スタッフ紹介

部長：磯島さおり（副院長）

看護師：鶴 文代（科長），中村利都子（主任）

医療ソーシャルワーカー：

西尾 怜（主任），水本裕美子（副主任），黒岩克美，井本明奈，細川美穂，木村泰美，植田智美，唐井周子，渡部有加，寒川優希，琴浦友理，阿部愛美，古谷怜花

臨床心理士：佐野恵子

事務：松山紀子，松本朱美，杉本奈央

## ■業務内容

新病棟オープンに伴い、地域医療連携科では紹介件数増加を目指し、三島圏域はもちろん圏域外の医療機関にも積極的に訪問を行い、情宣活動を実施した。また、三島圏域地域リハビリテーション地域支援センターの事務局業務を担い、二次医療圏域における医療と介護の連携推進に従事した。

病床管理科ではスムーズなベッドコントロールができるよう医師、看護師、地域医療連携科が協働して入院調整を行った。

医療福祉相談科では主に退院支援業務を担い、退院前訪問指導や退院前カンファレンスを積極的に行い、地域との連携を更に深めることができた。また、各圏域バス大会【京都バス大会、豊能圏域バス大会、大阪脳卒中バス大会等】に参画し、医療・介護に関わる機関と面会し、地域機関との連携を強化した。また、高槻病院と連携し、院内ボランティア（マザーグース）や患者会（うの花会）事務局として従事した。臨床心理士は入院中の患者・その家族に対す

る心理的援助を行った。全病棟を対象に心理面接を行っており、特に脊髄損傷患者には可能な限り全員に訪床を実施している。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度の入院相談件数は1,734件と前年度比114%増（図1）となり、増加した入院相談に対応できるよう、入院相談支援業務を地域医療連携科へ委譲し、事務が対応できるように整備を行った。

入院患者の送迎サービスを開始したことで、患者、家族、紹介医療機関から好評を得ており、よりスムーズなベッドコントロールも可能となっている。

医療福祉相談科では科内の支援体制を強化するため、チームミーティングの体制を整備し、指導体制を強化した。

臨床心理士の介入件数は32件（患者・家族を含む）、脊髄損傷患者に対しては53名に訪床している（表1）。

## ■今後の展望

病床稼働率100%を目指すとともに、脳血管比率70%達成を目指していく。そのために新規開拓も含め、積極的に医療機関訪問を実施する。

退院支援看護師が3名に増員され、各病棟に配置される。医療的ケアにも対応できるよう、MSWとの連携体制を整備し、役割分担も明確にすることで業務効率も図っていく。

臨床心理士は新たに公認心理師資格を取得した。より医師との密な連携が必要となるため、介入システムを見直し、支援体制を充実させていく。

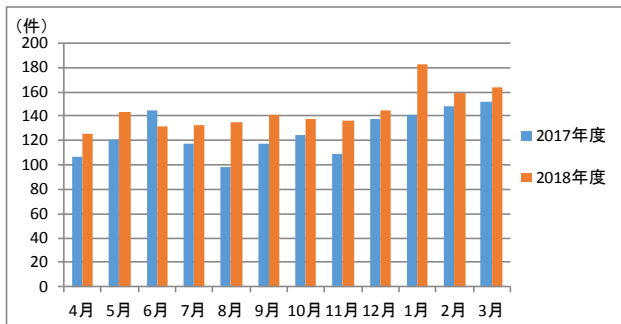


図1. 入院相談件数の推移

表1. 臨床心理士の介入件数

	介入依頼	脊髄損傷患者	合計
介入件数	32人	53人	85人
延べ面接回数	429回	432回	861回



# 三島圏域地域リハビリテーション地域支援センター

## ■三島圏域地域リハビリテーション連絡会活動

2018年度の地域リハビリテーション連絡会では、「脳血管疾患」をテーマに各連絡会で活動した。

ソーシャルワーカー連絡会では、2018年11月8日に「障害年金について」社会保険労務士 井坂武史先生よりご講義いただいた。

ケアマネジャー連絡会は2017年度より発足し、今年度は2回研修会を開催した。第1回は2018年10月24日に「食事の楽しさを考える～介護施設の現場から～」と題し、介護施設・事業所での取り組みを報告いただき、多職種での活発なグループ討論が行われた。第2回は2019年2月26日にケアマネジャー、介護職員を対象とし「高次脳機能障害を学ぼう～作業療法士・言語聴覚士の立場から～」という内容で、当院の塚本賢司作業療法士、石井和樹言語聴覚士より講義させていただいた。

地域リハビリテーション連絡会では2018年5月12日に2017年度より計画していた「茨木市認知症ケアモデルについて～医師会・行政・医療・介護との協働～」と題し、茨木市の認知症地域ネットワークにおけるシステムや個別支援のあり方について、医師会・行政・医療（病院）・在宅（ケアマネジャー、訪問看護ステーション）の方々より講演いただいた。その後、各機関の方々が、より顔の見える連携・協働に繋がることをねらいに多職種交流会を実

施した。演者の先生方も引き続き参加して下さり、講演会の話題を通じ、参加者との対話が深まる機会となった。2018年12月8日には「脳血管疾患～食べることを支援～」と題し、初の取り組みとなる多職種合同での研修会を開催した。第一部は茨木歯科医師会副会長 柚木求見先生に「義歯・口腔ケアの重要性」、梅花女子大学管理栄養学科教授 井戸由美子先生には「栄養の大切さ」をご講義いただいた。第2部は「食べるを一緒においしく楽しく」をテーマに、各職種代表の方々に食事に対する支援について取り組みを報告いただき、その後シンポジウムを開催し、積極的に意見交換を行った。2019年1月26日には症例検討会を開催した。当院より「脳血管疾患～高次脳機能障害を呈した重度片麻痺患者が望む生活に向けて～」と題し、高次脳機能障害、重度片麻痺を患った患者の退院までとその後の復職に向けた支援について事例を紹介。その後活発なグループディスカッションを行った。

## ■今後の展望

来年度は「生活期のリハビリテーション」をテーマに活動する。地域リハビリテーションの原点である生活のリハビリテーションに焦点を当て、よりいっそう各職種の連携を深められるように活動していく。

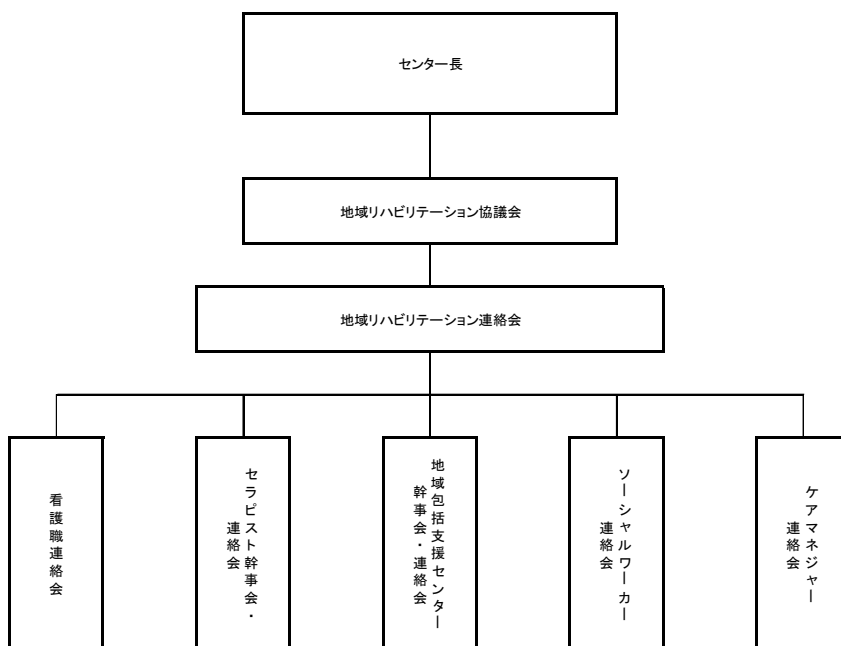


図. 三島圏域地域リハビリテーション推進事業の概要図

## 院内感染対策室

### ■スタッフ紹介

感染担当副院長：磯島さおり（医師 ICD）

感染対策副委員長：富家敦子（感染管理認定看護師）

診療部担当：清水洋志（医師）

松岡美保子（医師 ICD）

藤井優子（医師）

看護部担当：市橋卓浩（感染制御実践看護師）

薬剤科担当：吉田弥生（薬剤師）

与那城知夏（薬剤師）

検査科担当：中山智子（臨床検査技師）

リハ技術部担当：田邊晃平（作業療法士）

事務部担当：岸本 彩（事務員）

### ■業務内容

- 1) 感染管理組織の運営
- 2) 抗菌薬使用状況の確認
- 3) ICTによる毎週1回の定期ラウンド  
(ICTラウンド・ASTラウンド・環境ラウンド)
- 4) 感染症発症患者の把握と感染拡大防止のための指導
- 5) 職員の教育・啓発活動
- 6) サーベイランス（JANIS事業参加）  
全入院患者部門、検査部門
- 7) 院内感染防止マニュアルの整備
- 8) 感染防止対策加算に伴う地域連携活動

### ■2018年度のトピックス・実績

震災や、豪雨被害に見舞われ、一時断水等の被害があったが、災害に伴う感染症の拡大等の影響は認めなかった。診療報酬の改定に伴い、AST（抗菌薬適正使用支援チーム）を増設した。院内で処方されるすべての抗菌薬に対し、不適切な使用が無いよう、モニタリング・コンサルテーションを実施した。抗菌薬の使用状況は、2017年度と比較しても変化はなかった。届け出抗菌薬使用届提出率は、100%である。

新規MRSA検出率は、0.03%（新規MRSA検出率＝新

規検出者数/延べ入院患者数×1,000）。多くが入院時の持ち込み症例であった。薬剤耐性菌の中でも、ESBL産生菌の検出が目立ち、新規検出率は、0.04%（新規ESBL検出率＝新規検出者数/延べ入院患者数×1,000）。いずれも低い検出率ではあるが、ESBLがMRSAを上回っている。

血液培養2セット提出率は95%、陽性率は4%であった。コンタミネーションが疑われる症例を4%認めており、看護部において、手技の再確認を実施した。

手指衛生順守率では、2017年度4.6mL、2018年度は、6.6mLと僅かに上昇を認めている（図1）。リハビリテーション病院の特徴としては、身体接触を伴う介助が非常に多い。そのため、標準予防策の中でも、特に手指衛生が重要となってくる。

針刺し・切創に関する報告数は3件（内訳は針刺し1件、咬傷2件）。

院内感染対策研修会は年4回実施。医師看護師向けと、コメディカル向けに内容を分けて実施した（表1）。当日参加とDVD視聴により参加率は100%を達成できている。

感染防止対策加算に関する連携機関とのカンファレンス、及び相互ラウンドは計6回実施した（表2）。

感染症の発生については、アウトブレイクの発生を認めていない。

### ■今後の展望

引き続き、標準予防策の啓発は必要であるが、リハビリテーション病院の特殊性を踏まえ、より具体的な介入が必要となってくる。

リハビリテーション専門病院において、感染防止加算1を取得している病院は全国的にも少ない。そのため、さまざまな情報を発信していけるような取り組みを実施していく予定である。

地域連携では、連携をしている病院だけではなく、地域の開業医やクリニックに対する感染対策の相談や指導なども行い、地域全体の感染防止に向けて、活動を行っていきたいと考えている。

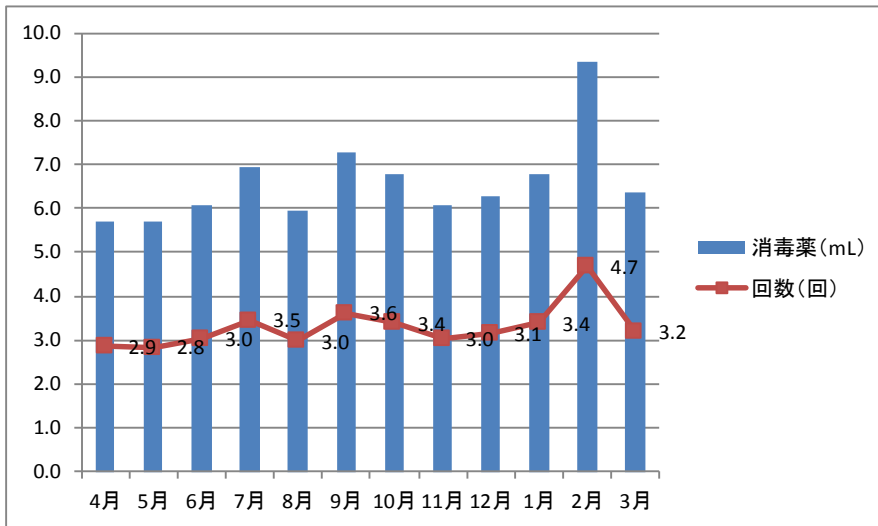


図 1. 1日1患者あたりの消毒薬使用量・回数

表 1. 院内感染対策研修会の実施内容

開催回	開催日	テーマ	講師
第1回	2018年6月15日	医師・看護師対象 ①抗菌薬の使い方 ②手指衛生について	吉田弥生(薬剤師) 富家敦子(感染管理認定看護師)
	2018年6月22日	コメディカル対象 ①抗菌薬の使い方 ②手指衛生について	吉田弥生(薬剤師) 富家敦子(感染管理認定看護師)
第2回	2019年1月28日	医師・看護師対象 ①インフルエンザ治療薬 ②この時期に流行する感染症	吉田弥生(薬剤師) 稲本真也(しんあい病院 副院長 日本感染症学会認定感染症専門医)
	2019年2月1日	コメディカル対象 ①インフルエンザ治療薬 ②この時期に流行する感染症	吉田弥生(薬剤師) 稲本真也(しんあい病院 副院長 日本感染症学会認定感染症専門医)

表 2. 感染防止対策加算に関わる連携機関カンファレンス及び相互ラウンド

開催日	連携病院	開催の分類
4月20日	大阪医科大学附属病院	北摂四医師会 感染対策ネットワーク 世話人会(仮称)
5月18日	摂津医誠会病院	加算1-2連携医療機関カンファレンス(1回目)
7月12日	大阪医科大学附属病院	北摂四医師会 感染対策ネットワーク 第1回世話人会
8月24日	高槻赤十字病院	加算1-1連携相互ラウンド(高槻赤十字病院→愛仁会リハビリテーション病院)
10月12日	摂津医誠会病院	加算1-2連携医療機関カンファレンス(2回目)
12月18日	摂津医誠会病院	加算1-2連携医療機関カンファレンス(3回目)
1月24日	大阪医科大学附属病院	加算1-1連携相互ラウンド(愛仁会リハビリテーション病院→大阪医科大学附属病院)
2月8日	摂津医誠会病院	加算1-2連携医療機関カンファレンス(4回目)
3月29日	大阪府済生会茨木病院	北摂四医師会 感染対策ネットワーク 第2回世話人会

## 医療安全管理室

### ■スタッフ紹介

医療安全担当副院長：児島正裕（医師）  
医療安全管理室長：小室寿子（看護師）  
医薬品安全管理責任者：奥西美奈（薬剤師）  
医療機器安全管理責任者：高橋大造（放射線科技師）  
診療部：清水洋志（医師）  
看護部：福井希代子（看護師）  
リハ技術部：池上泰友（理学療法士）  
                  荻谷浩志（作業療法士）  
事務部：西岡百合子（事務員）  
                  楠 陽子（事務員）  
各部門リスクマネージャー

### ■業務内容

医療事故防止対策の検討に関する事項

- 1) 各部門リスクマネージャーと医療安全対策の実施状況や医療安全確保のための改善策立案の実施
- 2) 医療安全院内巡視  
年4回（5月・8月・11月・2月）実施
- 3) 医療事故分析及び再発防止に関する事項
  - ・各部署リスクマネージャーと医療安全カンファレンスを実施（2回/月）
  - ・リンクセラピスト会議：転倒インシデント事例を題材としたリアル KYT の実施
  - ・看護安全管理委員会：離床センサー判断基準フローチャートの作成・ピクトグラムの手順作成、内服管理方法アセスメントシート改定。
  - ・医療安全推進週間：医療安全標語の募集と全職員による投票、指差呼称の自己・他者評価・患者確認に関する直接観察法による実態調査。
  - ・標語カレンダーの作成
- 4) マニュアル改定に関する事項  
医療安全管理マニュアルの改定
- 5) 事故防止に関する広報・教育・研修に関する事項
  - ・愛リハセイフティ通信の発刊 3回
  - ・医療安全トピックスの発刊 13回
  - ・全職員対象医療安全研修 2回
    - 1回目：「医療安全の基礎知識・当院のインシデントの傾向と対策について」
    - 2回目：歯科診療開始後の報告・窒息予防・胃管カテー

テル挿入時の合併症について」

- ・新人職員研修：医療安全の基礎知識・当院のインシデント・アクシデントの現状・マニュアルの理解・転倒予防予測・実技など
- ・新人看護師研修：KYT 研修
- ・薬剤師による各病棟での勉強会開催（トルリシティについて）
- ・スキンテアに関する研修会開催を褥瘡委員会に依頼。

### ■2018年度のトピックス・実績

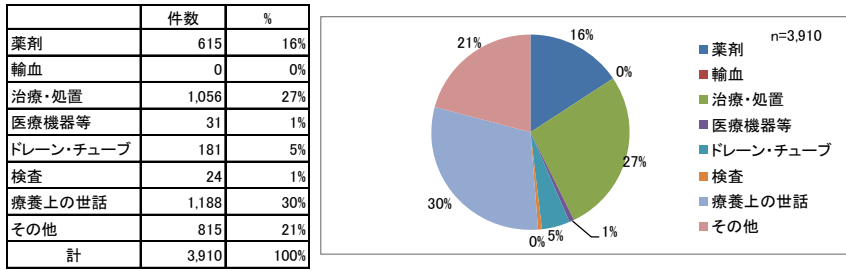
介入中の転倒転落事故の減少を中心に活動を実施した。

- 1) インシデント・アクシデント全報告件数：3,910件（2017年度：3,816件，2016年度：4,191件）。0レベル：2,459件。1レベル以上：1,451件（図表1～3）。事象別では、療養上の世話：1,188件（2017年度：1,218件），薬剤：615件（2017年度：658件），治療処置：1,056件（2017年度：903件）が上位3位を占めていた。
- 2) 転倒転落レベル1以上報告件数：511件（2017年度：447件，2016年度：382件），3a以上：32件（2017年度：26件，2016年度：35件）。  
転倒転落発生率年間平均：5.5‰（2017年度：5.40‰，2016年度：4.69‰），損傷発生率年間平均：0.3‰（2017年度：0.32‰，2016年度：0.49‰）であった（図1）。  
訓練中の転倒件数：50件。看護師介入中の転倒：52件（図2）。
- 3) ナイス De 大賞・医療安全標語の表彰：2018年度の全ヒヤリハット報告から優れた気づきを報告した職員3名と医療安全標語を募集し応募された145題から1題を決定し表彰を行った。
- 4) 医療安全に関する地域医療連携開始  
I-I連携（高槻日赤病院）・I-II連携（第二東和会）による病院訪問を実施。
- 5) 皮膚損傷予防のためにリハ技術部で統一したポシェットを購入。

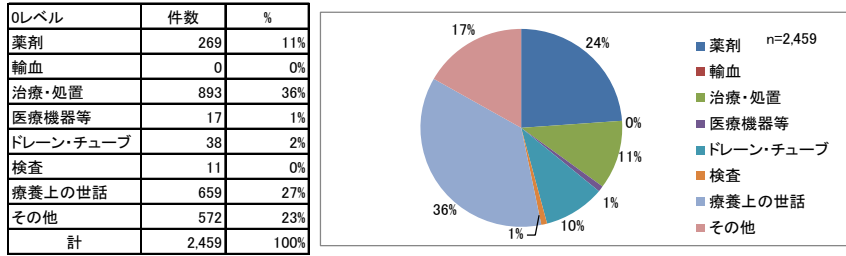
### ■今後の展望

インシデント発生上位を占める薬剤・転倒転落インシデントの減少が課題である。手順の改訂・遵守、教育、コミュニケーションの充実等により職員の安全行動に繋げていきたい。

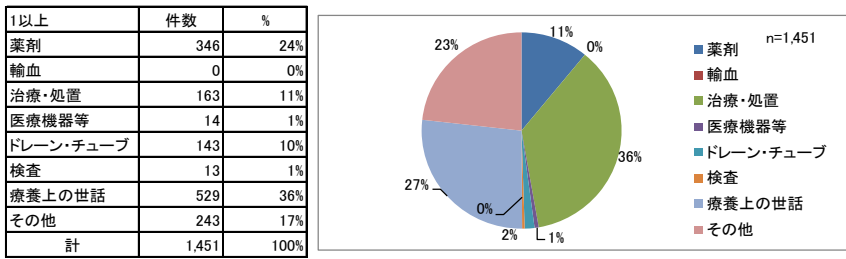
図表 1. 事象別インシデント総報告件数



図表 2. 事象別インシデント 0 レベル報告件数



図表 3. 事象別インシデント 1 レベル報告件数



(うち、転倒転落は460)

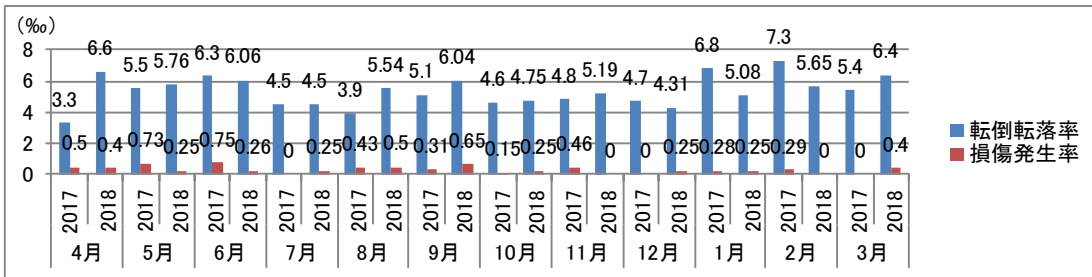


図 1. 転倒発生率・損傷発生率

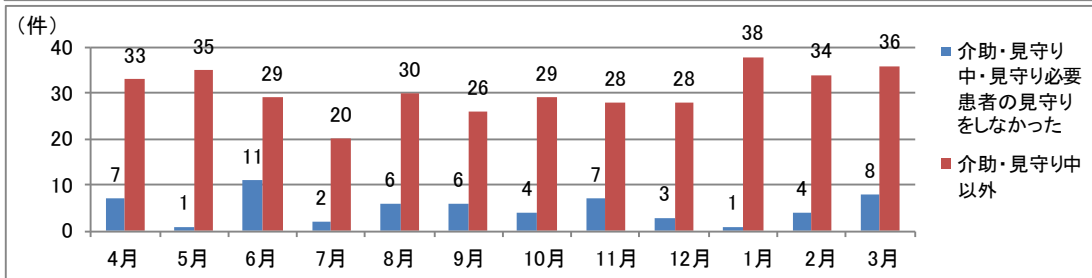
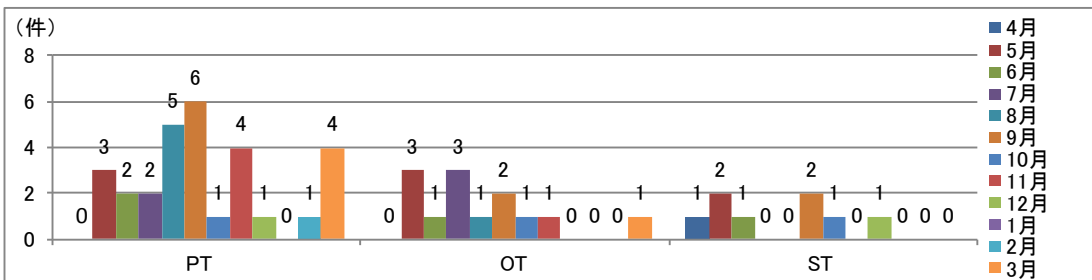


図 2. リハ技術部・看護部介入中の転倒件数

# 愛仁会ふれあい広場

## ■スタッフ紹介

巽 史郎

## ■業務内容

高槻市中央地域は、高齢化率は24.9%と高槻市全体の高齢化率28.7%と比較すると低い地域である。しかし、JR高槻駅前を中心に（高層）マンション開発が進み、高齢者（世帯）も多く移り住まれている。地域住民においては、自治会に入っていない住民も増加しており、医療や介護に関する情報収集が難しくなっている。そこで地域住民が集うことによって、語りやコミュニケーションが生まれ、新しい地域文化が醸成できる場を目的とし2018年4月、愛仁会リハビリテーション病院内に「愛仁会ふれあい広場」を開設した。

## ■2018年度のトピックス・実績

愛仁会ふれあい広場の活用として地域に向けた催しを

開催した。「地域に向けた研修会」として、高槻地区各施設（高槻病院・愛仁会リハビリテーション病院・しんあい病院・介護老人保健施設ケアイ・介護老人保健施設しんあい・愛仁会総合健康センター）の職員が講師となり、骨粗鬆症、糖尿病等の予防や介護保険制度について研修会を実施した。また「行政・地域団体との協働の場」として高槻市長寿介護課や高槻中央地域包括支援センターと連携を図り、元気体操クラスや介護予防教室等を実施した。そして「地域に開放した活動の場」として地域住民が主体となり催しを実施した。

## ■今後の展望

催しを通じて地域住民の方々や医療・福祉に従事する方が集い、年間で約13,000名の方にご参加いただいた。広場の役割として、地域住民、地域機関、病院が繋がりを深め交流が生まれる場として活用し、地域への貢献を更に活発に行いたい。

表. 事業内容

### ①愛仁会高槻地区の病院・施設・事業から地域に向けた情報発信の場 (計2,380名)

No	セミナー名(主催者)	実施日	参加者数
1	糖尿病教室 (高槻病院 糖尿病内科)	4月～毎月第3金曜日実施	250名
2	認知症サポーター養成講座 (高槻北地域包括支援センター)	6/25(月)PM	35名
3	わかりやすいリハビリテーション教室 (リハ病院主催)	7/7(土)～8/7(土)まで毎週土曜日 PM実施【全5回シリーズ】	175名
4	地域医療機関向け研修会 (高槻病院主催)	9/7(金)時間外	72名
5	マザークラス (高槻病院 産婦人科)	10月～毎月第1土曜日・第2日曜日・ 第4木曜日のAM/PM実施	1,260名
6	患者会(高槻病院 小児科)	10/28(日)PM	42名
7	認知症に関する事業 (高槻北地域包括支援センター)	10/27(土)PM	70名
8	地域住民に向けた研修会シリーズ (愛仁会 高槻地区主催)	10/4(木)より第1木曜日AM開催 各施設輪番制で実施 (12月は第2・第3木曜日実施)	290名
9	がん患者会 (高槻病院 患者相談室主催)	11/21(水)より、 奇数月第3水曜日PM実施	60名
10	市民公開講座 (高槻病院主催)	11/17(土)PM, 11/24(土)PM 3/9(土)PM, 3/29(金)PM	120名
11	もしバナゲームを体感しよう (愛仁会ふれあい広場主催)	2/6(水)PM実施	6名

## ②行政・地域団体との協働の場

(計9,644名)

No	セミナー名(主催者)	実施日	参加者数
1	元気体操クラス (高槻市 長寿介護課)	4月～毎週金曜日実施 【※第5週目 省く】	7,360名
2	介護予防教室 (中央包括支援センター)	4月～毎月第4水曜日実施	480名
3	ますます元気教室 ～はつらつ栄養教室～ (高槻市 長寿介護課)	5/17(水)～ 第2・第4水曜日PM開催 【全6回シリーズ】	180名
4	認知症予防講座 (高槻市 長寿介護課)	7/27(金)PM	34名
5	健康教室 (高槻市 長寿介護課)	8/27(月)～毎週月曜日 PM実施(祝日は省く) 【全12回シリーズ×3クール】	1,150名
6	カフェさくら2号店 (中央包括支援センター)	9/18(火)～毎月第3火曜日AM実施	350名
7	認知症予防講座 (高槻市 長寿介護課)	12/11(火), 18(火), 25(火)の3回講座	90名

## ③地域に開放した活動の場

(計1,079名)

No	セミナー名(主催者)	実施日	参加者数
1	うの花会 (患者会 脳血管疾患 リハ病院 地域医療部)	4月～第2・第4火曜日AM	176名
2	笑いヨガ (地域住民主催)	毎月1回 曜日は不定期に実施 2019年度は毎月第4金曜日実施	568名
3	訪問看護を知ろう! (三島ブロック訪問看護ステーション主催)	8/23(木)PM	23名
4	体操サークル ミューズかきくけこ (地域住民主催)	10/10(水)～毎月第2・ 第4水曜日PM実施	165名
5	三島圏域地域リハ研修会 (地域リハセンター主催)	10/24(水)PM	42名
6	笑い文字 (地域住民主催)	1/15(火)PMより毎月1回不定期開催	8名
7	スマートフォン教室 (地域住民主催)	2/18(月)AM開催	21名
8	高次脳機能障がいを知ろう (NPO法人 もものきちょうちよ主催)	2/6(水)AM開催	25名
9	認知症, 予防と回復の切り札セミナー (愛仁会ふれあい広場主催) 共催:パラマウントベッド株式会社	2/5(火)PM開催	51名

## ④その他事業について

(計385名)

No	セミナー名(主催者)	実施日	参加者数
1	歌ってスマイル (愛仁会ふれあい広場主催)	6月～毎月第2金曜日PM実施	360名
2	生き生きカフェ@高槻 (トヨタ財団研究助成プロジェクト)	11/23(木)PM実施	25名

## 愛仁会高槻在宅サービスセンター

### ■スタッフ紹介（2019年3月時点）

訪問看護科科長 1名 事務員 3名

・訪問看護ステーション愛仁会高槻 看護師 23名

（常勤 13名・短時間常勤 6名・非常勤 4名）

・セラピスト 科長 1名 PT 8名 OT 3名 ST 1名

・ケアプランセンター愛仁会高槻 8名

・ケアプランセンターケーアイ 5名

・ケアプランセンター愛仁会富田 5名

・しんあいケアプランセンター 3名

・ヘルパーステーション愛仁会高槻 8名

（サービス提供責任者 5名）

・ヘルパーステーション愛仁会富田 7名

（サービス提供責任者 2名，非常勤 3名）

### ■業務内容

#### 【訪問看護ステーション】

今年度で常勤 6名増員となり，看護師の育成強化を目標とした。結果訪問件数は 2018年 4月の 1,969件から 2019年 3月には 2,346件となり，377件（20%増）となった。

#### 【ケアプランセンター】

今年度は入退院時の利用者ニーズを高められるように，医療との連携をより一層強化することを目標として，アセスメント業務を行った。年間ケアプラン数は，高槻 2,092件（前年比 107.1%），ケーアイ 1,950件（前年比 99.6%），富田 1,816件（前年比 104.9%），しんあい 1,279件（前年比 103.7%）であった。

#### 【ヘルパーステーション】

身体介護と認知症の方に対応できるヘルパーの増加と，連携の向上を目標とした。各ヘルパーから些細な情報を共有する体制を作り，個別の相談時間を設けるよう努めた。年間訪問件数は，高槻 12,805件（前年比 111%），富田は 6,378件（前年比 123%）であった。5月は高槻・富田ともに過去最高の訪問件数となった。

### ■2018年度のトピックス・実績

●訪問リハでは 2018年 7月からリハビリのみなし事業を開始し，2019年 3月には訪問看護でのリハとあわせて 868件となっている。

●訪問看護師 2名が，①気管カニューレの交換，②インスリンの投与量の調整，③脱水症状に対する輸液による補正，④持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整の行為研修を受講，修了した。

#### ●上半期業務改善活動

テーマ：「交通事故を未然に防ごう ～個々の交通安全意識を高めるために～（全部門での取り組み）」

### ■今後の展望

#### 【訪問看護ステーション】

今後，訪問看護にも新人看護職員が入職する可能性もあり，中途・異動者を含めた訪問看護としての教育体制，プログラムの再構築が必須である。また，特定行為研修修了者の活動の場の拡大も重要課題である。

訪問リハはみなし事業の拡大がミッションであり，病院との一層の連携強化が必要である。

#### 【ケアプランセンター】

超高齢化社会に拍車がかかる時代においては，ケアマネージャーの人材確保と定着が最重要課題となる。

#### 【ヘルパーステーション】

登録ヘルパーの高齢化に伴って，人員の減少が深刻な課題となっている。常勤職員の確保も含め，人材の確保・定着が重要な課題である。

全部門共通の事項は働き方改革であるが，訪問看護では記録支援システムの導入などで，効率性の向上，生産性の向上にも期待したい。

看護・介護において e-ラーニングの導入で，自身のライフスタイルに合わせて学習ができる環境の整備が図られた。ケアの質の向上のために，有効に活用していきたい。



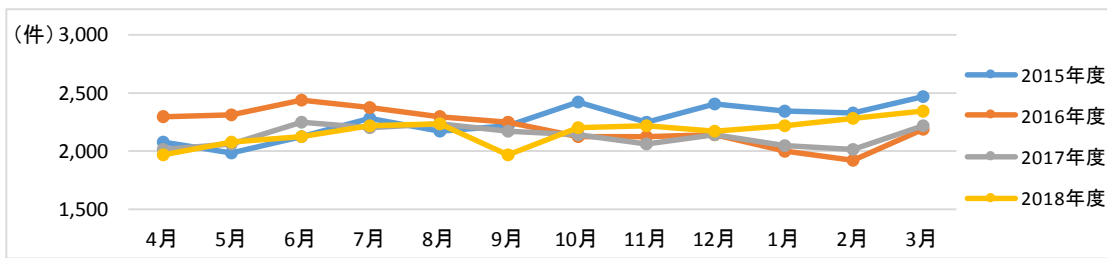


図1. 訪問看護ステーション愛仁会高槻 訪問件数

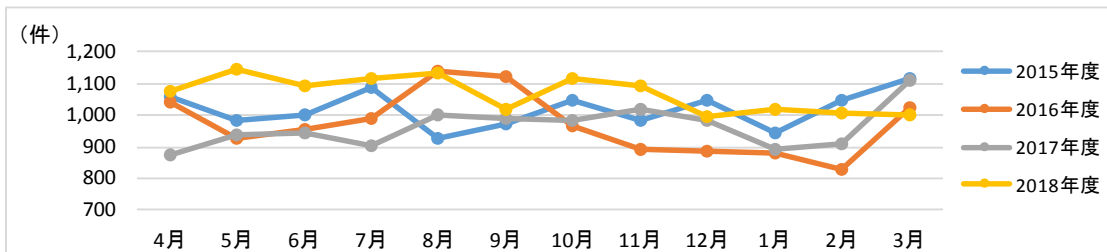


図2. ヘルパーステーション愛仁会高槻 訪問介護件数

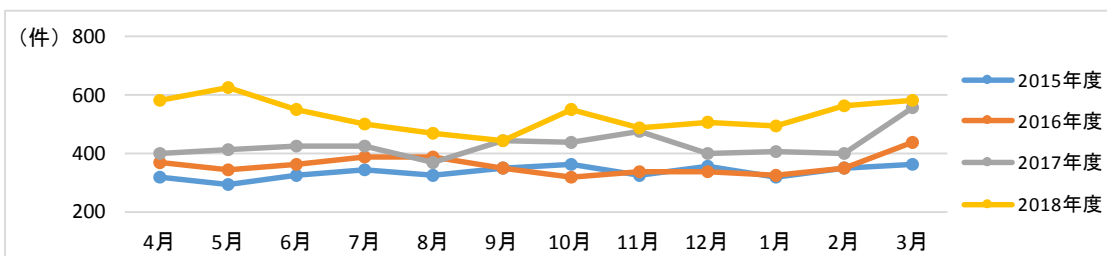


図3. ヘルパーステーション愛仁会富田 訪問介護件数

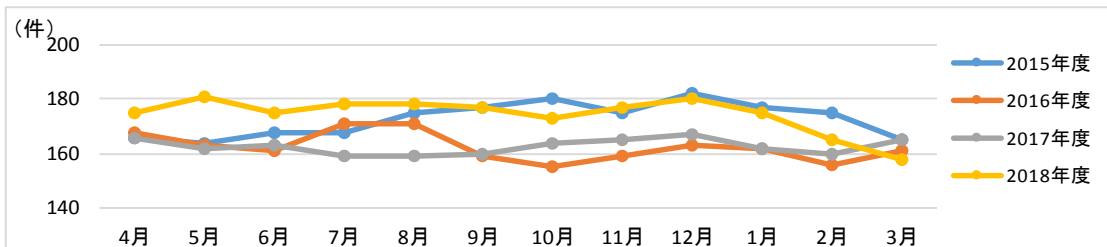


図4. ケアプランセンター愛仁会高槻 ケアプラン件数

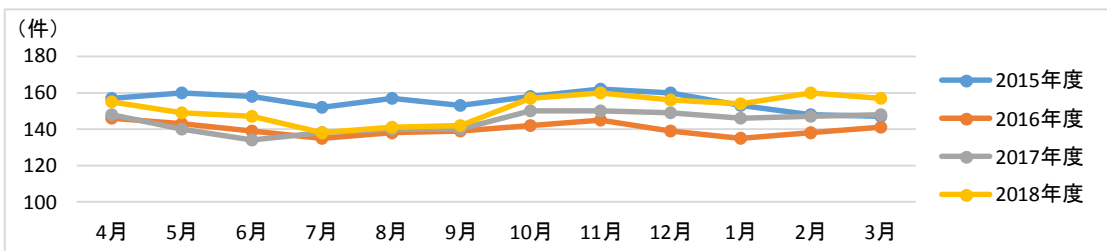


図5. ケアプランセンター愛仁会富田 ケアプラン件数

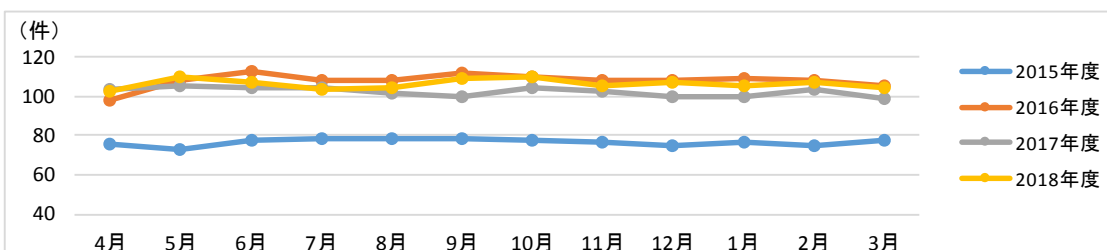


図6. しんあいケアプランセンター ケアプラン件数



# しんあい 病院

〒569-1123

高槻市芥川町2丁目3番5号

URL:<http://www.aijinkai.or.jp/shin-ai-hospital/>

## 理念・基本方針

### <理念>

私たちは、患者さん本位の心安らぐ医療を提供し、地域の皆さまの健康増進を支援します。

### <基本方針>

- ・患者さんの権利を尊重し、満足いただける医療を提供します。
- ・近隣の医療機関等との連携を大切にし、地域医療に貢献します。
- ・患者さんに信頼いただけるチーム医療をめざし、自己研鑽に励みます。

## 2018年度総括

2018年度は、新たに血管外科専門医を迎えて下肢静脈瘤手術を開始した。また病棟は、2017年10月に地域包括ケア病棟40床に移行し順調に稼働、更に2018年度は、在宅部門との連携強化・地域包括ケア病棟入院料1の取得を目指してヘルパーステーションの同一敷地内への移転の準備を進めていた。

しかしながら、2018年6月18日に発生した大阪府北部を震源とする地震により建物の一部が損壊し、ヘルパーステーションの移転は中止し、損傷が小さかった南側の23床のみを運用した。さらに、その後の豪雨・台風21号の直撃で建物の損傷は広がり、元々老朽化が進んでいた建物のため、地震等による破損箇所の修復だけでは安全性は担保されないとの判断から、建て替えを含めた本格的な改

築・改修を検討することとなり、同11月末で病床の利用を休止した。それに伴い、血管外科手術を中止、地域包括ケア病棟運用開始時に発足した地域医療部をはじめリハビリテーション科（セラピスト）、栄養管理科、病棟看護科も活動を休止し、所属の職員は他施設へ異動し、外来診療を維持する体制となった。

## 2018年度活動状況

- |     |  |
|-----|--|
| 4月  | 辞令交付式、期首合同朝礼、血管外科診療開始                      |
| 6月  | 停電点検、地震に伴い病床利用制限開始、生活習慣病教室、全集、第1回院内感染対策研修会 |
| 7月  | 全集、府立支援学校職員腰痛予防検診、職員定期健康診断、第1回医療安全研修会      |
| 8月  | 全集   |
| 9月  | 全集   |
| 10月 | 業務改善発表会、消防訓練、生活習慣病教室、全集                    |
| 11月 | 病床利用終了、病棟関連部門活動休止、全集                       |
| 12月 | 下半期褒賞表彰式及び忘年会、全集                           |
| 1月  | 新年互礼会                                      |
| 2月  | 第2回医療安全研修会、第2回感染対策研修会                      |

## 2019年度に向けて

現在の建物は老朽化が激しく、いずれ建て替えが必要となるため、高槻地区内で他施設等に移設することも含めて、地域包括ケア病棟の再開を目指した計画を策定する。

# 診療部 総括

## ■スタッフ紹介

常勤医師

外科：東郷杏一（1984年卒・院長）

整形外科：辻 充男（1980年卒・副院長）

内科：稲本真也（1992年卒・副院長）

小児科：谷内昇一郎（1979年卒・部長）

内科：高井栄治（1994年卒・部長）

血管外科：松尾辰朗（2001年卒・部長）

## ■診療内容

（外来）

一昨年に引き続き、常勤医師の他、高槻病院・大阪医科大学等より非常勤医師を迎え、外科・整形外科・内科・リハビリテーション科・小児科（アレルギー専門外来・在宅専門外来）の診療を実施した。加えて、血管外科専門医を迎え、下肢静脈瘤手術を開始した。

病床利用の休止に伴い、血管外科診療、リハビリテーション科診療、内視鏡下手術治療は縮小した。必要に応じて、他施設へ異動した職員の支援で外来患者のフォローを継続した。

（入院）

大阪府北部地震発生までは、地域包括ケア病棟として40床をフル稼働してきたが、地震後建物の損傷が激しい北側の病床の利用を控え、南側の23床のみを運用してきたが、11月末で全病床の運用を休止した。

## ■2018年度のトピックス・実績

2017年10月より活動を開始した地域医療部をはじめ、多職種間の連携により、地域包括ケア病棟活動は、限られ

た環境下で最大限稼働した。

大阪府北部地震発生までは1日平均40名近い入院患者数を維持、毎月50名以上の新入院を受け入れ、平均在院日数は20日前半で推移していた。地震後も利用可能な病床（23床）をフルで稼働させ、毎月40名前後の入院を受け入れ、1日平均21～22名の入院患者数を維持、平均在院日数を17日まで短縮して、地域のニーズに応じてきた。地域包括ケア病棟の各種指標における4月～11月の実績（月平均）は、自宅等復帰率84.1%、重症度、医療・看護必要度23.3%、1日当たりのリハ実施単位数2.5単位、在宅からの入院割合56.3%、在宅からの緊急入院7.8名と、それぞれ地域包括ケア病棟入院料1の要件を上回るレベルで推移した（表）。

今年度開始した、血管外科は11月までの8か月で計98件、月平均12件の手術を実施した。

血管外科活動の効果もあり、入院の平均単価は33,992円（昨年度下半期地域包括ケア病棟稼働開始後平均30,222円）、外来も年間平均6,490円（昨年度5,824円）と、大幅に増額し、その間収入増に貢献した。

外来全体の患者数は、1日平均130名と、昨年度の137名を若干下回ったが、前述の血管外科診療の他、訪問診療が年度初めは月8件であったが、5月以降は月20件ペースで実施、その効果もあって、医業収入は増額した。

## ■今後の展望

現在の建物は、老朽化が激しく、いずれ建て替えが必要となるため、外来診療のみを継続しながら、病棟については高槻地区内で他施設等に移設することも含めて、地域包括ケア病棟の再開を目指した計画を進める。

表. しんあい病院実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	2018年度合計
延べ患者数	1,169名	1,190名	922名	656名	700名	834名	877名	215名	6,163名
入院数	54名	52名	34名	37名	46名	35名	40名	11名	309名
退院数	53名	51名	54名	37名	43名	39名	38名	32名	347名
1日平均患者数	39.0人	38.4名	30.7名	21.2名	22.6名	21.1名	21.8名	7.2名	202名
平均在院日数	21.9日	23.1日	21.0日	17.7日	15.7日	17.1日	17.4日	10.0日	18.8日
病床利用率	97.4%	96.0%	76.8%	52.9%	56.5%	52.8%	54.6%	17.9%	63.1%
平均単価（直近は連報値）	¥32,854	¥33,142	¥33,899	¥34,740	¥35,502	¥33,683	¥34,552	¥36,832	
60日超過延べ患者数	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	2名
自宅等復帰率	87.8%	90.9%	76.5%	90.3%	80.0%	84.4%	85.3%	77.8%	84.1%
重症度、医療・看護必要度	22.5%	31.9%	29.5%	22.3%	24.7%	23.2%	18.2%	14.2%	23.3%
1日当たりのリハ実施単位数（兼用含む）	2.28	2.49	2.45	2.58	2.68	2.44	2.68	2.42	2.50
在宅からの入院割合	48.1%	51.9%	47.1%	59.3%	65.2%	54.3%	62.5%	90.9%	56.3%
在宅からの緊急入院	19名	12名	4名	9名	5名	10名	7名	1名	7.88名
在宅患者訪問診療料	7回	16回	14回	17回	21回	14回	26回	20回	16.88回

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	2018年度合計
退院先									
退院数	53	51	54	37	43	39	38	32	347
在宅	45	44	40	30	35	32	33	25	284
転院	5	2	7	2	7	3	4	5	35
老健	1	2	5	1	1	2	1	1	14
死亡	2	3	2	4	0	2	0	1	14
短期手術	2	4	1	2	3	5	3	4	24
在宅復帰率	87.8%	90.9%	76.5%	90.3%	80.0%	84.4%	85.3%	77.8%	84.1%

## 看護部

### ■スタッフ紹介

看護職員状況（2018年4月1日）

部長1名，科長2名，主任2名，副主任3名，看護師37名（うち非常勤4名），看護助手7名，看護師平均年齢43.7歳，看護助手44.1歳，平均経験年数6.7年，資格は看護師36名（81.5%），准看護師7名（18.5%）。

#### 【離職状況】

看護職員離職率は5.8%，看護補助者離職率33.3%であった。離職理由は，看護職員は通勤困難で，看護補助者は職場環境，家族介護，体調不良であった。

### ■2018年度トピックス・実績

2018年度の看護部運営目標

#### 1. 働き続けられる職場環境づくり

しんあい病院の看護部職員の離職率は高く，特に看護補助が高い状況にあったため，看護師の業務と看護助手の業務を見直した。また，看護補助者の相談役を決め，定期的な会議を行い，互いの職種が協力し合える環境を整えるよう努めた。また，他施設へ看護補助者の研修を通して，自己の活動の振り返りに努めた。新しく入職した看護補助者に対しては，技術の研修を行った。

#### 2. 在宅支援の強化

2017年10月から移動した地域包括ケア病棟は，在宅復帰率70%を維持し，高い稼働率を遵守できた。また，当院は高槻市芥川に診療所として始動し，近辺に居住する患者にとって在宅で生活をしながらときどき病院，ほぼ在宅の地域医療構想のまさにモデルとも言える活動ができていた。入院翌日にはセラピストとの合同のカンファレンスを行い，退院時の目標を設定できるようなシステムに変えた。また，入院から外来，外来から入院の連携を図りながら，入院中の在宅訪問，退院後の訪問診療への参加を実践した。また，病棟に退院支援看護師を配置することにより，入院早期から退院調整に関わることができるようにした。

#### 3. 説明できる看護ケアの実践

プライマリーとして患者の目標を掲げ，チームで看護できるよう関わりたいと考え，事例を用いた看護過程の展開の学習会を実施した。また病棟は看護提供体制を3階，4階に分けたチームナーシングを実践し，プライマリーにより近づける勤務体制を工夫した。カンファレンスは毎日適時に実施でき，各個人の受け持ちに関するケアを検討する風土はできた。外来は受診経過の長い患者，又は自宅における生活をモニターする必要がある人をプライマリーとして受け持ち，受診時十分な関わりができるように配慮した。そして，医師の訪問診療の同行を実施し，在宅における患者の生活背景を学ぶ機会をもった。

2018年6月18日の大阪府北部地震は当院の建物に大きなダメージを与えた。また台風21号は震災のダメージに更に追い討ちを掛けるように建物に雨漏りをもたらすことになった。震災直後から病床23床運用に減少し，診療を継続したが，11月末日にて休床することとなった。それに伴い，病棟職員は愛仁会他施設へ転属した。

外来は，現状の診療を継続した。

### ■今後の課題

地域包括ケア病棟として新たな出発をし，順調な活動の中で，当院の高槻地区における役割の重要性について確認できた。地域で生活する患者を支援するためには，「ときどき入院，ほぼ在宅」が実現できる地域包括ケア病棟は必須である。しんあい病院が今後，更なる機能を強化し地域包括ケア病棟の役割を担うことのできる病院として再出発できることを熱望し，その時まで看護力を強化していく所存である。

# 薬 剤 科

## ■スタッフ紹介

(科長) 森野厚子  
 (主任) 田邊千秋  
 (科員) 日高登代子

## ■業務内容

11月までは、調剤・監査業務・持参薬管理・薬品管理・薬剤管理指導・退院指導・DI活動等入院を中心に業務を行っていた。12月より病棟が休床となり、院内採用薬品の整理と管理、DI活動や外来診療の補助的仕事が業務の中心となった。

### 【調剤業務・監査業務】

「地域包括ケア病棟」の病院として、持参薬の鑑別が重要な業務となり、持参薬と当院処方とが問題なく安全に服用できるように調剤方法を工夫した。

### 【薬品管理】

外来部門での定数在庫を最小限とし、使用薬剤の確認を毎日実施、補充を行った。病棟在庫及び救急カートは、毎日薬剤師が確認し管理を行った。

### 【薬剤管理指導・退院指導】

原則入院患者全員に実施していた。持参薬鑑別、管理、配薬、服薬指導、退院指導まで主に2人の薬剤師が3階と4階を週交替で行っていた。他職種との交流を深め、入院中のみならず、退院後の患者個々の服用アドヒアランスの向上を考慮し指導を行った。

## ■2018年度のトピックス・実績

薬剤の管理方法を大きく変更した。各部署の在庫は約1日分とし、薬剤科から前日使用分を毎朝払い出すことにより、院内の余分な在庫を削減するだけでなく、ウェブ注文の集計システムを利用し、毎月の購入量と棚卸在庫量との差異により主な薬品の使用量を確認、また高薬価商品の払い出しを「未来注処方」と患者名、薬剤名を記入した「臨時伝票」による個人払いとし、毎日定数在庫と合することにより、今まで記入漏れ等の問題を生じた「高額薬品使用台帳」を廃止することができた。

また、高齢患者のポリドラッグの削減に医師とともに取り組んできた。

昨年より地域包括ケア病床、地域在宅支援病院の薬剤科として何ができるのかを検討し努力してきたが、6月18日の地震に伴う入院受け入れ制限で当科の方向性は大きく変わった。休床となった12月以降は、外来において糖尿病療養士として外来診察時の補助や病院薬剤師としての外来患者への指導を行っている。

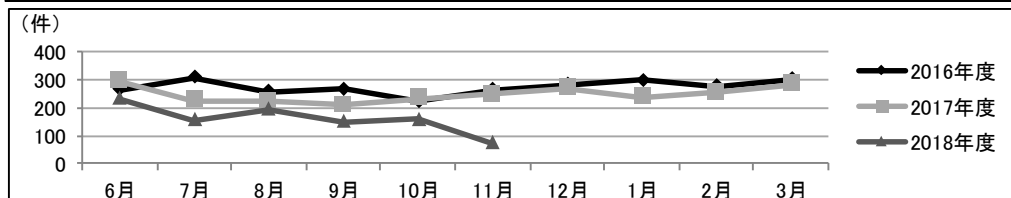
## ■今後の展望

月～木曜日まで午前中は外来処置室において、主に処方監査を行うことにより、調剤薬局からの疑義照会を減らし、患者にとって時間、調剤料の負担軽減に寄与する。また、医師からの質問・依頼等について、早急に対処し、診察時間の短縮に貢献することにより、薬剤師の存在意義を他職種にもアピールしていく。加えて、糖尿病療養指導士のライセンスも活用し、患者、医師、スタッフのニーズにも答えられるよう努め、また、病棟再開となった時にも、すぐに対応できるよう日々研鑽に努める。

図表. 薬剤管理指導件数

(単位:件)

薬剤管理指導	普通薬	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
		ハイリスク薬	84	80	95	68	74	58	44	18				
合計		161	177	137	87	119	92	116	56					
退院指導		49	47	54	36	42	37	38	30					



# 放射線科

## ■スタッフ紹介

診療放射線技師 2名

森一智博

樋口幸三 (2019年2月高槻病院放射線科へ異動)

## ■業務内容

当科には一般撮影(東芝CR), CT(東芝16列), X線TV(東芝I.I.), 骨塩定量(旧アロカ), ポータブル(島津)の装置がある。その他心電図, 脈波(ABI), 呼吸機能検査の装置も, 当科の科長が医療機器管理担当者として管理している。

業務時間は, 平日の日中と土曜日の午前中である。

## ■2018年度のトピックス・実績

6月の震災後, 病棟を縮小して運営している中で, 昨年と同等以上の件数で推移していたが, 12月以降の病棟休止以降は実施件数が減少した。

2月から常勤技師1名体制となり, 必要時高槻病院と愛仁会リハビリテーション病院より技師の応援を受けながら業務を行っている。

## ■今後の展望, 課題

限られた人材で診療に支障が出ないように, どのように検査件数を増やしていくかが課題である。

表. 検査数集計

(単位:件)

	XP		胃透視		CT	骨塩	ECG		肺機能	呼気NO	ABI	ホルター	エコー	
	全体	健診	全体	健診			全体	健診					心・頸	腹・甲
4月	468	10	0	0	93	52	125	16	13	29	12	14		
5月	430	53	14	14	88	34	193	64	25	29	10	7	44	
6月	470	45	17	17	95	24	193	56	18	23	18	12	36	
7月	523	59	11	11	91	16	196	64	7	17	6	10	40	
8月	489	41	10	10	102	40	166	46	27	34	9	9	41	
9月	438	71	24	24	116	34	199	75	12	13	14	4	32	
10月	520	96	7	7	104	57	224	106	19	39	10	15	48	
11月	403	90	15	15	89	31	194	99	10	21	6	13	48	
12月	422	52	9	9	67	33	122	57	17	32	7	7	31	
1月	405	48	6	6	50	29	129	57	8	18	12	15	38	
2月	387	70	9	9	72	39	144	81	10	33	10	12	26	7
3月	343	55	11	11	69	52	149	78	12	32	11	8	30	16
合計	5,298	690	133	133	1,036	441	2,034	799	178	320	125	126	414	23
平均	441.5	57.5	11.1	11.1	86.3	36.8	169.5	66.6	14.8	26.7	10.4	10.5	37.6	11.5
2017平均	496.8	67.4	28.3	28.2	78.7	33.0	184.6	74.2			4.1	9.7		

すべての件数はRIS(技師支援システム)より集計している。

XP, CTは同時多部位の撮影でも一連につき1件としてカウントしている。

# リハビリテーション科

**■スタッフ紹介**

・理学療法士

村田尚寛（主任）（12月に千船病院へ転属）、村川あゆみ（副主任）（11月に愛仁会リハビリテーション病院へ転属）、藪田祥子（11月に愛仁会リハビリテーション病院へ転属）、山本恵造（7月に千船病院へ転属）、東 諒（12月に尼崎だいもつ病院へ転属）、水井 遥（7月に尼崎だいもつ病院へ転属）

・作業療法士

小林麻紀子（7月に高槻病院へ転属）、文山裕亮（12月に尼崎だいもつ病院へ転属）、松田愛理（11月に愛仁会リハビリテーション病院へ転属）

・言語聴覚士

週2回勤務  
（4月～6月）原田成実

**■業務内容**

1. 理学療法業務

理学療法を実施した患者の処方数は入院 249 件、外来 62 件、総処方数 258 件であった。割合は入院では脳血管 6%、運動器 36%、廃用 58%。外来では脳血管 4%、運動器 96%であった。

2. 作業療法部門

作業療法を実施した患者の処方数は入院 216 件、外来 24 件、総処方数 240 件であった。割合は入院では脳血管 6%、運動器 41%、廃用 53%。外来では脳血管 12%、運動器 88%であった。

3. 言語療法業務

処方件数は38件。割合は脳血管 18%、廃用症候群 82%。摂食機能療法の処方が3件であった。

**■2018年度のトピックス・実績**

4月より入院時訪問を実施し、昨年度の約4倍の訪問件数となり在宅復帰の促進を図った。5月までは昨年の実績を上回る単位数を確保できていたが、6月18日の震災以降、入院患者数は減少し活動実績も昨年度より減少した。またスタッフの異動を余儀なくされ、7月・11月に3名ずつが異動しSTは6月で終了となった。また11月の病棟休棟に伴い、11月末でセラピスト全員が異動となり、疾患別リハビリテーションの提供も終了した。12月以降は物理療法のための提供となった。

表. リハビリテーション科活動実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計	
PT	総単位数	1,838	2,866	1,626	1,200	1,354	1,116	1,306	450	11,756	
	入院(単位)	1,674	2,018	1,446	992	1,167	995	1,171	335	9,798	
	外来(単位)	164	152	180	208	187	121	135	115	1,262	
	自宅復帰率	70.8%	76.9%	54%	76.0%	75.90%	75.9%	83%	70%	(平均)72.8%	
OT	総単位数	977	1,030	940	719	779	660	688	234	6,027	
	入院(単位)	907	969	882	676	737	559	664	207	5,601	
	外来(単位)	70	61	58	43	42	61	24	27	386	
	自宅復帰率	62.8%	57.6%	50.0%	68.2%	73.9%	72.7%	79%	71%	(平均)66.8%	
ST	摂食機能療法	0	10	4	(注) 7月～11月異動のため実績なし						14
	総単位数	103	129	31							263
	入院(単位)	103	129	31							263
	自宅復帰率	77.8%	100.0%	50.0%							(平均)75.9%
全体	退院前訪問	8	8	4	5	1	0	1	0	27	
	患者1人当たり平均単位数	2.28	2.49	2.45	2.58	2.68	2.44	2.66	2.42	(平均)2.50	

# 栄養管理科

## ■スタッフ紹介

<病院>

管理栄養士（常勤） 1名

中川弘子（糖尿病療養指導士）  
（特定保健指導実践者）

<委託>2018年11月現在

栄養士（常勤） 2名

調理補助（パート） 4名

## ■業務内容

### 【入院食事管理】

- ・病院管理栄養士が、食数管理・食札作成を行い、委託スタッフが献立作成・厨房管理・調理を行い、適時適温での配膳を行っている。
- ・入院時・昼食時には、訪床を行いアレルギー、嗜好、摂食・嚥下障害等による個別対応を行っている。
- ・栄養管理計画書の作成を行い、カンファレンスを活用し、医師・看護師と情報共有しながら、入院患者の栄養管理に努めている。

## 【指導業務】

- ・個別栄養指導（外来）
- ・特定保健指導（国保・社保）

## 【その他活動】

- ・リハカンファレンス・院内回診参加
- ・褥瘡回診同行
- ・生活習慣病教室企画参加（6月・10月）

## ■2018年度のトピックス・実績

地域包括ケア病棟での食事提供は、看護部・リハビリテーション科と情報共有しながら積極的に行っていた。5月は特別食提供率も41%と順調なスタートであった。しかし、6月18日の地震以降の入院患者減少により、食事提供数は減少した。

指導栄養は表2に示したとおりで、継続指導の患者数を維持しながら、月平均10件を維持していた。

生活習慣病教室では、6月は糖尿病、10月は骨粗しょう症をテーマに食事の話を行った。

## ■今後の展望

外来での栄養指導に関して、必要があれば、協力を継続したいと考える。

表1. 食事提供数

(単位:食)

	患者食数			
	加算	非加算	経腸	合計
4月	755	2,285	310	3,350
5月	1,329	1,880	182	3,391
6月	1,095	1,545	0	2,640
7月	411	1,440	50	1,901
8月	771	1,109	45	1,925
9月	565	1,119	143	1,827
10月	715	1,002	147	1,864
11月	154	373	95	622
合計	5,795	10,753	972	17,520

表2. 指導件数

(単位:件)

	栄養指導		特定保健指導	
	初回	継続	動機付	積極的
4月	3	7		1
5月	4	5		
6月	1	5		
7月	8	6		
8月	3	4		
9月	3	5		
10月	1	6		
11月	5	7		
合計	28	45	0	1





# しんあい クリニック

〒569-1035

高槻市西之川原2丁目46番3号

URL:<http://www.aijinkai.or.jp/shin-ai-clinic/>

## 理念・基本方針

### <理念>

仁（ひろ）く、愛（いと）おしむ医療を

### <基本方針>

1. 地域の要望に適した信頼されるクリニックを目指します。
2. 安心して医療を受けていただける快適な療養環境を提供します。
3. 職員一人ひとりが自らの役割を担ったチーム医療を実践します。

## 施設概要

### ■診療科目/3科

「しんあいクリニック」は2010年5月に全室個室の19床の有床診療所でスタートしたが、2017年9月末にて無床診療所となった。2019年1月1日より病床を再開し、高槻病院の後方支援診療所及び地域密着の診療をより一層続けていく所存である。

## 2018年度総括

4月から12月までの人員配置は、医師1名、看護師1名（パート）、理学療法士0.5名、事務職員1名であった

が、2019年1月からは、医師1名、看護師11名、看護助手2名、理学療法士0.5名、事務職員1名となった。

2019年1月から3月までの入院延べ数は1,276名、1日平均14.2名、病床利用率は70.9%であった。新入院患者数55名、退院患者数は38名であった。入院患者の紹介元は、高槻病院が100%であった。退院患者の転帰は死亡1名、法人内・外への転院15名、介護施設への転所5名、自宅17名であった。

## 2018年度活動状況

- |     |                  |
|-----|------------------|
| 4月  | 期首全集・事務部期首講演会    |
| 5月  | 看護部期首研修会・神服神社例大祭 |
| 7月  | 上半期褒賞            |
| 9月  | しんあい・ますみ合同縁日     |
| 11月 | 愛仁会創立60周年記念式典    |
| 12月 | 愛仁会・愛和会5施設合同忘年会  |
| 1月  | 互例会              |
| 2月  | 高槻市全域防災訓練        |
| 3月  | 愛仁会グループ合同辞令会     |

## 2019年度に向けて

高槻病院の後方支援診療所としての役割を果たす。



# 介護老人保健施設 ケーアイ

〒569-1051

高槻市大字原 112 番地

URL: <http://www.aijinkai.or.jp/keai/>

## 理念・基本方針

### <理念>

1. 利用者の人権を尊重し、生活の質の向上を目指しチームで支援する。
2. 利用者の生活機能向上を目的に、維持期リハビリテーションを行う。
3. 利用者の状態に応じ、チームケアを行い早期の在宅復帰に努める。
4. 利用者の自立した在宅生活が継続できるよう、総合的に支援する。
5. 利用者及び家族が安心して暮せる、地域一体となったケアを推進する。

### <基本方針>

- ・利用者個々の特性に応じた生活を計画し、リハビリテーション・レクリエーション・生活訓練を積極的に行う事により、早期家庭復帰に努める。
- ・利用者が笑顔と生活の張り合いを取り戻せる家庭的雰囲気を作り、きめ細やかなサービスの提供に努める。
- ・家庭や地域との連携を大切にし、介護に対する啓蒙・指導に努める。
- ・職員は施設の方針を理解し、その専門性を発揮すると共にお互いに協力・連携を取りながら、その目的達成に努める。

## 施設概要

- 入所者定員/100名（ショートステイ含む）
- 通所者定員/40名

## 2018年度総括

入所は1日平均98.5名（前年比98.6%）であった。入院による予定外の退所が昨年より8名多い71名となったことや、地域包括ケア病棟の在宅復帰率に老健が含まれなくなったこと等が影響し、利用者確保が難しい状況であった。しかし、介護報酬改定で老健の分類が5段階となり、最も介護報酬の高い超強化型老健の要件を4月より満たすことができた。さらに、職員への研修を促し、新たな加算の算定を行うことができた。通所リハビリテーションは地震や台風の影響により、合わせて3日間の臨時休業を余儀なくされたが、利用者数は1日平均32.7名（前年比102.2%）となった。利用者の平均介護度は前年と比較し、入所ではやや上昇していたが、通所ではやや低下していた。高槻北地域包括支援センターは、従来の認知症カフェ「かふぇみかん」だけでなく圏域内で新たに認知症カフェを展開し、どちらも毎月継続して行っている。ケーアイと共催での「ケーアイ元気食堂」も継続している。認知症サポーター養成講座は郵便局員や中学生を対象に開催した。

教育活動としては大阪介護老人保健協会事例発表会や全国介護老人保健施設大会等での演題発表を引き続き行った。地域貢献活動の一環として、高槻市立中学生の職場体験学習受け入れや、高槻支援学校での出前授業も継続して行った。

## 2018年度活動状況

4月 期首全集、認知症カフェ、ケーアイ元気食堂、ポ

ランティア総会, 介護予防教室

5月 さつき祭り, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, 介護予防教室

6月 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, 介護予防教室

7月 夏季全集, 介護教室, 第18回大老協懇話会事例発表会演題発表, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂

8月 消防訓練, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, 介護予防教室

9月 敬老会, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, 認知症サポーター養成講座

10月 高槻市立阿武野中学校職場体験学習受け入れ, ケーアイ秋祭り, 第29回全国介護老人保健施設大会埼玉演題発表, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, 介護予防教室, 認知症サポーター養成講座

11月 ボランティア総会, 第5回ケーアイますます健康フェア, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, 高槻市立第二中学校・高槻市立第六中学校職場体験学習受け入れ, 介護予防教室

12月 介護予防教室, 冬季全集, クリスマス会, 認知症

カフェ, ケーアイ元気食堂, 忘年会, 年末全集, 認知症サポーター養成講座

1月 年始全集, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, 介護予防教室

2月 消防訓練, 大老協北摂ブロック職場交流体験学習受け入れ, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂, 介護予防教室, 認知症サポーター養成講座

3月 介護教室, 認知症カフェ, ケーアイ元気食堂

## 2019年度に向けて

2019年度も引き続き「超強化型老健」の要件を堅持できるよう取り組みたい。そのためには、在宅復帰・在宅療養支援を念頭に置いたリハビリ、レスパイト機能を活用し、法人内のみならず、法人外施設や居宅事業所とも、より一層、連携を図ることが重要である。また、加算の算定増加に向けての取り組みも行っていく。

高槻北地域包括支援センターについては、地域住民向けに介護予防等の啓発や実践、定期的な勉強会や認知症サポーター養成講座を開催し、高齢者が安心して暮らせる地域作りに貢献していくことを目指す。

# 介護老人保健施設 ケーアイ

## ■スタッフ紹介

61期ケーアイは、医師 1.1名（仲田施設長、精神科嘱託医）、看護・介護職員 64.7名（小林療養科長）、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 9名、管理栄養士 1名、薬剤師 0.1名、支援相談員 3名、事務職員 5.9名（三藤事務長）、計 84.8名の人員配置であった。

## ■業務内容・実績

1日約 98.5名の入所（前年比 98.6%、以下同様）うちショートステイ 14.6名（90.1%）であった。入院による退所は重症度を反映し 71名（112.7%）と多かった。在宅復帰率 62.2%、ベッド回転率 23.5%、要介護 4・5の占める割合 53.3%で、在宅復帰・在宅療養支援等指標は平均 82点であった。通所リハビリテーション（以下通りハ）は 1日平均 32.7名（102.2%）であった。リハ部門では、経口維持加算 318件（158.2%）、通所の短期集中個別リハ加算 725件（113.5%）等の加算取得件数が増加した。

## ■2018年度のトピックス

2018年度は介護報酬改定に向けた準備をしっかりと行ったことが奏功し、今改定で新たに導入された老健 5 類型の中で介護報酬が最も高い「超強化型」を 4 月当初から取得することができた。新設された加算についても研修を受講させたり、多職種での取り組みを実施するなどして新たに算定することができた。診療報酬改定により地域包括ケア病棟から老健への退院については在宅復帰率のカウンタ対象外となったこと、更には地震の影響によりしんあい病院が休床となったことから、前年度構築したしんあい病院との連携は継続できなくなったが、愛仁会高槻地区の PCFM ミーティングに参加し、タイムリーなベッド稼働状況の共有や情報交換を行った。エリアの介護系施設間情報共有・連携システム「MeLL+」（メルタス）を引き続き活用し、新規入所者の情報や退所後の利用者の自宅での状況を居宅ケアマネから得ることができている。ケアマネに対しては通りハ利用者の情報発信を継続している。定期

的なりハ会議の開催や、入退所前後訪問の実施などニーズや環境設定も含めた在宅生活・在宅復帰支援に対する取り組みを行った。

在宅超強化型老健の要件を堅持するため、より重症度の高い利用者を受け入れることができるよう、胃ろう・喀痰吸引等医行為が実施できる介護職員を養成し、実施することで、介護職員の意識を高め、看護・介護職員の連携を深めた。家族への吸引指導を行い、吸引器の貸し出しを含め、家族の安心感を引き出せるような在宅支援ができた。

大学等からの実習受け入れや中学生の職業体験の受け入れを引き続き行った。高槻支援学校については、こちらから出向いての「出前授業」を行った。

## ■今後の展望

引き続き超強化型老健を堅持していくためには、在宅復帰・在宅療養支援機能の質を更に向上させる。老健の特長である認知症対応に加えて、在宅⇄老健の双方向性を踏まえた短期入所（1か月未満）や中長期入所（1～3か月）により、リハとレスパイト機能を活用し、在宅復帰後も、利用者や介護者が在宅で安心して暮らせる基盤を多職種協働で提供する。生活リハは最も在宅に近いサービスであることから、セラピストと看護・介護職員との情報共有を深め、訪問指導を生かしたリハプラン、ケアプランの協働作成・実施ができるよう取り組む。訪問リハ、訪問介護、居宅ケアマネ等と連携し、地域の総合的なりハ提供施設を目指す。

地域包括支援センターが施設内にある強みを活かしより連携を深め、地域住民向けの介護予防の啓発や実践、認知症地域支援推進員との協働による認知症カフェの継続や、認知症サポーター養成講座を開催する。これからの生活に不安がある高齢者に積極的に関わることで、いつまでも住みやすい地域作りに貢献するとともに、地域包括ケアシステムの一翼を担うため、介護予防、認知症ケア、在宅療養支援に重点を置いた事業を今後も展開する。

# 高槻北地域包括支援センター

## ■スタッフ紹介

61 期地域包括支援センターは、保健師・看護師 2 名、主任介護支援専門員 3 名、社会福祉士 2 名、介護支援専門員 3.5 名、認知症地域支援推進員 1 名の計 11.5 名の配置であった。

## ■業務内容

### 1. 介護予防マネジメント事業

- ・介護予防事業に関するケアマネジメント

地域の一般高齢者に向けて、基本チェックリストを参考に、訪問や電話等でますます元気教室やクラブの案内を行った。要支援認定者や事業対象者に対しても対象になる方に参加を奨励した。

- ・要支援認定者、事業対象者に関するケアマネジメント

191 名（前年度比 111.7%，以下同様）の新規利用相談があり、利用者の主体性を尊重した適切な介護予防支援・介護予防ケアマネジメント支援を実施した。延べ 858 件（110.6%）のモニタリング訪問を実施し、関係機関・サービス事業所からの指導、助言を取り入れながら介護予防サービス支援計画書原案作成から、サービス担当者会議の開催に至るまで、介護予防マネジメントを確実に実施した。高槻市医師会作成の「医療と介護の連絡シート」を活用し、福祉用具貸与、医療系サービスの利用や生活状況における主治医との連携を積極的に行った。

### 2. 総合相談支援事業

高齢者やその家族、地域住民からの介護・福祉にかかわる総合相談支援を行い、病院、かかりつけ医、福祉機関の関係者、民生委員、介護支援専門員との連携を深めた。新規ケースは 438 件（90.3%）であった。

### 3. 権利擁護事業

関係機関との情報交換、ネットワークの構築により、延べ 64 件（101.6%）の権利擁護に関する相談があった。

### 4. 包括的・継続的ケアマネジメント事業

ケアマネジャー情報交換会を年 3 回開催し、担当圏域内の介護支援専門員の積極的な参加を得ることができた。介護支援専門員に対するケアマネジメント支援件数は、延べ 168 件（163%）であった。

### 5. 地域支援ネットワーク構築

以下の会議・研修会等を開催・出席した（抜粋）。

- ・担当圏域包括ケア会議 年 6 回開催
- ・地域密着型事業所運営推進会議 計 17 回出席
- ・生活支援体制整備事業ワークショップ 計 7 回参加
- ・担当圏域内のますます元気クラブ 計 53 回参加
- ・ふれあい喫茶・いきいきサロン等 計 93 回参加
- ・認知症カフェ（かふえみかん） 計 12 回開催 等

### 6. 認知症地域支援推進員等設置事業

「認知症になっても住みやすい街づくり」を目指し、高槻市・大阪府と協力して、認知症についての啓発活動、認知症の人と家族の支援、認知症研修の開催を行った。

## ■2018 年度のトピックス・実績

これまで開催してきた認知症カフェ「かふえみかん」に加え、7 月より「認知症カフェ in クラムボン」を圏域内に立ち上げ、月 1 回定期的に開催するようになった。高槻市介護保険事業者協議会主催の高槻市研究発表会において、この取り組みを発表したところ、高槻市介護保険事業者協議会賞を受賞した。

認知症地域支援推進員の活動としては、昨年度に引き続き若年性認知症当事者の方の講演会を実施した。それにより、心を開くことができなかった認知症当事者の方が置かれている状況を前向きに捉えられるようになった事例があり、症例は少ないものの、講演会開催は大変有意義であった。

## ■今後の展望

昨年度より、自立支援・重度化防止に向け、個別事例の検討を多職種で行う「個別ケース検討会議」の開催が新たに義務付けられ、次年度更に検討事例を増やすことが行政より求められている。当地域包括支援センターは、高槻市内で唯一担当圏域内の高齢者人口が 1 万人を超えており、今後更に相談件数が増えることが予想され、柔軟で迅速な対応が迫られる。業務量が増加していく中で、目の前の高齢者の安心・安全な生活を守るというミクロ的な視点と、地域全体の課題を抽出するマクロ的な視点を同時に養う必要性があり、それぞれの職種の専門性も更に問われるだろう。国の動向にも注目して業務に従事したい。



## 介護老人保健施設

# しんあい

〒569-1035

高槻市西之川原 2 丁目 46 番 1 号

URL: <http://www.aijinkai.or.jp/shin-ai-carefacility/menu01/index.html>

### 理念・基本方針

#### <理念>

私たちは、介護が必要である高齢者が、その人らしく自立し在宅での生活を送れるように、地域社会と連携して支援します

#### <方針>

1. 利用者さまが自立した日常生活を営むことができるよう、ユニットケアにおいて、その人の能力に応じた援助を行い、在宅復帰を目指します。
2. 利用者さまの人格を尊重し、よりよいサービスを提供します。(人格:その人の生活や性格・考え方など含めた全て)
3. 地域社会との綿密な連携により在宅ケアの促進に努めます。

### 施設概要

#### ■入所者定員/69名(ショートステイ含む)

全室トイレ洗面所付き個室のユニット型老健

#### ■通所者定員/35名

### 2018年度総括

愛仁会正式統合の移行から5年目として活動してきた。居室利用率は93.3%から94.3%となり、利用者は前年度より255名増(新規89名)となった。超強化型老健を2018年4月に取得することができたため、収入は前年比104.5%で約2,072万円の増収となった。

通所リハビリテーションは、29.8名(稼働率85.1%)

(新規24名)で前年度比689名増となった。看護師の常時配置も行い、中重度加算に対応できるようになった。

重症化に対応すべく介護職員の吸引・胃ろう等の医行為に従事する職員は1名減少して7名となり、指導看護師も5名となった。胃ろう注入の必要な利用者は常時3名及びショートで4名が交代で利用できるようになった。

学会等では延べ2名の発表・5名の参加、学術誌への誌上発表も1題行った。

STを非常勤だが迎え入れ、ミールラウンドを継続している。

### 2018年度活動状況

- |    |  |
|----|--|
| 4月 | 第61期辞令授与、期首全集、新人職員研修、ハーモニカボランティア、マジックボランティア、日舞ボランティア                   |
| 5月 | 神服神社例大祭、ハーモニカボランティア、夜間想定消防訓練、高槻市相談員来所、看護部期首研修会、QC委員会                   |
| 6月 | レクリエーションボランティア委員会、ハーモニカボランティア、高槻市立第八中学校職業体験研修、ミールラウンド、マジックボランティア、QC委員会 |
| 7月 | 上半期褒賞式、マジックボランティア、ハーモニカボランティア、ミールラウンド、高槻市相談員来所、宮之川原民生委員施設見学、QC委員会      |
| 8月 | ミールラウンド、レクリエーションボランティア委員会、ハーモニカボランティア、マジックボランティア、高槻市相談員来所、QC委員会        |

9月 西之川原地区縁日, 職員健康診断, 介護福祉施設  
合同業務改善発表会, 介護相談員来所, ミールラ  
ウンド, QC委員会, マジックボランティア, 大  
老協北摂ブロック市民講座

10月 QC委員会, ミールラウンド, ハーブボランティ  
ア, 全国介護老人保健施設大会, 介護体験学生受  
け入れ

11月 愛仁会創立60周年記念式典, 介護等体験受け入  
れ, QC委員会, 音楽演奏ボランティア, ミール  
ラウンド, 吸引研修, ハーモニカボランティア,  
高槻市立第二中学校職業体験受け入れ, 看護フィ  
ジカル研修

12月 介護等体験受け入れ, ミールラウンド, QC委員  
会, マジックボランティア, 愛仁会・愛和会高槻  
地区合同忘年会, 介護フェスタ, ユニットケアコ  
ンビニフォーラム, 納会

1月 地域包括ケアシステム部会, 施設サービス部会,  
ミールラウンド, 音楽レクリエーション, ハーモ  
ニカボランティア, マジックボランティア

2月 西之川原自治会防災訓練, 高槻市介護保険事業者  
協議会・交流会・懇親会, 介護体験学生受け入れ,  
愛仁会看護助産専門学校実習受け入れ, QCフレ  
ッシュマン研修, 地域包括ケアシステム部会, ミ  
ールラウンド, マジックボランティア, ハーモニ  
カボランティア

3月 合同求人説明会, 愛仁会グループ介護施設合同業  
務改善発表会, リハ病院地域交流を考える会, 高  
槻地区評議員会, 介護報酬説明会, 高槻ブロック  
会議, ハーモニカボランティア, 愛仁会グループ  
合同辞令会

### 2019年度に向けて

介護報酬改定により, 当施設は超強化型老健になった。  
今後超強化型老健を維持するためにも, 職員数と質の充実,  
夜勤体制の調整を行い, 重症化・回転率上昇及びリハビリ  
の充実に対応できる体制を整えていく必要がある。

通所リハビリテーションでは利用者の更なる増加を図  
り90%以上の稼動を行う。

# 介護老人保健施設 しんあい

## ■スタッフ紹介

今期の人員配置は、医師 1 名、看護・介護職員 42 名、施設ケアマネ 1 名、支援相談員 3 名、理学・作業療法士 6 名、管理栄養士 1 名、事務職員等 6 名、障がい枠介護補助員 6 名であった。

離職・転出者は介護 4 名、新卒 1 名、中途入職者は 3 名であり、産休・育休取得者は 2 名であった。

ユニットケアに対する人員が昨年に続き更に確保できつつある。

## ■業務内容

居室利用率は 93.4%から 94.3%で、利用者は前年度より 225 名増（新規 89 名）となり、超強化型老健を 2018 年 4 月に取得することができたため、収入は前年比 104.5%で約 2,072 万円の増収になった。

通所リハビリテーションは、29.8 名（稼働率 85.1%）（新規 24 名）で前年度比 689 名増となった。看護師の常時配置も行い、中重度加算に対応できるようになった。

重症化に対応すべく介護職員の吸引・胃ろう等の医行為に従事する職員は 1 名減少し、7 名となり、指導看護師も 5 名となった。胃ろう注入の必要な利用者は常時 3 名及びショートで 4 名が交代で利用できるようになった。

学会等では延べ 2 名の発表・5 名の参加、学術誌への誌上発表も 1 題行った。

障がい者職員を 5 名受け入れた。嚥下障害の利用者が増加する中、ST を非常勤だが迎え入れ、食事動作・姿勢な

ど指導を受け利用者に対応し、ミールラウンドを維持している。

実習施設としての準備を行い、本年度は看護学生の実習生の受け入れを行った。

夏には敷地内にある 3 施設合同の縁日を開催し、利用者・家族・地域の方々とも交流し活気ある施設として活動できている。

## ■2018 年度のトピックス・実績

学会参加については、全老健での発表 2 件、学術誌発表 1 件を行った。大老健・近畿大会・全老健の学会に延べ 5 名参加した。

地域の行事として、5 月の近隣の神社の例大祭ではお神輿を担ぎ、2 月には防災訓練に毎年参加している。本年も近隣の公園にて 115 名の参加者とともに避難訓練・バケツリレー・起震車体験・炊き出し訓練などを実施した。

## ■今後の展望

介護報酬改定により、当施設でも超強化型老健になった。今後超強化型老健を維持するためにも、職員数と質の充実、夜勤体制の調整を行い、重症化・回転率上昇及びリハビリテーションの充実に対応できる体制を整えていく必要がある。

通所リハビリテーションでは利用者の更なる増加を図り 90%以上の稼働を行う。





# 社会福祉法人 愛和会 (高槻地区)

〒569-1035

高槻市西之川原 2 丁目 46 番 3 号

URL:<http://www.aijinkai.or.jp/aiwakai/>

## 理念・基本方針

『高齢者に明るく快適な生活を提供いたします』

様々な疾患とハンディキャップを持った高齢者の方に、希望ある生活を構築できるサポートを ICF(国際生活機能分類)の考え方で各専門スタッフが協働して支援します。

1. 利用者・家族・職員の良い関係を構築します。
2. 利用者・家族・職員が心身ともに健やかに過ごせるように努めます。
3. 地域住民との交流を大切にします。

## 施設概要

■ケアハウスますみ 入所者定員/20 名

■デイサービスますみ 通所者定員/18 名(2018 年 2 月～)

## 2018 年度総括

ケアハウス入居者 20 名の平均介護度は 3.2、平均年齢は 89.2 歳と超高齢化となり、2018 年度は 6 名の方の看取りを実践した。

併設クリニックで定期的に診察を受け、入居者の健康管理はもちろん、往診などに対応していただき、ケアハウスでの穏やかな看取りケアが実践できた。

デイサービスの利用者の平均介護度は 2 と自立の方が多い印象だが、平均年齢は 87.1 歳と高齢化しており、医療重症度は高い状況であるが、デイサービスの利用者も併設クリニックの患者が多く、家族から厚い信頼をいただいている。

## 2018 年度活動状況

- |      |  |
|------|--|
| 4 月  | 愛和会第 18 期辞令授与、お花見ドライブ、運営推進会議                 |
| 5 月  | 母の日イベント、感染症研修、神服神社例大祭、運営推進会議、消防訓練、看護部期首研修    |
| 6 月  | 父の日イベント、舞の会(ボランティア)、愛仁会集合研修、人権研修             |
| 7 月  | 七夕イベント、愛仁会集合研修、上半期褒賞                         |
| 8 月  | 介護セミナー、排便コントロール講習、災害対策研修                     |
| 9 月  | 敬老会イベント、西之川原地区施設合同縁日、愛仁会集合研修                 |
| 10 月 | 運動会、壁画作り、愛仁会集合研修                             |
| 11 月 | 紅葉ドライブ、愛仁会集合研修、消防訓練、感染症研修                    |
| 12 月 | 愛仁会集合研修、安全研修、クリスマス会、運営推進会議、しんあい 4 施設合同忘年会、納会 |
| 1 月  | お正月行事(初詣・書初め)、感染症研修                          |
| 2 月  | 節分イベント、高槻市全域防災訓練                             |
| 3 月  | ひな祭りイベント、高槻市集団指導、運営推進会議                      |

## 2019 年度に向けて

地域住民と、自然災害における協力体制を構築する。

## ケアハウス ますみ

### ■スタッフ紹介

総施設長	山本欣宏
施設長	西田 豊
看護師	1名
生活相談員	1名
介護支援専門員	1名
介護福祉士	9名
事務員	2名

### ■業務内容

2009年12月1日に開設し、昨年までは入居稼働率100%（20名）を堅持していたが、2018年度は入居稼働率96%（19.2名）であった。開設当初から継続して入居されている方が多く、看取り期を迎えている方も少なくない。当施設のような小さなケアハウスでも静かで穏やかな看取り期を過ごしていただくことができるよう日々主治医との連携、家族との相談、緩和ケア研修などに努めている。入居者の多くは介護度3以上ではあるが、色々な行事や集団体操にも積極的に参加され穏やかな日々を過ごされている。ケアハウスますみは、同一建物内にしんあいクリニックがあり、日常的な健康管理や看取り期を迎えた高齢者への優しい声掛けや往診など、主治医がいつでも対応して下さるといふ安心感がある。

当施設の周辺には田園が広がり、山の木々の緑は目に鮮やかで、風光明媚な環境に四方を囲まれているため、入居者もスタッフも四季折々を五感で感じながら生活できると言える。気候の良い時にはリハビリ目的で散歩を楽しんだり、施設の中庭にある炭酸泉の足湯でくつろいだりされている入居者の姿を見ると、ご家族の表情も穏やかである。

2018年3月現在の平均介護度は3.2となり、昨年度に比べ介護度が高くなっている。入居者の生活能力は重度化の一途であり、医療重症度は増している。

入居者の超高齢化に伴い看取りケアの実践力が問われる施設ではあるが、入居者の意向・家族の意向をしっかりと受け止め、一人ひとりの状態に応じた援助方法をケアプランに反映させ、ケアの質の向上に努めている。介護支援専門員と看護師は常に報・連・相を意識し、入居者のちょっとした変化にも逸早く気づくことができている。このチームケア実践力は、入居者とスタッフ、スタッフと家族、家族と介護支援専門員、介護支援専門員と看護師、看護師と主治医、主治医と家族、家族と入居者の信頼関係の輪が繋がっているからだと言える。

近年は自然災害、特に水害対策には十分な自主防災訓練が必要であるとの指摘がなされている。高槻市は淀川水域の中でも豪雨による川の氾濫が危惧されている地域であることから、ますます地域住民との協力体制を強化し自主防災対策を講じることが急務である。

### ■2018年度のトピックス・実績

同一建物にあるクリニック医師の定期的診察と往診を受けながら、2018年7月に1名、8月に1名、9月に1名、12月に1名の、看取りケアを行うことができた。

ケアハウスますみでは、住み慣れた部屋で生活の延長線上に極自然な終末期を迎えることができるよう、強制的な栄養補給、強制的な水分補給は行わない方針であることに本人・家族が深く理解を示され、クリニック主治医も賛同して下さり、看護師・介護士・そして家族が協力し、本当に静かで穏やかな平穏死を迎えることができる看取りケアが実践できた。

### ■今後の展望

2019年度は『地域高齢者の自主避難場所』としての役割を具体的に示し、また、地域住民と自然災害における協力体制を構築する。

## デイサービス ますみ

### ■スタッフ紹介

総施設長	山本欣宏
施設長	西田 豊
生活相談員	古藤昌美
准看護師	1名
介護福祉士	2名
介護員	2名
ドライバー（パート）	1名

### ■業務内容

デイサービスますみは、しんあいクリニックとケアハウスますみの同一建物の1階にあり、定員が20名であったが、2018年2月より地域密着型デイサービスに移行し定員を18名とし、アットホームな雰囲気の日サービスである。

2017年度の利用総延べ人数4,542名に対し、2018年度では利用総延べ人数4,435名と107名減少した。2018年度利用平均人数は14.4名となっている。

デイサービスの周辺は風光明媚な田園地帯で、四季折々の風景を楽しむことができ、施設に併設されている足湯を利用しながら季節を感じ、利用者同士はもちろん職員との交流の場ともなっている。

当日サービスでは、月に一度【季節湯週間】を設け、菖蒲湯や桃湯、ゆず湯といったさまざまな種類のお風呂を楽しんでいただいている。

また、ゲームや制作活動といったレクリエーションも利用者には好評で、中でも四季を通じて近隣の山や公園に出掛ける行事は好評である。4月には摂津峡や日本たばこ産業の敷地内へ桜を見に行き、5月には地域の神社の祭りに

参加しお神輿鑑賞を行い、11月には摂津峡へ紅葉を見に行くなど、地域ならではの行事を行っている。

職員も地域の方々との交流を楽しみにしており、特に近隣の神社で開かれる祭りに、神輿の担ぎ手として参加させていただき、祭りを盛り上げている。2018年度は毎週月曜日に2名、年間延べ人数102名の地域福祉サークルの皆さんが傾聴ボランティアとして定期的に来て下さり、デイサービスのメインイベントとも言える午後のレクリエーションやゲーム等を盛り上げて下さった。

地域福祉サークルの方々との交流は、社会福祉法人に求められる地域における公益的活動と言え、今後ますます交流を深めることで、施設運営の透明化を図ることができる。

### ■2018年度の特ピックス・実績

地域福祉ネットワークの方々にボランティアに来ていただくようになり、地域の高齢者との交流の機会も増えた。

### ■今後の展望

地域福祉ネットワークとの連携を深め、地域福祉サークルと協同し、地域高齢者の介護相談などを受け入れ、気軽に立ち寄っていただける地域交流の場として開放することで、デイサービスの健全な運営が期待できる。

2018年は地震と台風による災害の年であった。2019年度には、すぐ近くを流れる芥川の氾濫を想定した自然災害訓練なども地域住民と協同開催する予定である。

デイサービスますみで働く職員は、地域で暮らす高齢者にとって、いつでも気軽に立ち寄れる場所であり続けたいと、心から望んでいる。

# 高槻あいわ保育園

## ■スタッフ紹介

園長 1 名，主任 1 名，副主任 1 名，正規保育士 18 名，看護師 1 名，常勤的非常勤保育士 4 名，パート保育士 19 名，保育補助員 2 名，臨床心理士 1 名，事務長（兼務）1 名，事務員 2 名，管理栄養士（兼務）1 名

委託業務：給食，清掃，警備，運転手（バス）

## ■業務内容・2018 年度のトピックス・実績

子ども子育て支援新制度変更後，保育園に求められるものが増加したが，多様なニーズに対応し取り組んできた。園児数は，通常定員 150 名に対し，入園希望多数により弾力運用実施で 172 名の園児を受け入れた。高槻市トップの待機児童数を誇る。他，特別保育事業の実施。

### 1. 通常保育

高槻市待機児童解消を目的として，定員 150 名のところ 172 名の枠外受け入れを行った。0～2 歳児は担当制保育を行い，質の良い安定した保育を継続することができた。3～5 歳児は，各年齢での保育をベースに体操クラブ，英語教育，週 2 回程度の異年齢児保育を行った。地域交流及び世代間交流として，5 歳児は高槻市立第二中学校との交流，芥川幼稚園・芥川保育所との交流，介護老人保健施設 ケーアイとの交流，豊中夏まつりでの和太鼓演奏，4 歳児は高槻市立第二中学校との交流，豊中あいわ苑デイサービスセンターとの交流，豊中クリスマス会での楽器演奏，そのほか，アクトアモレ店舗会や芥川商店との交流，高槻病院にじっこ保育園との合同夏祭りなど，交流の機会を多く持つことができた。

### 2. 特別保育事業

#### ①延長保育

7 時 00 分から 7 時 30 分，18 時 30 分から 19 時 00 分までの延長保育の利用者は年間延べ 4,203 名で 19 時を超える利用者は 93 名であった。

#### ②障がい児保育

3 歳児に 1 名，4 歳児に 1 名の障がい児を受け入れた。加配保育士と担任とが連携し，その子どもにあわせた保育を行った。

#### ③一時預かり保育

今年度も昨年度に引き続き現体制を維持。定員 6 名で保

育士配置数を見直し，対応した。小規模保育所の拡大で利用者数確保が困難な月もあった。年間の延べ利用者数は 909 名であった。

#### ④休日保育

実施日数は 67 日，利用者数は 643 名，1 日の平均利用者数は 9.6 名であった。定期利用者のみを獲得し，利用者数の安定確保に繋がり，保育も安定して行えた。

#### ⑤地域子育て支援事業

2 階地域のフロアにおいて子育てひろばを開放し，地域子育て家庭や小学生が気軽に利用できる集いの場となった。年間実施日数は 262 日，子育てひろばの利用者は 6,624 名であった。子育てプログラムの実施回数は 70 回，参加者は延べ 1,123 名。また，園庭開放の実施回数は 12 回，利用者は 138 名であった。

### 3. 職員研修・保育研究

#### ①愛仁会グループ保育士研修

外部講師を招いて，なかよし保育園，ひよっこ保育園，にじっこ保育園，高槻あいわ保育園 4 園合同の保育士研修を次の内容で行った。

##### (1) 保育士合同研修大会（1 回実施）

研修内容：新保育所保育指針について，自然あそび，わらべ歌・手作り玩具，数遊び，グループワークを行った。55 名の保育士が一堂に会し，座学と実技を織り交ぜた研修内容で全職員共通の学びの場となった。グループワークでは「保育自慢」や「問題点とその解決法」に関するテーマを設定し，自己肯定感を保育士自身が再確認することや，保育をする中で問題点を協議，それに向けての解決方法等を話し合い，共通の意識を持つことや，協議において良いところを共有，更に良くするための意見交換も行うことができた。

##### (2) 基礎講座

3 園の 2～3 年目職員 7 名を対象に 8 回シリーズで保育基礎講座を実施。ディスカッションを中心に自分の保育を見つめ直し，目指す目標を考える機会となった。

#### ②保育研究・外部研修

日本保育学会第 71 回大会にて「1 歳児期の保育園児の噛みつき行動と成長に伴う精神運動発達の関係」の発表を行った。また高槻市，大阪府社会福祉協議会等主催の外部

研修にも 16 回、延べ 16 名参加した。

### ③園内研修

保育内容についての園内研修を 27 回実施し、参加者は延べ 495 名であった。保育士が講師となり、研修内容について研究して研修を行うことで、指導力の向上と全体の保育の質の向上にも繋がった。

### ■今後の展望

・子ども・子育て支援新制度が施行され 4 年が経過したが、制度改定はなく、当園は認定こども園への移行ができない状態である。今後も引き続き園の質向上や特色強化等を行うことで認定こども園との差を埋め、園児獲得に取

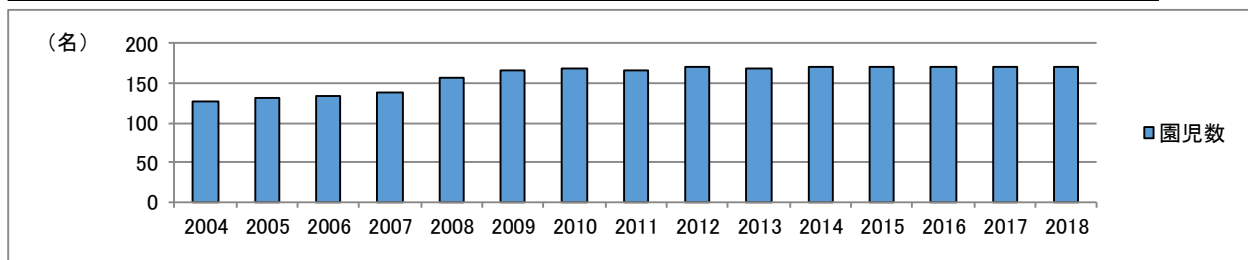
り組む。ハード面の整備も急務となり、検討し計画的に整備を進めていく。

- ・看護師・臨床心理士・管理栄養士等と連携を取ってチーム保育を行い、多様なニーズや変化に対応できる体制を整え、安定的活動を維持する。
- ・学会発表や、外部研修へ参加し、保育士の質の向上を図るとともに、OJT 研修、保育士交換留学及び保育士研修大会の実施により、中堅保育士の保育力の向上及びベテラン保育士の指導力の向上を図る。また、新人保育士への能力開発ガイドライン、基礎講座の実施により、具体的な目標設定と保育力の向上に努めたい。

図表 1. 年度毎の在園児数の推移

(単位:名)

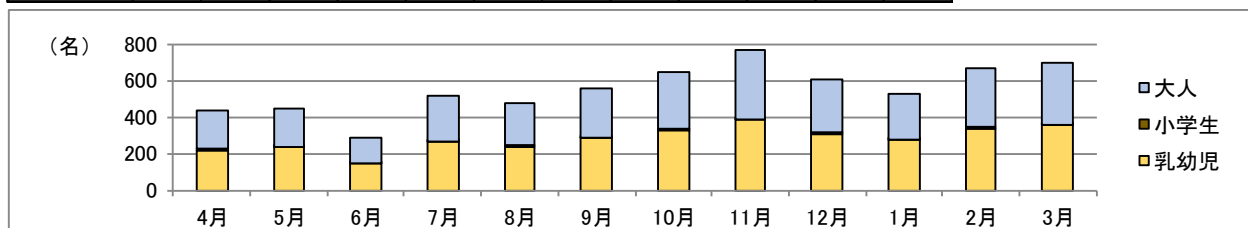
年	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
園児数	128	132	134	139	156	166	168	166	171	169	171	172	170	172	172



図表 2. 子育てひろば利用者数

(単位:名)

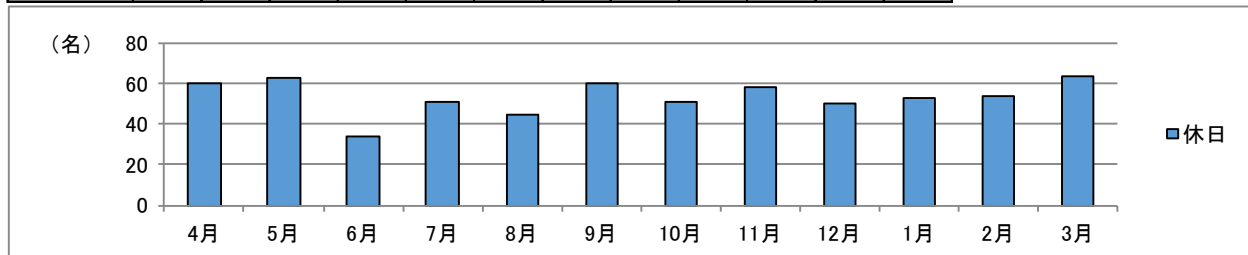
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
乳幼児	219	234	142	263	240	286	328	384	309	273	338	351
小学生	7	5	6	5	7	3	6	1	5	4	3	6
大人	212	212	138	244	225	267	312	384	290	254	325	336



図表 3. 休日保育利用児童数

(単位:名)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
休日	60	63	34	51	45	60	51	58	50	53	54	64





# 愛仁会 総合健康 センター

〒569-1143

高槻市幸町4番3号

URL:[http://www.aijinkai.or.jp/k\\_center/](http://www.aijinkai.or.jp/k_center/)



ISO9001

## 理念・基本方針

### <理念>

お一人お一人の立場と自主性を尊重した健康づくりに貢献します。

### <基本方針>

1. 精度の高い人間ドック及び健診を提供する。
2. 個人情報保護に留意し、わかりやすい検査結果説明を行う。
3. 受診者の権利を尊重し、地域の医療機関と連携してフォローアップを行う。
4. 快適な受診環境の提供と、接遇サービスに努める。
5. 健康講座や研修会などを通じて、地域の保健予防に貢献する。

## 施設概要

■施設認定/厚生労働省認定健康増進施設、厚生労働省指定運動療法施設、日本人間ドック学会人間ドック健診施設機能評価認定施設、日本人間ドック学会優良人間ドック健診施設機能評価認定施設、健康評価施設査定機構認定施設、日本人間ドック学会 専門医研修施設、日本総合健診医学会 優良総合健診施設認定、ISO9001 認証取得、労働者健康保持増進サービス (THP) 機関、労災保険二次健康診断等給付認定診療所、マンモグラフィ検診施設認定

- ・愛仁会総合健康センター附属診療所
- ・愛仁会総合健康センター附属デイサービスセンター

## 2018 年度総括

### 【人間ドック・健診】

施設内健診は、前年比人間ドック 102.2%、協会けんぽ 101.7%、一般健診 101.6%と堅調であったが、出張健診は受託企業の見直しを行なった結果 90%と減少した。

### 【健康増進教室】

満足度アンケートを元に講師面談強化、問題点の対策実施を行なった結果、子ども教室登録人数は前年比 102.2%と増加したが、大人教室、ホットヨガ、トレーニングジムについては、若干の減少であった。

### 【デイサービス】

利用定員を 50 名から 40 名に変更し、配置人員の削減を行なった結果、延人数は 88.8%と大幅に減少したが、収益は確保できた。

## 2018 年度活動状況

- 4月 健康センター・カーム尼崎合同途中入職者内部研修、健康だより発刊、キッズ講座チャレンジ会、トレーニングジム 3 回お試し会、巡回健診スタッフ勉強会、イオンスタイル新茨木店出張健康相談、イベント講義 (健康講座)、デイサービスイベント「ミーナ・ソロッチ (音楽ボランティア)」
- 5月 被爆者健診、労働衛生研修会、イオンスタイル新茨木店出張健康相談、体験講座「泳法撮影会」、「ゴミゼロの日」
- 6月 健康センター・カーム尼崎合同医療倫理研修会、自衛消防訓練、安全管理委員会研修会「消防署に

- よる急変時対応訓練」, プール衛生管理講習会, イオンスタイル新茨木店出張健康相談, 地域交流スペースイベント「歌ってスマイル」
- 7月 トレーニングジム3回お試し会, 大人プール講座体験会, 健康だより発刊, 手洗いチェック(感染予防), イオンスタイル新茨木店出張健康相談, 地域交流スペースイベント「歌ってスマイル」, 地域交流スペースイベント「てつがくカフェ」, こども短期教室
- 8月 こども短期教室, ISO9001 内部監査, イオンスタイル新茨木店出張健康相談, 自動車運転車両管理研修会, 地域交流スペースイベント「歌ってスマイル」, ISO サバイランス, 第59回日本人間ドック学会学術大会, 安全運転管理者講習会
- 9月 健康センター・カーム尼崎合同医療倫理研修会, あすなろ麺販売, 健康センター・カーム尼崎合同途中入社者内部研修, 健康増進体力測定会, イオンスタイル新茨木店出張健康相談, 地域交流スペースイベント「歌ってスマイル」, キッズ講座「講座参観」, デイサービスイベント「ミーナ・ソロッテ(音楽ボランティア)」, 上半期業務改善活動成果発表会
- 10月 健康だより発刊, キッズ講座チャレンジ会, トレーニングジム3回お試し会, 日本精神病理学会第41回大会, イオンスタイル新茨木店出張健康相談, 地域交流スペースイベント「歌ってスマイル」, イベント講義(健康講座), 被爆者健診, 安全管理委員会研修会
- 11月 創立記念昼食会, 高槻第二中学校学生職場体験学習, イオンスタイル新茨木店出張健康相談, 地域交流スペースイベント「歌ってスマイル」, 平成30年度三優監査法人拠点監査, 自衛消防訓練, 職員による草刈り
- 12月 企業懇談会, 健康センター・カーム尼崎合同医療倫理研修会, イオンスタイル新茨木店出張健康相談, 地域交流スペースイベント「歌ってスマイル」, 健康センター・カーム尼崎合同忘年会
- 1月 健康だより発刊, キッズ講座チャレンジ会, トレーニングジム3回お試し会, 講座体験会, 自動車運転車両管理研修会, イオンスタイル新茨木店出張健康相談, 地域交流スペースイベント「歌ってスマイル」, 豊中愛和会職員研修会講演, 感染予防研修会
- 2月 ISO9001 内部監査, ISO 維持審査, イオンスタイル新茨木店出張健康相談, 地域交流スペースイベント「歌ってスマイル」, 地域交流スペースイベント「ヨガ体験会」, デイサービスイベント「フラダンス」
- 3月 地域交流スペースイベント「健康寿命を延ばしましょう」, 地域交流スペースイベント「歌ってスマイル」, イオンスタイル新茨木店出張健康相談, 健康センター・カーム尼崎合同医療倫理研修会, 平成30年度愛仁会総合健康センター感謝祭, あすなろ麺販売, 下半期業務改善活動成果発表会

## 2019年度に向けて

### 【人間ドック・健診事業】

施設内健診利用者の堅持, 出張健診においては, 新たな顧客獲得に努める.

### 【健康増進教室】

利用者の確保及び収益増を目指して子ども教室の増設, キャンペーン特典内容見直し, 会費見直しを図る.

### 【デイサービス】

サービス提供の見直しと職員勤務体制見直しを図り, 適正な収益を確保する.

# 人間ドック・健診事業

## ■スタッフ紹介

	医師 7名
健診科	看護師 11名 (パート 6名を含む)
	臨床検査技師 8名 (パート 5名を含む)
	診療放射線技師 9名 (パート 1名を含む)
	保健師 4名 管理栄養士 2名
情報科	事務員 31名 (パート 6名を含む)
営業渉外科	事務員 13名 (パート 3名を含む)
	診療放射線技師 1名

## ■業務内容

当施設は法人グループ内で健康診断受託施設の中心的役割を担い、施設内健診及び出張健診実施のほか、健診営業拠点を担うとともに、画像読影や報告書作成発送業務を集約実施している。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度は健康増進における特定保健指導業務に注力し、実施率 70%以上を目標に活動をした結果、前年比 161.6%と増収に繋がった。また前年に引き続き高槻市がん検診及び公立学校共済大阪支部の受診者数も増加し、高槻市がん検診が 2,577名、人間ドック受診者数が年間 139名増加し収入増に繋がったが(下表)、巡回健診は、受託企業の見直しを行った結果、前年比 90%となった。

また法人職員の健康管理室機能を向上させるべく、ストレスチェックや特定保健指導を継続して実施した。

## ■今後の展望

胃カメラ希望者の閑散期への誘導や、カーム尼崎健診プラザで、胃カメラや脳MRI検査が受診できるような運用体制を検討していきたい。

表. 健診種類別実績

		年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計	前年比	
施設内	人間ドック	2018	人数(人)	222	286	372	418	567	443	525	484	445	355	421	449	4,987	102.8%
			収入(千円)	10,479	13,945	17,261	19,267	24,454	19,413	23,469	22,402	20,053	17,521	20,084	21,743	230,091	102.2%
		2017	人数(人)	208	291	396	421	485	488	482	493	402	354	415	415	4,850	107.7%
			収入(千円)	9,855	13,618	18,427	19,527	21,426	22,094	21,781	23,051	18,386	17,153	19,836	20,045	225,200	108.6%
	協会けんぽ健診	2018	人数(人)	448	802	919	852	561	477	743	681	552	315	473	374	7,197	100.5%
			収入(千円)	9,199	16,292	18,904	17,087	11,722	10,020	15,113	14,072	11,032	6,644	9,396	7,613	147,092	101.7%
		2017	人数(人)	503	774	1,051	714	529	618	695	600	519	360	442	355	7,160	102.5%
			収入(千円)	10,312	15,462	21,627	13,973	10,435	12,861	14,005	12,019	10,326	7,284	9,104	7,257	144,666	101.7%
	一般健診	2018	人数(人)	613	752	1,145	1,002	825	901	1,014	996	891	1,030	804	655	10,628	105.3%
			収入(千円)	8,671	10,534	11,075	14,185	12,553	12,604	14,118	13,380	11,463	12,752	12,113	9,153	142,600	101.6%
		2017	人数(人)	612	789	900	992	659	913	1,001	989	685	1,126	839	584	10,089	103.8%
			収入(千円)	9,146	11,064	12,066	14,659	9,752	12,780	14,166	12,771	9,445	13,458	12,717	8,337	140,360	107.2%
特定健診	2018	人数(人)	3	22	34	78	81	57	114	116	132	57	74	96	864	101.3%	
		収入(千円)	74	410	559	1,018	1,126	1,072	1,899	1,666	2,446	864	1,286	1,554	13,973	93.3%	
	2017	人数(人)	6	29	50	71	57	67	114	106	89	60	87	117	853	113.1%	
		収入(千円)	164	523	790	1,307	1,301	1,115	1,893	1,895	1,678	1,137	1,257	1,918	14,978	168.1%	
特定保健指導	2018	人数(人)	54	106	171	112	135	166	203	154	129	105	127	139	1,601	162.0%	
		収入(千円)	957	1,447	1,983	1,653	1,863	2,099	2,722	1,901	1,495	1,520	1,649	1,838	21,128	161.6%	
	2017	人数(人)	33	63	92	45	72	99	102	100	87	109	94	92	988	114.0%	
		収入(千円)	759	945	1,145	750	770	1,258	1,277	1,107	1,308	1,336	1,170	1,251	13,077	105.0%	
出張健診	2018	人数(人)	3,018	3,565	7,376	6,797	6,539	4,310	7,835	4,795	1,862	1,076	3,959	3,128	54,260	88.3%	
		収入(千円)	22,582	30,023	43,157	37,874	36,524	26,610	46,830	27,440	13,125	8,241	26,975	20,814	340,196	90.0%	
	2017	人数(人)	9,261	3,683	10,319	6,815	4,746	3,511	6,669	6,436	1,851	1,186	4,113	2,880	61,470	58.9%	
		収入(千円)	44,715	32,888	52,659	33,815	39,812	31,709	44,857	29,893	10,558	9,735	28,249	19,102	377,990	64.2%	
合計	2018	人数(人)	4,358	5,533	10,017	9,259	8,708	6,354	10,434	7,226	4,011	2,938	5,858	4,841	79,537	93.1%	
		収入(千円)	51,963	72,649	92,939	91,083	88,242	71,818	104,153	80,861	59,614	47,541	71,503	62,714	895,079	97.7%	
	2017	人数(人)	10,623	5,629	12,808	9,058	6,548	5,696	9,063	8,724	3,633	3,195	5,990	4,443	85,410	67.1%	
		収入(千円)	74,952	74,500	106,715	84,030	83,496	81,818	97,979	80,736	51,700	50,102	72,333	57,910	916,271	84.0%	



# デイサービスセンター

## ■スタッフ紹介

作業療法士：1名  
 看護師：3名（パート2名含む）  
 社会福祉士：1名  
 介護福祉士：4名（パート1名含む）  
 介護員：1名  
 事務員（運転手）：1名（パート）

## ■業務内容

半日制機能訓練特化型デイサービスとして、パワーリハビリを中心とした機能訓練、個別訓練、集団訓練を実施している。2018年4月より定員25名から午前・午後とも20名定員で活動となる。個別機能訓練加算Ⅰ・Ⅱでは、ADL、IADLの向上に取り組んでいる。また、定期的に体力測定を行い、計画書や訓練内容の見直しを行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

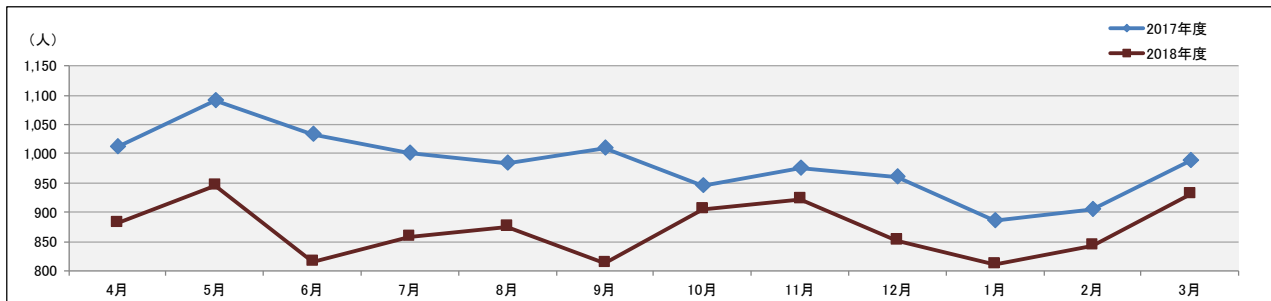
2018年度は、介護予防・日常生活支援総合事業に完全移行し、事業対象者の受け入れもあった。4月より定員25名から20名に変更していることもあり、利用率は前年度比要介護利用者86.8%、要支援・総合事業利用者93.0%、全体で88.8%の利用となった。行事やサービスの内容見直しを予定していたが、集団体操のビデオ変更に留まった。

## ■今後の展望

要介護利用者の割合を増やすことで売り上げをアップし安定させることが今後の課題である。定期的な訓練内容の見直しや、利用者ケア向上を行い、満足度を上げていかなくてはならない。今後も心身機能の維持・向上のみならず、活動・満足度に着目したサービスを展開していきたい。

図表1. 利用者延べ人数

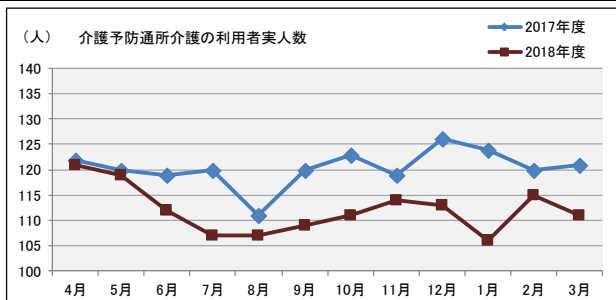
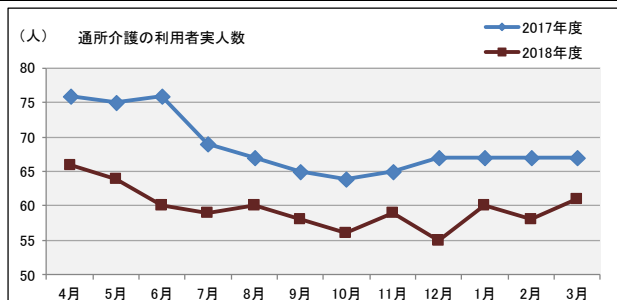
【午前・午後 合計】													(単位:人)	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
2017年度	1,011	1,090	1,033	1,001	984	1,009	945	976	961	885	905	988	11,788	
2018年度	881	945	816	858	876	814	905	922	851	812	844	931	10,455	



図表2. 利用者実人数

【通所介護 利用者実人数】													(単位:人)	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
2017年度	76	75	76	69	67	65	64	65	67	67	67	67	825	
2018年度	66	64	60	59	60	58	56	59	55	60	58	61	716	

【介護予防通所介護 利用者実人数】													(単位:人)	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
2017年度	122	120	119	120	111	120	123	119	126	124	120	121	1,445	
2018年度	121	119	112	107	107	109	111	114	113	106	115	111	1,345	



# 健康増進教室

## ■スタッフ紹介

健康運動指導士 3名  
健康運動実践指導者 1名  
事務職 9名（パート2名含む）

## ■業務内容

健康増進教室：73教室（うち大人教室47教室，子ども教室26教室）

ホットヨガ

トレーニングジム

イベント活動：子ども短期教室（水泳教室，体操教室），子どもチャレンジ会（水泳教室，体操，ダンス，バレエ教室），子ども教室参観日，大人講座体験会，短期教室，健康講話，体力測定会，ジム3回お試し会，水泳ワンポイント教室，泳法撮影会

## ■2018年度のトピックス・実績

健康増進教室の会員確保対策として運動指導における安全管理の強化，また満足度の向上に昨年から継続的に取り組んだ。講師による教室カリキュラムの作成，また満足度アンケート結果から講師との面談を強化し，指導現場での問題点の確認や対策を立てた。

子ども教室では新規会員獲得のため，昨年同様に子どもチャレンジ会や教室参観日等のその他イベント活動を実施し，延べ会員数が前年の127名増となり，会員獲得に繋げることができた。

トレーニングジムでは，トレーナーと利用者のコミュニケーションや個別性のある運動指導の取り組みを継続的に強化した。大阪府北部地震による震災以降，利用者の減少がみられることから利用者の確保が急務である。

## ■今後の展望

2019年度も引き続き，子ども教室の拡充に力を入れ，さまざまなイベント活動を行っていききたい。さらに水泳教室における教室増設，新教室の開設を行うことで，更なる会員獲得を目指したい。

大人教室，トレーニングジムについては，2018年度の取り組みを継続強化し，新規会員の獲得に繋げたい。また満足度強化においても継続的に取り組み，退会防止を図ることで，全体の会員増加を目指していききたい。

表. 事業項目別利用者数

(単位:人)

		年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
健康増進教室	大人教室	2018	392	395	387	383	388	379	376	378	377	376	374	370	4,575	99.3%
		2017	394	393	390	386	384	380	384	382	382	377	378	379	4,609	95.4%
	子ども教室	2018	492	500	491	487	496	493	498	506	505	493	496	489	5,946	102.2%
		2017	458	463	470	459	483	486	494	498	500	498	508	502	5,819	103.4%
ホットヨガ	登録者	2018	239	244	249	247	242	237	239	234	229	227	223	221	2,831	94.4%
		2017	264	260	257	257	251	250	248	243	240	243	242	245	3,000	97.3%
	延べ人数	2018	828	866	888	886	796	856	887	877	854	877	821	839	10,275	95.4%
		2017	829	987	905	929	860	895	829	837	810	1,031	1,016	843	10,771	104.2%
トレーニングジム	登録者	2018	195	194	196	198	198	185	197	184	180	183	186	190	2,286	99.4%
		2017	185	183	192	196	192	199	189	196	192	192	189	195	2,300	106.0%
	延べ人数	2018	1,332	1,306	1,276	1,283	1,209	1,074	1,353	1,209	1,045	1,144	1,233	1,323	14,787	97.0%
		2017	1,289	1,313	1,295	1,352	1,209	1,202	1,248	1,327	1,197	1,217	1,232	1,357	15,238	102.0%
合計(月別登録者数)		2018	1,318	1,333	1,323	1,315	1,324	1,294	1,310	1,302	1,291	1,279	1,279	1,270	15,638	99.4%
		2017	1,301	1,299	1,309	1,298	1,310	1,315	1,315	1,319	1,314	1,310	1,317	1,321	15,728	98.8%



# 愛仁会 看護助産 専門学校

〒569-1115

高槻市古曽部町1丁目3番33号

URL: <http://aijinkaischool.jp/>

## 教育理念

愛仁会看護助産専門学校は、自主性と和の精神をもって、人々の健康で豊かな生活に貢献しうる看護師、助産師を養成する。

## 施設概要

■学科・定員/看護学科（全日制 2クラス 80名）  
助産学科（20名）

## 2018年度総括

看護学科は全日制3年課程1学年80名、助産学科は1年課程20名の定員である。4月に看護学科39回生97名、助産学科22回生17名が入学。2019年3月に看護学科37回生72名、助産学科22回生15名が卒業した。国家試験については、看護学科は1名不合格となり、合格率は98.8%となった。また、助産学科は全員が合格し、合格率は100%となった。

2018年度本校の課題は、①専任教員の研修計画に基づく研修の推進、②看護基礎教育の質の向上、③ユニフィケーションによる学校と臨床の連携強化を年度方針として取り組んだ。

特に看護基礎教育の質の向上では、魅力ある学校運営を実施するため、2016年度より第三者評価の受審・認定・公表に取り組んできた。次に、文部科学省が進める高等教育の一層の推進を実施する事業である職業実践専門課程の認定を受けるべく取り組みを進め、2019年3月に文部科学大臣の認定を受けることができた。

助産学科では入学試験の見直しを行い、公募推薦入試を導入するなど改革を行った。

臨地実習指導者会活動及び実習指導の充実強化については、2018年度も臨地実習指導者会議を看護学科9回、助産学科4回及び特別講演会1回開催し、効果的な実習指導に関する教材化を中心に実習科目についての説明・調整を行った。

地域貢献・社会貢献である学校施設の活用状況については、2018年度についても、法人内での研修や就職説明会に活用されたほか、一部の学会や地域公開講座など、地域にも開かれた場所として多くの人々に利用された。（法人内の使用年間約145回、法人外の使用約30回）

## 2018年度活動状況

- |     |  |
|-----|--|
| 4月  | 看護学科始業式、平成30年度入学式、新入生歓迎会、春季防災訓練、講師会議                                     |
| 5月  | 看護学科第39回生宿泊研修、近畿地区助産学生交流会  |
| 6月  | オープンキャンパス、法人就職セミナー、大阪母性衛生学会、助産学科前期実習、看護学科第38回生基礎看護学実習Ⅱ、看護学科第39回生基礎看護学実習Ⅰ |
| 7月  | オープンキャンパス、看護学科第38回生キャリアガイダンス   |
| 8月  | オープンキャンパス、母校訪問、夏季休暇  |
| 9月  | オープンキャンパス、法人就職試験   |
| 10月 | オープンキャンパス、子育て支援講座、看護の決意式、日本母性衛生学会、助産学科後期実                                |

- 習, 秋季防災訓練
- 11月 オープンキャンパス, 学校祭, 推薦・社会人入試, 看護学科第39回生基礎看護学実習 I
- 12月 看護学科第37回生統合実習, 冬季休暇
- 1月 一般入試, 在学生成人の祝い, 看護学科第38回生専門領域別実習, 助産学科地域実習, 助産学科 ALSO 研修
- 2月 オープンキャンパス, 看護学科第38回生キャリアガイダンス, 看護師・助産師国家試験受験
- 3月 看護学科3学年合同演習, 卒業式, 謝恩会, 看護学科第38回生 BLS 研修, 看護師・助産師国家試験合格発表

## 2019年に向けて

本校では, 法人各施設の多大な協力の下, 臨地実習の充実を図り, 医療を取り巻く環境がめまぐるしく変化する中で, 医療・看護の動向や社会のニーズを捉え, ユニフィケーションによる学校と臨床の連携強化を今後も一層進め

ていく。

さらに, 職業実践専門課程の認定を受けたことで, 文部科学省が推薦する専門学校として全国の高校に周知されることになる。他校と比較して教育の質が高いと評価されることにも繋がり, 優秀な学生確保にも寄与すると考えている。

2020年4月に実施が予定されている高等教育段階の教育費負担軽減新制度の要件を満たすため, 成績評価に大学で導入されている GPA の導入等をはじめ, 新制度の適応校となるべく取り組みを進める。

また, 2022年4月予定のカリキュラム改正に向けた検討は課題及びカリキュラム構築のための継続的な検討を進める。これについては, 現在厚生労働省で「看護基礎教育検討会」が行われており, 情報収集に努め本校のあるべき姿を継続的に検証していく必要がある。時代や地域のニーズにあった看護基礎教育が実践できるよう, 教職員一丸となって取り組まなければならない。

# 愛仁会看護助産専門学校

## ■スタッフ紹介

全職員数は32名で、内訳は下記のとおりである。

学校長 1名 副学校長 1名

看護学科専任教員 17名

助産学科専任教員 5名

事務員 8名

(司書1名・システム担当2名含む)

## ■2018年度のトピックス・実績

2019年3月文部科学省が進める高等教育の一層の推進を実施する事業である職業実践専門課程の認定を受けた。

## ◇実習指導者会活動及び実習指導の充実強化

臨地実習指導者会において、学生指導に関する課題を検討する機会を定例的に実施した。また、臨地実習指導者のための研修会も企画、実施した。具体的な実習指導のための連携強化による質の向上について、分析整理し、対策立案を行い、継続的に取り組んだ。実習指導者会は、看護学科で10回、助産学科で4回開催した。さらに、実習指導者会講演会を7月28日に京都大学医学部附属病院総合臨床教育・研修センター助教、内藤知佐子先生を迎え、学生達の特性を踏まえた上で、具体的な実習指導方法についてファシリテーターとしてのスキルを身につけることができることを目的に、「効果的な実習指導～ファシリテーターとしての役割～」というテーマで実施した。

## ◇カリキュラム実施状況

2018年度の教育実施状況は、看護学科1年生は39単位1,095時間、2年生は36単位1,095時間、3年生23単位825時間、助産学科32単位990時間の教育課程を実施した。

## ◇入試及び学生募集活動

2019年度看護学科の推薦入試、社会人入試並びに助産学科の推薦入試を11月に実施し、一般入試は2019年1月初旬には実施した。

助産学科は、今年度の入試では推薦入試において公募制を導入し、受験生確保に繋げるよう対応を行った。

また、今年度は看護学科10回、助産学科3回のオープンキャンパスを開催し、本校のPRや実習施設の紹介、入学試験、校内見学などを行い、延べ919名の参加者を得ることができた。高等学校の学校訪問では、法人施設の所在する地域を中心に86校の高等学校を訪問した。また、高等学校が開催する進学説明会や模擬授業に積極的に参加し24か所、延べ338名へ進学説明を行った。

## ■近況データの提示及び統計データの説明

「入試状況」(表1)は過去5年間の入試状況を表にまとめたものである。受験者数は、看護学科では、引き続き社会人は減少したが、新卒高校生は増加したことで、前年比25名増の258名となった。助産学科の出願者は、公募推薦入試を導入したことにより今年度は受験者が増加したが、合格後辞退する受験者もあり、補欠合格で対応した。

「国家試験状況」(表2)は過去5年間の国家試験状況を示したものである。看護学科は1名不合格となったが全国の合格率を上回る98.6%の合格率を確保した。助産学科では全員が合格し、100%の合格率を維持できた。

「進路状況」(表3)は過去5年間の進路について示したものである。看護学科では、進学希望者が減少し、64名が愛仁会グループ病院へ就職した。助産学科は13名が愛仁会グループ病院へ就職した。

表 1. 入試状況

(看護学科)

(単位:名)

項目	年度	2015年			2016年			2017年			2018年			2019年		
		第36回生			第37回生			第38回生			第39回生			第40回生		
<b>出願者数</b>		<b>278</b>			<b>266</b>			<b>309</b>			<b>251</b>			<b>277</b>		
<b>受験者数</b>		<b>258</b>			<b>246</b>			<b>294</b>			<b>233</b>			<b>258</b>		
受験者地域別	近畿	大阪府	184		190		243		187		214		214			
		兵庫県	37		32		33		27		19		19			
		京都府	15		7		11		9		15		15			
		和歌山県	6		0		1		2		1		1			
		滋賀県	4		0		0		4		0		0			
		奈良県	1		1		1		0		2		2			
		小計	247		230		289		229		251		251			
	北海道	3		2		0		0		0		0				
	東北	0		0		0		0		0		0				
	北陸	0		1		0		0		1		1				
	関東	3		2		2		0		0		0				
	中部	4		4		1		2		1		1				
	中国	0		2		1		1		2		2				
	四国	0		3		1		1		1		1				
九州	1		2		0		0		2		2					
<b>入試種別</b>		推薦	社会人	一般	推薦	社会人	一般	推薦	社会人	一般	推薦	社会人	一般	推薦	社会人	一般
<b>出願者数</b>		39	99	140	40	75	151	74	87	148	50	75	126	72	76	129
<b>受験者数</b>		39	90	129	40	62	144	70	78	146	48	67	118	70	70	118
<b>合格者数</b>		29	32	40	33	24	43	37	27	51	40	25	40	37	17	37
<b>競争倍率</b>		1.3	2.8	3.2	1.2	2.6	3.3	1.9	2.9	2.9	1.2	2.7	3.0	1.9	4.1	3.2
<b>入学者数</b>		29	29	26	33	17	30	37	21	25	40	23	34	36	15	28
<b>入学率 %</b>		100	91	65	100	70	70	100	78	49	100	92	85	97	88	76

(助産学科)

項目	年度	2015年		2016年		2017年		2018年		2019年		
		第19回生		第20回生		第21回生		第22回生		第23回生		
<b>出願者数</b>		<b>108</b>		<b>88</b>		<b>82</b>		<b>69</b>		<b>95</b>		
<b>受験者数</b>		<b>106</b>		<b>87</b>		<b>78</b>		<b>63</b>		<b>94</b>		
受験者地域別	近畿	大阪府	42		43		43		27		33	
		兵庫県	17		14		14		9		23	
		京都府	14		12		4		12		14	
		和歌山県	1		3		0		1		0	
		滋賀県	4		1		4		5		9	
		奈良県	5		2		5		4		5	
		小計	83		75		70		58		84	
	北海道	3		0		0		0		2		
	東北	0		0		0		0		0		
	北陸	5		4		2		0		0		
	関東	2		1		1		2		0		
	中部	1		0		0		0		4		
	中国	4		3		3		0		2		
	四国	2		2		0		1		2		
九州	5		2		2		2		0			
海外	1		0		0		0		0			
<b>入試種別</b>		推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般	指定校推薦	公募推薦	一般
<b>出願者数</b>		5	103	3	85	5	77	2	67	4	18	73
<b>受験者数</b>		5	101	3	84	5	73	2	61	4	18	72
<b>合格者数</b>		5	22	1	22	5	25	2	18	4	6	9
<b>競争倍率</b>		1.0	4.6	3.0	3.8	1.0	2.9	1.0	3.4	1.0	3	8.0
<b>入学者数</b>		5	15	1	19	5	14	2	15	4	6	6
<b>入学率 %</b>		100	68	100	86	100	56	100	83	100	100	67

表 2. 国家試験状況

(看護学科)

(単位:名)

卒業年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
回生	第33回生	第34回生	第35回生	第36回生	第37回生
入学生	42	88	78	84	80
卒業生	41	83	76	81	72
合格者	41	80	76	80	71
本校合格率	<b>100%</b>	<b>96.4%</b>	<b>100%</b>	<b>98.8%</b>	<b>98.6%</b>
全国平均	90.0%	89.4%	88.5%	91.0%	89.3%
備考			既卒者3名合格		既卒者1名合格

(助産学科)

卒業年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
回生	第18回生	第19回生	第20回生	第21回生	第22回生
入学生	19	20	20	19	17
卒業生	16	17	18	17	15
合格者	16	17	17	17	15
本校合格率	<b>100%</b>	<b>100%</b>	<b>94.4%</b>	<b>100.0%</b>	<b>100.0%</b>
全国平均	99.9%	99.8%	93.0%	98.7%	99.6%
備考				既卒者1名合格	

表 3. 進路状況

(看護学科)

(単位:名)

卒業年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
回生	第33回生	第34回生	第35回生	第36回生	第37回生
卒業生	41	83	76	81	72
進 学	助産師学校	1	4	7	3
	其他大学	0	1	1	0
	看護大学	0	0	0	0
	進学者合計	1	5	8	3
就 職	愛仁会グループ病院 (明石医療センター含む)	38	72	63	76
	外部実習関連病院	0	1	2	0
	その他の病院	1	1	3	1
	就職者合計	39	74	68	77
その他	1	4	0	1	2
<b>進学者を除く 愛仁会グループ病院 就職率</b>	<b>97.4%</b>	<b>97.3%</b>	<b>92.6%</b>	<b>98.7%</b>	<b>95.5%</b>

(助産学科)

卒業年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
回生	第18回生	第19回生	第20回生	第21回生	第22回生
卒業生	16	17	18	17	15
就 職	愛仁会グループ病院 (明石医療センター含む)	12	14	15	14
	その他の病院	4	3	3	3
	就職者合計	16	17	18	17
その他	0	0	0	0	0
<b>愛仁会グループ病院就職率</b>	<b>75.00%</b>	<b>82.4%</b>	<b>83.3%</b>	<b>82.4%</b>	<b>86.7%</b>



# 明石医療センター

〒674-0063

明石市大久保町八木 743 番地 33 号

URL: <https://www.amcl.jp/>



## モットー・理念

<モットー>

患者さまに信頼される医療

<理念>

1. 私たちは、患者さまを中心に、その期待に応える医療を行います。
2. 私たちは、地域との連携を密にして、社会に貢献します。
3. 私たちは、常に自己研鑽に励み、医療の質を高めます。

## 施設概要

■病床数/382 床 診療科目/20 科

■病院機能/地域医療支援病院，基幹型臨床研修病院，協力型（神戸大学医学部附属病院），開放型病院，救急告示病院，日本医療機能評価機構認定病院，兵庫県がん診療連携拠点病院に準じる病院，災害対応病院

■特殊診療機能/救急センター，消化器内視鏡センター，心臓血管・不整脈センター，心臓血管低侵襲治療センター，ICU，HCU，高機能フロア（手術室 6 室，ハイブリッド手術室 1 室，心血管造影室 2 室），NICU，GCU，リハビリテーション，人工透析，ドック・健診センター

## 2018 年度総括

2018 年度に明石医療センターが設立されて 17 年が経過した。また新病院開院から 10 年が経過し、医療機器や設備の老朽化，新しい時代のニーズに即応した改修や，設備の更新が課題であるのに加え，近隣の高度な医療設備を

備えた巨大公立病院の新築など，患者の受診動向に大きく変化が生じている。病院内外のこのような状況においてもこれまでと同様に活発な診療活動を継続して利益を確保するためには，経費の管理を強化するとともに，医療の質を一層高めることが最重要課題とし，1) 高度急性期医療の追求，2) よりスムーズな入退院や在院日数短縮を目指した入退院支援センターの充実，3) 救急診療の更なる充実，4) 人材確保と人材育成の強化，5) 新専門医制度開始への対応，6) 周産期医療の維持による地域への貢献，7) 認知症患者への対応強化，8) 病院機器老朽化への計画的対策の実施，9) 近隣医療機関や行政機関との連携の強化，10) 附属看護専門学校の機能強化を挙げた。1) に関しては，低侵襲心臓手術センター，カテーテルによる大動脈弁手術など，高度手術症例が増加した。2) に関しては，救急受け入れ不可を極力少なくするために，入退院時の患者支援や回復期病院との連携強化を行い在院日数短縮が図れた。4) に関しては，全職種の人材確保と人材育成に取り組み，2018 年度からスタートした医学教育新カリキュラムに基づく病院実習に全面協力を行った。7) に関しては，認知症サポート医，認知症ケア認定看護師を中心にチーム医療を実践してきた。

2018 年度は平均在院日数が 10 日を切るなど，在院日数が短縮し，延べ患者数は減少したが，2018 年 4 月の診療報酬のプラス改定と効率的な病床運用による入院単価増により安定成長期となった。2018 年度も，活発な診療実績と安定した収益構造を維持することができた。



## 2018 年度活動状況

- 4月 新任医師辞令交付式, 役職者辞令交付式, 職員全集 (期首), 下半期業務改善優秀賞表彰, 新入職員歓迎会, 医局歓迎会, 第 22 回すこやか広場
- 5月 兵庫県主催臨床研修合同説明会, 看護の日イベント, 第 23 回すこやか広場
- 6月 レジナビフェア 2018 (研修医対象), 第 24 回すこやか広場, 第 68 回日本病院学会
- 7月 診療報酬研修会, 職員全集 (上半期賞与), 上半期褒賞授与式, 第 25 回すこやか広場, レジナビフェア 2018 (医学生対象)
- 8月 初期臨床研修医選考試験, 第 26 回すこやか広場, 日本病院会主催病院長・幹部職員セミナー
- 9月 上半期業務改善成果発表会, 明石医療センター地域連携の会, 第 27 回すこやか広場
- 10月 職員全集 (秋季), 永年勤続者表彰式, 大規模災害訓練, 第 28 回すこやか広場
- 11月 第 29 回すこやか広場, トライやる・ウィーク
- 12月 職員全集 (下半期賞与), 倫理・個人情報保護・BLS 研修会, 下半期褒賞授与式・忘年会, 第 30 回すこやか広場, 職員全集 (納会), 創立 60 周年記念事業
- 1月 新年互礼会, 第 31 回すこやか広場
- 2月 消防訓練, 第 32 回すこやか広場
- 3月 下半期業務改善成果発表会, 臨床研修医修了証授与式, 第 33 回すこやか広場

## 2019 年度に向けて

2008 年に本館, 2013 年に南館を新築整備し, ハード面の整備は完了し, 東播磨医療圏域における急性期病院としての地位は確立した。しかし本館新築から 11 年が経過し建物設備, 医療機器に維持管理補修を要する時期を迎えて

おり, 改修工事や新たな整備を検討する時期にきている。

明石市の人口推計及び高齢化の推移は, 子育て支援施策拡充による若年層の流入により人口は微増しているが, 兵庫県内の他の医療圏域と同様, 75 歳以上の人口は 2025 年~30 年にピークを迎え, 医療需要のピークとなる。このような背景の中, 今後は高齢で, 認知症, 重要多臓器機能障害など複雑な合併症を有する重症急性期疾患患者をいかに多く受け入れ, いかに効率よく短期間で自宅退院若しくは後方展開するかが重要な鍵となる。そのためには低侵襲な最先端医療を安全に提供し, 多職種によるチーム医療を推進し, 地域住民の方々に“明石に生まれ, 住んで良かった”とっていただけるよう安心, 安全な地域完結型の医療を提供していきたい。

一方で医療従事者における働き方改革にも目を向け対応していくとともに活発な診療活動を継続し, 利益確保するためには, 経費管理を強化するとともに, 医療の質を一層高めることが最重要課題となっている。

上記の方針を推進するために 2019 年度に重要視する項目として, 1) 高度急性期医療の追求 (低侵襲手術, 治療の新規導入, ロボット支援手術導入の検討), 2) よりスムーズな入退院や在院日数短縮を目指した入退院支援センターの充実, 3) 救急診療の更なる充実 (新たに救急科を立ち上げ), 4) 人材確保と人材育成の強化, 5) 新専門医制度への対応, 6) 周産期医療の充実による地域への貢献, 7) 認知症患者への対応強化, 8) 病院設備機器老朽化への計画的対策の実施, 9) 近隣医療機関や行政機関との連携の強化, 10) 法整備された働き方改革への対応, 11) 附属看護専門学校の機能強化, などを挙げる。

これら多岐に渡る課題を克服し, 安定成長期となった現在を打破し, 活発な診療実績と効率的で安定した収益構造を維持したい。

## 総合内科

### ■スタッフ紹介

主任部長：木南佐織

医長：石丸直人，世戸博之，中島隆弘，官澤洋平

医員：大西 潤，辻本泰貴，水木真平，金子昌裕

### ■診療内容

外来：内科初診外来は，総合内科指導医と研修中の後期研修医が中心となって担当し，プライマリケアの実践を行っている。再診外来は，生活習慣病などの慢性疾患や膠原病，精神疾患，難病に至るまで幅広く診療を行っている。

入院：石丸医師/中島医師，世戸医師/官澤医師を指導医とする2チーム制でチーム医療を行っている。指導医2名，後期研修医2～3名，初期研修医2～3名の構成で，屋根瓦式のチーム医療を行い，毎日カンファレンス・回診を行っている。

### ■2018年度のトピックス・実績

総合内科は，一般外来や救急外来を受診した幅広い内科疾患の対応及び入院患者のマネジメントを行っている。病歴聴取や身体診察を重視し，適切な検査を行い，総合的な診断・診療を実践し，全人的な医療を行っている。入院診療では，チーム医療による安全で質の高い医療を提供できるよう努めている。

2018年度は，新たに中島医師が指導医として加わり，特に感染症領域の診療のレベルアップに繋がった。

また他科からのコンサルト症例が増加し，特に整形外科は高齢者の骨折例など内科的管理を要する例が多く，総合内科が併診することで術後の合併症の軽減，入院期間の短縮に寄与している。また複数の問題点を抱える高齢者心不全の入院患者が増加した。救急診療の中心は後期・初期研修医が担っており，多職種参加型救急外来カンファレンスを定期的に行い，救急外来看護師，研修医，総合内科医が集まり，症例検討や救急診療に必要な知識のレクチャーを行っている。

医学教育・医師育成も当科の重要な役割であり，後期研修医による実践的なハンズオンの指導も含めたレクチャーや，初期研修医による症例提示，臨床的疑問を解決するClinical question，プロフェッショナルリズムを育てるため

のコンピテンシー（医師としての特性や能力）のレクチャー，グラム染色勉強会，英語論文を批判的吟味しながら読み解くジャーナルクラブ，後期研修医によるClinical jazz形式での新患外来症例の振り返り検討を定期的に開催している。また総合内科・プライマリケア領域の医学誌（ホスピタリストや病棟マニュアルなど）の分担執筆を当科スタッフが担当している。

臨床研究の実践にも力を入れ，臨床研究の指導は，2016年から和歌山県立大学下川敏雄先生，Ben Phillis先生を定期的に招聘し，下川先生には医療統計の講師として，Ben先生には英文抄録や英文論文の作成法や英文校閲・査読の講師として，当院の症例報告や臨床研究をサポートいただいている。現在石丸医師が主導の「急性上気道炎の咽頭痛に関する多施設RCT」，世戸医師，官澤医師が主導の「高齢者の誤嚥性肺炎・摂食嚥下機能評価」，大西医師が主導の「救急外来における血液培養の汚染率」をテーマに臨床研究を進めている。また国内外の医学誌に原著論文，症例報告が掲載された。

### ■今後の展望

#### 【診療の充実】

救急受け入れ数が増加しており，指導医，後期研修医のレベルアップにより，より幅広い疾患を受け入れ，診療の充実を図っていく。また高齢者患者が増加しており，地域や他職種の連携を密にし，高齢者診療に力を入れていく。2019年度には救急科が新設される予定となっており，救急診療の充実とその受け皿として，幅広い救急患者の入院受け入れを行っていく。

#### 【資格，キャリアパス】

2018年度から，内科専門研修プログラム・総合診療専門医養成プログラムの基幹病院として専攻医が研修を開始している。内科専攻医は必ず総合内科をローテートすることで，新専門医プログラムの必要症例の多くをカバーできる。

#### 【臨床研究の推進】

定期的に外部講師から臨床研究のサポートをいただき，質の高い臨床研究の実践を目指している。

表. 疾患の内訳

(単位:人)

疾患群	2018年度入院患者
感染症	205
呼吸器疾患	203
消化器疾患	74
糖尿病・内分泌疾患	124
膠原病・アレルギー疾患	66
血液疾患	23
循環器疾患	124
脳・神経疾患	63
腎・泌尿器系疾患	67
その他	151
合計(延べ人数)	1,100

# 呼吸器内科

## ■スタッフ紹介

副院長：大西 尚

部長：吉村 将，島田天美子，岡村佳代子

医長：畠山由記久

医員：二ノ丸 平，池田美穂，川口亜記，岩本夏彦  
高宮 麗，藤本昌大

## ■診療内容

外来：

明石市で唯一の呼吸器内科のある病院（癌専門病院を除く）として毎日呼吸器内科医による外来を行っている。2013年8月新病棟開設にあわせて呼吸器内科外来も1診体制から2診体制に増え、より多くの紹介患者に対応できるようになった。

入院：

呼吸器内科は本館5階病棟を主体に入院診療を行っている。入院診療は上記スタッフを中心になされるが、臨床研修制度のため卒後1～2年目の研修医も病棟診療に加わる。

当院は2006年度から後期研修医を募集しており、2018年度には呼吸器内科に3名の後期研修医が新たに加わった。

週2回（月，金曜日）にチャートカンファレンスで各症例のプレゼンテーション，ディスカッションを行い、その後病棟を回診している。

## ■2018年度のトピックス・実績

今までは内科・呼吸器内科として内科を全般的に診療し

ていたが、2015年4月より総合内科が新設されたため、より専門性をもって診療していくことが求められるようになった。しかし今後も専門性を伸ばしながらも特化しすぎず、「患者から学べ」をモットーにベッドサイド診療の重要性を指導し、幅広く診療を行うことを心掛けていく。

診療対象疾患としては、①肺炎をはじめとする呼吸器感染症、②肺癌の診断・治療、③びまん性肺疾患の診断と治療、④気管支喘息発作、COPD 急性増悪や気胸など呼吸不全に対する急性期治療、⑤肺気腫、間質性肺炎等による慢性呼吸不全に対する呼吸器リハビリテーション、在宅酸素療法の導入や在宅人工呼吸器療法の導入、⑥睡眠時無呼吸症候群に対する PSG 検査（2014年度から入院での CPAP 導入は中止）等が挙げられる（下表）。

2015年4月から医長以上のスタッフが2名から4名、2016年7月には更に1名が増員となり、診療面、教育面ともに体制が強化された。

病理解剖数は2018年度総数が14件、呼吸器内科からは5件であった。

## ■今後の展望

明石医療センター呼吸器内科は、明石市・加古川市を含む東播磨地域で唯一の呼吸器疾患全般を診療可能な科である。地域と連携し、軽症から重症まで幅広く診療することを心掛けている。例年呼吸器内科を志望する後期研修医が当院での研修を希望されており、今後も基幹病院としての呼吸器診療のみならず、呼吸器内科医を育てる教育病院としての任務を担っていく。

表. 診療実績

呼吸器内科入院患者数 (単位:人)							
年度	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
呼吸器内科入院患者数(延べ人数)	1,215	1,237	1,365	1,248	1,374	1,262	1,246
呼吸器疾患の内訳(人数は延べ人数) (単位:人)							
疾患	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
肺癌	334(109症例)	463(127症例)	492(128症例)	382(125症例)	376(143症例)	334(134症例)	352(133症例)
胸膜中皮腫	15	4(4症例)	23(6症例)	31(7症例)	5(4症例)	7(7症例)	5(5症例)
肺炎(肺化膿症含む)	220	191	210	240	247	242	199
胸膜炎, 胸水貯留(細菌性, 結核性など)	20	18	31	33	33	37	46
SAS(PSG/CPAP)	262(171/91)	169(116/53)	210(147/34)	88(88/0)	105(105/0)	113(113/0)	88(88/0)
間質性肺炎	65	92	92	79	121	127	119
慢性呼吸不全(COPD含む)	44	57	75	66	54	44	54
気管支喘息	51	33	61	47	63	52	47
気胸	56	71	57	45	73	72	58
喀血, 血痰など	~	~	~	35(28症例)	23(21症例)	19(19症例)	24(22症例)
その他	143	129	167	202	281	207	241
気管支鏡検査数 (単位:件)							
年度	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
304	305	370	347	329	429	415	424
局所麻酔下胸腔鏡検査数 (単位:件)							
年度	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
32	28	28	29	30	26	45	29

# 循環器内科／心臓血管・不整脈センター

## ■スタッフ紹介

副院長，部長：河田正仁

心臓血管・不整脈センター長，部長：足立和正

心臓血管・不整脈副センター長，部長：松浦 啓

部長：平山恭孝

医長：松浦岳司，黒田 優，松本晃典

医員：小平睦月，近都正幸，鈴木雄也

## ■診療内容

2018年度はスタッフ3名減であった(4月に1名，8月に2名)。平均入院患者数は昨年度から25名減少し，44名/日であった。入院医業収入は3,144,615,905円，前年比82%となった。外来医業収入は334,984,473円，前年比110%と増加した。入院患者数が減少した理由として，マンパワー不足，総合内科に80～85歳以上の侵襲的治療を要さない心不全患者管理を依頼したこと等が考えられる。PCI，PTA，診断冠動脈造影は減少したが，アブレーション，デバイス植え込み術，TAVIは順調に増加した。

## ■2018年度のトピックス・実績

インターベンション領域ではTAVIを42件，BAVを5件施行した。週2回AS-TAVIカンファレンス，不整脈カンファレンスを施行した。S-ICD，リードレスペースメーカーの植え込みも順調に行い，神戸市，淡路島，姫路市，西脇市などからも症例を受け入れた。レーザーを用いた

ACSのPCIをコンスタントに行った。ペースメーカーリード抜去(エキシマレーザー使用)は感染性の症例にとどまらず，非機能リードにまで及ぶようになり，明石市以外からの紹介も受け入れた。新たにHIS東ペースメーカー植え込みを開始し34件施行した。カテーテルアブレーションは全国29位，不整脈ショックデバイス植え込みは全国9位の症例数を誇る。学会発表として国内は日本循環器学会総会3題，CVIT総会5題，日本不整脈心電学会学術大会4題，カテーテルアブレーション関連秋季大会6題，植込みデバイス関連冬季大会3題の発表を行った。海外ではヨーロッパ心臓病学会での発表やアジア太平洋不整脈学会でのFaculty講演なども行った。論文は「心臓」に2編採択された。

## ■今後の展望

2019年4月から更に1名転出するが，野田 翼医長，宮崎裕一郎医員，藤岡知夫医員が赴任予定であり精力的に診療を行っていく。引き続き85歳以上で保存的加療を行う心不全患者の診療は総合内科に依頼し，心臓血管・不整脈センター，循環器内科としては，侵襲的治療を必要とする重症心不全，虚血，不整脈，弁膜症疾患の入院加療に重点を置き，カテーテルやデバイス治療の症例数増加を見込んでいく。特に不整脈，弁膜症分野においては東播磨地域にとどまらず，兵庫県全域を診療圏におけるように発展を目指す。

## 表. 活動実績

入院患者数(2018年度)	18,809名(前年比75%)
外来患者数(2018年度)	20,191名(前年比104%)
入院(2018年度)	¥3,144,615,905(前年比82%)
外来(2018年度)	¥334,984,473(前年比110%)

## 心臓カテーテル検査・治療件数(2018年) (単位:件)

項目	件数
CAG(冠動脈造影, PCI含む)	1,811
PCI(経皮的冠動脈形成術)	501
PTA(経皮的血管形成術)	156
経皮的大動脈弁バルーン拡張術治療件数(2018年度)	5
TAVI(経カテーテル的大動脈弁植え込み術)(2018年度)	42

## 不整脈検査・治療報告(2018年)

(単位:件)

項目	件数
心臓電気生理学的検査(アブレーション含む)	472
経皮的カテーテル心筋焼灼術(カテーテルアブレーション)	466
心房細動カテーテルアブレーション	329
ペースメーカー植え込み術	251
・徐脈用ペースメーカー	112
・リードレスペースメーカー	21
・HIS東ペースメーカー	34
・植え込み型除細動器(TV-ICD)	19
・完全皮下植え込み型除細動器(S-ICD)	6
・心不全用両室ペースメーカー(CRT-D/P)	59
植え込み型心電ループレコーダー(ILR)	32
ペースメーカーリード抜去	11

## 消化器内科

### ■スタッフ紹介

名誉院長：澤井繁明

副院長・消化器内視鏡センター長：吉田俊一

部長：名生諭史（2018年4月退職）

医長：門 卓生，安藤純哉，石田 司，古松恵介，  
佐々木一就，當銘成友（2019年4月着任予定）

医員：ベンスレイマン・ヤハヤ，生田由佳子，孝橋信哉，  
大西紘平，田中太郎，中井達也

専攻医：徳永貴史，瀧本 将（2019年4月着任予定）

### ■診療内容

2018年度は名生部長が退職し、池澤医師は神戸大学消化器内科の大学院に進学したため、実働スタッフの減少による診療活動低下があやぶまれたが、大学人事として石田医師の入職、3年目専攻医2名、2年目専攻医3名の留任・継続、1年目専攻医徳永医師の加入により、人員としては大きな後退を防ぐことができた。このため、2017年度を上回る積極的な診療活動、各医師の専門分野を生かした診療並びに専攻医に対する実践指導の強化に取り組むことができた。

入院診療は上記スタッフと専攻医、初期研修医のローテーターが担当した。各担当医は週1回病棟で多職種協働カンファレンスを実施し、毎週金曜日に部長回診を行った。外来診療は3診体制（月～金曜日）を維持し、腹部超音波検査にもスタッフ1名が出務することができた。診療部カンファレンスは、月曜日には主に新入院患者、金曜日は内視鏡治療と ERCP 関連症例の検討、外科との合同カンファレンスを行った。また、毎週水曜日には抄読会を継続して行っている。

内視鏡検査・治療の体制は上記スタッフに加え、非常勤医として赤松貴子医師が週3回（火・水・金曜日）、池澤伸明医師が週1回（木曜日）の内視鏡検査に加わっている。救急対応に関しては、日勤帯での救急当番体制を継続して迅速な対応を行い、夜間休日は内視鏡センター看護師の宅直体制にも支えられ、緊急内視鏡検査治療に対応するオンコール体制を365日実施した。

### ■2018年度のトピックス・実績

外来患者数 2,053 人/月（前年比 97.5%）、入院患者数 53.1 人/日（96%）、新入院数 165.4 人（102%）、平均在院日数 8.9 日（93.7%）であった。平均在院日数は 9.5 日から 8.9 日に短縮しているため、外来・入院患者の減少傾向であるが、初診数や新入院数は増加してきている。

内視鏡検査治療件数は、上部 6,928 件（102%）、下部 3,472 件（93.4%）、ERCP 関連 564 件（92.2%）で小腸内視鏡（バルーン内視鏡、カプセル内視鏡）、超音波内視鏡などを合わせた総件数は 11,286 件（98%）であった。

主な内視鏡治療として、上部消化管の内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）は 109 件（108%）、下部消化管の ESD 件数は 48 件（102%）であった。ERCP 関連では、高齢者の総胆管結石による急性閉塞性化膿性胆管炎や悪性腫瘍による閉塞性黄疸の増加により、乳頭切開術（EST）や胆管ドレナージ術（EBD）が増加している。とりわけ、胃全摘術や胆道再建術後の ERCP に関してバルーン内視鏡によるアプローチが急増しており、難易度が高い手技ではあるが、安全性を保ちながら経験数の増加に伴い乳頭部到達までの時間短縮や目的とする治療の達成率は向上してきている。また、胆膵疾患の診断に古松医師を中心として超音波内視鏡検査と細胞診・生検（EUS-FNA）を積極的に実施した。超音波内視鏡 322 件（118%）で、EUS-FNA も増加してきている。石田医師の加入により、消化管腫瘍の質的診断や内視鏡治療（ESD）手技の向上がスタッフ全体に浸透してきている。

対外的には愛仁会消化器カンファレンスの継続や明石市医師会消化器懇話会の開催に関与し、法人内や兵庫県や明石地域医療における連携強化に貢献することができた。学会活動においては、消化器病学会・消化器内視鏡学会の総会・地方会への発表参加を行った。また、神戸大学消化器内科が主導する国際交流を継承した石田医師が、フィリピンやチリでの内視鏡治療手技の指導やフィリピン医師団が当院を見学した際には病院紹介や内視鏡関連の講演を行って、明石医療センターの国際的認知に貢献することができたことは、特筆すべき活動であった。

## ■今後の展望

2019年度においては、當銘成友医師が加古川中央市民病院より異動・着任し、指導的スタッフ層を充実させることが可能となり、内視鏡治療を中心とした消化器診療の質的向上を進めていくことが期待される。また、専攻医1年目の瀧本将医師が着任し、専門医への新たな道を進むことになる。一方、専攻医2年目の徳永貴文医師は高槻病院に1年間出向することとなった。非常勤医師体制（主に内視鏡診療）も充実し、池澤医師が月曜日担当にまわり、新たに神戸大学消化器内科学院の坂口博哉医師が加わって木曜日に勤務することになった。

今後とも神戸大学消化器内科との関係強化を図りながら、人員戦力的な低下を来さず診療実績を更に増加させることが課せられた任務となる。診療内容自体の向上に向けた取り組みを行っていくための体制の整備（非常勤医師による応援体制、「働き方」の在り方など）と消化器内科診

療の専門性の深化、救急・急性期診療の拡充が必要となる。働き方改革に伴うスタッフ各自の負担軽減が課題となっており、平均在院日数が短縮されていく中で、初診患者や救急診療患者の増加をいかに図っていくかが課題となる。

今後も、特殊検査(BAE, EUS-FNA)と内視鏡治療(ESD, ERCP)の強化・件数増加に取り組んでいくが、その際には、経年劣化の内視鏡の新規・更新、並びに内視鏡機器システムの性能向上に向けた更新(VPPシステム更新)は不可欠となる。また、内視鏡検査における鎮静剤使用件数は増加の一途をたどっており、安全性を確保しながら業務負担の軽減と効率化を図っていくために、ストレッチャー方式による検査室とリカバリールーム間の移動方法を導入していく計画であり、リカバリールームの活用法と内視鏡センター全体の運用の見直しを行っていく予定である。

表 1. 入院診療活動実績

	2016年度	2017年度	2018年度
延患者数(人)	19,020	20,213	19,375
月平均(人)	1,585	1,685	1,615
1日平均(人)	52	55.3	53.1
新入院(人)	156	163	165.4
平均在院日数(日)	9.4	9.5	8.9

表 2. 外来診療活動実績

	2016年度	2017年度	2018年度
延患者数	24,600	25,283	24,639
月平均	2,050	2,107	2,053
1日平均	102	103.6	101.2
初診者数	409	414.8	411

表 3. DPC データによる入院患者（部位別疾患）

	2016年度	2017年度	2018年度
食道	133	149	94
胃・十二指腸	201	235	303
大腸	512	540	538
肝臓	152	264	177
胆道・膵臓	347	439	521
その他	434	369	253
総計	1,779	1,996	1,886

表 4. DPC データによる主な入院疾患

	2016年度	2017年度	2018年度
胃潰瘍	94	92	88
胃がん	107	119	159
炎症性腸疾患	240	250	228
憩室疾患	104	134	131
腸閉塞	113	150	147
大腸がん	86	77	84
慢性肝炎	134	214	156
胆のう・胆管炎	288	344	323
肝・胆道がん	156	137	151
急性・慢性膵炎	75	94	73
膵がん	74	76	81

表 5. 内視鏡実施件数

	2016年度	2017年度	2018年度
上部消化管	6,652	6,770	6,928
下部消化管	3,580	3,718	3,472
胆膵内視鏡	600	612	564
超音波内視鏡	256	274	322
内視鏡総件数	10,832	11,509	11,286

表 6. 主な内視鏡検査・治療件数

	2016年度	2017年度	2018年度
上部消化管総数	6,652	6,770	6,928
食道静脈瘤治療	76	78	98
止血術	136	144	157
ESD	104	101	109
胃瘻造設	66	71	51
下部消化管総数	3,580	3,718	3,472
大腸EMR	1,114	1,062	1,108
大腸ESD	47	47	48
ステント留置	21	23	25
大腸止血術	51	44	52
胆膵内視鏡総数	600	612	564
EST	516	523	517
EBD	270	286	298
超音波内視鏡総数	256	274	322
EUS-FNA	38	42	43
嚥下内視鏡	104	145	87
内視鏡総件数	10,832	11,509	11,286

## 糖尿病・内分泌内科

### ■スタッフ紹介

千原和夫（主任部長 1945 年卒）

### ■診療内容

2017 年 4 月より新規の診療科として開設され、初年度は隅田健太郎医長と小職の 2 名の専門医体制で、診療体制の整備に尽力したが、2 年目に当たる今年度は、隅田医師が留学準備のため当院を退職し、専門医は小職の 1 名となった。マンパワー不足は否めず、毎週火曜日の外来診療は神戸大学から派遣された非常勤医師（藤田泰功医師）に依頼し、木曜日の糖尿病・内分泌疾患専門外来を小職が担当した。入院が必要な患者の担当医は総合内科の診療担当チームにお願いし、必要に応じて小職がチームに指導医として加わり、診断や治療方針の立案に意見を述べた。個々の入院症例について、総合内科の担当医と日々診療内容に関する情報を共有するとともに、初年度より実施してきた毎週月曜日の糖尿病・内分泌カンファレンスで、総合内科の医師達と、正確な診断及び中長期的な診療方針を含めて、より奥の深い議論を行ってきた。初年度に比べて糖尿病の知識、インスリン治療の手技を習得することが主な目的の教育入院は半減し、教育だけでなく早急なインスリン治療が必須の加療目的の入院が主流となった。また、当院の救急患者を断らない方針を反映して、予定入院以外に救急外来から不定期に入院される患者の中に、糖尿病性ケトアシドーシス（DKA）や高浸透圧高血糖症候群（HHS）といった手遅れになると生命に危険が及ぶ緊急対応が必要な疾患が少なからず含まれており、総合内科診療チームとともにそれらの患者の治療にあたった。また、外科系の診療科より術前及び周術期の血糖調節の依頼件数も増加した。明石地区には、今まで内分泌代謝科専門医が居なかったためか、内分泌疾患が疑われる症例は神戸あるいは加古川方面に紹介されていたとのことであるが、当院に内分泌疾患の診療体制が整ったことが口コミやインターネット情報で広まり、紹介患者数が右肩上がりに増えてきている。内分泌疾患患者の入院目的には、診断や治療方針決定のための検査入院に加えて、研修医にとって必須とされている内分泌疾患の診療経験を積ませる目的も含まれており、研修医からは大学病院以外ではなかなか経験できない内分泌疾患の診療ができることが有難いとの声も聴いている。医

師のマンパワー不足を補って余りある多職種からなるチーム医療は定着してきている。糖尿病認定看護師が担当する療養支援、フットケアや腎症重症化予防の指導を行う糖尿病療養指導外来、管理栄養士が熱心に対応してくれている栄養指導等の他に、糖尿病教室（月 2 回）や教育入院患者の教育指導の内容に関しては、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師が分担執筆し作成した冊子を入院患者個々に渡し、各職種の担当者が患者本人に直接面談し、冊子の内容を確認しながら個別に熱心に指導している。また、内分泌疾患の診断に必須の内分泌学的負荷試験に関して、外来で行えるものは外来で行えるように整備しているが、静脈ラインの確保や経時的採血などは看護師が担当してくれ大いに助かっている。

### ■2018 年度のトピックス・実績

診療科新設に当たって目標としていた日本内分泌学会の認定教育施設の資格が取得できた。昨年度取得できた日本糖尿病学会認定教育施設（I）の資格と併せて、糖尿病・内分泌代謝領域の専門医資格取得を目指す若手医師にとって必要な 2 つの認定教育施設基準をクリアしたことになる。この 2 つの認定教育施設資格を持つ病院は少なく、東播磨では県立加古川医療センターと本院のみである。学会活動としては、第 91 回日本内分泌学会学術総会、第 28 回臨床内分泌代謝 update、第 55 回日本糖尿病学会近畿地方会、第 45 回日本神経内分泌学会に参加し、特別講演の演者や座長を務めた。外来糖尿病管理患者数は総合内科担当分も合わせて 1,478 名（昨年 1,402 名）、入院糖尿病患者数は 66 名（昨年 199 名）、内分泌疾患の診療においては、甲状腺疾患 454 名（昨年 108 名）、副腎疾患 113 名（昨年 20 名）、下垂体疾患 49 名（昨年 12 名）、副甲状腺・カルシウム骨代謝疾患 65 名（昨年 10 名）と患者数が増加していた。

### ■今後の展望

まず、大学との人事交流を図る中で複数医師による診療体制を確立したい。その上で、糖尿病・内分泌疾患の診療のレベルをより高める努力を続けたい。診療体制の充実には、専門知識と経験を持つ医師の確保は勿論であるが、専門性を持つ多職種のスタッフから構成されるチーム全体のレベルアップも重要であり、それにも尽力したい。



# 腎臓内科

## ■スタッフ紹介

### 【常勤医師】

米倉由利子（2003年卒）：日本内科学会認定医，総合内科専門医，日本透析医学会専門医，日本腎臓学会専門医・指導医

大田健人（2012年卒）：日本内科学会認定医，日本腎臓学会専門医

藤田直志（2013年卒）：日本内科学会認定医

隈元宣行（2016年卒）

### 【非常勤医師】

西 慎一：神戸大学医学部腎臓内科 教授

河野圭志：神戸大学医学部腎臓内科 特定助教

平林 顕：神戸大学医学部腎臓内科 医員

## ■診療内容

目標：

- ・腎臓病の早期発見，進行予防
- ・腎代替療法への安全な移行
- ・維持透析患者の透析管理
- ・移植医療への橋渡し

### 1) 腎炎検査・治療

#### ①経皮的腎生検

腎生検適応となる病態は，慢性糸球体腎炎やネフローゼ症候群，急速進行性糸球体腎炎が多いがアミロイドーシスなど全身性疾患が同定されることもある。高齢化，抗血栓薬使用など腎生検困難例も増えており，適応，危険性を慎重に見定めた上で，積極的に腎生検による病理診断を行うように心掛けている。

#### ②腎炎治療

- ・IgA 腎症（活動性の高い症例）：ステロイドパルス療法（±扁桃摘除）
- ・ネフローゼ症候群：ステロイド・免疫抑制療法，アフエレスシス治療
- ・急速進行性糸球体腎炎・膠原病：ステロイド・免疫抑制療法，アフエレスシス治療

### 2) 特殊な腎疾患の診療

- ・常染色体優性多発性嚢胞腎に対するトルバブタン治療
- ・ファブリー病に対する酵素補充療法

### 3) 慢性腎臓病診療

慢性腎臓病教育入院（7日間）では，①腎疾患の病態評

価，②心血管合併症の評価，③慢性腎臓病合併症（骨ミネラル代謝異常，腎性貧血）の管理，④教育，を行っている。主治医団，病棟・透析室看護師，薬剤師，栄養士による多職種カンファレンスを行い，患者ごとに方針を検討し・共有する。

CKD 外来（看護師外来）で医師の診療と並行して，継続的な腎臓病教育及び腎代替療法に関する情報提供を行っている。生活面での問題点や患者の不安を明らかにし，医師へのフィードバックや栄養指導への橋渡しを行っており，CKD 診療における不可欠な存在である。

腎代替療法選択においては，腎移植の説明も行い，腎移植希望症例は適切な時期に移植医（神戸大学病院泌尿器科など）へ紹介する。生体腎移植により腎生着を得た患者が複数名おり，現在移植待機中の患者もいる。

### 4) 腎代替療法，血液浄化

#### 【血液透析，緊急透析，アフエレスシス治療】

血液透析：月水金曜日 2クール，火木土曜日 1クール

入院透析患者の迅速な受け入れ，入院中の全身管理の向上を目指している。

急性腎障害，薬物中毒，敗血症性ショック時などは主治医と適応につき協議しながら，積極的に適切なタイミングでスムーズに持続血液透析やアフエレスシス治療を行えるように心掛けている。

#### 【腹膜透析】

腹膜透析外来：火・木曜日 午後

2018年度末 腹膜透析患者数 12名（うち血液透析，腹膜透析併用療法 4名）。

#### 【2018年度の血液浄化治療実績】

血液透析総回数 4,990回

顆粒球吸着 35回

エンドトキシン吸着 8回

腹水ろ過濃縮 10回

持続血液透析（持続血液濾過透析を含む） 52症例

## ■2018年度のトピックス・実績

### 【トピックス1：全身性血管炎の治療の工夫】

ANCA 関連血管炎の症例では，強い免疫抑制治療のために感染症をはじめとした治療関連合併症が問題になる。近年，患者の高齢化に伴い合併症の問題は更に大きな課題となっている。従来から用いていた，免疫抑制剤（シクロスポリン，シクロフォスファミド，ブレディニン）に加え

て、リツキシマブを積極的に使用することにより、血管炎の病勢を十分にコントロールした上で、ステロイドの早期・確実な減量が実現できるようになってきた。

【トピックス 2：腎臓病療養指導士】

2017年度、日本腎臓学会、腎不全看護学会、日本栄養士会、日本腎臓病薬物療法学会により腎臓病療養指導士制度が設立された。当院では2017年度に2名（看護師、栄養士）、2018年度に2名（看護師、薬剤師）が研修を終えて試験に合格し、慢性腎臓病診療の現場で活躍している。

【トピックス 3：体組成分析装置の導入】

慢性腎臓病患者における体液量評価のために体組成分析装置を導入した。透析患者の諸病態に応じた至適なドライウエイト設定や、筋肉量評価、患者指導において活用している。

■今後の展望

①かかりつけ医との連携による腎臓病診療の充実

②透析診療の拡充

（ア）通院維持透析患者のサルコペニア対策、合併症管理

（イ）腹膜透析患者の維持（新規導入数増加、長期管理）

③腎炎、ネフローゼ症候群診療の充実

（ア）早期発見・診断・治療介入のための啓蒙

（イ）寛解導入率の向上、合併症の軽減を目指した治療

④学術活動

（ア）多施設共同臨床研究の継続

（イ）学会発表、論文執筆の活性化

# 小 児 科

## ■スタッフ紹介

副院長，主任部長：横山直樹（1988年卒）

部長：梁川裕司（1990年卒）

部長：権東雅宏（1992年卒）

医長：高野 勉（2002年卒）

医長：大西徳子（2007年卒）

医員：藤井順子（2012年卒）

非常勤医師他：藤井栄一（神経外来），吉川徳茂（腎外来）

亀井直哉（心臓外来：兵庫県立こども病院）

石河慎也（神戸大学医学部附属病院）

松本千佳（臨床心理士）

- ・百々医師が神戸市立西市民病院に異動
- ・梁川医師が県立柏原病院より着任
- ・大西医師が加古川中央市民病院より着任
- ・小児科常勤医師は昨年度より1名増え6名体制
- ・臨床心理士を新たに採用

## ■診療内容

専門外来：1か月健診，シナジス外来，心臓外来

腎外来，神経外来，発達検査，心理相談

小児入院：混合病棟（外科，婦人科）小児10床

新生児入院：NICU6床，GCU10床

新生児特定集中治療室管理料2算定

救急外来：東播磨臨海小児二次救急輪番体制

第2・3・5木曜日（明石市内のみ）

院外：明石市乳幼児健診，学校心臓検診，就学相談

## ■2018年度のトピックス・実績

<診療>

- ・兵庫県地域周産期母子医療センター  
明石・西神戸地域の分娩施設と連携し，加古川中央市民病院とともに東播磨地域の周産期医療を実践

<実績（表1～3）>

- ・患児紹介受け入れ件数：昨年度並み（1,194→1,194）
- ・一般小児入院数：昨年度の1.6倍（409→664↑）
- ・新生児入院数：昨年度並み（598→592）
- ・院外新生児搬送入院数：昨年度より減（78→69）
- ・早産児，低出生体重児の入院数：在胎35週未満（30→

23），出生体重2,000g未満（29→24）といずれも昨年度より減

- ・人工呼吸管理件数：昨年度より減（33→23）
- ・発達検査29件，心理相談29件（小児26，産科3）
- ・心理士病棟訪問（延べ件数）：NICU275，産科121，小児6

<教育>

- ・初期研修医：小児科研修7名
- ・後期研修医：1名（高槻病院小児科専門医研修プログラム，3か月間）
- ・総合内科医：総合診療専門医のための小児科研修（1名）

<院内開催>

第6回新生児蘇生法Aコース講習会 2018年5月26日  
インストラクター：高野医師，小島看護師，神足助産師

第7回新生児蘇生法Aコース講習会 2018年11月10日  
インストラクター：高野医師，神足助産師，森野助産師

第1回新生児蘇生法Sコース講習会 2019年2月16日  
インストラクター：横山医師，小島看護師，神足助産師，森野助産師

<院外開催>

明石医療センター地域医療連携の会 2018年9月13日  
地域周産期母子医療センターとして  
～明石の周産期医療の現状～ 横山医師

明石地域 学校保健セミナー 2018年11月10日  
1. 成長曲線からみえるもの 2. 肥満がどうして悪い  
梁川医師

## ■今後の展望

○小児・周産期医療の拡充

- ・地域周産期母子医療センターとしての機能維持  
ハイリスク分娩・新生児に対する受け入れ強化
- ・夜間休日応急診療所との連携
- ・新設される明石児童相談所との連携

・小児科医師数の維持・増員

○小児科専門医の育成

- ・専門医研修プログラムの連携施設として，ローテ後期研修医を積極的に受け入れ，教育・指導を実践

表 1. 新生児入院数（週数・体重別）

		(単位:件)	
在胎週数	計	出生体重	計
28～29週	0	1,000～1,499g	2
30～31週	5	1,500～1,999g	22
32～34週	18	2,000～2,499g	96
35～36週	55	2,500～3,999g	468
37週～	516	4,000g～	6
計	594	計	594

表 2. 新生児入院（疾患別）

			(単位:件)
疾患名	症例数	注記	
新生児黄疸	112	ABO不適合、重症黄疸含む	
帝王切開児症候群	105		
新生児一過性多呼吸	86		
早産児	59		
低出生体重児(在胎37週以降)	53	極低出生体重児含む	
糖尿病合併母体児	32	妊娠糖尿病含む	
新生児感染症	30		
新生児嘔吐	22		
無呼吸発作	20		
先天性心疾患	9	VSD, ASD, TGA, TOF	
母体前期破水の児	8		
新生児仮死	6	重症仮死含む	
胎便吸引症候群	6		
新生児出血症	6		
甲状腺疾患合併母体児	3		
小児外科疾患	3	鎖肛, ヒルシュスブルグ病, 重複腸管	
向精神薬内服母体児	3		
巨大児	3		
染色体異常	2	21トリソミー, 18トリソミー	
抗痙攣薬内服母体児	2		
不整脈	2		
HBVキャリア母体児	2		
Rh(-)母体児	2		
脳神経外科疾患	2	髄膜瘤, 水頭症, 頭蓋骨陥没骨折	
胎児母体間輸血症候群	1		
口唇口蓋裂	1		
先天喘鳴	1		
新生児発熱	1		
低体温症	1		
その他	11		
合計	594		

他院からの新生児搬送	69件
双胎	18組
DPAP管理	39件
挿管管理	23件
高次医療機関への転院分娩件数	9件(加古川中央市民5, こども病院4)
	910件

表 3. 一般小児入院（疾患別）

			(単位:件)
疾患名	注記	計	
呼吸器系感染症			
肺炎		89	
気管支炎	※RSV, hMPVを除く	63	
RSV感染症		93	
hMPV感染症		21	
クループ症候群		10	
急性上気道炎	※付き添い入院例を含む	27	
扁桃炎	※扁桃周囲膿瘍1名含む	8	
百日咳		2	
ヘルパンギーナ		1	
咽後膿瘍		1	
中耳炎		4	
		319	
消化器系感染症			
感染性胃腸炎	※ロタ, ノロ診断例を除く	39	
ロタウイルス感染症		24	
ノロウイルス感染症		13	
細菌性腸炎	※回腸末端炎含む	8	
腸間膜リンパ節炎		2	
虫垂炎		2	
		88	
その他感染症			
尿路感染症		16	
化膿性リンパ節炎		3	
蜂窩織炎・伝染性膿痂疹・皮下膿瘍		6	
無菌性髄膜炎		1	
EBV感染症	※CMVとの混合感染症例	1	
溶連菌感染症		7	
単純ヘルペスウイルス感染症	※カポジ水痘様発疹1名含む	1	
アデノウイルス感染症		7	
水痘・帯状疱疹		3	
熱源不明発熱	※hPaV疑い1名	6	
菌血症	※優優性肺炎球菌感染症	1	
インフルエンザ		12	
		64	
アレルギー・血管炎関連			
気管支喘息		29	
川崎病		37	
IgA血管炎(ヘノッホ・シェーンライン紫斑病)		4	
アナフィラキシー		4	
アトピー性皮膚炎		1	
食物アレルギー	※負荷試験	12	
		87	
神経・精神関連			
熱性痙攣		24	
胃腸炎関連痙攣		1	
無熱性けいれん・てんかん		4	
弛緩性麻痺		1	
		30	
消化器関連			
腸重積症		4	
急性腸炎		1	
胆管炎	※胆道閉鎖症葛西術後症例	1	
肝機能障害		2	
鼠径ヘルニア		1	
		9	
内分泌・代謝関連			
アセトン血性嘔吐症	※周期性嘔吐症含む	11	
低身長	※負荷試験入院	10	
副腎クリーゼ		1	
思春期早発症	※負荷試験入院	1	
中枢性尿崩症	※負荷試験入院	2	
ケトン性低血糖症		1	
		26	
血液・腫瘍関連			
二次性血小板増多症		1	
自己免疫性好中球減少症		1	
特異性血小板減少性紫斑病		1	
		3	
腎・泌尿器関連			
ネフローゼ症候群	※再発例含む	3	
IgA腎症		2	
慢性腎炎		1	
急性糸球体腎炎	※疑い例含む	2	
		8	
新生児関連			
新生児嘔吐		1	
体重増加不良		2	
新生児発熱		5	
新生児黄疸		8	
		16	
その他			
先天性心疾患	※大動脈肺動脈窓	1	
熱中症		2	
PFAPA症候群		1	
乳児嘔吐		1	
睡眠時無呼吸症候群		1	
環軸椎回旋位固定		2	
脊髄動静脈奇形		1	
失神		1	
単純性股関節炎		1	
乳児体重増加不良		1	
ワクチン副反応		2	
		14	
合計		664	

# 放射線科

## ■スタッフ紹介

主任部長 鷲尾哲郎

部長 牛尾啓二

非常勤 山口雅人 神戸大学放射線科准教授

## ■診療内容

CT, MRI, RI の読影が主な業務であるが、肝癌の治療としての TACE, 消化管出血, 喀血の止血, CT ガイド下生検, ドレナージ, 心臓血管外科との大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術などの IVR も行っている。

## ■2018 年度のトピックス・実績

MRI の増設もあり、読影件数は過去最高を更新した。  
IVR 件数は微減であるが、高い水準を維持している。

## ■今後の展望

MRI の増設が 8 月であったため、次年度の読影件数は増加が見込まれる。

表 1. 読影件数

項目	件数
消化管透視	293
CT	19,644
MRI	5,004
RI	154

表 2. IVR 件数

項目	件数
血管系(ステントグラフトなど)	53
TACE	47
止血(消化管出血, 喀血)	12
BRTO	1
CTガイド下生検, ドレナージ	29
その他	21
計	163

# 病理診断科

## ■スタッフ紹介

主任部長：佐野暢哉（病理専門医，細胞診専門医）  
 非常勤医：廣瀬隆則（病理専門医，細胞診専門医）  
 仙波秀峰（病理専門医，細胞診専門医）  
 大西隆仁（病理専門医）  
 中井登紀子（病理専門医，細胞診専門医）  
 細胞検査士：小段敦美，堀 志穂，梶山和樹，佐川聖羅  
 非常勤細胞検査士：渡邊美紀

## ■診療内容

組織診断：診断所要時間短縮，画像所見提示を目的として，Day Pathology の実施，免疫組織化学染色の院内処理，術中迅速診断，電子カルテ・病理診断システムに支援されたデジタル画像の提示を実施している。

専門性の異なった習熟度の高い非常勤病理医を確保し，診断精度，速度ともに高いレベルで維持されている。

また，腎生検，膵生検，EBUS 実施時，技師によるベッドサイドサポートを行っている。

細胞診断：後述のダブルチェック体制をとり，疑陽性以上症例の細胞像を電子カルテ上に提示している。

Liquid base cytology を導入し，検体処理・診断所要時間の短縮，診断再現性の向上，DNA 遺伝子検査への応用を図っている。

病理解剖：全例 CPC にて提示し，研修医等，医療スタッフ教育に貢献している。

研修医教育：上記 CPC に加えて，個々の症例のコンサルト，報告を通じて病理，細胞診断に関する教育を行っている。

精度管理：組織診断は生検例，手術例ともほぼ全例，細胞診断は全科疑陽性以上の全例，婦人科材料以外の陰性全例につき指導医によるダブルチェックを行っている。診断困難例，疑問例については，兵庫県立がんセンター，神戸大学，徳島大学，奈良医科大学，札幌医科大学，神鋼病院等にコンサルテーションを行っている。

## ■2018年度の現状・今後の展望

組織診断に関しては，検体数はほぼ横這いであったが，乳腺外科休止の影響によりブロック数は減少した。高難易度手術例の増加，分子治療の導入に伴い，免疫組織化学染色，遺伝子検査の増加傾向が予測される。

細胞診に関しては，検体数，プレパラート数とも微増した。

今後 Windows XP にて運用されている診断システムの更新，遺伝子検査対応を含めた周辺機器の刷新，病理医の育成，常勤病理医の複数化が急務と考えられる。

表 1. 組織診断数，細胞診断数，解剖数の年別推移

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
組織診断	1,908	2,482	4,161	5,620	5,466	5,387	5,595	5,337	5,585	5,786	5,757	5,773
細胞診断	3,983	4,782	5,314	5,195	5,262	5,574	6,129	6,382	6,890	6,921	6,636	6,481
解剖件数	14	11	21	8	10	11	11	7	12	14	8	9

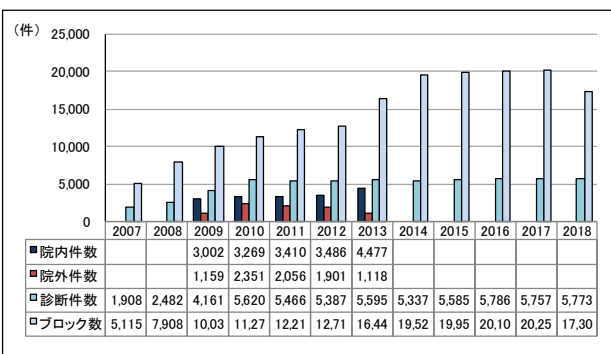


図 1. 組織診断数年次別推移

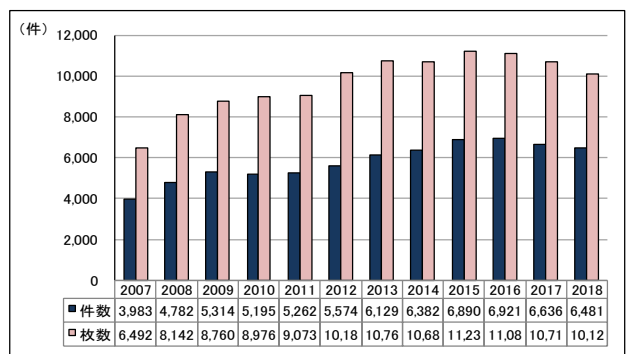


図 2. 細胞診断数年次別推移

# 外科

## ■スタッフ紹介

外科主任部長 小管浩文, 外科部長 常見幸三  
 外科部長 小南裕明, 外科医長 水田憲利  
 外科医長 福田善之, 外科専攻医 安藤正恭  
 後期研修医 (2年目) 高成田祐希  
 後期研修医 (1年目) 中西 崇

## ■診療内容

2001年開院初年度の全手術件数は230件であったが、以後は順調に増加し2016年度には1,000件を超えた。

しかし2018年度は乳腺科が廃止となり手術件数は減少し全手術件数は約800件であった。当科は1年365日常時緊急手術に対応しており2018年度の夜間・休日時間外の緊急手術数は88件あり全体の11%であった。

## ■2018年度のトピックス・実績

近年の傾向として腹腔鏡下手術が増加しており2018年度においても切除ができた大腸癌100例のうち61例が腹腔鏡下手術症例である。その他鼠径ヘルニアや急性虫垂炎、イレウス等の手術にも適応を広げている。学術面においては水田が日本消化器外科学会で発表を行い、海外誌に論文を発表した。学会資格に関しても水田が消化器外科専門医外科専門医の資格を取得した。

## ■今後の展望

近年、低侵襲手術がほぼ標準術式と考えられるようになっており、消化器外科の領域でも腹腔鏡下手術の適応拡大は欠かせない課題である。今後はロボット支援手術の導入を視野に準備していきたい。

表. 外科手術症例数

(単位:例)

胃癌	胃全摘術		12
	腹腔鏡下胃全摘術		0
	噴門側胃切除術		0
	幽門側胃切除術		23
	腹腔鏡下幽門側胃切除術		6
胃間葉系腫瘍	胃部分切除術		2
	腹腔鏡下胃部分切除術		1
上部消化管穿孔	穿孔部閉鎖合術・大網充填術		13
幽門狭窄	胃空腸吻合術		8
大腸癌	結腸癌	結腸切除術	27
		腹腔鏡下結腸切除術	41
	直腸癌	低位前方切除術	6
		腹腔鏡下低位前方切除術	20
		腹会陰式直腸切斷術	6
		経肛門的腫瘍切除術	3
	ハルトマン手術	6	
その他大腸手術	人工肛門造設術・閉鎖術		13
	良性腫瘍手術・S状結腸軸捻手術など		12
胆石症	胆嚢結石	開腹胆嚢摘出術	18
		腹腔鏡下胆嚢摘出術	160
	総胆管結石	総胆管切石術	0
肝癌	肝葉・区域切除術		1
	部分切除術		8
	マイクロターゼ・RF焼灼術		1
胆嚢癌	拡大胆嚢摘出術		4
膵癌	膵頭十二指腸切除術		5
	膵体尾部切除術		3
腸閉塞	腸切除術・イレウス解除術		39
	腹腔鏡下イレウス手術		2
下部消化管穿孔	汎発性腹膜炎手術		17
その他開腹術	試験開腹術など		4
急性虫垂炎	虫垂切除術		60
	腹腔鏡下虫垂切除術		6
鼠径・腹壁ヘルニア	ヘルニア根治術		118
	腹腔鏡下ヘルニア手術		30
肛門部手術	痔核・痔瘻根治術, 直腸脱手術		6
その他手術	全麻・局麻下腫瘍摘出術など		77

# 心臓血管外科

## ■スタッフ紹介

院長：戸部 智（心臓疾患，血管外科担当）  
 主任部長：林 太郎（心臓疾患，血管外科担当）  
 センター長：岡本一真（低侵襲心臓血管手術担当）  
 医 長：三里卓也（心臓疾患，血管外科担当）  
 医 長：杉山博信（心臓疾患，血管外科担当）  
 医 員：渡邊俊貴（心臓疾患，血管外科担当）  
 医 員：当 廣 遼（心臓疾患，血管外科担当）

## ■診療内容

心臓疾患：虚血性心疾患，弁膜症（大動脈弁，僧帽弁，三尖弁等）  
 大動脈疾患：急性，慢性大動脈解離，真性胸部，腹部大動脈瘤  
 末梢血管疾患：急性，慢性動脈閉塞，閉塞性動脈硬化症，  
 末梢動脈瘤，下肢静脈瘤，血液浄化におけるシャント作製など

## ■2018年度のトピックス・実績

循環器内科，その他関連部署と結成したハートチームにて，既に経カテーテル的大動脈弁挿入術（TAVI）を開始しており，順調に症例を積み重ねている。さらに，近隣に先駆けてカテーテル式補助人工心臓（IMPELLA）も導入

し，最新で最適な治療を受けていただける体制が整った。

2018年度の心大血管手術症例数は209例であり，昨年度同等の症例数を維持できた。各症例で見ると，高齢化社会を反映して，心臓大血管領域では大動脈解離や大動脈瘤などの動脈硬化疾患が増加している。その他，大動脈弁狭窄症・僧帽弁閉鎖不全症などの心臓弁膜症手術症例も増加した。心臓血管低侵襲治療センターでは TAVI 以外にも，右小開胸下僧帽弁・三尖弁手術・メイズ手術や，胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術，下肢静脈瘤に対するラジオ波血管内焼灼術を施行しており，適応があれば積極的に取り入れている。

## ■今後の展望

心臓血管外科は引き続き常勤6名体制を維持できた。今まで同様，近隣病院より緊急手術依頼はすべて受け入れる方針である。特に明石市民病院・神戸掖済会病院（垂水区）とは定期的に紹介患者カンファレンスを開催し連携を強く維持していく。2018年度も心臓・胸部大血管手術は200例超と高水準であり，今後もこれを維持していきたい。2019年度も引き続き，実直に症例を重ねて地域の信頼を維持していきたいと考えている。

表. 手術症例数

心臓外科 (単位: 件)		後天性心疾患・胸部大動脈瘤その他 (単位: 件)				虚血性心疾患 (単位: 件)		不整脈に対する手術 (Mazeなど)	
先天性心疾患		弁膜症	総数	弁形成	CABG併設	単独CABG	off pump CABG	動脈グラフト使用例	収縮性心膜炎に対する手術
ASD	3	Aortic	50	2	3	26	2	2	0
ASD+PS		Mitral	29	24	2				1
ASD+PAPVR		Tricuspid	3	1	0				1
VSD		A+M	3	3	1				5
VSD+PS		A+T	5	0	0				
VSD+AR		M+T	17	14	0				
VSD+MR		A+M+T	4	2	1				
VSD+2ch.RV		その他(Pなど)	0	0	0				
PDA									
ECD									
CoA complex									
IAA complex									
T/F									
PA with VSD									
PA with IVS									
DORV									
Taussig-Bing									
TGA									
TAPVR									
Single Ventricle									
Tricuspid atresia									
Mitral atresia									
HLHS									
AS and/or AR									
MS and/or MR									
Rupt aneurysm of Sinus Valsalva									
Others (cyanotic)									
Others (non-cyanotic)									
計	3								

血管外科 (単位: 件)		大動脈										末梢動脈																						
疾患名と術式	計	非解離	上行	弓部	下行	胸部	腹部	ステント留置	解離性	Stanford A (急性期)	Stanford B (慢性期)	Stanford B (急性期)	Stanford B (慢性期)	嚙み潰	ステント留置	末梢動脈瘤	急性動脈閉塞	血栓除去	血行再建術	その他・切開	閉塞性動脈硬化症など	血行再建	交感神経切除	ステント・拡張	その他・切開	動脈瘤	下肢静脈瘤	血管内焼灼術	ストリッピング	結紮術	深部静脈血栓症	内シャント	その他	計



# 呼吸器外科

## ■スタッフ紹介

田内俊輔（主任部長）

内田孝宏（医員）

## ■診療内容

原発性肺癌，転移性肺腫瘍などの胸腔内の腫瘍性疾患，  
気胸，膿胸などの胸腔内病変，縦隔・胸壁疾患等に対して  
主に手術療法を行う。

## ■2018年度のトピックス・実績

昨年度と同様2名体制で診療を行っている。昨年度と比較するとやや症例数，特に原発性肺癌手術数が減少した。肺癌手術は呼吸器外科手術の要であり，地域との連携を密に行い症例数の確保に努めたい。

## ■今後の展望

胸腔鏡手術を含む低侵襲手術から，心臓血管外科をはじめとした他科との連携を含む拡大手術まで行っている。今後も幅広い患者層の受け入れを行っていききたい。

表. 手術実績

(単位:件)

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
原発性肺癌 (うち胸腔鏡下手術)	55 (50)	59 (54)	83 (74)	70 (60)	52 (42)
転移性肺腫瘍	6	8	4	6	5
縦隔腫瘍	4	10	4	5	4
胸膜・胸壁腫瘍	3	2	1	2	4
気胸	28	25	29	42	47
感染性疾患(膿胸など)	4	9	7	6	14
その他	19	14	14	24	11
計	119	127	142	155	137

# 整形外科

## ■スタッフ紹介

整形外科スタッフとしては、松島リハビリ主任部長、伊藤整形外科主任部長、矢野整形外科部長、脇整形外科医長の4名は前年度の維持となった。

一方でレジデント（専攻医）は、卒後5年目安喰医師、後期研修2年目黒島医師の2名で、6名の診療体制を引き続き敷くことができた。

さらに、初期研修医1年目が1か月交代で整形外科外傷初療を中心に研修を行った。

夜間・休日並びに手術時などの救急への初期対応は2名の専攻医の頑張りにより1年間を乗り切ることができた。

松島は関節疾患、伊藤・矢野は脊椎疾患、脇は外傷～救急、専攻医は外傷～救急を中心に診療にあたった。

## ■診療内容

### 1) 外来

木曜日の紹介初診外来を再開して1年が経過した。定期手術日で外来のない火曜日については、開業医紹介は原則受け入れ、救急問い合わせについては適宜対応した。月・水・金曜日は4診体制で、従来通りであった。外来患者数13,565名で前年比105.2%であった。救急車患者が387名で前年比105.4%、開業医紹介患者数は964名で前年比101.5%と目標は達したと思われる。

### 2) 手術

2018年度（4月1日～3月31日）の手術件数は831件で、前年比104.9%と増加した。手術の内訳は外傷が中心であるが、脊椎外科、関節外科、手の外科、小児に至るまで症例は満遍なく、かつ豊富である。緊急度の高い感染症例、麻痺症例、開放骨折や脱臼に加え、小児の骨折や高齢者の大腿骨近位部骨折も準緊急として、可能な限り搬送当日の手術を行うように対応した。外傷手術が救急受け入れの数に応じて増加しており、手術内容も高度になってきている。

症例によっては、指導医を他機関より招聘して行い、更なるレベルアップを試みている。

透析、心疾患、易感染性など重大な内科的合併症を有する患者の手術への対応が引き続き必要とされており、周囲医療施設からの紹介も多い。全身状態が悪いケースが多く、難易度も高くなっているが、内科・麻酔科の強いバックアップと連携で対処している。

在院日数の短縮が今後も引き続き大きな命題で、我々としては日数延長の大きな理由であるSSI発生予防への努力は継続している。

## ■2018年度のトピックス・実績

スタッフ数、専攻医数もここ数年増加のない中で診療実績が増加しており、目標到達が得られたと思われる。

学術発表も昨年同様国内外で活発に行っており、研修施設としての役割を十分に果たしている。

## ■今後の展望

高齢化社会に向けて、骨粗鬆症患者が増加している。骨折してからの骨接合といった対処療法だけでなく、2年前より予防治療にも目を向けており、2018年度は薬剤師の介入も開始している。さらに2019年度より骨粗鬆症外来を開設する予定である。

手術件数の増加、診療実績の増加のため救急患者の取り込みが不可欠になってきている。特に高齢者の大腿骨近位部骨折は年々増加している。整形外科単独では症例の受け入れも十分とは言えず、総合内科を主体にヒップフラクチャーセンターを立ち上げた。将来的には365日24時間大腿骨近位部骨折症例の受け入れを目指している。

今後も手術件数は増加傾向にあり、整形外科スタッフの増加に向け初期研修医制度への働きかけも不可欠である。

表. 手術実績

		(単位:件)
手術名	件数	
脊椎外科		101
人工股関節		39
人工膝関節		36
人工骨頭置換		66
関節鏡視下手術		5
腱・靭帯手術(下肢・アキレス腱など)		12
骨折手術		447
	上肢	129
	下肢	290
	偽関節手術	5
	その他	23
手の外科		65
	腱・靭帯	48
	末梢神経	17
足の外科		11
腫瘍		10
その他(感染手術・抜釘)		39
合計		831

# 脳神経外科

## ■スタッフ紹介

2013年5月1日平山昭彦医師が、前任者の退職に伴い愛仁会リハビリテーション病院から着任した。以後、2018年も通年、現在に至っている。

## ■診療内容

地域完結医療を目標として、近隣、脳神経外科専門病院と連携する、院内セカンドオピニオンの提供を主な活動目標として、2018年度も下記の業務を担当した。

### ・診療体制（継続業務）

平山医師が単独で前任者の業務を引き継ぎ、院内、各診療科入院及び外来患者の神経症状の合併、併発所見に関する主治医経由での相談、説明業務への参加、脳波診断の業務を継続した。さらに近隣脳神経外科処置の可能な専門病院への転院の可否と時期の判定、保存的治療方法と継続及び終了、追跡検査の実施と評価に関しても提案を行っている。

### ・追加業務

神経放射線学的検査の診療計画への提案、放射線科 RI 部門における、ダイアモクス負荷による ARG 法による局所脳血流検査を実施、4学会基準による検査後の翌日までの入院観察を担当し、検査結果の報告過程に関与、外来の神経症状診療におけるいわゆるセカンドオピニオン形成への助言と提案、院内カンファレンスに参加し、神経内科、神経外科の見地からの提案、救急診療記録を参照し、診療情報の収集を行った。

## ■2018年度のトピックス・実績

- ・相談・参照症例：79 症例
- ・脳波検査：41 症例
- ・RI 局所脳血流（ARG 法、SEE-JET）検査：53 症例
- ・外来 セカンドオピニオン相談：0 症例  
（健診支援業務を除く）

## ■今後の展望

当地域の脳神経外科医療資源分布は神戸市、阪神間及び東播磨の圏域に近く、2016年7月には、隣接する加古川市に広域搬送を集約した高機能施設、北播磨医療センターが運用開始された。当地域での平常時の脳神経疾患に対する医療資源は充実していると認識する。現状でも、受診者の利便性は、必ずしも充足されているとは見受けないが、昼間の地域内の診療機能は、現状の相互補完により、中等度には達成されていると見受けられる。夜間休日時間帯の総合救急診療及び災害時の機能は他地域に比較して、高度先進医療段階では不十分と認識する。

（2014年初頭に東京都内某大学病院で再発し、発覚した薬剤死亡事件に反応した、製薬会社注意書き直し（ダイアモクス脳血流検査（ARG 法）による対応策を2015年6月検討の結果、4学会の推奨する検査当日の入院観察を当院で作成の局所脳血流測定パスに移行し、2016年7月以後継続実施中である。）

### （研究活動）

多数（2018年76例、うち救急搬入時27例）の心肺停止全脳虚血症例及び、今年度も脳神経外科領域の地域情報の収集実践を行いたい。

### （診療機能向上）

今年度の当院 MRI 装置更新に際し、当院 SPG 室の指導により煩雑手続き効率化のため、見送りとなっていた脳血流画像解析ソフトウェアの機能追加を提案し、採用された。1.5 テスラ MRI 画像を応用した脳血流画像解析を、CPA（心肺停止例）の研究課題の活動の具体化を計画し、4症例について撮像し、ICU 脳波所見を含め研究を継続中である。

# 産婦人科

## ■スタッフ紹介

副院長，主任部長：宮原義也（1996年卒）婦人科手術，  
婦人科化学療法，周産期管理

医長：堀 聖奈（2008年卒）腹腔鏡手術，周産期管理

医長：林田恭子（2003年卒）産休・育休（～3月）

医長：江島有香（2010年卒）産婦人科全般

後期研修医：加嶋洋子（2015年卒）

後期研修医：京本 萌（2015年卒）

初期研修医：中川公平（2016年卒）

## ■診療体制

2017年3月以降，当科では常勤医師退職に伴い診療体制を縮小せざるを得なかった。しかし2019年1月，宮原主任部長が着任，また後期研修医の加嶋医師，京本医師，初期研修医の中川医師が基幹病院を千船病院とするプログラムで当院に入職し，マンパワーの充実を図り各制限を解除しているところである。

外来は従来チーム制であったが徐々に担当医制へと移行し，午前2診，午後1診で1日平均100名の患者の診察にあたっている。

産科領域においては，NICU併設のため東播磨地区の周産期医療における中心的基幹施設としての役割を果たしており，妊娠30週以降のハイリスクの母体搬送を24時間体制で受け入れている。また当院で対応困難な高度な周産期管理を必要とする妊産婦は神戸大学病院や県立こども病院と綿密に連絡を取り合うことで問題なく搬送可能となっている。2017年10月より院内助産院を開設し，現在は全分娩の約10%を扱っている。2週間に1回開催する周産期カンファレンスでは，小児科医師，産婦人科医師，助産師，NICU看護師だけではなく，薬剤師，ソーシャルワーカー，臨床心理士が活発な議論を行っている。

婦人科領域においては，2019年1月から悪性腫瘍の取り扱いを再開し，積極的に手術，化学療法を行っている。また異所性妊娠（子宮外妊娠），卵巣腫瘍茎捻転，卵巣出血，不正出血などの婦人科救急受け入れも再開している。

## ■活動内容

### 【産科領域】

分娩件数は年間約1,000件であり，NICU併設，小児科医及び麻酔科医常駐のため正常分娩だけでなくハイリスクな母体搬送を積極的に受け入れている。

5室あるLDR室と小児科との連携を十分に活用し，妊産婦の入院生活の環境向上を図るとともに産婦人科全体として統一性のあるevidenceに則った診療を行っている。

また食事その他のサービス部門も充実を図り大変好評である。

### 【婦人科領域】

腹腔鏡下手術に関しての認知度も高まっていることから，近隣医療機関からの紹介は増加している。当院では日本産婦人科内視鏡学会技術認定医が中心となり，子宮筋腫や卵巣嚢腫に対してはできる限り低侵襲な腹腔鏡手術を行うことにしている。一方悪性腫瘍に関しては婦人科腫瘍学会専門医が中心となり，骨盤内リンパ節郭清，傍大動脈リンパ節郭清を含む根治手術，更に必要な症例には化学療法を行っている。特に子宮頸癌については術後の排尿障害を極力避けるため自律神経を温存する広汎子宮全摘術を行い良好な結果を得ている。女性医学の分野では更年期障害に対するホルモン療法や漢方療法，骨密度検査，子宮脱に対する保存的治療や手術療法も行っている。

また，医師の教育にも力を入れており，臨床指導だけでなく専門医取得のための学会発表や論文指導も行っている。

かつての医師数減少に伴い診療内容を制約していたが，現在ではすべて解除しており徐々にではあるが症例数は増加している。それぞれの医師が自覚を持ち，モチベーションをあげ，自分自身を高めていくことが更なる飛躍には必要と考える。そのためには，専門医資格取得やその教育体制を整え，後期研修医・専門医にとって魅力的な教育施設であるようさまざまな面で改革を行っていく方針である。

# 麻 酔 科

## ■スタッフ紹介（2018年度）

部長 河合 建  
 医長 坂本 元  
       多田羅康章  
       藤島佳世子  
       服部洋一郎  
       納庄弘基  
 医員 奥 幸樹  
       濱崎 豊  
       米田優美  
       齊藤健一

## ■診療内容

- 手術室、アンギオ室、内視鏡室での麻酔業務
- 無痛分娩を行う際の硬膜外カテーテル留置
- 2018年度においては集中治療科と麻酔科が分かれておらず、麻酔科の科員がICUにおいても業務を行った。

## ■2018年度のトピックス・実績

- 麻酔業務の実績と学会発表一覧を別表に示す。
- 産婦人科外来の大森医師を12月から週2回程度麻酔科で経験を積んでもらうため受け入れた。
- 2019年2月、3月に周麻酔期看護師のトレーニングを行った。
- 年間を通じ週2回程度神戸麻酔アソシエイツの心臓外科麻酔を専門とする麻酔科医を招聘した。
- 明石市消防局所属の救急救命士の挿管実習を行った。

## ■今後の展望

2019年3月31日にて坂本、齊藤医師が異動となり、奥医師が退職した。4月からは麻酔科と集中治療科に分かれ、多田羅、納庄の両医師は集中治療科の所属となる。

2019年度のはじめからアンギオ室での麻酔業務を増やしていく予定である。

表. 麻酔科実績

【合 計】

手術件数	2,708	(うち手術室内 2,699, 手術室外 9)
提供停止症例数	0	

【ASA PS】

予定1	2	3	4	5	6(臓器摘出を受ける脳死患者が対象)	合計
460	1,049	478	131	1	1	2,120
緊急1E	2E	3E	4E	5E	6E(臓器摘出を受ける脳死患者が対象)	合計
138	216	155	71	8	0	588
						2,708

【手術部位】

a. 脳神経・脳血管	0	h. 頭頸部・咽喉部	7
b. 胸腔・縦隔	166	k. 胸壁・腹壁・会陰	44
c. 心臓・血管	383	m. 脊椎	107
d. 胸腔+腹部	7	n. 股関節・四肢(含:末梢神経)	678
e. 上腹部内臓	346	p. 検査	1
f. 下腹部内臓	727	x. その他	12
g. 帝王切開	230	合 計	2,708

【麻 酔 法】

A. 全身麻酔(吸入)	763	F. 硬膜外麻酔	4
B. 全身麻酔(TIVA)	211	G. 脊髄くも膜下麻酔	566
C. 全身麻酔(吸入)+硬・脊, 伝麻	581	H. 伝達麻酔	4
D. 全身麻酔(TIVA)+硬・脊, 伝麻	360	X. その他	30
E. 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(CSEA)	189	合 計	2,708

【年 齢 構 成】

	男性	女性	合計
A. ~1か月	0	0	0
B. ~12か月	0	0	0
C. ~5歳	3	3	6
D. ~18歳	33	20	53
E. ~65歳	463	810	1,273
F. ~85歳	587	563	1,150
G. 86歳~	71	155	226
合 計	1,157	1,551	2,708

【体 位】

1. 仰臥位	1,735
2. 腹臥位	141
3. 側臥位	337
4. 切石位	330
5. 坐 位	0
6. その他	165
合 計	2,708

【偶発症例】

A. 危機的偶発症	0
B. 神経系偶発症(脳・脊髄)	0
C. その他の神経系偶発症	0
D. そ の 他	0
合 計	0

【性 別】

男 性	1,157
女 性	1,551
合 計	2,708

# 看護部

## ■スタッフ紹介

看護師 : 501名

(うち、男性看護師: 32名 助産師 46名)

准看護師: 6名 看護助手: 58名

合計 565名 (常勤換算 486.5名)

看護師平均年齢 32.7歳

20歳代 49% 30歳代 28% 40歳代 16%

50歳代 6% 60歳代 1%

## ■2018年度看護部目標

1. 専門性を身に付け、質の高い看護が提供できる人材を育成し活用する。
2. 安全な医療、看護の提供のため組織的対応を強化する。
  - 1) マニュアル、ルールの遵守ができる。
  - 2) インシデント・アクシデントの要因分析と対策の徹底をする。
3. 多職種との連携、在宅支援の積極的な取り組みをする。
  - 1) 各チームの協働体制による患者支援の充実
4. 職員が働き続けられる職場環境を整備する。
  - 1) 職員個々が意欲・能力を存分に発揮できる環境を整備する。
5. 病院経営への積極的な参画をする。

## ■2018年度のトピックス・実績

1. 看護師の特定行為研修終了者が1期生2名(2017年12月)・2期生4名(2018年3月)・3期生3名(2019年3月)計9名が誕生した。特定行為の活動実績は76件/年(主にインスリン関連、動脈血採血、デブリ・陰圧閉鎖療法での活動実績となっている)。
2. 入退院支援センターを2018年3月に開設した。  
 予約入院患者に早期から関わることで、退院の支援が入院直後から実施でき、在宅復帰率90%の保持ができている。入院支援の介入:予約入院90%・緊急入院61%、入退院支援加算は、予約入院:6.1%・緊急入院:40%。  
 DPCⅡ期以内での退院患者の割合は78%前後で経過。

3. 認知症認定看護師の専従配置、及び日勤帯における見守り看護助手配置により、各部署にラウンドを行い、認知症・せん妄患者の昼夜逆転防止やQOL向上に寄与している。またチューブ抜去予防の抑制も見守りの中で解除するなど看護ケアの質向上を図りながら病棟看護職員の支援にも貢献できた。
4. 重症度、医療・看護必要度Ⅰでの割合は平均32~35%を維持できている。必要度Ⅱとの乖離も2~3%以内で経過できた。
5. 褥瘡発生率は、積極的な介入により減少傾向である。
6. 救急診療の充実として、クリティカルケアナースの育成が始まった。救急と内視鏡検査科を1つの単位とし、両方対応できる人材を育成し、救急夜勤者が内視鏡に素早く対応できるよう取り組んでいる。また手術室看護師と心臓カテーテル室でも両方を対応できるナースの育成が始まっている。それぞれ高度の技術が必要な部署であるため、今期も継続していく。愛仁会での周麻酔期の特定行為研修に、手術室から2名が受講している。術前・術中・術後の医療処置・看護ケアを担う計画である。

## ■今後の展望

1. 社会情勢や看護の動向がめまぐるしく変化している中、急性期として生き残りをかけ「断らない救急診療」を目指し質の向上を図るためにも人材育成に力を入れ変革する組織であり続ける。その中でも、患者中心で信頼を裏切らないよう、地域との連携を密にし、入退院支援の強化とチーム医療の一層の推進を図る。

表1. 褥瘡発生率

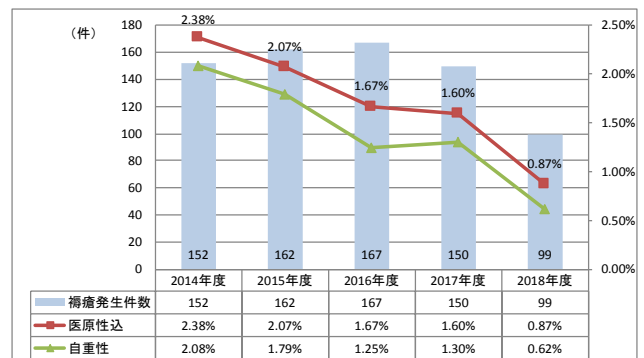


表 2. 明石医療センター各看護単位の概況（患者）

患者							
病棟	年平均病床稼働率	平均在院日数	75歳以上人数	総入院数	総退院数	死亡患者数	平均看護必要度
3階	92.4%	8.9	707	1,403	1,496	23	36.1
4階	92.3%	6.7	349	1,701	1,791	26	36.8
5階	97.0%	11.6	648	1,280	1,341	102	37.2
6階	91.8%	11.3	523	1,235	1,200	12	30.4
南3	96.3%	7.8	464	846	966	16	37.8
南4	94.6%	7.8	648	1,576	1,613	46	34.6
南5	97.5%	9.2	706	1,409	1,459	55	37.6
南2	97.2%	6.2		1,011	1,103	分娩数 901	
						院内助産(162件)	帝王切開(223件)
ICU	84.8%	2.8	25	274	52	44	92.1
HCU	89.0%	2.9	34	373	77	29	86.1
NICU	66.6%	6.8		190	68	0	
GCU	87.0%	4.4		409	540		
手術室	総数	科別内訳		手術内容			剖検数
				時間内緊急	時間外緊急	麻酔件数	
		3,204件		117	96	全身麻酔:1,852 腰椎麻酔:574 硬膜外麻酔:187 局所麻酔 } 591 伝達麻酔 } 静脈麻酔 }	
外科 787	産婦人科 563	67	61				
循環器 302	心臓血管 513	13	2	硬膜外麻酔:187			
整形外科 831	消化器・内 137	68	44	局所麻酔 } 591			
		呼吸器外科 137	52	52	伝達麻酔 }		
			7	0	静脈麻酔 }		
				3		14	
救急	総来院患者数(1日平均)			入院率(1日平均)			
	総数	8,527人	(23.4人)	48.1%			
	救急搬送	3,957人	(10.8人)	(11.2人)			
外来	総来院患者数(1日平均)			化学療法外来患者数	新患者率	紹介率	逆紹介率
	149,814人(614人)			172.25人(月平均)	9.04%	76.99%	91.12%
透析・検査				内視鏡件数			
	透析件数	腹膜透析	G-CAP	上部内視鏡	6,928	全麻ESD	12
	4,964	196	27	下部内視鏡	3,310	ポリペクトミー	1,318
				ERCP	564	ガブセル内視鏡	32
	造影CT	造影MRI	CKD外来	気管支鏡	464	緊急検査	934
	4,841	890	98	胸腔鏡	29	上下部鎮静剤使用 件数	7,454
ESD				157			



表 3. 明石医療センター各看護単位の概況（看護職員）

病棟	職員(2019年3月時点)					
	職員数	平均年齢(歳)	平均経験年数(年)	離職率(%)	有休取得数 1人平均(日)	超過勤務時間 1人月平均
3階	32.5	29.9	8.2	0.0	10.6	2.9
4階	30.9	30.2	8.5	21.6	10.5	3.3
5階	35.6	29.5	7.4	14.0	9.8	2.2
6階	36.0	29.8	6.6	11.0	9.2	3.4
南3	28.6	28.6	5.8	16.9	11.2	2.1
南4	32.4	28.8	6.3	14.9	10.9	1.8
南5	30.6	32.8	8.2	6.3	10.5	1.2
南2	38.0	31.2	6.9	15.1	13.5	1.5
ICU	26.0	29.0	7.1	7.2	9.2	2.0
HCU	17.6	30.3	7.8	5.4	9.8	3.7
NICU	15.2	33.1	12.2	13.8	11.3	0.5
GCU	13.8	31.7	9.2	6.7	9.8	0.4
手術室	32.8	33.9	11.7	0.0	13.8	11.4
救急	15.0	36.1	13.5	0.0	13.4	1.6
外来	33.7	41.6	19.3	23.8	13.1	0.9
透析室	28.7	37.2	13.0	21.6	14.9	5.4
部長室	44.5	36.5	13.5	9	6.3	0.7

※部長室には部長室付含(ex. 育児休暇中職員)

# 薬 剤 科

## ■スタッフ紹介

科 長：小椋千絵

主 任：小川智孝，寺沢匡史

副主任：平田知沙

薬剤師：常勤薬剤師数 25名 うち育休中薬剤師 1名

パート薬剤師 1名

事務員：3名 うち育休中 1名

## ■業務内容

調剤業務，医薬品管理，薬剤管理指導業務（服薬指導），医薬品情報管理（DI）業務，無菌調製，特定抗菌薬の血中濃度解析，持参薬の識別と報告，治験薬管理業務などを行っている。また，各種諮問委員会への参加，NSTやICT，AST，RST，IBD，緩和ケア，認知症サポートチーム，ポリファーマシーなどチーム医療への参加，各診療科カンファレンスへ参加している。その他，集団指導として糖尿病教室や心臓血管リハビリテーション教室においても，薬剤を中心とした説明・指導を今年度も継続して行った。また，外来がん患者指導管理料3を算定し，外来化学療法室にてがん化学療法を受けるすべての患者に対して抗がん剤の説明や副作用チェック，処方支援などを行っている。

採用医薬品に関しては，引き続き，後発品への切り替えに取り組み，数量割合は85%を超え，後発医薬品使用体制加算1の施設基準を維持しており，薬剤費を減少させ病院経営にも貢献している。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度中に病棟薬剤業務実施加算の算定を開始するという目標に向けて，薬剤師数を確保し，新人薬剤師教育

を強化した。まず，DI業務を充実させ，更に，昨年度より常駐していた南館各病棟に加え，8月以降，本館病棟に順次薬剤師を配置し，10月より病棟薬剤業務実施加算の算定を開始した。

薬剤管理指導については，2017年度は月平均810件であったが，2018年度は月平均1,344件と大幅に伸ばしている。また，退院時薬剤情報管理指導に関しては，2018年3月には月185件であったが，2018年度は月平均283件と増加し退院薬剤指導についても強化した。

4月より抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の一員として，特定抗菌薬，抗真菌薬の使用状況を確認し，毎日開催されているカンファレンスに参加し，抗菌薬の適正使用に取り組んでいる。

麻薬，毒薬など特に管理を必要とする医薬品が多く使用されている手術室において，薬剤師が医薬品管理に積極的に関与していくことは，医薬品の適正管理や手術室の看護師の負担軽減において有用であると考え，2019年3月より手術室での医薬品管理業務を開始した。

## ■今後の展望

予定入院患者の持参薬に加えて，新たに緊急入院患者の持参薬にも関わる体制を構築していく。

ICUでは患者の状態は重篤であり日々病態が変化していくため，一般病棟とは異なった患者個々の薬物治療の評価が必要であり，薬剤師常駐を目指し準備を行っている。また，入院前からの常用薬の把握や手術前休薬が必要な薬剤に関する指導など外来入退院支援部門での薬剤師の配置が必要であると考え。

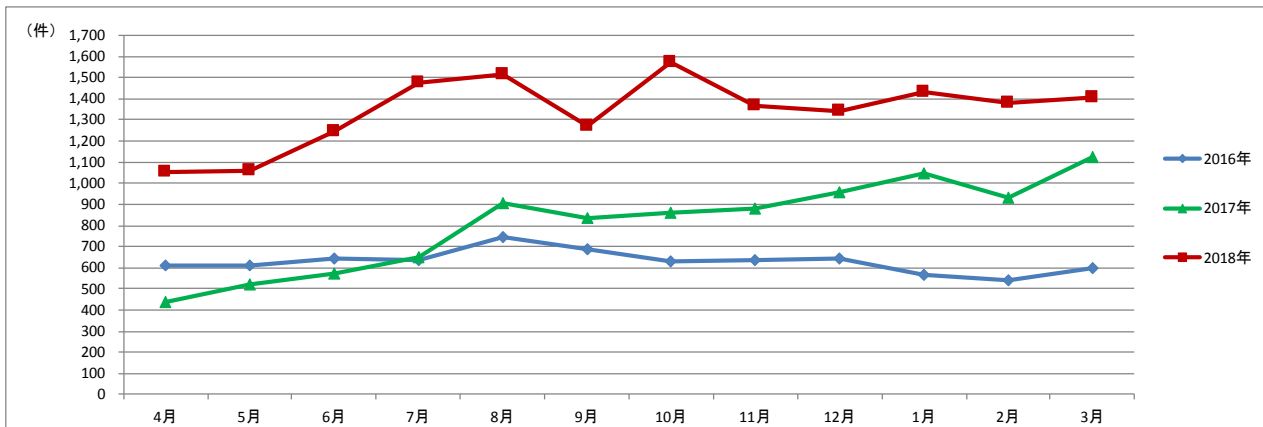


図. 薬剤管理指導件数の推移

# 放射線科

## ■スタッフ紹介

科 長： 岸本伸幸

主 任： 梶谷俊孝, 羽瀧正樹

副主任： 久森克利, 富川智之, 稲上 彩

科 員： 下澤秀輔, 黒田大輔, 佃 将行

勝山義己, 小川 亮, 前田将文

片山貴博, 宮本恭平, 宮座千絵

柳内久美子, 日渡裕也, 宮内琴菜

田野研士朗, 浮田 大, 橋本麻未

森 佑梨菜

受 付： 丸岡麻子

## ■部署概要

①一般撮影 (X線発生装置 2 台・X線デジタルカメラ 1 台・ポータブルX線撮影装置 2 台・乳房撮影装置 1 台・CR装置)

②造影検査 (X線TV装置 3台)

③マルチスライスCT2台 (128列)

④MRI装置 2台 (1.5テスラ)

⑤RI検査装置 1台

⑥超音波検査 (乳房・腹部・頸部〈甲状腺〉2台)

⑦骨塩定量検査装置 1台

⑧外科用イメージ 2台

⑨アンギオ装置 3台 (ハイブリッドOP室 1台)

## ■近況データの提示及び統計データの説明

2018年度の活動実績からは、前年度比で高額医療機器としてCT検査102%増(心臓CT検査114%増)・MRI検査110%増で稼働している。MRI検査においては、新しい装置の導入による増加が認められた。

## ■今後の展望

ハイブリッドOP室での対応手術(ステントグラフト・TAE・BAV・ペースメーカーなどの埋め込み)が順調に増加しており、特にTAVI(経カテーテル大動脈弁治療)ステントグラフト留置術の件数が増加している。CT・MRIの画像処理(ワークステーション)技術の習得に力を入れ、診療の場へ迅速に画像を提供できるように努めていきたい。

表 1. 高額医療機器実績

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
CT	1,611	1,646	1,610	1,615	1,714	1,474	1,781	1,804	1,624	1,712	1,568	1,767
MRI	364	407	400	401	425	407	471	463	405	406	422	478
RI	62	71	69	66	70	56	67	72	55	60	60	57

表 2. 年間検査件数

(単位:件)

検査名	年度	総件数
一般撮影	2016年	55,911
	2017年	65,794
	2018年	67,021
乳房撮影	2016年	2,271
	2017年	1,193
	2018年	1,751
消化管造影 (その他造影検査含む)	2016年	2,437
	2017年	2,395
	2018年	2,346
CT	2016年	18,165
	2017年	19,498
	2018年	19,926

検査名	年度	総件数
MRI	2016年	4,627
	2017年	4,581
	2018年	5,049
核医学検査	2016年	782
	2017年	942
	2018年	765
血管造影検査 (心カテ・腹部アンギオ) (ハイブリッドOP室)	2016年	2,396
	2017年	2,436
	2018年	2,201
超音波検査 (腹部・乳腺etc)	2016年	6,171
	2017年	6,053
	2018年	6,102

# 検査科

## ■スタッフ紹介

科長：山本久美子，主任：小段敦美

副主任：宮宅理恵，孝橋夏紀

臨床検査技師：常勤 26 名（うち育休 2 名），非常勤 3 名

事務員：1 名

〈各種学会等認定取得者〉

細胞検査士 4 名 国際細胞検査士 3 名

二級臨床検査士 2 名（病理 1 微生物 1）

認定血液検査技師 1 名

認定病理検査技師 1 名

認定心電図検査技師 1 名

超音波検査士 3 名（循環器 3 血管 1）

血管診療技師 1 名

管理栄養士 6 名

日本周術期経食道心エコー認定 1 名

## ■業務内容

当科は、検体検査部門（血液、生化学、免疫、尿一般、微生物）、輸血部門、病理検査部門、生理検査部門の業務を行っている。検査室内だけでなく、産婦人科外来での妊婦エコー、手術室での経食道エコー、術中迅速診断や剖検室での解剖の介助なども実施している。また、チーム医療にも参画し、ICT、AST、NST、院内糖尿病チーム、ハートチームの一員として活動している。

検体・輸血部門については、夜間・休日の当直体制をとり、終日の緊急検査に対応している。生理検査部門でも、心臓血管外科の緊急開心術時に対応し、経食道エコーの宅直体制をとっている。

## ■2018 年度のトピックス・実績

今期は 4 月に欠員補充と定員増加に伴う 10 名の新入職者を迎えた。教育すべき人数が多く、また、内容が多岐にわたるため、緊急検査の習得を優先課題とした。新入職者と教育担当の中堅技師の努力があり、10 月には緊急検査の当直業務につくことができた。12 月には医療法・臨床検査技師等に関する法律の改正があり、特に検体検査の精度の確保が求められた。そのため、実際の手順や、各種標準作業書及び作業日誌などの見直しを含めた整備を行い、法令遵守の実践に努めた。1 月には、中堅技師のスキルア

ップを目指し、1 名が 3 週間の神戸大学免疫染色エキスパート臨床検査技師育成コース研修に参加した。2019 年 4 月に当直体制から夜勤体制へ変更となる準備として、日勤帯の業務においても個人の努力目標を設定し評価を行った。

チーム医療においては、ICT/AST 活動のため、新たに 1 名の専任技師を配置した。また、TAVI の増加に伴い、ハートチームの参加人数を増員した。

検査件数においては、各診療科の医師の増減に伴い、内容は変化しているが、前年度対比 101%と概ね 2017 年度の実績と差はなかった。

## ■今後の展望

技師教育に必要な研修として、法人内の他施設との交流やメーカー主催、学会主催なども利用し、多様な視点を持つ技師を育てていきたい。神戸大学医学部附属病院には 2019 年 6 月に感染制御エキスパート臨床検査技師育成コース 1 名、2020 年 1 月に白血病診断エキスパート臨床検査技師育成コース 1 名をそれぞれ 3 週間での研修予定としている。個人の目標の 1 つとしては、各種学会等認定取得を目指すことがあげられるが、検査科全体としては他職種とも連携し、救急医療に重点をおいた教育プログラムを充実させていく。また、検体検査の精度確保については、精度管理責任者を中心に監査・是正処置が機能するように仕組みを構築していく。2018 年度の年間を通して、検体採取等厚労省指定講習会への参加を推奨し、2017 年度までの受講者 7 名から 17 名に増加できた。2019 年度に 16 名が受講予定であり、受講率 100%に達する見込みとなった。そのため、中央処置室での採血や検体採取業務を行えるように計画をし、推進していきたい。

表. 院内実施検査 年間総件数

	(単位:件)		(単位:%)
	2017年度	2018年度	前年比
血液学的検査	274,631	276,434	100.7
生化学的検査	1,437,857	1,453,789	101.1
輸血検査	19,129	18,584	97.2
免疫学的検査	156,954	166,730	106.2
尿・糞便等一般検査	61,862	62,726	101.4
微生物学的検査	60,207	64,098	106.5
病理学的検査	42,711	37,860	88.6
生理学的検査	51,733	51,883	100.3
超音波検査	18,907	17,295	91.5
計	2,123,991	2,149,399	101.2

# 臨床工学科

## ■スタッフ紹介

(科 長) 森島 毅  
 (副主任) 壺井里恵子, 横田真理子, 福井謙治  
 (科 員) 佐々木智子, 柴田康成, 草信貴児,  
 大塚健太, 寺見千尋, 石井彩織,  
 大城秀太, 近藤 慶, 松江俊英,  
 土岐和幹, 守田佳保里, 松原竜也,  
 松野里咲

## ■業務内容

当科の主な業務は人工心肺業務, カテ室業務, 透析業務, 医療機器保守点検業務となっている。下記に各業務の概要を示す。

### 【手術室】

人工心肺装置 2 台を用い, 開心術症例に備えている。スタッフは, 症例にもよるが 2 名以上で業務にあたっている。昨年度より TAVI が開始され臨床工学科も 2 名で業務にあたり, スタッフ 1 名が清潔野にて人工弁の組み立て操作を担っている。

### 【血液透析】

当院の透析ベッド数は 20 床, 月水金曜日は午前・午後の 2 クール, 火木土曜日は午前の 1 クールで業務を行っている。当院の慢性維持血液透析はすべて日機装社の装置で統一している。

表 1. 手術のサポート (単位: 例)

	症例数	前年比
人工心肺使用症例	177	92.7%
ステントグラフト	43	50.0%
TAVI	35	—

表 2. 透析回数 (単位: 例)

	症例数	前年比
透析	4,934	91.1%
GCAP/LCAP	21	60.0%
腹水濃縮	5	—
CRRT	120	62.8%
PMX	9	100.0%

表 3. 機器修理 (単位: 件)

	件数	前年比
医療機器修理実績	502	117.6%
定期点検	1,347	93.5%
返却時点検	11,315	108.6%

## 【心血管造影室】

心血管造影室において虚血性疾患に対する補助, 不整脈疾患に対するカテーテルアブレーション, ペースメーカープログラマー操作を担っている。なお, 週 1 回であったペースメーカー外来も 2018 年より週 2 回となった。

## 【機器管理業務】

医療機器管理ソフトを用いて医療機器の中央管理を行っている。また医療機器の修理, 定期点検も当科の重要な業務となっている。

## ■2018 年度のトピックス・実績

2018 年度実績は表を参照。

## ■今後の展望

元来, 循環器疾患患者の多くを受け入れているが, その他の疾患を併発した複雑な疾患が増加傾向にある。そういった状況の中, 今後も当科の柔軟な対応能力が問われていく。特に本格稼働となった TAVI は心臓血管室, 手術室の業務を網羅しており, より高度な対応を迫られるためスタッフ教育の充実を重点的に行っている部門である。

また, 時間外の対応をよりスムーズに行うため, 24 時間院内に臨床工学技士を配置することで緊急対応が可能となっている。なお, 緊急開心術に対応できるよう院内待機以外に持ち回りでスタッフを待機させることとしている。また補助循環装置 Impella の導入もあり, より高度な循環サポートに対応できるよう努力していく所存である。

表 4. カテのサポート (単位: 例)

	症例数	前年比
PCI	340	83.1%
緊急PCI	115	117.3%
ABL/EPS	431	93.9%
PTA	115	89.8%
診断	406	85.3%
ペースメーカーチェック	2,193	92.3%

表 5. 補助循環装置使用 (単位: 件)

	件数	前年比
VA-ECMO	14	58.3%
VV-ECMO	3	—
IABP	24	92.3%
Impella	2	—

# リハビリテーション科

## ■スタッフ紹介

(医師)

松島真司 (部長)

(理学療法士) 12名

平田照美 (科長), 鶴崎太志 (主任), 川飛輝恭,  
藤原亮平, 井ノ元宏希, 金光谷 樹, 千石理恵,  
南 綾香, 大西真祈, 金内 淳, 下村真依, 山下陽太

(作業療法士) 4名

大原健太郎 (副主任), 場谷理恵, 横山綾奈, 里野初匡

## ■業務内容

今年度より土曜日勤務を開始するため, 理学療法士 3名, 作業療法士 1名を増員し 16名で業務を行った。土曜日勤務は 5月より理学療法士 7名, 作業療法士 2名で開始し, 土曜日実施により処方日から開始までの日数が短縮し, 前年度より 0.5日早期介入ができた。理学療法, 作業療法とも対象疾患は, 骨・関節疾患や脊椎疾患, 外傷などの整形外科疾患が最も多く, 次いで理学療法は心不全や急性心筋梗塞, 開心術などの心大血管疾患が多く, 作業療法は, 廃用症候群が多かった。作業療法は, 呼吸器リハビリ

テーションにも積極的に介入し, HOT 導入患者の認知機能評価を実施し, 機器操作を獲得できるよう指導を行った。

他部門との連携では, 心臓リハビリ合同カンファレンスや内科病棟の合同カンファレンス, 整形外科回診への参加, 褥瘡回診や呼吸ケアチームのラウンドに参加し, 他部門と情報を共有し, 患者の ADL 向上に努めた。

## ■2018年度のトピックス・実績

平均実施単位数は, 理学療法 17.7 単位, 作業療法 18.1 単位で理学療法は目標を達成することができなかった。

学会発表は, 第 24 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会と第 68 回日本病院学会で行った。

## ■今後の展望

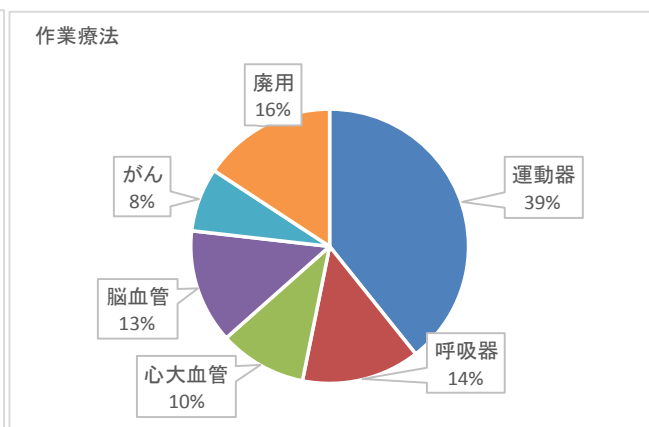
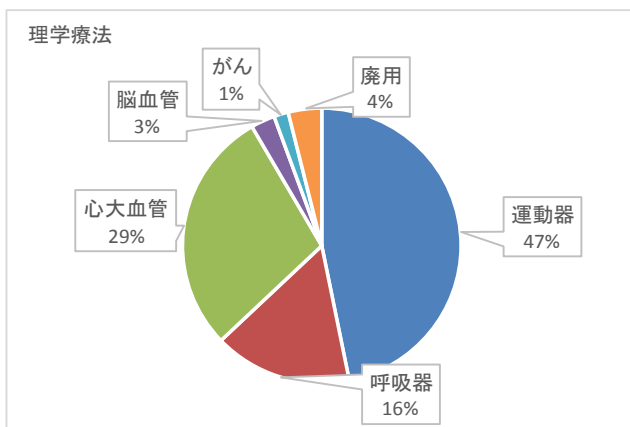
土曜日業務を継続し, 急性期病院として早期にリハビリテーションを開始していく。多職種カンファレンスに積極的に参加し, 情報共有を行い, 患者の ADL 向上に関わっていく。スタッフの教育にも力を入れていく。

今後も患者に信頼される医療を提供できるよう努めていく。

図表. 疾患区分別リハビリテーション内訳

(単位: 件)

	運動器	呼吸器	心大血管	脳血管	がん	廃用	合計
理学療法	21,240	7,281	13,054	1,257	777	1,752	45,361
作業療法	5,961	2,085	1,548	2,036	1,138	2,374	15,142



# 栄養管理科

## ■スタッフ紹介

科 長：小山直子（病態栄養認定管理栄養士，  
糖尿病療養指導士，TNT-D 管理栄養士）

科 員：田中由美子（NST 専門療法士）

関裕実子（腎臓病療養指導士）

小島 彩（糖尿病療養指導士）

<全面委託>日清医療食品株式会社

管理栄養士 2名

栄養士 1名

その他 約39名

## ■業務内容

「食事管理」，「栄養指導」，「栄養管理」が3本柱となる。

栄養士1名がNST専従として活動しており，3名で給食管理，栄養指導，入院時アセスメント，食事摂取低下の対応をしている。栄養指導は外来・入院と実施しており，割合は76%が入院中の栄養指導となっている。栄養管理

では入院時アセスメントでNST対象患者や栄養指導対象患者などをチェックし，担当者に情報を提供する。担当者から主治医又は看護師に相談している。

## ■2018度のトピックス・実績

課題であった，全入院患者の入院中における栄養再評価をシステム化できたことである。今まででは入院時に高リスク対象となった患者だけが再評価を実施していたが，本来のあるべき姿に構築できた。

## ■今後の展望

超高齢化はより加速し，栄養管理を実施していくにも「嚥下」，「咀嚼」以前の歯が無く，義歯さえつけないことが増加している。「ムース食」，「ペースト食」でも無い，歯茎で潰せる食材や調理対応での献立を作成し，提供できるシステムを構築することが急務である。

表. 栄養指導・管理件数

(単位:件)

	患者食数			栄養指導件数			栄養管理件数	
	加算 (食数)	非加算 (食数)	経腸 栄養剤	入院 (件数)	外来 (件数)	集団指導 (回数)	栄養管理計画書 (件数)	NST活動件数 (件数)
4月	11,700	13,519	742	161	62	5	1,243	185
5月	10,159	15,223	567	170	50	7	1,268	246
6月	9,843	14,569	441	162	67	6	1,175	150
7月	10,059	14,033	366	179	48	8	1,331	144
8月	9,273	14,713	634	180	54	6	1,386	214
9月	8,839	14,262	485	145	44	6	1,131	172
10月	9,906	14,845	350	173	48	6	1,407	206
11月	10,128	14,190	598	158	46	6	1,312	211
12月	10,425	14,791	494	164	38	5	2,229	215
1月	10,495	14,095	697	141	49	4	2,023	202
2月	9,865	12,664	506	156	43	5	2,006	154
3月	10,300	13,669	618	161	43	3	2,047	170
合計	120,992	170,573	6,498	1,950	592	67	18,558	2,269

## 地域医療連絡室・ドック健診センター

### ■スタッフ紹介

室長（科長）：長野英樹

（主任）：守屋実穂

地域医療連絡室（紹介担当）：

奥平沙耶，松本富紀子（退職），井上頌子，辻 あん菜，  
村上瑠生（途中入職）

ドック健診センター：

佐藤喜代子，田畑恵利花，大附あゆみ（他パート：3名）

### ■業務内容

今年度も、紹介担当に新卒者1名の増員があったが、期の途中で1名の欠員があったため、中途採用1名が加わった。紹介患者数は前年比99%とわずかな減少となった。紹介予約システム利用患者は前年同様37.5%であったが今年度は38.6%と増加した。返書管理業務では、未記載返書の医師への記載依頼に対し、97%と高い返書率を保っている。また、かかりつけ医からの救急受診患者の受診後の転帰を知らせる連絡書の送付も継続実施している。ドック健診センター業務は、限られた枠数の中で単価の高い半日ドック受検者数を増やし、前年度103%の収入実績であったが、今年度更に前年比110%の実績を上げることができた。

月1回開催の市民健康講座「すこやか広場」も、今年度3月開催で33回目を迎えた。毎回市民の方だけでなく、医療関係者の参加も見られる。昨年度から明石市行政主導で、医療従事者間の「多職種連携学習会」が開催され、今年度開催も決定している。

### ■業務報告

・紹介患者数及び紹介率・逆紹介率（図表1～3）

2018年度の紹介患者数は、前年度比99%とわずかな減少であった。紹介率は、72.0%であり前年度より0.7%の減少となった。逆紹介率は、前年度80.0%であったが、2018年度は90%を超える月もあり、85.5%と伸びを示した。

紹介元医療機関との情報のやり取りを、迅速にかつ細やかに対応することで、信頼が得られると考える。

・オープン検査（図表4）

昨年度は前年度同件数であったが、今年度は95%と減少した。今年度8月よりMRIが2台稼働となり、CTとともに待ち日数はゼロとなり、当日希望も可能である。積極的に当日オーダーも受けているが、件数増加にあまり繋がっていない状況である。近隣医療機関訪問時、連携会議等々当日実施可能であることを積極的に周知している。脳血流シンチは前年同様需要が多く、前年比123%と増加している。検査枠の増枠のため使用量増量の届出を放射線科に依頼して、増加する依頼に対応する。

・研修会・講演会の開催

各諮問委員会主催研修会が年2回ずつ開催されているが、開催形態が変容してきている。内容を絞り、周知が必要と思われる事例に対してカンファレンス形式で開催したり、参加者全員が研修会場に収容できないため、ポスター掲示形式にして、一定期間自由に閲覧してもらうという研修会も多くなってきた。そのため地域医療機関に参加を促す機会が少なく、地域医療支援病院の認定要件である、地域に対する研修会等の開催件数が減ってきている。今後研修会のあり方も検討する必要がある。

開放病床委員会が年4回開催され、地域医療支援病院が年1回の開催で、明石市立市民病院との共同開催となっている。当院主催の「地域医療連携の会」は年1回9月開催が定例となった。2016年6月からの市民健康講座「すこやか広場」も、一度だけ台風のため中止となったが、月1回のペースで開催できている。

・検診業務（図表5）

2018年度件数は、前年比102%と少しの増加であったが、収入額は110%と伸びを示した。高単価の人間ドックの件数が増加したことで増収に繋がった。次年度から、脳ドックを開始し、MRI稼働率の増加と、更なる増収に繋がりたい。

### ■今後の展望

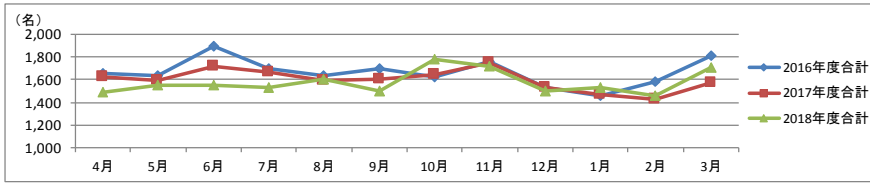
紹介患者数が減少、救急患者の低下が見られた今年度ではあるが、次年度は救急科の開設、産婦人科・外科の診療科の充実を図る。以前から医療機関への訪問を行ってはいしたが、年度終わってから医師とともに訪問している。次年度も継続して訪問し、顔の見える連携を行っていきたい。



図表 1. 紹介患者数

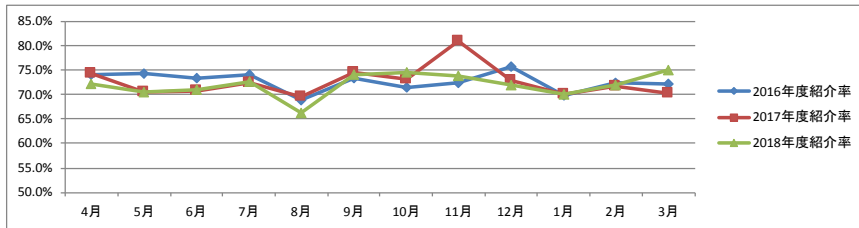
(単位:名)

紹介患者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	前年比
2016年度合計	1,658	1,633	1,893	1,693	1,634	1,695	1,624	1,760	1,533	1,457	1,583	1,806	19,969	1,664	100%
2017年度合計	1,627	1,591	1,720	1,662	1,592	1,600	1,645	1,750	1,531	1,471	1,422	1,570	19,181	1,598	96%
2018年度合計	1,484	1,553	1,546	1,533	1,599	1,498	1,783	1,718	1,494	1,533	1,453	1,701	18,895	1,575	99%



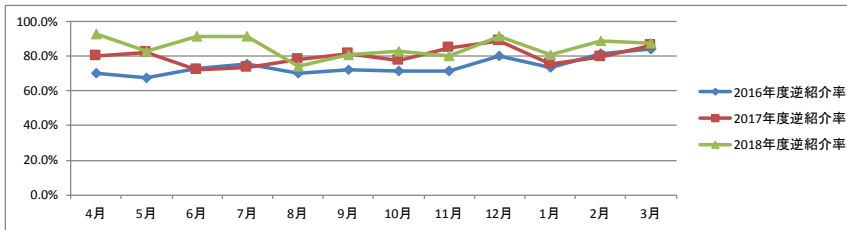
図表 2. 紹介率

紹介率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016年度紹介率	74.1%	74.3%	73.3%	74.1%	68.9%	73.5%	71.6%	72.5%	75.7%	69.8%	72.4%	72.2%	72.7%
2017年度紹介率	74.3%	70.5%	70.9%	72.4%	69.5%	74.7%	73.2%	81.1%	73.0%	70.2%	71.8%	70.4%	72.7%
2018年度紹介率	72.2%	70.5%	71.0%	72.6%	66.3%	74.2%	74.5%	73.9%	72.1%	70.1%	72.0%	75.0%	72.0%



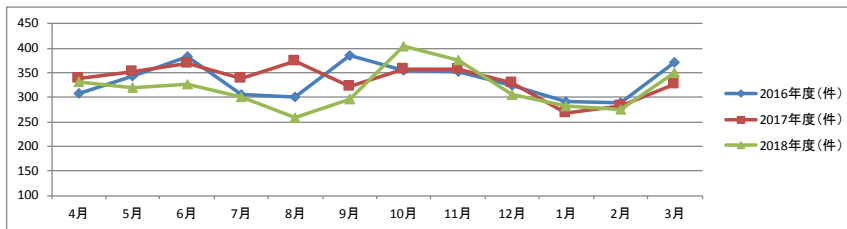
図表 3. 逆紹介率

逆紹介率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2016年度逆紹介率	70.0%	67.6%	73.1%	75.8%	70.4%	72.0%	71.6%	71.6%	80.2%	73.3%	81.8%	84.0%	74.3%
2017年度逆紹介率	80.3%	82.4%	72.3%	73.4%	77.9%	81.5%	77.5%	84.6%	89.0%	75.2%	79.7%	86.3%	80.0%
2018年度逆紹介率	93.1%	83.0%	91.6%	91.8%	74.3%	80.8%	82.9%	80.0%	91.6%	80.8%	88.8%	87.8%	85.5%



図表 4. オープン検査数

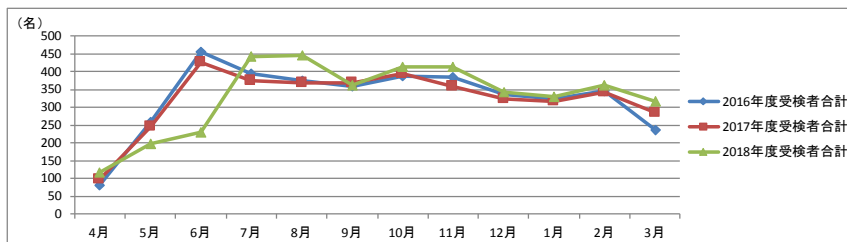
オープン検査数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
2016年度(件)	308	343	383	306	301	384	354	352	325	290	289	371	4,006	101%
2017年度(件)	339	353	368	337	373	321	356	356	328	267	282	327	4,007	100%
2018年度(件)	331	319	327	300	259	295	404	375	305	281	275	349	3,820	95%



図表 5. 検診受診者数

(単位:名)

検診受診者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
2016年度受診者合計	80	260	456	393	376	358	388	386	335	324	345	235	3,936	100%
2017年度受診者合計	97	245	425	374	369	367	395	359	324	316	341	284	3,896	99%
2018年度受診者合計	117	196	231	444	445	362	414	415	342	331	361	318	3,976	102%



## 医療福祉相談室

### ■スタッフ紹介

社会福祉士 5名（うち1名は7月～育休復帰）

### ■業務内容

《入院患者への退院支援》

《外来患者への通院支援》

- ・患者家族への心理的支援
- ・地域医療機関との連携
- ・介護、障害サービスとの連携
- ・かかりつけ医、維持透析医療機関調整
- ・行政、各種関係機関との連携
- ・社会保障制度の案内、手続き

《カンファレンス実施》

- ・ハイリスク患者カンファレンス
- ・ドクターカンファレンスへの参加  
(呼吸器内科, 循環器内科, 総合内科)
- ・退院前カンファレンス

### ■2018年度のトピックス・活動実績

《実績》

- ・実績は表参照

《大腿骨頸部骨折地域連携バス合同研究会》

- ・地域連携バス利用患者 47名
- ・協力医療機関 8件
- ・合同研究会 4回/年

《院外講師》

日時：2018年10月19日

主催：兵庫県介護支援専門員協会

テーマ：明石パワーアップセミナー

『本当の連携をとるために

～ 介護と医療「頼み事」から「一緒に」～』

《院内ボランティアの窓口》

- ・ボランティア参加者 9名（男性4名/女性5名）

・活動内容

活動ミーティング（毎月1回）

外来再来機受付周辺での患者案内

病棟寄贈図書の整理整頓

中央玄関周辺の鉢植え作成、水やり

院内車いす点検（毎月1回）

七夕・クリスマスイベントの飾りつけ

患者向け体操教室 等

### ■今後の展望

本年も新人の定着化に難渋し、新規作成したMSWキャリアパスの評価も不十分なままであった。次年度は新人2名を迎えるため、心新たに新人教育に力を入れていきたい。

そして、患者支援の数・質を上げることで病院に貢献していきたい。

表 1. 後方連携医療機関（82 機関）

西江井島病院	97	明石市立市民病院	8	はりま病院	2	志田クリニック	1
明石リハビリテーション病院	64	明海病院	8	東加古川病院	2	順心病院	1
あさひ病院	48	神戸大学医学部附属病院	6	フェニックス加古川記念病院	2	順心リハビリテーション病院	2
明石仁十病院	46	聖隷淡路病院	6	ポートアイランド病院	2	城陽江尻病院	1
ふくやま病院	45	神戸低侵襲がん医療センター	5	名谷病院	2	高砂市民病院	2
明石回生病院	36	中山クリニック	5	荻原みさき病院	1	たずみ病院	1
明石こころのホスピタル	35	垂水病院	5	大阪大学附属病院	1	ツカザキ病院	1
大久保病院	32	明石同仁病院	4	大澤病院	1	ときわ病院	1
神明病院	31	加古川中央市民病院	4	北播磨総合医療センター	1	西脇市立西脇病院	1
野木病院	29	県立加古川医療センター	4	神戸朝日病院	1	東浦平成病院	1
大西脳神経外科病院	27	県立がんセンター	4	神戸掖済会病院	1	兵庫県災害医療センター	1
県立リハビリテーション中央病院	25	いなみ野病院	3	神戸徳洲会病院	1	兵庫中央病院	1
石井病院	21	王子回生病院	3	神戸平成病院	1	三菱神戸病院	1
フェニックス岩岡クリニック	21	播磨サナトリウム	3	神戸リハビリテーション病院	1	明芳外科リハビリテーション病院	1
偕生病院	14	神戸市立西神戸医療センター	3	神戸博愛病院	1	ゆうこう病院	1
関西青少年サナトリウム	14	神戸市立医療センター中央市民病院	3	神戸労災病院	1	原医院(岡山県)	1
みどり病院	12	足立病院	2	加東市民病院	1	真心会病院(大阪府)	1
明石土山病院	11	神戸協同病院	2	公立神崎総合病院	1	広瀬病院(愛媛県)	1
明舞中央病院	11	新生病院	2	公立宍粟総合病院	1	大寿会病院(大阪府)	1
伊川谷病院	10	すずらん病院	2	酒井病院(姫路)	1		
舞子台病院	10	西神戸医療センター	2	佐野病院	1		

表 2. 2018 年度退院支援に関する数値の推移（入退院支援センター及び医療福祉相談室 活動集計）

		2018.4	2018.5	2018.6	2018.7	2018.8	2018.9	2018.10	2018.11	2018.12	2019.1	2019.2	2019.3	合計/ 平均
支援数	入院	206	210	164	181	191	154	197	194	191	206	186	189	2,269
	外来	30	31	34	36	32	35	41	34	32	43	31	31	410
	合計	236	241	198	217	223	189	238	228	223	249	217	220	2,679
	退院患者総数	967	977	980	1,025	1,007	936	1,012	976	1,109	873	890	955	11,707
	入院患者の介入率 (支援数合計/退院患者総数×100%)	21	21	17	18	19	16	24	19	17	24	21	20	19
入院から退院まで	介入までの日数	4.9	5.8	7.6	6.9	4.9	6.3	7.1	6.1	7.3	7.4	6.3	5.5	6.4
	方針決定までの日数	5.7	6.7	9.4	8.0	6.1	8.8	9.5	8.4	7.5	13.7	8.7	7.9	8.4
	調整開始までの日数	6.8	8.6	11.0	9.1	7.2	10.3	11.3	9.6	9.0	12.7	10.7	8.9	9.6
	在院日数	14.7	19.5	21.9	20.3	18.3	21.3	23.3	20.2	18.8	21.8	20.9	19.7	20.1
転帰先	在宅	848	806	812	851	832	768	841	807	922	700	719	683	9,589
	居住系介護施設	13	17	8	8	22	20	11	15	17	15	9	112	267
	老健	2	1	2	6	2	6	3	4	1	0	2	2	31
	療養病棟	1	0	2	0	0	0	2	0	3	1	3	5	17
	回復期リハ病棟	8	6	10	4	7	11	4	7	11	5	16	7	96
	地域包括ケア病棟	0	2	3	0	1	2	2	1	1	1	5	0	18
	有床診療所	2	0	1	4	0	3	2	2	2	4	1	0	21
	その他病院 (一般、障害者、緩和、精神等)	66	71	58	63	49	45	60	55	61	59	55	56	698
	在宅復帰率(%)	98	92	94	93	95	95	94	94	94	92	93	94	94
算定	退院支援加算1	132	136	111	140	114	106	126	117	156	134	145	128	1,545
	介護支援連携指導料	24	38	23	37	34	15	21	26	28	36	19	19	320
	退院時共同指導料	6	12	6	10	8	12	10	12	5	10	4	6	101

# 入退院支援センター

## ■スタッフ紹介

入院支援看護師 5名

退院支援看護師 4名 合計9名

## ■役割と業務内容

### 《入院支援の役割》

1. 入院前から患者家族が安心して治療・療養に専念できるよう身体的、心理的、社会的背景を把握し予測される問題にチームで早期に介入する。
2. 入院前より地域の関係者と連携し、退院後の在宅療養支援を充実させる。
3. 入院生活をイメージでき患者満足度に繋げる。
4. 早期に関わることで、在宅復帰や転院待ちの患者を減少させ、急性期医療を必要としている患者への病床を提供できる（病床の効率的な運用）。
5. 入院に関する業務を集約化することで業務の効率化を図る。

### 《入院支援の業務》

1. 入院オリエンテーション  
予測される入院期間、必要物品、個室希望、入院に関する書類の説明等。
2. 手術に関するオリエンテーション  
手術前後の流れ、必要物品、トリフローの練習、周術期口腔ケア（歯科受診）、中止薬等の説明。
3. 患者情報の入力。
4. 療養上のリスクアセスメント（褥瘡・栄養・認知・転倒）。
5. 関係職種との連携。

### 《退院支援の役割》

1. 病棟スタッフへ意図的にアプローチし、退院支援における役割が発揮できるように経験不足・知識不足を補い支援する。
2. 患者・家族のその先にある地域へ目を向け、必要な支援をマネジメントする。

### 《退院支援の業務》

1. 退院困難が予測される患者の把握
2. 療養中の病態・ADL 状況の把握
3. 退院に関わる問題・課題の把握
4. カンファレンスの実施
5. 退院後に必要な支援のマネジメント
6. 関係職種との連携

## ■2018年度のトピックス・実績

### 《トピックス》

1. 看護部職員対象に入退院支援センターについての「周知の会」を開催した。
2. 2018年3月より入退院支援センターが開設され、活動の充実を目指し、業務改善を行うとともに業務内容やマニュアルの追加・修正を行った。
3. 予定入院・緊急入院にスムーズに対応できるよう、連絡システムの整備を行った。
4. 退院支援の毎月の実績報告をMSWと共通のツールで行うよう変更した。

### 《実績》

表参照。

## ■今後の展望

患者・家族が安心して治療に専念でき、その後早期に住み慣れた地域で望んだ暮らしが継続できるよう、入退院支援センターの役割拡充と質の向上を目指し取り組んでいく。

表 1. 入院支援件数

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内訳	予定入院	324	336	356	326	366	314	382	319	314	261	256	290	3,844
	緊急入院	174	201	200	242	268	186	235	249	204	158	105	109	2,331
2018年合計		498	537	556	568	634	500	617	568	518	419	361	399	6,175

表 2. 入院支援から退院支援への介入依頼件数

《予定入院》

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院支援件数	324	336	356	326	366	314	382	319	314	261	256	290
退院支援介入依頼件数	31	26	26	13	21	19	23	15	19	19	31	29
割合(%)	9.57	7.74	7.30	3.99	5.74	6.05	6.02	4.70	6.05	7.28	12.11	10.00

《緊急入院》

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院支援件数	174	201	200	242	268	186	235	249	204	158	105	109
退院支援介入依頼件数	80	86	85	87	96	47	81	90	67	38	39	36
割合(%)	45.98	42.79	42.50	35.95	35.82	25.27	34.47	36.14	32.84	24.05	37.14	33.03

表 3. 入院・隊員に関する加算算定件数

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入退院時支援加算(600点)		133	134	117	110	134	126	98	139	132	114	123	137	1,497
介護支援連携指導料(400点)		13	13	15	23	16	19	9	19	28	36	33	33	257
退院時共同指導料	当院看護師×訪問看護師(400点)	6	10	10	4	4	7	6	10	5	7	9	9	87
	当院医師×かかりつけ医(400点+300点)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	当院医師×3者以上(400点+2,000点)	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2

# SPDセンター

## ■スタッフ紹介

室長：辰巳

主任：小畑

副主任：澁谷

スタッフ：山本，赤阪，中谷，本田

## ■業務内容

### 1. 物品管理業務・滅菌器材管理業務

両業務を一元管理することで、過剰在庫・不足在庫の防止や有効期限切れの防止、また診療現場での物品管理業務がなくなり、作業の軽減に繋がる。

当センターでは、診療材料や日用品、事務用品など診療や業務を行うために必要な薬品以外の物品約 2,500 アイテムを院内 48 部署に配送している。

「必要なものを必要な数だけ迅速に！」を活動目標に、現場のニーズに応えられるようコミュニケーションをとりながら状況を把握するよう心掛けている。

### 2. 高額医療機器購入・修理依頼及び保守契約の管理

高額医療機器の購入に関しては、予算枠 3,750 万円（昨年度 1,000 万円を先行使用により実質 2,750 万円）で既に故障している機器やメーカーサポート終了機器等の最優先更新機器の計 5 品目、3,238 万円の高額医療機器を更新した。

また放射線機器の現行 MRI のメーカーサポート終了が近づいており、更新して入れ替えるとなると検査が数週間不可となること、また検査数も増加していることから 2 台目の MRI を特別予算枠で購入し 9 月に稼働させた。

しかし当院は、本館を改築して 11 年が経過し当時購入した医療機器がサポート終了時期を迎え、今後も計画的な更新が必要となってくる。高額医療機器の購入・修理に際しては、できるだけコストを削減するために、値段交渉を行っていく。

医療機器の保守契約については、昨年度より計画していたハイブリッド手術室のアンギオ装置が導入して 4 年が経過していることから今後管路や FPD が故障する確率が増加するために、現在の点検契約からフルメンテ契約に契約変更を行った。

## ■2018 年度のトピックス・実績

2018 年度の消費実績データは、別添の表のとおりである。

外来・病棟・技術部系・事務部門の年間消費合計は、前年度と比較して約 94%となった。

前年は、約 101%であったが、今期は、事務用品及び日用品の低価格品への切り替え、種類を削減したことにより昨年度より実績比が抑えられた。

診療材料については、償還価格に対して納入価格が著しく高額な製品もあり、各メーカー及び納入業者に値下げを依頼しているが、困難な状況である。しかし対抗業者から見積を取り、再度現行業者と値交渉を行い、電極及びガーゼ等の値下げを行い月平均約 40 万円（年間約 500 万円弱）のコスト削減を実施した。

高機能エリアの手術室では、ハイブリッド手術室が BAV（バルーン大動脈弁形成術）や TAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）等の使用で稼働率が上昇している。また手術の低侵襲化によりディスポ材料や高額な診療材料の使用が増加しているため、診療材料費が増加している手術もあるが、全体的には、昨年度より手術件数（3,476 件から 3,204 件）が減少しているため、診療材料費は、前年度比 95%と減少している。

同じく高機能エリアの心血管造影治療室は、前年度よりカテーテルアブレーション（444 件から 466 件）及びペースメーカー埋め込み術（232 件から 251 件）とも件数が増加しているが、CAG（2,081 件から 1,811 件）及び PCI（540 件から 501 件）の件数が大きく減少しているために、前年度比 92%と診療材料費は減少している。

よってカテ室及び手術室合計で、年間消費合計は、前年度比 94%、全体でも前年度比約 94%となった。

消費実績の資料は、毎月物品管理委員会で報告しており、各部署のそれぞれの消費データを提示することで材料の適正使用・使い過ぎの判断になっている。

また新規材料申請においては、1 増 1 減を基本に物品採用量を極力増やさないようにしている。

■今後の展望

今後も計画的に部署定数、倉庫定数の見直し等を行いながら、物品の適正使用に貢献したい。

また、現在使用の診療材料及び事務用品についても、使用に問題がなければ、見積比較を行い、メーカー及び納入業者を変更するなどして、更にコスト削減を図っていく。

また、愛仁会グループの他施設で使用している診療材料の中で当センターでも取り入れられるような安価物品は積極的に検討していく。

手術の低侵襲化が進んでいく中で、手術に対する診療報酬点数は、低下傾向にあるが、診療材料が高額物品を使用することから、今後も医業収入に対する材料費の比率の上昇をいかに抑えるかが課題である。

また高額医療機器に関しては、本館改築後 11 年になり当時購入した医療機器が順次サポート終了を迎えるため、今後も限られた予算の範囲内で医療機器の計画的な更新が必要である。

表. 消費実績

部門	部署名	消費合計 (診療材料/日用品/事務用品)										2017年度 月平均	2018年度 月平均	
		4~6月	前年度比	7~9月	前年度比	10~12月	前年度比	1~3月	前年度比	合計	前年度比			
看護部(病棟)	本館6階病棟	2,317,885	77%	2,326,061	84%	2,715,509	96%	2,301,979	90%	9,661,435	86%	933,120	805,120	
	本館5階病棟	3,800,496	92%	3,404,404	77%	4,103,110	108%	3,671,877	101%	14,979,887	94%	1,332,749	1,248,324	
	本館4階病棟	4,045,667	107%	3,449,050	90%	4,091,838	103%	3,449,622	93%	15,035,977	98%	1,275,135	1,252,998	
	本館3階病棟	4,626,765	99%	3,739,800	87%	3,492,586	67%	3,045,959	62%	14,905,109	78%	1,591,696	1,242,092	
	ICU	5,490,614	74%	6,422,991	98%	6,471,342	80%	6,479,475	81%	24,864,422	83%	2,501,535	2,072,035	
	南館5階病棟	2,919,822	94%	2,584,987	91%	3,134,001	102%	2,918,848	107%	11,555,658	98%	978,315	982,972	
	南館4階病棟	3,490,292	88%	3,214,145	86%	3,567,958	88%	3,115,201	95%	13,387,596	89%	1,255,826	1,115,633	
	南館3階病棟	2,933,843	97%	2,211,720	76%	2,365,663	84%	2,407,866	85%	9,919,093	86%	964,428	826,591	
	HCU	2,979,784	107%	2,530,944	102%	2,752,710	96%	2,222,141	73%	10,485,579	94%	929,616	873,798	
	南館2階病棟	4,759,492	111%	4,351,754	88%	5,331,897	100%	3,617,570	88%	18,060,714	97%	1,557,033	1,505,059	
	NICU・GCU	2,905,650	85%	3,264,243	74%	3,739,897	100%	2,752,584	80%	12,656,375	84%	1,248,337	1,054,698	
看護部(外来他)	消化器内視鏡センター	12,545,940	92%	11,469,588	87%	13,835,866	95%	13,978,586	113%	51,829,979	96%	4,481,574	4,319,165	
	TV室	17,476,111	98%	19,626,588	128%	17,203,644	86%	14,984,248	93%	69,290,590	100%	5,780,610	5,774,216	
	1階前処置室	252,175	108%	239,654	135%	245,612	89%	273,607	139%	1,011,048	115%	73,576	84,254	
	透析室	3,755,879	85%	3,807,848	97%	3,446,231	77%	3,242,248	92%	14,252,205	87%	1,364,803	1,187,684	
	小児科外来	287,597	117%	224,770	105%	312,941	134%	320,750	124%	1,146,058	120%	79,288	95,505	
	整形外科外来	222,321	115%	240,576	107%	195,659	106%	254,438	142%	912,994	117%	65,178	76,083	
	内科外来	6,579,844	142%	6,717,376	141%	6,642,238	130%	5,879,980	114%	26,819,439	131%	1,639,917	2,151,620	
	中央処置室	2,538,557	98%	2,872,870	105%	2,866,020	110%	2,449,636	90%	10,727,083	101%	885,539	893,924	
	化学療法室	491,614	77%	519,849	83%	519,875	95%	530,614	101%	2,062,152	88%	195,170	171,846	
	外科外来	129,848	67%	163,229	38%	193,490	79%	142,746	69%	629,111	58%	89,812	52,426	
	心臓血管外科外来	23,444	57%	37,252	133%	41,277	114%	26,221	85%	128,194	94%	11,338	10,683	
	産婦人科外来	1,113,715	68%	1,402,907	101%	1,286,405	97%	1,301,569	112%	5,104,595	93%	459,048	425,383	
	泌尿器科外来	594,661	238%	464,079	131%	512,118	100%	439,264	81%	2,010,122	121%	138,264	167,510	
	眼科外来	4,695	87%	894	23%	8,852	98%	9,013	160%	23,454	99%	1,988	1,954	
	救急センター	5,411,642	85%	5,794,515	103%	5,972,620	102%	6,029,962	107%	23,208,739	99%	1,959,999	1,934,082	
	技術部	臨床工学科	4,569,609	72%	5,379,501	76%	4,666,831	51%	6,966,840	98%	21,581,781	73%	2,467,397	1,798,482
		リハビリテーション科	83,070	113%	81,558	139%	66,113	96%	89,147	103%	319,888	111%	23,950	26,657
		病理診断科	483,123	76%	580,476	91%	566,453	68%	600,805	153%	2,230,857	89%	208,825	185,905
		2階検査科	408,977	109%	432,314	102%	561,130	104%	350,425	87%	1,752,846	101%	144,947	146,070
		1階検査科	2,225,775	92%	2,197,701	71%	1,999,846	70%	1,760,120	119%	8,183,442	83%	822,342	681,953
放射線科		1,788,644	103%	1,550,965	85%	1,776,775	99%	1,495,503	100%	6,611,687	96%	572,002	550,991	
栄養管理科		155,865	193%	233,331	133%	179,142	87%	123,411	87%	691,749	114%	50,401	57,646	
薬剤科		2,785,499	93%	2,525,672	81%	3,139,570	91%	2,395,608	83%	10,846,349	87%	1,038,246	903,882	
事務部他	診療情報管理室	62,950	116%	62,996	100%	94,820	136%	90,157	171%	310,723	130%	19,989	25,894	
	地域医療連絡室	282,470	82%	297,400	109%	375,949	142%	304,527	121%	1,260,345	111%	94,524	105,029	
	医事科	820,635	81%	825,222	225%	1,075,187	78%	854,076	101%	3,575,120	99%	300,649	297,927	
	経営企画室	58,686	55%	38,261	87%	48,191	71%	17,144	37%	162,281	61%	22,069	13,523	
	管理科	343,753	83%	403,411	105%	503,235	129%	660,693	125%	1,911,092	111%	143,244	159,258	
	リネージュ	862,502	107%	781,893	107%	866,574	111%	787,372	98%	3,298,341	106%	269,572	274,862	
	SPDセンター	39,589	93%	36,027	96%	43,747	90%	43,837	121%	163,199	99%	13,758	13,600	
看護学校	7,594	21%	5,243	215%	57,809	246%	14,771	52%	85,416	94%	7,550	7,118		
看護部長室	227,212	68%	438,212	71%	231,219	51%	287,186	82%	1,183,828	68%	145,977	98,652		
手術・カテ室を除く合計		106,903,305	93%	106,952,274	96%	111,295,547	90%	102,685,624	95%	427,836,750	94%	38,129,344	35,653,063	
看護部(高機能)	手術室(院内SPD)	154,943,340	106%	108,438,169	105%	142,319,600	109%	80,152,158	55%	465,853,267	92%	43,893,857	40,487,772	
	(宮野SPD)	139,340,829	97%	147,946,949	100%	172,417,926	111%	134,275,233	85%	593,980,937	98%	50,391,457	49,498,411	
	心臓血管造影治療室	347,785,085	103%	331,866,710	103%	326,742,857	95%	234,507,191	68%	1,240,901,844	92%	112,377,646	103,408,487	
手術・カテ室合計		642,069,254	102%	588,251,828	103%	641,480,384	102%	448,934,582	69%	2,320,736,048	94%	206,663,160	193,394,671	
総合計		748,972,558	101%	695,204,102	102%	752,775,931	100%	551,620,207	73%	2,748,572,798	94%	244,792,504	229,047,733	

# 経営企画室

## ■スタッフ紹介

室長 六車直樹

副主任 三木紗知世

科員 前岡瑞希, 藤澤かれん

## ■業務内容

当部署は、院内におけるコンピューター関連の業務を行う部署である。システムの導入から、稼働後のメンテナンス全般を行っている。

具体的には、システムに関する各種問い合わせ、サーバやクライアント、プリンタなどのハードウェアトラブル対応、ソフトウェアの不具合やマスタメンテナンス、ネットワークの管理、活動や病床機能報告などのデータ抽出作業、ホームページの管理を行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

2017年4月の入職時より医事科へ研修に出していた藤澤が、6月より正式に経営企画室の科員となり、ようやく定員を充足するようになった。医事科での病棟業務、算定業務を経験したことから、当部署での必要な知識の飲み込みも早く、貴重な人材に育っている。

3月から4月にかけて、診療報酬改定作業があり、例年通りの対応を行った。

4月から感染制御支援システム導入のWGを行い、サーバ構築、マスタ設定、機能説明会の実施、操作説明会の実施を経て、10月より稼働している。

2008年の本館稼働時より使用していたメインスイッチの保守切れに伴い、メインスイッチ及び本館1階、2階のフロアスイッチの交換を7月13日から14日にかけて行った。本館側全台ではなく、トラブル時の影響が大きい1階と2階のみ交換を行うことで、費用の低減を図っている。

2019年度には会計監査を受ける必要があり、会計データの根拠データとなるシステムの監査も受ける必要があり、本部と連携し対応している。

12月には10年以上使用した採血管準備システムの更新を行った。採血の待ち時間によるクレームが発生していることから、採血台を1台増設し、受付業務の効率化を図るため、受付機の導入を行った。

1月よりアンギオのスケジュール管理をシステムを用いて行いたいという要望に対応するため、手術のスケジュー

ール管理を行っている ORSYS の機能を利用して行う方向で調整し、オーダに必要な要件、看護記録に必要な要件等を洗い出し、システム改修の調整をしている。

2017年11月27日にホームページの更新を行ったが、看護学校と産婦人科専用のページは今年度に持ち越していた。確定した原稿の修正が何度もあったため、当初の予定より大幅に遅れたが、3月29日に公開することができた。

## ■今後の展望

アンギオスケジュールの ORSYS 管理に伴うシステム改修を行い、早期に稼働させる必要がある。

7月には電子カルテのレベルアップ作業が予定されている。また、同じタイミングで南館のネットワークの更新を計画している。機器の保守切れを考えると2年ほど前倒しになるが、10年以上使用しているインターネット系のスイッチに流用を行うこと、月額ネットワークの保守料が多少下がること、電子カルテの停止回数を減らす観点から、前倒しで行うことにした。

当院のパスでは、電子カルテのアウトカム機能を利用していない。パスを見直し、アウトカムの入力や評価を行う必要があることから、パスのWGが立ち上がるため、マスタ設定等の協力を行う。

健診業務においてはシステムを導入しておらず、企業からデータでの結果提出要求に対応できない、過去の検査結果が表示できないことから受診者サービスが他施設より劣っている、業務の拡大、業務の効率化が難しいといった理由によりシステムの導入を検討している。

2020年度には仮想化したサーバのハード的な寿命を迎えることから、仕様の確定と本格的な価格交渉を行う必要がある。データベースを取り扱うソフトメーカーが仮想環境を狙い撃ちしたライセンス形態の改悪を行っている。また、既存の環境から新しい環境へのデータ移行を、なるべくシステムを停止することなく対応する必要があり、そういった課題をクリアできるよう調整を行う必要がある。

2021年度には電子カルテの更新時期を迎える。高槻病院や千船病院に導入した富士通のHXにするのか、現行のGXにするのか、他社に乗り換えるのか、さまざまな選択肢がある中で、電子カルテ更新WGを立ち上げ、当院にとって相応しい電子カルテの選定を行う。



## 医師卒後臨床研修

### ■明石医療センター臨床研修プログラム（改訂版）

#### (1) 研修プログラムの概要

1年次は3か月の総合内科・3か月の内科系診療科（総合内科以外）、6か月の外科系（外科・麻酔科各2か月、心臓血管外科・整形外科各1か月）の必修科目の研修を行う（救急は2年間を通じて当直研修・救急外来を並行）。

2年次は1か月の産婦人科、小児科、精神科、地域医療研修（地域の診療所、夜間休日応急診療所）を行い、残り8か月は選択科目から選択し研修を行う。各研修医の希望を最大限に尊重したフレキシブルな研修スケジュール設定が可能となっている。

#### (2) 研修協力施設

地域医療研修：「■2018年地域医療研修診療科」に記載

精神科研修：明石土山病院、明石こころのホスピタル

### ■2018年度臨床研修医

明石医療センターの2018年度の基幹型・協力型15名の研修医を表1に提示する。

### ■2018年地域医療研修診療科

地域医療研修（1か月）では、1週間の救急車・夜間休日応急診療所の研修に加えて、地域診療所での研修を実施した。表2に掲示する。

### ■マッチング・研修医募集活動

#### 【研修医募集活動】

- ・病院ホームページ、REIS・PMETなどの臨床研修病院紹介サイトでの広報
- ・病院見学
- ・神戸大学6年生の学外実習
- ・本院研修中の研修医から後輩たちへの病院紹介
- ・近畿地区臨床研修病院合同説明会（2月）
- ・兵庫県主催臨床研修病院合同説明会（5月）
- ・レジナビ主催臨床研修病院合同説明会（7月）
- ・総合内科個別実習
- ・ホスピタリストカフェ開催（7月、2019年3月）

<各内容>

第8回：7月28日（土）参加者48名（院外25名、院

内研修医11名）で【レクチャー：アルコール・グループワーク・ケースシミュレーション・AMC版格付けチェック】

第9回：2019年3月23日（土）参加者45名（院外21名、院内研修医15名）で【レクチャー：フレイル・グループワーク・ケースシミュレーション・AMC格付けチェック】

ホスピタリストカフェに参加した6年生の学生23名のうち20名が当院の2018年度のマッチング選考試験（総受験人数21名）を受験、またマッチングした6名が参加者であった。

2018年度を含めた過去5年間の病院見学・マッチング学生数などを表3に提示する。

### ■明石医療センター臨床研修の課題

#### (1) 研修プログラム

症例取得のため外部の病院で研修を受けたいという意見があったが、院内で取得可能か検討とする。また、精神科研修の研修内容に関する意見があり、連携病院との関係もあるが、受け入れ先の確保が必要である。

#### (2) 研修医

最近の研修医はやる気のある優秀な人が集まっているとの評価を受けている。一番の問題は、病院の人材として欲しい診療科を希望する研修医が少ないことが挙げられる。

#### (3) 臨床研修病院評価機構

病院機能評価機構のように、臨床研修病院の研修を外部から評価するNPOが臨床研修病院評価機構である。

臨床研修を更にレベルアップさせて優秀な研修医を得るためにも、本機構の評価を受かることを目標としたい。そのためには、委員会の開催数や研修医の作成するサマリーを充実させるなど、研修医の評価や、研修医から指導医の評価を確実に実施することが求められる。

#### (4) 基本的臨床能力評価試験の実施について

実施日：2019年1月21日（月）

結果：1年目の点数（411病院中63位、平均点33.33、偏差値57.93）、2年目の点数（441病院中121位、平均点33.17、偏差値53.2）

2017年度の1年次臨床能力評価試験の結果と比べ、2018年度は総合結果が向上していた。各診療科による学問的な指導や、2年間の研修中での学習等による成果と考える。今後も維持・向上できるように指導体制を整えたい。

### ■今後の展望

2020年の医師法改正に伴い、臨床指定病院として求められる基準が変更される。当院として対応が必要となる項目は、週単位での研修期間の設定や、一般外来研修、救急のブロック研修、多職種評価、EPOC（インターネットを用いた評価システム）などの導入が挙げられる。

2019年度は、2020年度に向けた新体制構築のために指導医をはじめとする診療部やその他関係スタッフへの周知と理解、また環境の整備等を行うことが必要である。

表 1. 臨床研修医 [基幹型・協力型]

		氏名	卒業年	出身大学	研修後進路
1年次	基幹型	長 陽二郎	18	和歌山県立医科大学	
		樺田高浩	18	弘前大学	
		尾本仁那	18	神戸大学	
		北爪麻衣	18	神戸大学	
		胡 脩平	18	鳥取大学	
		横田和斗	18	神戸大学	
		白井佳祐	18	神戸大学	
	協力型	土井真由実	18	香川大学	
		塩屋暁子	18	神戸大学	
2年次	基幹型	小島正樹	17	神戸大学	神戸大学医学部附属病院
		植田和宏	17	関西医科大学	石井記念愛染園附属愛染橋病院
		森本優佳子	17	高知大学	明石医療センター麻酔科
		島田淳司	17	神戸大学	神戸労災病院
		山本真有佳	17	愛媛大学	神戸大学医学部附属病院
		吉谷信幸	17	徳島大学	明石医療センター心臓血管外科

表 2. 地域医療研修診療科

		診療所①	診療所②	診療所③
9月	植田	王子クリニック	石田内科循環器科	
	森本	江本内科循環器科医院	朝原クリニック	
	山本	尾松医院	そが内科クリニック	
10月	小島	石田内科循環器科	山本クリニック	王子クリニック
	島田	平崎内科循環器科クリニック	石田内科循環器科	
	吉谷	尾松医院	平崎内科循環器科クリニック	

表 3. 病院見学者数・マッチング参加学生推移

(単位:人)

年度	病院見学者数	マッチング参加数	マッチ数	定員
2014	61	15	7	7
2015	90	20	7	7
2016	85	18	7	7
2017	73	16	7	7
2018	65	21	7	7



# 明石医療センター 附属看護専門学校

〒674-0063

明石市大久保町八木 743 番 33 号

URL: <https://www.amcl.jp/school/>

## 理念

明石医療センター附属看護専門学校は、高度多様化する保健医療福祉ニーズに対応しうる、科学的かつ人間的な看護を行える人材を育成する。

## 施設概要

■学科・1 学年定員/看護学科（全日制 40 名）

## 2018 年度総括

本年度の目標であった①主たる実習施設の明石医療センターでの臨床実習の充実、法人の助産師養成校への推薦や卒後適正に応じたグループ施設への就職等、他校にない強みを生かし、周辺大学や競合専門学校との違いを明確に、優秀な学生の確保に繋がった。②2014 年度より開始した学校自己点検・自己評価をステップアップし、学校関係者評価委員会を設立・開催して、学校関係者委員による学校評価を実施、看護教育の質向上のための意見や考え方が収集できた。③専任教員の確保・定着のため、臨床との相互連携を活性化し、教育に係るさまざまな環境の再整備を行った結果、教職員の定着による学校と臨床現場、教員間、教員と学生及び保護者とのコミュニケーションが推進され、働きやすい職場環境形成へ基盤ができたと考える。

## 2018 年度活動状況

- 4 月 始業式、入学式、防災研修（講話）、学生健康診断
- 5 月 看護の日記念行事

- 6 月 野外研修（1 年次）、基礎看護学実習Ⅱ（2 年次）
- 7 月 オープンキャンパス、実習指導者会学習会
- 8 月 夏季休業、オープンキャンパス
- 9 月 特別講演、学校祭（オープンキャンパス併催）
- 10 月 戴帽式（1 年次）、関西看護学生研究大会（2 年次）
- 11 月 基礎看護学実習Ⅰ（1 年次）、防災訓練、推薦・社会人入試
- 12 月 統合実習（3 年次）、学校見学会、冬季休業
- 1 月 成人の日記念行事、一般入試、国家試験特別講義（3 年次）
- 2 月 看護師国家試験（3 年次）、領域別実習（2 年次）
- 3 月 卒業式、入学前説明会、オープンキャンパス、春季休業

## 2019 年度に向けて

本校は 17 年目を迎え、東播磨圏域を基盤に、地域に根ざした専修学校として認知されてきたが、少子化や景気回復、看護大学（学部）の増加等による専門学校進学者の減少など、学生確保の背景には大きな変化が生じてきている。しかし、優秀な看護師を養成して保健・医療・介護福祉分野へ供給するという使命は不変であり、安定した学校運営を維持するため、次年度は次の事業を計画した。大きくは、①働き方改革への対応として公平感のある労務管理。②2022 年度から始まる新カリキュラムの対応作業の準備開始。③学校運営体制の強化としてホームページや学校案内の内容等の充実を図り、学生と地域への情報発信を拡大し、本校の学校評価の向上に努め、盤石の体制で安定的学校活動の基盤を守っていきたい。

# 明石医療センター附属看護専門学校

## ■スタッフ紹介

学校長	小管浩文	副学校長	台野悦子
教育主事	水口正子	事務長	石井博茂
実習調整者	小林禎次子	学科調整者	森 里香
専任教員	玉木佳子	専任教員	堀 真奈美
専任教員	今瀬立子	専任教員	楠本奈巳
専任教員	田頭典子	事務員	土井友紀奈
事務員	藤原仁美	図書司書	原野昌子

## ■業務内容

全日制 3 年課程 1 学年 40 名の定員である。2018 年 4 月に 16 回生 42 名が入学、2019 年 3 月には第 14 回卒業生 39 名が卒業、第 14 回の卒業生にて輩出した看護師は 520 名となった。また、第 108 回看護師国家試験に 39 名が受験し、全員合格という喜ばしい結果となった（表 1）。

今期の目標は、①昨年度に引き続き、管理職・専任教員の育成と能力開発支援、②看護基礎教育の質向上、③法人グループ学校と連携し、質の向上を目指し活動。専任教員の育成と能力開発支援及び看護基礎教育の質向上の具現化を目指した。①ではファカルティ・ディベロップメント研修により、管理職は専任教員養成講座の講師や、実習指導者講習会の講師を務め管理職としての視点を学んだ。また、専任教員は担当専門領域での経験や研修会での議論を通じて、論理的思考の訓練ができたと考える。②では、臨地実習施設及び法人施設の実習指導者とともに、東京工科大学医療保健学部看護学科名誉教授 齊藤茂子先生による研修で、教員と指導者の役割と効果的な指導方法の考え方を教授され、参加者は実習対象者の思考（行動）を分析して対峙する術を学び、その後の指導に活かすことができた。また、③は愛仁会看護助産専門学校との共催にて、発達に課題を抱える学生の理解と支援をテーマに、大阪医科大学 LD センター顧問の竹田契一先生の講義を受講。対象の学生に対する指導や教育の方法について示唆を得、今後、視点を変えることで対象学生に対峙することの理解を深めることができ、これらの研修会で学んだことを、教員各々が工夫実践した。

## ■2018 年度のトピックス・実績

学校関係者評価委員会を開催すべく上半期に関係者委員の委嘱を実施、同時に3か年の学校自己評価内容をサマリした（図1）。下半期にサマリした内容のうち平均点が 3.5p以下を当面の課題と考え、評価内容を絞り委員に評価を依頼。2019年1月に初回の学校関係者評価委員会を開催した結果、種々の意見を拝受したことで、以後の委員会への参考としたい。但し、結果的に3pとなった「法令の順守」については、自己点検・自己評価を3年1クールとしたため、2年間は公表できなかったことで評価点数を意図的に3pとした。また、2019年度の入学試験に関しては、今年度も受験者は昨年比で15%程度受験者が減少したが、高校生受験者の学校評定値については4.0pオーバーが継続しており、高等学校の成績上位者が入学していることで地域からの評価も高い（図2）。よって、次年度の入学者は表2のとおりである。また、進学ガイダンスやオープンキャンパスへの参加者数は高校生の1・2年生が急増しており、5年前から約30%の増加となっていることで、今後の受験者増へ繋がるよう尽力している。受験対象者の6割は看護大学受験の傾向が伺え、看護専門学校受験者は4割を切ろうとしており、受験者数は逆転現象にある。これはここ数年、社会経済が安定傾向となり、高等学校が高学歴化の有利性を示唆されているようで、専門学校に対する高校の進学指導者意識には相応の乖離があると考え、次年度に向けた対策を講じる必要があるものと考えている。

## ■今後の展望

開校 17 年目となり、地域の専修学校として認知されているが、専門学校進学者の減少など、学生確保の背景には大きな変化が生じてきていることで、広報の改革を含め、学校からの情報発信を更に強化せねばならないと考えているとともに、働き方改革の具現化、新カリキュラム移行への準備など、迫られる課題も多い。今後も、時流を見誤ることなく、情報収集・情報発信を意識した学校活動により安定した教育活動を継続・維持しなければならないと考える。

表 1. 看護師国家試験合格状況及び入卒状況

明細は過去5か年、合計は開設時からの累計

回生(国家試験回)	国試発表年月	本校合格者人数	本校合格率	全国合格率	入学時学生数	卒業者数	備考
10(104回)	2015.3	40	100%	90.0%	44	40	
11(105回)	2016.3	42	100%	89.4%	40	42	
12(106回)	2017.3	39	98%	88.5%	44	40	
13(107回)	2018.3	45	100%	91.0%	43	44	既卒者1名、合格
14(108回)	2019.3	39	100%	89.3%	43	39	
合計		520			585	520	

表 2. 入学試験応募者・受験者数及び入学生数の状況

年度(回生)	入試方法	応募者総数	欠席者数	受験者数	合格者数	合格率	補欠合格者数	合格辞退者	入学者		
									合格者	補欠合格者	計
2019 (17)	★指定校推薦	7	0	7	7	100%		0	7		44
	公募推薦	33	0	33	14	42%		0	14		
	社会人	18	2	16	2	13%		0	2		
	一般一次	77	7	70	44	63%		-			
	一般二次	44	0	44	26	59%	4	5	21		
	合計	135	9	126	49	39%		5	44		
2018 (16)	★指定校推薦	7	0	7	7	100%		0	7		42
	公募推薦	26	0	26	11	42%		0	11		
	社会人	23	2	21	5	24%		0	5		
	一般一次	93	10	83	58	70%		-			
	一般二次	58	2	56	26	46%	4	7	19		
	合計	149	14	137	49	36%		7	42		
2017 (15)	★指定校推薦	7	0	7	7	100%		0	7		43
	公募推薦	38	0	38	13	34%		0	13		
	社会人	26	3	23	3	13%		0	3		
	一般一次	103	5	98	59	60%		-			
	一般二次	59	0	59	25	42%	5	5	20		
	合計	174	8	166	48	29%		5	43		

2014年度～2017年度自己評価平均値

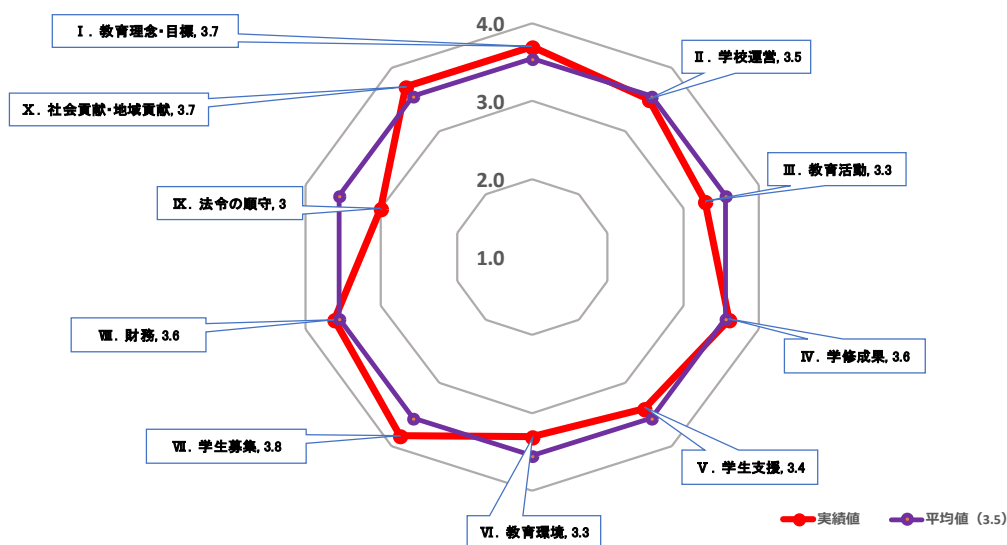


図 1. 学校自己点検・自己評価 1 クール目 (3 か年) の評価平均値 (3.5p) と実績値

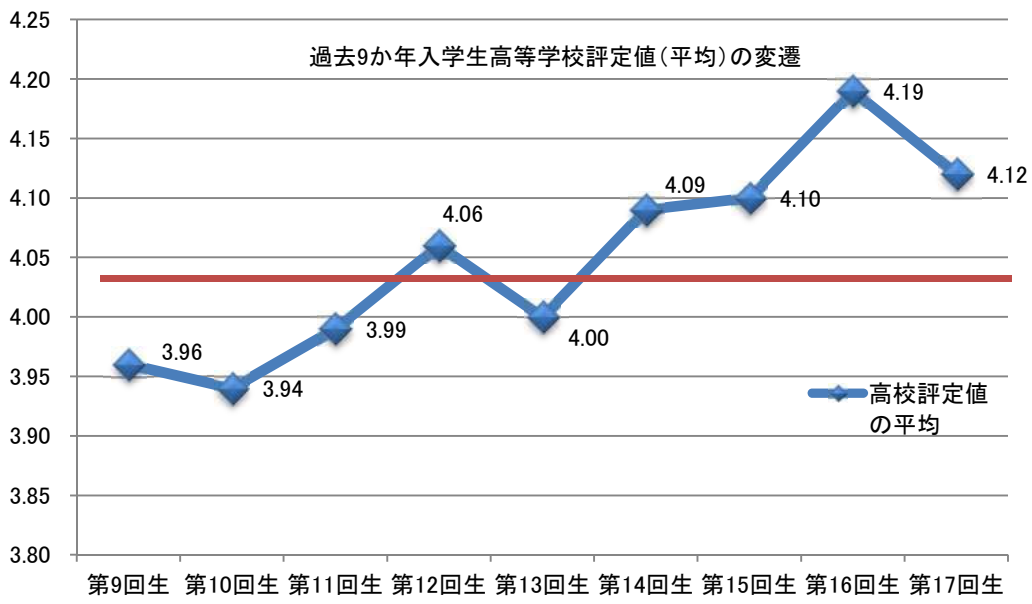


図 2. 入学生の高等学校評定値（平均）の変遷



# 社会福祉法人 愛和会 (宝塚地区)

〒665-0874

宝塚市中筋 2 丁目 10 番 18 号

URL:<http://www.aiwakai.or.jp/aiwakai/>

## 社会福祉法人愛和会 理念

1. 広く社会のためにより良い保健福祉サービスを提供し、生きがいのある社会生活の増進に貢献する。
2. 人間の尊厳と人権を尊重し、公平で平等な法人活動に努める。
3. 地域社会との協調を深め、創意工夫をこらして利用者の保健福祉の向上と法人の健全な発展を図る。
4. 保健福祉に携わるものとしての使命を自覚し、学識、技術の研鑽と人間性の向上に努める。
5. 自主性と和の精神を重んじ、利用者と共に法人に働く誇りと喜びを共にする。

モットー

貢献・創意・協調

## 愛和会（宝塚地区）施設一覧

- ・特別養護老人ホーム宝塚あいわ苑
- ・宝塚あいわ苑デイサービスセンター
- ・宝塚あいわ苑訪問看護ステーション
- ・ケアプランセンター宝塚あいわ苑
- ・ヘルパーステーション宝塚あいわ苑
- ・なかよし保育園
- ・中筋児童館

### 【あいわ結愛<sup>ゆめ</sup>ガーデン】

- ・グループホーム宝塚あいわ苑
- ・小規模多機能型居宅介護 こもれび
- ・認知症対応型通所介護 花見鳥（はなみどり）
- ・長尾地域包括支援センター

## 2018 年度総括

2018 年度は、地域との繋がりや連携強化をどのように戦略として継続していくかを模索する 1 年となった。特養宝塚あいわ苑は、利用者の重度化が進み、認知症高齢者の個別的なケアの重要性が一層明らかになり、職員一人ひとりの質の向上に取り組んだ。医療処置を必要とする利用者の増加に伴い、明石医療センターと連携し皮膚創傷ケア認定看護師とともにストーマケアを実施した。在宅部門は、通所介護は新しいレクリエーションの導入や 4DAS の PR などで他事業者への営業活動を積極的に継続し利用者の紹介が上昇した。しかし、マイナス改訂の煽りを受け、訪問看護、訪問介護や居宅介護支援事業所は苦戦を強いられることとなった。あいわ結愛ガーデンの 3 事業所（グループホーム・小規模多機能型居宅介護、認知症対応型通所介護）は前年から更に実績を伸ばすことができ、安定した実績を残すことができた。地域の開業医や訪問看護ステーションと連携してグループホームで看取りを行うなど、利用者のニーズにあった手厚いケアの提供ができたと考える。児童福祉部門のなかよし保育園では、子育て支援事業のプログラムの見直しを行い、親子で参加するプログラムや、保護者がリラックスできるプログラムを託児しながら実施するなど、育児負担軽減の取り組みを行った。中筋児童館も「一緒にプロジェクト」や「赤ちゃん学校へ行こう」などに参加し、地域住民や地域団体と一緒に配慮が必要な子どもの見守りや、学校や行政とのネットワークの構築に努めた。

宝塚地区全体では、長尾地区まちづくり協議会の「防

災・防犯部会」に所属し、地域の防災訓練に多数参加した。  
また、1月に開催した福祉避難所開設訓練では、地域の防災訓練と連動した開設訓練を実施し、市内や県外の行政・福祉の関係者が多く見学に来られた。

## 2018 年度活動状況

4月 期首全集及び役職辞令交付式、保育園入園式、在宅介護対策委員会、業務改善リーダー研修、業務改善ヒヤリング

5月 トライやるウィーク受け入れ、全体研修会、業務改善リーダー研修、オレンジカフェ結愛カフェ FIKA、外部監査受審

6月 在宅介護対策委員会、消防訓練、業務改善リーダー研修、全体研修会、オレンジカフェ結愛カフェ FIKA、大阪産業大学職場見学受け入れ

7月 長尾ふれあいひろば夏祭り、病児保育研究大会、業務改善ヒヤリング、業務改善リーダー研修、上半期褒賞表彰式、全体研修会、オレンジカフェ結愛カフェ FIKA

8月 親子防災教室、在宅介護対策委員会、業務改善リーダー研修及び業務改善ヒヤリング、オレンジカフェ結愛カフェ FIKA、全体研修会、夏祭り（特養、結愛ガーデン）、お泊り保育、宝塚 23 万人の線香花火大会、Waiwai コミュニティあいわ起工式

9月 あいわの集い、全体研修会、敬老会（特養、結愛ガーデン）、業務改善予演会、オレンジカフェ結愛カフェ FIKA、介護福祉施設合同業務改善発表会、市長訪問（100 歳記念事業）、外部監査受審

10月 全集、全体研修会、在宅介護対策委員会、オレンジカフェ結愛カフェ FIKA、丸橋小学校防災訓練

11月 阪神昆陽特別支援学校実習生受け入れ、全体研修会、オレンジカフェ結愛カフェ FIKA、中間決算監査、介護を考える市民フォーラム、丸橋消防訓練、宝塚市総合防災訓練、0 歳から 100 歳コンサート、丸橋小学校防災訓練

12月 在宅介護対策委員会、全体研修会、下半期褒賞及び忘年会、JA ふれあい祭り、納会、大阪産業大

学職場見学受け入れ、期中監査、長尾南小学校防災訓練、児童館監査、子どもと地域の課題を考える会

1月 全集及び新年互礼会、初詣、鏡開き、業務改善ヒヤリング、全体研修会、長尾小学校防災訓練、福祉避難所開設訓練

2月 在宅介護対策委員会、全体研修会、オレンジカフェ結愛カフェ FIKA、職員検診、なかよし発表会、あいわの集い、Waiwai コミュニティあいわ竣工式、福祉避難所参集訓練、南ひばりが丘中学校防災訓練、長尾地域包括支援センター監査

3月 第三者評価受審（グループホーム）、全体研修会、業務改善予演会、介護福祉施設合同業務改善発表会、防災ラジオ de ウォーク、期中監査、保育証書授与式

## 2019 年度に向けて

2019 年度は、昨年より開始された第 7 期介護保険事業計画に沿い、「宝塚版地域包括ケア」の構築を更に進めたい。旧長尾支所跡地利活用事業（Waiwai コミュニティあいわ）がいよいよオープンする。ソーシャルイノベーションの実践の場として、成熟した介護・福祉市場における新たな社会課題やニーズの発見と、経済的な価値の創造へと繋げたい。

既存事業でも、特養宝塚あいわ苑入所者の重度化への対応を強化し、介護福祉士の質の向上を図りたい。在宅部門・地域密着型事業・児童福祉部門では、先に述べた新規事業との相乗効果によって、新たな利用者を適切なサービスに繋げられる仕組みの構築が求められる。また、診療所（あいわクリニック）の開設により、医療ニーズへの対応だけでなく、主力である介護事業との連携による、利用者サービスの一層の質の向上が求められる。

また、地域や行政との良好な関係構築はできているが、今年度は相互理解や関係性の質を高めるべく、多くの対話の場を持ち、一層の地域理解・顧客理解に繋げていきたい。そのため、介護技術の研鑽に加え、ソーシャルスキルを養うための職員教育体制も構築していきたい。



## 特別養護老人ホーム 宝塚あいわ苑

### ■スタッフ紹介

施設長	1名
医師	1名
介護職	32名（非常勤含む）
看護職	4名
ケアマネージャー	1名
生活相談員	2名
管理栄養士	2名（非常勤含む）

### ■活動内容

1. ケア提供体制の整備
  - 1) 各フロアに看護師を固定配置
  - 2) ショートステイ担当専任介護福祉士の配置
  - 3) ケアアシスタントの配置（シーツ交換・浴室清掃・物品補充などの業務限定短時間勤務者）
2. 感染予防強化：インフルエンザ対策
  - 1) ショートステイ利用者自宅検温実施  
※自宅お迎え時検温実施し、家族に発熱時利用不可の説明同意を得る。
  - 2) 3時間ごとの換気の徹底
3. 利用者の重度化対応のための人材育成
  - 1) 喀痰吸引研修の計画的受講
  - 2) 皮膚創傷ケア認定看護師のストーマケア指導実施
4. ショートステイと連動した効率的ベッド運用の実施

### ■2018年度のトピックス・実績

- ・入所ロング利用者の医療機関入院数は23件、延べ日数470日であった。昨年度は56件であり約半数に減少した。
- ・退所者は13名であり、退所者の内訳は死亡退所11名、長期入院2名である。死亡退所の内訳は苑内看取り10名で医療施設の死亡は1名であった。
- ・ショートステイ利用者は前年に比して89件増加した。

空床ベッドを効率的に活用し、緊急ショートを受け入れもスムーズに実施できた。重度利用者を受け入れる医療連携強化加算を算定し、総収入が前年度を上回る結果となった。医療連携強化加算の対象者は胃瘻・人工肛門造設者であり、医療連携加算人数は月平均5.3名であった。医療処置を必要とする利用者の増加に伴い、明石医療センター看護部と連携し、皮膚創傷ケア認定看護師とともにストーマケアを実施した。また、その様子をビデオ撮影し、看護師・介護福祉士の学習教材及びケアの評価に活用した。

重度利用者受け入れのための人材育成として、喀痰吸引研修4名、認知症実践研修2名、認知症リーダー研修1名を受講することができた。

・ショートステイのベッド回転率は2.2であり、入退所の煩雑さを回避するためと責任の所在を明確にするためにショートステイ担当専任介護福祉士を配置した。相談員との窓口業務や持参物品の確認業務など整備した。その結果、インシデントや家族からの問い合わせが減少した。

・インフルエンザの流行時期に合わせて11月からショートステイのお迎え時、家族立ち合いのもと検温を実施し、発熱者に対しては利用不可を説明し同意を得ることを実施した。また、3時間ごとの換気を実施した。その結果、インフルエンザ発生はなかった。

### ■今後の展望

地域包括ケアシステム推進のために特別養護老人ホームに求められていることは医療ニーズの対応や連携・自立支援・重度化防止及び対応である。宝塚あいわ苑を利用されている方の大半は何らかの病気や障害を持っている。あいわクリニックと連携し、日々の生活を支える介護と医療的管理の双方の充実を図りたいと考える。また、認定看護師との連携を強化し、科学的な根拠に基づいた個別ケアの実践を目指したい。

# 宝塚あいわ苑 デイサービスセンター

## ■スタッフ紹介

科長 1名（看護師）  
 介護福祉士 7名（非常勤含む）  
 介護員 8名（非常勤含む）  
 看護師 2名（非常勤含む）  
 理学療法士 1名 作業療法士 1名  
 社会福祉士 1名 ドライバー 2名

## ■業務内容

今年度は、介護保険法改定に即した、スムーズな事業運営の推進と実施及び、新規利用獲得を目指した。2018年度に新設されたADL維持加算等は、現在のデイサービスの状況からは加算取得が困難であるため、現状の加算項目のまま進めることとした。

継続的に実施している営業活動の結果、利用者数は増加傾向となっている。新規利用者数は2017年度の56件から92件と大幅に増加し、他事業所からの新規利用者数は2017年度の25件から51件とこちらも大幅に増加した。また利用者層は重度利用者からの依頼を積極的に受け入れた。さらにキャンセル内容を精査し、振り替え利用の勧奨を職員間で周知し、利用者確保に努めた。

獲得した新規利用者の定着を図るため、現行レクリエーションに加え、ボランティアの受け入れを積極的に行っている。現在8団体のボランティアを定期的に受け入れ、月

平均5回のボランティア活動を実施し、飽きないレクリエーションが実施できている。

認知症ケアの取り組みにおいては、前年度から実施している4DAS（認知症機能訓練）の定着に職員全員で取り組んだ。3月には4DASの取り組みを外部研修の場で発表するなど、定着から質の向上の段階に入った。昨年度から個別機能訓練にも4DASの要素を取り入れ、日常生活機能訓練の充実に努めた結果、利用者の自立支援に繋がり、家族の介護負担軽減を図ることができた。

## ■2018年度の特ピックス・実績

今年度の実績は延べ利用者人数11,080名、年間の日平均実績は35.9で前年比96.2%と前年度を若干下回った。介護報酬のマイナス改定の煽りを受け増収には至らなかった。しかし、新規利用者の増加、外部のケアプランセンターからの依頼は増加している。

## ■今後の展望

1. 安定稼働に向けた利用者の獲得と人材確保
2. スタッフの教育システムの構築
3. 個別機能訓練の充実
4. 認知症ケアへの継続的な取り組みと質の向上
5. 同法人内の事業との連携強化と競合回避

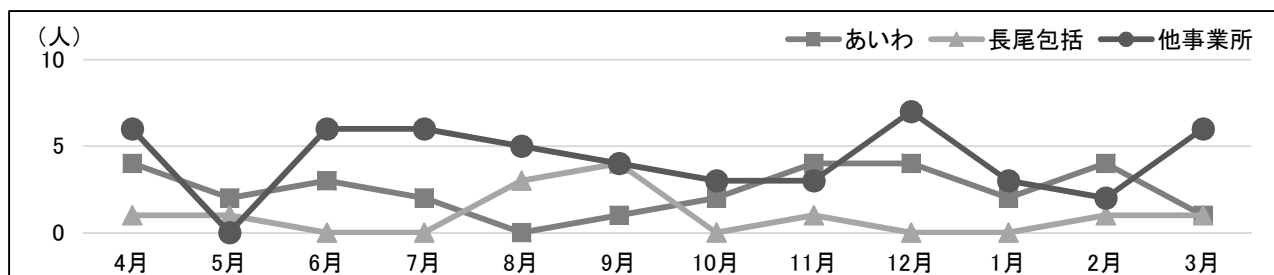


図. 新規利用者紹介元件数（2018年4月～2019年3月）

表. 活動実績（2018年4月～2019年3月）

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	936	973	864	831	916	875	1,010	956	994	888	897	940
介護	786	808	721	688	760	682	835	769	809	711	735	765
総合	149	163	145	144	156	193	182	186	185	117	161	175
日平均	37.4	36	33.2	32	33.9	35	37.4	36.8	39.8	37	37.4	34.8

# 宝塚あいわ苑 訪問看護ステーション

## ■スタッフ紹介

看護科長	1名	管理者/看護師	1名
常勤看護師	2名	非常勤看護師	2名
理学療法士	3名	作業療法士	1名
言語聴覚士	0.4名		

## ■業務内容

開設以来構築してきた、地域の往診医との連携に加え、宝塚市以外で訪問診療に力を入れているクリニックからの指示を受けて、利用者・家族の思いを重視したターミナルケアを実践した。結果、在宅での看取り件数は8件であった。

他機関との連携については、宝塚医師会との合同研修や医療と介護がつながる会、宝塚市立病院看護部と市内訪問看護ステーションを結ぶ連携研究事業に積極的に参加した。また、医師会からはICTを活用した在宅医療・介護情報連携システムの参加要請があり、医師との情報交換を行った。

法人内連携においては、結愛ガーデンとの医療介護連携として、介護スタッフとの関わりを深め、看取りケア・褥瘡予防・病状管理等に積極的に介入した。結果、状態悪化での入院件数の減少に繋がったといえる。また、グループホームや小規模多機能の利用者の状態変化に伴う点滴や、

退院直後の状態観察目的での特別指示書の交付を受けて医療保険対応での介入が増加した。

セラピストの訪問では、通所サービスや地域のサロンに繋ぐケースもあり、評価を確実に行えている結果といえる。対外活動としては、宝塚市介護予防事業の体操指導や連絡会への参加と、作業療法士による認知症カフェ、理学療法士による地域住民対象の転倒予防講座を実施する等、地域の中での活動にも注力した。

## ■2018年度のトピックス・実績

訪問件数は9,520件（月平均793件）、年度途中の人員変更、異動等により前年比95%となった。

介護報酬改定の見直しにより、リハビリメインで訪問していた利用者の看護師訪問を実施し、看護とリハビリが連携した訪問看護計画書、報告書の作成に取り組んだ。

## ■今後の展望

1. 人材確保・人材育成と利用者の獲得
2. あいわクリニック、Waiwaiとの連携
3. 業務効率化に向けた記録システムの導入
4. 事業所自己評価による質の向上
5. あいわ結愛ガーデンとの連携体制整備

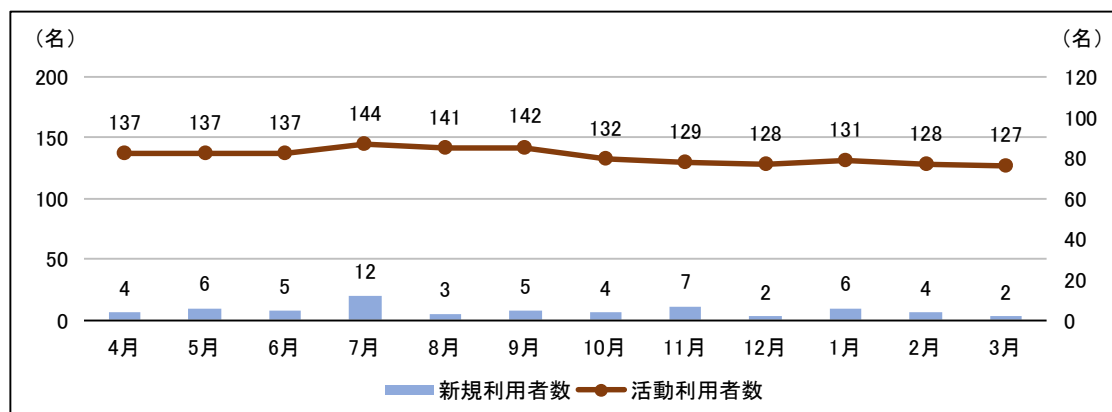


図. 訪問看護新規利用者・活動利用者件数（2018年4月～2019年3月）

表. 訪問看護延べ件数（2018年4月～2019年3月）

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
活動延べ件数	821	860	797	889	924	749	759	770	744	743	719	745

# ケアプランセンター 宝塚あいわ苑

## ■スタッフ紹介

管理者（主任ケアマネジャー兼務）1名  
 主任ケアマネジャー 4名  
 常勤ケアマネジャー 5名

## ■業務内容

2018年度は管理者1名、主任介護支援専門員4名、介護支援専門員5名、総勢10名での運営となった。利用者の傾向として高齢者世帯の増加、医療依存度の高い利用者の増加等があった。環境の変化に柔軟に対応し多様な制度に対する知識・技術を習得するために各種研修に参加し伝達研修を行うなどして職員のスキルアップに努めた。また1人の目だけでは気づきにくいリスクを洗い出すために主任ケアマネを中心として事例の検証を行いリスクマネジメントに努めた。その結果利用者の急な状態変化や悪化・トラブルを未然に防ぐことができた。地域で暮らす利用者を支えるために多職種連携に取り組み、地域の要ともいえる民生児童委員との情報共有のために月1回の民生児童委員定例会に毎月参加し、利用者の情報を共有することで日常の不安や困りごとに迅速に対応することができた。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度のケアプラン作成数は3,279件、ケアマネジャー1人あたりの平均ケアプラン数は29.1であった（表1）。職員の異動、退職等あり、件数は伸びなかった。ケアマネジャーの質向上のため事業所内外で開催される研修

に積極的に参加した（表2）。行政の主任ケアマネジャー連絡会に参加し行政と協働してケアマネジャーの後方支援、研修計画に参画した。また介護支援専門員実務研修実習受入協力事業所として2名の実習生を受け入れた。

2019年2月にWaiwaiコミュニティあいわが竣工し、更なる地域支援と地域連携の充実を目標にケアプランセンター宝塚あいわ苑が移転した。1階には地域包括支援センター、社会福祉協議会・地区センターが移転してきており、地域の高齢者を支えるためにより緊密な連携を取ることのできる体制が整った。

## ■今後の展望

2018年度の介護保険法改正で新設された加算の取得ができるよう医療機関との連携を強化していく。職員のスキルアップを図ることで緊急時の対応や困難事例の対応力を向上させ利用者の望む暮らしの実現のため、医療と介護の切れ目のないサービス提供を行っていききたい。職員のモチベーション向上・強化のために安心して働くことができる環境を整備し、個々の目標を明確にして成長をサポートしていける体制を確立していく。新入職員や経験年数の浅いケアマネジャーに対する支援を充実させ確実に成長していくことができるようサポート体制を構築していきたい。事務所が移転をしたことで地域の高齢者とより近い関係を築くことができる体制が整った。今後は1階に移転してきている地域包括支援センターや社会福祉協議会・地区センターと協働し、より身近で隣にいて気軽に相談できるケアプランセンターを目指して活動を続けていきたい。

表1. ケアプラン件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護	298	297	288	281	276	264	264	264	251	246	242	240	3,211
予防	9	8	7	8	6	5	5	4	4	4	4	4	68
合計	307	305	295	289	282	269	269	268	255	250	246	244	3,279

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1名あたりのプラン数(介護)	30.2	33.4	32.3	28.5	25.4	26.6	29.6	29.6	28.1	27.6	27.1	30.3	29.1

表2. 参加研修一覧

介護支援専門員更新研修	兵庫県認定調査員研修	診療報酬から見える病院との連携
地域見守り活動について	本人の暮らしを地域と共に支える	わかりやすい介護報酬改定
がんセミナー がん治療の実践について	権利擁護勉強会	認知症と精神疾患の専門職の関わり方
宝塚市主任CM事例検討研修	地域つながる懇談会	パーキンソン病について
主任介護支援専門員初級研修	宝塚市ケアプラン研修会	多職種連携のための交流会
在宅でアルコールの問題のある人を支援するには	定期巡回・随時対応型訪問介護看護充実研修	三つの若葉
エビデンスに基づく認知症に対する機能訓練の実践	気づきの事例検討会	地域包括ケア他職種連携会
高次機能障害交流会	宝塚市介護支援専門員全体研修会	倫理及び法令遵守
食中毒予防	プライバシー保護について	
認知症と老人性うつ	救命救急	

# ヘルパーステーション 宝塚あいわ苑

## ■スタッフ紹介

常勤職員（サービス提供責任者含む）

新田悦子	藤川さおり	
岡本美穂	加藤 綾	4名
事務員	辻 直子	1名
登録ヘルパー（実働人数）		21名

## ■業務内容

今年度は職員が1名減となり、半数が未経験者の中、介護保険外サービス（障がい者自立支援・サポートケア）に加え、産後育児支援ヘルパー派遣事業にも参入した。産後の体調不良のため、家事や育児が困難な家庭や低出生体重児や多胎児を出産した家庭等に家事や育児の支援を行うことにより、子育て世代から高齢世代まで幅広く在宅支援を実施し、行政へのアプローチを図ることができた。年度初めは登録ヘルパーを増員し、安定稼働の中でスタートを切ることができたが、長期休養、退職が続き、新規利用者を獲得することが困難となった。しかし、既存利用者に理解を得ながら日々ヘルパーの調整を行い、混乱なくサービスを継続、提供し、随時新規を獲得することができた。

## ■2018年度のトピックス・実績

常勤職員の他施設・他部署への異動や退職によりサービス提供責任者の経験者が2名となり他部署から在宅未経験者が2名、事務員1名の異動による新体制となった。前向きに、子育て支援の新事業の実績を作りながら、身近で起こっている虐待・鬱・ストレス・不安についての行政主催の研修に積極的に参加した。個人個人が学習する意識を持ち、専門職としての意識の向上をはかった。また、職員数の減少により実績は低迷したが、事務員の配置と新体制の中での職員努力により前年と比して大きく実績を落とすことはなかった。

## ■今後の展望

職員の指導と質の向上に注力し、限られた人材での効率良い業務を遂行していく。働き方改革による職員体制・仕組みを整え、働きやすい環境を目指す。在宅ケアの知識と介護技術力を更に高めていくためにeラーニングを活用し介護知識・技術の向上に繋げていく。

表 1. 訪問件数

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護	715	810	776	844	788	667	725	672	661	652	622	705	8,637
総合	384	383	388	388	377	348	364	359	351	338	320	304	4,304
障害	32	35	43	46	49	35	37	34	40	35	33	40	459
自立支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	10	12	9	11	9	13	7	14	23	15	8	6	137
合計	1,141	1,240	1,216	1,289	1,223	1,063	1,133	1,079	1,075	1,040	983	1,055	13,537

表 2. 合計介護報酬・利用人数・重度比率・自社プラン率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護報酬(円)	4,527,790	5,182,125	4,758,467	4,997,823	4,762,848	4,176,081	4,408,414	4,201,292	1,226,601	4,026,188	3,749,033	3,885,123	49,901,785
利用人数(人)	149	150	148	147	142	137	140	136	139	132	128	125	1,673
重度化率	31.2%	31.1%	31.3%	30.7%	29.8%	31.2%	29.2%	28.7%	28.7%	30.5%	30.7%	27.8%	30.1%
自社プラン	78%	77%	77%	77%	76%	78%	78%	77%	78%	75%	73%	73%	76.4%

表 3. 新規・解約人数

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規(介護)	8	3	2	1	0	4	3	2	4	4	1	1	33
解約(介護)	2	7	4	3	7	1	4	1	8	3	1	2	43
新規(総合)	2	1	0	1	2	2	3	2	0	0	0	0	13
解約(総合)	3	1	0	3	3	2	1	5	3	0	2	1	24

## グループホーム 宝塚あいわ苑

### ■スタッフ紹介

管理者（小規模多機能型居宅介護管理者兼務）	1名
介護支援専門員	1名
介護職員	16名
	以上 18名

### ■業務内容

認知症対応型共同生活介護「グループホーム宝塚あいわ苑」は、家庭に在るような環境で、近隣の住民とかかわりながら入浴や食事、排泄などの介助を行い、精神的に安定した生活を送れることを目的としている。

開設以来、入居者の家族や親戚、近隣の友人など、顔馴染みの人の来訪も多く、居室やリビングでゆっくり過ごしていただける家庭的な環境作りに努めている。また、朝食の材料やおやつや買い物、喫茶や散歩などを日課とし、外出することで地域住民と交流する機会を設けている。近隣住民との繋がりを持ちながら、家庭的な環境で入浴や食事、排泄などの支援を行うことで、精神的に安定した生活を送れるよう実践を図っている。

提供する食事は宝塚あいわ苑からのケータリングを基本としながらも、食事の盛り付けや食器選びは入居者が自ら行っている。月に数回はランチクッキングの日を設け、利用者と職員が一緒になってメニューから考案し、調理を行っている。可能な限り、利用者が保有している能力を維持できるよう、調理や掃除等の家事も入居者それぞれに役割を担ってもらうことで、ともに協力しながら認知症状の進行を緩やかにするよう努めている。

### ■2018年度のトピックス・実績

開設以来、入所者数は常に満床（18室）となっている。

長期入院からの退所2名、特養あいわ苑への入所者1名と、3名の退所があった。受け入れとして、小規模多機能型居宅介護こもれびから1名、有料老人ホームから1名、老健施設より1名の新規の受け入れがあった。あいわ結愛ガーデン小規模多機能型居宅介護こもれびとの連携だけでなく、他事業所からの受け入れ態勢を作り、2名の受け入れを円滑に実施できた。

地域の開業医や歯科医師、薬局との連携を図り、医療ニーズのある入居者への支援体制も継続的に実施できている。訪問看護ステーションとの連携においては、定期的な訪問実施だけでなく、入所者の体調管理や特別指示での訪問の実現により、日々の利用者の状態に応じて柔軟に対応が実施できるよう日々連携を図っている。

また、子ども食堂である一緒にプロジェクトの協働、元気っ子子どもとの異世代交流や、地域のいきいき百歳体操に参加することで、入所者にとって刺激のある生活環境への取り組みを実施している。外出においても、小規模多機能型居宅介護こもれびとの共同企画で、イチゴ狩りへの外出も実現できた。

### ■今後の展望

小規模多機能型居宅介護こもれびだけでなく、他事業所との関係性の構築や連携を深めることで、利用者の円滑な受け入れ体制を作り地域に根付いた施設運営を心掛けていく。認知症ケアのスキルアップとして、認知症実践者研修や喀痰吸引研修、その他の外部研修にも積極的に参加し、研修で学んだ知識・技術を職員にフィードバックしていく。

グループホームでの生活において、年間を通して、メリハリを感じ、生きがいのある生活環境が提供できるよう、年間計画を立て実践していきたい。

## 小規模多機能型居宅介護 こもれび

### ■スタッフ紹介

管理者（グループホーム管理者兼務）	1名
介護支援専門員	1名
看護師	1名
介護福祉士	11名
介護員	3名
ドライバー	1名
以上	18名

### ■業務内容

小規模多機能型居宅介護「こもれび」では、介護が必要な状態になっても利用者が可能な限り自立した日常生活を送ることができるよう、また、住み慣れた地域での生活が継続できるよう、利用者の選択に応じて、施設への「通い」を中心として、短期間の「宿泊」や利用者の自宅への「訪問」を組み合わせ、家庭的な環境と地域住民との交流の下で日常生活の支援や機能訓練を行っている。また、その他の介護保険サービスやインフォーマルサービスもケアプランに取り入れることで、切れ目のない支援を提供しており、現在は29名の定員で運営をしている。

### ■2018年度のトピックス・実績

3年目を迎え、昨年度の年間平均登録人数24名と前年度を1名下回る結果となった。開設から利用されていた方々も含めて、登録抹消者総数21名、登録者総数26名と出入りの激しい1年であった。うち、老健又は有料への入所と、医療機関への入院が登録抹消者総数の過半数を占める結果であった。

登録人数29名に向けて、要支援の方の受け入れの実施と、登録人数が25名以下の際における、空室の有効活用として短期入所サービスを導入し、4件の依頼を受ける。登録人数に対し「通い」、「訪問」、「宿泊」の適切なバラン

スを模索しながら、ケアマネジャーと連携を図っている。また、グループホーム宝塚あいわ苑の入所待機枠として2名を確保しているが、在宅生活をできる限り最大限生かせるように取り組んでいる。グループホーム宝塚あいわ苑において空床が発生した場合には、利用者のスムーズな移行が図れるよう連携を図っている。開設後より実施している敬老祭や花見などのイベントでは、同じあいわ結愛ガーデンの3事業所と連携し、あいわ結愛ガーデン全体としての恒例イベントとして実現できている。

個別外出だけでなく、グループホームと共同でイチゴ狩りへの外出も実施し、余暇活動への充実にも取り組んでいる。

### ■今後の展望

利用者のニーズを捉え、在宅生活ができる限り安定した形で提供できるように、家族、環境、地域資源を活用し、登録人数を29名に伸ばしていく。また、登録人数の変動によっても「通い」、「訪問」、「宿泊」の適切なバランスを維持し、安定稼働に努めていく。

前年度の傾向から、退院後など、在宅に戻ることが困難で先行が決まらず、次の先行が決まるまでの利用をされるケースが多く、宝塚地区全体で情報共有を図る。特に、Waiwai コミュニティあいわとの連携を強化し、迅速に利用者の移行が図れるような取り組みをしていく。また、利用者満足度の高いサービスを提供できるよう、認知症実践者研修や、その他の外部研修に積極的に参加するよう努める。さらに、ケース検討会の定期的な開催や、2か月に1度開催している運営推進会議において他施設の取り組み状況の把握を行い、質の高い施設運営に取り組む。地域活動へも、「あいわの集い」や「一緒にプロジェクト」のみならず、積極的に参加できるよう体制の強化を図る。

## 認知症対応型通所介護 花見鳥

### ■スタッフ紹介

管理者兼介護職員（介護福祉士）	1名
機能訓練指導員	1名
生活相談員	1名
介護職員	6名
	以上 9名

### ■業務内容

認知症対応型通所介護「花見鳥」は、認知症（急性を除く）の利用者が、可能な限り、在宅で能力に応じ自立した日常生活を営めるよう、生活機能の維持又は向上を目指している。入浴や排せつ、食事等の介護だけでなく、生活相談や助言、健康状態の確認などの日常生活上の世話や機能訓練を行っている。また、利用者の社会的孤立の解消及び心身の機能の維持と、認知症介護に携わる家族の身体的・精神的負担の軽減を図り、認知症に関する専門性と手厚さによって認知症利用者及びその家族の支援を目的としている。

1日の流れでは、事業所に到着後はバイタル測定を行い、入浴及び個別機能訓練を実施している。入浴は清潔保持と、身体の異常を見逃さないように努めている。個別機能訓練では、利用者一人ひとりの状況を評価し、認知症の理解に努め、本人の意思を尊重しながら、その日の行動や進行を遅らせることや、身体機能の維持を目的に機能訓練計画を作成し、それに基づき実施している。今年度は認知症の方の機能訓練として4DASも取り入れ、在宅においてもできる事柄を見出しながら、楽しくできる機能訓練を行っている。スケジュール通りのサービス提供ではなく、その日の利用者の状態や行動に焦点をあわせ、笑顔と活気があふれる時間の提供を実施している。

### ■2018年度のトピックス・実績

年間登録者平均 27.4名、日平均 7.5名と、登録者数では、7.4名、日平均 1.5名前年度を上回る結果となった。利用者確保に向けた営業に注力し、宝塚市内の居宅介護支援事業所と顔の見える関係を構築し、週1回の利用を複数回利用に変更するなどの提案を行った。若年性認知症の受け入れと、個別ケアの徹底、利用者のニーズに応えることを重点的に取り組んだ。他のデイサービスと契約するも、利用まで繋げることができなかった利用者も積極的に受け入れ、通所利用に繋がったこと、送迎時の対応においても、自宅にて利用者とコミュニケーションを図り通所に繋がるといった、個々に寄り添ったケアを日々積み重ねた結果、他事業所からの問い合わせ件数が増え新規獲得に繋げることができた。

### ■今後の展望

前年度目標に掲げていた登録人数に到達できたため、今年度は、登録人数の維持向上に努め、日平均8名を目標に掲げる。日曜日の利用人数が、平均4名程と、平日と比較しても大きく下回っており、今年度の状況を把握し、日曜日の利用の在り方を検討し、年間を通して安定した利用人数の獲得に繋げていきたい。

利用者や家族からは、可能な限り今の住み慣れた生活環境を継続させたいという想いを強く感じている。家族のニーズを素早く察知し、事業所の特性を生かしながら、個々に応じて柔軟な対応を実施していきたい。



# 長尾地域包括支援センター

## ■スタッフ紹介

主任介護支援専門員/管理者 1名  
 社会福祉士 2名  
 保健師 2名  
 介護支援専門員 3名（1名兼務）  
 事務員 1名

## ■業務内容

地域にあるさまざまな社会資源を使って、高齢者の生活を総合的に支えていくための拠点として、宝塚市内7ブロックのうち第5ブロックを担当している。包括的支援事業は介護予防ケアマネジメント、総合相談支援、権利擁護、虐待早期発見・防止、地域のケアマネジャーなどの支援を主たる業務としながら、認知症施策の推進や、多職種協働を目的としたネットワークの構築、また地域包括ケアを始めていく中で地域ケア会議の実施など多岐にわたり、業務は多種多様なものとなっている。認知症地域支援推進員を中心に地域への認知症啓発や見守り、サポーター養成講座なども多く取り組んでいる。

## ■2018年度のトピックス・実績

総合相談件数は5,976件で、認知症対応、家族支援、権利擁護関連と相談内容の幅も広がっている。専門職と地域住民の顔の見える関係作りの場として「第5地区地域つながる懇談会」を3団体（まちづくり協議会、自治会連合会、民生児童委員協議会）と共催し、今回は認知症をテーマに意見交換を行った。多職種連携を目的とした交流会を開催し、医師、歯科医師、薬剤師、行政、保健所、司法書士、社会福祉協議会、障がい・介護保険サービス事業所などさまざまな専門職が参加、権利擁護をテーマにグループワークを行い、互いの職種理解やネットワーク構築を行った。認知症施策の推進としては、認知症地域支援推進員が中心

となり認知症サポーター養成講座を16回、結愛カフェ（認知症カフェ）も毎月1回定例開催した。また、介護予防の推進では、当センター圏域内で「いきいき百歳体操」の会場が3か所立ち上がり計18か所となった。保健師による各会場のフォローなども積極的に行うことができた。担当小学校区では地域のセラピストや介護保険サービス事業所の協力を得て健康教室を開催した。個別ケースの地域ケア会議を14回開催、認知症や一人暮らしの方、家族に課題を抱える方などのケースが多かった。今後も個別ケースの話し合いを重ねることにより、「誰もが安心して地域で暮らすために」を継続して考えたい。

### 【外部研修】

認知症相談センター機能強化研修  
 認知症地域支援推進員研修  
 認知症と精神疾患の方への専門職のかかわり方  
 認知症カフェのこれから  
 高齢者虐待対応研修  
 成年後見制度勉強会  
 在宅でアルコール問題のある人を支援するには  
 地域福祉の基礎  
 ゲートキーパー養成講座 ほか

## ■今後の展望

第7期宝塚市地域包括ケア推進プラン（2018～2020年度）の中で、3つの重点取り組みに挙げられている“介護予防の推進”“認知症施策の推進”“在宅医療・介護連携の推進”を基本に、地域包括支援センターの活動を展開する中で、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域住民と専門職・関係機関とのネットワーク強化を図り、協働できる仕組み作りを目指す。

また、第8期計画策定に向けて行政と一緒に取り組んでいく。

表. 2018年度活動実績

（単位：件）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合相談 支援業務	新規	171	109	60	64	55	43	41	39	46	61	72	52	813
	継続	315	455	446	440	444	386	492	425	453	422	425	460	5,163
	合計	486	564	506	504	499	429	533	464	499	483	497	512	5,976
介護予防 ケアマネ ジメント	直接	231	235	235	238	236	236	240	237	240	244	241	236	2,849
	再委託	74	79	82	81	84	85	78	80	84	87	93	91	998
	合計	305	314	317	319	320	321	318	317	324	331	334	327	3,847

# なかよし保育園

## ■スタッフ紹介

園長 1 名，主任 1 名，副主任 3 名，保育士 18 名，  
パート保育士 18 名，保育補助 5 名，事務員 4 名，  
パート事務員 2 名，派遣保育士 1 名，管理栄養士（兼務）  
1 名  
業務委託：給食，清掃，警備

## ■業務内容

### 1. 通常保育

- ・定員と緊急枠あわせて現員 143 名，4 月入園 33 名，3 月末卒園 33 名，延べ 1,716 名の受け入れを実施。0～2 歳児は担当制，3～5 歳児は年齢ごとの保育をベースに週 1 回異年齢児保育も取り入れながら，各年齢にあった保育内容を実施した。
- ・3～5 歳児が特養，デイサービスと定期的に世代間交流を行う計画であったが，感染症流行により実施することができなかった。
- ・5 歳児は，宝塚市私立保育園交流や保幼小連携事業「つながろう！プレ 1 年生」の参加，近隣の幼稚園・保育所との交流を行い，小学校就学への期待を持つことができた。

### 2. 特別保育事業

- (1) 延長保育事業では，20 時までの延長保育を実施，延べ 6,621 名の利用があった。
- (2) 特別支援児保育では，加配保育士 5 名を配置し，3 歳児 2 名，4 歳児 2 名，5 歳児 1 名の特別支援児を受け入れた。
- (3) 一時預かり保育では，職員 1～2 名配置で延べ 1,783 名の利用があった。
- (4) 子育て支援事業では，リトミックやコンサート，栄養相談とクッキング，人形劇等の親子プログラム，またフラワーアレンジメントやヨガなど，託児をして保護者のみ参加のプログラムも実施した。月 2 回の園庭開放，絵本クラブ，あそびのひろばを実施。地域の子育て家庭に遊びの場を提供した。
- (5) 小学生放課後児童クラブ（元気っ子）は延べ利用児童数 3,795 名（前年比 102.5%）となった。プログラムの内容充実を図り，世代間交流も積極的に行った。

(6) 病児保育は，地域の連携医療機関の協力を得ながら実施した。年間延べ利用者数は 384 名（前年比 86.3%）であった。3 月は診療所開設に伴う工事のため，法人内他施設を利用して仮運用を行った。

### 3. 職員研修

法人内の保育士研修（保育士合同研修，基礎講座，交換留学研修，園内ミニ研修）や兵庫県保育協会，宝塚市等が主催の外部研修（救命講習，防犯研修，保育内容や保育制度等）に積極的に参加し，保育士の資質向上に努めた。

## ■2018 年度のトピックス・実績

- ・新保育所保育指針の施行に伴い，子どもの自発性を尊重した保育を行うとともにドキュメンテーションにより，保育の可視化を実施。保育内容を分かりやすく示すことで保護者にも理解を得ることができた。
- ・子育て支援事業のプログラム内容の充実を図り，託児を行っての保護者のリラックスプログラムでは，託児ボランティアを利用し，子どもも安心して過ごせる環境を作ることができた。
- ・病児保育は，診療所開設に伴う工事のため 3 月から約 2 か月間，法人内施設 Waiwai コミュニティあいわを利用して運用したが，実績数を下げることなく運営できた。

## ■今後の展望

- ・保育制度と行政の動向を見極め，認定こども園への移行も視野に入れながら，法人としての方向性を考えていく。また，少子化が進んでいる昨今の状況を鑑み，今後利用者には選ばれる園としてどのようにブランディングしていくか保育部門として検討していきたい。
- ・保育所保育指針の理解を深めるため，また指針と実践を対応させながら保育内容の検討・実施が行えるよう，研修の参加や職員同士のミニ研修等の機会を充実させていきたい。
- ・保護者や入園希望の見学者等に保育計画や実施内容の十分な説明を行うことで理解を得て，利用者確保に繋げる。
- ・働き方改革関連法案の遵守，業務の適正等，職場環境についても積極的に取り組み，保育士の人材確保や育成に努める。また，実習生を積極的に受け入れて指導することにより，保育士人材育成にも貢献していきたい。

# 中筋児童館

## ■スタッフ紹介

館長 1名 児童厚生員 6名

## ■業務内容

### 1. 児童館本館事業

本館では、児童の居場所及び遊びの拠点となり、また子育て世代の親子が利用しやすいよう環境を整え、0歳から18歳まで継続してかかわることができるように努めた。

本館の年間利用者総数は14,111名（乳幼児6,205名、小学生2,412名、中高生329名、大人5,165名）、1日の平均利用者数は49.17名だった。子育て支援プログラムは8プログラム延べ81回実施、延べ利用者数は1,284名だった。

### 2. 出前児童館事業

本館に来ることができない親子や児童のために、各小学校区に出向いて出前児童館を実施した。出前児童館を通じて、地域の交流事業をはじめ、週3回はアウトリーチによる相談事業も実施した。常設型として4か所実施、年間延べ利用者数は2,749名（乳幼児1,549名、小学生7名、大人1,193名）、イベント・派遣型として5か所実施、年間延べ利用者数は874名（乳幼児204名、小学生463名、中高生1名、大人206名）だった。

### 3. 青少年活動

地域の青少年活動として、本館及び地域に出向いて3プログラムを実施した。延べ実施回数は15回、延べ利用者数は430名（うち小中高生は182名）だった。

## ■2018年度のトピックス・実績

・「一緒にプロジェクト」にも参加し、地域の方と一緒に配慮の必要な子どもの見守りや学校・行政とのネットワ

ークを構築するよう努めた。また、子どもと地域の課題を考える「ラウンドテーブル」にも専門職として参加している。

・地域の幼稚園、小学校の避難訓練等にも積極的に参加し、防災教室を行うなどして地域児童館としての役割を果たすように努めた。

・「赤ちゃん学校へ行こう」のプログラムでは、宝塚市立南ひばりガ丘中学校の授業の一環として児童館利用の親子が学校に出向き、生徒が乳幼児と触れ合ったり、お母さんの話を聞いたりして交流の時を持った。実施回数4回、延べ参加人数351名（乳幼児82名、中学生175名、大人94名）だった。

・県立宝塚東高校の保育の授業を担当し、高校生による「おたのしみ会」を開催。保護者や子どもとのふれあい時間をつくり、世代間交流の場を提供した。

・児童館ネットワーク会議（館長会議）研究会で、大型児童館を核とした地域児童館の連携強化に取り組み「ミニたからづか」（事業）に参加。2日間開催で900名参加だった。

## ■今後の展望

・地域の児童の居場所作りとしての本館事業や出前児童館の実施内容の充実という地域児童館としての役割を再確認し、地域、子ども家庭支援センター、他児童館、学校等の関連機関との更なる連携を図りながら、地域のニーズに即した児童館運営に努めたい。

・本館だけではなく、Waiwaiコミュニティあいわ・地域交流スペースふらっとも核とし、社協、民協とも共生しながら産前からの仲間作りや相談できる環境を地域にアピールしていきたい。



# 社会福祉法人 愛和会 (豊中地区)

〒561-0872

豊中市寺内1丁目1番10号

URL: <http://www.aijinkai.or.jp/aiwakai/>

## 社会福祉法人愛和会 理念

1. 広く社会のためにより良い保健福祉サービスを提供し、生きがいのある社会生活の増進に貢献する。
2. 人間の尊厳と人権を尊重し、公平で平等な法人活動に努める。
3. 地域社会との協調を深め、創意工夫をこらして利用者の保健福祉の向上と法人の健全な発展を図る。
4. 保健福祉に携わるものとしての使命を自覚し、学識、技術の研鑽と人間性の向上に努める。
5. 自主性と和の精神を重んじ、利用者と共に法人に働く誇りと喜びを共にする。

## 愛和会（豊中地区）施設一覧

### 【ローズコミュニティ・緑地】

- ・特別養護老人ホーム 豊中あいわ苑
- ・ケアプランセンターあいわ
- ・介護老人保健施設 きんもくせい
- ・緑地地域包括支援センター
- ・ケアハウス 花みずき
- ・あいわ訪問看護ステーション
- ・豊中あいわ苑デイサービスセンター
- ・障がい者施設あすなろ
- ・訪問介護ステーションあいわ
- ・豊中あいわ苑診療所

### 【ローズコミュニティ・豊中南】

- ・ケアプランセンターあいわ豊中南

## 2018 年度総括

昨年同様、社会福祉法人制度改革に伴い、経営組織のガバナンスの強化・財務規律の強化として監査法人による会計監査受審、地域における公益的な取り組みとして子ども食堂・認知症カフェ・地域住民向けの研修会やイベントの開催など、地域における社会貢献の責務を果たす福祉活動を行ってきた。加えて今年度は、7月より豊中市こども未来部こども相談課子育て支援センターほっぺより依頼を受け、寺内地域の子育て支援拠点として愛和会の場所の提供と職員による支援を開始した。毎回 100 名を超える参加者があり、地域から高い評価を受け、地域活動を行う職員のモチベーション向上に繋がった。

また、喀痰吸引等研修登録機関として、喀痰吸引研修・医療的ケア教員講習会を実施したほか、介護福祉士・看護師・社会福祉士養成学校から多くの実習依頼や複合施設ゆへの施設見学にも数多く対応し、広域的な社会貢献も行ってきた。

サービス事業においては、医療・介護・福祉の同時改定に対応しさまざまな取り組みを行った。特に介護老人保健施設「きんもくせい」は7月より超強化型老健の算定を実施し、充実したりハビリテーションの提供等積極的に行った。10月から訪問リハビリも開始し、今後老健退所後の在宅生活の支援の充実を図っていきたい。

その他の事業においても改定に対応すべく対策を講じてきたが、在宅部門で利用人数が安定せず苦戦している。次年度以降に持ち越し、課題を残した。

2017年11月に外国人技能実習に新たに介護職種が加わり、技能実習生の保護に関する法律が施行された。法人の取り組みとして、2017年より愛仁会他2法人でコンソ

ーシアムを立ち上げ今年度からベトナム国における介護スキルラボを6月より実施。現地での介護講師として愛仁会が先陣を切り、愛和会特養から介護福祉士を1か月間派遣した。さらに今年2月に老健より介護福祉士を派遣。これにより多様な視点で業務に就くことに繋がり、専門職としてモチベーションのアップや介護の質が高まることに期待できる。

また「大阪 APS コンソーシアム介護スキルラボ」の事務局として3法人のうち、愛仁会グループの取りまとめを行った。当初の予定では1月に入国後、2月より現場で実習が開始される予定であったが、入国が遅れ技能実習は次年度に持ち越しとなった。

## 2018 年度活動状況

- |  |   |
|--|---|
| <p>4月 期首全集及び役職辞令交付式、在宅介護対策委員会（豊中・吹田地区）、愛和会合同運営会、豊中市社会福祉施設連絡会総会、あすなろ家族交流会、こども広場、ほっと愛カフェ</p> <p>5月 全集、愛和会合同運営会、指定居宅サービス事業所等集団指導、大阪滋慶学園就職フェア、三優監査法人会計監査、こども広場、ほっと愛カフェ</p> <p>6月 大阪 APS コンソーシアム介護スキルラボベトナム国講師派遣、愛和会理事会・評議員会、愛和会合同運営会、在宅介護対策委員会（豊中・吹田地区）、認知症短期リハビリテーション研修、大老協豊能地区ブロック会議、上海健康医学院施設見学、夜間火災想定避難訓練、こども広場、ほっと愛カフェ</p> <p>7月 全集、愛和会合同運営会、大阪保健福祉専門学校「業界研究セミナー」、中東部ネットワーク会議、福祉の就職フェア 2018 in OSAKA、上半期褒賞表彰式及びローズフェスティバル、こども広場、ほっと愛カフェ</p> <p>8月 愛和会合同運営会、在宅介護対策委員会（豊中・吹田地区）、愛和会夏祭り、花火大会、三優監査法人期中監査、地域研修会、子供の居場所づくり地域福祉モデル事業研修会、「災害時における福祉施設職員の役割」研修会、定期巡回介護医療連携会議、寺内まつり、こども広場、ほっと愛カフェ、子育て支援事業「うりぼー」</p> | <p>9月 愛和会合同運営会、敬老会、喀痰吸引指導看護師講習会、喀痰吸引等研修、地下鉄御堂筋沿線帰宅困難者訓練、こども広場、ほっと愛カフェ</p> <p>10月 全集、愛和会合同運営会、在宅介護対策委員会（豊中・吹田地区）、喀痰吸引等研修、特養家族交流会、全国老人保健施設大会埼玉、秋の集い、いきいき長寿フェア、石川県危機管理講演「福祉避難所開設・運営と地域との連携について」、職員健康診断、こども広場、ほっと愛カフェ</p> <p>11月 愛和会合同運営会、喀痰吸引指導看護師講習会、喀痰吸引等研修、大阪看護協会就業支援講座、豊中市障がい者施設間留学発表会、灘区社会福祉協会講演「福祉避難所とは」、三優監査法人期中監査、上海健康医学院施設見学、夜間火災想定避難訓練、こども広場、ほっと愛カフェ</p> <p>12月 全集、愛和会合同運営会、在宅介護対策委員会（豊中・吹田地区）、喀痰吸引等研修、下半年褒賞表彰式及び忘年会、三優監査法人期中監査、こども広場、ほっと愛カフェクリスマス会、納会</p> <p>1月 新年互礼会、愛和会合同運営会、医療的ケア看護師養成研修会、喀痰吸引実施事業実地指導、全国校区・小地域福祉活動サミット in 豊中、安全運転講習会、愛仁会創立 60 周年記念行事ボーリング大会、認知症サポーター養成講座、こども広場、ほっと愛カフェ</p> <p>2月 愛和会合同運営会、在宅介護対策委員会（豊中・吹田地区）、大阪 APS コンソーシアム介護スキルラボベトナム国講師派遣、夜勤職員対象健康診断、愛仁会学術集会、認知症サポーター養成講座、大阪人間科学大学職場体験受け入れ、益田市医師会施設見学受け入れ、こども広場、ほっと愛カフェ</p> <p>3月 愛和会理事会・評議員会、愛和会合同運営会、定期巡回介護医療連携会議、地域研修会、福祉の就職フェア SPRING in OSAKA、こども広場、ほっと愛カフェ、三優監査法人期中監査、三優監査法人現金実査・棚卸</p> |
|--|---|

## 2019 年度に向けて

来期は今年度の活動を鑑み、今までに増して各部門の連携を強化して、利用者増に取り組む必要がある。

入所施設は、特養においては重症者が多く看取りや入院で空床になることも頻回なので、特にショートの手当を充実させる必要がある。そのためには井上病院や在宅との連携で利用者のニーズを常に把握できるよう普段からのコミュニケーションに努めるのが肝要である。老健では超強化型を維持するとともに稼働率 100%を目指し、また各種加算を確実に取っていく必要がある。通所リハに関しては困難な面も多いが、リハビリに特徴を持たせることや送迎範囲や送迎方法に関して再検討する余地があると考えている。ケアハウスでは高齢化により生活の自立が困難な入居者が増えつつあるので、今後の対応を一人ひとり相談していかなくてはならない。いずれにしても介護度増加と高齢化の中、事故や感染の予防を常に意識した運営を行っていききたい。

在宅部門では、デイサービスセンターに関しては豊中南を閉鎖した効果が表れて業績は良好であるが、運営面に関してスタッフの一体感の醸成と教育が必要である。訪問介護に関しては、シフト制の導入や加算の取得で少しずつ改善が見られており人材の確保と利用者の獲得が困難な状

況に変わりはないものの、人件費を考慮しながら無理なく継続していきたいと考える。訪問介護に関しては近隣に競合施設が多くシェアの拡大は中々に困難であるが、訪問リハの需要もあり着実に業績を伸ばしつつある。近隣病院や施設との関係を密にして、より密度の高い看護を提供したい。ケアプラン及び地域包括支援センターは、高齢領域のゲートキーパーとして施設と地域を見据えた在宅利用者、また地域住民との橋渡しとしての機能を発揮していきたい。

障がい者施設あすなろでは、今年度は生活介護・多機能で利用者減が早期にあり、それをなかなか途中で埋めることができなかった。後半は回復基調にあり来年度もそれをキープする形で持続したい。短期入所に関しては良好な運営で順調に推移しており、更なる利用者の増加を目指したい。また法人全体としての障がい者雇用の支援も重要である。

ベトナム介護技能実習生の雇用が来年度から実際に始まるが、将来を見据えた投資であり是非とも成功させて未来に繋げなくてはならない。蒼龍会が愛仁会となり豊中・吹田地区のエリアマネジメントがいよいよ本格的なものとなるよう、各セクションにおいて更なる連携を進化させ営業に力を入れたい。

# 特別養護老人ホーム 豊中あいわ苑

## ■スタッフ紹介

今期、豊中あいわ苑（ロング 80 名・ショート 20 名）の人員配置は、常勤医師 1 名、施設長 1 名、援護科長 1 名、看護職 5 名、機能訓練指導員 1 名、介護職員 37 名、介護支援専門員 1 名、生活相談員 2 名、栄養管理士 1 名であった。

## ■業務内容

1. 外国人実習生の積極的受け入れと体制作り
  - 1) ベトナム国の技能実習生の教育として 6 月の 1 か月間、派遣講師として科長が赴任した。
  - 2) 社会医療法人生長会・社会医療法人ペガサスと協働し、基準や手順を見直し、豊中あいわ苑の業務内容を理解しやすいように 71 項目改定した。また、日本での生活様式や習慣を理解するためのマニュアルを作成した。
  - 3) 技能実習指導員講習会で外国人を受け入れるための教育を受け、8 名が資格を取得した。
2. アセッサーの育成とキャリア段位資格取得によるサービスの質向上
  - 1) キャリア制度評価者アセッサー講習 9 名、キャリア段位制度レベル認定証 9 名が資格を取得した。
3. 他職種（言語聴覚士・管理栄養士・看護師・介護福祉士等）の協働による経口維持の評価システム確立
  - 1) 利用者 28 名を対象に月 1 回、食事摂取方法や食事形

態を見直し、評価表を活用することにより 13 名の利用者が食事の経口摂取を継続できた。看取りの利用者が最期まで口から食事をと望む家族は多く、高評価を得た。

## ■2018 年度のトピックス・実績

1. 職員の役割分担を調査し、業務量を把握するためにタスク表を作成し、職員間で偏りがないように調整した。その際に職員のモチベーションを下げないように説明し、その結果、超過勤務が減少し職員の成功体験にも繋がった。
2. 利用者の施設での生活を家族に知っていただきケアの理解を得るために、ロング利用者 80 名を対象にレクや行事、普段の生活などの写真と手紙を郵送した。結果、家族から面会で見る事のない利用者を見る事ができうれしかったと、多くの感想が寄せられ好評であった。
3. 『居酒屋あいわ』をオープンさせ、少量のアルコールと、職員の作ったおでんで利用者と家族がとても楽しい時間を過ごすことができた。今後も利用者の思いを理解し、季節感を楽しみながら交流を深めていく。

## ■今後の課題

1. ベトナム介護技能実習生の積極的受け入れと育成
2. 井上病院地域医療連携室との連携及び利用者確保対策
3. 介護職員・看護師の離職防止

表. 豊中あいわ苑利用者実績

入所(特養及びショートステイ)	(単位:名)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2018年度	3,020	3,135	3,042	3,123	3,148	3,031	3,104	2,987	3,072	3,041	2,820	3,150	36,673
2017年度	3,019	3,154	3,079	3,092	3,067	2,854	3,040	3,011	3,152	3,115	2,822	3,139	36,544

## 看取り件数

2018年度	18名
--------	-----

## 1日平均入所者数

	(単位:名)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2018年度	100.6	101.1	101.4	100.7	101.5	101.1	100.1	99.6	99.1	98.1	100.7	101.6	100.5
2017年度	100.6	101.8	102.7	99.8	99.5	95.4	98.6	100.8	102.7	101.3	101.7	101.4	100.5

## 介護老人保健施設 きんもくせい

### ■スタッフ紹介

今期期首の人員配置は、施設長（医師）1名、科長1名、看護師9名、介護職24名、理学療法士4名、作業療法士2名、薬剤師0.2名、管理栄養士1名、支援相談員1名、ケアマネージャー1名。期中の退職者は、介護福祉士1名、理学療法士1名、中途入職者は介護福祉士3名であった。施設間異動は愛和会宝塚グループホームへ介護福祉士2名、愛和会豊中あいわ苑へ介護福祉士1名、障がい者施設多機能型施設あすなろへ介護福祉士1名、高槻病院より理学療法士1名であった。

### ■業務内容

1. 2018年度の平均利用者数49.9名（ロング49.5、ショート1.1）、昨年度は平均利用者数50.0名（ロング49.3、ショート1.3）、とほぼ満床で経過している。ショートステイ利用者は延べ人数140名（昨年237名）。入退所総数はそれぞれ115名・114名（うちショート22名・22名）、昨年度は126名・127名。入所経路は、ロング93名のうち在宅からの入所40名；43%（昨年40名；49%）、病院からの入所20名；22%（昨年21名；21%）、他老健からの入所12名；13%（昨年15名；15%）であり、病院からの紹介数が増え、他老健と在宅からの入所が減少傾向である。退所経路は、在宅48名；52%（昨年55名；55%）、病院13名；14%（昨年16名；16%）、特養0名；0%（昨年1名；1%）、他老健9名；10%（昨年10名；10%）であり、在宅復帰や入所中の病院への入院は昨年と同様であった。介護報酬の改定により、在宅復帰・在宅療養支援機能に対する評価方法が変わり、10項目の得点総数により5段階の区分に変更となった。4月は61点で在宅強化型であったが、7月より支援相談員0.5名の配置で70点以上の最上段階の超強化型老健を取得することができた。また10月より訪問リハの開始により78点となり、現在まで維持できている。排泄ケアや褥瘡予防の加算が新設され7月より取得開始している。ターミナルケアは昨年度から継続していた事例を含め2件であった。平均介護度は3.2、平均入所期間は6.79か月であり、前年度4.99か月より長期となった。計画的な在宅復帰を行っているが、退所先の調整に

難渋している現状もある。

2. 通所リハビリの1日平均利用者は、昨年の34.3名より1.1名増の35.4名で、平均要介護度は介護2.3、予防1.9であった。

### ■2018年度のトピックス・実績

7月より超強化型老健を取得し、現在まで維持できている。ベッド回転率は0.15、重症度率（介護度4、5の割合）は平均40.4%で重度化が進んできている。在宅復帰機能を堅持するために、在宅復帰パスとR-4システムの機能を有効活用し、多職種協働で利用者や家族のニーズにあわせて個別援助計画作成・実施するためのシステムの運用を強化していく必要がある。外国人技能実習生の現地講師として、副主任がベトナムホアンロン日本語学校介護コースに1か月派遣され、2019年度受け入れが決定した。また介護員による喀痰吸引等特定医行為の実地研修が自施設で受けるよう環境を整えたことで、3名が認定を受け、利用者への対応が拡大することができた。

通所リハビリでは、2015年度の介護報酬改定で新設されたリハビリテーションマネジメント加算Ⅱの取得を積極的に取り組み、Ⅱ-1、Ⅱ-2合計で月平均は昨年度22.8名より24.1名で1.3名増加した。

### ■今後の展望

・地域包括ケア支援システムの役割を担うためには、在宅事業所や関係する医療機関、他施設職員、多職種協働が重要である。2018年度の介護報酬改定では、在宅復帰・在宅療養支援機能に対する評価が10項目の指標について点数化され、その合計数によって5類型に分類された。最高値90のうち70以上が超強化型となりこれを取得するためには人的調整、業務調整を図り、また地域貢献活動を具体的に進めて早期に取得する予定である。また、排泄ケアや褥瘡予防の加算が新設された。きんもくせいでは従来から力を入れ取り組んでおり、更に充実したサービスを提供していきたい。利用者の重度化と介護ニーズがますます多様化してきており、また高度な認知症の利用者への対応など施設サービスの質の向上に努めることが必要である。

・通所リハビリは、2016年度より利用者が減少傾向にあ



り、利用者の高齢化が進み利用中止者も増加しているが、強化型老健取得の影響も考えられる。

今回の改定で基本報酬が大幅な減収となり、この傾向は今後も続くと考えられ、利用者増対策が必要となる。近隣の類似施設の増加の中で選ばれる施設になるには、ケアの質の向上、レクリエーションの充実など介護サービスの充実に回り、更に送迎範囲の拡大検討、また近隣の関係事業所への営業活動を強化するなど計画的に進めていく必要がある。

# ケアハウス 花みずき

## ■スタッフ紹介

施設長	長尾雅子
生活相談員（社会福祉士）	國府美穂
介護福祉士	茨木利子・岩井美幸

## ■業務内容

- 2003年4月の施設オープン以来、入所定員20名で運用している。2018年度は2名の入退所があった。2019年3月末日現在の入居者20名、平均年齢88.8歳、最長入居期間15年11か月、最短入居期間0年3か月、平均入居期間8年6か月である。
- 2019年3月31日現在で要支援1が4名・要支援2が4名、要介護1が7名、要介護2が1名の16名が介護保険認定を受けており、そのうち15名が介護保険サービスを利用している。具体的サービスとして12名が訪問介護ステーションあいわを利用しており、うち2名はきんもくせい通所リハビリを、6名がデイサービスを、3名が訪問看護も併用している。

## ■2018年度のトピックス・実績

今年度は外部ボランティアの行事受け入れを積極的に行った。入居者にも催し物の案内を行い、昨年度に比べ行事への参加者が増えた。また、施設での防災訓練に関しては入居者の関心が高く、例年に比べ参加率も高かった。

誕生日会では入居者のニーズを汲み取り、栄養管理と協力し季節感を感じられるメニューの工夫を行い、好評を得た。

## ■今後の展望

開設から16年が経ち、入居者の体力低下や認知機能低下に伴い、何らかの支援を必要としている方が増え、介護保険サービスを利用してケアハウスでの生活を維持している入居者が多い現状にある。

入居者の日々の状況や変化の把握に努め、個々の支援を行っていくことが課題となる。今後の支援の在り方を考えるとともに安心して快適に生活ができる環境作りに努めたい。

表. 実施行事

月	日	行事	参加人数	備考
4月	3日	お花見ドライブツアー	10名	豊中～千里周辺をドライブ、お花見弁当
	19日	お誕生日会	20名	お誕生日者1名(お造り盛り合わせ)
5月	16日	体力測定(いきいき健康講座)	10名	握力や歩行状態の測定
	17日	お誕生日会	20名	お誕生日者1名(ステーキ)
	29日	買い物ツアー	4名	南千里イオン
6月	15日	お誕生日会	20名	お誕生日者1名(夏野菜の天ぷら)
	21日	ローズコミュニティ防災訓練	16名	
7月	12日	お誕生日会	20名	お誕生日者4名(鰻料理)
8月	8日	施設夏まつり	13名	
	9日	お誕生日会	19名	お誕生日者4名(うな重)
9月	6日	敬老お食事会	14名	三田屋
	26日	健康診断	8名	内科健診・レントゲン・心電図
	27日	健康診断	10名	内科健診・レントゲン・心電図
10月	27日	お誕生日会	18名	お誕生日者1名(海老フライ)
	11日	お誕生日会	17名	お誕生日者2名(秋の味覚ご飯)
11月	26日	買い物ツアー	5名	南千里イオン
	9日	体力測定(いきいき健康講座)	12名	握力や歩行状態の測定
	15日	お誕生日会	19名	お誕生日者1名(握り寿司)
	17日	秋の集い	10名	
12月	21日	紅葉ドライブツアー	6名	北千里 三色彩道、緑地公園
	29日	ローズコミュニティ防災訓練	12名	
	5日	お楽しみ会	19名	お誕生日者なし(ステーキ)
1月	19日	愛和会クリスマス会	12名	
	1日	おせち、お屠蘇、和菓子の提供	19名	
2月	17日	お楽しみ会	19名	お誕生日者なし(すき焼き)
	22日	お誕生日会	18名	お誕生日者2名(お造り盛り合わせ)
3月	14日	買い物ツアー	5名	南千里イオン
	19日	お誕生日会	19名	お誕生日者2名(牛肉の赤ワイン煮込み)

# 愛和会（豊中地区）デイサービスセンター

## ■スタッフ紹介

介護福祉士 12名（うちパート 2名）、  
 看護師 4名（うちパート 2名）、理学療法士 1名、  
 社会福祉士 1名、介護員 3名（うちパート 2名）

## ■業務内容

定員 50名で、月曜日から日曜日まで営業している（日曜日は定員 30名）。緑地公園がすぐそばにあるため、四季折々の風景を楽しみながら、ゆったりとした時間を過ごすことができるデイサービスとなっている。利用者一人ひとりの個性を大切に、趣味活動やさまざまなイベント等、個々にあったサービス（充実した時間）を提供できるよう努めている。また理学療法士を配置し、生活リハビリにも力を入れている。入所施設との連携をうまくとることで、利用者のニーズにも応えられる事業所となっている。

## ■2018年度の特ピックス・実績

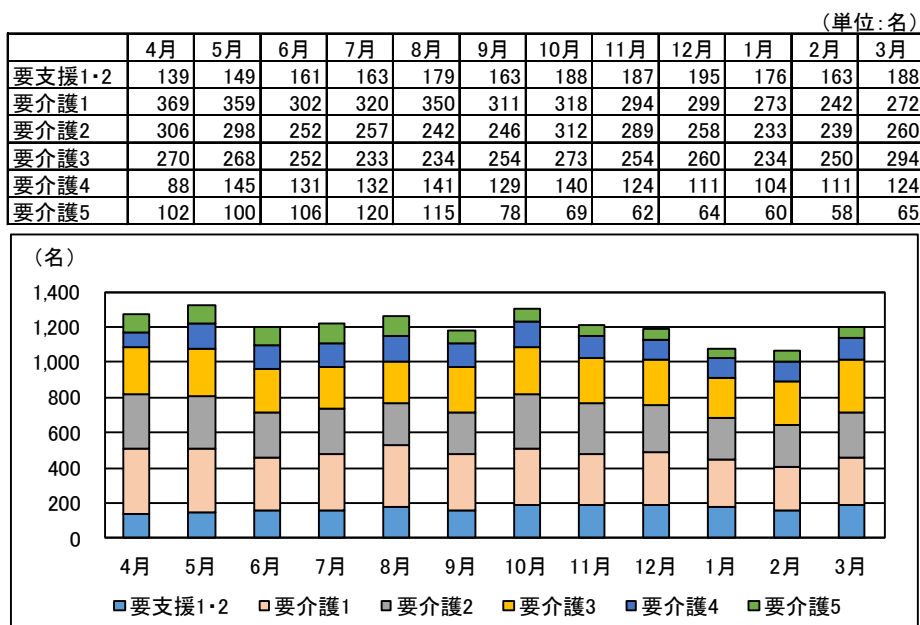
2018年度は平均利用者数が 39.7名であり、前年度に比べると 5.4名増となっている。加算については、個別機能

訓練加算Ⅱと運動機能向上加算の算定を積極的に行い、個別機能訓練加算Ⅱは延べ 2,419名、運動機能向上加算は延べ 322名に増加した。併せて、これまで算定できていなかった認知症加算の算定を開始することができ、単価の増加に繋がった。

## ■今後の展望

現在登録している利用者の管理やケアマネジャーとの積極的な情報共有や働きかけを行い、利用率向上に努める。認知症加算対象者には、より質の高いサービス提供ができるよう、個別プログラムの検討やユニットケアの確立を目指し、スタッフにはそのための外部研修への参加を計画する。また、現在使用している書類の見直しや業務の効率化を行い、働きやすい職場作りを目指すことが重要と考える。また近年、デイサービス利用者の確保が難しくなっている現状があるが、入所施設とも連携をはかりながら、できる限り在宅で生活していただけるよう努力していきたい。旧蒼龍会（井上病院やその他在宅サービス）とも連携を強化し、利用者の安定的な確保に努めていく。

図表. 2018年度豊中あいわ苑デイサービスセンター延べ利用者数



# 愛和会（豊中地区）ケアプランセンター

## ■スタッフ紹介

### ケアプランセンターあいわ

管理者（主任ケアマネジャー兼任）磯和夏世

主任ケアマネジャー 4名

勝永和美, 飯田典子, 初崎貴子, 福嶋久子

常勤ケアマネジャー 4名

栗津純子, 西川みか, 吉田照章, 杉野共慶

### ケアプランセンターあいわ豊中南

管理者（主任ケアマネジャー兼任）土本美子

主任ケアマネジャー 2名 池田陽子, 茶谷恵子

常勤ケアマネジャー 2名 金山裕己, 白川理恵

## ■業務内容

市内最大級の事業所であり複合施設という性質上、緊急的なケアプランの依頼や困難ケースの依頼、引き継ぎ相談も多く寄せられる。新規依頼の経路としては、包括支援センターからの依頼や法人内の連携によるもの、近隣医療機関からの新規相談等も多く、また利用者の家族や知人からの紹介ケースも増えている。

## ■2018年度のトピックス・実績

### 1) ケアプランセンターあいわ

2018年度ケアプラン作成数は、4月352件でスタートし、3月304件で終了した。1人あたりのケアプラン数は

平均31.5件であった。新規依頼はコンスタントにあるものの長期入院や入所等で終了となるケースも多く、また9月にはケアマネが1人異動となったこともあり、ケアプラン作成数は減少した。一方、予防ケースを段階的に包括や他事業に委譲することで、単価の増加に取り組み、報酬単価の平均は14,445円に上がった。

### 2) ケアプランセンターあいわ豊中南

2018年度ケアプラン作成数は、4月225件でスタートし、3月189件で終了した。1人あたりのケアプラン数は平均32.8件であった。年度途中で7.5名から5名体制となりプラン数は減少したが、緑地地域包括支援センター高川分室とも連携を図り、緑地圏域南部の新規利用者獲得に向けて努力した。ケアプランセンターあいわ同様に生産性の向上を図り、報酬単価は14,499円に増加した。またこれまで課題であった自社プラン率についても24%まで増加した。

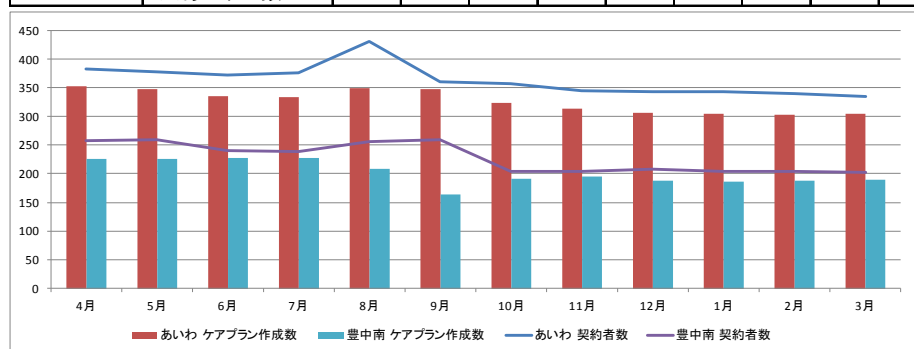
## ■今後の展望

2018年の介護報酬改定で大きな加算要件の変更点となった医療・介護連携サービス要件については、ターミナル体制加算の算定に向けて在宅医との連携強化等の取り組みを行う。今後は法人内への紹介率向上はもちろん、井上病院との紹介実績数を向上させていきたい。同時に緑地圏域におけるサービスの適正化・重点化を行っていく。

図表. 2018年度実績

(単位:名/件)

2018年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
あいわ	契約者数	383	377	372	376	431	361	357	345	343	343	339	334
	ケアプラン作成数	352	347	336	334	350	347	324	313	306	304	303	304
	1人あたりの数	34.8	31.0	30.0	29.8	32.8	32.6	31.9	30.8	30.2	29.9	31.6	32.2
豊中南	契約者数	257	259	240	238	256	259	205	205	207	204	205	202
	ケアプラン作成数	225	226	228	228	208	164	191	194	188	187	188	189
	1人あたりの数	32.3	32.5	32.9	35.1	33.6	30.7	32.6	33.0	31.8	31.6	35.0	35.1



# 訪問介護ステーションあいわ

## ■スタッフ紹介

管理者：長尾 敏

常勤サービス提供責任者 7 名：

藤井和代，貞守文子，成田美代子

大井明子，吉田朋美，北田衆生

常勤職員 6 名

井上恵子，北由利子，笠原順子

石丸由美子，原 典子，檜 栄子

パート介護員 3 名

登録ヘルパー 実働 32 名

## ■業務内容

介護保険による介護給付・予防給付・地域密着型サービス（定期巡回・随時対応型訪問介護看護）と，障害者総合支援法による居宅介護・重度訪問・移動支援を提供する訪問介護事業所である。これだけさまざまなサービスに対応できるのは，当事業所の強みである。中でも，定期巡回・随時対応型訪問介護看護は，豊中市内で実施している事業所は 3 か所と少なく，このサービスを実施することで，スタッフの自信にも繋がっている。法人内の連携が強いのも特徴で，自社プラン率が 95%以上と高く，ケアプランセンターあいわ，緑地地域包括支援センターからの依頼が多い。

## ■2018 年度のトピックス・実績

年度当初の契約者数は介護保険 131 名・介護予防 70 名・障がい 16 名の合計 217 名であった。そのうち，定期巡回・随時対応型訪問介護看護契約者数は 11 名。月間 1,700～2,300 件，年間 23,500 件を超える訪問を行うことができた。新規契約数は 49 件，解約は 74 件，年度末契約者数は 197 名であり，内訳は介護給付 118 名・予防給付 57 名・障がい 22 名となった。定期巡回・随時対応型訪問介護看護の体制緩和を受け，2019 年 1 月から夜勤体制から 4 シフト制へ移行，朝，夕の利用者ニーズの多い時間帯の利用者の獲得を積極的に行った。同，1 月から特定事業所加算Ⅱを算定し，職員，登録ヘルパーの質の向上に勤めた。

## ■今後の展望

地域包括ケアシステムを見据えた地域密着型の事業として，定期巡回・随時対応型訪問介護看護の獲得に向け，今まで以上に連携の強化を図るため，訪問看護と訪問介護が一丸となって需要に応じていける体制を構築していく。介護，障がいともに，利用者ニーズに添いながら在宅生活の継続を図っていく。全職員の介護技術の底上げ，スキルアップを目指し，特定事業所加算Ⅱの算定に見合う質の高いケアの提供を行えるよう計画的に研修を行う。

表 1. 延べ訪問件数実績

(単位:件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
介護	1,278	1,348	1,118	1,042	1,092	967	1,048	1,154	945	944	991	1,083
予防	412	405	387	410	397	362	410	380	297	283	265	275
定期巡回	481	456	427	300	375	344	373	342	386	399	395	340
障がい	156	189	188	194	158	117	142	136	100	111	112	79

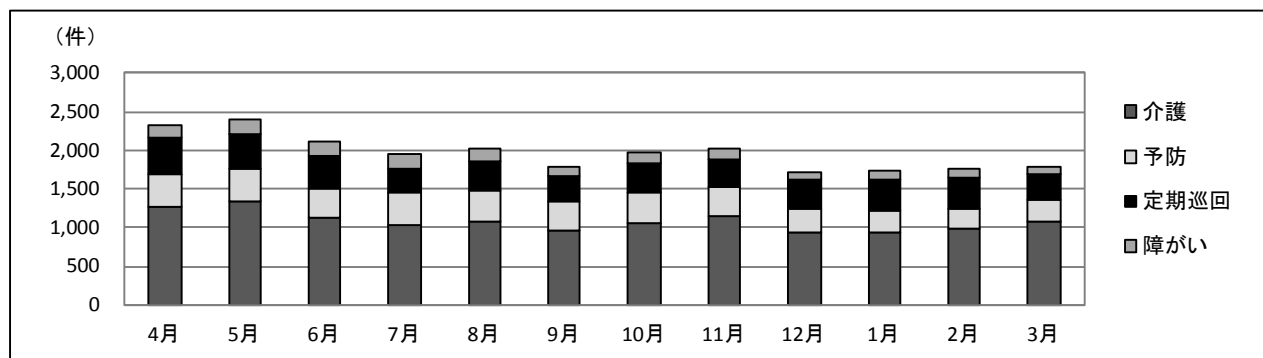


図 1. 延べ訪問件数推移

# あいわ訪問看護ステーション

## ■スタッフ紹介

管理者	1名
副主任	1名
常勤看護師	7名
非常勤看護師	1名
常勤理学療法士	4名
常勤兼務言語聴覚士	1名

## ■業務内容

今年度の新規契約者は65件（月平均5.4名）。内訳は介護給付（予防含む）39件、医療給付は26件で介護給付は前年比8%減少し、医療給付は57.8%増であった。医療機関は、市立豊中病院、済生会千里・中津・吹田病院、刀根山病院、淀川キリスト教病院、井上病院で、退院前カンファレンスへは積極的に参加している。江坂ケアプランセンターを含め、同法人内のケアプランセンターからの新規依頼は安定している。法人外の新規依頼件数は13件で、1%増えているが、増加は少ない。訪問リハビリは昨年度からST配置にて4.5名体制となり訪問件数4,646件、前年比106.7%と増加している。

終末期状態の利用者においては、病院、往診医からの新規依頼を積極的に受け入れ、年間19名を在宅で看取り、昨年度より73.6%増えている。

定期巡回随時対応訪問介護・看護では看護ありが114件で前年比118%、アセスメントのみが67件前年比125%で、介護のみの利用者に対しては月1回のモニタリング及びアセスメントのための訪問を行いながら、健康状態を把握し、身体面での情報共有に努めている。

年度末の契約者数は142件、延訪問件数は10,853件（訪問リハ含む）、グループホームを含めると101,045件となる。1日の平均訪問件数は30.1件で、看護師2名増員となるが、スタッフ1人当たりの1日平均訪問件数は4.0名で0.9%減少している。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年6月よりサービス提供加算を取得する。

2018年の介護報酬改定において「訪問看護でリハビリのみを利用している方に対し、看護職員が定期的に訪問し、利用者の状態の適切な評価をすること」が示されたが、未だ算定できていない25名は3か月ごとに看護師が訪問し評価を行っている。

訪問看護を考える会における事業計画である人事交流は人員の数により実践できなかった。

## ■今後の展望

豊中市の訪問看護ステーション数が増加する中で新規利用者獲得を目指して、医療機関や居宅支援事業所、相談支援事業所との連携及び関係性の構築と、営業活動を今後も積極的に行い、顔の見える関係作りを継続していく。特に、井上病院、江坂ケアプランセンターとの連携を強化し、透析患者を積極的に受け入れ、医療ニーズの高い利用者でも対応できるよう、職場学習会、研修の参加を通して更なる質の向上を目指す。

また、看護職とリハビリ職がお互いの視点を持って連携しながら、利用者を包括的にアセスメントし、質の高いサービスの提供に努めていく。

定期巡回随時対応訪問介護・看護の看護師としての役割を果たすため、指導的視点を持ちながら介護職とも情報交換を密に図り、利用者・家族が住み慣れた地域で安心して最後まで在宅療養できるよう、教育的な関わりと、意思決定支援を行っていく。在宅での看取り及び小児の受け入れに向けて取り組み、引き続き機能強化型訪問看護ステーションを目指す。

表1. あいわ訪問看護 2018年度活動実績

あいわ訪問看護	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
活動利用者数(人)	144	142	145	142	143	143	142	135	135	129	129	135	1,664	138.6
訪問延べ人数(件)	941	942	912	919	962	824	936	974	804	795	786	866	10,661	888.4
収入(円)	8,241,491	8,274,051	8,156,881	8,128,811	8,423,114	7,241,976	8,174,490	8,646,976	7,188,958	7,101,781	7,047,919	7,797,536	94,423,984	7,868,665
在宅看取り数(人)	2	0	4	1	1	2	2	2	2	1	1	1	19	1.5

# 緑地地域包括支援センター

## ■スタッフ紹介

管理者/主任介護支援専門員：上農朱美  
 保健師/看護師：宮前富美，村上賀美，大屋好江  
 若林美和  
 社会福祉士：寛山穂月，紀太義信，溝上恭兵  
 主任介護支援専門員：小阪和美，二口恵津子

## ■業務内容

2018年度豊中市への実績報告は、相談件数 3,825 件で、内訳は介護予防 256 件、介護保険 2,113 件、権利擁護・虐待関係 357 件であった。このうちケアマネジメント支援は 430 件であった。介護予防に関しては、年度末の介護予防プラン作成件数は 516 件、包括担当件数 186 件、委託担当件数 325 件であった。

地域活動としては、地域福祉ネットワーク会議 2 回、高齢部会 6 回、寺内・豊南 2 校区での見守りローラー作戦 16 回、地域密着型サービスの運営推進会議への参加 47 回、地域教室 12 回を開催した。また今年度はサロン、なんでも相談・民生委員定例会等 22 回、他に地域の文化祭、秋祭り、クリスマス会、防災訓練などにもより多く参加し、積極的な広報や地域の情報把握に努めた。

## ■2018 年度のトピックス・実績

自立支援型ケアマネジメント会議の準備を数年行ってきたが、今年度からは自包括で主催し、準備から開催、振

り返しを行った。高齢者の自立と介護予防推進のため、自立支援型ケアマネジメント会議を開催、次年度も継続する。地域活動に参加し、地域の実情把握を行うとともに、当センターの広報活動を丁寧に実施した。多世代に向けたネットワーク構築のため、初の試みとして、児童対象の認知症サポーター養成講座を開催したり、地域の小学校や子ども食堂に出向いたりした。専門職向けに人権擁護や虐待などの研修を 4 回開催し、適切な時期の相談には、早期の気付きが重要であることを伝えた。包括内においても権利擁護に関する相談に速やかに対応できるよう、情報共有と協議を徹底して行った。「愛和会豊中地区の全職員にオレンジリングを」を合言葉に認知症サポーター養成講座を 3 回開催し、約 300 名が受講、認知症への理解に努めた。引き続き、一般介護予防事業の「地域の通いの場づくり」を重点的に行った。「とよなかパワーアップ体操」の立ち上げは、地域住民が自助、互助の中で通いの場作りと介護予防ができるよう、包括の医療職中心に支援を行っている。通いの場が地域に増え、介護保険に頼らない地域づくりを目指しており、今年度は 8 か所が通いの場として活動している。

## ■今後の展望

2019 年度も引き続き、地域住民や地域の専門職とのより良いチームアプローチやネットワーク作りを継続する。

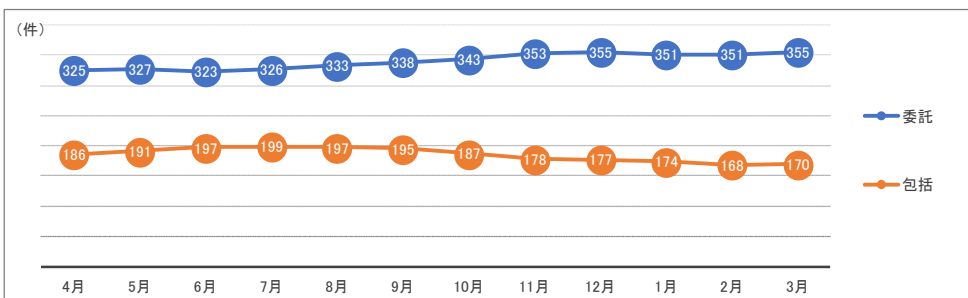


図 1. 2018 年度プラン件数

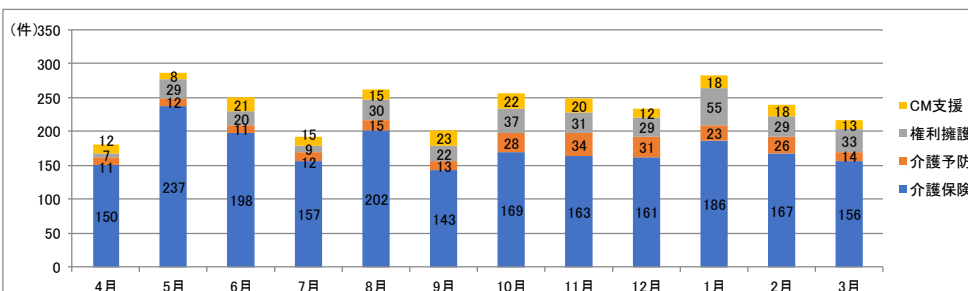


図 2. 2018 年度総合相談件数

## 障がい者施設 あすなろ

### ■スタッフ紹介

職員配置は、施設長1名、看護職員3名、医師1名（嘱託）、管理栄養士1名のほか、多機能型事業所あすなろは主任1名、副主任1名、生活支援員13名、あすなろ（生活介護）は科長1名、主任1名、副主任1名、理学療法士1名、生活支援員18名、あすなろ（短期入所）・日中一時支援事業あすなろは主任1名、副主任1名、生活支援員11名、相談支援事業所あすなろは副主任1名、相談支援専門員3名である。

### ■業務内容

障がい者施設あすなろは、5つの事業を行っている。

多機能型事業所の就労継続支援 B 型では作業訓練や社会生活訓練を行い、就労を目指している。生活介護では製麺、印刷、軽作業、清掃、洗車などの作業を通して、就労機会の提供を行っている。

生活介護では、運動や創作活動、音楽、スヌーズレン、感覚刺激などの余暇活動の提供と食事や入浴、機能訓練などを実施している。

短期入所では、家族のレスパイトや緊急時などの理由による短期間の宿泊の場を提供している。日中一時支援事業では、家族のレスパイトや就労などの理由による一時預かりを行っている。

相談支援事業所では、障がい者・児の相談業務やサービス等利用計画の作成を行っている。

### ■2018年度のトピックス・実績

多機能型事業所の就労継続支援 B 型では、社会生活訓練や日常生活訓練を取り入れ、また、職場実習では短期実習に3名、長期実習に1名参加し、10月には1名が就職に繋がった。生活介護では、定期的に利用者の意見を聴く場を設け、汲み取った意見をサービス内容に活かし満足度向上に繋げる「あすなろミーティング」を行った。

生活介護では、職員体制を2:1から1.7:1とし、一層安心・安全な場の提供を行った。また、看護職員は2名体制とし、嘱託医との連携を強化し、疾病の早期発見、早期対応をすることで、欠席者が昨年度に比べて延べ470名減った。また、新しい活動を利用者と一緒に考え、実施で

きるように取り組んだ。

短期入所では、利用者家族の入院等に伴い、緊急利用を多く受け入れた。緊急利用が重なる場合は利用調整を行い、キャンセルや空き状況により営業活動を行った結果、稼働率94.1%となった。また、応急処置の勉強会を実施し、怪我や誤嚥など対応方法について看護師より指導を受けスキルアップを図った。日中一時では予約調整とスケジュールの工夫を行い、1日の受け入れ人数を増やし、1日平均利用者数は8.2名と1.3名増加した。

相談支援事業所では、契約者数が233名になり、豊中市在住の計画相談必要者の約11.4%を担当した。また、サービス計画作成件数及びモニタリング件数は年間で789件、前年比107.9%となった。計画相談以外の一般相談件数は258件で、昨年度より8.5%減少したが、スピーディーに対応し、地域の窓口として役割を果たせた。当事者やその家族対象の勉強会を3回実施し、地域生活をする上で情報提供ができた。業務マニュアルを作成し、日々の相談業務や異動職員の引き継ぎに活用した。

### ■今後の展望

利用者の高齢化に伴う疾病の早期発見を目的に、嘱託医と連携し、あいわ苑診療所での市民健診・特定健診を行う。また、業務の効率化を行い、ワークライフバランスのとれた職場環境を目指す。

多機能型事業所の就労継続支援 B 型では、利用者のニーズにあった支援、実習を行い就労に繋げる。生活介護では利用者の望む生活やあすなろでの過ごし方等、要望を汲み取った個別支援計画の作成を検討する。

生活介護では、職員間の連携を図り、グループ活動やクラブ活動の充実を図る。引き続き嘱託医、看護職員と連携を図り利用者の健康管理を行う。

短期入所では、他法人の事業所（生活介護や短期入所）との関係を広げ、情報共有を図り利用者支援の質の向上に努める。また、多機能型事業所及び生活介護へ職員2名が実地研修として活動へ参加し、統一した支援の強化を図る。

相談支援事業所では、利用者対象の福祉制度や社会資源の勉強会を継続するとともに、地域包括支援センターやケアプランセンター及び訪問介護、訪問看護との連携を図り、



利用者やその家族に必要なサービスを速やかに提供していく。また、外部研修を通して、相談援助技術や専門性に特化したスキルアップに努める。

表 1. 多機能型事業所あすなろ（利用延べ人数）

（単位：名）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就労継続支援B型	181	180	167	186	175	146	159	142	145	149	156	158	1,944
生活介護	1,225	1,265	1,191	1,235	1,213	1,086	1,301	1,236	1,174	1,131	1,160	1,206	14,423
合計	1,406	1,445	1,358	1,421	1,388	1,232	1,460	1,378	1,319	1,280	1,316	1,364	16,367

表 2. 多機能型事業所あすなろ（事業別平均工賃）

（単位：千円）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
就労継続支援B型	17,500	18,100	16,500	17,200	18,500	16,800	18,400	19,100	20,100	20,700	22,300	24,200	19,117
生活介護	11,500	8,800	6,900	9,200	11,200	6,500	8,700	10,200	12,000	8,000	7,800	11,500	9,358

表 3. あすなろ（生活介護）（障がい支援区分別利用延べ人数）

（単位：名）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
障がい支援区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
障がい支援区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
障がい支援区分3	48	47	49	50	50	49	48	48	50	43	43	47	572
障がい支援区分4	184	197	194	204	189	159	217	215	206	182	203	185	2,335
障がい支援区分5	393	421	382	390	386	345	388	422	399	371	363	401	4,661
障がい支援区分6	515	518	492	516	503	477	534	469	507	473	480	559	6,043
合計	1,140	1,183	1,117	1,160	1,128	1,030	1,187	1,154	1,162	1,069	1,089	1,192	13,611

表 4. あすなろ（短期入所）・日中一時支援事業あすなろ（利用延べ人数）

（単位：名）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
短期入所	772	799	781	827	774	764	848	803	833	762	756	783	9,502
日中一時	217	218	227	265	260	249	276	256	258	251	240	308	3,025
合計	989	1,017	1,008	1,092	1,034	1,013	1,124	1,059	1,091	1,013	996	1,091	12,527

表 5. 相談支援事業所あすなろ（相談件数）

（単位：名）

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
成人	計画	25	12	24	26	19	16	31	21	21	11	25	27	258
	モニタ	35	31	33	45	34	37	33	35	46	42	32	36	439
児童	計画	2	2	2	2	6	1	3	3	1	6	1	4	33
	モニタ	9	3	5	4	6	4	4	5	5	3	4	8	60
合計	71	48	64	77	65	58	71	64	73	62	62	75	790	



# 特定医療法人 蒼龍会

〒564-0053

吹田市江の木町 16 番 17 号

URL: <https://inoue.aijinkai.or.jp/>



## 信条・約束

### <私たちの信条>

- ・私たちはお客さま本位の医療を提供します。
- ・私たちは腎医療の専門領域を確立していきます。
- ・私たちは働き甲斐のある職場づくりを目指します。
- ・私たちは地域住民の健康生活に奉仕します。

### <お客さまへの約束>

私たちは

- ・適切な医療を提供いたします。
- ・治療に対して十分な説明を行い、ご自身の選択に基づく医療を進めます。
- ・必要なときはいつでも診療情報をお伝えします。
- ・プライバシーを尊重することを約束いたします。
- ・より良い医療が行われるよう、常に研鑽いたします。

## 井上病院施設概要

- 病床数/127床
- 診療科目/15科
- 病院機能/開放型病院, 日本医療機能評価機構認定病院, 指定自立支援医療機関, 臨床研修指定病院(協力型), 労災指定病院, DPC対象病院, 内科学会教育関連施設

## 蒼龍会施設一覧

- ・井上病院
- ・井上病院附属診療所
- ・井上診療所(みかん)
- ・介護老人保健施設ひまわり
- ・介護老人保健施設つくも

- ・江坂ケアプランセンター
- ・ひまわりケアプランセンター
- ・つくもケアプランセンター
- ・いのうえヘルパーステーション
- ・つくもヘルパーステーション
- ・吹田市津雲台・藤白台地域包括支援センター

## 2018年度総括

2018年度は透析技術料マイナスと厳しい診療報酬改定の年であったが、エビデンスに基づいた質の高い医療を提供し増患対策を図った。まず、透析医療では透析棟患者のフロア移動を実施し、オーバーナイト透析を開始した。また4時間以上透析に注力し、長時間透析患者や夜間透析患者の増患を図った。さらに、CKDへのアプローチも強化し、選択療法を早期に実施しその中でもPDファーストを掲げCAPD患者の増加を推進した。次に診療棟では、これまでの6人部屋から4人部屋へ変更し、患者のアメニティ向上や感染症対策に寄与した。診療面では、整形外科を中心に増患・単価増が図れ、7月からは泌尿器科に待望の常勤医が着任し実績を伸ばしている。

介護報酬については、つくもは超強化型、ひまわりは加算型と、それぞれ改定対策に注力し単価増に繋げている。しかし、増患対策に苦戦し、特に通所リハビリについては外部事業所の増加などが原因で通所患者が減少しており、抜本的対策を講じる必要がある。

法人全体としては、愛仁会本部と連携し粛々と法人合併への手続きを実施し、2019年4月1日に無事法人合併に至る。

## 2018 年度活動状況

- 4 月 役職者辞令交付式, 新卒新入職員辞令交付式・法人研修会, 平成 30 年度事業計画・介護報酬改定説明会(つくも), CKD 学術連携フォーラム 2018
- 5 月 御堂筋監査法人訪問調査, 大阪介護老人保健施設協会北摂ブロック事業会議(ひまわり)
- 6 月 第30-01回蒼龍会評議員会, 吹田市感染管理会議, 実地指導監査(江坂 CPC, いのうえ HST)
- 7 月 平成 30 年度介護保険施設集団指導(ひまわり・つくも), 誤嚥性肺炎研修会
- 8 月 蒼龍会創立記念日(蒼龍会職員特別全集), 北摂 PD セミナー, 御堂筋監査法人監査
- 9 月 吹田市病院連絡会, 江坂企業協議会第 169 回理事会出席, 第 42 期上期業務改善発表会
- 10 月 合併調整会議(御堂筋監査法人, 三優監査法人), 第 1 回井上病院地域連携の集い
- 11 月 花展, 井上病院文化祭
- 12 月 御堂筋監査法人監査
- 1 月 井上病院新年互礼会, 平成 31 年大老協新年互礼会, 平成 31 年病院関係五団体新年互礼会, 吹田市医師会全員協議会・学術講演会・新春懇談会
- 2 月 第 18 回三法人経営塾成果発表会・修講式, 泌尿器科研修会(地域介護施設向け), 吹田保健所管内院内感染対策連絡会議, 第 2 回愛仁会学術集会
- 3 月 御堂筋監査法人会計監査, 第 3 回 ICLS 講習会, 第 30-02 回蒼龍会評議員会, 第 42 期下期業務改善発表会, 特定医療法人蒼龍会法人合併記念式典・祝賀会

## 2019 年度に向けて

2019 年度は循環器内科と腎臓内科, 麻酔科に専門医が増員し診療体制の強化が図れる。特に, 麻酔科が 2 名体制になることで, 並列での全身麻酔が可能となり, 更なる手術症例の増加で入院単価 UP に繋げたい。また, 透析患者については, オーバーナイトや CAPD 患者を中心に更なる増患を図りたい。外来についても, CKD だけではなく糖尿病患者, 骨粗鬆患者へのアプローチを強化していく。

各介護施設は, 増患対策を最優先に注力したい。これまでと同様の営業戦略ではなく, 抜本的な対策を要し早期に講じていきたい。

最後に 2019 年度より正式に愛仁会の一員となり, 透析患者を中心に吹田エリアの連携を一層密にし, 吹田地区版地域包括ケアを確立していきたい。各施設の利益を追求しつつも, 吹田エリア全体の利益を追求していけるよう有機的に連携を果たしていきたい。

## 腎臓内科

### ■スタッフ紹介

西澤良記 : 日本腎臓学会専門医・指導医, 日本透析医学会専門医・指導医

辻本吉広 : 日本腎臓学会専門医・指導医, 日本透析医学会専門医・指導医

田畑 勉 : 日本腎臓学会専門医・指導医, 日本透析医学会専門医・指導医

藤原木綿子 : 日本腎臓学会専門医, 日本透析医学会専門医

前田忠昭 : 日本腎臓学会専門医, 日本透析医学会専門医

福永 慎 : 日本透析医学会透析専門医

### ■診療内容

(入院病棟)

・対象疾患: 腎炎・ネフローゼ症候群(腎生検を含む), 急性・慢性腎不全, 血液透析や腹膜透析の導入, 透析患者の合併症, その他(一般内科疾患を含む)

(腎専門外来)

月～金曜日, 専門医による腎専門外来

・対象: 慢性腎臓病の初期から末期(透析患者)

### ■2018年度のトピックス・実績

腎炎, ネフローゼを中心とした腎疾患の腎生検診断・治療と, 慢性腎不全患者の外来診療, 透析導入, 合併症加療を行った。

腎炎・ネフローゼに対しては, 千船病院腎臓内科 中西昌平先生の指導の下, 7件施行した。生検結果は大阪市立大学医学部内分泌代謝病態内科学教室で開催される腎病理検討会に当院内科医師が参加し, 組織を供覧し検討している。

外来透析では, オーバーナイト透析を開始し, 2018年度実施者は10名と好評を得た。

また2018年3月末において在宅透析5名, 腹膜透析38名の診療を行っている。

透析患者の入院部門では, 透析導入47件(HD, PD), 透析療法の移行6件(HD→PD, PD→HD), 透析患者の合併症入院1,204件であった。

特殊血液浄化として, LDLアフェレーシス9件, CHDF23件, 腹水濾過濃縮再静注法1件を行った。

その他, 地域の人に, 慢性腎臓病を知っていただく啓蒙活動として, CKD公開講座を行っている。

1. CKD(慢性腎臓病)ってなに?
2. 血清クレアチニンが高いといわれた。さあ, どうしたらいいの?
3. 腎不全で透析が必要といわれた。透析ってどんなもの? そして移植は?
4. 糖尿病の合併症で腎臓が心配。どんな検査, どんな治療があるの?
5. 高血圧と腎臓病

2018年の大きな変化として, CKDチームを立ち上げた。これまでCKD5の患者は各主治医の診察の中で透析療法選択・導入を決めていた。限られた診察時間や医師の考えにより十分な説明ができない症例もあった。

2018年より内科外来へ通院するCKD5の患者全員へ腎臓内科医師・看護師(療法選択Ns・PDNs含む)・社会福祉士・栄養士・リハビリ・CE・事務で構成された多職種によるチームが介入し, 主治医へ提案を行った。診察時間外でも関わることで, 時間をかけた均一な療法選択説明や社会福祉相談を行うことができた。

2018年8月から活動を開始し, CKD5の45名へ介入した。

### ■今後の展望

当院は腎臓に関して幅広く研修していただくために, 日本腎臓学会, 日本透析医学会, 日本糖尿病学会の教育施設として認定されており, 腎臓内科医もそろっている。今後も若手医師の育成を続けていきたい。

地域への活動として当院が実績をもつ幅広い透析の提供を継続して行う。また保存時腎不全CKD3からのCKDチーム介入により, 腎不全進行抑制にも力を入れていく。さらに当院の地域への知名度をあげるために出張健康教室や, イベントで腎臓相談窓口開催なども実現していきたい。

## 循環器内科

### ■スタッフ紹介

非常勤の循環器専門医 2 名（大阪大学医学部所属）。  
2019 年 1 月から、しんあい病院より、高井も診療に加わった。

### ■診療内容

主として透析患者の循環器合併症に対しての外来診療を行った。循環器合併症に際して、基幹病院と適切に連携を行った。入院、外来の患者に対して、循環器専門医として、診療を行った。

### ■2018 年度の実績

循環器外来受診患者数は延べ 852 名であった。実患者数は 222 名であり、その内訳は 移植腎患者 26 名、透析患者 112 名と、腎臓専門病院に特徴的な比率であった。

### ■今後の展望

透析患者では、閉塞性動脈硬化症など動脈硬化性疾患が高頻度で出現している。虚血性心疾患では、無症候性の冠動脈疾患合併も危惧され、急性冠症候群の発症には注意が必要と考えられる。大動脈弁狭窄症に対しては、循環器外来での病態管理と基幹病院との連携が必要と考える。治療については、人工弁置換術が中心であるが、TAVI 治療を考慮して適切に診療していく。透析患者での心房細動における抗凝固療法には議論があるが、現状ワーファリンのみである。カテーテルアブレーションが、心房細動の予防治療の首座に位置づけられるようになり、血栓予防以外に、心不全や透析困難症回避の効用も併せてカテーテルアブレーションに期待している。今後も、透析患者だけでなく、入院、外来の非透析患者に対しても真摯に診療を行っていく。近隣基幹病院だけでなく、法人内連携（高槻病院、千船病院）を進めていく。吹田、江坂地域の患者に役立つ医療を提供できる環境を強化していく方針である。

# 眼 科

## ■スタッフ紹介

眼科医 4名（常勤1名，非常勤3名）

検査員 2名

## ■診療内容

外眼部疾患から眼底疾患までの診療を行い，必要時には症状に応じて専門医へ紹介している。

## ■2018年度のトピックス・実績

白内障手術や光凝固術のほか，硝子体注射治療も行っている。

白内障手術 66件

白内障手術（多焦点眼内レンズ） 2件

硝子体注射 20件

蛍光造影検査 3件

レーザー光凝固術 特殊：4件

通常：19件

YAGレーザー 6件

視野検査 440件

白内障手術，硝子体注射は兵庫医科大学からの非常勤医師が担当している。

第3水曜日の午後には視覚障害申請のための外来を行っている。

## ■今後の展望

透析患者，糖尿病患者の眼合併症の診断・治療を適切に行い，長期に通院を継続できる眼科を目指す。

# 糖尿病内科

## ■スタッフ紹介

2018年度は日本糖尿病学会認定教育施設として、研修指導医が4人(辻本吉広, 田畑 勉, 西澤良記, 土蔵尚子), 専門医が3人(下村菜生子, 木津あかね, 宮部美月)在籍して臨床と研究に従事している。さらに1人(佐々木けやき)が専門医取得のための研修を行っている。糖尿病療養指導士は管理栄養士2人が, フットケア療養指導士は4人が活動している。

## ■診療内容

日本糖尿病学会指導医, 専門医による専門外来は週7回であり, 維持できている。糖尿病診療は全身の合併症を診療する必要があり, 他専門科と連携を行っている。合併症のない早期の糖尿病から糖尿病腎症, 透析期まで腎機能に合わせた血糖管理を行っている。フットケア外来は毎週1回が設けられ糖尿病合併症管理料の算定ができています。地域の健康増進と疾病予防の目的のため年11回の健康教室も従来通り開催され, 医師, 看護師, 管理栄養士, 薬剤師, 理学療法士が担当した(表1)。

## ■2018年度のトピックス・実績

糖尿病の外来診療では, 糖尿病の検査を行った人数は1,787人, 定期的な通院患者は月平均349人で, 昨年度より漸増している。また, 通院維持透析の糖尿病患者303

人のうち, 薬物療法を202人に行った。また, 今年度より外来診療では糖尿病透析予防指導を開始し, 透析を予防することを精力的に進め, 外来登録者数は17人となった。一方, 入院については, 糖尿病の病名での入院は262人, うち糖尿病教育クリニカルパスの運用数は23件であった。外来検査では, インスリンやGLP1受容体作動薬の自己注射の患者を対象に保険適用となったフリースタイルリブレを導入した。これは1日中の血糖変動をモニターでき, 低血糖を回避したより安全な血糖コントロールを行えた。さらに糖尿病の末梢神経合併症の評価のため神経伝導測定機器(DPN)による検査を開始した。フットケア外来では41人に糖尿病合併症管理料の算定がなされた。

## ■今後の展望

依然として患者数が増加し続けている糖尿病は本院の基幹診療部門である慢性腎不全, 人工透析の原疾患として, その初期診療から保存期, 透析導入までの切れ目のない医療の重要性は, 繰り返し強調されるべきである。糖尿病は種々の血管病変, 各種の悪性腫瘍, そして今後更に増加する認知症などとの関連性も明らかであり, その診療の重要性は地域医療のためにゆるぎないものである。今後も糖尿病学の進歩に遅れることなく, 最良の医療を提供できる体制を維持していきたい。

表1. 健康教室実績

開催日	回	講義内容	講師	参加数
4月21日	第1回	CKD(慢性腎臓病)ってなに?	田畑 勉	4名
		慢性腎臓病の食事療法について	柳川瀬裕美	
5月19日	第2回	糖尿病とその合併症について	下村菜生子, 佐々木けやき	2名
		糖尿病の検査について~糖尿病と言われたら~	音地彩花	
		糖尿病の食事療法~バランスの良い食事と食べ方~	梅田 純	
6月23日	第3回	「血清クレアチニンが上昇している」と言われた。さあ, どうしたらよいの?	田畑 勉	6名
		腎臓をいたわる食事をしよう	宮平杏奈	
7月21日	第4回	糖尿病の合併症	辻本吉広, 松崎慈子	7名
		糖尿病治療のお薬について	樹屋根佳子	
		糖尿病患者さんの, 日常生活について	宮田佐和子	
8月25日	第5回	腎不全で透析が必要と言われた。透析ってどんなもの?そして移植は?	田畑 勉	8名
		カリウムについて	米澤亜希	
		透析導入したら医療費ってどうなるの??	定本一美	
9月8日	第6回	糖尿病の合併症について	木津あかね, 土蔵尚子	5名
		糖尿病の食事療法について	柳川瀬裕美	
10月20日	第7回	フレイル予防運動	中嶋章子, 駒沢尚子	12名
11月17日	第8回	糖尿病の合併症で腎臓が心配。どんな検査, どんな治療があるの?	田畑 勉	4名
		糖尿病食から腎臓食へ何がかわるの?	梅田 純	
12月15日	第9回	便秘について	大野恭太	17名
2月16日	第10回	高血圧と腎臓病	岸本博至	8名
		高血圧と減塩~適塩生活をしよう~	宮平杏奈	
3月23日	第11回	運動でロコモを予防しよう!	中嶋章子, 駒沢尚子	14名

# 消化器内科

## ■スタッフ紹介

2018年度は吾郷太介の退職に伴い、上部消化管内視鏡検査は大野恭太、下村菜生子が、下部消化管内視鏡検査、嚥下内視鏡検査、内視鏡治療、胃瘻造設、胃瘻交換は大野恭太が担当した。胃瘻造設は辻本吉広、下村菜生子の協力の下に施行している。消化器専門外来は同じく大野恭太が担当した。

## ■診療内容

消化器外来は週2回、上部消化管内視鏡検査は週4回、下部消化管内視鏡検査は週2回であり、2017年度と同様である。嚥下内視鏡検査は毎週火曜日の午後、胃瘻交換は月2回金曜日午後、内視鏡治療については必要時に随時施行した。非透析患者の消化器関連の入院患者は主として大野が担当していることも2017年度同様であった。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度の上部消化管内視鏡検査は539例であり、2017年度の646例に比べかなり少なくなった。一方下部消化管内視鏡検査は208例で2017年度の153例よりも大幅に増加した。過半数が健診で便潜血陽性を指摘された患者であり、他院からの紹介も相当数に上っている。嚥下内視鏡検査は9例で2017年度の7例より微増した。治療内視鏡としては消化管止血術が12例、大腸ポリペクトミーが78例、内視鏡的胃瘻造設術が10例、胃瘻交換が37例であった。大腸ポリペクトミーは大腸内視鏡検査の増加に

伴って大幅に増加し、早期大腸癌の発見も10例に上った。胃瘻交換の大半は院外の施設からの紹介患者であり、法人（愛仁会）の老健施設からの依頼が多かったのも2017年度同様である。

## ■今後の展望

消化器外科のない本院での消化器内科の活動には限界があることには変わらないが、本院で対応できるか否かの正しい見極めには対処できていると考える。特に維持透析中の患者の吐下血に対しての対応に努力したため、出血原の発見ができなかったために、他院へ転送する症例は最低限に抑えることができた。嚥下内視鏡検査は嚥下造影検査に比べて、ベッドサイドで被爆することなく容易に施行でき、これからますます増加してくる誤嚥性肺炎の患者の嚥下機能の評価、嚥下リハビリの効果判定には有力なメソッドであることは前回に述べたが、あまり増加していない。誤嚥性肺炎を本院で積極的に診療するプロジェクトが進んでいるので、更に症例の適応を広げたい。下部消化管内視鏡検査においては本院で検査が再開されて4年目となりリピーターも相当数確保されてきている。消化器外科がないことから、内視鏡での処置では事故を起こさない安全な対応を徹底することが必須の条件となっているが、例えば大腸ポリペクトミー後の出血などでの緊急内視鏡はずっと皆無であり、今後もこの成績が維持できることを目指したい。



# 泌尿器科

## ■スタッフ紹介

2018年7月より常勤医師1名の診療体制となっている。

## ■診療内容

外来診療及び手術を行っている。詳細は後述する。

## ■2018年度のトピックス・実績

尿路悪性腫瘍手術（副腎，腎，膀胱，前立腺，陰嚢）を再開した。経直腸の前立腺生検，経尿道的手術などを再開した。

腎腫瘍に関しては，腹腔鏡下手術も積極的に行っている。

2018年度泌尿器科手術を以下に示す。

## ■今後の展望

今後は前立腺生検，経尿道的手術や腹腔鏡手術を中心に更なる手術件数の上昇を目指したい。

表. 泌尿器科手術件数

(単位:件)

術式	件数
移植腎生検	8
経尿道的尿管ステント留置術	4
膀胱結石摘出術(経尿道的手術)	1
尿道拡張術	1
左尿管鏡検査経尿道的尿管ステント留置術	1
経尿道的前立腺手術(電解質溶液利用のもの)	1
腹腔鏡下腎(尿管)悪性腫瘍手術	1
膀胱悪性腫瘍手術・経尿道的(電解質溶液利用)	1
包茎手術	1
経皮的尿管拡張術(経皮的腎瘻造設術を含む)	1
総計	20

## 透 析 内 科

### ■スタッフ紹介

常勤透析専門医や常勤腎臓内科医及び糖尿病専門医が中心となって、約 620 名の患者の透析回診を行っている。

### ■診療内容

当院には外来透析 200 床、入院透析 12 床の透析ベッドがあり、常勤透析専門医が中心となって透析管理を行っている。

基本的に 1 名の患者に対してデータ回診医 1 名と透析管理医師 2 名で回診しており、複数の目で患者の状態を把握できる診療体制となっている。

さまざまな透析合併症の早期発見を行うために、回診医の指示などにより各種アセスメントの充実、さまざまな指導が行われている。

### ■2018 年度のトピックス・実績

2018 年 9 月からオーバーナイト透析を開始した。またオーバーナイト透析や 5 時間以上の長時間透析ができるように、各階の透析開始時間を変更した。具体的には、透析棟 5 階・6 階は朝 8 時から透析を開始し午前・午後の 2 クール。透析棟 2・3・4 階は、午前と夜間の 2 クール体制とした。また土曜日の透析は、昼間に午前透析と午後透析が重なって慌ただしかったため、午後は遅めの開始に変更し落ち着いて透析ができる体制とした。

上記体制を整えるため、プロジェクトを立ち上げ、毎週多職種で集まり透析運営会議を行っている。

そのほかに、6 月 18 日に大阪府北部地震が発生し、近隣の施設から 31 名の臨時透析を受け入れた。9 月 4 日には台風 21 号が発生し大阪を直撃、71 名の臨時透析を受け入れた。

### ■今後の展望

維持透析患者の高齢化により、これまでのような広域からの透析患者の集客が難しくなっている。これまでは送迎サービスによる集患に頼ってきたが、近隣クリニックのほとんどが送迎サービスを行うようになっており、送迎サービスによる集患も厳しくなっている。

また北摂地域は日本でも有数の腎臓内科医の多い地域となっており、地域基幹病院から保存期の状態で紹介されることが減少している。

透析患者の新たな集患を目的に、オーバーナイト透析を立ち上げ順調に進んでいる。希望者があれば引き続き行えるような体制を構築していきたい。また当院の強みである医療と介護の連携を生かして、在宅医療としての腹膜透析診療の強化を行っていくため、内科外来での腎代替療法への取り組みに注力している。こちらも多職種が連携して、透析の療法選択を行った上で腹膜透析も選択できる環境を整えていきたい。

# 放射線科

## ■スタッフ紹介

森本 章

応援スタッフ

読影：非常勤医師 4名

透析シャント PTA：常勤内科医師 1名  
非常勤医師 4名

## ■診療内容

(画像診断)

CT・MRIなどの検査依頼が他科の医師からあった場合に、最も適切な撮影方法を診療放射線技師に指示し、安全で最適な検査を提供し、撮影されたCT・MRIの検査報告書を作成している。

(透析シャント PTA 治療)

狭窄や閉塞が原因で生じているシャントトラブルに対し、カテーテル治療を行っている。院内だけでなく院外からの紹介も簡単に申し込めるシステムを構築し、予約受付スタッフによる予約振り分けを行っている。

件数の増加、複雑症例の増加に伴い、エコーを用いた観察・評価は必須となってきている。

また当院ではほぼ全例のシャント血栓性閉塞治療も準緊急で対応している。

## ■2018年度のトピックス・実績

2017年度

CT	4,364件
MRI	1,846件
シャント PTA	973件

2018年度

CT	4,630件
MRI	1,925件
シャント PTA	1,057件

## ■今後の展望

2018年度はCTを64列MDCTに更新していただいた。

このCT含め、放射線科の装置が透析医療・地域医療にこれまで以上に貢献できるよう取り組んでいきたい。

透析シャントのカテーテル治療は維持透析には必要不可欠であり、血管造影装置も2003年購入であり、今後は更新が必要となるが、今後はエコー下PTAでも対応できる症例を増やしていけるような体制を作っていきたい。

# 麻 酔 科

## ■スタッフ紹介

今年度より明石医療センターから坂本 元先生が麻酔科主任部長として赴任されている。麻酔科は待望の複数体制となる。

## ■2018年度のトピックス・実績

### 1. 手術件数の微増

麻酔科管理件数は昨年度より7件増加し、328件であった。そのうち、透析患者は221件（67%）、重症に該当する患者は242件（74%）であった。全身麻酔症例の約83%で神経ブロック（硬膜外含む）を併用した。術後1週間以内に死亡した症例が1件、術中にシャント閉塞した症例が1件あった。

### 2. 診療報酬の増加

当日入院の患者に対し、術前診察を手術前日までに外来で行える体制ができたので麻酔管理料を加算できるようになった。今年度からは全曜日に麻酔科医が常勤するので、すべての症例で加算できるようになる。

### 3. 術後回復力強化の継続

従来から行っている肺保護換気の徹底による術後呼吸機能の上昇、絶飲絶食時間の短縮による栄養、免疫力強化、早期離床を促し、回復促進を目指している。

## ■今後の展望

### 1. 麻酔科マンパワーの強化

365日24時間いつでも麻酔を引き受けられる体制となった。1人麻酔科医による並列麻酔は本年度より行わない。2名体制であるが、外科系の体制に変わりがないため、大幅な手術件数の増加は期待できなく、当面は院内当直やグループ内他施設の応援に行くことになる。よって目標麻酔科管理症例数は、引き続き年間350件とする。

### 2. 臨床研究の充実

現在進行中のテーマは、“透析患者の術後除水量に関する研究”、“無換気麻酔導入法の検討”、“安全な迅速導入のための酸素投与方法の研究”であり、今後は更に終末期に重要となる“透析患者の予後予測の研究”に着手していきたいと考えている。

### 3. 透析・緩和ケアチームの発足

院長他各部門の協力、後押しにより緩和ケアチームを結成することができた。緩和ケアとは患者だけでなく、家族も含めたQOLの改善を目指すものであり、末期透析患者に特有の心不全、虚血肢、脊椎症、透析困難等による苦痛に対応する。ガン患者を対象とした従来の緩和ケアとは異なった、透析患者に特化した緩和ケアチームを目指す。

表 1. 麻酔方法別

(単位:件)	
方法	件数
全身麻酔	50
全身麻酔+硬・伝麻	246
伝達麻酔	28
その他	4
計	328

表 2. ASA PS (リスク分類)

(単位:件)	
分類	件数
1(健康)	22
2(軽症)	64
3(重症)	205
4(瀕死)	8
1-4E(緊急)	29

表 3. 年齢別

(単位:件)	
年齢	件数
~18歳	0
~65歳	84
~85歳	218
86歳~	26

# 外科

## ■スタッフ紹介

藤原一郎

## ■診療内容

- ・血液透析関連手術
- ・腹膜透析関連手術
- ・その他；鼠径ヘルニア，内痔核など簡単手術

## ■2018年度のトピックス・実績

今年度のまとめ

- ・血液透析，腹膜透析関連手術を中心とした手術を大過なく終了することができ安堵している（困難を伴う症例は多い）。
- ・手術症例は前年度比 46 例増加した。
- ・院内症例は昨年度から続いていた移行期の積み残しがそろそろ終了しピークを越えた印象である。
- ・一方，済生会吹田病院，国立循環器病センターなどからのシャント作成依頼は増えている。
- ・中川クリニックをはじめ従来の透析連携病院からの紹介は相変わらず多く難症例が多い。個人クリニックからの紹

介も時々あり徐々に増えてきている。

- ・1月から麻酔科坂本先生が来てくれ手術を分散できるようになり手術の質，周術期管理の質ともに向上した。
- ・病棟，手術室スタッフの手際が良くなってきている。

## ■今後の展望

来年度の目標

- ・大阪府屈指の透析専門病院として血液透析，腹膜透析関連手術に関しては恥ずかしくない質の高い治療を行い続けたい。
- ・地域連携を大切にしたい。連携施設を少しずつ増やしたい。
- ・手術関連の仕事を整理し（漫然と行われている作業，検査の見直し，物品の整理など）スタッフ共々患者の治療に最大限の注力ができる環境を作っていきたい。
- ・当院は伝統的に透析に精通したスタッフにかなり恵まれているが状況は日々更新されているので遅れをとることなく将来更に飛躍できるようなスタッフ創りを進めていきたい。

表 1. 手術数

(単位:件)

今年度手術 287件 (昨年比 △45)	局所麻酔	全身麻酔	伝達麻酔
	174(△61)	114(▲11)	0(▲4)

表 2. 手術詳細

(単位:件)

AVF 148件(△45)	造設	86	CAPD 22件(△1)	SMAP	6	
	再建	33		チューブ留置	1	
	瘤切除	9		出口部作成	4	
	静脈バイパス	5		出口部変更	2	
	バンデング	1		抜去	9	
	バンデング解除	1		留置型Wルーメン 32件(△15)	留置, 入れ替え	17
	血栓除去	1		抜去	15	
AVG 65件(▲13)	閉鎖	12	その他 19件(▲3)	鼠径ヘルニア(腹腔鏡)	5	
	造設	28		鼠径ヘルニア(切開)	1	
	バイパス	14		痔核切除	0	
	抜去	5		ジオン硬化療法	3	
	置換	16		CVポート	3	
	血栓除去	1		虫垂切除	1	
動脈表在化 1件(-)	閉鎖	1	腹壁癒痕ヘルニア	1		
		1	PTX	1		
			腫瘍切除	2		
			創処置	2		

# 心臓血管外科

## ■スタッフ紹介

副院長・心臓血管外科部長 谷村信宏

心臓血管外科専門医・修練指導者

日本脈管学会認定脈管専門医

日本外科学会指導医・専門医

日本胸部外科学会認定医（正会員）

ICD（インフェクションコントロールドクター）

日本フットケア学会認定フットケア指導士

日本下肢救済・足病学会認定師

近畿外科学会評議員

日本心臓血管外科学会，日本血管外科学会，

日本静脈学会 など

## ■診療体制

主に末梢血管外科診療を行っているが、必要に応じて一般外科診療・外科救急診療にも対応している。

## ■手術・血管内治療

月曜日：下肢静脈瘤硬化療法，局所麻酔下小手術

火曜日：全身麻酔下血管外科手術

水曜日：血管内治療

金曜日：血管内治療，全身麻酔下血管外科手術

緊急手術に関しては，随時対応している。

## ■活動内容及びトピックス

### 1. 患者数の推移

外来患者数は前年度と比べて増加していた。また，紹介患者は院内紹介だけでなく，院外からの紹介も増加しており，血管外科診療における施設間連携も功を奏していると思われる。入院患者数はやや減少していた。

### 2. 血管造影室使用状況（血管造影及び血管内治療）

下肢血管内治療は年々増加傾向であったが，今年度はやや減少していた。しかし，大阪府内でも有数の血管内治療実施施設となっていることに変わりはない。スタッフとしては，住友病院・高槻病院・大阪市立大学からの非常勤医師だけでなく，放射線科森本副院長をはじめ，放射線科及び看護部の多大な協力に感謝している。

### 3. 外科的手術症例の推移

手術に関しては，2018年度は昨年度と比べてやや増加

した。当院の末梢血管症例においては，透析を伴った重症例が多いため，外科的手術ではなく，血管内治療で対応することが多かった。しかし，当院では麻酔科の尽力により，神経ブロックを多用する低侵襲麻酔で高齢者・重症患者に対しても安全に手術を行うことができ，他院で手術不能とされた症例でも，必要に応じて手術することが可能であり，学会等でも積極的に発表してきており，可能であれば外科的血行再建術に移行するように方針転換した。また血管の高度石灰化を伴った重症下肢虚血が多いため，必然的に **distal bypass** 手術や内膜摘除術が重要となり，当科での十八番でもある。全国的にも，重症例に対する末梢血管手術を行っている施設が少ないため，今後も積極的に進めていきたいところである。

### 4. 脊髄刺激療法（SCS）の導入

麻酔科の協力の下，慢性疼痛，特に下肢虚血による疼痛コントロールを目的に，脊髄刺激療法（SCS）を導入した。当院の患者のバックグラウンドから血行再建不能な症例も多く，潜在的な対象症例は多いのではないかと推測される。また，周辺地域に当該治療を行っている施設も多くない。残念ながら今年度は実施症例がなかったが，今後症例数を増加させるようにしていきたい。

## ■今後の展望

1. 院内スタッフ教育に今後も力を入れ，地域医療面でも市民公開講座や研究会等を主催して地域連携を深めたい。そのほか，当院で主催している北大阪フットケア勉強会，更に関西血管外科倶楽部や OASIS（大阪重症虚血肢救済に対する集学的シンポジウム）等に参加して関西の血管治療医と広く連携しており，今後もこの活動を更に広めていきたい。

2. 学会及び研究会等にて引き続き発表を行い，愛仁会井上病院の知名度を上げたいと考えている。

3. 当院は元々透析患者の診療が得意であり，他施設ではまねのできない部分である。この強みを活かし，引き続き透析症例の重症下肢虚血に対して積極的に診療を行いたい。

4. 今後当院での診療拡大を図るべく，新たな人材確保にも留意したい。

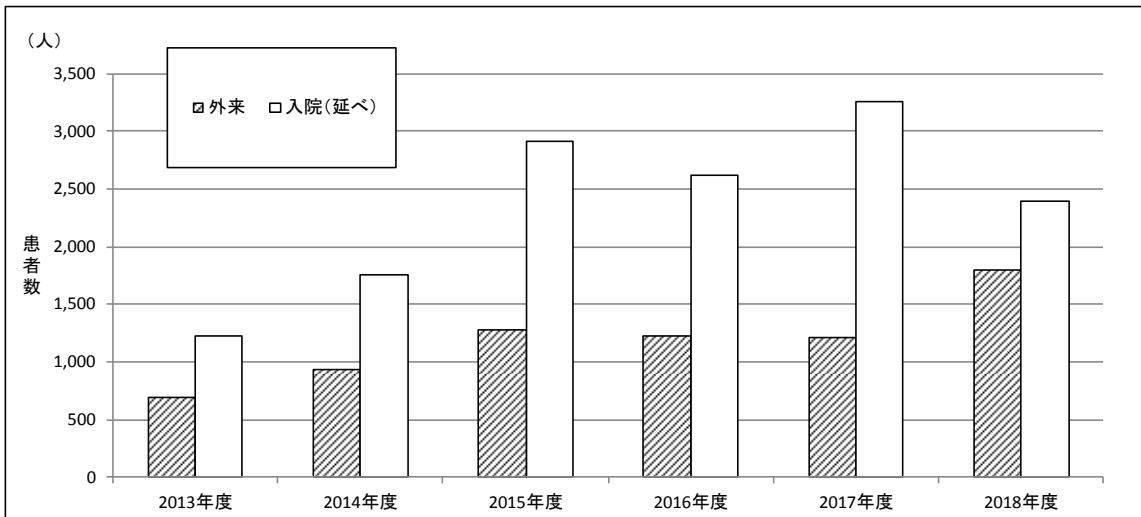


図1. 患者数の年次推移

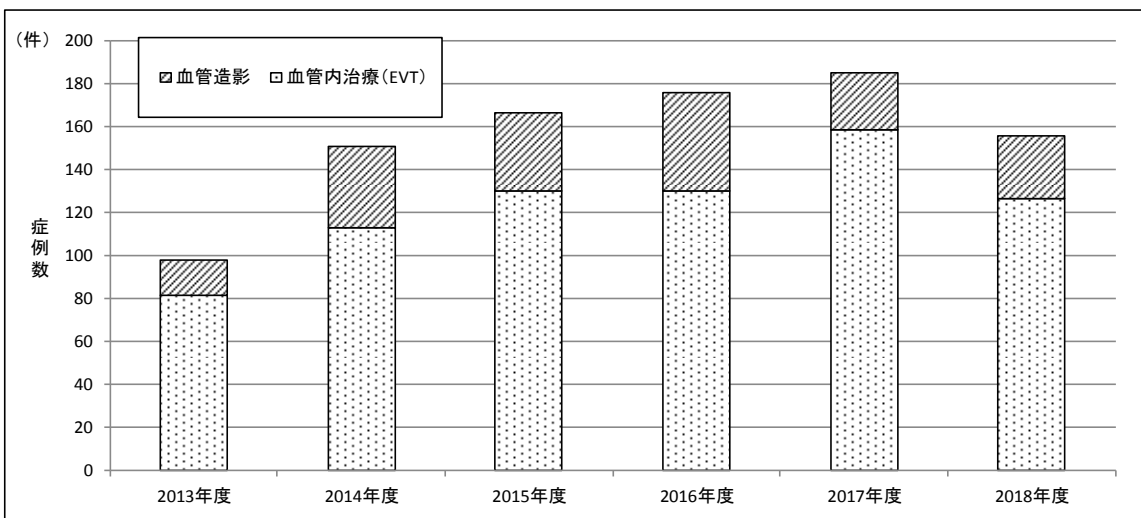


図2. 血液造影及び血管内治療の年次推移

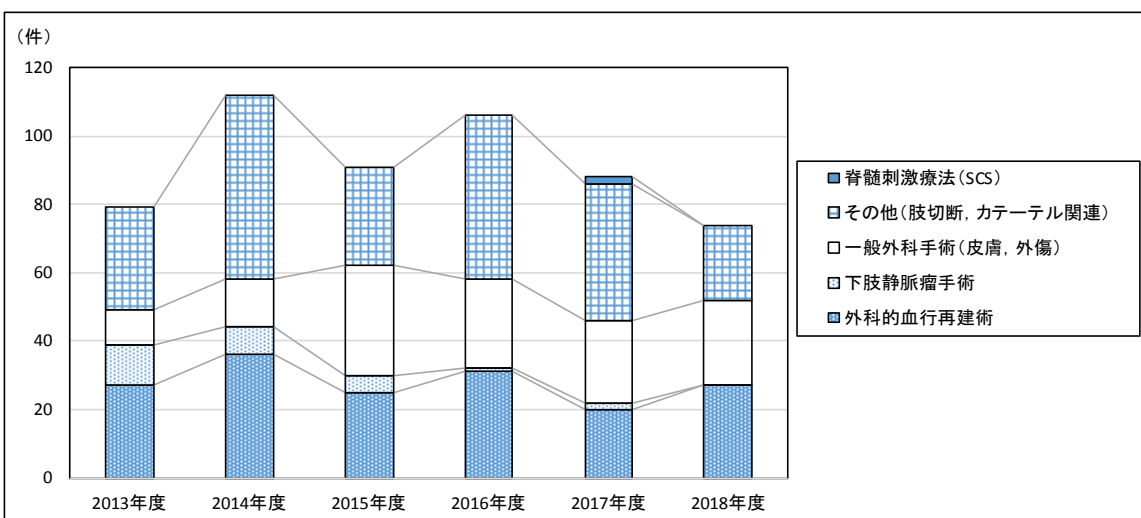


図3. 手術症例数の推移

# リハビリテーション科

## ■スタッフ紹介

リハビリテーション科

担当副院長 佐藤宗彦

リハビリテーション科

科長 西村眞理

主任 松藤勝太

副主任 井上朋子

<理学療法士> 12名

<作業療法士> 0名

<言語聴覚士> 1名

<健康運動指導士> 2名

## ■診療内容

①地域包括ケア病棟の運営

②入院患者のリハビリテーション

③外来患者のリハビリテーション

④透析患者の健康寿命延伸プロジェクト

⑤法人内の病院・老人保健施設と一体化したリハビリテーション運営

## ■2018年度のトピックス・実績

①トピックス：2018年1月より地域包括ケア病棟の施設基準Iを取得した。開設以来、理学療法士の山崎勇人を中心として順調に運営している。

②透析患者の健康寿命延伸のため、“いつまでも元気にプログラム”という、健康度チェック・生活運動指導を行っている。

③誤嚥性肺炎治療プロジェクトの一環として、入院患者の嚥下リハビリテーションにも力を入れている。研修を受けて、吸引実施資格取得したPT1名、ST1名がおり、プロジェクトに貢献している。

## ■今後の展望

①地域包括ケア病棟の更なる発展。具体的には、さまざまな部署との連携・家庭訪問などの積極的実施等により、稼働率100%を達成し、在宅復帰率70%以上をキープする。

②作業療法士の確保・環境整備による、PT・OT・ST三位一体のリハビリテーション遂行という悲願を達成する。

③透析患者の健康寿命延伸という目的に対し、リハビリテーション科として、運動・作業・言語聴覚嚥下機能の向上という視点から、三位一体の最大限の貢献を行う。臨床研究も更に推進していく。

④腎・糖尿病・骨粗鬆症専門病院として、それぞれ腎臓・糖尿病・骨粗鬆症リハビリテーションに力を入れていく。

⑤病院として誤嚥性肺炎治療に力を入れるとの方針があり、言語聴覚士もチームの一員として最大限のパフォーマンスを発揮する。胃瘻造設術加算施設基準と経口摂取回復促進加算取得を目指す。実績で示した吸引実施資格取得したPTを増やしていく。

⑥愛仁会グループ施設の力添えもあり、リハビリテーション科の人的資源であるスタッフも、年々充実してきている。新たな仲間も増えお互い切磋琢磨できているので、モチベーションの高いスタッフが、ポテンシャルを最大限に発揮できるように、井上病院リハビリ室のハード面での充実を図る。



# リウマチ科

## ■スタッフ紹介

リウマチ科担当副院長

佐藤宗彦

日本リウマチ財団登録ケア看護師 3名

## ■診療内容

関節リウマチ患者に対する、投薬・手術・リハビリテーション加療を行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

- ①当院では、約 400 名の関節リウマチ患者の継続加療を行っており、そのうち約半数の 200 名に生物学的製剤を使用している。9 種類の生物学的製剤、2 種類の JAK 阻害剤を患者の症状に応じて、適切に使い分け使用している。
- ②学術的には、講演が 27 件であった。講演は、市民公開

講座 2 件、医師向け 24 件、コメディカル向け 1 件であった。講演を聴かれて初めて当院を受診した患者、また医師・コメディカルに当院を紹介され初めて受診した患者も多かった。

## ■今後の展望

- ①北摂の関節リウマチの拠点病院になるように、500 名の関節リウマチ患者の継続加療を目指していく。
- ②リウマチケアナース、薬剤師、メディカルクラークなど、モチベーションの高いスタッフに恵まれており、“リウマチグループによるリウマチ患者のトータルケアの推進”を基本理念として、臨床でも学術部門でも更なる高みを目指していく。
- ③医療経済的にも、バイオシミラーなども導入し、永続的な高品質の医療を追求していく。

# 整形外科

## ■スタッフ紹介

整形外科担当副院長  
佐藤宗彦

## ■診療内容

①透析整形外科, ②関節疾患, ③脊椎脊髄疾患, ④外傷・骨折, ⑤骨粗鬆症に対する診療を行っている。

それぞれに対し, 保存加療・手術加療を行っている。

## ■2018年度のトピックス・実績

### I : トピックス

2016年5月からの地域包括ケア病棟の開設並びに2018年1月からの地域包括ケア病棟の施設基準I取得に伴い, さまざまな病院からの患者を受け入れ, 入院リハビリテーション加療を行った。

### II : 実績

#### ①手術

件数は月平均15.3件であった。

#### ②入院

1日平均入院患者数は, 36.7人であった。地域包括ケア病棟が開設された後, 入院患者が増加した。

#### ③外来

1日平均外来患者数は, 53.3人であった。2017年12月よりDXAが導入され, 骨粗鬆外来をスタートし, 骨粗鬆患者が著しく増加した。2019年3月中旬より骨粗鬆症の画期的な薬剤であるロモソズマブを導入し治療を行っている。

#### ④学術

学会・研究会発表が各1件, 講演が11件であった。講演は, 市民公開講座1件, 医師向け10件であった。講演を聴かれて初めて当院を受診した患者, また医師・コメディカルに当院を紹介され初めて受診した患者も多かった。

## ■今後の展望

①手術: 救急をはじめとし, 前記すべての分野における前進。

②入院: 地域包括ケア病棟の更なる充実をはじめとした, 稼働率の上昇。

③外来: 救急をはじめとし, すべての分野における前進。特にDXAの有効利用による骨粗鬆症患者の増患・個別化精密医療の推進。

④学術: 透析整形疾患の研究。一般整形疾患の患者啓発活動の更なる前進。骨粗鬆症研究の推進。

表. 手術症例

症例	件数	症例	件数
手術症例(うち透析患者){うち腎移植患者}	183(94){3}	脊椎外科	21(12){2}
関節外科	86(25)	頸椎	5(4)
人工関節 股関節全置換術	4	胸腰椎	0
膝関節全置換術	23(1)	腰椎	16(8){2}
膝関節再置換術	2	外傷外科	18(13){1}
肘関節全置換術	0	骨折整復固定術	16(13)
人工骨頭挿入術 股関節	17(10)	腱縫合術	2{1}
股関節周囲骨折整復固定術	19(6)	切断術	12(11)
肩腱板手術	3	大腿	5(4)
膝肩関節滑膜切除(鏡視下含む)	2	下腿	4(4)
関節形成術	2	足趾	1(1)
その他	13(8)	断端形成	2(2)
関節リウマチ足	1	抜釘術	5
手の外科	35(29)	脱臼整復術	1
手根管症候群	23(22)	その他	5(4)
バネ指	12(7)		
腱縫合・移行	0		

(単位: 件)

# 看護部

## ■スタッフ紹介（2018年4月1日付）

<看護職員数> 196名

看護師	143名	常勤：127名，非常勤：16名
准看護師	20名	常勤：19名，非常勤：1名
看護助手	33名	常勤：26名，非常勤：7名

<年齢構成>

看護師	20歳代：12.8%，30歳代：28.9%
	40歳代：35.1%，50歳以上：23.2%
看護助手	10歳代：3.0%，20歳代：3.0%
	30歳代：6.1%，40歳代：30.3%，
	50歳以上：57.6%

## ■2018年度看護部運営目標・活動内容及び成果

### 1. 専門性の高い看護サービスの提供

- ・足病変予防及び早期発見のためのシステム強化：フットケア指導士による各看護単位への訪問フットケア開始。
- ・倫理カンファレンスの浸透。
- ・急変に対するアセスメント能力の向上：BLS，ICLSへの積極的参加による救急対応能力の向上。
- ・誤嚥性肺炎予防：口腔ケアの充実，訪問歯科医との連携。
- ・認知症ケア体制強化：研修参加者増，見守る環境へ。
- ・患者主体の治療選択を実現する体制構築：CKDチームによる療法説明の早期介入。

### 2. 自律した専門職業人の育成

- ・看護師クリニカルラダーの再評価と運用定着。
- ・法人内及び愛仁会グループの人的交流。
- ・看護・介護学生臨地実習指導者の育成。
- ・e-ラーニングの活用の推進。

### 3. 地域包括ケアシステムへの対応

- ・入退院システムの強化。
- ・多職種連携によるカンファレンス及び記録の充実。
- ・在宅・外来・入院との連携強化（訪問看護・訪問診療開始）。

### 4. 医療安全・感染対策の強化

- ・感染管理支援の外部監査。感染対策に強い職員の育成。
- ・インシデントカンファレンスの定着と対応策の共有。

### 5. 経営参画

- ・病棟再編成（6人⇒4人部屋）による稼働率大幅アップ。
- ・透析棟再編成による長時間透析増加。オーバーナイト透析開始（9月10日より7名導入⇒12名へ）。
- ・CKDチーム介入⇒療法説明の早期介入。CAPD導入患者増。

### 6. ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

- ・時間内業務終了を目指した業務改善。
- ・離職率 8.0%（図1に推移を示す）。

## ■院外発表

表1に示す。

## ■今後の展望

病室を6人部屋から4人部屋へ再編成したことで、療養環境が向上し、重症透析患者の受け入れ体制も整った。そのため、病床稼働率は90%以上必達を維持していく。入退院サポート室の体制も更に強化し、積極的な入院受け入れ及び入院時からの早期退院支援を行える体制を整える。また、CKDチームによる選択外来患者の早期介入を行い、CAPD導入患者増加に繋げていき、必要時、訪問看護の介入をしていく。2018年に導入したオーバーナイト透析については、安全性の向上や環境を整えていき、患者数の増加をはかる。

ACP（人生会議）の考え方にもとづいた患者・家族への関わりが行えるよう医療チームで取り組んでいく。また、緩和ケアチームによるターミナル期の患者への介入をシステム化していき、疼痛コントロールをはかっていく。

働き方改革に関しては、看護部目標に継続して挙げ、ワークライフバランスを考え、働きやすい職場環境への取り組みを行っていく。

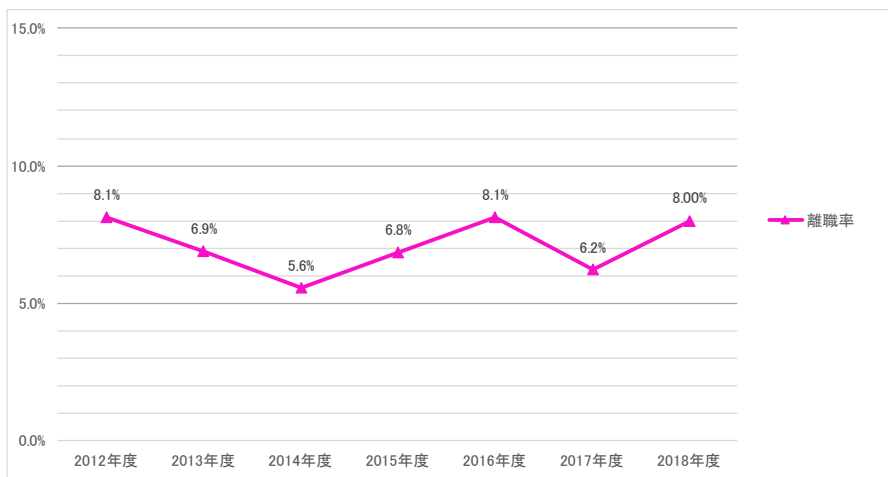


図 1. 離職率推移

表 1. 院外発表

学会名名称	発表演題名	開催月日	開催都市	所属	発表者
第68回 日本病院学会	インシデント報告書にもとづいた 分析能力向上への取り組み ～看護主任会メンバーを中心とした看護安全管理委員会を通して～	6月28・29日	金沢市	手術室	山口幸枝
第63回 日本透析医学会	透析施設におけるRTCの献腎移植登録患者の支援について考える ～外来透析棟に従事する看護師の献腎移植待機中の患者に対するおもいの抽出～	6月29日～7月1日	神戸市	井上病院附属診療所	渡邊陽子
第91回 大阪透析研究会	認知症のある透析患者のキーパーソンが移行した過程	9月2日	大阪市	透析棟2階	中瀬美加
第91回 大阪透析研究会	足病変の予防および早期発見のためのシステム構築に向けた取り組み	9月2日	大阪市	透析棟3階	早川美佳
第21回 日本腎不全看護学会	認知症のある透析患者のキーパーソンが移行した過程	11月10日	長野市	透析棟3階	佐藤裕子
第32回 大阪CAPD研究会	PD離脱期における患者・家族ケア	12月2日	大阪市	CAPDセンター	上田恵利子
第6回 大阪府看護学会	認知症のある透析患者のキーパーソンが移行した過程	12月8日	大阪市	透析棟3階	泉 和裕
第34回 関西CAPDナースセミナー	高齢PD患者への在宅支援～訪問看護・訪問診療の取り組み～	2月3日	大阪市	CAPDセンター	山崎由美
第2回 愛仁会学術集会	PD療法の自己管理が困難になった患者に対する医療チームのかかわり	2月9日	大阪市	CAPDセンター	上田恵利子
第92回 大阪透析研究会	腹膜透析から血液透析へ移行した患者の思い	3月3日	大阪市	井上診療所	濱 水香
第92回 大阪透析研究会	長期腹膜透析患者が体験した 血液透析移行に関する思いのプロセス	3月3日	大阪市	CAPDセンター	山崎由美

## 腹膜透析（CAPD）・訪問看護

### ■スタッフ紹介

外来診察担当医師：5名

看護師：4名

### ■業務内容

#### <外来診療>

診療曜日・時間：月曜日～土曜日 10時～12時

対象患者：在宅透析患者（CAPD・在宅血液透析）

診察内容：採血・各種検査・診察・内服処方・注射等

#### <慢性腎臓病（CKD）患者への透析療法選択説明>

透析導入予定の患者に対し、CAPD療法についての詳細を説明し、療法選択の支援を行っている。2018年度からは多職種（医師・看護師・栄養士・理学療法士・臨床工学技士・事務他）から成るチームを結成し、CKD患者の療法選択支援を実施している。

#### <CAPD導入期患者指導>

CAPD療法を選択した患者に対し、バッグ交換や出口部ケアなどの技術指導や、日常生活における自己管理方法、合併症やトラブル発生時の対処方法などを指導している。

#### <在宅訪問診療・訪問看護>

2018年1月地域包括ケア病棟の施設基準I取得に伴い、訪問診療・訪問看護を開始した。通院が困難なCAPD患者に対し、主治医による訪問診療（採血・出口部診察・注射・内服薬処方等）を実施している。また、必要に応じて看護師による訪問看護・退院後訪問指導を行い、体調管理や在宅でのCAPD技術指導を実施している。

### ■2018年度のトピックス・実績

- ・透析療法選択説明の件数：34件/年
- ・CAPD導入件数：3件/年
- ・CAPD患者訪問診療実施件数：24件
- ・訪問看護実施件数：68件

#### <学会・研究会・勉強会発表>

- \*第32回大阪CAPD研究会シンポジウム発表  
演題名「PD離脱期における患者家族ケア」
- \*第34回関西CAPDナースセミナー発表  
演題名「高齢PD患者への在宅支援  
～訪問看護・訪問診療の取組み～」
- \*第34回関西CAPDナースセミナー座長  
ランチョンセミナーテーマ「健康寿命とPD」
- \*第2回愛仁会学術集会（看護・介護）発表  
演題名「PD療法の自己管理が困難になった患者に  
対する医療チームのかかわり」
- \*第92回大阪透析研究会発表  
演題名「長期PD患者が体験したHD移行に関する  
思いのプロセス」

### ■今後の展望

これまで、社会復帰を目指す患者のCAPD導入が主であったが、今後は高齢者の在宅医療としてのPDも推奨していく。そのために、CAPD患者を中心とする訪問診療・訪問看護を充実させたい。また、老人保健施設などの高齢者施設における腹膜透析患者の受け入れを拡大できるように計画している。

# 薬 剤 科

## ■スタッフ紹介

科長 : 榊屋根佳子 主任: 倍味亜矢子  
 薬剤師: 中川典子, 佐武喜美子, 高岸ひろみ, 岩田亜里,  
 足立哲也, 若林亜希子, 川口祐司  
 事務 : 久保ひとみ

## ■業務内容

【外来業務】リウマチ生物製剤は取扱い品目が14剤に増加。投与量・投与間隔・データチェックなど薬歴管理を実施(表1)。外来部門は予約発注・当日払い出しを実施。

【病棟業務】2019年1月の病棟改装にて、地域包括ケア病棟1病棟、急性期病棟2病棟、各1名体制としている。病棟業務の標準化を行い、応援体制を強化した。

【医薬品管理】採用医薬品839品目、後発医薬品採用率35%(品目ベース)。高額注射剤40品目(約1,300剤)の全部署月末棚卸を実施し、診療支援科と連携し調剤・請求数のチェックを実施。治験薬管理、救急カートの期限管理を開始し使用促進に取り組んだ。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年11月より感染防止対策加算1, 感染防止対策地域連携加算・抗菌薬適正使用支援加算を取得, 毎週水曜日 ICT・金曜日 AST カンファレンスを実施。また, 毎週火曜日 NST 回診はデータ収集の効率化を行った。

## ■今後の展望

2019年度より発注関連の変更に伴い, 書式・運用変更を行う。入院業務の効率化・他部門連携を行い, 病棟稼働アップに対応する。

表1. 生物製剤(処方件数)

薬剤名	(単位:件)												合計	平均
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
アクテムラ点滴・皮下	6	7	6	7	8	9	10	5	9	6	6	5	84	7.0
エンブレル	3	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0.6
オレンシア点滴・皮下	33	38	30	27	28	28	28	32	26	19	22	25	336	28.0
ケブザラ		1	2	0	2	3	3	2	2	3	2	2	22	2.0
コセンテックス					4	0	0	0	2	1	0	0	7	0.9
シムジア	1	1	1	1	2	1	1	0	1	1	1	1	12	1.0
シンボニー	81	103	83	90	83	75	76	67	62	64	58	63	905	75.4
トレムフィア					2	0	1	1	3	1	2	2	12	1.5
ヒュミラ	4	6	5	6	6	5	6	7	5	7	6	6	69	5.8
レミケード	5	3	5	2	4	2	3	1	3	1	3	1	33	2.8
オルミエント(内服)	2	2	3	2	2	11	9	6	13	11	11	16	88	7.3
ゼルヤンツ(内服)	0	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	1	5	0.4
合計	135	164	137	135	141	136	137	121	127	114	111	122	1,580	131.7

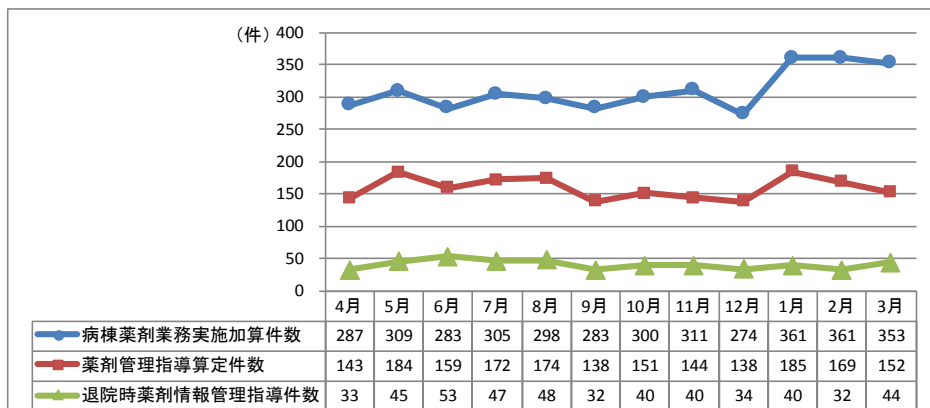


図1. 病棟薬剤業務(急性期病棟)

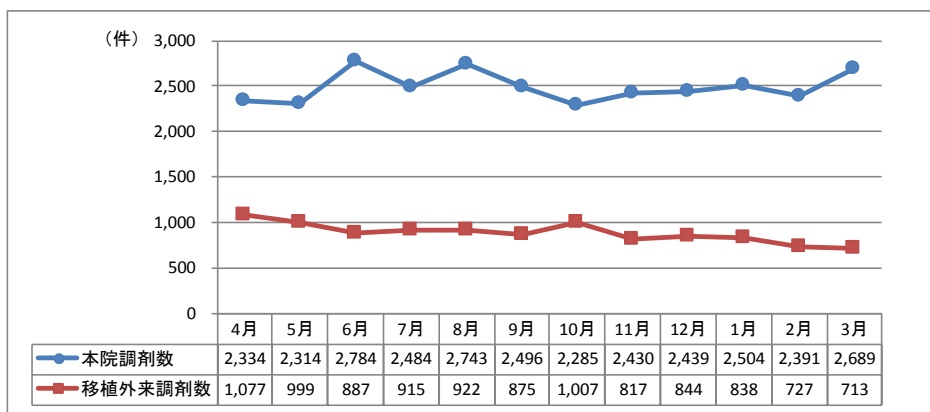


図2. 調剤室業務(処方)調剤数

# 放射線科

## ■スタッフ紹介

科 長 栄谷 勝  
 主 任 林 孝治  
 副主任 鈴木真由美 柳井英男 田中伸一  
 科 員 鈴木結太 天野大輔 宮本佳奈 坂本 光  
 宇都駿汰 西川咲季子  
 中村良馬（2019年4月1日着任予定）

## ■業務内容

・機器概要  
 診療棟：一般撮影2台、X線TV、CT、MRI、血管撮影、  
 乳房撮影、ポータブル2台、外科用Cアーム、DXA  
 附属診療所：一般撮影、X線TV、乳房撮影  
 井上診療所：一般撮影

## ■2018年度のトピックス・実績

・認定資格  
 胃がん検診専門技師 4名  
 胃がん検診専門技師読影部門 2名  
 検診マンモグラフィ撮影認定技師 2名  
 医療画像情報精度管理士 2名  
 X線CT認定技師 1名

## ■学術活動

大阪透析研究会、大阪消化管撮影技術研究会、大阪銀杏会、  
 日本消化器がん検診学会、関西CT技術シンポジウム、関  
 西MRI技術研究会、大阪アクセス研究会、他

## ○発表

- ・第91回大阪透析研究会  
 「中心静脈から鎖骨下静脈にかけての非造影MRA  
 ～DSAとの比較～」
- ・第92回大阪透析研究会  
 「当院透析患者におけるVSRADによる測定」
- ・第68回日本病院学会  
 「当院における透析患者に対する頭部MRI画像を用いた  
 無症候性微小出血の検出」

## ○論文

- ・大阪透析研究会会誌 37巻1号  
 「中心静脈から鎖骨下静脈にかけての非造影MRA  
 ～DSAとの比較～」

## ○研究業務

透析患者の心血管カルシウムスコアと内蔵脂肪の測定

## ■今後の展望

- ・骨粗鬆症プロジェクトにおけるDXAの件数対応。
- ・循環器領域のCT検査に対応できる。
- ・術中シャントエコーを担う。

表. 撮影件数実績

(単位:件)

		2017年度	2018年度	前年度比
撮影総件数		40,188	42,512	105.8%
一般撮影(診療棟)		14,042	14,845	105.7%
井上診療所		513	572	111.5%
血管 造 影	シャントDSA	51	38	74.5%
	シャントPTA	973	1,057	108.6%
	下肢(造影・PTA)	186	159	85.5%
胃透視		7	6	85.7%
泌尿器科検査		9	15	166.7%
消化管系検査		53	58	109.4%
DXA		809	1,862	230.2%
CT		4,364	4,630	106.1%
MRI		1,846	1,925	104.3%
乳房		74	49	66.2%
健診(胸部)		12,282	12,253	99.8%
(胃透視)		3,539	3,615	102.1%
(乳房)		744	760	102.2%
市民健診(胸部)		696	668	96.0%

# 臨床検査科

## ■スタッフ紹介

臨床検査技師 17名（パート3名）

《他の国家資格及び各種学会等認定資格》

超音波検査士・国際細胞検査士・細胞検査士

医療情報技師・2級臨床検査士・管理栄養士

## ■業務内容

本院検査室部門

検体検査：生化学，血液，一般，輸血，免疫血清

生理検査：循環器，肺機能，超音波検査 等

附属診療所検査部門

移植外来検査：生化学，血液，一般，血中薬物濃度

健診検査：心電図，眼底，超音波（乳腺，腹部）等

院内活動業務

ICT活動，健康教室講座の開催，NST活動，糖尿病や腎不全患者への検査説明，治験協力業務，医師の研究目的検査の実施

## ■2018年度のトピックス・実績

新たなスタッフを中心とし，エコー検査業務を担当する追加教育，臨床検査技師法の改正への対応など，技術レベルの向上と検査室の品質管理を堅持できる体制を図ってきた。新人スタッフも順調に育ち，輸血検査の品質向上にも繋がった。また施設貢献として，感染管理加算Ⅰを取得したICT活動の強化やNST，健康教室など，臨床検査科の専門性を活かしたチーム医療活動も強化した。経営面では，老朽化した機器の更新のためFMS化を検討し，経費節減にも力を入れてきた。

## ■今後の展望

更なる臨床検査の技術と品質の向上を目指し，そのために臨床検査室の標準化を取り入れ，精度管理の強化を図る。また施設に必要とされる臨床検査科となるために，臨床検査の視点から，チーム医療にも貢献できる臨床検査科スタッフの育成に努めていく。そして経営面においては，FMS事業を中心に，資材，試薬，検査外注費に対する経費の大幅な見直しを行うことで，施設運営への貢献に寄与する。

表 1. 検体検査実績表

本院2階検査室	2017年度	2018年度	前年度比
部門	項目数	項目数	-
生化学	488,617	511,659	104.72%
CBC	423,364	508,899	120.20%
A1c	8,728	11,983	137.29%
免疫 腫瘍マーカー			
甲状腺	22,543	18,752	83.18%
副甲状腺			
凝固	16,048	19,138	119.25%
輸血 血液型			
不規則抗体	2,208	2,483	112.45%
クロスマッチ			
尿化学	29,889	22,570	75.51%
薬剤濃度	701	748	106.70%
一般	47,841	50,722	106.02%
血液ガス	5,666	6,884	121.50%
用手法	1,673	1,617	96.65%
合計	1,047,278	1,155,455	110.33%
附属診療所検査室	2017年度	2018年度	前年度比
部門	項目数	項目数	-
生化学	493,062	437,818	88.80%
CBC	100,515	94,260	93.78%
A1c	3,047	2,882	94.58%
薬剤濃度	5,111	5,784	113.17%
一般	34,874	23,688	67.92%
用手法	80	139	173.75%
合計	636,689	564,571	88.67%
項目数計			
部門	項目数	項目数	前年度比
本院2階検査室	1,047,278	1,155,455	110.33%
附属診療所B1検査室	636,689	564,571	88.67%
総合計	1,683,967	1,720,026	102.14%
本院2階検査室・附属診療所B1検査室総合計(件数)			
-	件数	件数	前年度比
総合計	137,650	157,942	114.74%

表 2. 生理検査実績表

(単位:件)

本院	2017年度	2018年度	前年度比
心電図	3,020	2,915	96.52%
ホルター心電図	139	158	113.67%
肺機能	327	327	100.00%
ABI・TBI・SPP	608	574	94.41%
動脈硬化試験	364	336	92.31%
体表超音波	1,579	1,436	90.94%
心臓超音波	2,049	2,050	100.05%
腹部超音波	1,081	1,514	140.06%
造影超音波	0	0	0
シャントエコー	920	1,137	123.59%
マッピング	0	0	0
脳波	4	10	250.00%
尿素呼吸試験	83	67	80.72%
負荷心電図	22	28	127.27%
血管内皮機能	0	0	0
合計	10,196	10,552	103.49%
附属診療所	2017年度	2018年度	前年度比
心電図	42	31	73.81%
合計	42	31	73.81%



# 臨床工学科

## ■スタッフ紹介

臨床工学技士 31名 助手 3名 (2019.3.31 現在)

### 【専門認定等】

透析技術認定士 中川 孝・小原直城・角井弘嗣

濱田清人・西山忠佑・宮崎康成

深堀洋平・安田春樹・勝連盛彰

透析技能2級検定 中川 孝・安田春樹

呼吸療法認定士 西山忠佑・安田春樹

第1種ME技術者(臨床ME専門認定士)

濱田清人・永井 元

CPAP療法士 安田春樹

透析液安全管理責任者セミナー受講者

中川 孝・遠藤誠幸・勝連盛彰

バスキュラーアクセス管理研修会受講者

中川 孝・村田哲平・渡邊直美

JHAT 隊員養成研修会受講者 宮崎康成・安田春樹

## ■業務内容

当院では血液浄化業務・ME機器管理業務(人工呼吸器管理業務含む)・手術室業務・SAS簡易検査業務・AED講習会外部講師を行っている。

【血液浄化業務】200床の外来透析,出張透析用に4台の個人機を有している。また,井上診療所の30床も管理している。また,在宅血液透析にも対応しており,現在5名の患者がいる。

当院で使用している透析液は,日本透析医学会の超純粋透析液の水質基準を満たすよう管理できている。

【ME機器管理業務】ME機器の修理対応・院内ラウンド,また,安全使用のための講習会も行っている。

院内輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器は中央管理化しており,返却後点検・定期保守点検を実施している。

【手術室業務】自己血回収装置の操作,モニターや電気メスの点検にあたり,手術時の安全向上に努めている。

【SAS簡易検査業務】外来透析患者においてSASの早期発見ができるように2018年より開始した。

【AED外部講師】企業からのAED操作研修会の依頼時には,当院臨床工学技士を派遣している。

## ■2018年度のトピックス・実績

本年4月より北濃が在宅透析科科長に転属となった。そのため,中川が透析棟・診療棟・透析準備室・井上診療所の臨床工学科を管理する体制へ移行した。

今年は大阪府北部地震(29名),台風21号の影響による停電(71名)の自然災害で他院から支援透析を受け入れた。

9月よりオーバーナイト透析を開始し,2019年3月末現在12名が治療を行っている。

血液浄化件数データを下表に示す。昨年度よりもOHDFの件数が6,691件増加している。それに伴ってリクセル併用件数は減少し3月でゼロとなった。今後もOHDFの件数は増加する見込みである。特殊血液浄化件数は昨年度と同等であった。

## ■今後の展望

透析関連装置の更新を計画的に進め,良質な透析医療を提供できるように努める。また,バスキュラーアクセス管理や患者情報提供にも力を入れていきたいため,スタッフ教育強化を推進していきたい。

表. 2018年度血液浄化件数(井上病院)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
<b>総件数(HD+OHDF)</b>	<b>7,919</b>	<b>8,545</b>	<b>8,450</b>	<b>8,391</b>	<b>8,669</b>	<b>8,061</b>	<b>8,528</b>	<b>8,194</b>	<b>8,129</b>	<b>8,472</b>	<b>7,027</b>	<b>8,358</b>	<b>99,343</b>
血液透析 HD	5,993	6,463	6,256	6,121	6,353	5,906	6,187	5,847	5,646	5,823	5,177	5,527	71,299
オンライン血液透析濾過 OHDF	1,926	2,082	2,194	2,270	2,316	2,155	2,341	2,347	2,483	2,649	2,450	2,831	28,044
リクセル併用	23	22	26	14	5	13	13	13	13	14	5	0	161
夜間透析	1,286	1,334	1,394	1,333	1,428	1,045	1,281	1,269	1,087	1,109	1,150	1,259	14,975
オーバーナイト						62	98	100	91	103	103	133	690
<b>特殊血液浄化合計</b>	<b>9</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>5</b>	<b>5</b>	<b>8</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>39</b>
腹水透過濃縮再静注 CART										1			1
顆粒球吸着 GMA													0
白血球吸着 LCAP													0
持続的腎代替療法 CRRT	1		3	5	5		4	1	3			1	23
エンドトキシン吸着 PMX													0
単純血漿交換 PE						6							6
LDL吸着 LDL-A	8	1											9

(単位:件)

# リハビリテーション科

## ■スタッフ紹介

<理学療法士> 14名

西村眞理 松藤勝太 井上朋子  
山崎勇人 北口里奈 山澤侑香  
藤本昂司 川端みづき 綿貫央章  
柴田佑馬 江口真司 山根稔也  
大場 俊 坂口菜穂

<言語聴覚士> 1名

藤井祥子

<健康運動指導士> 3名

李 寿恵 中嶋章子 駒沢尚子

## ■業務内容

### ・理学療法業務

対象疾患は整形疾患 60%，呼吸器疾患 10%，脳血管疾患 5%，廃用症候群 25%であり，術後の整形疾患が最も多く，次いで内部疾患による廃用症候群となっている。地域包括ケア病棟 I の施設基準も継続できた。地域包括ケア病棟の早期退院を目指し，入院患者の 7 割にリハビリが提供できている。機能訓練だけではなく，生活指導でも介入している。認知症患者対象に，病棟でのグループ訓練も提供している。透析患者に健康度チェックを年 1 回行い，その結果に合わせた運動指導を行っている。またデータを分析し，学会発表も行っている。

### ・言語聴覚療法業務

失語症や構音障害などの言語障害に対する言語療法と，嚥下機能障害に対する摂食機能療法を実施し，入院早期から介入している。摂食療法は，点滴や経管栄養から経口への回復が目標であるが，障害が重度であっても楽しみとしての経口摂取の提供，繰り返す誤嚥性肺炎の防止に取り組んでいる。NST への参加や VE/VF も積極的に実施している。誤嚥性肺炎プロジェクトの一員として，歯科との協力，口腔ケア方法の統一，入院早期介入とクリニカルパスの見直し，吸引技術の取得も行った。また，神経内科・心療内科の外来で，「認知症」，「うつ」等の鑑別診断や経過観察に役立てるよう高次脳機能検査も実施している。

### ・健康運動指導業務

糖尿病外来患者・教育入院の患者に運動指導を実施して

いる。地域包括ケア病棟のレスパイト入院の方の ADL 低下予防のために，生活指導，運動指導等を行っている。その他，入院・外来透析患者に体力向上，転倒予防，健康寿命を延ばす目的で教室を週 4 回開催している。

定期的健康度チェックを行い，学会発表へと続けている。

健診業務としては，産業医とともに企業へ行きし，運動指導を実施している。腎移植後の患者とドナーの方は，感染予防の観点から外出を控える傾向にあり，体力低下を引き起こしやすいため運動指導を行っている。地域向け健康教室として，年 2 回運動教室を開催している。

## ■2018 年度のトピックス・実績

誤嚥性肺炎プロジェクトチームとして，入院直後からの PT・ST 介入，クリニカルパス変更，チーム医療として，歯科医の協力の下，口腔ケア方法の統一が図れ，平均入院期間の短縮もできた。リハビリテーション科として PT と ST 共同で，半年間誤嚥性肺炎の勉強会を開き，クリニカルパスの見直し，呼吸・排痰訓練の知識・技術の向上を図り，2 名が吸引取得できた。地域包括ケア病棟の在宅復帰率を 70%以上確保し，施設基準 I 取得を維持できた。地域包括ケア病棟の患者に対して ADL 維持向上できるように，運動療法だけでなく，疾患別リハビリ以外の患者やレスパイト入院の患者に対しても生活指導の関わりを持ち，7 割以上介入できた。月平均 2.1 単位を提供した。外来透析患者の健康寿命を延ばすために，誕生日月に身体測定及び ADL 評価を年 1 回行い，「いつまでも元気にプログラム」という運動指導を 1 年継続した。その結果分析を行い，透析患者に必要な運動量やサルコペニアの割合など可視化し，学会発表へと続けた。理学療法の目標達成率は，昨年 104%が今年 105%に増加，言語療法は，102%が 115%に増加し，経口回復率 44%（施設基準 35%以上達成），経口摂取回復促進加算を 6 年連続取得した。

（学会発表）

・第 8 回透析運動療法研究会：「外来血液透析患者に対する集団体操の取り組みと効果について」，「高齢血液透析患者の転倒に関連する身体機能の検討」

・第 64 回日本腎臓リハビリテーション学術大会：「高齢血液透析患者の転倒に関連する身体機能の検討」

- ・第 63 回日本透析医学会学術集会：「血液透析患者の下肢バイパス術後の経過」
- ・第 3 回日本心血管理学療法学会：「血液透析患者の下肢血行再建術後の ADL と入院期間について」
- ・近畿理学療法士学術大会：「両下腿切断後段差昇降獲得に至った血液透析患者の 1 症例」
- ・大阪透析研究会：「両下腿切断の術前から介入し段差昇降獲得にまで至った 1 症例」

## ■今後の展望

新たな取り組みとしては、腎疾患専門病院として、透析患者だけではなく、透析前の保存期腎不全患者への悪化予防のために、栄養・運動・薬剤・看護・医師とでチーム医療の提供を図る。外来の糖尿病透析予防管理の患者と外来保存期腎不全患者対象に、腎機能の悪化予防、CVA や心不全などの予防目的の運動療法提供を行っていく。

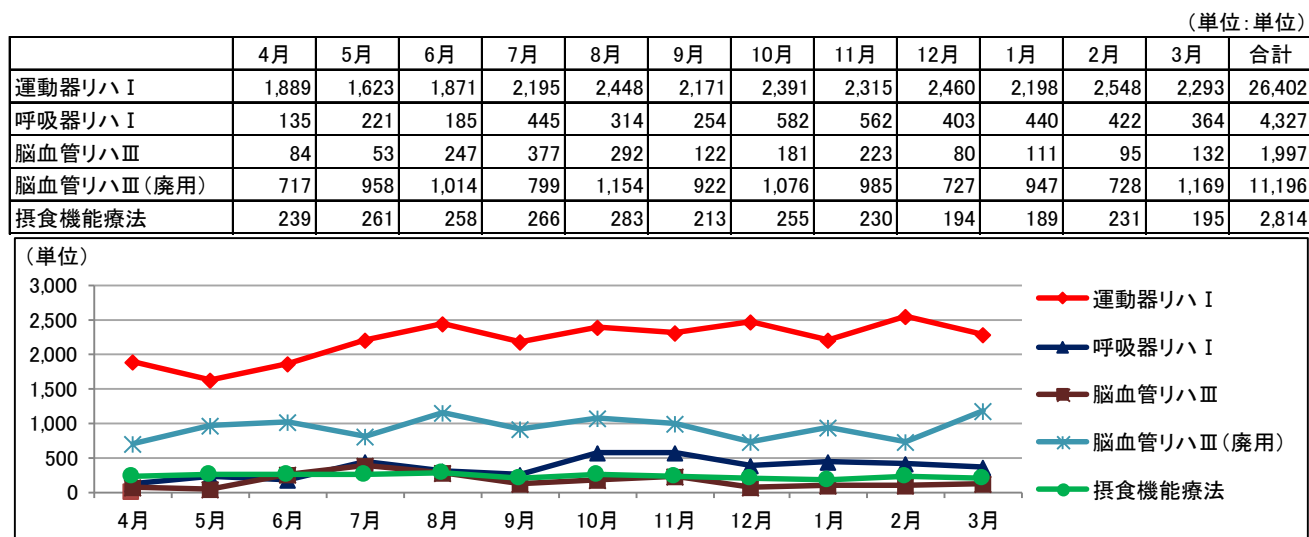
そのために、リスク管理や適切な運動処方ができるように、検査科と医師の協力の下、運動負荷試験を導入し、保存期の運動療法の提供を行う。定期的な検査・評価・指導を行い、効果検証を行っていく。

地域包括ケア病棟 I の基準を取得できるように、在宅復

帰率 70%以上の継続を目指す。誤嚥性肺炎の入院も増加傾向にあり、セラピストの吸引技術の習得を増やしていく。誤嚥性肺炎プロジェクトによる他職種との関わり・チームとしての取り組み強化を図っていく。

早期退院に向け、入院生活と在宅生活の乖離を少なくできるように、生活指導の関わりを増やしていく。家庭訪問を積極的に行い、地域のサービス部門との連携を密に図っていく。脳血管の施設基準Ⅱが取得できるように、作業療法士の確保と環境整備を行う。外来透析患者の健康寿命を延ばすために、誕生日月に身体測定及び ADL 評価を行い、生活や運動アドバイスを継続して行う。1 年間の振り返りとして、透析患者のフレイル・サルコペニア率など分析し、各患者に適した運動指導の提供を目指す。また、外来透析患者だけでなく、地域の病院として、糖尿病や腎不全の内容だけではなく、地域住民の健康を維持できるような内容も取り入れ、健康教室の充実を図っていく。言語療法としては、引き続き胃瘻増設術加算施設基準と経口摂取回復促進加算取得を目指す。誤嚥性肺炎プロジェクトによる他職種との関わり・チームとしての取り組み強化を図っていき、今期は食事形態の確立を目指す。

図表. 2018 年度の実績 (数字は延べ単位)



# 栄養管理科

## ■スタッフ紹介

管理栄養士 4名

調理師 5名, 調理員 3名

管理栄養士の認定資格取得状況

腎臓病療養指導士 1名, 日本糖尿病療養指導士 1名

栄養サポートチーム専門療法士 1名

NR・サプリメントアドバイザー 2名

フードスペシャリスト 3名

## ■業務内容

- ・給食管理 (直営)
- ・栄養管理
- ・NST 活動や内科・整形外科カンファレンスへの参加
- ・栄養食事指導
  - 入院・外来 (内科・移植・腹膜透析・血液透析)
- ・健康教室 (管理栄養士担当)
  - 腎臓病教室 5回/年・糖尿病教室 2回/年

## ■2018年度のトピックス・実績

- ・栄養サポートチーム加算数 559件 (前年度比+252件)
- ・栄養食事指導件数・提供食事数 (下記表参照)

表 1. 栄養指導件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来透析	51	55	55	42	50	45	72	59	57	39	33	27
内科外来	32	33	37	47	46	35	37	32	30	24	34	19
入院	15	13	12	10	10	10	15	11	13	14	6	18
合計	98	101	104	99	106	90	124	102	100	77	73	64

表 2. 提供食事数

	食事療養食	特別食	一般食
朝食	32,215	19,804	12,411
昼食	33,046	19,749	13,297
夕食	33,490	20,256	13,234
合計	98,751	59,809	38,942
対前年度比	-994	-11,214	-10,220

## ・実習の受け入れ

6月 武庫川女子大学 3名

10月 武庫川女子大学 3名

2019年2月 大阪青山大学 3名

## ・学会発表

第68回日本病院学会 6月28日~29日

「入院血液透析患者への栄養管理の取り組み~CKD重症化予防をふまえて~」

第22回日本病態栄養学会年次学術集会

2019年1月11日~13日

「外来維持血液透析患者の栄養摂取状況について」

第92回大阪透析研究会 2019年3月3日

「維持血液透析患者の栄養・食事摂取状況」

「外来維持血液透析患者の栄養摂取状況について」

## ■今後の展望

4月より給食部門を委託したため、給食管理においては委託との連携を図っていきたい。

今後は栄養指導件数の増加, NST 活動, 学術発表を積極的に行う。また, 病院経験3年目管理栄養士の認定資格取得も目指す。

# 感染対策室

## ■スタッフ紹介

感染担当副院長：谷村信宏（ICD）

感染対策室室長：安田雅子（PNIPC）

感染担当医師：大北恭平（医師）

薬剤科担当：倍味亜矢子（薬剤師）

検査科担当：林 純一（臨床検査技師）

事務担当：冢瀬和美（事務員）

## ■業務内容

- 1) 感染管理組織の運営
- 2) 医療関連感染サーベランス
- 3) 抗菌薬使用状況の確認とコンサルテーション
- 4) 感染症発症者の把握と関連部署との情報共有
  - ・現場への介入，コンサルテーション，定期的な巡回
- 5) 患者・職員の手指衛生の教育と啓蒙活動
- 6) 感染防止対策マニュアルの整備
- 7) 職業感染防止対策と針刺し事故への対応
- 8) 感染防止対策加算に伴う地域連携活動
- 9) VRE アウトブレイクに伴う疫学調査

## ■2018年度のトピックス・実績

- 1) 各種会議の開催
  - ①院内感染防止対策委員会：毎月第4木曜日 15時～
  - ②ICT 会議，ラウンド：毎週水曜日 9時～
  - ③AST 会議，ラウンド：毎週水曜日 8時30分～  
毎週金曜日 14時～
- 2) 感染管理地域連携カンファレンスの参加
  - ①地域連携カンファレンス（千船病院，名取病院）
  - ②感染防止対策地域連携加算 1-1 相互ラウンド（千船病院）
  - ③吹田保健所管内院内感染対策連絡会議

④吹田保健所管内高齢者施設感染対策支援会議

3) 感染管理教育

①新入職，中途入職オリエンテーション

②法定研修：感染管理（第1回 7/19，第2回 2/1）

・第1回：1部 肺炎ガイドラインについて

講師：大阪大学大学院医学系研究科感染制御学講座  
藤谷好弘先生

2部 消毒薬の選び方 講師：安田 PNIPC

・第2回：1部 感染対策チームによる抗菌薬適正使用に向けての取り組み 講師：薬剤科倍味主任

2部 適切な細菌検査の検体採取法

講師：臨床検査科西川技師

2017年4月にVREがアウトブレイクし、感染対策として「手指衛生の徹底」「个人防护具の適正使用」「環境整備」「抗菌薬の適正使用」に取り組んできた。疫学調査結果でトイレを介した伝播や標準予防策が不十分で伝播した可能性が疑われ対策を講じた。全職員、外部委託業者を対象に「手指消毒のテクニックとタイミング」「个人防护具の正しい選択と正しい着脱」の実技を用いた講義を定期的に変更中。全看護職員を対象に「スタンダードプリコーションに基づいたおむつ交換」「トイレ介助時の清掃と清潔行動」の実技を用いた講義を継続的に実施中。病棟のアルコール手指消毒回数の平均は、1患者あたり23回と前年度より48%増加した。感染に強い病院を目指して、2018年11月に感染管理加算Iを取得しVRE終息に向けて取り組んでいる。

## ■今後の展望

- 1) VRE終息に向けた取り組みの継続。
- 2) 感染防止対策における文化の醸成。

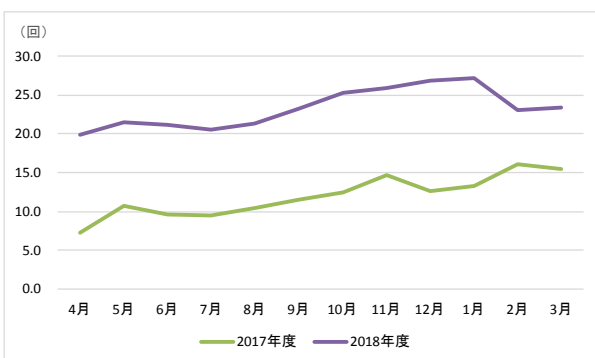


図1. 患者1人あたりのアルコール手指消毒回数

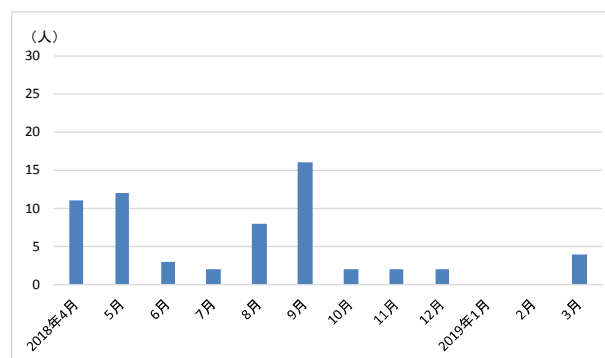


図2. VRE新規発生状況

# 医療安全管理室

## ■スタッフ紹介

医療安全管理者	辻本吉広 院長（医師）
医療安全管理担当副院長	岸本博至（医師）
医療安全管理室長	榎本 拓（臨床工学技士）
医薬品安全管理責任者	榊屋根佳子（薬剤師）
医療機器安全管理責任者	中川 孝（臨床工学技士）

## ■業務内容

- ・医療安全地域連携加算取得
- ・千船病院 医療安全対策加算 1-1  
相互ラウンド実施
- ・上田病院 医療安全地域連携加算 I-2  
ヒアリング訪問実施
- ・医療事故防止対策委員会開催 12回/年
- ・2018年8月・2月 医療安全全体研修開催
- ・医療安全ニュース発刊 9号～20号
- ・看護部安全委員会，臨床工学科安全委員会，  
その他カンファレンス陪席
- ・11月 第13回医療の質安全学会参加
- ・府北西部医療安全交流会（看護協会主催）参加
- ・失血事故防止プロジェクトチーム活動
- ・院内定期ラウンド 12回
- ・インシデント報告集計（1,665件/年）  
透析関連報告 1,665件中 912件  
※分類・レベル・部署別グラフ参照

## ■2018年度のトピックス・実績

- オペ後閉創時消毒時電気メス使用による出火  
→閉創時の消毒は原則行わないことをオペ室会議で周知
- 失血事故防止 PT 活動  
→テープの固定方法，マニュアル広報，穿刺部ラウンドをチームで強化
- 無断離院発生  
→無断離院対応マニュアル作成  
（電子カルテへの写真取り込みの準備も順次行う）

## ■今後の展望

- ・転倒転落防止に向けた取り組み
- ・指示受けなどコミュニケーションエラー防止への取り組み
- ・医療安全地域連携に関する取り組み
- ・インシデント報告システム移行
- ・関連学会への演題発表

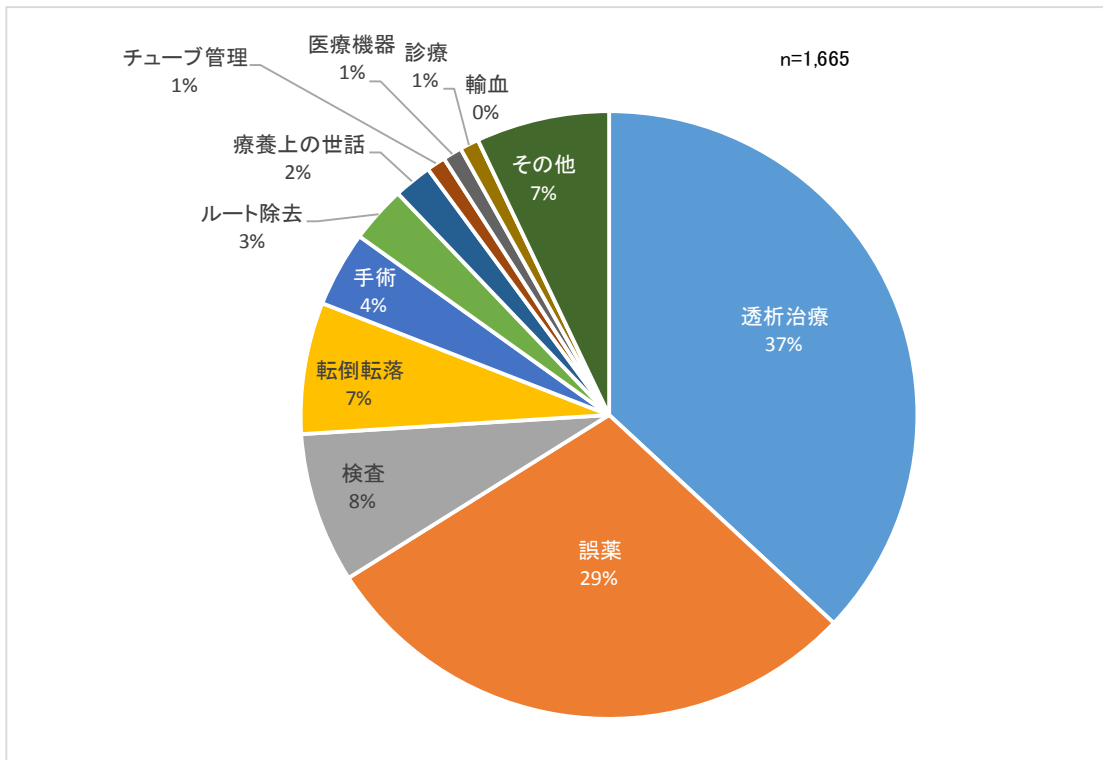
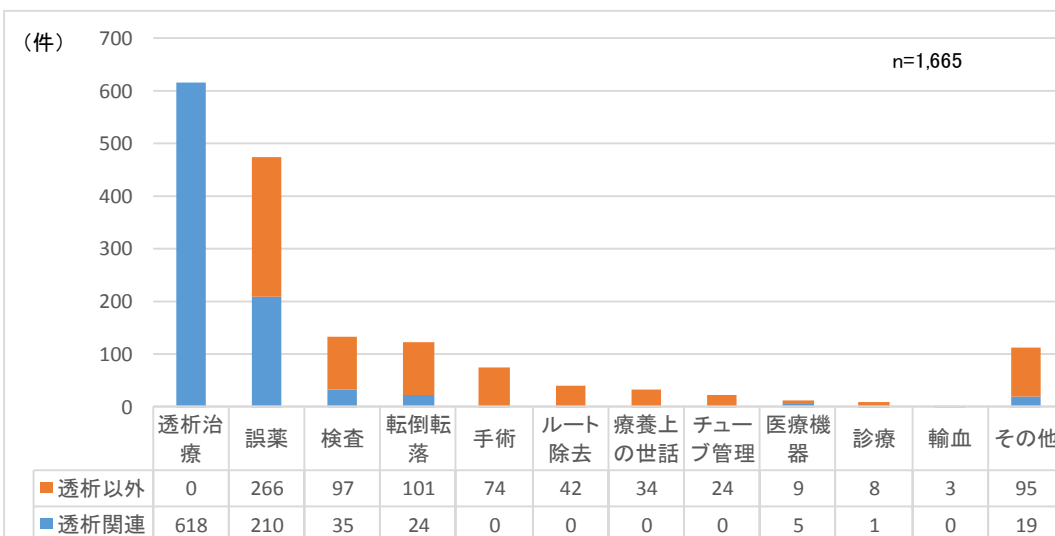


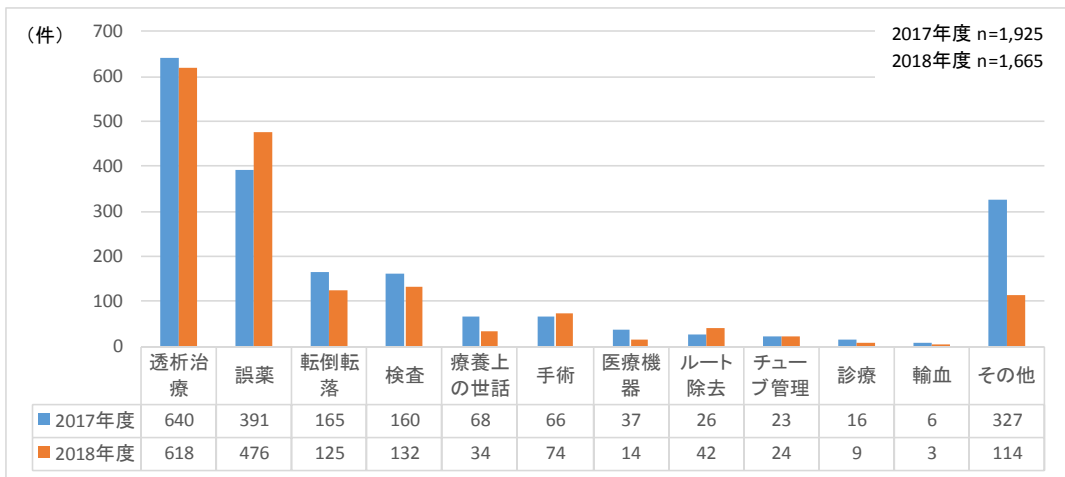
図1. 2018年度報告分類別件数

図表1. 2018年度透析関連報告分布



透析関連報告912件(誤薬・検査などの透析関連を含む)誤薬は476件中210件が透析治療に関する報告であった。

凝血	137
失血・エア	131
除水誤差	113
時間延長	18
その他	219



2018年度インシデント報告は1,665件と昨年と比較して総報告件数が260件少なくなっている。  
 分類では誤薬に関する報告が85件増加している。その他傾向は前年度同様である。

図 2. 分類別前年度比較

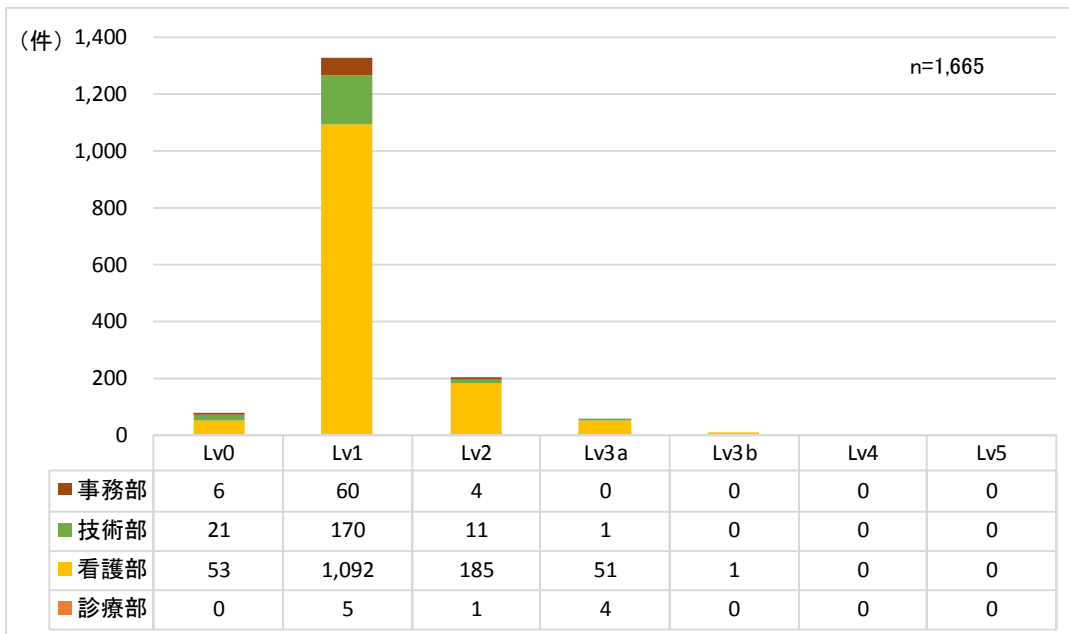
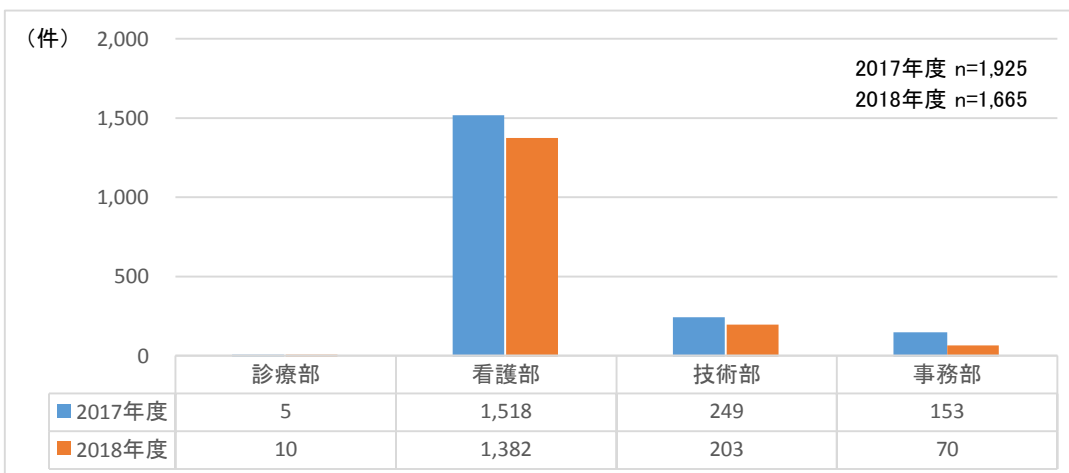


図 3. 2018 年度レベル別件数



部署別報告件数では、診療部(医局)報告が倍増した。

図 4. 部署別前年度比較



# 地域連携センター

## ■スタッフ紹介

センター長 医師 1名

(地域医療連携室)

事務員 4名

(入退院サポート室)

看護師 3名

MSW 3名

## ■業務内容

今年度より地域連携センターとなり、地域医療連携室と入退院サポート室の2つの部署から成り立っている。

主な業務内容

(地域医療連携室)

- ・紹介患者の受け入れ（入院，外来診察，オープン検査）
- ・逆紹介への対応，問い合わせや転院受け入れ先の調整
- ・健康教室の企画・運営（表1）
- ・外部医療機関向け広報活動
- ・その他紹介患者に関わる窓口業務全般

(入退院サポート室)

- ・入院説明，案内
- ・ベッドコントロール（病床管理）
- ・患者相談窓口業務
- ・入退院支援
- ・医療ソーシャルワーカーによる各種相談（表2）
- ・関係機関との連携

## ■2018年度のトピックス・実績

1. 紹介患者数が前年比 115%増（図表1）
2. 「第1回井上病院地域連携の集い」の開催
3. 医療機関への積極的な訪問活動の実施  
(訪問医療機関数 延べ 355 施設)
4. 社会福祉士1名増員
5. 入退院支援加算の取得増加

## ■今後の展望

- ・地域医療連携室は紹介，逆紹介をより一層推進し，営業活動を通して，地域の外部医療機関に信頼され，頼られる病院を目指していきたい。また紹介入院患者の積極的な受け入れをサポートしていきたい。
- ・テーマや内容が地域のニーズにあった魅力ある健康教室を計画し参加者の増加に取り組む。
- ・地域連携の集いを定着化したい。
- ・入退院サポート室は入退院支援と介護の連携が課題である。また入退院支援の構築と充実を含め，院内・院外多職種と連携した入退院支援体制の強化及び部署内連携の充実の取り組みも喫緊の課題である。

図表1. 紹介患者数推移

(単位:名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2018年	175	177	182	171	172	165	184	194	174	168	180	188	2,130
2017年	170	147	155	185	163	169	181	191	179	157	167	158	2,022
2016年	143	140	156	141	146	141	156	157	153	138	153	144	1,768

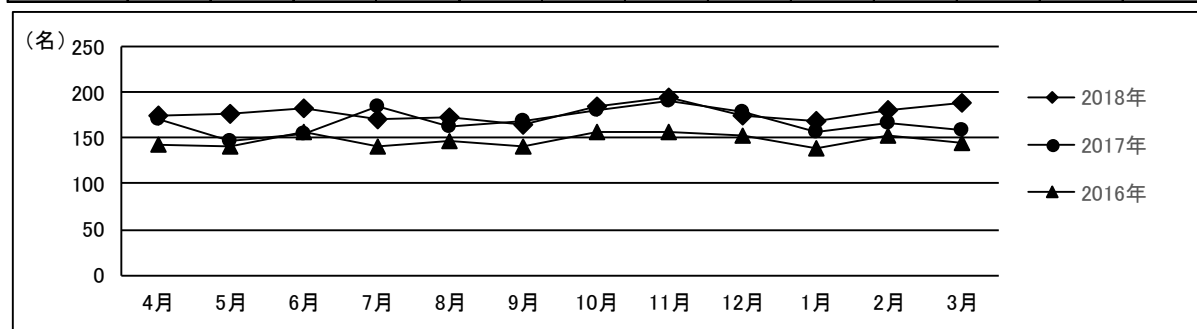


表 1. 健康教室実績

(単位:人)

実施月	講座名	対象	参加人数
4月	CKD(慢性腎臓病)ってなに? 慢性腎臓病の食事療法について	一般市民	4
5月	糖尿病とその合併症について 糖尿病の検査について ~糖尿病と言われたら~ 糖尿病の食事療法 ~バランスの良い食事と食べ方~	一般市民	2
6月	「血清クレアチニンが上昇している」と言われた。さあ どうしたらよいの 腎臓をいたわる食事をしよう	一般市民	6
7月	糖尿病の合併症 糖尿病治療のお薬について 糖尿病の食事療法について	一般市民	7
8月	腎不全で透析が必要と言われた。透析ってどんなもの。そして移植は? カリウムについて 透析導入したら医療費ってどうなるの?	一般市民	8
9月	糖尿病の合併症について 糖尿病の食事療法について	一般市民	5
10月	フレイル予防運動	一般市民	12
11月	糖尿病合併症で腎臓が心配。どんな検査、どんな治療があるの? 糖尿病食から腎臓食へ何が変わるの	一般市民	4
12月	便秘について	一般市民	17
2月	高血圧と腎臓病 高血圧と減塩 ~適塩生活しよう~	一般市民	8
3月	運動でロコモを予防しよう!	一般市民	14

表 2. 相談内容と処遇方法

(単位:件)

相談内容	導入	32
	通院・送迎	495
	介護保険	702
	転出	429
	転入	24
	保険・年金	101
	社会福祉	146
	施設利用	844
	在宅サービス	1,281
	その他	1,394
合計		5,448
処遇方法	面接・電話面接	2,172
	連絡調整	3,427
	訪問	61
合計		5,660

# 総務学術科

## ■スタッフ紹介

科長：小林和人

主任：松本大祐，杉田幸代

副主任：田中沙登美

科員：足立祐里，河野久美子，瓜生崇久，塩見 恵，  
森副 実

## ■業務内容

- ・2017年に特定医療法人の認可を取得し，社会医療法人愛仁会との合併に関する法的な障壁はなくなったため，両法人に合併の機運が高まった。
- ・法人合併については，両法人の社員総会，理事会等の意思決定会議で決議され，4月から準備を本格化させた。2008年にアライアンスを開始していたため，デューデリジェンスは済ませており，専ら法的手続き面と，合併後の運用面に絞って整理した。
- ・月1回のペースで愛仁会本部にて「S&A 合併会議」を開催し，合併の諸手続き及び準備が遺漏なきように議論を重ね，実行に移していった。

## ■2018年度のトピックス・実績

- ・井上病院診療棟のLED化を所有者の協力の下，実施した。
- ・江坂スクエアビル（旧井上第二診療所）の賃貸借期限が過ぎていたため，所有者と契約に基づく返還交渉を行った。契約内容を巡って対立があったが，妥協点を見つけて出し，無事，原状回復を含めて解決することができた。
- ・井上病院透析棟と管理棟を連結させたことにより，管理棟の耐震工事が必要となっていた。建築基準法上の仮使用の状態を解消するため，外壁・エレベーター等の耐震強化工事を行い，無事期限内に終了させることができた。

- ・オーバーナイト透析の開始にあたり，アメニティ向上のため，シャワールームを設置した。
- ・井上病院診療棟7階は病室・入院透析室であったが，入院透析室を血液透析実施可能な病室へと変更する工事を実施した。
- ・蒼龍会・愛仁会の法人合併にあたり，2019年3月31日に合併記念式典を挙行，併せて合併記念誌を発行した。

## ■今後の展望

- ・次年度より特定医療法人蒼龍会は，社会医療法人愛仁会に法人名が変更となる。総務学術科は，人事科と統合再編され，新たに経営管理科として，今まで以上に他部署と連携を強化し，以下に示す内容を中心に業務を遂行し，経営に貢献できる組織作りを目指す。
- ・愛仁会諸規程の周知及び内規の制定・改定により，組織的なガバナンス及びコンプライアンス強化に取り組む。
- ・働き方改革関連法に基づき，タスクシフト・シェアリングを推進し，業務の効率化，生産性の向上を図るとともに，計画的な人材育成に努める。
- ・パンフレット刷新及びホームページ更新による広報機能強化を図り，集患に努める。
- ・一般管理費について，法人内外の情報を収集し，適正業者及び価格の見直しによる冗費節減を図り，利益確保に努める。
- ・震災や風水害などの自然災害により大きな被害を受けても重要業務が中断しないこと，若しくは中断したとしても可能な限り短い期間で再開できるようにBCP策定及び精緻化に取り組む。

# 人 事 科

## ■スタッフ紹介

主 任：阿部聡美

副主任：福島健司

課 員：古賀ゆかり

## ■業務内容

### 1. 採用活動

2018年度の採用人数は77名、うち新卒採用は13名であった。今年度は愛仁会看護助産専門学校から2名、明石医療センター附属看護専門学校から1名の内部生を迎えることができた。

また、次年度の愛仁会との合併を視野に入れ、新卒採用活動については、一部職種について愛仁会と合同で行った。

2018年度は不足人員を補うため、在籍者も含め時給の見直しを行い職員採用に結び付けた。

### 2. 定期健康診断・ストレスチェック

定期健康診断においては、各所属長の協力もあり例年受診率100%となっている。

また現在、二次健診対象者に対しても受診奨励を行う準備を進めている。

2015年12月に施行されたストレスチェック制度を今年度もIMailアドレスを利用したWeb上で行った。

また、高ストレス者への対応結果の通知、結果集計など健診センターと連携して行うことができた。

### 3. 福利厚生業務

2018年度の永年勤続表彰は、10年43名・15年11名・20年6名・25年4名・30年1名、合計65名が対象であった。

勤続表彰者に対しては、8月1日井上病院運営会議にて表彰式が行われた。

2018年度は2名の男性職員の育児休業を積極的に受け入れた。

## ■2018年度のトピックス・実績

### 1. 社会医療法人愛仁会との合併準備

次年度の法人合併に向け、規程・給与等のすり合わせを行った。9月には常勤職員へ給与処遇条件変更通知と合併に関する同意書を配布し、11月時点で対象者の同意書をすべて回収することができた。

また人事給与システム Company については、愛仁会側のシステムへのデータ移行に合わせ再度設定等の見直しを行った。

大阪府病院企業年金基金は合併に伴い脱退するため、12月に説明会を開催し、書類配布、回収を行った。

### 2. メンタルヘルス委員会

昨年度、公益財団法人21世紀職業財団にご協力いただき、ハラスメント相談窓口を設けた。11月には愛仁会主体としてのメンタルヘルス委員会が開催され、毎年9月・3月の定期開催が決定した。

### 3. 透析棟オーバーナイト勤務開始

2018年度、透析棟のオーバーナイト勤務導入により、従来の長時間勤務の改善及び人員配置の整理を行った。

### 4. 超勤指示書運用開始

昨年度、事務部から運用を始めた時間外指示書を改良し、超勤指示書として全部署に展開した。それにより、職員個人及び管理職の時間外勤務に対する意識が高まった。

### 5. 働き方改革への対応準備

次年度から始まる働き方改革への取り組みとして、勤務形態の多様化を視野に入れ、シフトの時間数、組み合わせの見直しを行った。

## ■今後の展望

### 1. 愛仁会本部との連携

次年度の合併により、人事担当としての業務は愛仁会本部との連携が不可欠である。スムーズな運用移行ができるよう、情報連携及び協力体制を整える必要がある。

### 2. Company 人事システムの運用拡大

次年度の合併により、現在運用している Company 人事システムのメニューも増えることが見込まれる。混乱を招かぬように準備、対応をしていきたい。

# 財 務 科

## ■スタッフ紹介

科 長：西村重彦

副主任：磯合良輔

科 員：川竹悦子

## ■業務内容

### ①蒼龍会の会計管理

財務科は法人全体の資産管理・経営管理・資金管理を行っている。経営管理では月次で収支実績表を作成し、理事会で報告をして、今後の経営に活かせる指標を提示することを目標としている。

### ②会計業務

前年度の下半期には愛仁会との合併を見据えて、業務改善に取り組んだ。会計伝票入力方法の変更、小口預金の口座開設、現金主義から発生主義への考え方、本部から施設への預金入力変更、予算の施設計上、支払チェック強化などの改善を進めた。

### ③愛仁会合併に伴う銀行の変更処理

2018年7月、愛仁会へ引き継ぎをする口座が確定した。蒼龍会のメインバンクである三井住友銀行より愛仁会のメインバンクである三菱UFJ銀行へ、自動引き落としなどの口座変更処理を行った。借入金の返済は2月と3月に三菱UFJ銀行へ借り換えの手続きを終了した。3月末日をもって三井住友銀行との取り引きを終了した。

## ■2018年度のトピックス・実績

御堂筋監査法人監査

・期首残高チェック 5/10～15

・監査計画説明会 7/13

・監査 7/30～31, 8/22～24

・監査（ひまわり）10/10, 監査（つくも）10/18～19

・監査 12/19～21

・監査 2/21～22

・監査 3/18～20

・監査（棚卸チェック） 3/30

愛仁会システム説明会

・2/20, 3/5（於：愛仁会本部）

## ■今後の展望

2019年度より愛仁会との合併になる。特定医療法人から社会医療法人になり、これまで以上に内部統制の強化をしなければならない。その目的は4つである。①業務の有効性及び効率性、②財務報告の信頼性、③事業活動に関わる法令等の遵守、④資産の保全となる。実際の業務はブレイクダウンしたものになるが、新たに三優監査法人の指導の下、レベルアップを図っていきたい。

表. 収支実績推移

(単位:百万円)

	第36期 2012.4～2013.3	第37期 2013.4～2014.3	第38期 2014.4～2015.3	第39期 2015.4～2016.3	第40期 2016.4～2017.3	第41期 2017.4～2018.3	第42期 2018.4～2019.3
事業収益	7,860	7,993	7,987	8,157	8,062	8,081	7,933
材料費	1,944	2,002	2,082	2,078	2,065	2,025	1,943
人件費	3,848	3,824	3,904	3,855	3,954	3,803	4,134
一般管理費	1,900	1,879	2,016	2,009	1,974	1,821	1,768
減価償却費	97	96	154	136	130	124	127
事業利益	71	191	-170	79	-61	308	-38
事業外収益	43	45	45	52	46	73	36
事業外費用	27	26	32	30	29	25	16
経常利益	87	210	-157	101	-44	356	-19

## 企画情報科

### ■スタッフ紹介

科 長：高橋克昌

副主任：金谷甲輝

科 員：近藤晃弘，寺岡克明

### ■業務内容

#### (1) 病棟運用の変更検討

当院では 2018 年 12 月より病棟運用の変更を行い，一般病棟（急性期一般入院料 4）と地域包括ケア病棟のフロア入れ替えを行った。一般病棟では現行の診療棟 7 階に設置されていた透析室の運用変更を行い，新たに入院病床として稼働を開始した。

企画情報科では効率的な病棟運用が行えるよう，経営的試算や吹田保健所との協議などを行い，円滑に病棟運用が行えるようサポートした。運用変更に伴い 6 人部屋が解消され，原則 4 人部屋となり患者アメニティの向上，院内感染の防止に繋がった。

#### (2) オーバーナイト透析

新たな透析メニューとして，2018 年度より当院ではオーバーナイト透析（ON 透析）を開始した。ON 透析とは，日中仕事などのために長時間透析ができない患者を対象に，透析室で睡眠中に透析を行う方法である。

ON 透析立ち上げワーキンググループに参加し，診療部，看護部，技術部と協働で各種試算や運用調整を行った。2018 年 9 月 10 日（月）より患者 7 人で ON 透析を開始した。

#### (3) 診療報酬改定対応

2018 年度診療報酬改定後の影響及び，新規算定項目の検討を行った。

当院では 2018 年度より，地域包括ケア病棟入院料 1，抗菌薬適正使用支援加算，医療安全対策地域連携加算 1 などの算定を行っている。

#### (4) システム対応

次期電子カルテシステムをはじめとする医療情報システム更新に向けた検討，ICT 機器の導入，保守並びにこれらに関する問い合わせ対応を行った。

また，愛仁会グループで新たに運用が開始された Office365 の運用促進を行い，院内での ICT 利活用を強化した。

#### (5) 災害時の透析支援アプリの開発

2018 年度は関西を中心に大規模自然災害が多発し，当院も建物施設等の被害が出た。幸いにもインフラなどの遮断はなく，透析外来，一般外来ともに通常診療を行うことができた。また，透析が不能となった近隣医療機関より透析患者の受け入れを行った。

受け入れを行った経験より，当院でも被災時に透析患者を他院に転院させる際の診療情報（透析条件）の提供方法について検討を行った。検討の結果，患者所有のスマートフォンアプリに透析条件を配信するシステムを業者と共同で開発した。

### ■今後の展望

2012 年導入の電子カルテ他，多くのシステムが老朽化しており，システム更新の時期を迎えている。システム更新は 2020 年度後半の稼働を前提とし，2019 年度はそれに向けた準備として，施設にマッチしたシステムの選定と，スムーズなシステム移行のためのマスタ整備を行う。またシステム運用上ストレスのない通信環境を構築するため，現行ネットワーク通信の負荷分析などを行う。

# 井上病院附属診療所 腎移植外来

## ■スタッフ紹介

非常勤医師 5名

看護師 2名

認定レシピエント移植コーディネーター 1名

(井上病院附属診療所看護科長兼任)

看護助手 1名

移植事務 2名

## ■診療内容

主に大阪大学医学部附属病院で腎移植手術を受けた後の患者の長期的なフォローアップを行っている。移植腎が長期に生着することを目的とし、移植腎が機能喪失する前に生命を失うことがないように、癌検診の充実、合併症予防に力を入れている。また、腎提供を行ったドナーが、今後も透析に入ることがないように、ドナー後の定期受診の推進、検査データ異常時は早期に医療介入を行い、生活習慣病の予防について力を入れている。

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年度は、数名の移植外来の非常勤医師の他施設への異動に伴い、患者の転院を余儀なくされた。

看護師、コーディネーターが患者に寄り添い、転院に対する患者の想いを確認し、情報提供を行い患者自身が選択できる方法を提示した。また、11月から土曜日の診療に対し大阪大学医学部附属病院からの医師の派遣が中止となり、土曜日のみ診療に来ていた医師の平日の診療を10月より隔週で開始した。仕事の都合で他施設へ転院せざるを得ない患者もいたが、通い慣れた当院での通院を希望される方も多く、最終的に患者は約230名が当外来への定期通院をされている。

2019年1月より、井上病院本院への腎移植後の腎生検の2泊3日入院のクリティカルパスの運用を開始し、3～4名/月程度、入院している。

## ■今後の展望

腎移植外来も超高齢化社会を迎え、在宅での療養生活支援を検討していくケースが増えている。多施設、在宅との連携を深めていく上で、外来での看護力の発揮が求められる。また、外来看護記録の充実をはかり、多施設や在宅との連携をどのように深めていき、施設をこえて患者の療養生活を支えていくには何が必要か、検討していくことが課題として挙げられる。

表. 移植後定期検査の実施件数

(単位:件)	
検査項目	件数
胸部レントゲン	202
EKG	198
胸部CT	176
腹部CT	190
副甲状腺エコー	155
IMT/PWV	186
腹部エコー	182
胃カメラ	106
便潜血	177
乳癌検診	69
子宮がん検診	60

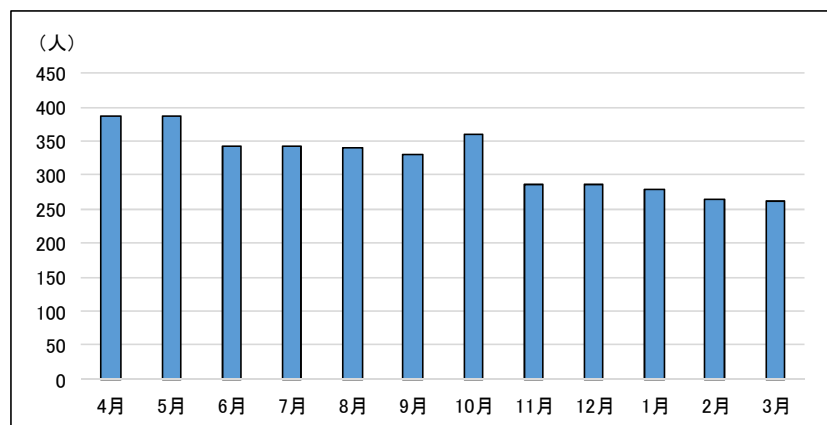


図. 移植外来受診者数 (月延べ人数)

# 井上病院附属診療所 健診センター

## ■スタッフ紹介

医師（常勤医師）2名 石津院長，和田医師

看護師6名

看護助手1名

保健師1名

管理栄養士2名

臨床検査技師1名

診療放射線技師1名

視能訓練士1名

事務員8名

## ■診療内容

健診センターは、労安法に基づく一般健診・特殊健診，高齢者医療確保法に基づく特定健診・特定保健指導，協会けんぽの生活習慣病健診の他，各種人間ドックを実施している。関係法令の改正に伴う項目の追加とは別に，利用者からのニーズの大きいオプション検査も経済性を勘案して採用するようにしている。

## ■2018年度のトピックス・実績

- ・管理栄養士の主任着任により人員配置の変更を行った。
- ・職員の役割分担の再編を行った。

## ■今後の展望

吹田市江坂という商業地の土地柄，企業の支店，中小企業・個人事業が多く，開・廃業や進出・撤退等により事業所の変動が相当大きい。

待ちのスタンスであっても一定の利用者数は見込めるが，退出率のデータを取ったところ，2年で11.5%の事業所が音信不通（退出）となっていた。この状況に甘んじることなく，成長性を確保するためには，営業・渉外の機能が必要である。よって，来期はこの体制を整える。

表. 健診センター実績

(単位:件)

2019年度 月	健康診断	うち市民健診	うち全国健康保健 協会管掌健康診断	人間ドック				特定保健指導	ストレスチェック
				エクセレント	標準ドック	ドックA	その他ドック		
4月	1,434	44	103	3	10	1	31	10	0
5月	1,309	77	348	2	7	1	46	44	0
6月	1,464	63	376	3	8	2	57	25	0
7月	1,299	55	355	0	25	0	25	10	0
8月	1,314	62	230	3	17	2	39	4	0
9月	1,112	78	260	2	21	5	41	7	673
10月	1,501	88	425	0	17	2	50	15	1,091
11月	1,423	81	368	0	20	1	44	15	503
12月	1,136	61	222	1	20	2	37	15	791
1月	790	71	161	4	17	0	25	10	373
2月	1,177	65	385	1	15	0	20	17	0
3月	1,131	105	274	1	43	2	35	9	0
計	15,090	850	3,507	20	220	18	450	181	3,431



# 井上病院附属診療所 在宅

## ■スタッフ紹介

### ・江坂ケアプランセンター

管理者 1名  
ケアマネジャー 6名  
事務員 1名

### ・いのうえヘルパーステーション

管理者 1名  
常勤ヘルパー2名 産休1名  
非常勤ヘルパー 1名  
登録ヘルパー 16名

## ■業務内容

在宅チームで連携を図りながら円滑に在宅支援を行っている。

### 1. 江坂ケアプランセンター

- ・井上病院から退院の患者の在宅支援。
- ・地域に密着した介護の総合相談窓口。
- ・井上病院地域包括ケア病棟の活用。
- ・定期的に事例検討を実施しケアマネのスキルアップ。
- ・月2回の伝達会議において利用者情報の共有や社会資源の情報伝達を行い、質の高いケアプラン作成を目指している。
- ・主任ケアマネを2名配置し、地域包括支援センターや市役所との連携で困難事例ケースを積極的に担当している。

### 2. いのうえヘルパーステーション

- ・透析患者の通院送迎により安全な通院手段を提供。
- ・各種研修を受講。ヘルパー会議において伝達研修を実施。ヘルパーのスキルアップに繋げている。
- ・法人内ケアプランセンターとの連携で質の高いサービスを提供する。
- ・地域ケア会議や連絡会に参加し地域に密着した事業所として高齢者・障害者支援を行う。

## ■2018年度の実績

主任ケアマネ2名を中心に困難ケースも積極的に担当しケアマネのスキルアップにも繋がった。いのうえヘルパーステーションでは常勤3名と前年より増員したが、登録ヘルパーの稼働が年々減少傾向にあり今年度も人員不足に悩んだ。少ない人員の中ケアプランセンターと連携を図りながら少しでも新規利用者を確保できるよう努力してきた。小さい事業所の特性であるきめ細かい質の高いサービスを提供できた。シフトの工夫や少ない人材を効率よく稼働できるよう部署内での検討を継続していく。

## ■今後の展望

エリアマネージメントにおいて吹田地区を担い、地域課題の抽出や解決に向けて取り組んでいく。また医療と介護の連携においては井上病院の受け皿となり患者が安心して生活できる質の高いサービスが提供できるよう人材育成を行う。

ヘルパーステーションにおいては人材の確保もすすみ今後は更なる利用者の獲得を目指し地域に向けての営業活動を行う。



# 井上診療所（みかん）

## ■スタッフ紹介

今期の人員配置は、

医師：5名（辻本大治施設長，非常勤医師4名）

看護師：12名（うち1名は非常勤）

看護助手：2名

臨床工学技士：5名（3名勤務態勢）

事務職員：1名 であった。

## ■診療内容

透析ベッド数30床で月・水・金曜日，火・木・土曜日，午前，午後の透析を実施している。オンラインHDF対応コンソール15台，HD対応も15台である。

老健ひまわり入所者への透析治療と近隣の通院患者や老人ホームからの透析患者を受け入れている。また，大阪大学医学部附属病院における入院患者の術前透析やG(L)CAP治療，体外循環血液療法にも対応している。

## ■2018年度のトピックス・実績

透析腎医療の強化を図るべく，高齢者などの透析困難や，若年者の長期透析による合併症対策として，オンライン血液透析濾過（以下HDF）への選択的移行を進めることができた。4月の455件からはじまり，増減しつつも6月の515件を最多件数とし，総計5,692件となって前年の4,681件を上回った。

当院の患者動態を見ると，2018年度末の患者数は110名（前年度108名），転入が40名（前年度32名）であり，そのうち井上病院からは22名で前年と同数であったが，他施設からは18名と増加した。

一方，転出は15名（前年度12名），死亡は23名（前年度18名）であり，前年度に比較して転出数も死亡数も

増加した。結果として在籍患者総数は2名の増加に留まった。以下（ ）内は前年度数を示す。

また，患者数のうち外来通院患者53名（51），老健ひまわり利用の患者数57名（57）で，老健ひまわり利用の患者数が占める割合は今年度も外来通院患者数を上回った。

透析延べ件数では，外来患者における件数が7,641（7,888），また老健ひまわり利用患者は8,012（7,356）件と増加した。総件数は15,653（15,251）件と前年を上回った。

以上の集計から，本年度は転入数が増加したものの，転出数と死亡退院者もともに増加したため，総透析件数は402件の増加であった。

4時間以上透析者は昨年度4月に比べて今期は87件増の517件となった。

## ■今後の展望

透析生産性が3.5近くになっており，高齢者透析の需要が高まる傾向はますます続き，当診療所の拡充が検討されて然るべきであろう。同時に老健ひまわりを利用した透析患者の増加をはかり，井上病院との連携によって，北摂地域の患者の利便性に応えることも視野に入れていきたい。

表1. 透析件数

42期	通院外来HD	老健利用HD	阪大	合計	稼働日数	(単位:件/日)
						コンソール1台あたりの生産性
4月	609	616	0	1,225	25	3.3
5月	636	657	0	1,293	27	3.2
6月	656	572	0	1,228	26	3.1
7月	660	667	0	1,327	26	3.4
8月	650	693	0	1,343	27	3.3
9月	594	631	0	1,225	25	3.3
10月	649	712	0	1,361	27	3.4
11月	653	692	0	1,345	26	3.4
12月	687	680	0	1,367	26	3.5
1月	659	725	0	1,384	27	3.4
2月	554	666	0	1,220	24	3.4
3月	634	701	0	1,335	26	3.4
計	7,641	8,012	0	15,653	312	3.34

表2. オンライン血液透析濾過件数

42期	(単位:件)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	455	506	515	510	497	452	480	452	462	483	427	453	5,692

# 介護老人保健施設 ひまわり

## ■スタッフ紹介

- ・介護老人保健施設ひまわり  
施設長 井上琢也（医師）  
事務長 吉田篤史（事務）  
療養科長 安部友美（看護師）  
介護職員 30名，看護師 15名，介護支援専門員 1名，  
理学療法士・作業療法士 8名，相談員 1名，管理栄養士 1名，事務職員 3名，送迎職員 5名
- ・ひまわりケアプランセンター  
介護支援専門員 3名，事務職員 1名

## ■業務内容

- ・介護老人保健施設の本来の役割である家族や地域の機関と協力し，安心して自立した在宅生活が続けられるための支援を行うと同時に当施設は地域を越えて透析患者も入所利用できる介護老人保健施設を強みに運営している。
- ・施設概要  
入所療養介護定員/100名（短期入所療養介護含む）  
通所リハビリテーション/35名

## ■2018年度の実績

- ・介護老人保健施設ひまわり  
2018年度の延べ人数は入所 32,358名（1日平均 88.7名），通所 7,499名（1日平均 24.3名）で入所の年間平均稼働率は 92.6%，ショートの前延べ人数は 1,445名（1日平均 4.0名）で入所者の延べ人数に対し要介護度 4，5の占める割合は 58%であった。また透析利用者の延べ人数は 1,558名で月平均 61名と入所利用者の 61%以上を占めた。
- ・ひまわりケアプランセンター  
プラン作成件数は，年間平均 114件で法人内施設利用率は 35.9%であった。また延べプラン作成件数が 1,363件（要介護プラン作成件数 1,206件，予防プラン作成件数 313件），担当件数は 1人あたり平均 37.8名であった。

## ■2018年度のトピックス

- ・施設基準  
2018年4月より口腔衛生管理加算，8月に褥瘡マネジメント加算の算定を開始した。また同8月より加算型（在宅復帰・在宅療養支援機能加算Ⅰ）を取得し算定を開始した。
- ・地域貢献活動（介護講演会）  
4月にテーマを「在宅復帰について」6月に「フットケアについて～足のお手入れ出来ていますか～」7月に「生涯歩けるからだ作り～やってみようロコモ予防体操で転倒予防～」8月に「感染予防～食中毒と手洗い～」で4回/年の介護講演会を開催した。
- ・学術活動  
12月に第9回茨木市高齢者サービス事業所連絡会研究発表会でひまわりケアプランセンターの「医療連携」をテーマに発表した。
- ・家族交流会  
11月にテーマを「当施設での事故対策について」12月に「義歯と座位のポジショニング」で2回/年の家族交流会を開催した。

## ■今後の展望

- ・施設方針  
2019年度は，法人合併という大きな節目を迎え新たにスタートする。厚生労働省が介護老人保健施設に期待する在宅支援機能の強化を目指しつつ人工透析（維持透析）を受けながら入所できる当施設の特徴を強みに活動する。また働き方改正関連法が見直され2019年4月から「時間外労働の上限規制」「年次有給休暇の確実な取得」が必要となる。そこで，法人の方針にのり「介護の質」向上に取り組む。
- ・学術活動  
当施設の特徴が人工透析（維持透析）を受けながら入所できる施設であることを広く知っていただくために第20回大阪病院学会や第30回全国介護老人保健施設大会など各施設がより多く集まる学術活動の場に積極的に参加し，認知度の向上に努める。

# 介護老人保健施設 つくも

## ■スタッフ紹介

- ・介護老人保健施設つくも  
施設長（医師）1名，非常勤医師1名，  
看護職員13名（うち非常勤3名），  
介護職員57名（うち非常勤28名），  
理学療法士・作業療法士等8名（うち非常勤1名），  
支援相談員4名（うち非常勤1名），管理栄養士1名，  
介護支援専門員1名，事務職員5名（うち非常勤1名），  
送迎職員9名（うち非常勤5名，委託3名）
- ・つくもケアプランセンター  
介護支援専門員4名，事務員1名
- ・つくもヘルパーステーション  
訪問介護員15名（うち非常勤11名）
- ・吹田市津雲台・藤白台地域包括支援センター  
社会福祉士1名，介護支援専門員2名，保健師1名，  
非常勤事務員1名

## ■業務内容

- ・介護老人保健施設つくも 定員90名  
（うち認知症専門棟30床）
- ・通所リハビリテーション 定員60名
- ・居宅介護支援事業，訪問介護，総合相談等

## ■2018年度のトピックス・実績

2018年の介護報酬改定前日から人員配置やサービス提供体制を整備したことで5月から在宅復帰・在宅療養支援機能加算Ⅱ（超強化型）の算定を早期に開始した。また年間通して計画的な在宅復帰の促進や訪問体制等の標準化を図り算定要件を堅持することができた。入所の実績は年間延べ人数30,485名で平均利用者数は83.5名。うち短期入所者数が平均9.4名であった。加算算定により平均単価は増加したが，利用者数の減少により事業収入は減収となった。また，2018年度は6名の看取りを行った。

通所の実績は年間延べ人数14,693名で平均利用者数は47.9名であった。2018年度の通所営業日は台風による臨時休業もあり，年間307日営業であった。

2018年度は6月の大阪府北部地震や10月の大型台風21号など災害の多い年であったが，4月から防災委員会を立ち上げ施設に併設している居宅系事業所と連携して

防災対策を具体化した。

2018年度も大阪介護老人保健施設協会が主催する事例発表会と全国介護老人保健施設大会（埼玉）で演題発表を行い，施設の取り組みを積極的に情報発信した。

また，職員採用プロジェクトチームの活動を継続して，職種別の業務整理や配置部署についても都度調整を行った。2017年度から導入した年齢制限を除いた介護助手という職種も定着し，4月からはベトナム人留学生3名を雇用して，外国人雇用にも積極的に取り組んだ。8月には通所リハビリの介護主任がベトナム国へ派遣講師として出張して2019年度の技能実習の受け入れに向けて準備を行った。

2019年4月からの愛仁会との法人合併に向けた各関連機関の手続きや職員への周知など計画的に行った。各事業所の廃止と新規申請を行い，すべての事業所の開設許可を3月中に受けることができた。

## ■今後の展望

2019年度は社会医療法人愛仁会との合併1年目として，今までの10年間の連携を糧に働き方改革，消費税増税，グローバル化など内外の荒波を乗り越えていきたい。特に近年切迫している人材確保及び人材育成について，労働環境の改善や多様な人材が活躍できる職場作りに力を入れて，以下の点について取り組んでいく。

1. 定員管理や時間外業務体制の見直しを行い，業務の効率化・合理化・生産性のバランスを保つ。
2. ベトナム人の介護技能実習生2名の受け入れに向けて，職員のモチベーションを高め，充実の育成体制を構築する。
3. 法人合併により吹田・豊中地区の介護事業の連携を強化して，エリア単位での効率的なサービスを提供することとCAPDのショート受け入れなど井上病院との連携強化を図り，利用者確保に繋げる。
4. 大規模災害に備えたBCP（事業継続計画）を策定し，吹田市の福祉避難所としての役割を果たす。
5. 開所20年の老朽化している施設修繕を計画的に進めて，消費税10%になっても選択される施設環境を整える。
6. 施設開所20周年の記念事業を行い，これまでの施設の歩みを振り返り，更なる活性化を図る。



# 愛仁会 本部

※2018年11月より移転

〒555-0001

大阪市西淀川区佃2丁目2番46号

URL: <http://www.aijinkai.or.jp/honbu/>

## 理念・モットー

<理念>

1. 広く社会のためにより良い医療サービスを提供し、健康で豊かな生活の増進に貢献する。
2. 法人活動の成果は明日の医療の発展と福祉の向上に活用する。
3. 地域社会との協調を深め、創意工夫をこらして法人の健全な発展を図る。
4. 医療人としての使命を自覚し、学識・技術の研鑽と人間性の向上に努める。
5. 自主性と和の精神を重んじ、法人に働く誇りと喜びを共にする。

<モットー>

貢献・創意・協調

## 2018年度活動状況

- |  |   |
|--|---|
| <p>4月 入社式・新卒新入職員法人研修会、看護師特定行為研修開講式、新卒事務職員入職後研修、事務部期首講演会</p> <p>5月 看護・介護管理者期首研修会、第1回途中入職者研修会</p> <p>6月 第11回愛仁会グループ消化器カンファレンス、医療の改善活動推進セミナー in 北九州、民間医局レジナビフェア 2018 大阪～後期研修（専門研修）プログラム～、定時社員総会、第68回日本病院学会</p> <p>7月 民間医局レジナビフェア 2018 大阪～臨床研修</p> | <p>8月 病院長・幹部職員セミナー、第9回愛仁会グループ外科勉強会、第18回三法人経営塾開講式</p> <p>9月 看護師特定行為研修、臨時社員総会、新任科（課）長研修</p> <p>10月 教育担当者研修 STEPⅢ、第1回三法人合同講演会、第2回愛仁会グループ臨床研修病院合同同窓会、第18回三法人経営塾中間発表、第12回愛仁会グループ消化器カンファレンス</p> <p>11月 愛仁会創立60周年記念式典、愛仁会本部移転・業務開始</p> <p>12月 第2回三法人合同講演会、第3回途中入職者研修会、事務部主任・副主任研修会、認知症サポーター養成研修</p> <p>1月 愛仁会グループ検査部門研修会、事務部科（課）長研修会</p> <p>2月 平成31年度新人職員赴任説明会、愛仁会グループ産婦人科講演会・合同カンファレンス、第18回三法人経営塾成果発表会・修講式、第2回愛仁会学術集会、事務部部长・事務長研修会、第4回途中入職者研修会</p> <p>3月 第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会、定時社員総会、看護師特定行為研修修了式・修了報告会、2019年度愛仁会グループ管理職辞令交付式、2019年度愛仁会グループ合同辞令会、</p> |
|--|---|

プログラム～、福祉の就職総合フェア 2018 in OSAKA、第2回途中入職者研修会、第3回愛仁会グループ整形外科勉強会、臨地実習指導者講演会

8月 病院長・幹部職員セミナー、第9回愛仁会グループ外科勉強会、第18回三法人経営塾開講式

9月 看護師特定行為研修、臨時社員総会、新任科（課）長研修

10月 教育担当者研修 STEPⅢ、第1回三法人合同講演会、第2回愛仁会グループ臨床研修病院合同同窓会、第18回三法人経営塾中間発表、第12回愛仁会グループ消化器カンファレンス

11月 愛仁会創立60周年記念式典、愛仁会本部移転・業務開始

12月 第2回三法人合同講演会、第3回途中入職者研修会、事務部主任・副主任研修会、認知症サポーター養成研修

1月 愛仁会グループ検査部門研修会、事務部科（課）長研修会

2月 平成31年度新人職員赴任説明会、愛仁会グループ産婦人科講演会・合同カンファレンス、第18回三法人経営塾成果発表会・修講式、第2回愛仁会学術集会、事務部部长・事務長研修会、第4回途中入職者研修会

3月 第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会、定時社員総会、看護師特定行為研修修了式・修了報告会、2019年度愛仁会グループ管理職辞令交付式、2019年度愛仁会グループ合同辞令会、

2018 年度総括・2019 年度に向けて

第 61 期の愛仁会本部は下記の 9 点を中心として活動を行った。

- ①愛仁会本部の愛仁会地域ケアセンター（旧千船病院外来棟）への移転
- ②創立 60 周年記念事業
- ③特定医療法人蒼龍会との合併
- ④第 2 回愛仁会学術集会
- ⑤外国人技能実習生の受け入れ
- ⑥外部監査の始動
- ⑦エリアマネジメント
- ⑧急性期病院施設長会の開設
- ⑨人材育成の継続実施

まず、①については、以前から阪神電気鉄道と契約期間中である千船病院旧外来棟の空きフロアの利用方法を画策する中で、外来診療仕様を事務所仕様に改修するとかなりの費用がかかるため保留としていたが、固定費削減と遊休地活用の観点から、可能な限り現レイアウトのまま費用を最小限にするという方針で改修を行い、2018 年 11 月に愛仁会本部を大阪市北区豊崎の淀川 5 番館 4 階から西淀川区佃の愛仁会地域ケアセンター3 階へ移転した（資材部、医療情報部サーバーは従前のまま淀川 5 番館 5 階に存置）。

②については、各エリアでの記念行事と愛仁会本部での記念行事の 2 本に分けて企画を行うこととなり、後者について 2018 年 11 月に永年勤続表彰も兼ねた「創立 60 周年記念式典」をホテルニューオータニ大阪で開催し 851 名が参加した。また、60 周年記念リーフレットを作成し、職員への配布を行った。

③については、2008 年からの法人間アライアンス以後、合併の時期を模索してきたが、前年度に両法人の意思決定がまとまったこともあり、2018 年 4 月に合併 WG を立ち上げ、愛仁会・蒼龍会双方で事務手続きに着手した。その後、7 月に合併契約書の調印を行い、12 月に合併認可、2019 年 3 月に合併による定款変更が認可され、4 月から愛仁会井上病院他関連施設として新たな一歩を踏み出すこととなった。

④については、隔年での開催 2 回目となる法人全職種対

象の行事であり、2019 年 2 月に「人材育成と経営の効率化」をテーマに、愛仁会看護助産専門学校と愛仁会リハビリテーション病院を会場として開催された。対象者は現在の中堅層、将来の幹部候補、各部門において強化したい層を中心とし、868 名が参加して活発な討議が行われた。

⑤については、内閣官房主導のアジア健康構想・日越ヘルスケアブリッジに基づき、社会医療法人ペガサス及び社会医療法人生長会とハノイに「大阪 APS コンソーシアム介護スキルラボ」を開設、2018 年 6 月から 3 法人の講師を現地に月替わりで派遣し授業を開始した。また、定期的にコアメンバー会議を開催し、カリキュラムの改善や技能実習指導のレベル統一、また技能実習生受け入れに必要な体制整備やメンバーの資格取得を行った。第一陣は 2019 年 4 月に入国予定で、各法人に配属される。

⑥については、2017 年度の社会福祉法人（愛和会）に引き続き、本年度から社会医療法人においても三優監査法人による本監査が開始された。監査当初は各施設とも戸惑いがあり、指摘事項も多く時間のかかる結果となったが、年度末には収束し、大きな問題もなく終了した。来年度は新たに合併する蒼龍会の内部統制のレベル統一という大きな課題への対応と、これに加えて今年度指摘された問題点の解決と、施設間格差の是正に焦点をあてていきたい。

⑦については、各エリアでの主要病院の新築移転が落ち着いたこともあり、それぞれのエリアでの重要課題への取り組みが問題となる中で、2018 年 6 月に起きた大阪府北部地震、またその後続いた豪雨や台風の影響で、しんあい病院の建物が使用できないという状況となり、地域包括ケア病棟の運用を停止せざるを得ない状況に陥った。現在はしんあいクリニックの病床 19 床を 2019 年 1 月から再稼働させ、病院は外来診療のみを継続すると同時に、今後のしんあい病院の入院を再稼働する方策を検討していく。また、蒼龍会との合併、だいもつ地区施設の全面稼働に伴い、来年度からはエリアを千船、高槻、明石、吹田（現蒼龍会）、だいもつの 5 エリアに再編し活動を行うことになった。

⑧については、急性期病院の法人に占める位置づけが大きい中で、施設運営を行う上での課題等を相互共有する場として、また、施設運営をコントロールするための場として 2018 年 7 月から開催している。客観的に自院を見る上で数字を基礎にして議論を進めるために、生長会の田中理

事長を顧問として招いて広い視野をもった意見交換を行い、企画・医療情報の立場からは、数字をもとに経営に直結する提言を、また、人材開発の立場からは人事育成面での提言を頂き、施設運営に関する今後の方向性を考える場としていく。

⑨については、2017年度から開始された特定行為に係る看護師の研修を始め、2018年度から開始される新専門

医制度への対応、外部研修への積極的な参加支援を行った。その他、各診療科、各技術部の組織横断的なカンファレンス、勉強会の運営支援について、昨年度に引き続き実施した。加えて、タイ・サミティバート病院との相互交流及び診療支援を行うこととなり、南常務理事と高槻病院川上科長が現地に長期滞在し、病院の日本人病棟の開設及び、日本人受診者への対応を来年度から実施する。



## 総務・学術グループ（総務担当）

### ■スタッフ紹介

担当理事：西野昌光

統括部長：川本麻理子

部長：木田尚樹

課長：弓削順子

主任：西本享司

副主任：濱西 隼

課員：有馬麻紀，姥谷真裕子，田中葉月

### ■業務内容

法人創立 60 周年を迎え、法人の未来に向け職員の帰属意識が高まり、満足感のある取り組みを企画実行した。

創立 60 周年記念事業では式典及び創立 60 周年記念祝賀パーティーを企画・開催し、「愛仁会グループ創立 60 周年を迎えて～過去・現在・未来～」をテーマに各施設による動画・フォトムービーの上映、シンガーソングライター「STAYG(ステイジー)」による演奏を披露した。さらに、60 周年記念リーフレットも発行した。また、グローバル化に向け法人パンフレットを一新し、英語表記とスタイリッシュな挿絵を散りばめた。

各種規程・規約を改定した。理事会規程、就業規則の改定など前年度に続き法人ガバナンスの基盤となる規程を改定した。また、年次有給休暇の運用変更に伴い、新たに積立有給休暇規程を制定した。この他にも多くの規程を改定した。

コスト管理を強化した。水光熱費削減システムを導入拡大した。また、遊休地を活用するために愛仁会本部を愛仁会地域ケアセンター(旧千船病院外来棟)3階に移転した。

今期は特定医療法人蒼龍会との合併に向け、S&A 合併会議を組織し、合併に関する各種調整や認可申請手続きなどの合併前後の事務作業を滞りなく完遂した。

### ■2018 年度のトピックス・実績

#### 1. 諸規定の整備・見直し

○社員規約 (A-2)

○社員総会議事規程 (A-10)

○理事会規程 (A-11)，理事会規程実施細則 (A-12)

○理事職務権限規程 (A-14)

○本部管理部門組織規程 (A-15)

○稟議規程 (A-18)

○就業規則 (B-1)

○積立有給休暇規程 (B-01-1) の制定

○無期転換職員の定年に関する取り扱いについて (B-01-2) の制定

○嘱託職員規程 (B-9)

○職員健康診断管理規定 (B-11) の廃止

○職員健康診断実施規程 (B-11) の制定

○リフレッシュ休暇実施規程 (B-26) の廃止

○非常勤職員規程 (B-28) の制定

○安全衛生管理規程 (B-29) の制定

○出張規程 (C-1)

○社宅規程 (F-4)，社宅規程第 11 条に基づく住居提供の細則 (F-4-1) の制定

○総合職認定制度 (F-14)

○親愛会運営細則

#### 2. 高額医療機器の導入・機器保守の契約（年額）

納入価 500 千円以上の医療機器の導入。年額 500 千円以上の機器保守の契約(機器は 3,000 千円以上の機器を記載)。

○千船病院

高額医療機器 1 品目 12,800 千円 (値引率 54.3%)

○高槻病院

高額医療機器 5 品目 32,150 千円 (値引率 37.0%)

機器保守契約 1 品目 840 千円/年

○明石医療センター

高額医療機器 2 品目 24,900 千円 (値引率 72.9%)

機器保守契約 3 品目 12,200 千円/年

#### 3. 施設広報誌の編集作業支援体制の構築

○Office365 の活用

- ・アイワタイムスや各施設広報誌を Office365 の愛仁会ポータルサイト上で閲覧可能にした。
- ・行事等で撮影した写真を Office365 の OneDrive に保存、各施設と共有することで、施設内広報誌等で活用できるようになった。

○法人パンフレットリニューアル

#### 4. 法人内合同カンファレンスの支援

##### ○産婦人科

- ・愛仁会産婦人科委員会事務局として支援 全2回  
(2018/5/24・2019/2/20)
- ・愛仁会グループ産婦人科講演会・合同カンファレンス  
開催支援 (2019/2/20)

##### ○消化器内科

- ・愛仁会消化器カンファレンス世話人会の開催 全2回  
(2018/6/2・10/27)
- ・第11回愛仁会消化器カンファレンス開催支援  
(2018/6/2)
- ・第12回愛仁会消化器カンファレンス開催支援  
(2018/10/27)

#### 5. 経費削減・遊休地の活用

##### ○水光熱費削減システムの導入

- ・介護老人保健施設ユアアイ (2018.6)
- ・愛仁会リハビリテーション病院 (2018.6)  
※追加導入
- ・尼崎だいまつ病院 (2018.12)
- ・愛和会ローズコミュニティ緑地 (2018.12)
- ・明石医療センター (2019.2)

##### ○愛仁会本部移転

経費削減・遊休地活用の観点より、2018年11月23日に愛仁会本部を移転した。

##### 【解約物件】

- ・淀川5番館4階 (大阪市北区豊崎3丁目2番1号)
- ・淀川5番館地下1階 (倉庫)

##### 【移転先】

- ・愛仁会地域ケアセンター (旧千船病院外来棟) 3階  
(大阪市西淀川区佃2丁目2番46号)

##### ○常務会・理事会資料のペーパーレス化

法人重要会議資料のペーパーレス化により事務作業効率が飛躍的に向上し、議案内容の精度向上に寄与した。

#### 6. 創立60周年記念事業

##### ○記念式典

開催日時：2018年11月3日 (土・祝)

14:00~19:00

場所：ホテルニューオータニ大阪 2階「鳳凰の間」

参加人数：851名

##### ○60周年記念リーフレット・新法人パンフレットの作成・配布

#### 7. 特定医療法人蒼龍会との法人合併

##### ○S&A 合併会議の開催 全12回

法人合併に関する進捗状況の確認と協議を行い、認可承認申請の準備、申請、登記等の手続きを滞りなく行った。

#### 8. ハラスメント防止対策の強化

##### ○21世紀職業財団主催研修会の受講 (2018/5/25・7/3)

##### ○管理職対象ハラスメント防止対策研修会開催

開催日時：2019年2月23日 9:00~12:00

場所：さぼてん広場

##### ○愛仁会グループハラスメント対策委員会開催

(2018/7/23)

#### 9. その他

##### ○法人定款変更手続

- ・おかじま病院閉院、杏和総合医学研究所閉所、千船病院  
附属千船腎臓透析クリニック名称変更、ケアプランセン  
ター愛仁会ひめじま住所変更 (2018/4/20)
- ・社会医療法人愛仁会本部、訪問看護ステーションほほえ  
み、ヘルパーステーションちぶね、ヘルパーステーシ  
ョン愛仁会高槻、ケアプランセンターちぶね、総合相談窓  
ロアイの住所変更、大阪府保健医療計画から大阪府医療  
計画への文言変更 (2018/6/22)
- ・ヘルパーステーション愛仁会高槻の住所変更 (※6月に  
認可を受け移転予定であったが、大阪府北部地震により  
移転取り止め。それに伴う再移転手続き)、附帯業務で  
海外における医療の普及又は質の向上に資する業務の  
追加 (2018/9/27)

#### ■今後の展望

- ・2019年4月から順次施行される働き方改革に対応しき  
まざまな能力や価値観を持つ職員の多様性を尊重しつつ  
組織としてのまとまりが持てるよう「共通言語の創造」の  
場として総務部主催行事や取り組みを実施する。
- ・2019年10月に実施される消費税増税により、法人全体  
で約3億円の増税が見込まれている。この増税に対応する  
ために経費節減も強化する。各施設で取り組むと同時に、  
本部として共同購入や遊休地の活用、設備保守料の見直し  
等に取り組む、経費節減、冗費節減を行う。
- ・「タイ王国サミティベート病院との提携」、「ベトナム国  
技能実習生の受け入れ」等の愛仁会のグローバル支援を行  
う。

## 総務・学術グループ（学術担当・人材開発センター）

### ■スタッフ紹介

担当理事：南 宏尚

統括部長：川本麻理子

課長：車田絵里子，弓削順子

課員：田岡彩子，西川夢乃

### ■業務内容・2018年度のトピックス・実績

#### 1. 研修会

##### 1) 入職時研修

新卒入職者 373 名が受講した。今年度より講義内容に「地域包括ケアシステム」を追加し、これからの地域医療・介護連携を考える場とした。さらに初の試みとして、入社式・研修会の冒頭に愛仁会グループ 60 年の歴史を振り返る DVD を上映した。愛仁会創設者の想い、理念・モットー、愛仁会グループの発展等を印象的な音楽とともに観ることで、愛仁会グループの一員となる期待感が更に高まったと好評を得た。また、途中入職者研修会を計 4 回開催し 219 名が受講した。今年度より開始時間を 15 分繰り上げ 17 時で終了とするようプログラムを再編、受講者の負担減となるよう配慮した。

##### 2) 三法人経営塾

昨年に引き続き対象を医師から管理職全般に拡大し、合同講演会として開催した。第 1 回は医療法人社団洛和会総長 松村理司先生に「医学教育について」、第 2 回は東埼玉総合病院 地域糖尿病センター センター長 中野智紀先生に「地域包括ケアについて」講演いただいた。愛仁会より第 1 回 27 名、第 2 回 30 名が参加した（幹事法人淀川キリスト教病院）。事務・コメディカル経営塾は、経営視点の醸成に加え人材マネジメントに重点を置き、リーダーシップスタイルを習得する内容で開催した。個人課題には中長期の環境変化を踏まえた提言を求め、ベンチマークやフィールドワークを必須とした。

#### 2. 職種別学術活動支援

##### 1) 診療部

第 2 回愛仁会グループ臨床研修病院 3 施設合同同窓会（10/13）を開催した。初期臨床研修医 OB・現初期研修医・指導医計 149 名の参加を得た。また、臨床研修医（7/1，3/2），専攻医（6/3）の病院説明会における採用活動を支

援した。専攻医は新専門医制度の登録スケジュールにのっとり、千船病院 4 診療科・高槻病院 6 診療科・明石医療センター 3 診療科が基幹プログラムとして 10 月からの専攻医の募集を行った。千船病院（内科，小児科，産婦人科，麻酔科）の登録数は 11 名，高槻病院（内科，小児科，外科，産婦人科，麻酔科，病理科）の登録数は 11 名，明石医療センター（内科，麻酔科，総合診療科）の登録数は 3 名であった。その他，第 3 回愛仁会グループ整形外科勉強会（7/28），第 9 回外科勉強会（8/4）の開催を支援した。

##### 2) 技術部

愛仁会グループ管理栄養士協議会（4/26，6/14，8/26）の開催を支援した。人材育成を最重要課題とし、経験年数 5 年未満の職員を必須対象とした研修プログラムの検討がなされた。次年度より導入予定である。また、施設横断的かつ体系的に診療放射線技師の人材育成を行っていくことを目的に、放射線部門関係者による検討会を開催（5/30），検討会の様子が 7 月度理事長メルマガにて配信された。次年度より合同勉強会を開催予定である。

##### 3) 事務部

事務部期首講演会（4/21）を開催した。大学院修了報告・新規入社社員の抱負・局長講演会「愛仁会の現状と私たちの進む道」の三部構成とし、愛仁会グループ事務系副主任以上 182 名が参加した。他，主任・副主任研修（12/15）テーマ：「あなたは影響力を持っていますか（講師：畑壱クロスマネジメント 畑壱義雄先生）」参加者 117 名，科（課）長研修（1/26）テーマ「管理職に求められる経営管理の基礎知識（講師：三優監査法人会計士 米崎直人氏）」参加者 41 名，事務部長・事務長研修（2/23）はハラスメント研修（講師：21 世紀職業財団 中崎郁子氏）と BCP 策定研修（講師：SOMPO リスクマネジメント会社 星野智史氏）の二部構成とし，36 名の参加を得た。

保育部門は，合同研修会 1 回，基礎講座 8 回の計 9 回を開催支援した。さらに，新たな試みとして，全 13 回の「保育士対象話し方教室（講師：言の葉 OFFICE かのかん 川邊暁美氏）」を開催した。さまざまなシーンで信頼が得られる「伝わる声と話し方」を習得し，関係者との良好な関係性構築と良質な保育の提供に繋げることを目的としたもので，副主任以上 11 名が参加した。

#### 4) 全職種対象

第2回愛仁会学術集会(2/9)を開催した。テーマを「人材育成と経営の効率化」とし、「医療の質に関わるあたりまえ(標準化)とは何か」、「これからの愛仁会を担う若い世代の人材育成」について学術的に知見を深める集会となることを目標とした。プログラムは、①理事長による特別講演、②部門別セミナー、③ランチョンセミナー、④全部門対象シンポジウム、その他認知症サポーター養成講習で構成、対象者を「現在の中堅層・将来の幹部候補」、「各部門において強化したい層」とし、868名が参加した。

#### 3. 学会発表・論文投稿

第68回日本病院学会(6/28~29)は28題、第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会(3/2)は18題の発表を行った。

『愛仁会医学研究誌 Vol.50 2018』は原著1題、症例報告12題、短報11題、教育1題、紹介19題、特別寄稿1題、計45題の掲載を予定している。

#### 4. 広報活動

『年報2017』より愛和会高槻地区、老健だいまつを追加した。今期より媒体を冊子から愛仁会ポータルサイトへの掲載に変更、利便性を高めた。また、学術人材開発Facebookが愛仁会ポータルサイトから閲覧できるよう設定した。さらに、愛仁会本部受付へデジタルサイネージを設置、愛仁会グループのイベントやトピック等の情報を上映し、来客者にご覧いただけるようにした。

#### 5. 学術人材開発センター関連規定整備

学会出張規程を廃止、公務出張規程に統合の上「出張規程」として改定、学会出張に関しては細則を制定した。まず、海外学会出張を法人決裁から施設決裁とし、海外学会出張にかかる費用をアジア15万円、欧米25万円を上限

とした。次に、申請資格を在籍1年以上としていたが、中途入職者が増加していることを鑑み廃止した。さらに交通費・宿泊料の等級を職階から職位に変更、出張手当を廃止、食費として規程上限金額内で実費支給とし、今年度より運用とした。また、高槻病院における文部科学省科学研究費機関申請に対し、研究機関基準に基づき旅費の事実確認として航空機利用の証憑に関する文言を追加した。職員研修規程についても、規程文言の簡素化、研修申請の簡便化、研修履歴のデータ管理を課題として引き続き取り組んでいく予定である。

つづいて、管理職及び幹部候補生の早期育成を目的とした総合職認定制度(最終2015年改定)をより有効活用するため、①総合職人事権所在の明確化(事務局長)、②転属猶予期間の設定(総合職任命から3年間)、③総合職育成管理体制の明確化(所属施設事務部長及び事務長と人材開発センターが関与)、④早期の能力開発機会の確保(勤続3年以上から受験可)と任命期間上限の設定(8年を上限とする)、⑤認定試験の透明化(プレゼンテーション試験を受験者参加型とする)、以上の制度改定を行った。

#### 6. 国際交流の推進

ベトナム国ハノイ大学学長推薦を受けた候補生から、「技術・人文知識・国際業務」区分での在留資格を有する人材を、今後の国際的事業支援に関わる人材として採用した。

#### ■今後の展望

若手職員の学術活動を積極的に奨励・支援するとともに、抄録や愛仁会医学研究誌著者・査読者のレベル向上を図る。また、ベトナム国人材を介し、愛仁会グループにおける国際的事業支援を展開していく。

## 企画部・医療情報グループ（企画担当）

### ■スタッフ紹介

担当理事	: 伊藤成規
統括部長	: 中村達也
部長	: 榊 政重
課長	: 荒尾雅一
部員	: 上田桃子

### ■業務内容

#### 1. 第3期中期事業計画の策定

2019年度から2020年度を期間とした中期事業計画の策定のため、8月下旬に第2期中期事業計画の検討会と第3期中期事業計画の策定の説明会を開催した。対象は、千船病院（千船クリニック含む）、高槻病院、明石医療センター、愛仁会リハビリテーション病院、尼崎だいもつ病院、井上病院、健診部門とした。

策定された中期事業計画は、第30-08回理事会に諮り、承認された。

#### 2. 愛仁会グループ臨床検査部門協議会の設立

杏和総合医学研究所の閉所に伴い、急性期病院の検査科長を中心とした臨床検査部門協議会を発足させた。全法的な臨床検査体制により、検査技術の発展向上のため、適正な原価管理及び愛仁会グループに属する各施設間の連携と相互理解を深めることを目的に掲げた。

協議会の運営機関として、人事・資材委員会、学術・企画委員会、総務委員会を置き、検査部門として一体的な取り組みを行う体制を確保した。

今年度を実施した事業として、試薬資材の購入申請の統一化、精度管理ワーキンググループの立ち上げ、第9回愛仁会臨床検査部門研修会の実施、初めての臨床検査部門内部監査の実施が挙げられる。

#### 3. 井上病院へのFMS導入

井上病院の課題であった検査機器の老朽化に対応すべく、臨床検査のFMS（Facilitate Management System）方式を導入した。機器の更新、保守、修理に要する費用を包括的な契約にまとめることで、合理化を図った。

#### 4. 急性期3病院の重症度、医療・看護必要度の分析

看護必要度の乖離を分析するにあたって、対象期間を2018年4月から9月の6か月間とし、千船病院、高槻病院、明石医療センターの急性期3病院における、看護必要度ⅠとⅡの実績値の比較を行った。

高槻病院の看護必要度Ⅰが低値で、またⅠとⅡの乖離が大きいため、改善対象を高槻病院とした。分析の結果、高槻病院の看護必要度ⅠとⅡ共に、入院日1日目と2日目の看護必要度が低値であることが判明した。そのため、この2日間にフォーカスして、病棟別にA項目とB項目の割合を算出し、低値を引き起こしている要素を抽出した。施設にその結果を報告するとともに、低値を引き起こしている要因を探ってもらった。

分析結果を法人の看護部長会でも説明する機会を得て、看護必要度そのものへの理解を深めてもらうとともに、看護必要度が低値になるメカニズムを共有した。

#### 5. 消費税引き上げに伴う2019年度診療報酬改定の影響度

2019年10月の消費税引き上げに伴う診療報酬改定の影響度を、施設別に取りまとめた。財務部がシミュレーションした消費税の増税分との差額を算出した。

診療材料の割合が大きい急性期病院では、消費税の増税分が吸収しきれない施設もシミュレーションの結果で判明した。診療材料の選択・購入・在庫等に改善の余地がある。急性期病院施設長会にて、診療材料の適正化について議論を深めていき、具体的なアクションプランの構築までに繋げていきたい。

## 企画・医療情報グループ（医療情報担当）

### ■スタッフ紹介

担当理事 : 川口理作  
部長 : 榊 政重  
副部長 : 榎村忠浩（7月入職）  
千船地区 : 二上宏和（主任）、稲邑陽平、段野香苗  
高槻地区 : 吉岡 謙（主任）、森岡大貴（主任）  
土井善弘、三上 岳、山田夕子  
明石地区 : 六車直樹（課長）、三木紗知世（副主任）  
前岡瑞希、藤澤かれん  
だいもつ地区 : 渡邊謙太（課長）  
本部 : 田中信吾（課長）、豊永 健（主任）  
小西弘晃（副主任）  
内藤優美（副主任・休職）、鳴尾 瞳

### ■業務内容、2018年度のトピックス・実績

#### 1. 各施設 IT システム運用・管理

診療報酬同時改定については問題なくシステム対応を完了した。また、クラウド型電子カルテの品質改善に継続して取り組んだ。11月にはフェーズ1と呼ばれる大規模な修正資源の適用を行った。高槻病院においては重症部門システムのサーバリプレイスを行った。明石医療センターにおいては、手術部門システムの改修及び放射線画像入出力装置の更新を行った。本部においては蒼龍会との法人合併に伴うシステム面での対応準備、本部移転に伴う業務システム及び法人イントラネットの再構成を行った。

Waiwai コミュニティあいわ、あいわクリニックの新規開設施設についてもインフラ整備やシステム整備の支援を行った。各施設のヘルプデスク業務では、全体で 3,859 件の問い合わせに対応した。

#### 2. 専門資格取得支援

国家資格である情報処理技術者試験と専門資格である医療情報技師の受験支援を行った。結果は下記のとおりである。

##### ○IT パスポート試験

受験者数 20 名中 12 名合格、合格率 60.0%（全国 53.1%）

##### ○基本情報技術者試験

受験者数 3 名中 0 名合格、合格率 0.0%（全国 22.9%）

##### ○応用情報技術者試験

受験者数 1 名中 0 名合格、合格率 0.0%（全国 23.4%）

##### ○医療情報技師

受験者数 7 名中 1 名合格、合格率 14.3%（全国 34.4%）

##### ○上級医療情報技師

受験者数 1 名中 0 名合格、合格率 0.0%

（全国一次 10.5% 二次・旧制度 26.8%, 新制度 100.0%）

#### 3. 医療法人制度改革対応

財務監査（IT 内部統制）で指摘を受けたユーザ ID 管理等の事項について運用・体制やルール、システム設定等を見直し適正な管理体制へと改善を図った。

#### 4. データ活用機能の拡充

部門別再検討会を開催し、部門別の見直しを行った。急性期病院施設長会に見直し方針を報告し、部門別の再構築を行った。また、BI（Business Intelligence）分析画面の拡張に取り組み、機能拡張として予定していた画面の実装を概ね予定通り完了した。

#### 5. IT 活用による働き方改革の推進

昨年度更新した Office365 の利用拡大と促進を行った。愛仁会ポータルサイトのコンテンツを充実させ、活用の場を広げた。一部の部署では Web 会議の検証が始まった。また、アイワタイムスで毎月新たな使い方を紹介した「医療情報便り」は親しみやすく分かりやすいと好評であった。

#### 6. その他

昨年度に引き続きメール訓練を実施した。また、広域大学連携科目「多職種協働グループワーク実践論」に講師協力した。

### ■今後の展望

まずはクラウド型電子カルテの品質改善・満足度向上を早期に達成する。また、IT 投資対効果の最大化と IT 資源の適正配置についてゼロベースでの検討を行う。さらに、在宅や介護分野の IT 化を促進する。働き方改革への対応として IT を活用した支援を行い、新たな働き方の創出や多様なコミュニケーションの提供にも取り組む。最後に、BI の活用を促進し、データ活用力の強化と経営の質向上に資する経営支援データの提供に取り組む。

# 人事グループ・障がい者雇用推進室

## ■スタッフ紹介

担当理事：家永徹也

部長：橋 宗一郎

課長：坂井邦彦，森田実千代

主任：山本宗一郎

副主任：引地大祐，永谷いずみ，菅原隆志

職員：栩野朝香，竹岡友美，神例亜実，佐々木彩乃

樋口潤哉，富田有莉，小畑陽平

## ■業務内容

### 1. 第61期人件費

第61期は、総人員数が4,813名となり、前年対比で85名（1.8%）の増加の結果、総人件費は、33,085,692千円と前年対比で約15.6億円（4.9%）の増加となった。人件費率は退職金除きで53.1%から54.8%と今期も微増となった。総収入が、対前年比で2.4億円（0.4%）の微増であったが、人件費の増加が4.9%となり、人件費率が1.7%の悪化となった。

2018年4月の定期昇給では、4,362名に対して基本給総額1,093,948千円となり、改定率は1.6%と概ね例年通りであった。

賞与は、年3回（うち1回は人事評価特別賞与）支給を行い、総額4,726,632千円となった。常勤職員の賞与支給対象者が457名増となり、賞与支給総額で前年比5.2%増となった。

### 2. 人材の確保

新卒採用者は349名、年度入職は、愛仁会が682名、愛和会50名の合計732名、年度退職は、愛仁会465名、愛和会50名の合計515名であった。

新卒採用活動では、全職種合わせて外部就職説明会参加8回、養成校学内説明会参加37校、法人就職セミナー26回、選考試験32回を行った。

### 3. 福利厚生

海外研修旅行は、今期は収益の状況を鑑み延期とした。永年勤続表彰は表彰対象者数246名、表彰金額は32,950千円となった。

## ■2018年度のトピックス・実績

### 1. 蒼龍会との事業統合の推進

2019年4月の事業統合に向けて、給与制度の統一・統合を推進し、人事上の課題解決に向け説明会や個別対応を実施した。また、2018年3月に閉鎖した杏和総合医学研究所の人事対応、地震・風水害により縮小運営となった、しんあい病院の人員配置の見直しを進めた。

### 2. 産学協働型授業への参加

昨年度に引き続き学生向けに「医療×AI 未来の病院を考えよう」のテーマで医療情報部の協力の下グループワークを行い、学生から好評を得た（武庫川女子大学・大阪薬科大学・大阪電気通信大学・藍野大学・森ノ宮医療大学広域授業、33名参加）。

また、広島国際大学からのインターンシップの実施に加えて、横浜市立大学の学生を受け入れ、医療経営の実態について法人各施設での見学・説明を通じて学習の機会を提供するプログラムを開始した。昨年度の受講生は、法人就職にも至っている。

### 3. 障がい者雇用推進センターの設置

障がい者雇用推進センターに改組し、障がい者雇用の促進を図るとともに、ジョブコーチによる法人内での障がい者雇用支援を継続的に実施し、障がい者雇用の定着を図った。

## ■今後の展望

### 1. 働き方改革関連法改正への対応

2019年から実質的に施行される働き方改革に対応して、長時間労働、有給休暇取得に向けた制度改定を行ったが、医師の働き方改革をはじめ課題も多く継続的に見直しを行う。

### 2. 健康保険組合の設立準備

健康経営の一環として、健康保険組合の設立に向けて準備を進めている。2021年4月設立を目指し、関係部門と調整を行っていく。

# 財 務 部

## ■スタッフ紹介

担当理事	： 松原正明
部長	： 公文和彦
課長	： 西田智香
主任	： 前田侑希
職員	： 幡谷美奈
職員	： 中澤彩美
職員	： 若槻くにこ
職員	： 東郷邦博
職員	： 木下亜樹

## ■部署概要

2018年度に取り組んだ主要な事業は次のとおりである。

### 1. 業務管理の徹底

#### ①必要利益の確保

2018年度は決算整理前での減価償却前利益予算 28 億円確保を目指して業務管理に取り組んだ。上半期においては、法人全体の経費削減案の提示及び千船・高槻のエリア別の予実管理を中心に管理した。下半期においては、今期の着地予測及び将来的な資金繰予想表を作成し、管理に努めた。結果として、決算整理前での収入予算消化率 100.9%、事業利益予算消化率 130.9%、減価償却前予算消化率 136.0%、減価償却前利益額 38 億円となり、年度当初の目標は達成した。一方、税金や人件費等の決算整理後の減価償却前利益は 26 億円であった。今後の課題として、次年度からの消費税増税及び 2021 年度からの本格的な借入金の返済を見据え、早期に返済資金の蓄えとして法人の現・預金 100 億円の確保を目指す必要がある。次年度からは、蒼龍会との合併により、法人の規模もますます巨大化する中で、引き続き利益面における予実管理を慎重に行う。

### 2. 運営管理システムの充実

#### ①コンプライアンス強化対策

2018 年度 6 月より千船病院をはじめ、明石医療センター（7 月）、愛仁会リハビリテーション病院・スローライフおかじま・高槻病院（8 月）、愛仁会総合健康センター・しんあい病院（9 月）、愛仁会看護助産専門学校（10 月）、介護老人保健施設ケアアイ・カーム尼崎健診プラザ（11

月）、介護老人保健施設ユーアイ（12 月）、社会福祉法人愛和会豊中地区（1 月）、社会福祉法人愛和会宝塚地区（2 月）の内部監査を実施し、外部監査対策及び内部牽制が機能するよう指導を行った。次年度からは旧蒼龍会の各事業所についても内部監査を実施し、各施設の経理レベルの標準化及び質の向上を目指していく。

#### ②外部監査受監対応

本年度は外部監査受監の年であり、リスク評価（7 月～9 月）、中間決算監査（11 月）、期中監査（10 月～12 月）、期末決算監査（3 月～5 月）を法人全施設で受監した。前年度に受監準備を行ったことにより標準的レベルまでは到達でき、監査法人から「無限定の監査意見」を得られることができた。但し、発生主義の徹底や債権管理及び現物管理の強化、また経理担当者能力の向上が課題として指摘された。今後、担当者及び上席者に向けた研修会を実施し、法人内の外部監査に対する意識及び理解を浸透させていくことが最重要と考える。

## ■近況データの提示及び統計データの説明

### 2019 年度予算

医業収入 前期実績比 118.0%

事業利益 前期実績比 174.9%

次年度は蒼龍会との合併により、医業収入予算 63,481 百万円、前期実績比 9,700 百万円（前年実績比 18%増）の増収を見込む。他方、人件費は 13.2%増、一般管理費は 17.8%増が見込まれ、事業利益予算は前期実績比 1,614 百万円増の 3,769 百万円となるが、減価償却費は 4,505 百万円を見込み、経常利益予算は 283 百万円のマイナス予算となる。

## ■今後の展望

2019 年度は、蒼龍会との合併、尼崎だいもつ病院の全病床フル稼働により大きな増収を期待する年度である。一方では、消費税の増税も予定されているが、法人全体としては 2018 年度と比較した場合、増収・増益が見込まれる。借入金の返済資金確保のために、事業利益の予算必達が最重要事項となるため、各施設の理解と協力の上、財務部としても健全な管理に努めていきたい。



表. 愛仁会 収支実績推移

(単位: 千円, %)

	第57期		第58期			第59期			第60期			第61期		
	(2014年度)	構成比	(2015年度)	構成比	前年比	(2016年度)	構成比	前年比	(2017年度)	構成比	前年比	(2018年度)	構成比	前年比
医業収入	34,130,235	100.0	35,750,694	100.0	104.7	51,292,406	100.0	143.5	53,275,445	100.0	103.9	53,784,215	100.0	101.0
診療原価	6,442,867	18.9	6,999,753	19.6	108.6	12,243,250	23.9	174.9	12,877,304	24.2	105.2	11,158,876	20.7	86.7
人件費	19,536,079	57.2	20,455,716	57.2	104.7	27,846,523	54.3	136.1	28,643,201	53.8	102.9	30,630,127	57.0	106.9
一般管理費	6,193,490	18.1	6,610,617	18.5	106.7	8,765,910	17.1	132.6	10,091,616	18.9	115.1	9,839,686	18.3	97.5
事業利益	1,957,799	5.7	1,684,608	4.7	86.0	2,436,723	4.8	144.6	1,663,324	3.1	68.3	2,155,526	4.0	129.6
医業外収入	741,060	2.2	747,367	2.1	100.9	1,092,899	2.1	146.2	1,309,879	2.5	119.9	1,058,580	2.0	80.8
医業外費用	321,411	0.9	350,579	1.0	109.1	600,483	1.2	171.3	609,654	1.1	101.5	596,206	1.1	97.8
償却前利益	2,377,448	7.0	2,081,396	5.8	87.5	2,929,139	5.7	140.7	2,363,549	4.4	80.7	2,617,900	4.9	110.8
減価償却費	1,232,315	3.6	1,526,772	4.3	123.9	2,792,822	5.4	182.9	4,283,810	8.0	153.4	4,780,958	8.9	111.6
経常利益	1,145,133	3.4	554,624	1.6	48.4	136,317	0.3	24.6	-1,920,261	-	-	-2,163,058	-	-

# 資 材 部

## ■スタッフ紹介

資材担当理事 大石哲也

資材部部长 西川直樹

課長 斎藤直美

(千船) 上田愛果, 村上 遥, 森下勤子

(高槻) 山口美裕記, 辻 まなみ, 新田 瞳,

中村満宏, 佐竹 陸

(本部) 森 あかね, 攝津耕平, 上畑嘉子, 山脇由子

## ■業務内容

### ① 医薬品・診療材料・検査試薬に関して

・発注 (医薬品 - 本部, 材料 - 施設), 入庫, 及び請求業務

### ② マスター管理

・新規採用品のマスター作成, マスター管理, 特定保守管理医療機器・毒劇物の帳簿管理

### ③ 資料作成

・実績表, 新規採用申請書の意見処理, 高薬価医薬品及び高額診療材料の差異調査, 価格交渉用分析資料, 見積依頼資料, 施設要望資料

### ④ 値交渉

・差益率の維持確保 (販売メーカー変更による値交渉, 償

還段階価格変更に対する値交渉), 購入額削減の検討 (使用量増加, 使用施設増加に対する値交渉)

・新規施設分の在庫金額確定等に関する薬品・診材の値交渉

・薬品妥結: 9月末日.

⑤ 薬品・診材システムの安定稼働

⑥ 委員会開催 (法人薬事委員会, 法人診材委員会)

## ■今後の展望

2018年度は薬価, 診療材料償還価格の改定が行われた。薬価はこれまでに大きく引き下げられたため値引率から言えば昨年度より悪くなった。診療材料償還価格は薬価のように大きく引き下げられなかったため値引率は大きく変化がなかったが, 材料費の上昇は各施設の大きな課題の1つである。しかし値引交渉を順次行っている。単品単価交渉だけでなく総値引き, 数量値引き等後値引きも併せて交渉している。薬価, 償還価格は2019年度には消費税改定, 2020年度は定期の改定と1年間に2回改定が行われる。その対応に追われる1年になる。また, 薬品の値引きが限界に近付いているため2019年度は帳合の変更を行う予定である。

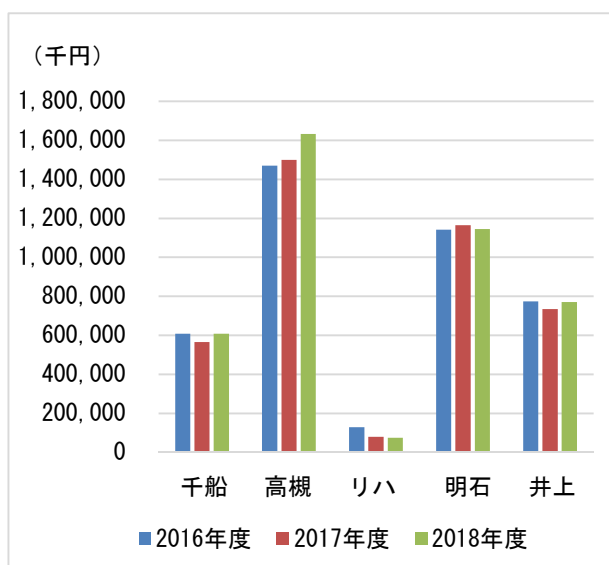


図1. 医薬品購入額

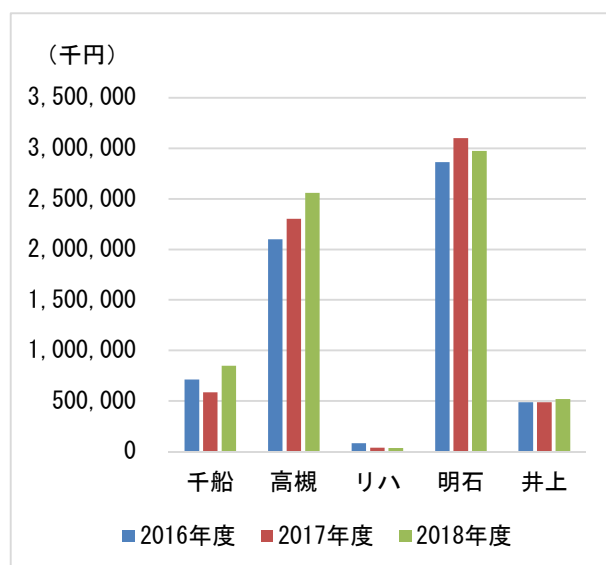


図2. 診療材料購入額

# 看護部

## ■スタッフ紹介

看護統括部長：井上裕美子

看護部長：作山美香

訪問看護担当看護部長：竹歳鈴子

副看護部長：倉本孝子

事務：牧野智香

## ■業務内容

法人グループ看護組織は「地域共生社会」の実現に向けた医療・介護の取り組みとして、4つの柱（経営参画・看護の専門性と質・地域連携の強化・キャリア開発支援）に基づき、主管会議及び諮問委員会で事業を実施した（表1）。

## ■2018年度のトピックス・実績

1. 地域完結型にシフトした医療提供体制の仕組み作りが求められる中、トータルヘルスケアを展開する当法人の強

みを活かした連携強化を図ることが重要である。そのためには、次世代を担う人材の育成が急務である。第2回愛仁会学術集会では、中堅看護職を対象に256名が参加した。

2. 副看護部長会において法人看護部における看護師ラダーシステムを整備する事業を展開した。愛仁会グループ看護職員能力開発ラダー（クリニカルラダー）に着手した。

3. 人事交流制度においては21名が対象となり異動した。

4. 看護職の役割拡大が急速に進む中、看護師特定行為研修事業は3期目を迎えた。新たにろう孔管理と長期呼吸管理を追加した。

5. その他実績は表2～4に示す。

## ■今後の展望

法人内のあらゆる場において活躍できる人材の育成とその体制作り及び次世代を担う看護管理者の育成が重要である。

表1. 看護部事業

看護部長会	人事交流システム運用推進と評価 コンピテンシーモデルの活用推進 看護師特定行為研修修了者の活用
副看護部長会	法人看護部における看護師ラダーシステムの把握と整備
医療安全管理室長会議	61期休止
介護福祉施設療養・援護科長会	介護管理者のキャリアパスの構築
助産師活動の充実強化を考える会	子育て支援体制の確立
訪問看護活動の充実強化を考える会	キャリアパスの標準化
特定看護師の活動検討会	特定行為実践における安全性の確保及び活動の充実
看護基礎教育と臨床現場のユニフィケーションの充実強化を考える会	実習指導者の指導力向上のための研修企画・実施・評価
愛仁会学会実行委員会	学会運営の推進

表2. 看護師特定行為研修修了状況

研修コース	呼吸管理	創傷管理	透析管理	栄養水分管理	血糖コントロール	循環動態管理	皮膚損傷管理	ろう孔管理	長期呼吸	合計	認定区分総数(名)
1期(2016)	3	3	3	2	2	2	3			18	18/12名
2期(2017)	1	2	1	3	3	2	0			12	12/11名*
3期(2018)	3	3	0	7	2	0	0	2	3	20	20/11名
計	7	8	4	12	7	4	3	2	3	50	50/32名

\*1名は3期連続受講

表3. 資格取得者と研修修了者

[資格取得・進学]

分野	人数(名)
認定看護管理者	1
専門看護師	0
認定看護師	2
大学院	1

[研修修了者]

研修名	人数(名)
新人看護職員臨床研修	184
新人看護職員臨床研修 教育担当者研修	33
専任教員養成研修	2
教務主任養成講習会	0
実習指導者会	13

表4. 法人看護部主催 学会・研修会

学会・研修会名	開催日	参加者数(名)
愛仁会グループ看護・介護管理者期首研修会	5/26	351
看護・介護管理者(主任)研修会	10/20	152
教育担当者研修STEP I	12/8	77
教育担当者研修STEP II	9/8	40
教育担当者研修STEP III	10/6	33
第1回臨地実習指導者研修会	8/3	36
第2回臨地実習指導者研修会	12/15	36

## 介護福祉事業部

### ■スタッフ紹介

担当理事：山本欣宏

統括部長：坪 茂典

部長：川上直美

主任：木島慶一，巽 史郎

2019年2月～：木村善勝

### ■2018年度の実績

2018年は、医療・介護・障がいの同時改定の年であり情報収集と柔軟な対応に向け各施設で取り組みを行った。

老健の課題であった超強化型老健(老健5機能区分の最上位)を4月ユアアイ・ケアアイ・しんあい、5月つくも、7月きんもくせい取得、基本加算型を4月だいもつ、10月ひまわりが取得した。通所系サービスは、マイナス改定に加え6月の大阪府北部地震や9月の台風の影響もあり苦戦した。訪問看護における訪問リハビリテーションは定期的な看護の同行訪問等により苦戦した。

介護福祉施設事務部長・事務長会では、2016年から2017年までの中期計画の評価と2018年から2020年までの介護報酬改定対応を見据えた3年間の中期計画を策定した。また、大規模災害における対応についてBCP策定の紹介、各事業所でのマニュアルの整備・対策について検討した。

2019年3月にケアプランセンター管理者会を開催し、管理者の顔の見える関係作り、意見交換、業務内容の整理、マニュアルの整備と特定事業所加算IV取得に向け着手する機会となった。また、ヘルパーステーション全事業所管理者と面談を行い、登録ヘルパー等採用の課題や処遇について人事部との調整に繋がった。

### ■各エリア実績

#### 1) 千船・おかじま地区での実績

ケアプランセンターひめじまは4月千船病院内に移設し、ケアプランセンター千船病院として医療と介護の連携拠点として稼働した。デイサービスセンターなごみは、認知症利用者受入態勢の強化、リハビリの充実・環境改善を行い、12月定員を35名から30名に変更し収支状況の改善を図り良好に推移している。

在宅部門においては、改定の影響と各事業所での人員確保に苦戦し、低調な結果となった。

スローライフおかじまは入所者確保のため、ショート利用を促進した。デイサービスセンターおかじまは、通所リ

ハビリテーションさくら廃止に伴い、利用定員を地域密着型18名から4月1日付けで30名に転換して運用できた。また、訪問診療との連携体制が整った。

#### 2) 高槻地区での実績

健康センター附属デイサービスセンターは、4月定員25名2クールから20名2クールへ転換、人員配置の工夫等で経営改善に努めた。

高槻地区の医療機能再編に合わせてしんあいクリニック病床(19床)跡の利活用を検討し、2018年度高槻市地域密着型サービス事業者公募を行ったが不採択となった。

在宅介護対策委員会において高槻地区在宅連携の質向上の検討に加え、ケース検討会を定期開催した。

#### 3) 宝塚地区での実績

Waiwai コミュニティあいわへのケアプランセンター宝塚あいわ苑、ヘルパーステーション宝塚あいわ苑、長尾地域包括支援センター3事業所の移転も無事終了し、2019年度4月より併設の社会福祉協議会長尾地区センターとの地域協働を展開する。

#### 4) 豊中・吹田地区での実績

きんもくせいは、老健からの訪問リハビリを開始した。愛和会・蒼龍会の連携強化、地域包括ケアの基盤強化、仕組み作り、各事業運営の安定化に向け支援した。

#### 5) 尼崎地区での実績

介護老人保健施設だいもつは、内部体制が整い2019年4月から超強化型老健として稼働する。レジリエンスだいもつは、安定稼働できた。また、在宅サービスセンターも順調に利用者を獲得でき、活動性が高まっている。

### ■トピックス

アジア健康構想日越ヘルスケアブリッジに基づきハノイに「大阪APSコンソーシアム介護スキルラボ」を開設、6月より派遣講師による事業の展開と教育態勢の整備や環境整備を法人グループの協力により整えることができ、第1陣が2019年5月に入国する。

### ■今後の展望

介護福祉事業部は、各事業所への支援体制の強化と環境の変化にしなやかに対応できる体制を築きたい。2019年10月の消費税10%への対応・報酬改定対応を確実に行う。また、在宅部門の強化について一緒に考え、利用者獲得のためにサービスの質の向上や広報活動の展開等、各地区事業所へのきめ細やかな支援を展開する。

## TQM推進室

### ■スタッフ紹介

担当理事	伊藤成規
室長	豊永 健
業務改善推進室室長	
千船地区担当	木村亮介
高槻病院担当	細川友弘
リハビリテーション病院担当	細尾 壮

### ■業務内容

今年度は愛仁会グループのTQMの仕組みを見直し、更に発展させていくことを目指して以下のポイントに焦点をあて事業を進めた。

方針管理については各重点施策の法人運営、施設運営に寄与する実施項目を推進するとともに、半期、年間ごとの進捗管理を行った。また方針管理の様式をすべて見直し、入力負担軽減とより見やすい資料となるよう修正を行った。

業務改善については活動を支援する人材の教育プログラムを維持し、活動支援・指導できる人材の育成、体制の構築を目指し、リーダー研修を実施した。また業務改善で使用する様式も医療のTQM推進協議会のフォーマットに合わせることで、入力負担軽減を目的として修正を行い新しい様式Aの運用を開始した。様式B、Cについても来期以降展開する予定で準備を進めている。

### ■2018年度のトピックス・実績

#### グループ内実績

- i) 第23回介護福祉施設合同業務改善発表会（上半期）

開催日時：2018年9月22日

- ii) 第24回介護福祉施設合同業務改善発表会（下半期）

開催日時：2019年3月14日

- iii) 第4回医療のTQM・近畿ワークショップ

開催日時：2018年8月25日

開催場所：大阪市立大学医学部学舎

近畿において組織全体で改善活動を推進している法人と協働し、事例発表と経験豊富な解説者によるわかりやすい解説を行い、参加者が改善プロセスや成果を相互に啓発できるよう企画・運営を行った。

- iv) 第20回フォーラム医療の改善活動全国大会 in 北九州  
プレセミナー；医療の改善活動推進セミナー

開催日時：2018年6月2日

開催場所：製鉄記念八幡病院（北九州）

伊藤常務理事が（一社）医療のTQM推進協議会において教育担当理事を務めることから、第20回フォーラム医療の改善活動全国大会 in 北九州のプレセミナーとして、医療の改善活動推進セミナー in 北九州を開催した。

改善活動を含めたTQMの導入を検討又は導入している施設を対象に、導入・推進・活性化のノウハウについて理解を深め、医療の質・安全の向上の更なる発展を目的としたセミナーを開催し、全国から90名の参加があった。

- v) 第20回フォーラム医療の改善活動全国大会 in 北九州

開催日時：2018年11月16日～17日

開催場所：北九州ウェルとばた

プレセミナーに引き続き教育セミナーを開催し、226名の参加があった。愛仁会からは3チームが発表を行い、愛仁会リハビリテーション病院の理学療法科、明石医療センターの栄養管理科の2チームが優秀賞、蒼龍会井上病院の地域包括ケア病棟の発表も高評価を受けた。

### ■今後の展望

方針管理については、1) 中期事業計画と連動した進捗管理方法の構築。2) 事業計画・方針管理策定スケジュールの見直し。3) 中期事業計画に沿ったキーワードの見直しと更なる様式の改善。4) KPIの導入。5) 方針管理の進捗状況管理の徹底などを検討する。

業務改善については、長年の取り組みの中で手法的に高い成熟度が見られるものの、新規の取り組みが縮小傾向にあるため、業務改善の推進方法、教育体制の見直しを行い、取り組み全体の再構築を行うことが課題である。

また（一社）医療のTQM推進協議会の研修担当事務局として、第21回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 仙台における教育セミナーと、そのプレセミナーの企画・運営を通じ、医療における改善活動の普及に貢献したい。

## IV. 統計総括

# 愛仁会グループ人事総括

## I. 職種別職員数比率・年齢構成

## II. 職員数合計

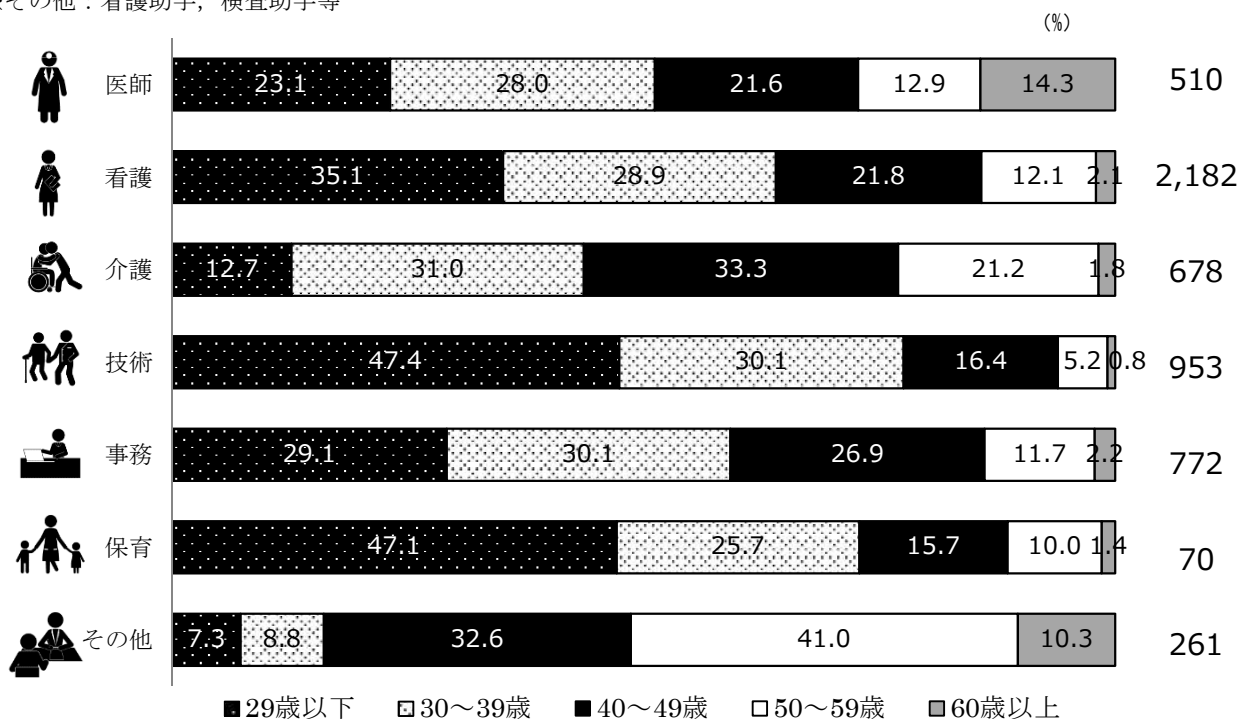
5,426 人

愛仁会・愛和会・蒼龍会における 2019 年 3 月 31 日現在

※常勤職員のみ

※その他：看護助手、検査助手等

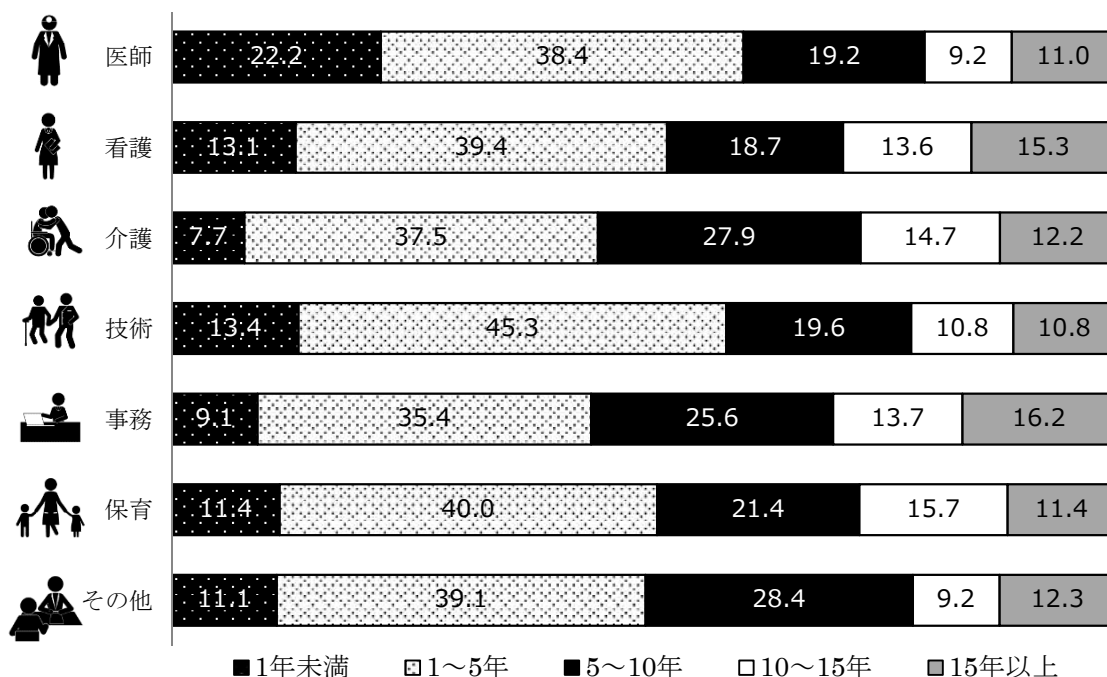
総数(人)



## III. 職種別勤続年数構成

2019 年 3 月 31 日現在の勤続年数階層別職員数

(%)



# 愛仁会グループ活動統計

## 千船病院

入院		新生児数	
入院延べ患者数	1日平均入院患者数	延べ新生児数	8,662 人
<b>104,665 人</b>	287 人	分娩数	1,717 人
(前年比 0.2%減)	新入院患者数	新患者数	
	10,002 人	初診料算定対象患者数	
	退院患者数	22,471 人	
	9,970 人		
	病床利用率		
	98.2 %		
	平均在院日数		
	9.5 日		
	入院平均単価		
	65,730 円		
外来		紹介	
外来延べ患者数	233,624 人	救急搬送数	5,899 件
(前年比 3.4%増)		入院救急搬送数	1,762 件
1日平均外来患者数	959 人	外来救急搬送数	4,137 件
外来平均単価	11,447 円	開業医紹介数	10,783 件
手術件数		剖検数	
合計	3,164 件	剖検数	17 件
泌尿器科	464 件	剖検率	9.4 %
整形外科	627 件	死亡数	
産婦人科	1,234 件	180 人	
内科	21 件		
眼科	34 件		
外科	624 件		
耳鼻咽喉科	63 件		
脳神経外科	93 件		
麻酔科	4 件		

## 介護老人保健施設ユーマイ

入所		入所経路	
入所延べ人数	35,711 人	法人病院	51 人
(前年比 1.8%増)		他医療機関	30 人
1日平均利用者数	97.8 人	社会福祉施設	1 人
平均入所期間	4.4 か月	家庭	691 人
		その他	0 人
		新入所者数	773 人
		(前年比 0.6%減)	



通 所	退 所 経 路										
<p>通所延べ人数</p> <p><b>13,741</b> 人</p> <p>(前年比 4.3%増)</p> <p>1日平均利用者数 <b>44.6</b> 人</p>	<p>新退所者数</p> <p><b>769</b> 人</p> <p>(前年比 1.0%減)</p> <table border="0"> <tr> <td>法人病院</td> <td><b>45</b> 人</td> </tr> <tr> <td>他医療機関</td> <td><b>10</b> 人</td> </tr> <tr> <td>社会福祉施設</td> <td><b>10</b> 人</td> </tr> <tr> <td>家庭</td> <td><b>694</b> 人</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td><b>10</b> 人</td> </tr> </table>	法人病院	<b>45</b> 人	他医療機関	<b>10</b> 人	社会福祉施設	<b>10</b> 人	家庭	<b>694</b> 人	その他	<b>10</b> 人
法人病院	<b>45</b> 人										
他医療機関	<b>10</b> 人										
社会福祉施設	<b>10</b> 人										
家庭	<b>694</b> 人										
その他	<b>10</b> 人										

## 介護付有料老人ホーム スローライフおかじま

入 居	デイサービス
<p>入居延べ人数</p> <p><b>19,245</b> 人</p> <p>(前年比 4.9%減)</p> <p>1日平均入居者数 <b>52.7</b> 人</p>	<p>デイサービス延べ人数</p> <p><b>7,553</b> 人</p> <p>(前年比 70.2%増)</p> <p>1日平均デイサービス利用者数</p> <p><b>24.5</b> 人</p>

## 尼崎だいもつ病院

入 院	新 患 者 数												
<p>入院延べ患者数</p> <p><b>65,162</b> 人</p> <p>(前年比 19.6%増)</p> <table border="0"> <tr> <td>1日平均入院患者数</td> <td><b>179</b> 人</td> </tr> <tr> <td>新入院患者数</td> <td><b>1,302</b> 人</td> </tr> <tr> <td>退院患者数</td> <td><b>1,273</b> 人</td> </tr> <tr> <td>病床利用率</td> <td><b>99.7</b> %</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数</td> <td><b>49.6</b> 日</td> </tr> <tr> <td>入院平均単価</td> <td><b>36,431</b> 円</td> </tr> </table>	1日平均入院患者数	<b>179</b> 人	新入院患者数	<b>1,302</b> 人	退院患者数	<b>1,273</b> 人	病床利用率	<b>99.7</b> %	平均在院日数	<b>49.6</b> 日	入院平均単価	<b>36,431</b> 円	<p>初診料算定対象患者数</p> <p><b>437</b> 人</p>
1日平均入院患者数	<b>179</b> 人												
新入院患者数	<b>1,302</b> 人												
退院患者数	<b>1,273</b> 人												
病床利用率	<b>99.7</b> %												
平均在院日数	<b>49.6</b> 日												
入院平均単価	<b>36,431</b> 円												
外 来	剖 検 数												
<p>外来延べ患者数</p> <p><b>8,526</b> 人</p> <p>(前年比 21.2%増)</p> <p>1日平均外来患者数 <b>35</b> 人</p> <p>外来平均単価 <b>16,034</b> 円</p>	<p>剖検数 <b>0</b> 件</p> <p>剖検率 <b>0</b> %</p>												
紹 介	死 亡 数												
<p>開業医紹介数</p> <p><b>1,438</b> 件</p>	<p>死亡数</p> <p><b>36</b> 人</p>												

# 高槻病院

## 入院

入院延べ患者数	1日平均入院患者数	458	人
<b>167,036</b> 人	新入院患者数	15,376	人
(前年比 0.1%減)	退院患者数	15,346	人
	病床利用率	96.0	%
	平均在院日数	9.9	日
	入院平均単価	79,707	円

## 新生児数

延べ新生児数	8,906	人
分娩数	1,256	人

## 外来

外来延べ患者数	266,686	人
(前年比 2.4%減)		
1日平均外来患者数	1,095	人
外来平均単価	15,102	円

## 紹介

開業医紹介数	28,585	件
--------	--------	---

## 新患者数

初診料算定対象患者数	23,415	人
------------	--------	---

## 手術件数

合計	5,805	件	小児外科	374	件	腎移植科	74	件
			呼吸器外科	69	件	整形外科	1,073	件
			心臓血管外科	320	件	産婦人科	939	件
			消化器外科	567	件	眼科	826	件
消化器内科	8	件	乳腺外科	122	件	耳鼻咽喉科	22	件
呼吸器内科・糖尿病 内分泌内科	1	件	脳神経外科	136	件	皮膚科	222	件
不整脈内科	120	件	小児脳神経外科	78	件	形成外科	169	件
小児科	23	件	泌尿器科	653	件	麻酔科	9	件

## 剖検数

剖検数	15	件
剖検率	5.2	%

## 死亡数

死亡数	291	人
-----	-----	---

## 愛仁会リハビリテーション病院

入 院		新 患 者 数		
入院延べ患者数	1日平均入院患者数	261 人	初診料算定対象患者数	
<b>95,178 人</b>	新入院患者数	1,847 人	<b>213 人</b>	
(前年比 14.2%増)	退院患者数	1,835 人		
	病床利用率	111.6 %	死 亡 数	
	平均在院日数	50.3 日	死亡数	
	入院平均単価	40,966 円	<b>0 人</b>	
外 来				
外来延べ患者数	1日平均外来患者数	15 人		
<b>3,571 人</b>	外来平均単価	14,147 円		
(前年比 9.4%増)				

## しんあい病院

入 院		新 患 者 数	
入院延べ患者数	1日平均入院患者数	27 人	初診料算定対象患者数
<b>6,510 人</b>	新入院患者数	309 人	<b>3,133 人</b>
(前年比 57.0%減)	退院患者数	347 人	
	病床利用率	66.7 %	
	平均在院日数	18.8 日	
	入院平均単価	33,992 円	
外 来			
外来延べ患者数	1日平均外来患者数	137 人	
<b>40,251 人</b>	外来平均単価	6,161 円	
(前年比 3.1%減)			

# しんあいクリニック

入院		新患者数	
入院延べ患者数	1,328 人 (前年比 24.0%減)	1日平均入院患者数	16 人
		新入院患者数	55 人
		退院患者数	38 人
		病床利用率	83.2 %
		平均在院日数	28.6 日
		入院平均単価	11,248 円
		初診料算定対象患者数	120 人
外来			
外来延べ患者数	2,722 人 (前年比 14.4%減)	1日平均外来患者数	11 人
		外来平均単価	4,559 円

## 介護老人保健施設ケーアイ

入所		入所経路	
入所延べ人数	35,947 人 (前年比 1.4%減)	新入所者数	730 人 (前年比 3.7%減)
1日平均入所者数	98.5 人	法人病院	63 人
平均入所期間	3.1 か月	他医療機関	13 人
		社会福祉施設	0 人
		家庭	652 人
		その他	2 人
通所		退所経路	
通所延べ人数	11,804 人 (前年比 0.9%増)	新退所者数	737 人 (前年比 2.6%減)
1日平均通所者数	35.2 人	法人病院	63 人
(日曜日営業)	18.3 人	他医療機関	8 人
		社会福祉施設	18 人
		家庭	645 人
		その他	3 人

## 介護老人保健施設しんあい

入 所		入 所 経 路	
入所延べ人数 <b>23,777</b> 人 (前年比 1.1%増)  1日平均入所者数 <b>65</b> 人 平均入所期間 <b>5.7</b> か月	新入所者数 <b>530</b> 人 (前年比 20.7%増)	法人病院 <b>32</b> 人 他医療機関 <b>5</b> 人 社会福祉施設 <b>0</b> 人 家庭 <b>492</b> 人 その他 <b>1</b> 人	
通 所		退 所 経 路	
通所延べ人数 <b>7,649</b> 人 (前年比 6.7%増)  1日平均通所者数 <b>29.7</b> 人	新退所者数 <b>526</b> 人 (前年比 19.3%増)	法人病院 <b>24</b> 人 他医療機関 <b>4</b> 人 社会福祉施設 <b>7</b> 人 家庭 <b>488</b> 人 その他 <b>3</b> 人	

## 明石医療センター

入 院		新 生 児 数	
入院延べ患者数 <b>130,647</b> 人 (前年比 5.5%減)	1日平均入院患者数 <b>358</b> 人 新入院患者数 <b>11,707</b> 人 退院患者数 <b>11,706</b> 人 病床利用率 <b>93.7</b> % 平均在院日数 <b>10.2</b> 日 入院平均単価 <b>81,731</b> 円	延べ新生児数 <b>2,602</b> 人 分娩数 <b>911</b> 人	
		新 患 者 数	
		初診料算定対象患者数 <b>23,698</b> 人	
外 来		紹 介	
外来延べ患者数 <b>149,814</b> 人 (前年比 2.6%減) 1日平均外来患者数 <b>614</b> 人 外来平均単価 <b>17,763</b> 円	開業医紹介数 <b>14,461</b> 件	救急搬送数 <b>3,957</b> 件 入院救急搬送数 <b>2,384</b> 件 外来救急搬送数 <b>1,573</b> 件	



## 介護老人保健施設きんもくせい

入 所		入 所 経 路	
入所延べ人数		新入所者数	
<b>18,263</b> 人		医療機関	<b>18</b> 件
(前年比 0.005%増)		社会福祉施設	<b>12</b> 件
1日平均入所者数(入所)	<b>50.0</b> 人	家庭	<b>57</b> 件
1日平均入所者数(ショート)	<b>0.4</b> 人	その他	<b>5</b> 件
平均入所期間	<b>5.9</b> か月		
通 所		退 所 経 路	
通所延べ人数		新退所者数	
<b>10,826</b> 人		医療機関	<b>13</b> 件
(前年比 2.3%増)		社会福祉施設	<b>9</b> 件
1日平均通所者数	<b>35.2</b> 人	家庭	<b>58</b> 件
		その他	<b>8</b> 件
		死亡	<b>3</b> 件

## 愛和会(豊中地区)デイサービスセンター

豊中あいわ苑デイサービスセンター	
通所延べ人数	
<b>14,503</b> 人	
(前年比 7.9%増)	

## 井上病院

入 院		新 患 者 数	
入院延べ患者数		1日平均入院患者数	<b>101</b> 人
<b>36,907</b> 人		新入院患者数	<b>1,970</b> 人
		退院患者数	<b>1,954</b> 人
		病床利用率	<b>79.7</b> %
		平均在院日数	<b>16.9</b> 日
		入院平均単価	<b>48,587</b> 円
		初診料算定対象患者数	<b>6,672</b> 人

外 来

外来延べ患者数

**141,030** 人

1日平均外来患者数 **482** 人

外来平均単価 **18,289** 円

紹 介

開業医紹介数

**2,157** 件

手 術 件 数

合計

**2,064** 件

外科 **267** 件

整形外科 **240** 件

泌尿器科 **14** 件

眼科 **109** 件

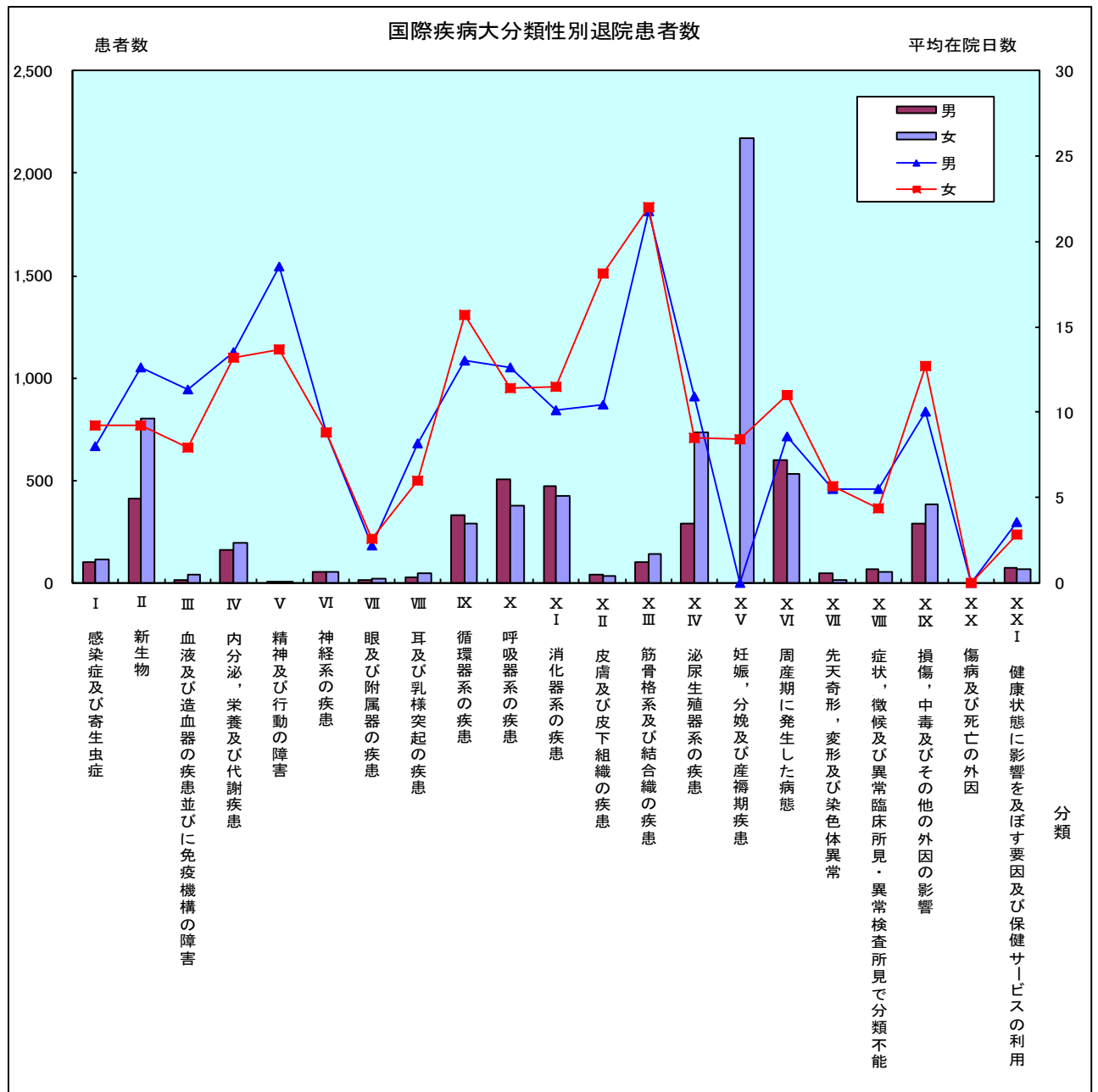
内科 **170** 件

血管外科 **1,264** 件



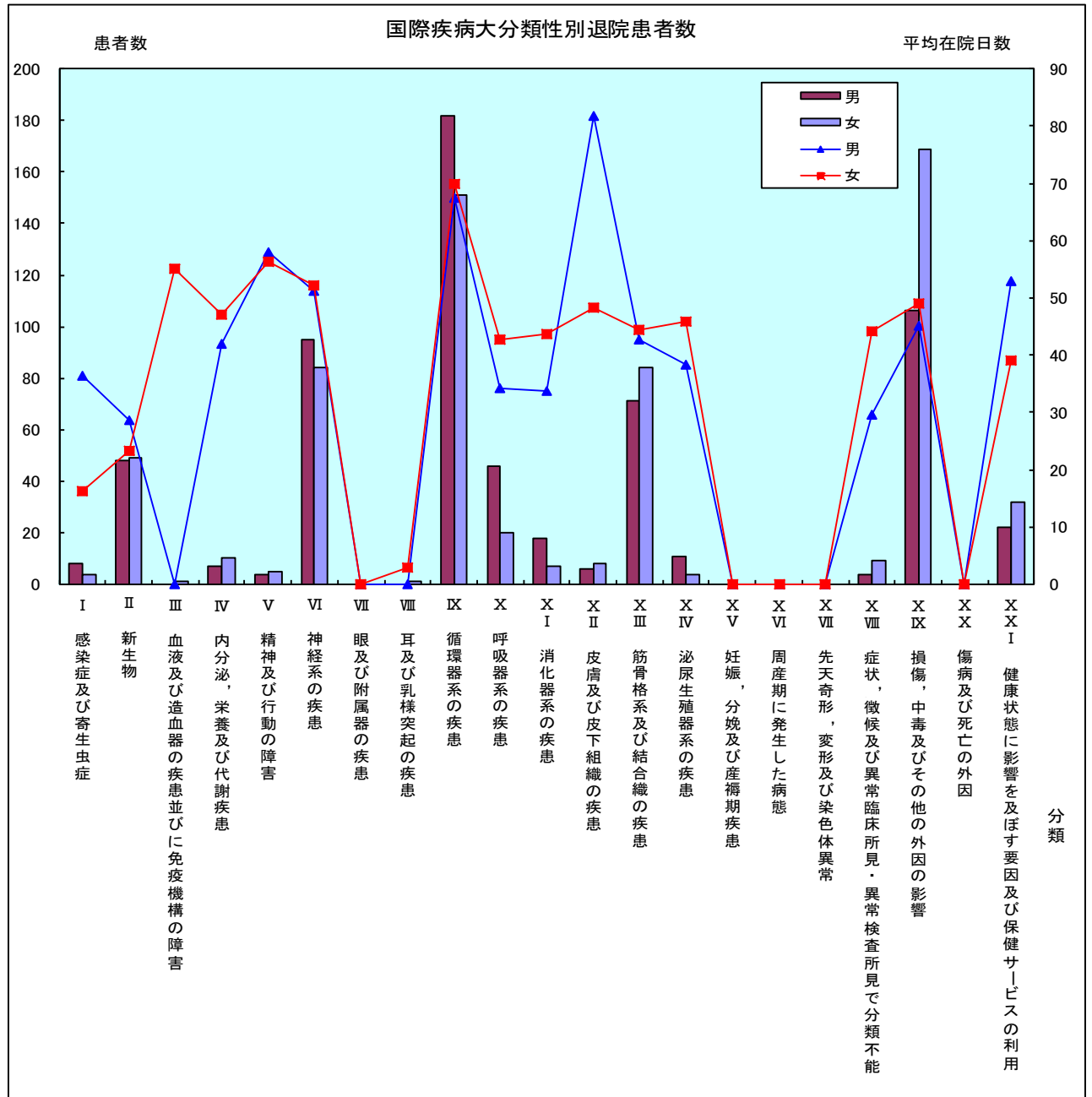
## 千 船 病 院 疾 病 統 計

分類コード (ICD10) ・ 国際疾病大分類	患者数		平均在院日数		延べ在院日数		
	患者数	患者数	平均在院日数	平均在院日数	男	女	計
	男	女	男	女			
I 感染症及び寄生虫症	104	112	8	9	836	1,029	1,865
II 新生物	410	803	13	9	5,165	7,425	12,590
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	12	38	11	8	135	302	437
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	161	197	14	13	2,172	2,598	4,770
V 精神及び行動の障害	6	9	19	14	111	123	234
VI 神経系の疾患	51	51	9	9	447	450	897
VII 眼及び付属器の疾患	14	22	2	3	31	57	88
VIII 耳及び乳様突起の疾患	26	45	8	6	214	269	483
IX 循環器系の疾患	332	287	13	16	4,303	4,501	8,804
X 呼吸器系の疾患	504	380	13	11	6,368	4,343	10,711
XI 消化器系の疾患	472	424	10	12	4,784	4,877	9,661
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	44	37	10	18	456	669	1,125
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	100	142	22	22	2,179	3,130	5,309
XIV 泌尿生殖器系の疾患	288	738	11	9	3,144	6,249	9,393
XV 妊娠、分娩及び産褥期疾患	0	2,172	0	8	0	18,158	18,158
XVI 周産期に発生した病態	597	534	9	11	5,158	5,860	11,018
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	47	16	6	6	259	91	350
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で分類不能	69	54	6	4	377	239	616
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	289	386	10	13	2,879	4,890	7,769
XX 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0	0	0
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	73	71	4	3	261	197	458
計又は平均	3,599	6,518	11	10	39,279	65,457	104,736



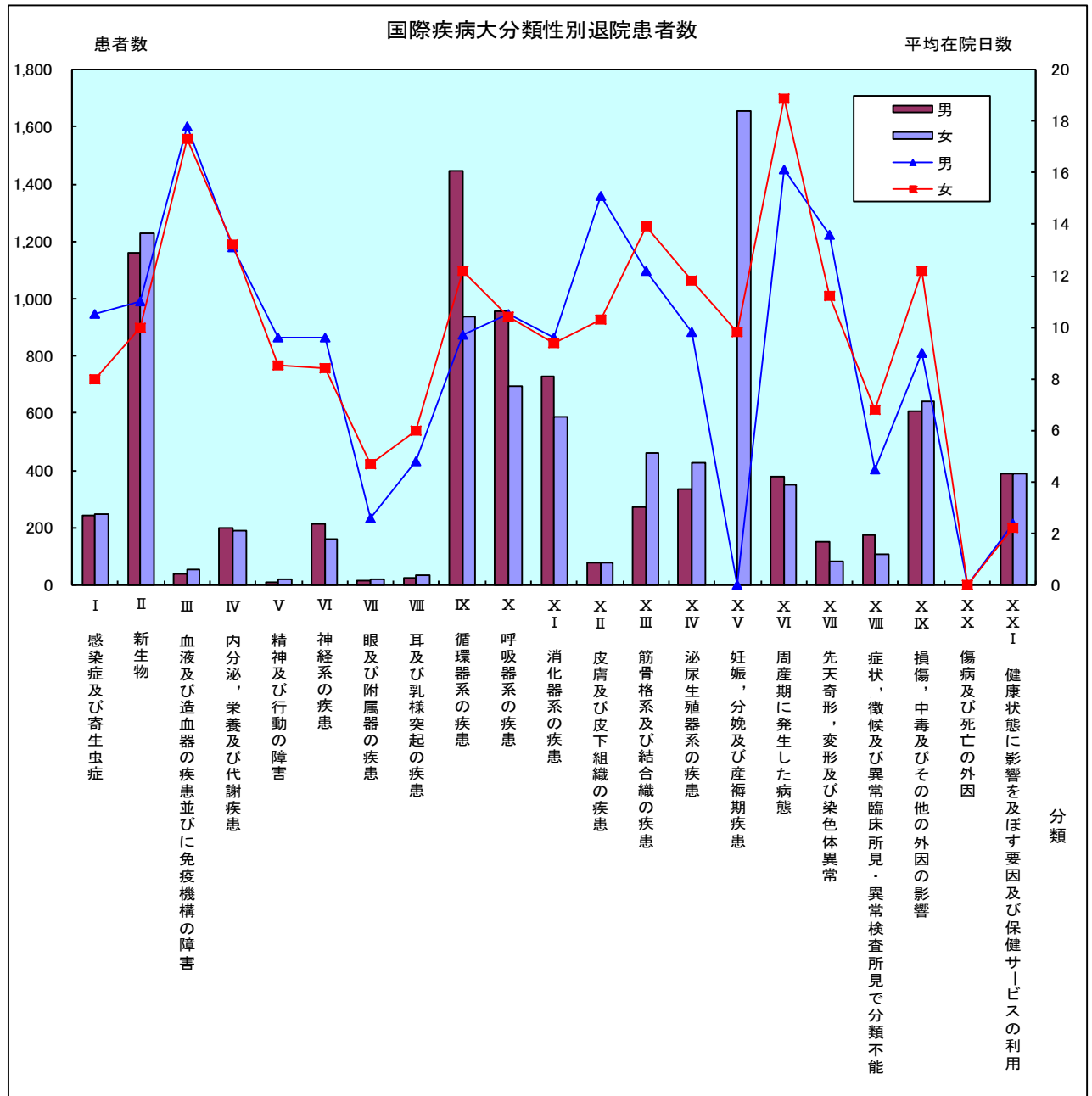
### 尼崎だいもつ病院疾病統計

分類コード (ICD10) ・ 国際疾病大分類	患者数		平均在院日数		延べ在院日数		
	患者数	患者数	平均在院日数	平均在院日数	男	女	計
	男	女	男	女			
I 感染症及び寄生虫症	8	4	36	16	290	65	355
II 新生物	48	49	29	23	1,376	1,143	2,519
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	1	0	55	0	55	55
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	7	10	42	47	293	470	763
V 精神及び行動の障害	4	5	58	56	232	281	513
VI 神経系の疾患	95	84	51	52	4,873	4,392	9,265
VII 眼及び付属器の疾患	0	0	0	0	0	0	0
VIII 耳及び乳様突起の疾患	0	1	0	3	0	3	3
IX 循環器系の疾患	182	151	68	70	12,294	10,577	22,871
X 呼吸器系の疾患	46	20	34	43	1,571	852	2,423
X I 消化器系の疾患	18	7	34	44	609	305	914
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	6	8	82	48	490	386	876
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	71	84	43	44	3,028	3,727	6,755
X IV 泌尿生殖器系の疾患	11	4	38	46	421	183	604
X V 妊娠、分娩及び産褥期疾患	0	0	0	0	0	0	0
X VI 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0	0	0	0	0
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で分類不能	4	9	30	44	118	398	516
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	106	169	45	49	4,788	8,300	13,088
X X 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0	0	0
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	22	32	53	39	1,163	1,247	2,410
計又は平均	628	638	50.2	50.8	31,546	32,384	63,930



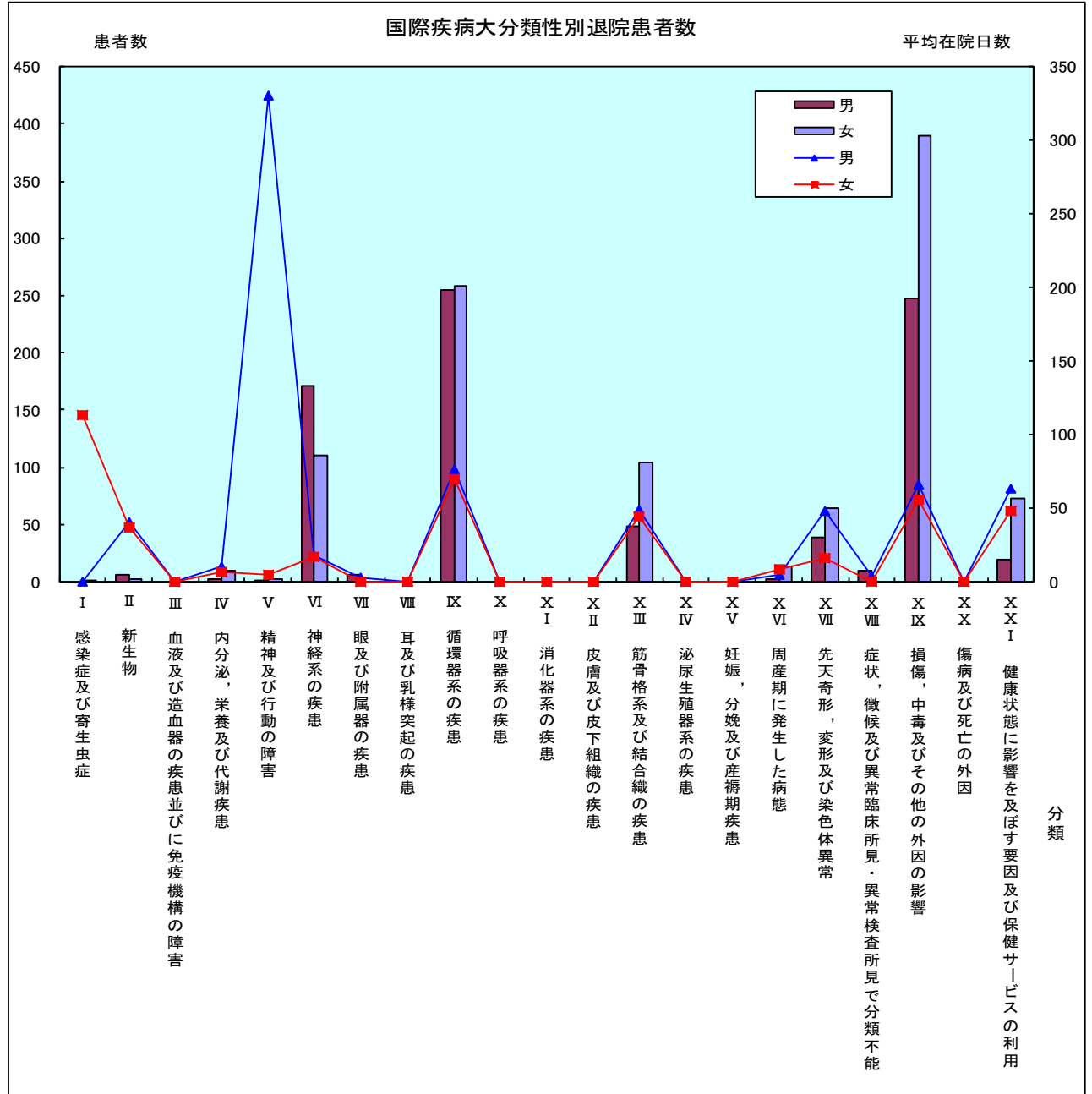
## 高槻病院 疾病統計

分類コード (ICD10) ・ 国際疾病大分類	患者数		平均在院日数		延べ在院日数		
	患者数	患者数	平均在院日数	平均在院日数	男	女	計
	男	女	男	女			
I 感染症及び寄生虫症	241	249	11	8	2,536	1,991	4,527
II 新生物	1,162	1,230	11	10	12,792	12,346	25,138
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	38	54	18	17	677	933	1,610
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	200	188	13	13	2,614	2,481	5,095
V 精神及び行動の障害	9	19	10	9	86	162	248
VI 神経系の疾患	215	159	10	8	2,061	1,333	3,394
VII 眼及び付属器の疾患	14	19	3	5	37	89	126
VIII 耳及び乳様突起の疾患	25	36	5	6	120	215	335
IX 循環器系の疾患	1,447	936	10	12	13,994	11,434	25,428
X 呼吸器系の疾患	954	696	11	10	9,989	7,269	17,258
X I 消化器系の疾患	730	586	10	9	7,017	5,532	12,549
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	78	77	15	10	1,174	794	1,968
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	272	462	12	14	3,326	6,441	9,767
X IV 泌尿生殖器系の疾患	337	426	10	12	3,306	5,047	8,353
X V 妊娠、分娩及び産褥期疾患	0	1,657	0	10	0	16,231	16,231
X VI 周産期に発生した病態	377	351	16	19	6,067	6,642	12,709
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	153	83	14	11	2,088	933	3,021
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で分類不能	173	108	5	7	772	733	1,505
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	605	639	9	12	5,466	7,819	13,285
X X 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0	0	0
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	390	390	2	2	929	856	1,785
計又は平均	7,420	8,365	10	11	75,051	89,281	164,332



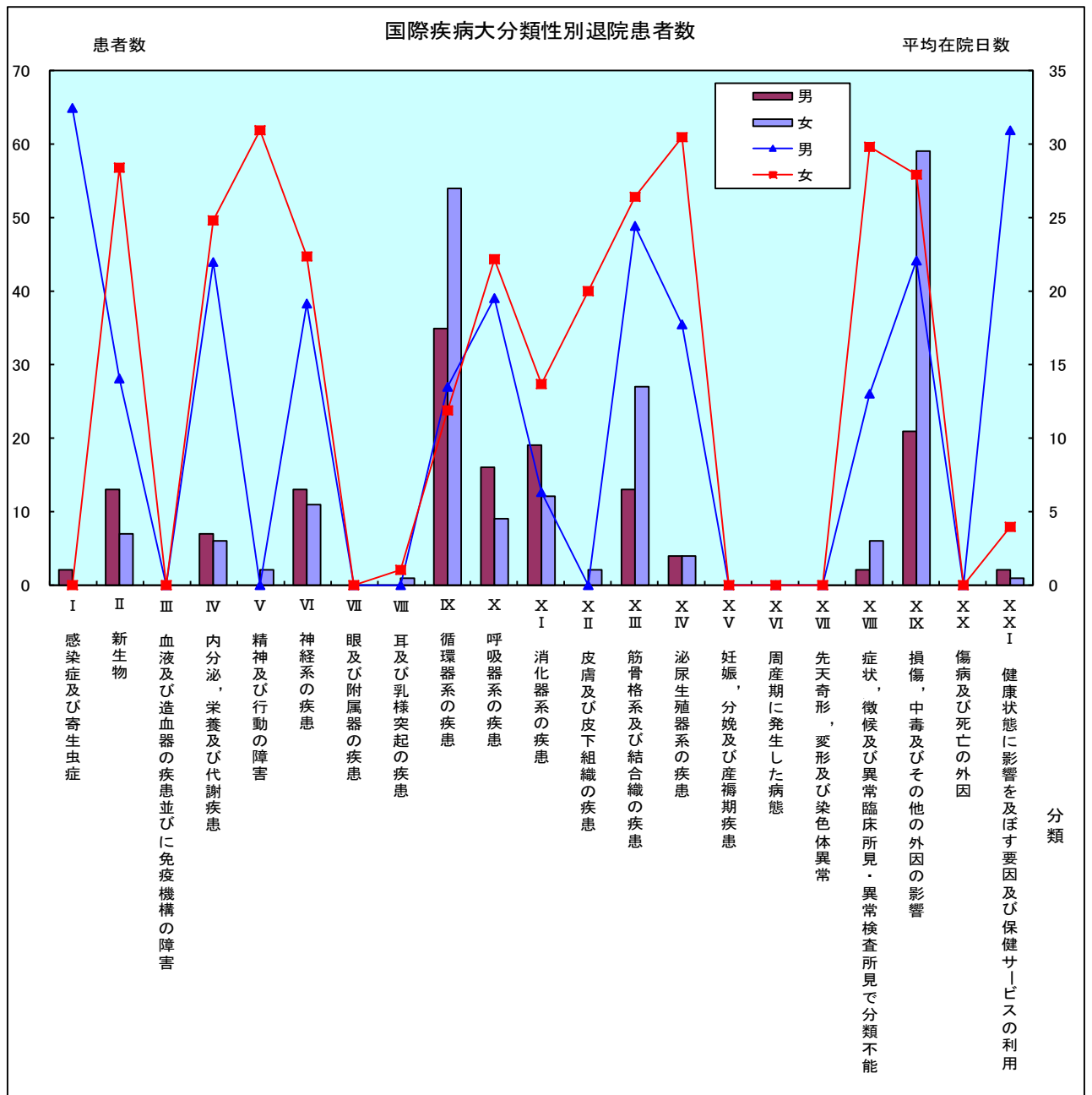
## 愛仁会リハビリテーション病院疾病統計

分類コード (ICD10) ・ 国際疾病大分類	患者数		平均在院日数		延べ在院日数		
	患者数 男	患者数 女	平均在院日数 男	平均在院日数 女	男	女	計
					男	女	
I 感染症及び寄生虫症	0	1	0	113	0	113	113
II 新生物	6	3	41	37	244	110	354
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	0	0	0	0	0	0
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	2	10	10	7	20	66	86
V 精神及び行動の障害	1	2	330	5	330	10	340
VI 神経系の疾患	171	111	18	17	3,031	1,867	4,898
VII 眼及び付属器の疾患	6	0	3	0	18	0	18
VIII 耳及び乳様突起の疾患	0	0	0	0	0	0	0
IX 循環器系の疾患	255	258	77	70	19,544	17,952	37,496
X 呼吸器系の疾患	0	0	0	0	0	0	0
X I 消化器系の疾患	0	0	0	0	0	0	0
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	0	0	0	0	0	0	0
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	49	104	49	45	2,416	4,648	7,064
X IV 泌尿生殖器系の疾患	0	0	0	0	0	0	0
X V 妊娠、分娩及び産褥期疾患	0	0	0	0	0	0	0
X VI 周産期に発生した病態	2	13	5	9	10	113	123
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	39	64	48	16	1,879	1,021	2,900
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で分類不能	10	0	4	0	41	0	41
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	247	389	66	56	16,326	21,756	38,082
X X 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0	0	0
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	19	73	64	49	1,210	3,545	4,755
計又は平均	807	1,028	56	50	45,069	51,201	96,270



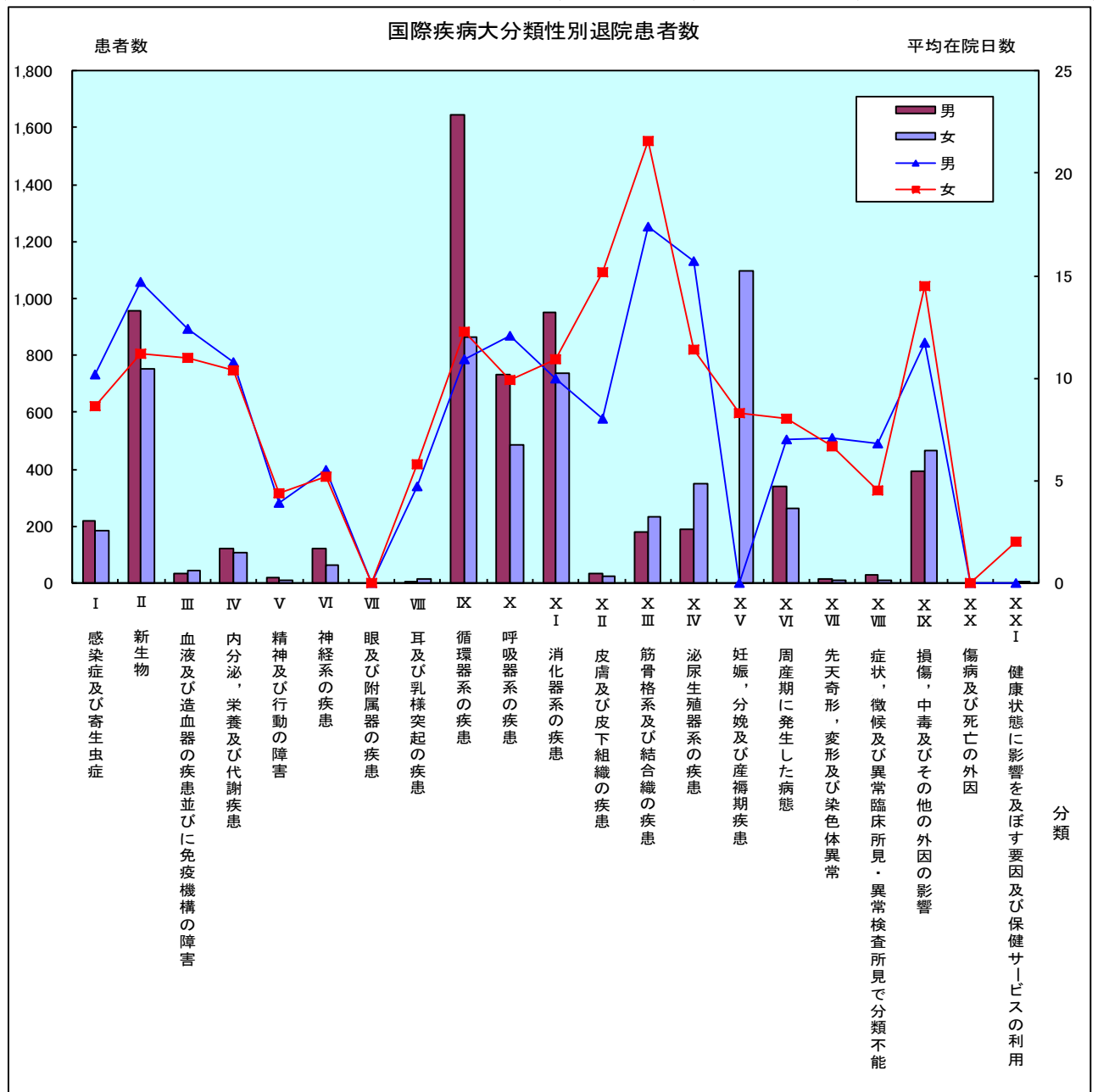
# しんあい病院 疾病統計

分類コード (ICD10) ・ 国際疾病大分類	患者数		平均在院日数		延べ在院日数		
	患者数	患者数	平均在院日数	平均在院日数	男	女	計
	男	女	男	女			
I 感染症及び寄生虫症	2	0	33	0	65	0	65
II 新生物	13	7	14	28	183	199	382
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0	0	0	0	0	0	0
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	7	6	22	25	154	149	303
V 精神及び行動の障害	0	2	0	31	0	62	62
VI 神経系の疾患	13	11	19	22	249	246	495
VII 眼及び付属器の疾患	0	0	0	0	0	0	0
VIII 耳及び乳様突起の疾患	0	1	0	1	0	1	1
IX 循環器系の疾患	35	54	14	12	474	640	1,114
X 呼吸器系の疾患	16	9	20	22	312	200	512
XI 消化器系の疾患	19	12	6	14	121	164	285
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	0	2	0	20	0	40	40
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	13	27	24	26	318	713	1,031
XIV 泌尿生殖器系の疾患	4	4	18	31	71	122	193
XV 妊娠、分娩及び産褥期疾患	0	0	0	0	0	0	0
XVI 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	0	0	0	0	0	0	0
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で分類不能	2	6	13	30	26	179	205
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	21	59	22	28	464	1,647	2,111
XX 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0	0	0
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	2	1	31	4	62	4	66
計又は平均	147	201	17	22	2,499	4,366	6,865



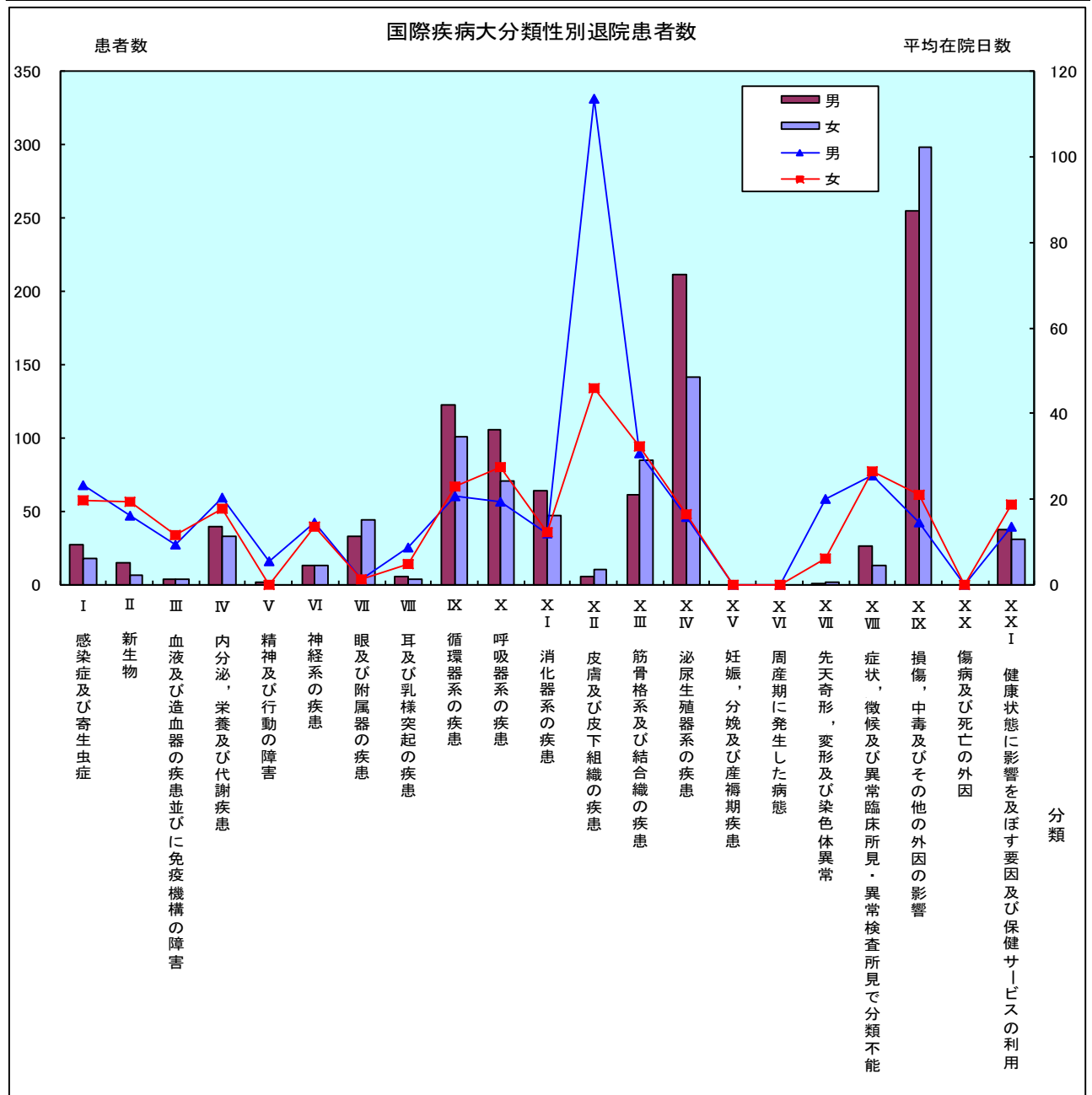
## 明石医療センター 疾病統計

分類コード (ICD10) ・ 国際疾病大分類	患者数		平均在院日数		延べ在院日数		
	患者数	患者数	平均在院日数	平均在院日数	男	女	計
	男	女	男	女			
I 感染症及び寄生虫症	217	187	10	9	2,208	1,607	3,815
II 新生物	954	754	15	11	14,036	8,462	22,498
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	36	44	12	11	446	484	930
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	120	107	11	10	1,299	1,117	2,416
V 精神及び行動の障害	19	9	4	4	75	40	115
VI 神経系の疾患	123	63	6	5	673	327	1,000
VII 眼及び付属器の疾患	0	0	0	0	0	0	0
VIII 耳及び乳様突起の疾患	3	15	5	6	14	87	101
IX 循環器系の疾患	1,646	866	11	12	17,931	10,614	28,545
X 呼吸器系の疾患	732	485	12	10	8,871	4,780	13,651
XI 消化器系の疾患	953	737	10	11	9,532	8,059	17,591
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	36	26	8	15	288	394	682
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	178	232	17	22	3,091	5,003	8,094
XIV 泌尿生殖器系の疾患	190	349	16	11	2,978	3,965	6,943
XV 妊娠、分娩及び産褥期疾患	0	1,098	0	8	0	9,071	9,071
XVI 周産期に発生した病態	339	264	7	8	2,359	2,112	4,471
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	14	10	7	7	99	67	166
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で分類不能	28	11	7	5	190	49	239
XX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	392	465	12	15	4,576	6,733	11,309
XXI 傷病及び死亡の外因	0	0	0	0	0	0	0
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0	1	0	2	0	2	2
計又は平均	5,980	5,723	8	9	68,666	62,973	131,639



# 井上病院 疾病統計

分類コード (ICD10) ・ 国際疾病大分類	患者数		平均在院日数		延べ在院日数		
	患者数	患者数	平均在院日数	平均在院日数	男	女	計
	男	女	男	女			
I 感染症及び寄生虫症	27	18	23	20	630	355	985
II 新生物	15	7	16	19	243	136	379
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	4	4	9	12	37	47	84
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	40	33	20	18	814	585	1,399
V 精神及び行動の障害	2	0	6	0	11		11
VI 神経系の疾患	13	13	14	14	188	176	364
VII 眼及び付属器の疾患	33	44	1	1	43	57	100
VIII 耳及び乳様突起の疾患	6	4	9	5	52	20	72
IX 循環器系の疾患	123	101	21	23	2,553	2,336	4,889
X 呼吸器系の疾患	106	71	20	27	2,076	1,951	4,027
X I 消化器系の疾患	64	47	12	12	773	573	1,346
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	6	10	114	46	682	461	1,143
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	61	85	31	32	1,880	2,758	4,638
X IV 泌尿生殖器系の疾患	211	142	16	16	3,375	2,341	5,716
X V 妊娠、分娩及び産褥期疾患	0	0	0	0	0	0	0
X VI 周産期に発生した病態	0	0	0	0	0	0	0
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	1	2	20	6	20	12	32
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で分類不能	26	13	26	26	666	343	1,009
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	255	298	15	21	3,708	6,301	10,009
X X 傷病及び死亡の外因	0		0	0	0	0	0
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	38	31	14	19	520	584	1,104
計又は平均	1,031	923	18	21	18,271	19,036	37,307



## V. 業績集



## 愛仁会学術業績集基準(2018年)

- ・2018年4月1日～2019年3月31日に発行・発表されたものとする。
- ・法人外での実績を掲載する(愛仁会医学研究誌は含む)。

区分	基準	
1. 口頭発表 (外部発表)	指定講演	学会・学術研究会における特別講演・招待講演・教育講演など
	シンポジウム等	学会・各種学術研究会でのシンポジウム・パネルディスカッション・ワークショップなどに準ずるもので発表
	一般講演	口頭・ポスターなどによる発表
	その他の講演	セミナー・研究会・懇話会・談話会・勉強会等
2. 論文発表	学術誌に掲載された原著・総説・症例報告	
	研究報告書・紀要論文	
	その他	学術誌に掲載された専門分野の解説・講座・シリーズ・特集・臨時増刊など
3. 著書発表	単独又は共著として発刊された著書(編者, 監修, 翻訳含む)	
4. その他	講師・司会・ 座長活動	学会, 研究会, セミナーでの発表及び講演会での講師, 司会又は座長の実績
	その他学術関連	業績として記録しておくにふさわしいもの ラジオ, テレビ, 週刊誌, 新聞, Web記事投稿, 受賞, 特許, 競争的資金など

# 千船病院

## 口頭発表 (2018/4/1~2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第223回近畿地方会	確定診断に難渋した中年女性の結核性腹膜炎の1例	'19/3	京都市	診療部 総合内科	井上真希, 二宮幸三, 藤田芳正, 名方勇介, 濱田晶子, 船津英司, 尾崎正憲
2	第61回日本糖尿病学会年次学術集会	血糖コントロール不良なインスリン使用2型糖尿病患者に対するデュラグルチドとエンパグリフロジンの追加効果の検討	'18/5	東京都	診療部 糖尿病内分泌内科	佐藤洋幸, 井上真希, 広中順也, 田守義和, 高橋哲也
3	第61回日本糖尿病学会年次学術集会	高度肥満に腹腔鏡下胃スリーブ切除術を行い全ての糖尿病治療薬を中止できた緩徐進行1型糖尿病の1例	'18/5	東京都	診療部 糖尿病内分泌内科	広中順也, 北濱誠一, 井上真希, 佐藤洋幸, 田守義和, 高橋哲也
4	第221回近畿地方会	右内外閉鎖筋膿瘍・恥骨筋膿瘍を合併した2型糖尿病の一例	'18/9	大阪市	診療部 糖尿病内分泌内科	山田真唯子, 松山温子, 広中順也, 佐藤洋幸, 平賀千尋, 高橋哲也
5	第39回日本肥満学会	手術リスクの高い重症糖尿病に対して腹腔鏡下スリーブ状胃切除術 (LSG) を施行した一例	'18/10	神戸市	診療部 糖尿病内分泌内科	松山温子, 広中順也, 佐藤洋幸, 平賀千尋, 高橋哲也, 北濱誠一, 陳慶祥, 富永洋一, 田守義和
6	慢性腎臓病を考える診療所と病院の会	肥満・糖尿病と慢性腎臓病	'18/10	大阪市	診療部 糖尿病内分泌内科	高橋哲也
7	第55回日本糖尿病学会近畿地方会	耳鼻科領域での短期ステロイド療法中の血糖管理におけるトログリフロジンの使用経験	'18/10	神戸市	診療部 糖尿病内分泌内科	佐藤洋幸, 広中順也, 松山温子, 平賀千尋, 鞆津匡宏, 奥西真帆, 伊集院隆宏, 田守義和, 高橋哲也
8	第104回日本消化器病学会総会	健診受診者における上腹部症状と不安特性との関連	'18/4	東京都	診療部 消化器内科	荻巣恭平, 藤田剛, 増田充弘, 山崎幸直, 小林正夫, 寺尾秀一, 岡田明彦, 佐貫毅, 安達政恭, 船津英司, 久津見弘, 梅垣英次, 東健
9	第222回内科学会近畿地方会	Trousseau症候群をきたした胆管癌の1例	'18/12	大阪市	診療部 消化器内科	川上紗央莉, 錦嶋克敏, 名方勇介, 羽鳥広隆, 板東正貴, 吉安孝介, 那賀川峻, 船津英司
10	第18回日本病院総合診療医学会学術総会	薬剤抵抗性の周産期心筋症に対し抗プロラクチン療法が奏功した一例	'19/2	沖縄県 恩納村	診療部 循環器内科	栗本浩行, 二宮幸三, 尾崎正憲, 船津英司, 瀧本裕, 高橋哲也, 金鐘一
11	第223回日本内科学会近畿地方会	周産期心筋症に対し抗プロラクチン療法が著効した1例	'19/3	京都市	診療部 循環器内科	濱田晶子, 栗本浩行, 二宮幸三, 松森佳子, 尾崎正憲
12	第121回日本小児科学会学術集会	当初心理的な要因が考えられた難治性二次性昼間尿失禁の1例	'18/4	福岡市	診療部 小児科	下村真由美, 岩田康平, 荻野加菜, 谷口公啓, 住吉倫卓, 古林真佐美, 甲斐智彦, 森雅啓, 井上翔太, 辻前紗栄子, 阿部真也, 平松勢津子, 榎本真由子, 藤坂方葉, 五條あい, 水野洋介, 牟禮岳男, 西野昌光, 吉井勝彦
13	第20回西淀小児科懇話会	当院の尿路感染症入院症例における分離菌の薬剤感受性	'18/5	大阪市	診療部 小児科	谷口公啓
14	第20回西淀小児科懇話会	高熱, 意識障害を主訴として入院した急性巣状細菌性腎炎の8歳男児	'18/5	大阪市	診療部 小児科	荻野加菜

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
15	第20回西淀小児科懇話会	可逆性脳梁膨大部病変を有する軽症脳炎・脳症を呈したロタウイルス感染症の2歳女児	'18/5	大阪市	診療部 小児科	佐浦龍太郎
16	第322回NMCS例会	生後早期に頭部MRIにて脳幹部腫瘍?と診断された症例	'18/6	大阪市	診療部 小児科	住吉倫卓
17	第54回日本周産期・新生児医学会学術集会	新生児一過性多呼吸の観点からの、当院における妊娠37週での選択的帝王切開術の妥当性	'18/7	東京都	診療部 小児科	岩田康平, 森 雅啓, 榎本真由子, 藤坂方葉, 五條あい, 水野洋介, 牟禮岳男, 高寺明弘, 西野昌光, 吉井勝彦, 岡田十三, 吉田茂樹
18	第54回日本周産期・新生児医学会学術集会	未熟児動脈管開存症のインドメタシン治療における閉鎖阻害因子の検討	'18/7	東京都	診療部 小児科	森 雅啓
19	とことん新生児セミナー2018	患者家族への病状説明	'18/9	大阪市	診療部 小児科	高寺明弘
20	第275回日本小児科学会兵庫県地方会	痙性四肢麻痺の児に発症した膿胸の1例	'18/9	姫路市	診療部 小児科	岩田康平
21	第63回日本新生児成育医学会・学術集会	発作性異常眼球運動で発症した新生児脳幹部腫瘍の1例	'18/11	東京都	診療部 小児科	住吉倫卓
22	第63回日本新生児成育医学会・学術集会	気管支肺異形成症例における在宅酸素療法導入と3歳時予後との関連	'18/11	東京都	診療部 小児科	高寺明弘, 谷口公啓, 住吉倫卓, 古林真佐美, 榎本真由子, 藤坂方葉, 五條あい, 牟禮岳男, 西野昌光, 吉井勝彦
23	西淀川区学校保健協議会	アレルギーについて	'18/11	大阪市	診療部 小児科	下村真由美
24	学校医講演会	こどもの風邪～「かぜ」だと思ってただけど	'18/11	大阪市	診療部 小児科	牟禮岳男
25	産業保健のプラクティスとフィロソフィーを深める勉強会	生活習慣病に対する外科治療～肥満・糖尿病・逆流性食道炎～	'18/4	大阪市	診療部 外科	北濱誠一
26	第61回日本糖尿病学会年次学術集会	メタボリックサージェリー～糖尿病の重症度に応じた術式選択～	'18/5	東京都	診療部 外科	北濱誠一, 三原俊彦, 岡田憲幸, 山元康義, 向井友一郎, 広中順也, 井上真希, 佐藤洋幸, 田守義和, 高橋哲也
27	第61回日本糖尿病学会年次学術集会	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術により肥満関連腎症の改善した一例	'18/5	東京都	診療部 外科	松下和子, 北濱誠一, 三原俊彦, 広中順也, 井上真希, 佐藤洋幸, 田守義和, 高橋哲也
28	第14回近畿腹腔鏡下胃切除セミナー	肥満外科治療	'18/6	大阪市	診療部 外科	北濱誠一
29	第36回日本肥満症治療学会学術集会	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術により肥満関連腎症の改善した一例	'18/6	東京都	診療部 外科	松下和子, 北濱誠一, 三原俊彦, 広中順也, 井上真希, 佐藤洋幸, 田守義和, 高橋哲也
30	第36回日本肥満症治療学会学術集会	Metabolic Surgeryの展望	'18/6	東京都	診療部 外科	北濱誠一
31	第36回日本肥満症治療学会学術集会	腹腔鏡下单吻合スリーブバイパスの短期成績	'18/6	東京都	診療部 外科	北濱誠一, 三原俊彦, 岡田憲幸, 山元康義, 向井友一郎, 広中順也, 井上真希, 佐藤洋幸, 田守義和, 高橋哲也
32	第7回腹腔鏡下スリーブ状胃切除セミナー	術前術後管理と新規導入のポイント1	'18/7	大阪市	診療部 外科	北濱誠一

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
33	IFS02018 (国際肥満症外科連盟)	QOL after Metabolic surgery for diabetes mellitus	'18/9	Dubai, UAE	診療部 外科	Matsushita K, Kitahama S, Mihara T, Okada N, Yamamoto Y, Mukai T, Hironaka J, Sato H, Tamori Y, Takahashi T
34	第39回日本肥満学会	千船病院における高度肥満症に対する外科治療の中期成績	'18/10	神戸市	診療部 外科	北濱誠一, 三原俊彦, 岡田憲幸, 山元康義, 向井友一郎, 広中順也, 松山温子, 佐藤洋幸, 田守義和, 高橋哲也
35	北摂糖尿病懇話会2018	生活習慣に対する外科治療～肥満・糖尿病・逆流性食道炎～	'18/10	豊中市	診療部 外科	北濱誠一
36	第55回日本糖尿病学会近畿地方会	千船病院における高度肥満・糖尿病に対する外科治療の成績	'18/10	神戸市	診療部 外科	北濱誠一, 三原俊彦, 岡田憲幸, 山元康義, 向井友一郎, 平賀千尋, 松山温子, 広中順也, 佐藤洋幸, 田守義和, 高橋哲也
37	Diabetes Forum in Hyogo	肥満外科治療 Up-to-Date	'18/11	大阪市	診療部 外科	北濱誠一
38	第80回日本臨床外科学会総会	噴門側胃切除ダブルとラクト再建術後に再発した幽門側残胃癌の1例	'18/11	東京都	診療部 外科	黒川 晟, 岡田憲幸, 桃野鉄平, 三原俊彦, 北濱誠一, 山元康義, 向井友一郎
39	第31回日本内視鏡外科学会総会 日本内視鏡下肥満・糖尿病外科研究会	手術リスクの高い高度肥満・重症糖尿病に対する外科治療	'18/12	福岡市	診療部 外科	北濱誠一, 桃野鉄平, 三原俊彦, 岡田憲幸, 山元康義, 向井友一郎
40	第31回日本内視鏡外科学会総会 日本内視鏡下肥満・糖尿病外科研究会	上部消化管穿孔に対する腹腔鏡下手術導入後の短期手術成績について	'18/12	福岡市	診療部 外科	桃野鉄平, 三原俊彦, 北濱誠一, 山元康義, 岡田憲幸, 向井友一郎
41	逆流性食道炎・ピロリ菌 UP TO DATE	逆流性食道炎における外科治療	'18/12	大阪市	診療部 外科	北濱誠一
42	第8回 GI Symposium	GERDの外科手術について	'19/1	神戸市	診療部 外科	北濱誠一
43	第135回糖尿病教育学習研究会	高度肥満・糖尿病に対する外科治療	'19/2	神戸市	診療部 外科	北濱誠一
44	第9回大阪西部地域連携合同研究会	乳がんと肥満～千船病院減量手術100例を振り返って～	'19/3	大阪市	診療部 外科	北濱誠一
45	第9回大阪西部地域連携合同研究会	新千船病院での乳がん治療について～健診から化学療法まで～	'19/3	大阪市	診療部 外科	向井友一郎
46	IFS0 APC 2019 (国際肥満外科連盟)	INCIDENTAL WELL DIFFERENTIATED PAPILLARY MESOTHELIOMA OF PERITONEAL CAVITY DISCOVERED IN MORBIDLY OBESE WOMEN DURING LAPAROSCOPIC SLEEVE GASTRECTOMY	'19/3	広州市	診療部 外科	Matsushita K, Kitahama S
47	IFS0 APC 2019 (国際肥満外科連盟)	Initial Experience of Laparoscopic Loop Duodenojejunal Bypass with Sleeve Gastrectomy (LDJB-SG) in Japan	'19/3	広州市	診療部 外科	Kitahama S, Matsushima K
48	第138回近畿産科婦人科学会総会	大阪府大規模災害訓練の経験	'18/6	大阪市	診療部 救急診療部	山下公子
49	The 14th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine in Kobe	The approach to affected pregnant women in the kumamoto earthquake	'18/10	神戸市	診療部 救急診療部	山下公子
50	第46回日本救急医学会総会・学術集会	大規模災害時における周産期関連症例の搬送	'18/11	横浜市	診療部 救急診療部	山下公子, 夏川知輝, 岬 美徳
51	第37回日本国際保健医療学会西日本地方会	「～自発性を促し, 持続性のある国際協力を目指して～」ラオスの学童保育における応急処置実習	'19/3	福岡市	診療部 救急診療部	山下公子, 二階堂はるか, 八木雅幸, 夏川知輝, 三谷智子, 坊垣友美, 前川和彦, 鶴飼 卓

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
52	第24回日本災害医学会総会・学術集会	西日本豪雨災害における被災した医療機関の復興支援	'19/3	米子市	診療部 救急診療部	山下公子
53	第24回日本災害医学会総会・学術集会	ロヒンギヤ難民キャンプにおける分娩施設の設立支援	'19/3	米子市	診療部 救急診療部	山下公子
54	第8回富山ホテルイカ・カンファレンス	intraorbital AVFの1例	'18/8	富山市	診療部 脳神経外科	立林洸太郎, 吉村紳一
55	ABC-Win Seminar	Clinical result of endovascular therapy for multiple large vessel occlusion:Sub-analysis of RESCUE-Japan Registry 2	'19/1	Val d seie	診療部 脳神経外科	立林洸太郎
56	第68回日本泌尿器科学会中部総会	高齢者の上部尿路結石に対するTUL施行症例の検討	'18/10	名古屋市	診療部 泌尿器科	新開康弘, 楊 東益, 樋口喜英, 川口理作
57	第32回日本泌尿器内視鏡学会総会	当院におけるTULの治療成績とUROMAT E. A. S. I. の使用経験	'18/11	仙台市	診療部 泌尿器科	楊 東益, 新開康弘, 樋口喜英, 川口理作
58	大阪Knee NAVIセミナー	Knee NAVIの有用性と手技のピットホール	'18/4	大阪市	診療部 整形外科	鄭 克真
59	西淀川区医師会学術講演会	人工関節置換術々後の鎮痛法について	'18/5	大阪市	診療部 整形外科	鄭 克真
60	第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	内側を支点とした後方リファレンスギャップサイザーを用いたTKAにおける術中バランス評価とキネマティック解析	'18/6	福岡市	診療部 整形外科	鄭 克真, 蓑田正也, 松田 茂, 清水富男, 松本知之, 高山孝治, 黒田良祐
61	第6回大阪西部地域連携合同研究会	変形性膝関節症の治療計画Up-to-Date	'18/7	大阪市	診療部 整形外科	鄭 克真
62	大阪市西区薬剤師会セミナー	神経障害性疼痛の診断と治療	'18/9	大阪市	診療部 整形外科	鄭 克真
63	阪神骨粗鬆症治療を考える会	人工膝全置換関節術後の術後の疼痛と骨粗鬆症の関連性	'18/10	尼崎市	診療部 整形外科	鄭 克真
64	第131回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	Kashiwagi-Outerbridge法にて関節形成を施行した変形性肘関節症の2例	'18/10	倉敷市	診療部 整形外科	松田 茂, 東迎高貴, 蓑田正也, 鄭 克真
65	第131回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会	距骨骨折に対して術中CT撮影を利用した1例	'18/10	倉敷市	診療部 整形外科	蓑田正也, 東迎高貴, 鄭 克真, 松田 茂
66	International Society for Technology in Arthroplasty (ISTA) 2018	Using a Novel Posterior Referenced Gap Sizer Improves Soft Tissue Balance Even After PCL Resection, Kinematic Analyses During Computer Assisted Total Knee Arthroplasty	'18/10	London, United Kingdom	診療部 整形外科	鄭 克真
67	第7回大阪西部地域連携合同研究会	お年寄りの関節痛の対処方法	'18/11	大阪市	診療部 整形外科	鄭 克真
68	第8回大阪西部地域連携合同研究会	人工膝関節手術と後の疼痛対策について～骨密度変化との関連性～	'19/1	大阪市	診療部 整形外科	鄭 克真
69	第49回日本人工関節学会	人工膝全置換関節術々後の術後疼痛には骨密度の変化と関連がある	'19/2	東京都	診療部 整形外科	鄭 克真, 蓑田正也, 松田 茂, 清水富男, 松本知之, 高山孝治, 黒田良祐
70	日総研セミナー	分娩期の助産・看護実践に必須の基礎知識と異常・急変対応のポイント	'18/5	名古屋市	診療部 産婦人科	岡田十三
71	第70回日本産科婦人科学会学術講演会	A case of a postmenopausal woman with a spontaneously ruptured seromucinous borderline tumor of the ovary:A review of the literature.	'18/5	仙台市	診療部 産婦人科	太田真見子, 大木規義, 郡山直子, 成田 萌, 水野祐紀子, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
72	第70回日本産科婦人科学会学術講演会	術前のMRI検査によってMassive ovarian edema (MOE)と診断し腹腔鏡下捻転解除術で卵巣を温存しえた卵巣茎捻転の1例	'18/5	仙台市	診療部 産婦人科	嘉納 萌, 稲垣美恵子, 下川 航, 細川雅代, 益子尚久, 成田 萌, 大木規義, 安田立子, 村越 蒼, 岡田十三, 吉田茂樹, 本山 覚
73	第70回日本産科婦人科学会学術講演会	医療従事者は、輸血による有害事象に対してどれだけ習熟しているか	'18/5	仙台市	診療部 産婦人科	岡田十三, 下川 航, 濱田 萌, 細川雅代, 益子尚久, 成田 萌, 大木規義, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 蒼, 本山 覚, 吉田茂樹
74	第70回日本産科婦人科学会学術講演会	妊娠37週以降に分娩となった頭位単胎妊娠の初産婦に対する帝王切開率と臍帯動脈血pHとの関連	'18/5	仙台市	診療部 産婦人科	益子尚久, 岡田十三, 下川 航, 濱田 萌, 細川雅代, 成田 萌, 安田立子, 大木規義, 稲垣美恵子, 村越 蒼, 吉田茂樹
75	第70回日本産科婦人科学会学術講演会	同側卵巣に良性3種類の病理組織型が混在した卵巣嚢腫の一例	'18/5	仙台市	診療部 産婦人科	細川雅代, 村越 蒼, 濱田 萌, 郡山直子, 成田 萌, 水野祐紀子, 安田立子, 大木規義, 稲垣美恵子, 岡田十三, 本山 覚, 吉田茂樹
76	第70回日本産科婦人科学会学術講演会	遺残胎盤の待機的管理	'18/5	仙台市	診療部 産婦人科	北口智美
77	第17回兵庫産婦人科内視鏡懇話会	TLHにおける腔式回収方法の工夫	'18/5	神戸市	診療部 産婦人科	成田 萌, 稲垣美恵子, 太田真見子, 京本 萌, 下川 航, 嘉納 萌, 益子尚久, 細川雅代, 郡山直子, 安田立子, 大木規義, 村越 蒼, 岡田十三, 吉田茂樹, 本山 覚
78	第138回近畿産科婦人科学会総会	重症卵巣過剰刺激症候群の加療中に卵巣出血を合併し、左付属器切除を施行した1例	'18/6	大阪市	診療部 産婦人科	松原 萌, 稲垣美恵子, 岩田隆一, 太田真見子, 下川 航, 濱田 萌, 細川雅代, 益子尚久, 郡山直子, 成田 萌, 水野祐紀子, 安田立子, 大木規義, 村越 蒼, 岡田十三, 吉田茂樹
79	第138回近畿産科婦人科学会総会	GDMと季節についての検討	'18/6	大阪市	診療部 産婦人科	田邊 文, 岡田十三, 岩田隆一, 太田真見子, 松原 萌, 下川 航, 濱田 萌, 細川雅代, 益子尚久, 郡山直子, 成田 萌, 水野祐紀子, 安田立子, 大木規義, 村越 蒼, 本山 覚, 吉田茂樹
80	第66回阪神産婦人科医会協議会	千船病院の現状と未来	'18/6	尼崎市	診療部 産婦人科	岡田十三
81	佐賀ALSOプロバイダーコース特別講演	開設して10年院内助産がもたらしたものは何か	'18/7	佐賀市	診療部 産婦人科	岡田十三

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
82	第54回日本周産期・新生児医学学会学術集会	卵巣悪性腫瘍合併妊娠に化学療法を施行した一例	'18/7	東京都	診療部 産婦人科	京本 萌, 安田立子, 益子尚久, 水野祐紀子, 大木規義, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹
83	第54回日本周産期・新生児医学学会学術集会	医師の働き方改革と院内助産・助産師外来の役割	'18/7	東京都	診療部 産婦人科	岡田十三
84	第58回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	膜解剖に基づいた腹腔鏡下広汎子宮全摘術(TLRH)の定型化	'18/8	松江市	診療部 産婦人科	大木規義, 下川 航, 嶋村卓人, 小川紋奈, 北口智美, 田中美喜歩, 太田真見子, 京本 萌, 嘉納 萌, 細川雅代, 益子尚久, 成田 萌, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹
85	第58回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	TLHにおける膣式子宮回収方法の工夫～モルセレーターの動きに着目した方法～	'18/8	松江市	診療部 産婦人科	成田 萌, 稲垣美恵子, 下川 航, 益子尚久, 大木規義, 安田立子, 村越 誉, 吉田茂樹
86	第58回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会	膜解剖理論に基づいた腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)の定型化	'18/8	松江市	診療部 産婦人科	下川 航, 大木規義, 京本 萌, 太田真見子, 益子尚久, 嘉納 萌, 成田 萌, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹, 本山 寛
87	位育会臨床セミナー	膜解剖に基づくTLHの定型化	'18/8	神戸市	診療部 産婦人科	嶋村卓人, 大木規義, 小川紋奈, 北口智美, 田中美喜歩, 田邊 文, 北井沙和, 太田真見子, 京本 萌, 嘉納 萌, 下川 航, 細川雅代, 益子尚久, 山本貴子, 成田 萌, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹
88	位育会臨床セミナー	膜解剖に基づく腹腔鏡下広汎子宮全摘術の定型化	'18/8	神戸市	診療部 産婦人科	大木規義, 嶋村卓人, 小川紋奈, 北口智美, 田中美喜歩, 田邊 文, 北井沙和, 太田真見子, 京本 萌, 嘉納 萌, 下川 航, 細川雅代, 益子尚久, 山本貴子, 成田 萌, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 岡田十三, 吉田茂樹
89	第139回近畿産科婦人科学術集会	なぜ今、シミュレーショントレーニングなのか 産科救急診療のガラパゴス化からの開放～J-CIMELSを中心に～	'18/10	大阪市	診療部 産婦人科	岡田十三
90	第46回頭痛学会総会	胎児と母体の救命のために見逃せない頭痛、婦人科で見逃しやすい頭痛	'18/11	神戸市	診療部 産婦人科	稲垣美恵子
91	日総研セミナー	胎児心拍数モニタリング判読ざんまい	'18/12	名古屋市	診療部 産婦人科	岡田十三
92	第2回エンドメトリオーグスフォートラグ子宮内膜症治療の最前線	自然破裂を契機に発見された閉経女性における漿液粘液性境界型腫瘍の一例	'18/12	神戸市	診療部 産婦人科	太田真見子
93	第7回日本婦人科ロボット手術学会	Robot assisted simple hysterectomy (RASH)におけるスパチュラ型モノポールの使用経験	'19/2	倉敷市	診療部 産婦人科	大木規義

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
94	第9回OHP実務セミナー	輸液選択に必要な情報～医師から薬剤師へ～	'18/8	大阪市	診療部 麻酔科	上北郁男
95	日本心臓血管麻酔学会第23回学術大会	ガイドワイヤーにより重度僧帽弁逆流が惹起されrapid pacing後の血圧回復を得られなかったTAVI症例	'18/9	東京都	診療部 麻酔科	上北郁男, 坂本 元, 三宅隆一郎, 濱崎 豊
96	日本臨床麻酔学会第38回大会	当初は脊髄くも膜下麻酔の合併症と考えられた長期安静後の帝王切開術後歩行障害	'18/11	北九州市	診療部 麻酔科	上北郁男, 河野克彬, 原田優美, 岡岡由起, 星野和夫, 大山泰幸
97	日本臨床麻酔学会第38回大会	シャルコー・マリー・トゥース病の症状を呈した妊婦における帝王切開術の麻酔経験	'18/11	北九州市	診療部 麻酔科	星野和夫, 岡岡由起, 原田優美, 大山泰幸, 上北郁男, 河野克彬
98	日本臨床麻酔学会第38回大会	全身麻酔下子宮鏡下手術中に経皮的動脈血酸素飽和度 (SpO <sub>2</sub> ) の低下で発見し得た水中毒	'18/11	北九州市	診療部 麻酔科	原田優美, 星野和夫, 岡岡由起, 大山泰幸, 上北郁男
99	第63回日本透析医学会学術集会・総会	当院シャント血管カテーテル治療(VIT)の解析	'18/6	神戸市	診療部 腎臓内科	金 鐘一
100	第63回日本透析医学会学術集会・総会	当院の死亡透析患者における糖尿病患者と非糖尿病患者の比較	'18/6	神戸市	診療部 腎臓内科	長澤雅世
101	第63回日本透析医学会学術集会・総会	ABO式血液型の違いが血液透析患者診療に与える影響	'18/6	神戸市	診療部 腎臓内科	金 鐘一
102	第12回神戸内科学セミナー	子宮鏡にて低Na血症をきたした1例	'18/10	神戸市	診療部 腎臓内科	石井 圭
103	第48回日本婦人科病理学会学術集会	右卵巣類内膜境界悪性腫瘍および子宮異型内膜増殖症を同時に認めた1例	'18/5	弘前市	診療部 病理診断科	横川 暢, 名方保夫, 西川浩介, 八十嶋 仁, 下川 航, 村越 誉, 岡田十三
104	第48回日本婦人科病理学会学術集会	子宮内膜癌の1例	'18/5	弘前市	診療部 病理診断科	西川浩介, 名方保夫, 横川 暢, 八十嶋 仁, 北井沙和, 成田 萌
105	第107回日本病理学会総会	筋上皮癌との鑑別に苦慮した骨・軟骨化を伴う乳癌の1例	'18/6	札幌市	診療部 病理診断科	横川 暢, 下山京子, 三成善光, 伊倉義弘, 岩井泰博
106	Ksギネ・パソ塾2018	子宮間葉系腫瘍/子宮腺筋症・子宮内膜症	'18/8	熊本県 阿蘇郡	診療部 病理診断科	名方保夫
107	第49回日本婦人科病理学会学術集会	子宮腫瘍の1例	'18/12	東京都	診療部 病理診断科	名方保夫, 小川紋奈, 大木規義, 村越 誉
108	NPO法人周産期医療支援機構	助産師から見た理学療法の可能性	'18/5	東京都	看護部 MFICU看護科	涌嶋嘉子
109	第68回日本病院学会	産後2週間健診時におけるEPDS得点から見た妊娠期の状況	'18/6	金沢市	看護部 MFICU看護科	涌嶋嘉子
110	第68回日本病院学会	急性期病院における認知症サポートチーム(DST)の取り組み	'18/6	金沢市	看護部 リソース ナース室	栗岡美千代
111	第68回日本病院学会	外来センターにおけるフットチェックの取り組み～足の観察と体重測定を組み合わせ～	'18/6	金沢市	看護部 7階東病棟看護科	田中友香
112	第63回日本透析医学会学術集会・総会	当施設を利用する血液透析患者の運動状況についての実態調査～体力測定を行って～	'18/6	神戸市	看護部 千船クリ ニック	角和敬子
113	日本腹膜透析医学会	当院における腎看護外来の取り組み～SMAP出口部作製時の入院短縮, APD外来導入を試みて～	'18/10	徳島市	看護部 千船クリ ニック	梶應陽子, 中西昌平, 河村沙也香, 金子喜代, 西田真美, 平井智美
114	神戸大学新生児グループ出張セミナー2018in東京	千船病院新築移転前後の家族面会における取り組みの変化	'18/11	東京都	看護部 MICU看護科	金丸昭子
115	第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	肝動脈化学塞栓療法における抗がん剤の職業性曝露対策のA病院の取り組み	'19/3	大阪市	看護部 外来看護科	泉 純子
116	第6回PNS研究会	新人看護師の自立 PNS監査結果から見えた現状と今後の展望	'19/3	福井市	看護部 NICU看護科	田中由香, 北野智美, 金丸昭子, 平井智美



No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
117	第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	専従看護師による「患者さま相談窓口」における役割	'19/3	大阪市	地域医療部 入退院支援センター	出路直子, 久保順子
118	第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	入院時支援加算に向けた多職種によるPFMの取り組み ～多職種連携シート作成を通して～	'19/3	大阪市	地域医療部 入退院支援センター	大中湖月, 浅井映子, 定松香代子, 木村真策, 神谷亮平, 志賀孝, 尾崎正憲
119	第12回日本緩和医療薬学会年会	保護者(PTA)対象の麻薬・覚せい剤教育におけるアンケート調査	'18/5	東京都	技術部 薬剤科	木村真策
120	医療薬学フォーラム2018/第26回 クリニカルファーマシーシンポジウム	進捗管理システム導入における問合せ件数の変化	'18/6	東京都	技術部 薬剤科	富永紗菜恵
121	医療薬学フォーラム2018/第26回 クリニカルファーマシーシンポジウム	医薬品マスター統一管理システム(Fusion)を用いた, 処置・手術薬剤マスター管理の取り組み	'18/6	東京都	技術部 薬剤科	木村真策
122	第20回フォーラム「医療の改善活動」全国大会in北九州	新病院における薬剤科導入システムによる問題点の改善	'18/11	北九州市	技術部 薬剤科	木村真策
123	第28回日本医療薬学会年会	当院における妊婦・授乳婦に対するOTC薬の疑義対応の統一化	'18/11	神戸市	技術部 薬剤科	三原瑞貴, 芦澤徳波, 富永紗菜恵, 北村悠里子, 石田あい, 木村真策
124	第40回日本病院薬剤師会近畿学術大会	当院の肝動脈化学塞栓療法における抗がん剤曝露対策	'19/1	奈良市	技術部 薬剤科	原田千菜美
125	第40回日本病院薬剤師会近畿学術大会	周産期心筋症によるうっ血性心不全に対する抗プロラクチン療法の1例	'19/1	奈良市	技術部 薬剤科	宮城景, 芦澤徳波, 原田千菜美, 高本早希, 久保智土, 木村真策
126	第68回日本病院学会	16チャンネル小児(新生児)用コイルを用いた画質評価における基礎的性能の検討	'18/6	金沢市	技術部 放射線科	城本勇輝, 坪田明, 中村亮太, 栗山徳昭, 田中大也, 伊藤直博
127	第34回日本診療放射線技師学術大会 第6回アジア放射線治療シンポジウム	The influence of the reconstruction methods on SBR of DaTSCAN SPECT 「線条体イメージングにおける至適再構成方法お検討」	'18/9	下関市	技術部 放射線科	轟木武司, 前田哲雄, 田中豊
128	第46回日本放射線技術学会秋季学術大会	Compressed Sensing CINEを用いた心臓MRI基礎検討	'18/10	仙台市	技術部 放射線科	伊東直博, 坪田明, 中村亮太, 栗山徳昭, 田中大也
129	第46回日本放射線技術学会秋季学術大会	Difference of quantitative value due to update of analysis software on SPECT imaging of dopamine transporters. 「解析ソフトウェアの更新に伴う定量的指標の検討」	'18/10	仙台市	技術部 放射線科	轟木武司, 前田哲雄, 田中豊
130	第57回日本臨床細胞学会秋期大会	後腹膜原発が示唆される悪性リンパ腫の一例	'18/11	横浜市	技術部 検査科	佐藤圭
131	第63回日本透析医学会学術集会・総会	当院でのICU透析の工夫	'18/6	神戸市	技術部 臨床工学科	宮田成, 稔野益男, 木下亮, 沖田新一, 中西昌平
132	第63回日本透析医学会学術集会・総会	病院移転に伴う透析通信システムFNW+への移行～2施設間の連携～	'18/6	神戸市	技術部 千船クリニック臨床工学科	中島僚太, 瓦谷友勝, 芝健介, 曾根成義, 金鐘一
133	第36回日本肥満症治療学会学術集会	当院におけるフォーミュラ食の使用状況について	'18/6	東京都	技術部 栄養管理科	志賀孝, 中村愛美, 山本梨恵, 酒田藍子, 奥村あゆ, 田中理恵子, 田守義和, 高橋哲也, 北濱誠一
134	第22回日本病態栄養学会年次学術集会	腹腔鏡下スリーブバイパス術により寛解した高度肥満2型糖尿病の一例	'19/1	横浜市	技術部 栄養管理科	志賀孝, 田中理恵子, 奥村あゆ, 酒田藍子, 森井梨恵, 松尾綾乃, 佐藤洋幸, 松山温子, 広中順也, 高橋哲也, 三原俊彦, 北濱誠一
135	第36回日本肥満症治療学会学術集会	高度肥満症患者の運動耐容能に関する調査	'18/6	東京都	技術部 リハビリテーション科	佐々木宏樹, 神谷亮平, 佐伯静香, 高橋哲也, 田守義和, 三原俊彦, 北濱誠一

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
136	第30回大阪府理学療法学会学術大会	両側外側変形性膝関節症に対し、左TKA術にLateral Thrust を認めた症例	'18/7	大阪市	技術部 リハビリテーション科	丸石善久
137	第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	ASAPと安全な食形態の選定	'18/9	仙台市	技術部 リハビリテーション科	森重杏美, 加納瑞恵, 廣木沙織, 山根あや
138	第22回日本心不全学会学術集会	心不全医療のイノベーション 演題タイトル: 高齢心不全患者における退院時歩行速度に関わる因子の検討	'18/10	東京都	技術部 リハビリテーション科	佐々木宏樹, 森沢知之, 玉木 彰
139	第2回リハビリテーション医学会秋季学術集会	地域包括ケア病棟における訪問指導と自宅復帰との関連について	'18/11	仙台市	技術部 リハビリテーション科	山本恵造, 松田愛理
140	第68回日本病院学会	がん緩和地域連携パスを用いた在宅医療への試み	'18/6	金沢市	地域医療部 医療福祉相談科	齊藤りさ

## 論文発表 (2018/4/1~2019/3/31)

No.	表題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著者	掲載年
1	Sleeve Gastrectomy Induced Remission of Slowly Progressive Type 1 Diabetes in a Morbidly Obese Japanese Patient	Internal Medicine	58(5)	675-678	診療部 糖尿病内分泌内科	Hironaka JK, Kitahama S, Sato H, Inoue M, Takahashi T, Tamori Y	2019
2	胆石性膵炎の経過中に肝円索膿瘍を認めた一例	愛仁会医学研究誌	50	5-7	診療部 消化器内科	板東正貴	2019
3	当院での小児尿路感染症の起因菌と薬剤感受性と抗菌薬使用	愛仁会医学研究誌	50	47-50	診療部 小児科	谷口公啓	2019
4	肥満合併症の最新の知見 -肥満関連腎症とその臨床的診断-	肥満症治療学展望	6	44	診療部 外科	松下和子, 北濱誠一	2018
5	診断に苦慮した上位胸髄脊髄硬膜動静脈瘻の1例	愛仁会医学研究誌	50	8-11	診療部 脳神経外科	立林洸太郎	2019
6	大腿骨近位部骨折患者の入院時栄養状態が術後経過に及ぼす影響	愛仁会医学研究誌	50	51-54	診療部 整形外科	松田 茂	2019
7	当科で全腹腔鏡下子宮摘出術を施行した子宮頸管妊娠の2症例	日産婦内視鏡学会誌	34(1)	112-117	診療部 産婦人科	吉田茂樹, 下川 航, 細川雅代, 成田 萌, 宮地真帆, 高橋良輔, 水野祐紀子, 登村信之	2018
8	Robson 10 classificationを用いた当院の帝王切開率に関する検討および海外2施設との比較	日本周産期・新生児医学会雑誌	54(1)	51-54	診療部 産婦人科	益子尚久, 岡田十三, 成田 萌, 水野祐紀子, 大木規義, 安田立子, 稲垣美恵子, 村越 誉, 吉田茂樹	2018
9	透析診療ネットワーク (Alliance for Quality Assessment in Healthcare-Dialysis : AQUAH-D) の構築と多施設共同観察研究の試み	愛仁会医学研究誌	50	55-57	診療部 腎臓内科	中西昌平	2019
10	子宮肉腫の病理	日本婦人科腫瘍学会雑誌	36(2)	141-144	診療部 病理診断科	名方保夫, 吉安可奈子, 大木規義, 村越 誉	2018
11	非がん患者の急変時心肺蘇生に関する意識確認の現状と課題	愛仁会医学研究誌	50	58-59	看護部 8階東病棟 看護科	安田理緒	2019
12	急性期病院における認知症サポートチームの取り組み	愛仁会医学研究誌	50	93-94	看護部 リソース ナース室	栗岡美千代	2019
13	16チャンネル小児(新生児)用コイルを用いた画質評価における基礎的性能の検討	愛仁会医学研究誌	50	60-62	技術部 放射線科	城本勇輝	2019

No.	表題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著者	掲載年
14	病院移転に伴う透析通信システム FutureNetWeb+への移行	愛仁会医学研究誌	50	99-100	技術部 千船クリ ニック臨床 工学科	中島僚太	2019
15	当院病理検査室におけるホルムアルデヒド 曝露対策についての取り組み	愛仁会医学研究誌	50	95-96	技術部 検査科	伏見翔一郎	2019
16	がん緩和地域連携パスを用いた在宅医療へ の試み	愛仁会医学研究誌	50	97-98	地域医療部 医療福祉相 談科	齊藤りさ	2019

## 著書発表 (2018/4/1~2019/3/31)

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁	部署	著者	発行年
1	肥満患者の麻酔	金芳堂/京都	第1版第1刷	53-56 64-73 74-81 98-104 105-108 168-174 175-183 213-234 235-251	診療部 麻酔科	白石としえ, 上北郁男	2018

## その他 (2018/4/1~2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	糖尿病WEBアカデミー講演会	エビデンスに基づいた2型糖尿病の薬物療法- メトホルミンとDDP-4阻害薬併用の有効性-	'18/10	大阪市	診療部 糖尿病内分泌 内科	高橋哲也
2	第125回日本循環器学会近畿地 方会	心膜・腫瘍1	'18/6	大阪市	診療部 循環器内科	尾崎正憲
3	地域で支える高齢者医療を考 える会	認知症医療における地域連携	'19/2	大阪市	診療部 脳卒中内科	瀧本 裕
4	西淀川区いきいき講演会	認知症について	'19/2	大阪市	診療部 脳卒中内科	瀧本 裕
5	The 14th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine in Kobe	Mass Casualty Incident	'18/10	神戸市	診療部 救急診療部	山下公子
6	第24回日本災害医学会総会・学 術集会	一般演題 (ポスター) 6: 国際緊急援助	'19/3	米子市	診療部 救急診療部	山下公子
7	第39回日本肥満学会	千船病院における高度肥満症に対する外科治 療の中期成績 座長演題: 外科療法2	'18/10	神戸市	診療部 整形外科	北濱誠一
8	日本小児麻酔学会第24回大会	小児における四肢の手術症例, 術後疼痛管理 も含めた鎮痛法	'18/10	神戸市	診療部 麻酔科	上北郁男
9	透析アミロイド症研究会	透析アミロイド症とその治療について	'18/7	大阪市	診療部 腎臓内科	金 鐘一
10	ADPKD治療を考える会	多発性嚢胞腎の病態と治療	'19/3	神戸市	診療部 腎臓内科	中西昌平
11	第49回日本婦人科病理学会学術 集会	内膜症関連卵巣腫瘍の病理	'18/12	東京都	診療部 病理診断科	名方保夫
12	医療・健康・介護サイトYomi Dr.	助産師主体の介助「院内助産」…専任担当 チーム, 産科医不足に対応	'18/5	読売新聞	看護部 MFICU看護科	川又睦子
13	112回診療放射線技師画像解析 セミナー	中枢神経と骨軟部領域で日頃よく遭遇する症 候群	'18/5	大阪市	技術部 放射線科	田中寛人
14	115回診療放射線技師画像解析 セミナー	頭部CT: これだけ知ってたら大丈夫!	'19/2	大阪市	技術部 放射線科	田中寛人

# 介護老人保健施設 ユーアイ

## 口頭発表 (2018/4/1~2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第18回大老協懇話会	4日間の入所期間で願いを叶えたターミナルケア	'18/7	大阪市	療養科	魚井翔太
2	第29回全国介護老人保健施設大会埼玉	転倒防止センサーの評価から見てきたもの	'18/10	大宮市	療養科	松岡功治

## 論文発表 (2018/4/1~2019/3/31)

No.	表題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著者	掲載年
1	転倒防止センサーの評価から見てきたもの	愛仁会医学研究誌	50	123-124	療養科	兵底裕美	2019

# 尼崎だいもつ病院

## 口頭発表 (2018/4/1~2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第68回日本病院学会	内服アセスメントシート活用による自己管理移行への有効性	'18/6	金沢市	看護部 四階病棟看護科	金谷恵里
2	第49回日本看護学会看護管理学会術集会	看護業務と患者担当に関する現状の可視化と新たな担当方法の検討	'18/8	仙台市	看護部 看護部長室	植田みゆき
3	第49回日本看護学会慢性期看護学会術集会	神経難病患者に対するパカカラ体操が嚥下機能維持や回復に及ぼす影響	'18/9	静岡市	看護部 三階病棟看護科	寺田典代
4	回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会in舞浜・千葉	回復期リハビリテーション病棟における脳血管疾患患者の転倒分析	'19/2	浦安市	看護部 五階病棟看護科	福元雅子
5	第55回日本リハビリテーション医学会学会術集会	当院地域包括ケア病棟入院患者における栄養障害、サルコペニア有症率の実態調査	'18/6	福岡市	リハ技術部 理学療法科	矢野正剛
6	第68回日本病院学会	当院回復期リハビリテーション病棟入院患者における栄養障害、サルコペニア有症率の実態調査	'18/6	金沢市	リハ技術部 理学療法科	福山純史
7	第30回記念大会兵庫県立理学療法学会術大会	当院回復期リハビリテーション病棟における運動器疾患患者の入院時栄養状態と骨格筋指数・筋力の経時的変化	'18/6	神戸市	リハ技術部 理学療法科	渡邊優人
8	第58回近畿理学療法学会術大会	地域包括ケア病棟低栄養患者に対する集団リハビリテーションの効果～運動器疾患に着目して～	'19/1	奈良市	リハ技術部 理学療法科	中本侑甫
9	第58回近畿理学療法学会術大会	当院回復期リハビリテーション病棟入院患者における栄養障害、サルコペニア有症率の実態調査(第2報)	'19/1	奈良市	リハ技術部 理学療法科	福山純史
10	兵庫県理学療法士会尼崎ブロック新人発表会2018	長期臥床による廃用を併発した多発性脳梗塞症例に対して体重免荷式トレッドミルトレーニングを施行し歩行再建獲得に至った一例	'19/1	尼崎市	リハ技術部 理学療法科	河原 舞
11	兵庫県理学療法士会尼崎ブロック新人発表会2018	右脳幹出血にて網様体脊髄路障害を呈した症例～歩行時の姿勢制御機能に着目して～	'19/1	尼崎市	リハ技術部 理学療法科	南 亮介
12	回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会in舞浜・千葉	脳卒中片麻痺患者に対する長下肢装具を用いた経験年数による介助歩行技術の比較	'19/2	舞浜市	リハ技術部 理学療法科	出口綾香
13	第6回あまつなぎ研修会 「リハビリどこでどの様に活用しますか？」	通所リハビリテーション	'19/2	尼崎市	リハ技術部 作業療法科	菊 修一郎
14	回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会in舞浜・千葉	療法士のためのミドルマネジメント教育体制の構築に向けて	'19/2	浦安市	リハ技術部 作業療法科	菊 修一郎
15	第68回日本病院学会	回復期病院における糖尿病回診チームの取り組みと結果～チーム介入で血糖コントロールにどれくらい影響を与えるのか～	'18/6	金沢市	診療技術部 薬剤科	ソディ保子
16	第11回日本在宅薬学会学会術大会	パーキンソン病患者のデュオドーパ(®)配合経腸用液投与時間外におけるレボドパ製剤服用方法の検討	'18/7	大阪市	診療技術部 薬剤科	大西暁枝
17	第51回日本薬剤師会学会術大会	糖尿病患者に対し退院後も継続した多職種支援が有効であった1症例	'18/9	金沢市	診療技術部 薬剤科	山本里香
18	第51回日本薬剤師会学会術大会	介護老人保健施設における薬剤師の業務について～薬剤管理・ポリファーマシー対策～	'18/9	金沢市	診療技術部 薬剤科	大西暁枝
19	第29回全国介護老人保健施設大会埼玉	介護老人保健施設での薬剤師の関わり	'18/10	さいたま市	診療技術部 薬剤科	ソディ保子
20	第28回日本医療薬学会年会	回復期病院における糖尿病回診チームの取り組みと結果	'18/11	神戸市	診療技術部 薬剤科	ソディ保子
21	兵庫県病院薬剤師会尼崎支部会	介護老人保健施設における薬剤師の業務について	'19/2	尼崎市	診療技術部 薬剤科	大西暁枝
22	兵庫県病院薬剤師会尼崎支部会	回復期病棟での病棟業務	'19/2	尼崎市	診療技術部 薬剤科	弓場優佳

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
23	リハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018	超音波装置を用いた大腿部筋厚測定の有効性－膝伸展筋力との検証－	'18/10	米子市	診療技術部放射線科	山田友也
24	第49回日本看護学会ヘルスプロモーション	訪問看護師が抱える不安の原因と対処に関する検討	'18/9	岡山市	地域包括ケア推進センター	野村善美
25	第68回日本病院学会	ヒト咬傷と発生後の感染対策システム構築	'18/6	金沢市	感染対策室	木村美緒

## 論文発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	表題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著者	掲載年
1	Multiple Proteinopathies in Familial ALS Cases With Optineurin Mutations.	J Neuropathol Exp Neurol.	77(2)	128-138	診療部	Ayaki T, Ito H, <b>Konure O</b> , Kamada M, Nakamura M, Wate R, Kusaka H, Yamaguchi Y, Li F, Kawakami H, Urushitani M, Takahashi R	2018
2	ヒト咬傷と引っ掻き発生後の感染対策システムの構築	愛仁会医学研究誌	50	116-117	感染対策室	木村美緒	2019

## その他 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	担当者
1	兵庫県理学療法士会尼崎ブロック新人発表会2018	座長	'19/1	尼崎市	リハ技術部理学療法科	矢野正剛
2	兵庫県理学療法士会尼崎ブロック新人発表会2018	座長	'19/1	尼崎市	リハ技術部理学療法科	南 健史
3	兵庫県作業療法士会 阪神北・南ブロック第2回現職者共通研修 事例報告・事例検討	座長	'19/2	尼崎市	リハ技術部作業療法科	菊 修一郎
4	尼崎薬剤師会研修会	糖尿病について (グループセッション) 司会	'18/9	尼崎市	診療技術部薬剤科	ソディ保子
5	尼崎薬剤師会研修会	当院の糖尿病治療について 演者	'18/9	尼崎市	診療技術部薬剤科	山本里香
6	第29回ほんまる生き活きセミナー	備える！考える！やってみる！災害時の感染対策 講師	'18/12	尼崎市	感染対策室	木村美緒
7	平成30年度厚生労働省老人保健健康推進等事業	平成30年度看護師出前研修 講師	'19/2	神戸市	感染対策室	木村美緒

No.	表題	掲載誌名	出版社	掲載頁	部署	著者	発行年
1	看護師を育てるプロセスの見える化－管理者も育つ・相手も育つ人材育成－ 共著	第48回 (平成29年度) 日本看護学会論文集 看護管理 (2018)	公益社団法人日本看護協会	293-296	看護部看護部長室	植田みゆき	2019

# 高槻病院

## 口頭発表 (2018/4/1~2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	米国内科学会日本支部年次総会2018	Prospective cohort study of the impact of counseling about artificial hydration and nutrition(AHN) for the elderly who cannot get enough oral intake.	'18/6	京都市	診療部 総合内科	Miki A, Tsutsumi T
2	The 3rd American College of Physicians India Chapter Congress	Japanese Medicine in overaging society	'18/8	Lucknow, India	診療部 総合内科	Takahiko Tsutsumi
3	第221回日本内科学会近畿地方会	胆嚢炎と類似した経過を辿った血管内大細胞型B細胞リンパ腫の1例	'18/9	大阪市	診療部 総合内科	平山沙織
4	第221回日本内科学会近畿地方会	ウレアーゼ産生菌の閉塞性尿路感染症により高アンモニア血症を来した1例	'18/9	大阪市	診療部 総合内科	伊佐敷頌太
5	第221回日本内科学会近畿地方会	地震後に皮下出血が多発したことにより Gardner Diamond Syndromeが疑われた1例	'18/9	大阪市	診療部 総合内科	亀谷耕平
6	第3回メディカルイラストレーション学会	1枚の絵でコンセプトを~Medical Cartoonの意義~	'18/11	東京都	診療部 総合内科	伊佐敷頌太
7	日本NP学会第4回学術集会	診療看護師による地域包括ケア病棟での高齢者診療	'18/12	仙台市	診療部 総合内科	向井拓也
8	内科学会近畿支部第223回	Corynebacterium riegellii による尿路感染症から重篤な意識障害を来した1例	'19/3	京都市	診療部 総合内科	丹羽諒太郎
9	Society of hospital medicine	The impact of counseling about artificial hydration and nutrition for the elderly who cannot get enough oral intake Prospective cohort study	'19/3	Washington, USA	診療部 総合内科	Ayako Miki
10	第41回日本呼吸器内視鏡学会	粘液栓除去と吸入ステロイドのみで改善を認めたアレルギー性気管支肺アスペルギルス症疑いの1例	'18/5	東京都	診療部 呼吸器内科	山田 潤, 玉田敏也, 中村美保, 小濱みずき, 平林 彩, 梅谷俊介, 奥野恵子, 船田泰弘, 伊倉義弘
11	第108回日本肺癌学会関西支部学術集会	ROS1 融合遺伝子陽性肺癌に対するクリゾチニブで食道炎を認めた一例	'18/6	大阪市	診療部 呼吸器内科	小嶋真理子, 山田 潤, 中村美保, 吉村遼佑, 福井崇文, 小濱みずき, 梅谷俊介, 奥野恵子, 船田泰弘, 伊倉義弘 <sup>1)</sup> 1) 病理科
12	第16回日本臨床腫瘍学会	非小細胞肺癌(非扁平上皮癌)完全切除症例に対するCDDP+PEMショートハイドレーション療法による術後補助科学療法の認容性試験	'18/7	神戸市	診療部 呼吸器内科	奥野恵子, 立原素子 <sup>1)</sup> , 徳永俊太郎 <sup>1)</sup> , 堂國良太 <sup>1)</sup> , 桂田直子 <sup>1)</sup> , 中田恭介 <sup>1)</sup> , 山本正嗣 <sup>1)</sup> , 上領 博 <sup>1)</sup> , 小林和幸 <sup>1)</sup> , 田中雄吾 <sup>2)</sup> , 船田泰弘, 真庭謙昌 <sup>2)</sup> , 西村善博 <sup>1)</sup> 1) 神戸大学大学院医学研究科内科学講座呼吸器内科学 2) 神戸大学大学院医学研究科外科学講座呼吸器外科学分野
13	第221回日本内科学会近畿地方会	腎移植後に発症したレジオネラ肺炎の1例	'18/9	大阪市	診療部 呼吸器内科	清水祐里, 梅谷俊介, 小濱みずき, 山田 潤, 奥野恵子, 中村美保, 船田泰弘

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
14	第221回日本内科学会近畿地方会	濃硫酸吸入による化学性肺障害を来した1例	'18/9	大阪市	診療部 呼吸器内科	松村 考, 小嶋真理子, 山田 潤, 中村美保, 吉村遼佑, 小濱みずき, 福井崇文, 梅谷俊介, 奥野恵子, 船田泰弘
15	第46回日本集中治療医学会	RST活動及び鎮静プロトコルの導入がICUに与えた影響に関する検討	'19/3	京都市	診療部 呼吸器内科	山田 潤, 梅谷俊介, 船田泰弘
16	第104回日本消化器病学会総会	当院で経験した門脈ガス血症の検討	'18/4	東京都	診療部 消化器内科	権田真知, 池内愛実, 谷本直紀, 小川浩史, 澤井寛明, 角山沙織, 中島英信, 大須賀達也, 長谷川和範, 平野誠一, 中島卓利
17	Digestive Disease Week 2018	Effects of Low-Dose Aspirin Administration on Cirrhosis-related Thrombocytopenia.	'18/6	Washington DC	診療部 消化器内科	Osuga T, Yoshiyasu K, Yoshida S, Kim S, Ikura Y
18	日本消化器病学会近畿支部第109回例会	偶発的に見つかった空腸異所性腺の一例	'18/9	大阪市	診療部 消化器内科	石田亮介, 池内愛実, 谷本直紀, 権田真知, 小川浩史, 澤井寛明, 角山沙織, 大須賀達也, 長谷川和範, 中島卓利
19	第101回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会	膵癌の合併が疑われた自己免疫性膵炎の一例	'18/11	大阪市	診療部 消化器内科	池内愛実, 石田亮介, 権田真知, 谷本直紀, 小川浩史, 澤井寛明, 角山沙織, 大須賀達也, 長谷川和範, 中島卓利
20	第91回日本胃癌学会	胃癌術後17年後に皮膚転移再発を来し, SOX療法が奏功した一例	'19/2	沼津市	診療部 消化器内科	澤井寛明, 石田亮介, 池内愛実, 谷本直紀, 権田真知, 小川浩史, 角山沙織, 大須賀達也, 長谷川和範, 中島卓利
21	第27回日本心血管インターベンション治療学会	当院におけるDCA連続8症例の短期成績	'18/8	神戸市	診療部 循環器内科	湯口 賢, 安部博昭, 佐々木論, 村井直樹, 中島健爾, 高岡秀幸
22	第66回日本心臓病学会学術集会	肺高血圧症と右心のremodeling	'18/9	大阪市	診療部 循環器内科	佐野浩之
23	第66回日本心臓病学会学術集会	初心者の漢方処方でも症状の改善が得られた3症例	'18/9	大阪市	診療部 循環器内科	安部博昭
24	第221回日本内科学会近畿地方会	特発性冠動脈解離により急性心筋梗塞を来した1例	'18/9	大阪市	診療部 循環器内科	藤岡知夫, 中島健爾, 高岡秀幸, 安部博昭, 村井直樹, 湯口 賢, 佐々木論, 朝倉絢子, 田中友望
25	第222回日本内科学会近畿地方会	心機能の改善経過を観察しえた周産期心筋症の1例	'18/12	大阪市	診療部 循環器内科	朝倉絢子, 佐野浩之, 上村航也, 田中友望, 佐々木論, 湯口 賢, 村井直樹, 中島健爾, 安部博昭, 高岡秀幸
26	第32回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	CABG後にACSをきたし, graft経由のPCI時にperfusion型balloonのlonginflationが奏功した一例	'19/2	大阪市	診療部 循環器内科	朝倉絢子, 上村航也, 佐野浩之, 田中友望, 佐々木論, 湯口 賢, 村井直樹, 中島健爾, 安部博昭, 高岡秀幸
27	第32回日本心血管インターベンション治療学会近畿地方会	Rotational atherectomy後に合併した心タンポナーデで出血点の同定に難渋した一例	'19/2	大阪市	診療部 循環器内科	佐々木論, 朝倉絢子, 上村航也, 佐野浩之, 田中友望, 湯口 賢, 村井直樹, 中島健爾, 安部博昭, 高岡秀幸
28	第223回日本内科学会近畿地方会	透析困難に対する低分子デキストラン製剤投与が一因と考えられた急性肝不全の1例	'19/3	大阪市	診療部 循環器内科	藤岡知夫, 中島健爾, 高岡秀幸, 安部博昭, 村井直樹, 佐々木論, 湯口 賢, 田中友望, 長谷川絢子
29	第83回日本循環器学会	The Predictor of Atrial Reverse Remodeling after Catheter Ablation in Patients with Non-Paroxysmal Atrial Fibrillation	'19/3	横浜市	診療部 循環器内科	田中友望, 山下宗一郎, 山城荒平



No.	表 題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著 者	掲載年
30	Approximately 30% of Functioning Anterior Cruciate Ligaments Are Sacrificed for Knee Arthroplasty.	J Knee Surg.	Epub ahead of print		診療部 整形外科	Hiranaka T, Hida Y, Fujishiro T, Kamenaga T, Kikuchi K, Yoshikawa R, Tachibana S, Okamoto K	2019
31	Rotational position of the tibial component can decrease bony coverage of the tibial component in Oxford mobile-bearing unicompartmental knee arthroplasty.	Knee	26(2)	459-465	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Hida Y, Fujishiro T, Okamoto K.	2019
32	第137回近畿産婦人科学会学術集会周産期シンポジウム記録「妊婦が安心して満足できる分娩を目指して」シンポジウムのまとめ	産婦人科の進歩	70	167	診療部 産婦人科	中後 聡	2018
33	臍帯卵膜付着症例では幸帽児帝王切開は回避すべきである	産婦人科の進歩	70(2)	252	診療部 産婦人科	柴田貴司, 西川茂樹, 福岡泰教, 細野佐代子, 徳田妃里, 中後 聡, 小辻文和	2018
34	子宮摘出後骨盤臓器脱修復に対する「筋膜巻き出し術」の治療成績	産婦人科の進歩	70(2)	246	診療部 産婦人科	大石哲也, 加藤大樹, 柴田貴司, 徳田妃里, 小辻文和	2018
35	臍帯相互巻絡による-絨毛膜-羊膜(MM) 双胎-児死亡の管理経験 MRIでの生存児の中樞神経評価の有用性について	産婦人科の進歩	70(2)	241	診療部 産婦人科	小寺知揮, 中後 聡, 飯塚徳昭, 柴田貴司, 大石哲也, 小辻文和	2018
36	妊娠30週にIUDとなった全前置胎盤症例経膈分娩トライアルに向けた思考プロセスと臨床経過	産婦人科の進歩	70(2)	240	診療部 産婦人科	飯塚徳昭, 松本真歩, 西川茂樹, 細野佐代子, 柴田貴司, 中後 聡, 小辻文和	2018
37	妊娠中の急性虫垂炎を早期に診断するためには 6例の経験から学び・導かれた診療方針	産婦人科の進歩	70(2)	239	診療部 産婦人科	加藤大樹, 徳田妃里, 柴田貴司, 西川茂樹, 大石哲也, 中後 聡, 小辻文和	2018
38	肺塞症との鑑別を求められた産褥周産期心筋症の1例 検査の前の正確な病歴と理学所見把握の重要性	産婦人科の進歩	70(2)	227	診療部 産婦人科	神谷亮雄, 福岡泰教, 徳田妃里, 柴田貴司, 加藤大樹, 中後 聡, 小辻文和	2018
39	子宮底部横切開創部の術後MRIと次回帝切時観察による評価	産婦人科の進歩	70(2)	219	診療部 産婦人科	中後 聡, 加藤大樹, 柴田貴司, 徳田妃里, 大石哲也, 小辻文和	2018
40	子宮頸部側壁縦方向裂創の修復法2症例の経験から	産婦人科手術	29	158	診療部 産婦人科	福岡泰教, 加藤大樹, 柴田貴司, 中後 聡, 大石哲也, 小辻文和	2018
41	非典型的な臨床経過を辿った子宮破裂の2症例 臨床症状発現機序の考察と修復の要点	産婦人科手術	29	158	診療部 産婦人科	徳田妃里, 西川茂樹, 柴田貴司, 加藤大樹, 中後 聡, 大石哲也, 小辻文和	2018
42	骨盤臓器脱に対する”恥骨頸部筋膜出し法” 前脛壁Total Repairのためのポイント	産婦人科手術	29	129	診療部 産婦人科	大石哲也, 加藤大樹, 柴田貴司, 徳田妃里, 小辻文和	2018
43	Malignant lymphoma of the ovary: A diagnostic pit fall of intraoperative consultation.	Int J Gynecol Pathol.	in press	doi: 10.1097/PGP.0000000000000571	診療部 産婦人科	Iizuka N, Ikura Y, Fukuoka Y, Shibata T, Okamoto M, Kamiya A, Oishi T, Kotsuji F, Iwai Y	2018
44	25年間以上無治療で経過し、治療が著効した眼筋型重症筋無力症の1例	臨床眼科	73(3)	381-386	診療部 眼科	丸山会里, 西川優子, 戸成匡宏, 松尾純子, 奥 英弘, 菅澤 淳, 池田恒彦, 木村文治	2019
45	慢性膿皮症に対する天蓋除去法の治療経験	日本形成外科学会誌	38	543-549	診療部 形成外科	岡本豊子, 黒川憲史	2018
46	【実地医家のための画像診断実践ガイド】骨盤 前立腺	Medical Practice	35巻臨増	255-259	診療部 放射線イメージングセンター	高橋 哲	2018

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
45	第121回日本小児科学会	当院における小児救急外来の外因性疾患の検討	18/4	福岡市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	藤崎拓也, 起塚 庸, 大西 聡, 橋村裕也, 内山敬達, 南 宏尚
46	第121回日本小児科学会	当院におけるロタウィルス胃腸炎の疾患動態に関する検討	18/4	福岡市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	米田徳子
47	第36回大阪食物アレルギー懇話会	ゆずジュースでアナフィラキシーを呈した10歳の男児例	18/5	大阪市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	松井美樹, 谷内昇一郎, 仲宗根瑠花, 李 崇至, 郷間 環, 榎本真宏, 角谷登美子, 西野昌光, 南 宏尚
48	第36回大阪食物アレルギー懇話会	スギ皮下免疫療法が有効であった花粉-食物アレルギー症候群の一例	18/5	大阪市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	仲宗根瑠花, 谷内昇一郎, 松井美樹, 李 崇至, 郷間 環, 榎本真宏, 角谷登美子, 西野昌光, 南 宏尚
49	第60回日本小児神経学会	中心髄質静脈の血栓化をきたし痙攣で発症した髄質静脈奇形の1例	18/5	千葉市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	仲宗根瑠花, 宇都宮英綱 <sup>1)</sup> , 影山 悠 <sup>2)</sup> , 原田敦子 <sup>1)</sup> , 福屋章悟 <sup>3)</sup> , 前野和重 <sup>3)</sup> , 来田路子, 大西 聡, 橋村裕也, 内山敬達, 起塚 庸, 南 宏尚 1) 小児神経センター 2) 小児脳神経外科 3) 脳神経外科
50	第60回日本小児神経学会	短期記憶障害を呈した単純ヘルペスウイルスによる辺縁系脳炎の8歳女児例	18/5	千葉市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	松井美樹, 山本和宏, 宇都宮英綱, 大西 聡, 来田路子, 橋村裕也, 起塚 庸, 内山敬達, 南 宏尚
51	第27回北摂四医師会医学会総会	オマリズマブ併用牛乳急速経口免疫療法に有効性と安全性：無作為比較試験	18/6	高槻	診療部 小児科外 来・小児病 棟	谷内昇一郎
52	第33回日本小児救急医学会	気管挿管後に急激な動的過膨張を発症した鋳型気管支炎の2例	18/6	さいたま市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	森 雅啓, 起塚 庸, 山本和弘, 松田卓也, 大西 聡, 橋村裕也, 内山敬達, 橋本和幸, 茂原聖史, 南 宏尚
53	第67回日本アレルギー学会	スギ皮下免疫療法が有用であった花粉-食物アレルギー症候群の1例	18/6	千葉市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	仲宗根瑠花, 谷内昇一郎, 郷間 環, 榎本真宏, 大西 聡, 橋村裕也, 内山敬達, 起塚 庸, 南 宏尚
54	第67回日本アレルギー学会	オマリズマブ併用牛乳急速経口免疫療法におけるTリンパ球サブセットの検討	18/6	千葉市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	谷内昇一郎, 副島和彦, 高橋雅也, 畑埜泰子
55	第42回日本遺伝カウンセリング学会	先天性疾患に伴い在宅医療を必要とする小児の臨床像	18/6	仙台市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	四本由郁, 南 宏尚, 玉置知子
56	第53回日本小児腎臓病学会	腸炎症状と著名な腹水からSLEの診断に至った女児例	18/6	福島市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	石河慎也, 橋村裕也, 西田敬弘, 大西 聡, 起塚 庸, 内山敬達, 谷内昇一郎, 吉川徳茂, 南 宏尚
57	第54回日本小児循環器学会	Fontan術前の体肺動脈側副血管に対する治療戦略：小児心臓外科医とのコラボレーション（第二報）	18/7	横浜市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	内山敬達, 根本慎太郎 <sup>1)</sup> , 岸 勘太 <sup>2)</sup> 1) 大阪医科大学胸部心臓 血管外科 2) 大阪医科大学小児科

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
58	第54回日本周産期・新生児医学会	X連鎖性遺伝性水頭症児の遺伝学的診断と遺伝カウンセリングの経験	'18/7	東京都	診療部 小児科外 来・小児病棟	小山智史, 長坂美和子, 原田敦子, 四本由郁, 菊池 新, 武井安津子, 片山義規, 池上 等, 夫 律子, 南 宏尚
59	第54回日本周産期・新生児医学会	羊水過少に伴いdry lung syndromeを発症した早産児の臨床的特徴	'18/7	東京都	診療部 小児科外 来・小児病棟	中田有紀, 片山義規, 自見仁美, 郷間 環, 田村 誠, 長坂美和子, 菊池 新, 武井安津子, 池上 等, 南 宏尚
60	第54回日本周産期・新生児医学会	在胎22週で出生し腸間膜裂孔ヘルニアによる絞扼性イレウスを発症したが、積極的な外科治療で救命できた1例	'18/7	東京都	診療部 小児科外 来・小児病棟	田村 誠, 菊池 新, 中田有紀, 自見仁美, 郷間 環, 長坂美和子, 武井安津子, 片山義規, 池上 等, 南 宏尚, 津川二郎, 西島栄治
61	第10回日本こども虐待医学会	母によるインスリン投与によって低血糖をきたした1歳女児例	'18/8	高松市	診療部 小児科外 来・小児病棟	福嶋志徳, 大西 聡, 起塚 庸, 菊池 新, 橋倉尚美 <sup>1)</sup> , 久世宏美 <sup>1)</sup> , 田口真規子 <sup>1)</sup> 1) こどもと家族の支援センター
62	第25回日本小児高血圧研究会	非典型的なMRI所見であるも臨床的にPRESが疑われ、一過性脳血流低下を証明し得た1例	'18/9	名古屋市	診療部 小児科外 来・小児病棟	石森真吾, 北角英晶 <sup>1)</sup> , 増田知佳 <sup>1)</sup> , 城戸拓海 <sup>1)</sup> , 本郷裕斗 <sup>1)</sup> , 藤村順也 <sup>1)</sup> , 松本和徳 <sup>1)</sup> , 金川温子 <sup>1)</sup> , 平田量子 中尻智史 <sup>1)</sup> , 橋本総子 <sup>1)</sup> , 沖田 空 <sup>1)</sup> , 阪田美徳 <sup>1)</sup> , 親里嘉展 <sup>1)</sup> , 西山敦史 <sup>1)</sup> , 米谷昌彦 <sup>1)</sup> , 1) 加古川中央市民病院小児科
63	第51回日本小児呼吸器学会	陽・陰圧体外式人工呼吸器による持続陰圧呼吸補助が奏功した特発性縦隔気腫の4歳児例	'18/9	札幌市	診療部 小児科外 来・小児病棟	小山智史, 起塚 庸, 福嶋志徳, 大西 聡, 橋村裕也, 内山敬達, 谷内昇一郎, 南 宏尚
64	第51回日本小児呼吸器学会	後天性声門下嚢胞の1歳男児例	'18/9	札幌市	診療部 小児科外 来・小児病棟	近藤 淳, 起塚 庸, 橋村裕也, 内山敬達, 津川二郎 <sup>1)</sup> , 西島栄治 <sup>1)</sup> , 南 宏尚 1) 小児外科
65	第51回日本小児呼吸器学会	咽頭異物により気道救急に陥った11カ月女児例	'18/9	札幌市	診療部 小児科外 来・小児病棟	山根弘美, 李 崇至, 大西 聡, 起塚 庸, 田原慎太郎, 土居ゆみ, 岡本光正, 津川二郎

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
66	第63回日本人類遺伝学会	「Sotos症候群 家族の会」の支援	18/10	横浜市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	四本由郁, 覚道真理子 <sup>2,3)</sup> , 佐藤智佳 <sup>2,4)</sup> , 岡田千穂 <sup>2)</sup> , 鹿嶋見奈 <sup>2)</sup> , 石川真澄 <sup>5)</sup> , 野中路子 <sup>6)</sup> , 和田敬仁 <sup>7)</sup> , 岩越美志 <sup>8)</sup> , 原田敦子 <sup>9)</sup> , 玉置知子 <sup>1,2)</sup> 1) 高槻病院遺伝医療部門 2) 兵庫医科大学病院遺伝 子診療部 3) 高清水高井病院耳鼻咽 喉科 4) 関西医科大学臨床病理 学 5) 信州大学病院遺伝子診 療部 6) 兵庫県立こども発達支 援センター 7) 京都大学大学院医学研 究科医療倫理学・遺伝医療 学 8) 神戸常盤大学保健科学 部看護学科 9) 高槻病院小児脳神経外 科
67	The Joint Congress of the Asia Pacific Association of Allergy, Asthma and Clinical Immunology & the Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiriology and Immunology	International comparison of Japanese food allergy children in Thailand and Japan	18/10	バンコク, タイ	診療部 小児科外 来・小児病 棟	Masahiro Enomoto, Miki Matsui, Varatda Plainetr, (Naresrut Naruenatwanich) Masamitsu Nisino, Hirotaka Minami, Shoichiro Taniuchi
68	The Joint Congress of the Asia Pacific Association of Allergy, Asthma and Clinical Immunology & the Asia Pacific Association of Pediatric Allergy, Respiriology and Immunology	A 10-year-old boy with anaphylaxis after drinking Citrus Yuzu: detection of the newly identified Citrus yuzu allergens	18/10	バンコク, タイ	診療部 小児科外 来・小児病 棟	Miki Matsui, Shoichiro Taniuchi, Enomoto Kazuhiro, Hirotaka Minami, Yasuto Kondo
69	第55回日本小児アレルギー学会	ゆずジュースでアナフィラキシーを起こした10歳の男児例	18/10	岡山市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	松井美樹, 谷内昇一郎, 仲宗根瑠花, 李 崇至, 郷間 環, 榎本真宏, 角谷登美子, 南 宏尚, 近藤康人
70	第55回日本小児アレルギー学会	食物アレルギー/アナフィラキシー 当科で経験したアナフィラキシー症例の検討 二相性反応について	18/10	岡山市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	李 崇至, 谷内昇一郎, 榎本真宏, 起塚 庸, 南 宏尚
71	第55回日本小児アレルギー学会	オマリズマブ併用牛乳経口免疫療法の現状と展望	18/10	岡山市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	谷内昇一郎, 榎本真宏
72	第55回日本小児アレルギー学会	ラコール®(経腸栄養剤)によりアナフィラキシーショックを呈した乳児例	18/10	岡山市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	郷間 環, 谷内昇一郎, 松井美樹, 仲宗根瑠花, 李 崇至, 榎本真宏, 角谷登美子, 西野昌光, 南 宏尚
73	第55回日本小児アレルギー学会	当院で経験したFPIESの4例	18/10	岡山市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	仲宗根瑠花, 谷内昇一郎, 石森真吾, 大西 聡, 起塚 庸, 内山敬達, 榎本真宏, 西野昌光, 南 宏尚

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
74	第40回小児腎不全学会	夜尿症の精査中に発見された、低形成腎による慢性腎臓病の1例	18/11	宮崎市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	石森真吾, 北角英晶 <sup>1)</sup> , 増田知佳 <sup>1)</sup> , 城戸拓海 <sup>1)</sup> , 本郷裕斗 <sup>1)</sup> , 藤村順也 <sup>1)</sup> , 松本知徳 <sup>1)</sup> , 金川温子 <sup>1)</sup> , 平田量子, 中尻智史 <sup>1)</sup> , 橋本総子 <sup>1)</sup> , 沖田 空 <sup>1)</sup> , 阪田美徳 <sup>1)</sup> , 親里嘉展 <sup>1)</sup> , 西山敦史 <sup>1)</sup> , 米谷昌彦 <sup>1)</sup> 1) 加古川中央市民病院
75	関西アレルギー免疫療法研究会	小児の免疫療法	18/11	大阪市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	谷内昇一郎
76	第63回日本新生児成育医学会	極低出生体重児のメトヘモグロビン基準値に関する検討	18/11	東京都	診療部 小児科外 来・小児病 棟	郷間 環, 片山義規, 中田有紀, 自見仁美, 田村 誠, 長坂美和子, 岸上 真, 菊池 新, 武井安津子, 池上 等, 南 宏尚
77	第63回日本新生児成育医学会	新生児分娩外傷を疑われた先天性頭蓋疾患の2例	18/11	東京都	診療部 小児科外 来・小児病 棟	四本由郁
78	第7回LFA主催講演会	地域で考える防災	18/11	大阪市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	谷内昇一郎
79	第276回日本小児科学会兵庫県地方会	治療抵抗性の眼筋型重症筋無力症に対してステロイドパルス療法を行った2歳女児例	19/2	尼崎市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	洪 聖媛, 田中 司 <sup>1)</sup> , 西山将広 <sup>1)</sup> , 永井正志 <sup>1)</sup> , 坊 亮輔 <sup>1)</sup> , 石田悠介 <sup>1)</sup> , 富岡和美 <sup>1)</sup> , 村尾真理子 <sup>1)</sup> , 粟野宏之 <sup>1)</sup> , 永瀬裕朗 <sup>1)</sup> , 飯島一誠 <sup>1)</sup> 1) 神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野
80	第32回近畿小児科学会	小児RSV感染症に対する体外式持続陰圧換気(Continuous negative extrathoracic pressure:CNEP)の検討	19/3	京都市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	石森真吾, 大西 聡, 起塚 庸, 内山敬達, 南 宏尚
81	第32回近畿小児科学会	2次性血球貪食性リンパ球組織症に至ったが自然軽快したヒトパレコウイルス感染症の1ヶ月女児例	19/3	京都市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	西田敬弘, 石森真吾, 中田恵子, 近藤 淳, 谷口由紀, 大西 聡, 起塚 庸, 内山敬達, 谷内昇一郎, 南 宏尚
82	第32回近畿小児科学会	Heiner症候群が疑われた1例	19/3	京都市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	近藤 淳, 谷内昇一郎, 石森真吾, 大西 聡, 起塚 庸, 内山敬達, 南 宏尚
83	第32回近畿小児科学会	頭部外傷に伴う左内頸動脈・攣縮によって右顔面神経・右不全麻痺を来した10歳女児の1例	19/3	京都市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	西田敬弘, 原田敦子, 木本優希, 宇都宮英綱, 大西 聡, 起塚 庸, 石森真吾, 内山敬達, 谷内昇一郎, 南 宏尚
84	第32回近畿小児科学会	皮膚型から全身型結節性多発動脈炎へ移行したと考えられる9歳女児例	19/3	京都市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	近藤 淳, 谷内昇一郎, 石森真吾, 大西 聡, 起塚 庸, 内山敬達, 南 宏尚

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
85	LFA主催エビペン講演会	親子エビペン講習会	' 19/3	高槻市	診療部 小児科外 来・小児病 棟	谷内昇一郎
86	第121回日本小児科学会	超早産児の急性期における相対的副腎不全と短期予後に関する検討	' 18/4	福岡市	診療部 NICU・GCU	池上 等, 南 宏尚, 武井安津子, 片山義規, 菊池 新, 長坂美和子, 田村 誠, 郷間 環, 自見仁美, 福嶋志徳, 中田有紀, 近藤 淳, 小山智史
87	第121回日本小児科学会	当院で経験した一側肺動脈欠損の2例	' 18/4	福岡市	診療部 NICU・GCU	小川智史, 内山敬達, 福島志徳, 郷間 環, 長坂美和子, 池上 等, 南 宏尚
88	Pediatric Academic Societies Meeting 2018	Impact of Ventilator-Associated Pneumonia on the Need for Home Oxygen Therapy in Preterm Infants Born at <26 Weeks Gestation	' 18/5	Toronto, Canada	診療部 NICU・GCU	Makoto Tamura, Masahiro Enomoto, Shin Kikuchi, Hitoshi Ikegami, Hirotaka Minami, Yoshinori Katayama
89	Pediatric Academic Societies Meeting 2018	Non-utility of Routine Peripherally Inserted Central Venous Catheter Tip Cultures for the Diagnosis of Catheter-Related Bloodstream Infection in Neonates	' 18/5	Toronto, Canada	診療部 NICU・GCU	Makoto Tamura, Masayoshi Mori, Masahiro Enomoto, Shin Kikuchi, Hitoshi Ikegami, Hirotaka Minami, Yoshinori Katayama
90	Pediatric Academic Societies Meeting 2018	Morbidities and Neurodevelopmental Outcomes at 18-Months-Corrected Age Among Periviable Infants Receiving Active Lifesaving Treatment	' 18/5	Toronto, Canada	診療部 NICU・GCU	Miwako Nagasaka, Masahiro Enomoto, Shin Kikuchi, Hitoshi Ikegami, Hirotaka Minami, Yoshinori Katayama
91	Pediatric Academic Societies Meeting 2018	Reliability of Total Bilirubin Measurements in Whole Blood from Term Neonates Using a Blood Gas Analyzer	' 18/5	Toronto, Canada	診療部 NICU・GCU	Miwako Nagasaka, Masahiro Enomoto, Shin Kikuchi, Hitoshi Ikegami, Hirotaka Minami, Yoshinori Katayama
92	第16回日本周産期循環管理研究会	当院における動脈管閉鎖に対する光線療法との関与の検討	' 18/5	和歌山市	診療部 NICU・GCU	自見仁美, 池上 等, 中田有紀, 郷間 環, 田村 誠, 長坂美和子, 菊池 新, 片山義規, 武井安津子, 南 宏尚
93	European Human Genetics Conference 2018	Digenic mutations of MYH7 and RYR2 in siblings manifesting with severe cardiac dysfunction	' 18/6	Milan, Italy	診療部 NICU・GCU	M. Nagasaka <sup>1,2)</sup> , M. Taniguchi- Ikeda <sup>1,3,4)</sup> , H. Inagaki <sup>4)</sup> , I. Morioka <sup>1)</sup> , H. Kurahashi <sup>4)</sup> , K. Iijima <sup>1)</sup> 1)Department of Pediatrics, Kobe University Graduate School of Medicine 2)Department of Pediatrics and Neonatology, Takatsuki General Hospital 3)Division of Genetic Counseling, Kobe University Hospital 4)Division of Molecular Genetics, Institute for Comprehensive Medical Science, Fujita Health University

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
94	第54回日本周産期・新生児医学会	X連鎖性遺伝性水頭症児の遺伝学的診断と遺伝カウンセリングの経験	18/7	東京都	診療部 NICU・GCU	小山智史, 長坂美和子, 原田敦子 <sup>1)</sup> , 四本由郁, 菊池 新, 武井安津子, 片山義規, 池上 等, 夫 律子 <sup>2)</sup> , 南 宏尚 1) 高槻病院小児脳神経外科 2) クリフム夫律子マタニティクリニック臨床胎児医学研究所
95	第54回日本周産期・新生児医学会	羊水過少に伴い dry lung syndromeを発症した早産児の臨床的特徴	18/7	東京都	診療部 NICU・GCU	中田有紀, 片山義規, 自見仁美, 郷間 環, 田村 誠, 長坂美和子, 菊池 新, 武井安津子, 池上 等, 南 宏尚
96	第54回日本周産期・新生児医学会	在胎22週で出生し腸間膜裂孔ヘルニアによる絞扼性イレウスを発症したが, 積極的な外科治療で救命できた1例	18/7	横浜市	診療部 NICU・GCU	田村 誠, 菊池 新, 中田有紀, 自見仁美, 郷間 環, 長坂美和子, 武井安津子, 片山義規, 池上 等, 南 宏尚, 津川二郎 <sup>1)</sup> , 西島栄治 <sup>1)</sup> 1) 小児外科
97	とことん新生児セミナー2018	講演 変革期にある新生児黄疸の世界～研究で創る新たなパラダイム～	18/9	大阪市	診療部 NICU・GCU	片山義規
98	第33回日本母乳哺育学会学術集会	基調講演 母乳育児を支援するための新生児黄疸の知識～世界共通の課題, 治療基準～	18/9	東京都	診療部 NICU・GCU	片山義規
99	第17回日本新生児黄疸管理研究会	正期産児における血液ガス分析装置によるビリルビン測定値の検討	18/10	つくば市	診療部 NICU・GCU	長坂美和子, 片山義規
100	第17回日本新生児黄疸管理研究会	極低出生体重児のメトヘモグロビン基準値に関する検討	18/10	つくば市	診療部 NICU・GCU	郷間 環, 片山義規
101	第63回日本人類遺伝学会	重症度の異なる三角頭蓋を呈した9p欠失症候群の3例	18/10	横浜市	診療部 NICU・GCU	長坂美和子, 四本由郁 <sup>1)</sup> , 原田敦子 <sup>2)</sup> , 玉置知子 <sup>1)</sup> 1) 遺伝医療部門 2) 小児脳神経外科
102	第55回日本小児アレルギー学会	ラコール(経腸栄養剤)によりアナフィラキシーショックを呈した乳児例	18/10	岡山市	診療部 NICU・GCU	郷間 環, 谷内昇一郎, 李 崇至, 松井美樹, 仲宗根瑠花, 榎本真宏, 角谷登美子, 南 宏尚
103	The 9th Asian Congress of Pediatric Infectious Diseases	Effect of Oral Care on the Incidence of Early-Onset Ventilator-Associated Pneumonia in Preterm Infants	18/11	Fukuoka City	診療部 NICU・GCU	Yoshinori Katayama
104	第63回日本新生児成育医学会	在胎27-29週児における生後8週までの経皮ビリルビン基準曲線の作成	18/11	東京都	診療部 NICU・GCU	片山義規, 阿部真也 <sup>1)</sup> , 藤岡一路 <sup>1)</sup> , 山名啓司 <sup>2)</sup> , 森沢 猛 <sup>2)</sup> , 横田知之 <sup>3)</sup> , 黒川大輔 <sup>4)</sup> , 五百蔵智明 <sup>4)</sup> , 森岡一朗 <sup>5)</sup> 1) 神戸大学大学院医学系研究科内科系講座小児科学分野 2) 加古川中央市民病院 3) 兵庫県立こども病院 4) 姫路赤十字病院 5) 日本大学医学部小児科学系小児科学分野
105	第63回日本新生児成育医学会	胎盤重量と動脈管の自然閉鎖に関する検討	18/11	東京都	診療部 NICU・GCU	仲宗根瑠花, 池上 等, 中田有紀, 自見仁美, 郷間 環, 田村 誠, 長坂美和子, 池上 真, 榎本真宏, 菊池 新, 片山義規, 武井安津子, 南 宏尚

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
106	第41回日本小児遺伝学会学術集会	染色体異常に合併した三角頭蓋5症例の臨床経過	'19/1	名古屋市	診療部 NICU・GCU	長坂美和子 <sup>1)</sup> , 四本由郁 <sup>1)</sup> , 原田敦子 <sup>2)</sup> , 岡本伸彦 <sup>3)</sup> , 玉置知子 <sup>4)</sup> 1)小児科 2)小児脳外科 3)大阪府母子医療センター 遺伝診療科 4)高槻病院 遺伝医療部門
107	第21回新生児呼吸療法モニタリングフォーラム	血圧波形が教えてくれること～血圧値だけじゃもったいないよ～	'19/2	大町市	診療部 NICU・GCU	池上等
108	第121回日本小児科学会	当院PICUにおける喉頭気管形成術の術後管理についての検討	'18/4	福岡市	診療部 小児科PICU	李 崇至, 起塚 庸, 大西 聡, 橋村裕也, 内山敬達, 津川二郎 <sup>1)</sup> , 渡部 彩 <sup>1)</sup> , 西島栄治 <sup>1)</sup> , 南 宏尚 1) 小児外科
109	第118回近畿救急医学研究会	虐待症例として対応した大腿骨骨折の5ヶ月男児例	'18/6	大阪市	診療部 小児科PICU	起塚 庸, 橋倉尚美 <sup>1)</sup> , 田口真規子 <sup>1)</sup> , 菊池 新, 大西 聡, 橋村裕也, 内山敬達, 南 宏尚 1) こどもと家族の支援センター
110	第118回近畿救急医学研究会	頭蓋内圧モニタリングを指標に治療した脳動脈奇形の11歳男児例	'18/6	大阪市	診療部 小児科PICU	福嶋志穂, 起塚 庸, 大西 聡, 橋村裕也, 内山敬達, 南 宏尚, 原田敦子 <sup>1)</sup> , 前野和重 <sup>2)</sup> 1) 小児脳神経外科 2) 脳神経外科
111	第10回日本子ども虐待医学会	障害を持って出生した児に対する母の受け入れの葛藤を児童虐待と誤認された一例	'18/8	高松市	診療部 小児科PICU	起塚 庸
112	第55回日本小児外科学会	声門下腔狭窄症に対する Partial cricotracheal resection : 術後の喉頭機能評価 Partial cricotracheal resection for pediatric subglottic stenosis: postoperative laryngeal function	'18/5	新潟市	診療部 小児外科	津川二郎, 渡部 彩, 西島栄治, 尾藤裕子 <sup>1)</sup> 1) 神戸大学医学部附属病院 小児外科
113	第55回日本小児外科学会	腫瘍破裂にて発見されたGonadoblastomaを合併した	'18/5	新潟市	診療部 小児外科	津川二郎, 西島栄治
114	第55回日本小児外科学会	著名な腹部膨満を認めたPDA clipping後の1カ月男児・・・診断は？	'18/5	新潟市	診療部 小児外科	渡部 彩, 津川二郎, 西島栄治
115	第55回日本小児外科学会	腸管出血性大腸菌感染症による溶血性尿毒症候群に合併した広範囲腸管壊死に対して多段階手術により救命できた4歳男児の一例	'18/5	新潟市	診療部 小児外科	渡部 彩, 津川二郎, 西島栄治
116	第13回日本小児耳鼻咽喉科学会	小児の正門下腔狭窄症に対するpartial cricotracheal resection: 術後の喉頭機能評価	'18/7	横浜市	診療部 小児外科	津川二郎, 西島栄治
117	第54回日本小児外科学会近畿地方会	偶発的直腸遺物の一例	'18/8	神戸市	診療部 小児外科	金丸薫子, 渡部 彩, 服部健吾, 岡本光正, 津川二郎, 西島栄治
118	第38回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	繰り返すグループ症候群で発見された声門下嚢胞	'18/10	東京都	診療部 小児外科	渡辺 彩, 服部健吾, 岡本光正 <sup>1)</sup> , 津川二郎, 西島栄治 1) 長野県立こども病院外科
119	第38回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	腹腔鏡下噴門形成術に併施する胃瘻造設術の方法	'18/10	東京都	診療部 小児外科	服部健吾, 津川二郎, 渡部 彩, 岡本光正 <sup>1)</sup> , 西島栄治, 高見澤滋 <sup>1)</sup> 1) 長野県立こども病院外科
120	第38回日本小児内視鏡外科・手術手技研究会	声門下腔狭窄症に対する Partial cricotracheal resection (PCTR)	'18/10	東京都	診療部 小児外科	津川二郎, 渡部 彩, 服部健吾, 岡本光正, 西島栄治



No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
121	第29回日本小児呼吸器外科研究会 特別講演	声門下腔狭窄症と気管狭窄症の手術治療の変遷：一小児外科医の経験	'18/10	東京都	診療部 小児外科	西島栄治
122	第29回近畿小児ストーマ・排泄・創傷研究会	全肝脱出を伴う腹壁破裂に対する人工真皮と陰圧閉鎖療法を用いた腹壁閉鎖	'18/12	神戸市	診療部 小児外科	服部健吾, 津川二郎, 渡部 彩, 岡本光正, 西島栄治
123	第31回日本内視鏡外科学会	小児内視鏡外科学会手術の基盤作り 技術認定取得というスタートラインへ	'18/12	福岡市	診療部 小児外科	服部健吾, 高見澤滋 <sup>1)</sup> , 畑田智子 <sup>1)</sup> , 好沢 克 <sup>1)</sup> 1) 長野県立こども病院外科
124	さいたま医学ものづくりフォーラム2019	安全な新生児胸腔鏡手術遂行のための離被架の開発	'19/1	さいたま市	診療部 小児外科	服部健吾
125	第4回関西小児内視鏡外科研究会	Open法によるヘルニア手術は失われてしまうのか～みなさん、手術説明はどうされていますか？～	'19/3	大阪市	診療部 小児外科	服部健吾, 津川二郎, 渡部 彩, 岡本光正, 西島栄治
126	第59回日本肺癌学会学術集会	骨・軟骨化生を伴う乳癌術後の肺転移による同時性両側気胸に対する1手術例	'18/12	東京都	診療部 呼吸器外科	大隈宏通, 椎名祥隆, 中村美保, 奥野恵子, 船田泰弘
127	8th INTERNATIONAL AORTIC SUMMIT	Valve sparing aortic root replacement in aortic dissections	'18/11	Chennai, India	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
128	8th INTERNATIONAL AORTIC SUMMIT	Infections of prosthesis in aorta - vascular grafts and endografts	'18/11	Chennai, India	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
129	8th INTERNATIONAL AORTIC SUMMIT	Role of open surgery in Type B dissections	'18/11	Chennai, India	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
130	Japan-Korea Aortic Symposium	Commando operation for prosthetic valve endocarditis	'19/2	東京都	診療部 心臓・大血管センター	Yutaka Okita
131	第24回心臓リハビリテーション学会	血栓閉塞型Stanford A型急性大動脈解離に対する早期リハビリテーション介入について	'18/7	横浜市	診療部 心臓血管外科	常深孝太郎, 岡 隆紀, 上原光司 <sup>1)</sup> , 清水和也 <sup>1)</sup> , 本郷裕士 <sup>1)</sup> , 丸本翔馬 <sup>1)</sup> , 松下浩尚 <sup>1)</sup> , 櫻 篤 <sup>2)</sup> 1) 技術部リハビリテーション科 2) 診療部リハビリテーション科
132	第201回近畿外科学会	腎血管変異を認めた直腸癌に腹腔鏡下低位前方切除を行った1例	'18/5	大阪市	診療部 消化器外科	山田康太, 川崎健太郎, 朝倉 力, 大和田善之, 土師誠二, 家永徹也
133	European Association for Endoscopic Surgery 26th International Congress 2018	The investigation of the safety of RPS LDG with 3cm incisions of umbilicus and three 5mm ports	'18/5	London, United Kingdom	診療部 消化器外科	Kentaro Kawasaki, Riki Asakura, Kota Yamada, Yoshiyuki Ohwada, Seiji Haji, Tetsuya Ienaga
134	第40回日本癌局所療法研究会	腹腔鏡下S状結腸切除術後に乳び瘻となり保存的に軽快した1例	'18/6	東京都	診療部 消化器外科	大和田善之, 川崎健太郎, 朝倉 力, 山田康太, 土師誠二, 家永徹也
135	第40回日本癌局所療法研究会	腹腔鏡内出血を来した胃GIST破裂の1例	'18/6	東京都	診療部 消化器外科	山田康太, 土師誠二, 朝倉 力, 大和田善之, 川崎健太郎, 家永徹也
136	第73回日本消化器外科学会	妊婦の急性虫垂炎に対する手術治療方法および検討	'18/7	鹿児島市	診療部 消化器外科	大和田善之, 川崎健太郎, 朝倉 力, 山田康太, 土師誠二, 家永徹也
137	第73回日本消化器外科学会	ロボット支援前立腺全摘術後発症の鼠径ヘルニアに対する腹腔鏡下ヘルニア根治術の経験	'18/7	鹿児島市	診療部 消化器外科	土師誠二, 朝倉 力, 山田康太, 大和田善之, 川崎健太郎, 家永徹也
138	第73回日本消化器外科学会	当院におけるReduce Ports Surgery Laparoscopic cholecystectomy	'18/7	鹿児島市	診療部 消化器外科	朝倉 力, 川崎健太郎, 山田康太, 大和田善之, 土師誠二, 家永徹也

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
139	7th Reduced Port Surgery Forum	当院におけるreduced ports surgery laparoscopic cholecystectomyの有用性の検討	'18/8	札幌市	診療部 消化器外科	細野雅義, 川崎健太郎, 朝倉 力, 山田康太, 大和田善之, 岡崎太郎, 家永徹也
140	第12回単孔式内視鏡手術研究会	当院におけるreduce ports surgery laparoscopic cholecystectomyの有用性の検討	'18/8	札幌市	診療部 消化器外科	細野雅義, 川崎健太郎, 朝倉 力, 山田康太, 大和田善之, 岡崎太郎, 家永徹也
141	第4回平成次世代外科医療研究会	医者という仕事はブラックのままなのか? - 医師の働き方改革に関する検討会の報告より -	'18/10	仙台市	診療部 消化器外科	川崎健太郎, 朝倉 力, 山田康太, 大和田善之, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也
142	第80回日本臨床外科学会	S状結腸癌に対する腹腔鏡下S状結腸切除後に門脈血栓塞栓症を認めた1例	'18/11	東京都	診療部 消化器外科	岩瀬瀨玲奈, 西村一希, 川崎健太郎, 岡崎太郎, 大和田善之, 朝倉 力, 山田康太, 家永徹也
143	第80回日本臨床外科学会	虚血性腸炎で大腸亜全摘後、繰り返す再建Jパウチの捻転に吻合部切除際吻合が有効であった一例	'18/11	東京都	診療部 消化器外科	西村一希, 川崎健太郎, 朝倉 力, 山田康太, 大和田善之, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也
144	第80回日本臨床外科学会	術前診断に難渋した、胃神経鞘腫の1例	'18/11	東京都	診療部 消化器外科	朝倉 力, 川崎健太郎, 山田康太, 大和田善之, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也, 伊倉義弘, 岩井泰博
145	第80回日本臨床外科学会	腹腔鏡下S状結腸切除術が有用であった繰り返すS状結腸捻転の5例	'18/11	東京都	診療部 消化器外科	山田康太, 川崎健太郎, 朝倉 力, 大和田善之, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也
146	第31回日本内視鏡外科学会	癒着性イレウスに対する臍部先行切開による腹腔鏡下イレウス解除術の経験	'18/12	福岡市	診療部 消化器外科	川崎健太郎, 朝倉 力, 山田康太, 大和田善之, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也
147	第31回日本内視鏡外科学会	腹腔鏡手術においてガーゼ端のX線造影糸が切断され遺残した1例	'18/12	福岡市	診療部 消化器外科	大和田善之, 川崎健太郎, 朝倉 力, 山田康太, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也
148	第15回日本消化管学会	診断に難渋した家族性地中海熱による腹痛の1例	'19/2	佐賀市	診療部 消化器外科	川崎健太郎, 高橋資典, 朝倉 力, 山田康太, 大和田善之, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也, 谷内昇一郎 <sup>1)</sup> , 稲本真也 <sup>2)</sup> , 森田英次郎 <sup>3)</sup> 1) 高槻病院小児科 2) しんあい病院内科 3) 森田内科胃腸内科
149	第55回日本腹部救急医学会	結腸の著明な拡張を認めたS状結腸軸捻転症の1例	'19/3	仙台市	診療部 消化器外科	朝倉 力, 岡崎太郎, 山田康太, 大和田善之, 細野雅義, 川崎健太郎, 家永徹也
150	第55回日本腹部救急医学会	上行結腸捻転による腸閉塞症の一例	'19/3	仙台市	診療部 消化器外科	山田康太, 川崎健太郎, 朝倉 力, 大和田善之, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也
151	第52回制癌剤適応研究会	化学療法を行い長期生存を得られた再発腺癌の1例	'19/3	神戸市	診療部 消化器外科	朝倉 力, 岡崎太郎, 山田康太, 大和田善之, 細野雅義, 川崎健太郎, 家永徹也
152	第26回日本乳癌学会	腋窩転移を伴い術前科学療法を施行した乳腺髄様癌の1例	'18/5	京都市	診療部 乳腺外科	下山京子, 三成善光, 伊倉義弘
153	第26回日本乳癌学会	乳癌科学療法に関連した皮疹・膨疹の発生について	'18/5	京都市	診療部 乳腺外科	三成善光, 下山京子, 溝口 綾

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
154	19th International Congress of Neuropathology (ICN2018)	Leukoencephalopathy with vanishing white matter: Clinicopathological characteristics of a rare adult-onset case with a homozygous EIF2B5 mutation	'18/9	東京都	診療部 神経内科	Naohiko Seike, Hiroshi Shimizu <sup>1)</sup> , Koh Tanaka <sup>2)</sup> , Takeshi Ikeuchi <sup>3)</sup> , Masaharu Tanaka <sup>2)</sup> , Hitoshi Takahashi <sup>1)</sup> , Akiyoshi Kakita <sup>1)</sup> 1) Department of pathology, Brain Research Institute, Niigata University 2) Department of Psychiatry, Mishima Hospital 3) Department of Molecular Genetics, Brain Research Institute, Niigata University
155	19th International Congress of Neuropathology (ICN2018)	A comprehensive analysis of genetic variations and neuropathologic features of patients with PARK2	'18/9	東京都	診療部 神経内科	Naohiko Seike, Akiko Yokoseki <sup>2)</sup> , Ryoko Takeuchi <sup>1)</sup> , Akinori Miyashita <sup>3)</sup> , Yasuko Toyoshima <sup>1)</sup> , Osamu Onodera <sup>2)</sup> , Hitoshi Takahashi <sup>1)</sup> , Atsushi Ishikawa <sup>4)</sup> , Takeshi Ikeuchi <sup>3)</sup> , Akiyoshi Kakita <sup>1)</sup> 1) Department of pathology, Brain Research Institute, Niigata University 2) Department of Neurology, Brain Research Institute, Niigata University 3) Department of Molecular Genetics, Brain Research Institute, Niigata University 4) Department of Neurology, Brain Disease Center Agano Hospital
156	第222回日本内科学会近畿地方会	特発性内頸静脈血栓症を呈した94歳女性の1例	'18/12	大阪市	診療部 神経内科	松浦 想, 清家尚彦, 松下達生
157	第223回日本内科学会近畿地方会	頻尿・眼球運動障害を来した急性散在性脳脊髄炎 (ADEM) の1例	'19/3	大阪市	診療部 神経内科	増田祥子, 清家尚彦, 松下達生
158	第31回日本総合病院精神医学会	急性期総合病院におけるせん妄対策プログラムの実践	'18/11	東京都	診療部 精神科	伊藤晴子, 田中さおり, 家田麻沙, 井上由香, 松下浩尚, 武田 将, 横田勇子, 木村眞由美, 小寺智子, 日当瀬 雅
159	第34回日本脳神経血管内治療学会	silentMRAで脳動脈瘤の再発が確認できた破裂脳動脈瘤の一例	'18/11	仙台市	診療部 脳神経外科	前野和重, 宇津木玲奈, 福屋章悟, 堀内一臣 <sup>1)</sup> , 宗像良二 <sup>1)</sup> , 生沼雅博 <sup>1)</sup> , 渡辺善一郎 <sup>1)</sup> , 渡邊一夫 <sup>1)</sup> 1) 総合南東北病院脳神経外科
160	第48回日本脳卒中の脳外学会	破裂後大脳動脈瘤に対して瘤内塞栓術を施行した1例	'19/3	横浜市	診療部 脳神経外科	前野和重, 宇津木玲奈, 有田英之, 堀内一臣 <sup>1)</sup> , 宗像良二 <sup>1)</sup> , 生沼雅博 <sup>1)</sup> , 藤森大智 <sup>1)</sup> , 渡辺善一郎 <sup>1)</sup> , 渡邊一夫 <sup>1)</sup> 1) 総合南東北病院脳神経外科

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
161	第77回日本医学放射線学会	Brain anomalies: MR evaluation and differential diagnosis.	'18/4	横浜市	診療部 小児脳神経外科	Hidetsuna Utsunomiya
162	第46回日本小児神経外科学会	分娩時発症頭蓋内出血の検討	'18/6	東京都	診療部 小児脳神経外科	宇津木玲奈, 原田敦子, 影山 悠, 福屋章悟, 前野和重, 宇都宮英綱
163	第46回日本小児神経外科学会	頭蓋骨縫合早期癒合症に対する内視鏡支援下縫合切開術	'18/6	東京都	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 影山 悠, 岡本豊子 <sup>1)</sup> , 岩永紘征, 福屋章悟 <sup>3)</sup> , 前野和重 <sup>3)</sup> , 宇都宮英綱 <sup>4)</sup> , 久徳茂雄 <sup>5)</sup> , 上田晃一 <sup>2)</sup> 1) 形成外科 2) 大阪医科大学形成外科 3) 脳神経外科 4) 小児神経センター 5) 市立奈良病院再建形成外科
164	第46回日本小児神経外科学会	Sigmoid sinus grooveに沿って進展する小児後頭蓋窩硬膜外血腫: MRI所見の特徴について	'18/6	東京都	診療部 小児脳神経外科	福屋章悟, 原田敦子, 影山 悠, 前野和重, 阪本大輔, 宇都宮英綱
165	第46回日本小児神経外科学会	分娩時発症頭蓋内出血の検討	'18/6	東京都	診療部 小児脳神経外科	宇津木玲奈, 原田敦子, 影山 悠, 福屋章悟, 前野和重, 宇都宮英綱
166	第14回Craniosynostosis研究会	頭蓋骨縫合早期癒合症術後の頭蓋形状誘導療法	'18/7	安曇野市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 木本優希, 宇津木玲奈 <sup>1)</sup> , 福屋章悟 <sup>1)</sup> , 前野和重 <sup>1)</sup> , 宇都宮英綱 <sup>2)</sup> , 岡本豊子 <sup>3)</sup> , 久徳茂雄 <sup>4)</sup> , 高松亜子 <sup>5)</sup> , 金子 剛 <sup>6)</sup> , 上田晃一 <sup>3)</sup> , 1) 脳神経外科 2) 小児神経センター 3) 大阪医科大学形成外科 4) 市立奈良病院再建形成外科 5) 国立成育医療研究センター 形成外科
167	第14回Craniosynostosis研究会	頭蓋骨縫合早期癒合症手術における輸血回避の因子についての検討	'18/7	安曇野市	診療部 小児脳神経外科	木本優希, 原田敦子, 宇津木玲奈 <sup>1)</sup> , 福屋章悟 <sup>1)</sup> , 前野和重 <sup>1)</sup> , 宇都宮英綱, 千田恵理奈 <sup>2)</sup> , 岡本豊子 <sup>3)</sup> , 黒川憲史 <sup>2)</sup> , 田原慎太郎 <sup>4)</sup> , 土居ゆみ <sup>4)</sup> , 久徳茂雄 <sup>5)</sup> , 上田晃一 <sup>3)</sup> 1) 脳神経外科 2) 形成外科 3) 大阪医科大学形成外科 4) 麻酔科 5) 市立奈良病院再建形成外科

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
168	第77回日本脳神経外科学会	頭蓋骨縫合早期癒合症術後の頭蓋形状誘導療法（ヘルメット治療）	'18/10	仙台市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 木本優希, 宇津木玲奈 <sup>1)</sup> , 福屋章悟 <sup>1)</sup> , 前野和重 <sup>1)</sup> , 宇都宮英綱 <sup>2)</sup> , 岡本豊子 <sup>3)</sup> , 久徳茂雄 <sup>4)</sup> , 高松亜子 <sup>5)</sup> , 金子剛 <sup>5)</sup> , 上田晃一 <sup>3)</sup> 1) 脳神経外科 2) 小児神経センター 3) 大阪医科大学形成外科 4) 市立奈良病院再建形成外科 5) 国立成育医療研究センター形成外科
169	第77回日本脳神経外科学会	頭蓋骨縫合早期癒合症手術における輸血回避の因子についての検討	'18/10	仙台市	診療部 小児脳神経外科	木本優希, 原田敦子, 宇津木玲奈 <sup>1)</sup> , 福屋章悟 <sup>1)</sup> , 前野和重 <sup>1)</sup> , 宇都宮英綱 <sup>2)</sup> , 千田恵理奈 <sup>3)</sup> , 岡本豊子 <sup>4)</sup> , 黒川憲史 <sup>3)</sup> , 田原慎太郎 <sup>5)</sup> , 土居ゆみ <sup>5)</sup> , 久徳茂雄 <sup>6)</sup> , 上田晃一 <sup>4)</sup> 1) 脳神経外科 2) 小児神経センター 3) 形成外科 4) 大阪医科大学形成外科 5) 麻酔科 6) 市立奈良病院再建形成外科
170	第64回日本小児神経学会近畿地方会	頭圍拡大、発達遅滞で発症した乳児頭蓋咽頭腫の一例	'18/10	神戸市	診療部 小児脳神経外科	江國 哲, 木本優希, 宇津木玲奈 <sup>1)</sup> , 福屋章悟 <sup>1)</sup> , 前野和重 <sup>1)</sup> , 宇都宮英綱 <sup>2)</sup> , 大西 聡 <sup>3)</sup> , 起塚 庸 <sup>3)</sup> 1) 脳神経外科 2) 小児神経センター 3) 小児科
171	第25回日本神経内視鏡学会	内視鏡的脈絡叢焼灼術と脳室洗浄によるシャント感染後水無脳症の治療経験	'18/10	新潟市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 福屋章悟 <sup>1)</sup> , 西山健一 <sup>2)</sup> 1) 脳神経外科 2) 新潟医療センター脳神経外科
172	第36回日本こども病院神経外科医会	新生児特発性 superficial parenchymal and leptomeningeal hemorrhage (SPLH)の画像所見と臨床像	'18/11	福岡市	診療部 小児脳神経外科	宇津木玲奈, 宇都宮英綱 <sup>1)</sup> , 木本優希, 福屋章悟 <sup>2)</sup> , 前野和重, 原田敦子 1) 小児神経センター 2) 脳神経外科
173	第36回日本こども病院神経外科医会	症候性キアリ2型奇形の手術適応と効果	'18/11	福岡市	診療部 小児脳神経外科	木本優希, 宇津木玲奈, 福屋章悟 <sup>1)</sup> 前野和重 <sup>1)</sup> , 宇都宮英綱 <sup>2)</sup> , 原田敦子 1) 脳神経外科 2) 小児神経センター

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
174	第36回日本脳腫瘍学会	黄色肉芽腫性変化を伴った後頭蓋窩類上皮腫の一症例	'18/12	小田原市	診療部 小児脳神経外科	福屋章悟, 原田敦子 <sup>1)</sup> , 宇津木玲奈, 木本優希 <sup>1)</sup> , 前野和重, 伊倉義弘 <sup>2)</sup> , 岡部英俊 <sup>2)</sup> , 宇都宮英綱 <sup>3)</sup> 1) 小児脳神経外科 2) 病理診断科 3) 小児神経センター
175	第86回大阪大学脳神経外科 関連施設臨床懇話会	頭蓋骨縫合早期癒合症に対する輸血回避の試み	'19/1	大阪市	診療部 小児脳神経外科	木本優希, 宇津木玲奈, 福屋章悟, 前野和重, 原田敦子
176	第9回愛媛神経内視鏡研究会	内視鏡的脈絡叢焼灼術と脳室洗浄によるシャント感染後水無脳症の治療経験	'19/2	松山市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
177	第23回関西ニューロエンドスコープ研究会	内視鏡的脈絡叢焼灼術と脳室洗浄によるシャント感染後水無脳症の治療経験	'19/2	大阪市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子
178	第121回関西形成外科学会	当院における「赤ちゃんの頭の形外来」	'19/3	高槻市	診療部 小児脳神経外科	原田敦子, 寺田幸恵, 千田恵理奈 <sup>1)</sup> , 黒川憲史 <sup>1)</sup> , 岡本豊子 <sup>2)</sup> , 上田晃一 <sup>2)</sup> , 久徳茂雄 <sup>3)</sup> 1) 形成外科 2) 大阪医科大学形成外科 3) 市立奈良病院再建形成外科
179	第52回日本臨床腎移植学会	腎移植患者の出産の2例	'19/2	大阪市	診療部 腎移植科	客野宮治, 今村亮一 <sup>1)</sup> , 阿部豊文 <sup>1)</sup> , 高原史郎 <sup>2)</sup> 1) 大阪大学医学部泌尿器科 2) 関西メディカル病院腎センター
180	第130回中部日本整形外科災害外科学会	Oxford UKAにおけるJoint line orientation angleとFemoral component の側面設置角度との関係	'18/4	松山市	診療部 整形外科	西田亮太, 平中崇文, 岡本剛治, 飛田祐一, 藤田雅弘, 尾ノ井勇磨
181	第91回日本整形外科学会	変形性膝関節症患者の変性前十字靭帯の評価におけるOxford ACL 分類の有用性の検討	'18/5	神戸市	診療部 整形外科	飛田祐一, 平中崇文, 立花章太郎, 吉川 遼, 菊池健一, 亀長智幸, 藤代高明, 岡本剛治
182	第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	Development of medical instruments facilitated by practical medicine-engineering collaboration 現場発の医療機器開発の魅力とその落とし穴	'18/6	福岡市	診療部 整形外科	平中崇文
183	第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	膝関節置換術によるACL切除の現状 (Scarification of ACL due to knee arthroplasty.)	'18/6	福岡市	診療部 整形外科	Hiranaka Takafumi, Hida Yuichi, Kamenaga Tomoyuki, Kikuchi Kenichi, Tachibana Shotaro, Fujishiro Takaaki
184	第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	膝蓋大腿関節置換術後に、膝蓋骨外側脱臼を認めた2例 (Two cases of patella dislocation after Patello-femoral joint replacement)	'18/6	福岡市	診療部 整形外科	Tachibana Shotaro, Kamenaga Tomoyuki, Kikuchi Kenichi, Hida Yuichi, Fujishiro Takaaki, Hiranaka Takafumi.
185	第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	前十字靭帯機能によるOxford UKA術後短期成績の比較検討	'18/6	福岡市	診療部 整形外科	菊池健一, 平中崇文, 藤代高明, 飛田祐一, 亀長智幸
186	第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	The mid-term clinical result of unicompartmental knee arthroplasty for spontaneous osteonecrosis of the knee 膝特発性骨壊死に対する人工膝単顆置換術の中間臨床転帰	'18/6	福岡市	診療部 整形外科	Kamenaga Tomoyuki, Hiranaka Takafumi, Tachibana Syoutarou, Kikuchi Kenichi, Hida Yuichi, Fujishiro Takaaki
187	第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	Oxford UKA後の脛骨骨折と脛骨の形態について	'18/6	福岡市	診療部 整形外科	置村健二郎, 平中崇文, 壺坂正徳, 飛田祐一, 藤代高明

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
188	第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	UKAにおけるHLS Uni Evolutionの使用経験について	18/6	福岡市	診療部 整形外科	壺坂正徳, 平中崇文, 飛田祐一, 置村健二郎, 柴田洋作, 藤代高明
189	第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	Oxford UKAにおける脛骨縦切り角度がキールと骨皮質間距離に及ぼす影響 (The effect of tibial vertical cutting rotation on the distance of keel and cortex in Oxford mobile bearing Unicompartmental Knee Arthroplasty.)	18/6	福岡市	診療部 整形外科	Kamenaga Tomoyuki, Hiranaka Takafumi, Tachibana Syoutarou, Kikuchi Kenichi, Hida Yuichi, Fujishiro Takaaki
190	第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	Mobile型UKAの矢状面動作解析と影響因子の検討	18/6	福岡市	診療部 整形外科	置村健二郎, 平中崇文, 壺坂正徳, 飛田祐一, 藤代高明
191	第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	人工膝単顆置換術における前十字靭帯機能が術後関節への意識に与える影響	18/6	福岡市	診療部 整形外科	飛田祐一, 平中崇文, 立花章太郎, 菊池健一, 亀長智幸, 藤代高明
192	第10回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会	膝アライメントと足関節・足部変形との関係について	18/6	福岡市	診療部 整形外科	尾ノ井勇磨, 平中崇文, 飛田祐一, 亀長智幸, 菊池健一, 立花章太郎, 藤代高明
193	第44回日本骨折治療学会	大腿骨近位部骨折に対するTresLockの適合性と臨床成績に関する検討	18/7	岡山市	診療部 整形外科	吉川 遼, 平中崇文, 飛田祐一, 立花章太郎
194	第44回日本骨折治療学会	Polarus 3 Humeral Nailにおける月光ドリルの有用性についての検討	18/7	岡山市	診療部 整形外科	平中崇文, 飛田祐一
195	第44回日本骨折治療学会	撚りワイヤーを用いた鋼線締結法後の抜針後にワイヤー残存を認めた2例	18/7	岡山市	診療部 整形外科	吉川 遼, 平中崇文, 飛田祐一, 立花章太郎
196	第44回日本骨折治療学会	単純X線写真による大腿骨頸部前捻角測定法の考案	18/7	岡山市	診療部 整形外科	立花章太郎, 吉川 遼, 飛田祐一, 平中崇文
197	第44回日本骨折治療学会	大腿骨頭へのワイヤー至適刺入法と器具の考案	18/7	岡山市	診療部 整形外科	平中崇文, 飛田祐一, 吉川 遼, 立花章太郎, 亀長智幸, 菊池健一, 藤代高明, 岡本剛治
198	第44回日本骨折治療学会	新しい大腿骨近位部骨折用インプラント TresLockの術後3D-CT解析	18/7	岡山市	診療部 整形外科	平中崇文, 飛田祐一
199	13th European Hip Society Congress	Accuracy of Accelerometer-Based Portable Computer Navigation for Acetabular Component Alignment in Total Hip Arthroplasty using Anterolateral Supine Approach	18/9	Hague, The Netherlands	診療部 整形外科	Takaaki Fujishiro, Takafumi Hiranaka, Shingo Hashimoto <sup>1)</sup> , Shinya Hayashi <sup>1)</sup> , Ryosuke Kuroda <sup>1)</sup> 1)Department of Orthopaedic Surgery Kobe University Graduate School of Medicine
200	第131回中部日本整形外科災害外科学会	UKAにおけるJLOA (Joint Line Orientation Angle) の検討	18/10	倉敷市	診療部 整形外科	西田亮太, 平中崇文, 岡本剛治, 藤代高明, 飛田祐一, 藤田雅広
201	第131回中部日本整形外科災害外科学会	変形性膝関節症に対する再生医療における脂肪組織由来再生 (幹) 細胞 (ADRC) の viability の検討	18/10	倉敷市	診療部 整形外科	平中崇文, 飛田祐一, 藤田雅広, 高瀬恭平, 西田亮太, 岡本剛治
202	第131回中部日本整形外科災害外科学会	UKA後のcoronal tibiofemoral subluxation の変化	18/10	倉敷市	診療部 整形外科	高瀬恭平, 平中崇文, 飛田祐一, 藤代高明, 岡本剛治
203	第131回中部日本整形外科災害外科学会	外側型変形性膝関節症に対する外側人工膝単顆置換術の術後成績	18/10	倉敷市	診療部 整形外科	藤田雅広, 平中崇文, 飛田祐一, 藤代高明, 岡本剛治
204	第131回中部日本整形外科災害外科学会	変形性膝関節症に対する脂肪組織由来再生 (幹) 細胞 (ADRC) 治療後にsecond look arthroscopyを行った一例	18/10	倉敷市	診療部 整形外科	平中崇文, 飛田祐一, 藤田雅広, 高瀬恭平, 西田亮太, 岡本剛治
205	第45回日本股関節学会	仰臥位THAにおけるポータブルナビゲーションの精度評価	18/10	名古屋市	診療部 整形外科	藤代高明, 平中崇文, 岡本剛治, 飛田祐一, 橋本慎吾 <sup>1)</sup> , 林 申也 <sup>1)</sup> , 黒田良祐 <sup>1)</sup> 1) 神戸大学大学院整形外 科

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
206	新価値創造展2018	整形外科領域の重要性と医工連携におけるポイント～医工連携を進めるときに企業・医師が留意すべき点	'18/11	東京都	診療部 整形外科	平中崇文
207	第49回日本人工関節学会	UKAの適応とACLの関係について	'19/2	東京都	診療部 整形外科	平中崇文, 飛田祐一, 藤代高明, 藤田雅広, 高瀬恭平, 尾ノ井勇磨, 西田亮太
208	第49回日本人工関節学会	内反膝による下肢アライメント異常と変形性肢関節の関係について	'19/2	東京都	診療部 整形外科	尾ノ井勇磨, 西田亮太, 高瀬恭平, 藤田雅広, 飛田祐一, 藤代高明, 岡本剛治, 平中崇文
209	第49回日本人工関節学会	Mobile型人工膝単置換術の術後中期成績	'19/2	東京都	診療部 整形外科	飛田祐一, 平中崇文, 西田亮太, 尾ノ井勇磨, 高瀬恭平, 藤田雅広, 藤代高明, 岡本剛治
210	第49回日本人工関節学会	セメントレストリプルテーパー型カーブドショートステム周囲の術後2年の骨密度変化	'19/2	東京都	診療部 整形外科	高瀬恭平, 藤代高明, 西田亮太, 尾ノ井勇磨, 藤田雅広, 飛田祐一, 岡本剛治, 平中崇文, 橋本慎吾 <sup>1)</sup> , 林 申也 <sup>1)</sup> , 黒田良祐 <sup>1)</sup> 1) 神戸大学大学院整形外 科
211	第49回日本人工関節学会	前外側アプローチでの人工股関節全置換術における腸骨大腿靭帯および恥骨大腿靭帯温存の試み	'19/2	東京都	診療部 整形外科	藤田雅広, 藤代高明, 西田亮太, 尾ノ井勇磨, 高瀬恭平, 飛田祐一, 岡本剛治, 平中崇文, 橋本慎吾 <sup>1)</sup> , 林 申也 <sup>1)</sup> , 黒田良祐 <sup>1)</sup> 1) 神戸大学医学部整形外 科
212	第49回日本人工関節学会	仰臥位THAにおけるポータブルナビゲーションの精度評価とラーニングカーブ	'19/2	東京都	診療部 整形外科	藤代高明, 平中崇文, 岡本剛治, 飛田祐一, 橋本慎吾 <sup>1)</sup> , 林 申也 <sup>1)</sup> , 黒田良祐 <sup>1)</sup> 1) 神戸大学大学院整形外 科
213	第13回日本CAOS研究会	整形外科手術におけるスマートグラス使用の試み	'19/3	京都市	診療部 整形外科	平中崇文
214	第18回日本再生医療学会	末期変形性膝関節症に対する脂肪組織由来再生細胞治療の短期成績	'19/3	神戸市	診療部 整形外科	平中崇文, 飛田祐一, 藤代高明, 藤田雅広, 高瀬恭平, 尾ノ井勇磨, 西田亮太, 岡本剛治
215	第70回日本産科婦人科学会	Repair of the Stage 3 POP That a Ring Pessary Made Giant Rectovaginal Fistulas and the Rectal Mucosa Covered the Posterior Vaginal Wall Beyond the Fistula: Operative Technique	'18/5	仙台市	診療部 産婦人科	Hiroki Kato, Tetsuya Oishi, Takashi Shibata, Hisato Tokuda, Satoshi Nakago, Fumikazu Kotsuji
216	第70回日本産科婦人科学会	The restoration of vaginal front and posterior wall together is necessary with Native Tissue Repair in the case of grade III and IV of Pelvic Organ Prolapse.	'18/5	仙台市	診療部 産婦人科	Tetsuya Oishi, Hiroki Kato, Takashi Shibata, Hisato Tokuda, Fumikazu Kotsuji
217	第70回日本産科婦人科学会	Case report of spontaneous septostomy of the dividing membrane accompanied with cord entanglement in a monochorionic diamniotic twin: Importance of identification of dividing membrane.	'18/5	仙台市	診療部 産婦人科	Tomoki Kotera, Takashi Shibata, Hisato Tokuda, Noriaki Iiduka, Satoshi Nakago



No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
218	第70回日本産科婦人科学会	Two cases of Vertical Rupture at Side Wall of the Uterine Cervix: Unusual Clinical Courses and How the Ruptures were Repaired.	'18/5	仙台市	診療部 産婦人科	Yasunori Fukuoka, Hiroki Kato, Takashi Shibata, Satoshi Nakago, Tetsuya Oishi, Fumikazu Kotsuji, Hisato Tokuda, Sayoko Hosono, Tomoki Kotera, Shota Asano, Shigeki Nishikawa, Noriaki Iiduka.
219	第59回日本臨床細胞学会	当院における子宮内膜細胞診の精度について	'18/6	札幌市	診療部 産婦人科	飯塚徳昭, 小寺知揮, 柴田貴司, 大石哲也, 伊倉義弘, 平尾美智, 谷口由美, 井本智子, 仲谷武司, 岩井泰博
220	糖尿病・妊娠セミナー	当科におけるGDM管理の現状	'18/6	大阪市	診療部 産婦人科	中後 聡
221	第138回近畿産科婦人科学会	子宮摘出後骨盤臓器脱修復に対する「筋膜巻き出し術」の治療成績	'18/6	大阪市	診療部 産婦人科	大石哲也, 加藤大樹, 柴田貴司, 徳田妃里, 小辻文和
222	第138回近畿産科婦人科学会	妊娠中の急性虫垂炎を早期に診断するためには～6例の経験から学び・導かれた診療方針～	'18/6	大阪市	診療部 産婦人科	加藤大樹, 徳田妃里, 柴田貴司, 西川茂樹, 大石哲也, 中後 聡, 小辻文和
223	第138回近畿産科婦人科学会	臍帯相互巻絡による一絨毛膜一羊膜(MM) 双胎一児死亡の管理経験～MRIでの生存児の中樞神経評価の有用性について	'18/6	大阪市	診療部 産婦人科	小寺知揮, 中後 聡, 飯塚徳昭, 柴田貴司, 大石哲也, 小辻文和
224	第138回近畿産科婦人科学会	妊娠30週にIUFDとなった全前置胎盤症例～経膈分娩トライアルに向けた思考プロセスと臨床経過～	'18/6	大阪市	診療部 産婦人科	飯塚徳昭, 松本真歩, 西川茂樹, 細野佐代子, 柴田貴司, 中後 聡, 小辻文和
225	第138回近畿産科婦人科学会	子宮底部横切開創部の術後MRIと次回帝王切開時観察による評価～次回妊娠の安全性評価に向けた観察研究～	'18/6	大阪市	診療部 産婦人科	中後 聡, 加藤大樹, 柴田貴司, 徳田妃里, 大石哲也, 小辻文和
226	第138回近畿産科婦人科学会	肺塞栓との鑑別を求められた産褥周産期心筋症の1例～検査の前の正確な病歴と理学所見把握の重要性～	'18/6	大阪市	診療部 産婦人科	神谷亮雄, 福岡泰教, 徳田妃里, 柴田貴司, 加藤大樹, 中後 聡, 小辻文和
227	第138回近畿産科婦人科学会	臍帯卵膜付着症例では幸帽児帝王切開は回避すべきである	'18/6	大阪市	診療部 産婦人科	柴田貴司, 西川茂樹, 福岡泰教, 細野佐代子, 徳田妃里, 中後 聡, 小辻文和
228	第54回日本周産期・新生児医学会	妊娠30週にIUFDとなった全前置胎盤症例～経膈分娩トライアルに向けた思考プロセスと臨床経過～	'18/7	東京都	診療部 産婦人科	飯塚徳昭, 柴田貴司, 福岡泰教, 西川茂樹, 小寺知揮, 細野佐代子, 徳田妃里, 加藤大樹, 中後 聡, 小辻文和
229	第54回日本周産期・新生児医学会	妊娠合併虫垂炎の早期診断と治療のために～6例の経験から学び・導かれた診療方針～	'18/7	東京都	診療部 産婦人科	加藤大樹, 徳田妃里, 柴田貴司, 西川茂樹, 大石哲也, 中後 聡, 小辻文和
230	第54回日本周産期・新生児医学会	臍帯卵膜付着症例では幸帽児帝王切開は回避すべき	'18/7	東京都	診療部 産婦人科	柴田貴司, 西川茂樹, 福岡泰教, 細野佐代子, 徳田妃里, 中後 聡, 小辻文和
231	第54回日本周産期・新生児医学会	臍帯相互巻絡による一絨毛膜一羊膜双胎一児死亡の管理経験～MRIでの生存児の中樞神経評価の有用性	'18/7	東京都	診療部 産婦人科	小寺知揮, 中後 聡, 飯塚徳昭, 柴田貴司, 大石哲也, 小辻文和
232	第54回日本周産期・新生児医学会	子宮底部横切開創部の術後MRIと次回帝王切開時観察による創部評価～次回妊娠の安全性を評価する観察研究～	'18/7	東京都	診療部 産婦人科	中後 聡, 加藤大樹, 柴田貴司, 徳田妃里, 大石哲也, 小辻文和
233	第58回日本産科婦人科内視鏡学会	頸管・卵管同時妊娠の1例～治療法を選ぶ際の考え方～	'18/8	松江市	診療部 産婦人科	小寺知揮, 加藤大樹

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
234	第31回日本内視鏡外科学会	妊娠合併虫垂炎の早期診断のためには～8例の経験から学び・導かれた診断法～	'18/12	福岡市	診療部 産婦人科	加藤大樹, 小寺知揮, 神谷亮雄, 朝倉 力 <sup>1)</sup> , 山田康太 <sup>1)</sup> , 大和田善之 <sup>1)</sup> , 細野雅義 <sup>1)</sup> , 岡崎太郎 <sup>1)</sup> , 家永徹也 <sup>1)</sup> 1) 消化器外科
235	第41回日本産婦人科手術学会	子宮底部横切開法のその後～付随する課題の解決に向けた10年の模索と現状	'19/2	東京都	診療部 産婦人科	小辻文和
236	第72回日本臨床眼科学会	自然閉鎖と再発を繰り返した突発性黄斑円孔の1例	'18/10	東京都	診療部 眼科	宮本麻起子, 清水一弘, 許勢文誠, 依藤奈津子, 佐藤陽平, 渡邊浩子, 池田恒彦 <sup>1)</sup> 1) 大阪医大
237	第21回北摂皮膚科医会	Hair collar signを伴う先天性皮膚欠損症	'18/4	大阪市	診療部 皮膚科	高山恵律子
238	第117回日本皮膚科学会	Hair collar signを伴う先天性皮膚欠損症と考えられた5例	'18/5	広島市	診療部 皮膚科	高山恵律子, 菊澤暁夕子, 原田敦子 <sup>1)</sup> , 瀬戸英伸 1) 小児脳神経外科
239	神戸大学皮膚科同窓会特別公演	私の皮膚科史	'18/6	神戸市	診療部 皮膚科	瀬戸英伸
240	大鵬薬品社内研修会	皮膚に強いダメージを持った患者さんに接してきて思うこと	'18/7	吹田市	診療部 皮膚科	瀬戸英伸
241	第19回ほくせつフットケアカンファレンス	足の皮膚病	'18/10	高槻市	診療部 皮膚科	瀬戸英伸
242	第69回日本皮膚科学会中部支部学術大会	顔面と口腔内の多発丘疹から診断し得た多発性骨髄腫に伴う全身性アミロイドーシスの1例	'18/10	大阪市	診療部 皮膚科	大桑慎子, 高山恵律子, 三木聡子, 岡本雅司, 伊倉義弘, 瀬戸英伸
243	第69回日本皮膚科学会中部支部学術大会	切除後に長期完解を得た片側乳輪の限局性類天疱瘡	'18/10	大阪市	診療部 皮膚科	高山恵律子, 伊倉義弘, 瀬戸英伸
244	第33回高槻病院市民公開講座	日常診療においてよく見られる皮膚感染症	'19/3	高槻市	診療部 皮膚科	瀬戸英伸
245	第121回関西形成外科学会学術集会	皮膚線維腫が疑われ形成外科に紹介された脊髄脂肪腫の一例	'19/3	高槻市	診療部 形成外科	千田絵里奈, 黒川憲史, 原田敦子
246	第54回日本医学放射線学会秋季臨床大会	尿路結石の画像診断「結石 (+)」の一言ですませていいの？	'18/10	福岡市	診療部 イメージング グリサーチ センター	高橋 哲
247	104th Scientific Assembly and Annual Meeting of the Radiological Society of North America (RSNA)	What Radiologists Need to Focus on Renal Imaging for Preventing Pathological Upstaging of Clinical T1 to Pathological T3 Renal Cancer Managed by Partial Nephrectomy	'18/11	Chicago, USA	診療部 イメージング グリサーチ センター	S Takahashi, MD, PhD; Y Ueno, MD, PhD; N Negi, RT; K Kagawa; U Tanaka; T Murakami, MD, PhD
248	European Society of Radiology (ECR) 2019	Reassessment the ability of renal CE-CT for avoiding pathological upstaging of clinical T1 to pathological T3 renal cancer in the era of robotic partial nephrectomy	'19/2	Vienna, Austria	診療部 イメージング グリサーチ センター	S. Takahashi, Y. Ueno <sup>1)</sup> , K. Sofue <sup>1)</sup> , N. Negi <sup>1)</sup> , K. Kagawa <sup>1)</sup> , T. Murakami <sup>1)</sup> , U. Tanaka <sup>1)</sup> 1) Kobe/JP
249	European Society of Radiology (ECR) 2019	Low energy imaging for depicting renal venous tumour thrombus on multi-phasic contrast-enhanced dual-energy CT with 3rd generation dual-source CT scanner	'19/2	Vienna, Austria	診療部 イメージング グリサーチ センター	S. Takahashi, T. Itoh <sup>1)</sup> , Y. Ueno <sup>2)</sup> , N. Negi <sup>2)</sup> , K. Kagawa, K. Sofue <sup>2)</sup> , U. Tanaka <sup>2)</sup> , A. Kusaka <sup>2)</sup> , T. Murakami <sup>2)</sup> 1) Tokyo/JP 2) Kobe/JP
250	第65回日本麻酔科学会	人工膝関節手術において術中創部周囲ステロイド局注が術後D-dimer値に及ぼす影響	'18/5	横浜市	診療部 麻酔科	西田隆也, 佐藤千花子, 濱崎 豊, 正本真子, 中島正順

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
251	第64回日本麻酔科学会関西支部学術集会	全身麻酔導入時のロクロニウム投与後にHypertensive crisisをきたした褐色細胞腫患者の一例	'18/9	大阪市	診療部麻酔科	西田隆也, 濱崎 豊, 中島正順
252	第64回日本麻酔科学会関西支部学術集会	胸腔鏡補助下胚葉切除術中に心筋梗塞を発症し救命しえた1例	'18/9	大阪市	診療部麻酔科	佐藤千花子, 中本志郎, 西田隆也, 三宅隆一郎, 中島正順
253	American Society of Anesthesiology Annual Meeting 2018 (ASA2018)	Pediatric preoperative anxiety, volume and acidity of gastric fluid in patients undergoing ambulatory surgery.	'18/10	San Francisco, USA	診療部麻酔科	Yumi Doi, MD. Ryo Unita, MD.
254	American Society of Anesthesiology Annual Meeting 2018 (ASA2018)	Infant with Subglottic Cyst: Preoperative Evaluation and Anesthesia Plan.	'18/10	San Francisco, USA	診療部麻酔科	Yumi Doi, MD. Ryo Unita, MD.
255	第24回日本小児麻酔学会	頭蓋骨縫合早期癒合症手術における術前鉄剤内服についての検討	'18/10	神戸市	診療部麻酔科	田原慎太郎, 土居ゆみ, 宇仁田 亮, 西田隆也, 三宅隆一郎, 濱崎 豊
256	第81回日本病理学会近畿支部学術集会	病理講習会: 非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD)	'18/5	神戸市	診療部病理診断科	伊倉義弘
257	第59回日本臨床細胞学会総会	骨・軟骨化生を伴う乳癌の1例	'18/6	札幌市	診療部病理診断科	谷口由美, 飯塚梨沙, 平尾美智, 井本智子, 仲谷武史, 伊倉義弘, 岡部英俊, 岩井泰博
258	第59回日本臨床細胞学会総会	当院における子宮内膜細胞診の精度について	'18/6	札幌市	診療部病理診断科	飯塚徳昭, 小寺知揮, 柴田貴司, 大石哲也, 伊倉義弘, 平尾美智, 谷口由美, 井本智子, 仲谷武史, 岩井泰博
259	Digestive Disease Week 2018	Effects of Low-Dose Aspirin Administration on Cirrhosis-related Thrombocytopenia.	'18/6	ワシントン, アメリカ	診療部病理診断科	Tatsuya Osuga, Kosuke Yoshiyasu, Shiei Yoshida, Soo-Ryang Kim, Yoshihiro Ikura
260	第54回日本肝臓学会	2型糖尿病に合併する非アルコール性/非ウイルス性肝細胞癌の臨床病理学的特徴について	'18/6	大阪市	診療部病理診断科	伊倉義弘, 大須賀達也 <sup>1)</sup> , 原田憲一 <sup>2)</sup> 1) 消化器内科 2) 金沢大学人体病理
261	第107回日本病理学会	筋上皮癌との鑑別に苦慮した骨・軟骨化生を伴う乳癌の一例	'18/6	札幌市	診療部病理診断科	横川 暢, 伊倉義弘, 下山京子, 三成善光, 家永徹也, 岩井泰博
262	The Liver Meeting® 2018	"Normal" ALT By Central Laboratory Criteria but >30 U/L for Males and >19 U/L for Females Is Predictive of Residual Inflammation in Liver Biopsies after Sustained Virologic Response to Direct-Acting Antivirals for Chronic Hepatitis C.	'18/11	サンフランシスコ, アメリカ	診療部病理診断科	Masaru Enomoto, Yoshihiro Ikura, Akihiro Tamori, Ritsuzo Kozuka, Hiroyuki Motoyama, Etsushi Kawamura, Atsushi Hagihara, Hideki Fujii, Sawako Uchida, Hiroyasu Morikawa, Yoshiki Murakami, Norifumi Kawada
263	第57回日本臨床細胞学会秋期大会	体腔液の細胞診断は始めからセルブロックで行うべきである	'18/11	横浜市	診療部病理診断科	仲谷武史, 西川裕希, 飯塚梨沙, 平尾美智, 井本智子, 谷口由美, 伊倉義弘, 岩井泰弘
264	日本病理学会中部支部第22回スライドセミナー 講演	変容する脂肪性肝疾患の意義・診断	'19/3	金沢市	診療部病理診断科	伊倉義弘
265	第2回日本脳神経外科認知症学会	認知症の予防と非薬物療法	'18/6	東京都	診療部リハビリテーション科	櫻 篤
266	日本医師会生涯教育講座・病院実習	嚥下障害の評価とリハビリテーション	'18/11	高槻市	診療部リハビリテーション科	櫻 篤

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
267	第46回日本小児神経外科学会	ファイファー症候群の受け入れ困難事例の家族支援を考える -1年を振り返って-	'18/6	東京都	看護部 GCU看護科	岡崎由利江
268	第68回日本病院学会	手術時の皮膚消毒液を変更したことによる効果の検証	'18/6	金沢市	看護部 手術室・中材看護科	納庄 舞
269	第68回日本病院学会	救急センターで退院支援の初回面談を受ける家族の心理状態	'18/6	金沢市	看護部 救急センター看護科	岡本由美
270	第63回日本透析医学会学術集会	透析継続を支援する家族（夫）の経験と思い	'18/6	神戸市	看護部 血液浄化センター看護科	石田恵子
271	第10回日本子ども虐待医学会学術集会	GCUにおける乳幼児揺さぶられ症候群の予防教育への取り組み	'18/8	高松市	看護部 リソースナース室	橋倉尚美
272	第27回母乳育児シンポジウム	過去5年間の総合周産期母子医療センターにおける退院時栄養法別の比較検討～背景要因と体重推移から見えてくる支援のあり方～	'18/8	長崎市	看護部 院内助産・産科外来看護科	岸本香織
273	第22回日本看護管理学会学術集会	産科超緊急対応システムの体制整備への取り組み	'18/8	神戸市	看護部 5階東病棟看護科	江口さやか
274	第59回日本母性衛生学会	双胎の1児が生存不可能な疾患をもつ妊婦とその家族への支援	'18/10	新潟市	看護部 5階東病棟看護科	大塚容子
275	第21回腎不全看護学会学術集会	妻の透析継続を支える夫の経験と思い	'18/11	長野市	看護部 血液浄化センター看護科	石田恵子
276	第28回日本新生児看護学会学術集会	完全個室病床を備えたNICU病棟の運用に関する実践報告	'18/11	東京都	看護部 NICU看護科	佐藤裕美
277	第28回日本新生児看護学会学術集会	こども在宅看護外来での支援の実際	'18/11	東京都	看護部 小児外来看護科	増田真代
278	第31回日本総合病院精神医学会総会	整形外科病棟におけるせん妄に対する病棟看護師の意識調査	'18/12	東京都	看護部 リソースナース室	田中さおり
279	第52回日本臨床腎移植学会	当院通院レシピエントの腎移植後医療満足度に関する観察研究	'19/2	大阪市	看護部 腎移植外来看護科	喜 信幸
280	第10回近畿母乳育児フォーラム	妊娠期からの継続した母乳育児支援～直接授乳が困難と予測される症例～	'19/2	神戸市	看護部 院内助産・産科外来看護科	川口美里
281	第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	急性期病院における入退院支援室の効果の検討～誤嚥性肺炎患者の介入結果から～	'19/3	大阪市	看護部 地域医療部	南 裕江
282	日本看護研究学会第32回近畿・北陸地方学術集会	アブレーション入院患者が抱く不安の現状調査	'19/3	福井市	看護部 7階東病棟看護科	宮田智恵
283	第119回近畿救急医学研究会	心臓カテーテル室における地震発生を想定した訓練の実践報告	'19/3	京都市	看護部 救急センター看護科	東 桂子
284	第68回日本病院学会	当院における小児鎮静MRIの安全化への取り組み	'18/6	金沢市	技術部 放射線診断科	高田博紀
285	第58回関西MAGNETOM研究会	頸部MRI領域における米sat padの検討	'18/7	大阪市	技術部 放射線診断科	竹井直樹

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
286	第11回植込みデバイス関連冬季大会	ステレオタキシス社製リモートマグネティックナビゲーションシステム使用環境下でICD機能が適切に作動せず電池電圧が電池交換指標となった一例	'19/2	東京都	技術部 臨床工学科	佐藤覚也名
287	高槻病院がん市民公開講座	免疫力を高める食事のとり方	'19/2	高槻市	技術部 栄養管理科	上野有里
288	第46回日本小児神経外科学会	当院の「頭の形外来」における理学療法士の取り組み	'18/6	東京都	技術部・診療部 リハビリテーション科	山下真人, 櫻 篤
289	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	重度脳卒中者の長下肢装具歩行時の下肢筋活動と随意筋活動回復の関連性	'18/6	福岡市	技術部・診療部 リハビリテーション科	山木健司, 櫻 篤
290	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	当院の化学療法施行の肺癌患者におけるサルコペニアの実態	'18/6	福岡市	技術部・診療部 リハビリテーション科	井上知哉, 櫻 篤
291	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	ICU-AWにより四肢麻痺を呈したが、独歩にて自宅退院可能となったHUS症例	'18/6	福岡市	技術部・診療部 リハビリテーション科	飯塚崇仁, 櫻 篤
292	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	当院消化器外科患者の術前栄養状態が術後運動機能に及ぼす影響	'18/6	福岡市	技術部・診療部 リハビリテーション科	小西彩香, 櫻 篤
293	第30回大阪府理学療法学会学術集会	肺出血による呼吸不全患者に対し、運動療法および退院時指導により運動耐容能向上を認めた症例	'18/7	大阪市	技術部・診療部 リハビリテーション科	山崎元晴, 櫻 篤
294	第30回大阪府理学療法学会学術集会	超高齢重症肺炎患者に対して超急性期から病期と栄養状態に応じた理学療法を行ったことで自宅復帰に至った例	'18/7	大阪市	技術部・診療部 リハビリテーション科	近藤有希, 櫻 篤
295	第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	抑うつ症状がみられたうつ血性心不全患者に対し、家事動作の獲得に向けて作業療法介入を行った一症例	'18/7	横浜市	技術部・診療部 リハビリテーション科	松下浩尚, 櫻 篤
296	第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	待機的PCI治療患者における腎機能が及ぼす影響	'18/7	横浜市	技術部・診療部 リハビリテーション科	清水和也, 櫻 篤
297	第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	栄養状態が急性心不全患者に与える影響の検討	'18/7	横浜市	技術部・診療部 リハビリテーション科	本郷裕士, 櫻 篤
298	第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	呼吸による口腔内気流の有無における口腔水分量の検討	'18/9	仙台市	技術部・診療部 リハビリテーション科	俵屋章則, 櫻 篤
299	第5回日本予防理学療法学会学術集会	当院初期もの忘れ外来における社会的孤立と歩行能力の関係	'18/10	小倉市	技術部・診療部 リハビリテーション科	村川佳太, 櫻 篤
300	第45回日本股関節学会	THA術後2ヶ月の中殿筋筋力は術後早期の股関節伸展ROMに影響する	'18/10	名古屋市	技術部 リハビリテーション科	向井拓也

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
301	第28回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	人工呼吸器装着患者の退院時歩行自立に影響する因子について - OPEN - ICUでの検討 -	'18/11	千葉市	技術部・診療部 リハビリテーション科	清水和也, 櫻 篤
302	第8回日本がんリハビリテーション研究会	緩和期における理学療法士としての着目点についての一考察	'18/12	札幌市	技術部・診療部 リハビリテーション科	小西彩香, 櫻 篤
303	第11回大阪府理学療法士会三島ブロック新人症例発表会	長期間患肢の固定を要した脛骨高原骨折患者において関節可動域改善がみられADL拡大した症例～超音波療法と徒手療法を併用して～	'18/12	高槻市	技術部 リハビリテーション科	宇留島嵩人
304	第11回大阪府理学療法士会三島ブロック新人症例発表会	終末期がん患者に対し 理学療法士としての関わり方を検討した一症例	'18/12	高槻市	技術部 リハビリテーション科	藤崎あずさ
305	第11回大阪府理学療法士会三島ブロック新人症例発表会	酸素療法下での運動療法と電気刺激療法が奏功したⅡ型呼吸不全患者の一例	'18/12	高槻市	技術部 リハビリテーション科	山田美穂
306	第6回日本運動器理学療法学会	変形性膝関節症に対して脂肪組織由来幹細胞による再生医療を施行した一症例	'18/12	福岡市	技術部・診療部 リハビリテーション科	山下真人, 櫻 篤
307	第6回日本運動器理学療法学会	妊娠後期に両側大腿骨頸部骨折を受傷し、切迫症状にも注意しながら理学療法を行った一症例	'18/12	福岡市	技術部・診療部 リハビリテーション科	廣瀬 綾, 櫻 篤
308	第5回日本小児理学療法学会	当院PICUにおける過去3年間の理学療法の現状と課題についての検討	'18/12	大阪市	技術部 リハビリテーション科	飯塚崇仁
309	第58回近畿理学療法学会	多職種連携を意識し栄養療法と運動療法を併用することでADL改善に至った一症例	'19/1	奈良市	技術部 リハビリテーション科	堀江知穂
310	第58回近畿理学療法学会	胸部大動脈瘤と化膿性脊椎炎を罹患した盲腸癌患者に対しB-SESを使用し、下肢骨格筋機能を維持できた症例	'19/1	奈良市	技術部 リハビリテーション科	丸本翔馬
311	第5回愛仁会リハビリテーション部門学術大会	積極的な栄養と作業療法によって身体・認知機能が改善した一症例	'19/2	高槻市	技術部・診療部 リハビリテーション科	石本恵一, 櫻 篤
312	第49回日本人工関節学会	テーピングを用いた人工膝関節置換術後急性リハビリテーション効果の検討	'19/2	東京都	技術部・診療部 リハビリテーション科	向井拓也, 櫻 篤
313	第9回腎臓リハビリテーション学会	当院外来透析患者における腎臓リハビリテーションの取り組みについて～ガイドライン発行を受けて～	'19/3	別府市	技術部・診療部 リハビリテーション科	山下真人, 櫻 篤
314	第9回腎臓リハビリテーション学会	当院血液透析患者における骨格筋電気刺激療法の効果	'19/3	別府市	技術部・診療部 リハビリテーション科	清水和也, 櫻 篤
315	三島ブロック現職者共通研修事例検討・報告会	脳梗塞を発症し、夫の介護のために早期自宅退院を目指した症例	'19/3	高槻市	技術部 リハビリテーション科	高井満里奈

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
316	三島ブロック現職者共通研修事例検討・報告会	頸椎症性脊髄症患者に対して、食事場面の環境調整から介入し活動量向上に繋がった症例	19/3	高槻市	技術部 リハビリ テーション 科	渡辺佳那栄
317	三島ブロック現職者共通研修事例検討・報告会	左半側空間無視を呈した重度片麻痺患者の食事場面に焦点を当てた症例	19/3	高槻市	技術部 リハビリ テーション 科	北川楓子

## 論文発表 (2018/4/1~2019/3/31)

No.	表題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著者	掲載年
1	腫瘤影を呈し、画像上肺癌が疑われた肺結核の1例	結核	93(10)	539	診療部 呼吸器内科	福井崇文, 山田 潤, 小濱みずき, 梅谷俊介, 中村美保, 奥野恵子, 船田泰弘	2018
2	スギ皮下免疫療法が有用であった花粉・食物アレルギー症候群の1例	アレルギー	67 (4-5)	675	診療部 小児科外 来・小児病 棟	仲宗根瑠花, 谷内昇一郎, 郷間 環, 榎本真宏, 大西 聡, 橋村裕也, 内山敬達, 起塚 庸, 南 宏尚	2018
3	重度IgG3沈着を伴う分節性膜性腎症 (Segmental membranous nephropathy with severe IgG3 deposition)	Pediatrics International	60(6)	597-607	診療部 小児科外 来・小児病 棟	Kondo Atsushi, Hashimura Yuya, Uchiyama Takamichi, Yoshikawa Norishige, Minami Hiroataka.	2018
4	【川崎病-第42回近畿川崎病研究会-】IVIG不応型川崎病の治療方針 血漿交換療法の位置づけ	Progress in Medicine	38(7)	711-715	診療部 小児科外 来・小児病 棟	大西 聡, 起塚 庸, 内山敬達, 南 宏尚	2018
5	Long-term safety of subcutaneous immunotherapy with TO-204 in Japanese patients with house dust mite-induced allergic rhinitis and allergic bronchial asthma: Multicenter, open label clinical trial.	Allergol Int.	67	347-356	診療部 小児科外 来・小児病 棟	Fujisawa T, Shimoda T, Masuyama K, Okubo K, Honda K, Okano M, Katsunuma T, Urisu A, Kondo Y, Odajima H, Kurihara K, Nagata M, Taniguchi M, Taniuchi S, Doi S, Matsumoto T, Hashimoto S, Tanaka A, Natsui K, Abe N, Ozaki H.	2018
6	非典型的な臨床所見のためにサイトメガロウイルスによる乳児肝炎との鑑別に苦慮した先天性胆道閉鎖症の1例	愛仁会医学研究誌	50	12-15	診療部 小児科外 来・小児病 棟	福嶋志穂	2019
7	小児アレルギー疾患と生物学的製剤	アレルギーの臨床	39	189-192	診療部 小児科外 来・小児病 棟	谷内昇一郎, 榎本真宏	2019
8	思春期に発達障害と診断された超低出生体重児の2例	愛仁会医学研究誌	50	16-19	診療部 NICU・GCU	武井安津子	2019
9	小児声門下腔狭窄症に対するpartial cricotracheal resection (PCTR)	小児耳鼻咽喉科	39(1)	18-25	診療部 小児外科	津川二郎, 西島栄治	2018
10	【小児の治療指針】呼吸器 気胸, 縦隔気腫	小児科診療	81巻増刊	426-428	診療部 小児外科	西島栄治	2018
11	【ナゾ解き生化学おもしろ講座 イラストでわかる栄養素の代謝のしくみ】たんぱく質代謝のしくみ	Nutrition Care	11(4)	302-305	診療部 消化器外科	土師誠二	2018

No.	表 題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著 者	掲載年
12	腹腔内出血を来した胃GIST破裂の1例	癌と化学療法	45 (13)	2420-2422	診療部 消化器外科	山田康太, 川崎健太郎, 朝倉 力, 大和田善之, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也	2018
13	腹腔鏡下S状結腸切除術後に乳び瘻となり 保存的に軽快した1例	癌と化学療法	45 (13)	1866-1868	診療部 消化器外科	大和田善之, 川崎健太郎, 朝倉 力, 山田康太, 細野雅義, 岡崎太郎, 家永徹也	2018
14	silentMRAで脳動脈瘤の再発が確認できた 破裂脳動脈瘤の一例	脳血管内治療	3巻 Suppl.	S268	診療部 脳神経外科	前野和重, 宇津木玲奈, 福屋章悟, 堀内一臣, 宗像良二, 生沼雅博, 渡辺善一郎, 渡部一夫	2018
15	【小児の中枢神経画像update】脳奇形	小児科診療	81(8)	1025-1034	診療部 小児脳神経 外科	宇都宮英綱	2018
16	【小児脳神経外科疾患の課題と展望】小児 水頭症に対するVPシャント術vs. 神経内視 鏡手術 現状と課題	脳神経外科ジャーナル	27(9)	646-652	診療部 小児脳神経 外科	原田敦子	2018
17	【よくある疾患の診かた-他科からの助言- 】脳神経外科 大頭症	小児科臨床	71巻増 刊	2141-2145	診療部 小児脳神経 外科	原田敦子	2018
18	UKAにおけるHLS Uni Evolutionの使用経験 について	JOSKAS	43(2)	464-465	診療部 整形外科	壺坂正徳, 平中崇文, 飛田祐一, 置村健二郎, 柴田洋作, 藤代高明	2018
19	Oxford UKA後の脛骨骨折と脛骨の形態につ いて	JOSKAS	43(2)	462-463	診療部 整形外科	置村健二郎, 平中崇文, 壺坂正徳, 飛田祐一, 藤代高明	2018
20	Mobile型UKAの矢状面動作解析と影響因子 の検討	JOSKAS	43(2)	458-459	診療部 整形外科	飛田祐一, 平中崇文, 壺坂正徳, 柴田洋作, 藤代高明	2018
21	新しい大腿骨近位部骨折用インプラント TresLockの術後3D-CT解析	骨折	40(2)	482-485	診療部 整形外科	平中崇文, 飛田祐一	2018
22	Ideal screw positions for multiple screw fixation in femoral neck fractures - Study of proximal femur morphology in a Japanese population.	J Orthop Sci.	23(3)	521-524	診療部 整形外科	Nakanishi Y, Hiranaka T, Shirahama M, Uesugi M, Okimura K, Tsubosaka M, Shibata Y, Hida Y, Fujishiro T, Uemoto H.	2018
23	大腿骨頸基部骨折に対する3重パレルCHSの 治療経験	骨折	40(3)	818-822	診療部 整形外科	上杉雅文, 河野 衛, 清水知明, 市村晴充, 平中崇文, 白濱正博	2018
24	Unicompartmental knee arthroplasty for spontaneous osteonecrosis of the medial tibial plateau.	Knee	25(4)	715-721	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Hida Y, Fujishiro T, Okamoto K	2018
25	Polarus 3 Humeral Nailにおける月光ドリ ルの有用性についての検討	骨折	40(4)	953-955	診療部 整形外科	平中崇文, 飛田祐一	2018
26	Effect of tibial component position on short-term clinical outcome in Oxford mobile bearing unicompartmental knee arthroplasty.	J Orthop Sci.	23(5)	807-810	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Hida Y, Fujishiro T, Okamoto K	2018
27	経験と考察 人工膝関節全置換術における 術前前十字靭帯機能と術後患者立脚型評価 との関連性	整形外科	69 (13)	1307-1311	診療部 整形外科	飛田祐一, 平中崇文, 菊池健一, 亀長智幸, 藤代高明, 岡本剛治	2018
28	Influence of tibial component rotation on short-term clinical outcomes in Oxford mobile-bearing unicompartmental knee arthroplasty.	Knee	25(6)	1222-1230	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Kikuchi K, Hida Y, Fujishiro T, Okamoto K	2018
29	インプラントデザインと選択 : UKA	関節外科	38(3)	48-55	診療部 整形外科	平中崇文	2019



No.	表 題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著 者	掲載年
30	Approximately 30% of Functioning Anterior Cruciate Ligaments Are Sacrificed for Knee Arthroplasty.	J Knee Surg.	Epub ahead of print		診療部 整形外科	Hiranaka T, Hida Y, Fujishiro T, Kamenaga T, Kikuchi K, Yoshikawa R, Tachibana S, Okamoto K	2019
31	Rotational position of the tibial component can decrease bony coverage of the tibial component in Oxford mobile-bearing unicompartmental knee arthroplasty.	Knee	26(2)	459-465	診療部 整形外科	Kamenaga T, Hiranaka T, Hida Y, Fujishiro T, Okamoto K.	2019
32	第137回近畿産婦人科学会学術集会周産期シンポジウム記録「妊産婦が安心して満足できる分娩を目指して」シンポジウムのまとめ	産婦人科の進歩	70	167	診療部 産婦人科	中後 聡	2018
33	臍帯卵膜付着症例では幸帽児帝王切開は回避すべきである	産婦人科の進歩	70(2)	252	診療部 産婦人科	柴田貴司, 西川茂樹, 福岡泰教, 細野佐代子, 徳田妃里, 中後 聡, 小辻文和	2018
34	子宮摘出後骨盤臓器脱修復に対する「筋膜巻き出し術」の治療成績	産婦人科の進歩	70(2)	246	診療部 産婦人科	大石哲也, 加藤大樹, 柴田貴司, 徳田妃里, 小辻文和	2018
35	臍帯相互巻絡による-絨毛膜-羊膜 (MM) 双胎-児死亡の管理経験 MRIでの生存児の中樞神経評価の有用性について	産婦人科の進歩	70(2)	241	診療部 産婦人科	小寺知揮, 中後 聡, 飯塚徳昭, 柴田貴司, 大石哲也, 小辻文和	2018
36	妊娠30週にIUDとなった全前置胎盤症例経膈分娩トライアルに向けた思考プロセスと臨床経過	産婦人科の進歩	70(2)	240	診療部 産婦人科	飯塚徳昭, 松本真歩, 西川茂樹, 細野佐代子, 柴田貴司, 中後 聡, 小辻文和	2018
37	妊娠中の急性虫垂炎を早期に診断するためには 6例の経験から学び・導かれた診療方針	産婦人科の進歩	70(2)	239	診療部 産婦人科	加藤大樹, 徳田妃里, 柴田貴司, 西川茂樹, 大石哲也, 中後 聡, 小辻文和	2018
38	肺塞症との鑑別を求められた産褥周産期心筋症の1例 検査の前の正確な病歴と理学所見把握の重要性	産婦人科の進歩	70(2)	227	診療部 産婦人科	神谷亮雄, 福岡泰教, 徳田妃里, 柴田貴司, 加藤大樹, 中後 聡, 小辻文和	2018
39	子宮底部横切開創部の術後MRIと次回帝切時観察による評価	産婦人科の進歩	70(2)	219	診療部 産婦人科	中後 聡, 加藤大樹, 柴田貴司, 徳田妃里, 大石哲也, 小辻文和	2018
40	子宮頸部側壁縦方向裂創の修復法2症例の経験から	産婦人科手術	29	158	診療部 産婦人科	福岡泰教, 加藤大樹, 柴田貴司, 中後 聡, 大石哲也, 小辻文和	2018
41	非典型的な臨床経過を辿った子宮破裂の2症例 臨床症状発現機序の考察と修復の要点	産婦人科手術	29	158	診療部 産婦人科	徳田妃里, 西川茂樹, 柴田貴司, 加藤大樹, 中後 聡, 大石哲也, 小辻文和	2018
42	骨盤臓器脱に対する”恥骨頸部筋膜出し法” 前膈壁Total Repairのためのポイント	産婦人科手術	29	129	診療部 産婦人科	大石哲也, 加藤大樹, 柴田貴司, 徳田妃里, 小辻文和	2018
43	Malignant lymphoma of the ovary: A diagnostic pit fall of intraoperative consultation.	Int J Gynecol Pathol	in press	doi: 10.1097/PGP.0000000000000571	診療部 産婦人科	Iizuka N, Ikura Y, Fukuoka Y, Shibata T, Okamoto M, Kamiya A, Oishi T, Kotsuji F, Iwai Y	2018
44	25年間以上無治療で経過し、治療が著効した眼筋型重症筋無力症の1例	臨床眼科	73(3)	381-386	診療部 眼科	丸山会里, 西川優子, 戸成匡宏, 松尾純子, 奥 英弘, 菅澤 淳, 池田恒彦, 木村文治	2019
45	慢性膿皮症に対する天蓋除去法の治療経験	日本形成外科学会誌	38	543-549	診療部 形成外科	岡本豊子, 黒川憲史	2018
46	【実地医家のための画像診断実践ガイド】骨盤 前立腺	Medical Practice	35巻臨増	255-259	診療部 放射線イメージングセンター	高橋 哲	2018

47	【疾患・病態を理解する-尿沈渣レファレンスブック】尿路の検査 CT, MRI	臨床検査	62(4)	378-380	診療部 放射線イ メージング センター	高橋 哲	2018
48	【疾患・病態を理解する-尿沈渣レファレンスブック】尿路の検査 血管造影	臨床検査	62(4)	370-372	診療部 放射線イ メージング センター	高橋 哲	2018
49	【疾患・病態を理解する-尿沈渣レファレンスブック】尿路の検査 X線	臨床検査	62(4)	367-369	診療部 放射線イ メージング センター	高橋 哲	2018
50	【症例検討会で突っ込まれないための”実践的”婦人科画像の読み方】CT画像 RECIST判定はこう行う	臨床婦人科産科	72(9)	863-869	診療部 放射線イ メージング センター	高橋 哲	2018
51	【こんな時どうする？腹部コンパートメント症候群の周術期管理】ACSの術中管理 周術期のコマンドーとして発症を予測し、適切な管理を	LiSA	25 (11)	1168-1170	診療部 麻酔科	田原慎太郎, 当麻美樹	2018
52	Echo Findings of Intraoperative Surgical Glue Remnant on the Aortic Valve:A Case Report	A&A Practice	11 (12)	336-9	診療部 麻酔科	田原慎太郎, 永井貴子, 服部洋一郎, 野住雄策	2018
53	Classical Hodgkin lymphoma type post-transplant lymphoproliferative disorder in a kidney transplant recipient: a diagnostic pitfall.	International Journal of Hematology	108(2)	218-227	診療部 病理診断科	Mohri Taro, Ikura Yoshihiro, Hirakoso Asako, Okamoto Masashi, Hishizawa Masakatsu, Takaori-Kondo Akifumi, Kato Seiichi, Nakamura Shigeo, Yoshimura Kai, Okabe Hidetoshi, Iwai Yasuhiro	2018
54	Short-term histological evaluations after achieving a sustained virologic response to direct-acting antiviral treatment for chronic hepatitis C.	United European Gastroenterol J.	6(9)	1391-1400	診療部 病理診断科	Enomoto M, Ikura Y, Tamori A, Kozuka R, Motoyama H, Kawamura E, Hagihara A, Fujii H, Uchida-Kobayashi S, Morikawa H, Murakami Y, Kawada N	2018
55	Malignant Lymphoma of the Ovary: A Diagnostic Pitfall of Intraoperative Consultation.	Int J Gynecol Pathol.	in press	doi: 10.1097/PG P.00000000 00000571	診療部 病理診断科	Iizuka N, Ikura Y, Fukuoka Y, Shibata T, Okamoto M, Kamiya A, Oishi T, Kotsuji F, Iwai Y	2018
56	Endoscopic Diagnosis of Calcifying Fibrous Tumor of the Ileum.	ACG Case Rep J.	5	e91	診療部 病理診断科	Osuga T, Nakano R, Ikura Y	2018
57	認知症の予防と非薬物療法	もの忘れ外来診療のための エッセンシャル講習会 テ キスト		97-114	診療部 リハビリ テーション 科	櫻 篤	2018
58	口腔内細菌数を指標とした早産児に対する口腔ケアの検討	日本口腔ケア学会雑誌	13(1)	15-20	看護部 救急セン ター看護科	高西弘美, 藤田 慧, 佐藤祐美, 片山義規	2018
59	救急センターで退院支援の初回面談を受ける家族の心理状態	愛仁会医学研究誌	50	101-102	看護部 救急セン ター看護科	岡本由美	2019
60	当院における小児鎮静MRIの安全化への取り組み	愛仁会医学研究誌	50	103-105	技術部 放射線科	高田博紀	2019
61	心エコー図検査にて検出された心室中隔に発生した乳頭状線維弾性腫の1例	愛仁会医学研究誌	50	20-22	技術部 検査科	宮本知実	2019

No.	表 題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著 者	掲載年
62	積極的な栄養介入と多職種連携によって身体機能・認知機能に改善を認めた1症例	愛仁会医学研究誌	50	23-26	技術部 リハビリ テーション 科	石本恵一	2019

## 著書発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	著 書 名	出版社・地名	版・刷	掲載頁	部署	著 者	発行年
1	【小児の治療指針】新生児 慢性肺疾患	診断と治療社/東京	小児科診療 81巻増刊	959-963	診療部 NICU・GCU	南 宏尚	2018
2	産科での新生児医療機器ガイド 検査機器 血漿ビリルビン濃度測定装置	東京医学社/東京	周産期医学 48巻6号	708-710	診療部 NICU・GCU	片山義規	2018
3	“新生児循環管理 ～血圧の異常～”	メディカ出版/大阪	NeonaTal care 2018春期増刊	166-173	診療部 NICU・GCU	池上 等	2018
4	呼吸管理中の赤ちゃん観察看護技術ケアポイント 人工呼吸器関連肺炎 (VAP)	メディカ出版/大阪	ネオネイタル ケア 31巻3号	40-45	診療部 NICU・GCU	片山義規	2018
5	新生児の薬剤 溶血性黄疸	メディカ出版/大阪	ネオネイタル ケア 秋季増 刊	214-222	診療部 NICU・GCU	片山義規	2018
6	【病態・疾患別でまなぶ新生児の薬剤 臨床のギモンに答えるQ&A付き】 (2章) 新生児の呼吸器疾患のくすり 呼吸窮迫症候群 (RDS), 慢性肺疾患 (CLD)	メディカ出版/大阪	ネオネイタル ケア 秋季増 刊	50-62	診療部 NICU・GCU	岸上 真, 河田 興	2018
7	【小児呼吸器疾患のファーストタッチから専門診療へ】在宅呼吸管理 在宅酸素療法	診断と治療社/東京	小児科診療 82巻1号	101-107	診療部 NICU・GCU	南 宏尚	2019
8	新生児黄疸を再び考える 呼気CO測定	東京医学社/東京	周産期医学 49巻2号	153-155	診療部 NICU・GCU	片山義規	2019
9	大阪救急 救急センターの現状～救急医療情報キットの普及への取り組み～	大阪府救急医療 機関連絡協議会/ 大阪	第97号	47-48	看護部	大内美穂	2018
10	ネオネイタルケア 10場面を通して考える ディベロップメンタルケア トリセツ	メディカ出版/大阪	Vol. 13 No. 6	8-11	看護部 教育科	森口紀子	2018
11	ネオネイタルケア 10場面を通して考える ディベロップメンタルケア リフレクション フィードバック	メディカ出版/大阪	Vol. 13 No. 6	46-52	看護部 教育科	森口紀子	2018
12	ネオネイタルケア 10場面を通して考える ディベロップメンタルケア シーン1: 環境①赤 ちゃんが聞く音	メディカ出版/大阪	Vol. 13 No. 6	12-15	看護部 NICU看護科	佐藤裕美	2018
13	ネオネイタルケア 10場面を通して考える ディベロップメンタルケア シーン6: ケア③赤 ちゃんがコミュニケーションをとりたとき (State4)	メディカ出版/大阪	Vol. 13 No. 6	34-37	看護部 NICU看護科	小柴直美	2018
14	ネオネイタルケア 10場面を通して考える ディベロップメンタルケア シーン8: ケア⑤赤 ちゃんが哺乳したいとき	メディカ出版/大阪	Vol. 13 No. 6	42-45	看護部 NICU看護科	小柴直美	2018
15	こどもと家族のケア 特集3小児病棟の療養環境 を改善する取り組み 入院時オリエンテーシ ョンと入院中の児のきょうだいへの説明～PICUに おける事例を通して～	日総研/大阪	Vol. 13 No. 3	60-64	看護部 リソースナ ース室	橘倉尚美	2018
16	標準ディベロップメンタルケア ケアの提供と提供者-スタッフのためのディベ ロップメンタルケアの指針	メディカ出版/大阪	改訂2版	152-160	看護部 教育科	森口紀子	2018
17	標準ディベロップメンタルケア NIDCAPモデルに基づいたケアの実際②	メディカ出版/大阪	改訂2版	173-180	看護部 NICU看護科	佐藤裕美, 小柴直美	2018
18	周産期医学 特集周産期専門資格を取ろう! 母性看護専門看護師試験合格体験記	東京医学社/東京	Vol. 48 No. 12	1631-1632	看護部 院内助産・産 科外来看護科	久世宏美	2018

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁	部署	著者	発行年
19	臨床助産ケア スキルの強化 特集1 周産期メンタルヘルスケア 当院総合周産期母子医療センターのメンタルヘルスケアの実践	日総研/大阪	Vol.11 No.1	50-57	看護部 産科外来看護科	久世宏美	2019
20	病院医療安全教育 特集2 ここは必ず押さえよう！[領域別]新人に必ず伝える安全の鉄則 新人向け「安全ケア」60分講座⑤ ER救急外来編	日総研/大阪	Vol.16 No.4	50-54	看護部 救急センター 看護科	高西弘美	2019
21	助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ (3)新生児期・乳幼児期 NIDCAP	医学書院/東京	第5版第7刷	100-105	看護部 教育科	森口紀子	2019

## その他 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版・地名	部署名	担当者
1	米国内科学会日本支部年次総会2018	ランチョンセッション国際交流プログラム委員会企画 グローバルキャリアのすゝめ	'18/6	京都市	診療部 総合内科	矢野(五味)晴美 <sup>1)</sup> , 今井直彦 <sup>2)</sup> , 小原まみ子 <sup>3)</sup> , 金城光代 <sup>4)</sup> , 佐々木 徹 <sup>5)</sup> , 筒泉貴彦, 西脇宏樹 <sup>6)</sup> , 牧石徹也 <sup>7)</sup> , 村中絵美里 <sup>8)</sup> , 山田悠史 <sup>9)</sup> , 武田裕子 <sup>10)</sup> , 1) 国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター 2) 聖マリアンナ医科大学 3) 亀田総合病院 4) 沖縄県立中部病院 5) 佐々木内科医院 6) 昭和大学藤が丘病院 7) 済生会滋賀県病院 8) 黒部市民病院 9) マウントサイナイベイスイスラエル 10) 順天堂大学
2	米国内科学会日本支部年次総会2018	SPC企画セッション In the Clinic翻訳プロジェクト×ベッドサイド5分間ティーチングコラボレーション実践ワークショップ	'18/6	京都市	診療部 総合内科	北野夕佳 <sup>1)</sup> , 大島康雄 <sup>2)</sup> , 原 眞純 <sup>3)</sup> , 太田光泰 <sup>4)</sup> , 堤 健 <sup>5)</sup> , 若竹春明 <sup>5)</sup> , 岩井俊介 <sup>5)</sup> , 官澤洋平 <sup>6)</sup> , 世戸博之 <sup>6)</sup> , 濱田 治 1) 聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院救命救急センター 2) ノバステイスファーマ株式会社安全性再審査統括部 3) 帝京大学医学部附属溝口病院第四内科学講座 4) 聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院救命救急センター 6) 明石医療センター総合内科
3	第25回高槻市消化器疾患談話会	当院での超音波内視鏡下穿刺吸引術(EUS-FNA)の現状	'18/5	高槻市	診療部 消化器内科	長谷川和範
4	茨木市医師会学術勉強会	最新の慢性便秘症治療	'18/10	茨木市	診療部 消化器内科	中島卓利
5	高槻市薬剤師会研修会	炎症性腸疾患の病態と治療	'19/3	高槻市	診療部 消化器内科	長谷川和範

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版・地名	部署名	担当者
6	Complex Cardiovascular Therapeutics (CCT)2018 Special Mini Lecture@Booth アボットバスキュラージャパン株式会社展示ブース	新しい安静時指標RFRの使用経験	'18/10	神戸市	診療部 循環器内科	佐々木 諭
7	第55回日本糖尿病学会近畿地方会	予防・保健指導 座長	'18/10	神戸市	診療部 糖尿病内分泌 内科	富永洋一
8	第11回植込みデバイス関連冬季大会	デバイス関連合併症 座長	'19/2	東京都	診療部 不整脈内科	山城荒平
9	第83回日本循環器学会	AF, Cryoballoon 2, Outcome 座長	'19/3	横浜市	診療部 不整脈内科	山城荒平, 熊谷浩司(東北 医科薬科大学 循環器内 科)
10	第36回大阪食物アレルギー懇話会	食品学からみた食物アレルギー	'18/11	大阪市	診療部 小児科外来・ 小児病棟	谷内昇一郎
11	第37回大阪食物アレルギー懇話会	アナフィラキシーショックの対応	'18/11	大阪市	診療部 小児科外来・ 小児病棟	谷内昇一郎
12	第50回日本小児感染症学会	呼吸器感染症(細菌)	'18/11	福岡市	診療部 小児科外来・ 小児病棟	谷内昇一郎
13	第16回日本周産期循環管理研究会	一般演題8 初期治療 座長	'18/5	和歌山市	診療部 NICU・GCU	宮田昌史 <sup>1)</sup> , 池上 等 1) 藤田保健衛生大学医学 部小児科
14	第54回日本周産期・新生児医学会	呼吸-1 座長	'18/7	東京都	診療部 NICU・GCU	南 宏尚, 木里頼子(沖縄 県立中部病院総合周産期母 子医療センター新生児内 科)
15	恩賜財団母子愛育会周産期医療研修会5 <看護Cコース: NICU・大阪編> NICUにおける母乳育児支援	NICUにおける母乳育児支援	'19/2	大阪府	診療部 NICU	菊池 新
16	医療機関向けの虐待対応啓発プログラムBEAMS(ビームス)	Stage3: CPTメンバー医師・虐待専門医師 ファシリテータ	'18/10	津市	診療部 小児科PICU	起塚 庸
17	第3回大阪小児エコーカンファレンス 特別講演	小児外科医の立場から見たロタウイルス感染症と腸重積症について	'18/7	大阪市	診療部 小児外科	津川二郎
18	第29回日本小児呼吸器外科研究会	セッション4 声門下狭窄(Ⅰ) 座長	'18/10	東京都	診療部 小児外科	津川二郎
19	Heart Valve Expertise Course-Advanced 編- アボットメディカルジャパン株式会社	大動脈弁基部置換および弁形成術 講義	'18/6	東京都	診療部 心臓・大血管 センター	大北 裕
20	沖縄心臓血管外科懇話会	コメンテーター	'18/7	那覇市	診療部 心臓・大血管 センター	大北 裕
21	第23回日本冠動脈外科学会	一般演題口演7 心室瘤・大動脈基部置換 座長	'18/7	和歌山市	診療部 心臓・大血管 センター	大北 裕, 勝間田敬弘
22	Round Table Discussion Medtronic Avalus TM 発売記念講演会	Session 1 Re-innovate AVR 座長	'18/7	大阪市	診療部 心臓・大血管 センター	大北 裕, 松居喜郎(北海 道大学)
23	第30回関東心臓外科手術手技研究会	心臓大血管手術 -剥離と連針-	'18/11	東京都	診療部 心臓・大血管 センター	大北 裕
24	心臓病を内科, 外科で考える会 in 八重山=Medtronic	弁治療の戦略	'19/2	石垣市	診療部 心臓・大血管 センター	大北 裕
25	Aortic Valve Meeting -アボットメディカルジャパン株式会社	大血管症例に伴う大動脈弁疾患の治療戦略 講義	'19/2	大阪市	診療部 心臓・大血管 センター	大北 裕

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版・地名	部署名	担当者
26	第83回日本循環器学会	B型大動脈解離に対する治療戦略 座長	'19/3	横浜市	診療部 心臓・大血管 センター	大北 裕, 椎谷紀彦 (浜松 医科大学第一外科)
27	第7回大動脈解離シンポジウム	【急性A型-2】末梢側の術式選択-弓部置換の 要否, Open stent graftの役割 座長	'19/3	横浜市	診療部 心臓・大血管 センター	大北 裕
28	パーキンソン病診断と治療	パーキンソン病治療におけるドパミンアゴス トの位置付け	'18/7	高槻市	診療部 神経内科	松下達生
29	てんかんWebセミナー	高齢者てんかんの対処法と治療意義	'18/11	大阪市	診療部 神経内科	松下達生
30	Epilepsy Seminar	てんかん治療	'19/3	大阪市	診療部 神経内科	松下達生
31	第75回日本脳神経外科近畿支部 学術集会	小児・感染 座長: 山中 巧 (京都府立医科大学) コメンテーター	'18/4	豊中市	診療部 小児脳神経外 科	原田敦子
32	小児神経外科教育セミナー2018	水頭症・頭蓋内嚢胞性疾患: 診断・治療と合 併症回避 講義	'18/6	東京都	診療部 小児脳神経外 科	原田敦子
33	第46回日本小児神経外科学会	一般口演12 頭蓋骨縫合早期癒合1 座長	'18/6	東京都	診療部 小児脳神経外 科	原田敦子
34	第46回日本小児神経外科学会	頭蓋骨縫合早期癒合症術後の頭蓋骨形状誘導 療法 (ヘルメット治療) ランチョンセミナー	'18/6	東京都	診療部 小児脳神経外 科	原田敦子, 高松亜子, 金子 剛
35	第28回遺伝医学セミナー	羊水検査で判明したクラインフェルター症候 群 ファシリテーター	'18/9	吹田市	診療部 小児脳神経外 科	原田敦子
36	愛媛大学 医学部学生講義	小児脳神経外科	'18/10	東温市	診療部 小児脳神経外 科	原田敦子
37	第36回日本こども病院神経外科 医会	セッションIV 頭蓋疾患2 座長	'18/11	福岡市	診療部 小児脳神経外 科	原田敦子
38	第48回日本神経放射線学会	小児神経放射線診断のススメ 一症例から学 ぶ発生と解剖ー ランチョンセミナー	'19/2	久留米市	診療部 小児脳神経外 科	宇都宮英綱
39	第10回日本関節鏡・膝・スポー ツ整形外科学会 (JOSKAS)	シンポジウム4. Development of medical instruments facilitated by practical medicineengineering collaboration 座長	'18/6	福岡市	診療部 整形外科	平中崇文
40	第44回日本骨折治療学会	医工連携セッション 手術を変えてみません か? そのアイデアで 座長	'18/7	岡山市	診療部 整形外科	谷下一夫, 平中崇文
41	第44回日本骨折治療学会	医工連携セッション・座長	'18/7	岡山市	診療部 整形外科	平中崇文
42	第131回中部日本整形外科災害 外科学会	一般演題35 TKA II・座長	'18/10	倉敷市	診療部 整形外科	平中崇文
43	サミティベート病院セミナー	UKA術式講演会	'18/11	バンコク, タ イ	診療部 整形外科	平中崇文
44	50th Myanmar Orthopaedic Society Annual Scientific Conference & 38th ASEAN Orthopaedic Congress	Plenary Lecture	'18/11	Yangon, Myanmar	診療部 整形外科	平中崇文
45	第41回日本産婦人科手術学会	いわゆる帝王切開癒痕症候群 (So-called CSS: Cesarean scar syndrome)-予防, 修復-	'19/2	東京都	診療部 産婦人科	座長: 村上 節 (滋賀医科 大学産科学婦人科学講 座), 鈴木隆弘 (東海大学 医学部専門診療学敬産婦人 科) Discussant: 小辻文和 オーガナイザー: 鈴木隆弘
46	第21回北摂皮膚科医会	皮膚科一般 司会	'18/4	大阪市	診療部 皮膚科	瀬戸英伸

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版・地名	部署名	担当者
47	第19回ほくせつフットケアカンファレンス	フットケア 座長	'18/10	高槻市	診療部 皮膚科	瀬戸英伸
48	トレムフィア新発売記念講演会 in 北摂	乾癬 座長	'19/2	大阪市	診療部 皮膚科	瀬戸英伸
49	第24回日本小児麻酔学会	若手研究奨励演題10「小児全身麻酔における術前術後の絶飲食時間の検討」 座長	'18/10	神戸市	診療部 麻酔科	土居ゆみ
50	Hepatology in Focus "Study Links Antiplatelet Drugs to Reduced Liver Fibrosis"	Gastroenterology & Endoscopy News (Andrew Han記者によるインタビュー記事)	'18/10	McMahon Publishing	診療部 病理診断科	伊倉義弘
51	第2回全国在宅医療医歯薬連合会全国大会	歯科シンポジウム	'18/5	京都市	看護部 救急センター 看護科	高西弘美
52	北大阪腎透析療法研究会	講演「ここだけははずせない足病変予防対策」	'18/6	高槻市	看護部 血液浄化センター 看護科	西山育美
53	第9回北摂四医師会三島感染症研究会	“麻疹患者が出た” 初動対応の遅れはアウトブレイクに直結	'18/6	高槻市	看護部 感染対策室	鳴美英智
54	第5回日本手術看護学会近畿地区大会	看護研究・実践報告 座長	'18/7	大津市	看護部 手術室・中材 看護科	杉田扶希子
55	信州大学医学部附属病院	院内助産リーダー養成コース	'18/7	松本市	看護部 5階東病棟看 護科	江口さやか
56	日本家族看護学会第25回学術集会	「あるべき像」を外すと、こうまで変わる家族介入 家族の役割期待をおしつけていませんか？見方を変えると、介入が変わる！ 司会	'18/9	高知市	看護部 リソースナース室	橘倉尚美
57	第14回血液浄化セミナー	講演「透析とフットケア看護」	'18/9	大阪市	看護部 血液浄化センター 看護科	西山育美
58	一般社団法人日本小児看護学会教育委員会 2018年研修会	児童虐待ケースに向き合う・寄り添う・ケアするワークショップ 「子ども虐待の急性期看護～早期発見・暗線の確保～」	'18/10	神戸市	看護部 リソースナース室	橘倉尚美
59	公益社団法人日本看護協会	医療的ケアが必要な学童から思春期の児への在宅支援	'18/10	神戸市	看護部 リソースナース室	橘倉尚美
60	高槻地区周産期地域連携の会	高槻における周産期メンタルヘルスの取り組み報告	'18/10	高槻市	看護部 院内助産・産科 外来看護科	久世宏美
61	日本子ども虐待防止学会第24回学術集会おかやま大会	子ども虐待における看護師の教育	'18/11	倉敷市	看護部 リソースナース室	橘倉尚美
62	第15回三島ブロック感染対策ネットワーク	特別講演 司会	'18/12	大阪市	看護部 感染対策室	鳴美英智
63	第33回高槻市医師会勤務委総会	講演会	'19/2	高槻市	看護部 感染対策室	鳴美英智

# 愛仁会リハビリテーション病院

## 口頭発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	平成30年度イカロスネット研修会	認知症のケアと非薬物療法	'18/5	泉大津市	診療部	砂田一郎
2	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	大腿骨近位部骨折後の手術日を基準とした回復期リハビリテーションパス導入の効果の検討	'18/6	福岡市	診療部	磯山浩孝
3	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	CIDPのファーストライン治療後のリハビリテーション病院の役割	'18/6	福岡市	診療部	中島敦史
4	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	高槻市医師会のクリティカルパスの10年	'18/6	福岡市	診療部	砂田一郎
5	敬老イベント健幸まつり2018	さあはじめよう今日からできる若返り	'18/9	高槻市	診療部	砂田一郎
6	第2回日本リハビリテーション医学会秋期学術集会	就労しているにもかかわらずサルコペニア状態となった40代男性の1例	'18/11	仙台市	診療部	湯川弘之
7	第2回日本リハビリテーション医学会秋期学術集会	脳梁離断症状の回復期リハビリテーション経験	'18/11	仙台市	診療部	福田和浩
8	第53回日本脊髄障害医学会	退院後の脊髄損傷患者における主観的生活満足度の調査	'18/11	名古屋市	診療部	松岡美保子
9	第53回日本脊髄障害医学会	当院を退院した脊髄損傷患者の排便に関する調査	'18/11	名古屋市	診療部	藤井優子
10	第13回近畿ITBカンファランス	ITB療法によって異常発汗が改善した3例	'19/2	大阪市	診療部	砂田一郎
11	第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	時間主導型ABC(Time-Driven Activity-Based Costing:TDABC)を利用した回りハ病棟の原価計算	'19/3	大阪市	診療部	磯山浩孝
12	平成30年度認知症介護研修実践リーダー読み替え研修	認知症の医学知識	'19/3	大阪市	診療部	砂田一郎
13	第44回日本脳卒中学会学術総会	ITB療法によって異常な発汗が改善した3例	'19/3	横浜市	診療部	砂田一郎
14	第68回日本病院学会	実習指導に関わる看護師の指導力向上に向けた取り組み～質問紙調査から、指導で困難を感じている要因を明らかにする～	'18/6	金沢市	看護部 五階西病棟 看護科	松尾麻哉
15	第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	摂食嚥下障害の地域連携のための情報共有ツール「嚥下手帳」の効果	'18/9	仙台市	看護部 リソース ナース室	馬嶋きみ代
16	第44回日本重症心身障害学会学術集会	長期入院を余儀なくされた医療的ケア児の退院支援～家族が退院を受け入れるプロセス～	'18/9	東京都	看護部 六階病棟 看護科	橋本加奈子
17	第44回日本重症心身障害学会学術集会	看護師の重症児に対する臨床判断とケアの専門性	'18/9	東京都	看護部 四階西病棟 看護科	土井恵子
18	リハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018	独居高齢者が自宅退院・施設退院となる要因の検討	'18/10	米子市	看護部 八階病棟 看護科	山本智美
19	リハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018	自宅退院後の内服事故管理方法の現状	'18/10	米子市	看護部 五階西病棟 看護科	大森祐里
20	回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会in舞浜・千葉	組織の離縁を基軸としてクリニカルラダー作成の取り組み(第二報)～組織的役割遂行能力構築～	'19/2	浦安市	看護部 八階病棟 看護科	福井希代子
21	回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会in舞浜・千葉	集団レクリエーションのFIM(認定項目)に対する影響を明らかにする	'19/2	浦安市	看護部 八階病棟 看護科	廣田佳世子
22	回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会in舞浜・千葉	回復期における尿路感染の原因と傾向～尿路感染を予防するために～	'19/2	浦安市	看護部 四階東病棟 看護科	中村三里



No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
23	第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	社会参加へ向けてのアプローチ～失語症患者の思いを理解する難しさを経験して～	'19/3	大阪市	看護部 四階東病棟 看護科	増田寛子
24	第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	排泄援助を通して「再びその人らしい生活」に近づいた一症例～トイレ誘導がもたらす効果とは～	'19/3	大阪市	看護部 五階西病棟 看護科	大西友美
25	第59回日本神経学会学術大会	筋萎縮性側索硬化症患者に対する他職種連携～最後まで「その人らしく生きる」ために～	'18/5	札幌市	リハ技術部 作業療法科	赤穂善行
26	京都府理学療法士会北部研修会	脳卒中治療における過去・現在・未来～理学療法士としてやるべきこと～	'18/6	宮津市	リハ技術部	大垣昌之
27	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	BIA法を用いた心疾患を併存した大腿骨近位部骨折患者の体成分の検討	'18/6	福岡市	リハ技術部 理学療法科	池上泰友
28	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	当院高齢誤嚥性肺炎患者における48時間以内早期離床の有用性	'18/6	福岡市	リハ技術部 理学療法科	上原光司
29	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	脳卒中後片麻痺患者の歩行における非麻痺側前脛骨筋の筋活動の特徴～歩行速度による検討～	'18/6	福岡市	リハ技術部 理学療法科	阿河由巳
30	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	ボツリヌス療法における実態調査～生活期に従事する理学療法士の視点から～	'18/6	福岡市	リハ技術部	大垣昌之
31	第68回日本病院学会	認知症を合併する入院患者に対する集団アプローチの活動報告	'18/6	金沢市	リハ技術部 作業療法科	佐々木香奈
32	第30回大阪府理学療法学術集会	不全四肢麻痺の患者に対しBWSTTを使用することでロフトランド杖歩行を獲得した一症例	'18/7	大阪市	リハ技術部 理学療法科	堀 めぐみ
33	第30回大阪府理学療法学術集会	ぶん回し歩行を呈した片麻痺患者に対する理学療法経験	'18/7	大阪市	リハ技術部 理学療法科	佐川裕哉
34	第30回大阪府理学療法学術集会	下腿切断者に対し、非切断側機能向上を図り義足歩行に至った一症例	'18/7	大阪市	リハ技術部 理学療法科	津野沙也加
35	第30回大阪府理学療法学術集会	健常若年男性における筋肉量の数値的意義の検討～横断的研究～	'18/7	大阪市	リハ技術部 理学療法科	米田哲也
36	日本集中治療医学会第2回関西支部学術集会	48時間以上の人工呼吸器装着患者における自宅退院の可否に関連する因子の検討	'18/7	大津市	リハ技術部 理学療法科	上原光司
37	第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	外来心臓リハビリテーションにおけるSPPB, SPPB-comの活用法の検討	'18/7	横浜市	リハ技術部 理学療法科	池上泰友
38	第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	回復期病院において、外来心臓リハビリテーションを継続し運動耐容能の向上が認められた一症例	'18/7	横浜市	リハ技術部 在宅支援科	畠田沙耶
39	歩行リハビリテーション研究会～近畿地方会～	Honda歩行アシストを使用して歩行練習を行った症例報告	'18/7	大阪市	リハ技術部 理学療法科	上田 実
40	第50回医学教育学会大会	KPTによる内省の可視化と導入の効果を検証する	'18/8	東京都	リハ技術部 教育研修科	貞末仁美
41	第52回日本作業療法学会	気管切開下陽圧人工呼吸器利用者の発声方法についての考察～筋萎縮性側索硬化症患者へのエアポンプ発声法導入事例～	'18/9	名古屋市	リハ技術部 作業療法科	赤穂善行
42	57th ISCoS	The activity of "Seating Advisory team conference" (SAT-C) in our hospital: Intervention to the patient of spinal cord injury in multi-disciplinary team	'18/9	Sydney	リハ技術部 教育研修科	白井宏樹
43	リハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018	回復期病棟入院患者に対し自己効力感を高め退院後の運動継続をサポートしたチームでの取り組み	'18/10	米子市	リハ技術部 理学療法科	重盛大輔
44	リハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018	当院入院時におけるサルコペニアが退院時アウトカムに及ぼす影響	'18/10	米子市	リハ技術部 理学療法科	上原光司
45	リハビリテーション・ケア合同研究大会米子2018	左内包後脚梗塞により右片麻痺を呈した症例の復職に向け随意運動助型電気刺激装置、スパイダー装具を使用したアプローチの報告	'18/10	米子市	リハ技術部 作業療法科	弾 綾香

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
46	リハビリテーション・ケア合同 研究大会米子2018	効果的な振り返り研修を目指して ～KPT法導入の効果検証～	'18/10	米子市	リハ技術部 教育研修科	上本武子
47	リハビリテーション・ケア合同 研究大会米子2018	インストラクショナルデザインを用いて接遇 研修を再考する	'18/10	米子市	リハ技術部 教育研修科	貞末仁美
48	リハビリテーション・ケア合同 研究大会米子2018	回復期病棟退院後訪問リハビリテーションを 行い、早期に職場復帰を果たした一症例 ～ 多職種協働の中でのSTの役割～	'18/10	米子市	リハ技術部 在宅支援科	吉田由美
49	第77回日本公衆衛生学会総会	2年間におけるリハビリテーション室におけ る医療機器、共有物品のATP測定法による洗 浄調査	'18/10	福島市	リハ技術部 理学療法科	池上泰友
50	全国福祉用具相談・研修機関協 議会平成30年度全国会議	シンポジウム「高齢者施設等と避難器具（福 祉用具）について」	'18/11	大阪市	リハ技術部	大垣昌之
51	第7回日本理学療法教育学会	タイムマネジメント研修の効果ー学生から社 会人への転換期、新卒療法士を対象とした3 週間の挑戦ー	'18/11	神戸市	リハ技術部 教育研修科	貞末仁美
52	第16回日本神経理学療法学会 大会	脳卒中後片麻痺患者の歩行時における非麻痺 側前脛骨筋の筋活動と立位バランスとの関連	'18/11	大阪市	リハ技術部 理学療法科	阿河由巳
53	第16回日本神経理学療法学会 大会	脳血管障害後片麻痺患者における静止立位時 の下肢荷重率と歩行自立度の関連性の検討	'18/11	大阪市	リハ技術部	加藤尚也
54	第53回日本脊髄障害医学会	回復期脊髄損傷における自立歩行獲得の傾 向～入院時Frankel分類Cに着目して～	'18/11	名古屋市	リハ技術部 理学療法科	渡壁利考
55	大阪府作業療法学会	弛緩性麻痺に重度間隔障がい・同名半盲・高 次脳機能障害を合わせ持つ患者様に初期から 姿勢へ介入し食事動作介助量が軽減された一 例	'18/12	茨木市	リハ技術部 作業療法科	山辺あかり
56	大阪府作業療法学会	大腿骨転子部骨折術後患者yに対して荷重量 低下に着目し、介入した症例～トイレ動作の 自立を目指して～	'18/12	茨木市	リハ技術部 作業療法科	勝本桃子
57	大阪府作業療法学会	回復期におけるmodifiedCI療法の導入と実践 ～無意味な使用から無意識な使用へ～	'18/12	茨木市	リハ技術部 作業療法科	柴田 仰
58	三島ブロック症例発表会	右下葉部分切除後の重症心筋梗塞患者におけ るCPXを用いた理学療法士の関わり～活動 量・不安抑うつに着目して～	'18/12	高槻市	リハ技術部 理学療法科	濱口祐衣
59	三島ブロック症例発表会	右ACL再建術後に右片麻痺を呈した一症例～ 歩行時の右膝関節に着目して～	'18/12	高槻市	リハ技術部 理学療法科	石橋将也
60	三島ブロック症例発表会	栄養状態を考慮し、介入した視床出血の一症 例	'18/12	高槻市	リハ技術部 理学療法科	中舛糧千
61	三島ブロック症例発表会	CIDP患者に対し歩容改善を図り、短時間で屋 内外歩行獲得に至った一症例	'18/12	高槻市	リハ技術部 理学療法科	玉井駿也
62	三島ブロック症例発表会	脊髄梗塞患者の屋外階段昇降に難渋した一症 例	'18/12	高槻市	リハ技術部 理学療法科	友影祐樹
63	三島ブロック症例発表会	非麻痺側下肢の立脚期に着目し歩行の介助量 軽減を図った一症例	'18/12	高槻市	リハ技術部 理学療法科	片山博人
64	日本神経理学療法学会第2回SIGs 参加型フォーラム	シンポジウム「下肢装具に関わる地域連携」 ～役割分担、シームレス、アウトカム理学療 法士に求められるもの～	'19/1	仙台市	リハ技術部	大垣昌之
65	三島ブロック新人教育プログラ ム	一次救命処置について	'19/1	茨木市	リハ技術部	大垣昌之
66	第58回近畿理学療法学会 大会	回復期の腎不全重複高齢患者に対する運動療 法の効果を検討した一例	'19/1	奈良市	リハ技術部 理学療法科	米田哲也
67	第58回近畿理学療法学会 大会	脳卒中片麻痺患者における長下肢装具のカッ トダウン時期と下肢荷重率との関連	'19/1	奈良市	リハ技術部 理学療法科	松江愛奈
68	回復期リハビリテーション病棟 協会第33回研究大会	過去5年間における装具外来の傾向～フォ ローアップ体制の現状と課題	'19/2	浦安市	リハ技術部 理学療法科	岡本 希
69	回復期リハビリテーション病棟 協会第33回研究大会	高次脳機能障害ワーキングの取り組みについ てー退院後のアンケート調査による課題の検 討ー	'19/2	浦安市	リハ技術部 作業療法科	寺西嘉乃

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
70	回復期リハビリテーション病棟協会第33回研究大会	軽度の遂行機能障害を呈した症例に対し、職場体験を経て社会復帰に繋がられた一例	'19/2	浦安市	リハ技術部 言語療法科	生田 匠
71	第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	教育担当者が外来リハビリテーションを兼務することによる教育効果	'19/3	大阪市	リハ技術部 教育研修科	横山武志
72	第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	回復期病院における外来心臓リハビリテーションの継続意義～重症心不全の一症例を通して～	'19/3	大阪市	リハ技術部 在宅支援科	畠田沙耶
73	JRAT初動対応チーム隊員養成研修	JRATと地域リハビリテーション支援センター	'19/3	高槻市	リハ技術部	大垣昌之
74	日本支援工学系フォーラム 装具連携フォーラム	地域における下肢装具の連携	'19/3	神戸市	リハ技術部	大垣昌之
75	第24回日本災害医学会総会・学術集会	大阪府北部の地震におけるリハビリテーション支援活動～地域リハビリテーション支援センターの活動～	'19/3	米子市	リハ技術部	大垣昌之
76	第44回日本脳卒中学会学術集会	脳卒中患者の回復期病棟入棟時における低栄養が退院時アウトカムに及ぼす影響～GNRIの重症度別に見た検討～	'19/3	横浜市	リハ技術部 理学療法科	上原光司
77	第83回日本循環器学会学術集会	回復期リハビリテーション病棟における心疾患を併存した高齢発症脳梗塞患者の体成分の検討	'19/3	横浜市	リハ技術部 理学療法科	池上泰友
78	第22回日本病態栄養学会学術集会	栄養管理データベースからみた当院の特徴	'19/1	横浜市	診療技術部 栄養管理科	岡本泰幸
79	第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	厳格化されたFIM実績指数の適切な管理と情報提供に向けた取り組み	'19/3	大阪市	診療情報管理室	金子百合恵
80	第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	チームアプローチにおけるMSWの役割を学んだ一症例	'19/3	大阪市	地域医療部	寒川優希

## 論文発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	表題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著者	掲載年
1	認知症とリハビリテーション	大阪府保険医協会雑誌	619	51-59	診療部	砂田一郎	2018
2	チーム医療の中のリハ医のリーダーシップー脊髄損傷の場合ー	Monthly Book MEDICAL REHABILITATION	222	67-76	診療部	住田幹男	2018
3	当院の外傷性頸髄損傷患者に対するリハビリテーション治療成績	日本脊髄障害医学会誌	31(1)	34-38	診療部	松岡美保子	2018
4	脊髄損傷患者の排尿方法に関する経年的変化	日本脊髄障害医学会誌	31(1)	108-109	診療部	松岡美保子	2018
5	回復期リハビリテーション病棟のコスト分析とマネジメント～時間主導型ABC (Time-driven Activity-based Costing) の実践的研究～	CIPFA Japanジャーナル	2	123-140	診療部	磯山浩孝	2018
6	痙攣後に随意性嚥下と反射性嚥下に乖離を認めた1例	Journal of clinical rehabilitation	27(10)	1027-1031	診療部	福田和浩	2018
7	ITB療法で異常な発汗が改善した脳卒中の2例	愛仁会医学研究誌	50		診療部	砂田一郎	2019
8	大腿骨近位部骨折後の手術日を基準とした回復期リハビリテーションパス導入効果の検討	愛仁会医学研究誌	50		診療部	磯山浩孝	2019
9	早期に復職できた自己免疫性辺縁系脳炎の回復期リハビリテーション経験	愛仁会医学研究誌	50		診療部	福田和浩	2019
10	患者を生活者として捉えるための入院時訪問の取り組み	愛仁会医学研究誌	50		看護部 四階東病棟 看護科	西口美奈	2019
11	回復期リハビリテーション病棟看護師における適切な排便コントロールへの取り組み	愛仁会医学研究誌	50		看護部 五階東病棟 看護科	本田登紀子	2019

No.	表題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著者	掲載年
12	回復期リハビリテーション病棟における大腿骨近位部骨折術後患者のサルコペニアの有病率と術後経過について	愛仁会医学研究誌	50		リハ技術部 理学療法科	長尾 卓	2019

## 著書発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁	部署	著者	発行年
1	脳の看護実践「運動機能がある場合の食事動作の獲得と代償手段」	日総研/大阪	第4巻第1号	48-53	看護部	馬嶋きみ代	2018
2	リハビリナース「リハビリ患者さんのゴール設定&退院支援」	株式会社メディカ出版/大阪	第12巻第1号	75-79	看護部	奥村洋子	2018
3	脳の看護実践在宅復帰を促すケア「運動機能障害がある場合の排泄援助」	日総研/大阪	第4巻第2号	75-80	看護部	前岸知香	2018
4	脳の看護実践 在宅復帰を促すケア「失語症がある場合」	日総研/大阪	第4巻第3号	74-78	看護部	前岸知香	2019
5	歩行再建を目指す下肢装具を用いた理学療法	文光堂/東京	第1版第1刷	58-69	リハ技術部	大垣昌之	2019

## その他 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	担当者
1	高槻市医師会地域連携クリティカルパス 10年のあゆみ	高槻市医師会地域連携クリティカルパスの10年-回復期病院よりの視点で-	'18/6	高槻市	診療部	砂田一郎
2	第1回歩行リハビリテーション研究会近畿地方会	ランチョンセミナー ロボットリハが運動障害と内部障害におよぼす治療効果 座長	'18/7	大阪市	診療部	松岡美保子
3	第53回日本脊髄障害医学会	一般演題 ポスター発表リハビリ2 座長	'18/11	名古屋市	診療部	松岡美保子
4	第19回脊損尿路管理研修会	脊損の障害学 講師	'18/12	海南省	診療部	松岡美保子
5	第12回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会	一般口演 リハビリテーションII 座長	'19/3	大阪市	診療部	兒島正裕
6	西淀川医師会学術講演会	骨粗鬆症治療における注意点	'19/3	大阪市	診療部	清水富男
7	第55回日本リハビリテーション医学会学術集会	ポスター 関連専門職 排泄障害 座長	'18/6	福岡市	リハ技術部	大垣昌之
8	第16回日本神経理学療法学会学術集会	ポスター 脳損傷14 座長	'18/11	大阪市	リハ技術部	大垣昌之

# しんあい病院

## 口頭発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第16回日本神経理学療法学会	地域包括ケア病棟への病院機能の変化による脳血管疾患患者の自宅復帰における考察	'18/11	大阪市	技術部	村田尚寛
2	第5回日本地域理学療法学会	地域包括ケア病棟におけるポストアキュート・サブアキュートの傾向	'18/12	横浜市	技術部	村田尚寛

## 論文発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	表題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著者	掲載年
1	地域包括ケア病棟移行への取り組み	愛仁会医学研究誌	50	120-122	看護部	川口ひとみ	2019

## その他 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	担当者
1	三島ブロック中枢地域勉強会	脳卒中の診方・地域連携 講師	'18/5	高槻市	技術部	村田尚寛

# 介護老人保健施設 ケーアイ

## 口頭発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第18回大老協懇話会（事例発表会）	内服薬の作業工程の見直し-誤薬事故を防ぐ-	'18/7	大阪市	療養科	原田裕子
2	第29回全国介護老人保健施設大会埼玉	居リハを継続的に行う為に仕組みを見直した取り組み	'18/10	さいたま市	療養科	横手宏紀
3	第5回日本地域理学療法学会学術大会	地域高齢者と要支援者との身体機能の比較～よりよい介護予防事業を行うために～	'18/12	横浜市	リハビリテーション科	島田祥規
4	第2回高槻市研究発表会	認知症カフェを地域と共同で展開した取り組み	'18/12	高槻市	高槻北地域包括支援センター	水野 悠

## 論文発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	表題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著者	掲載年
1	認知症の人等にやさしいまち” たかつき”を目指して	地域リハビリテーション	141(1)	38-41	高槻北地域包括支援センター	辻田裕之	2019
2	多職種で連携するミールラウンドの体制づくり	愛仁会医学研究誌	50	125-127	リハビリテーション科	福田真耶	2019

## その他 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	担当者
1	第29回全国介護老人保健施設大会埼玉	全般的なケア④ 座長	'18/10	さいたま市	療養科	辻 祐也
2	第18回大老協懇話会（事例発表会）	介護報酬改定とオーラルケア・栄養等について 特別講演座長	'18/7	大阪市		仲田裕行
3	平成30年度認知症地域支援推進員初任者研修	認知症の人等にやさしいまち” たかつき”を目指して 講師	'18/9	金沢市	高槻北地域包括支援センター	辻田裕之
4	大阪府若年性認知症支援研修会	高槻市における若年性認知症の人への支援 講師	'19/2	堺市	高槻北地域包括支援センター	辻田裕之
5	認知症地域支援推進員の活動の推進に関する調査研究事業 研究成果報告会	認知症介護指導者と協働した取り組み 発表者	'19/3	東京都	高槻北地域包括支援センター	辻田裕之

No.	表題	掲載誌名	出版社	掲載頁	部署名	担当者	発行年
1	認知症地域支援推進員 活動事例集【2019年3月版】	認知症介護指導者と協働した小学校講座カリキュラムづくり 著者	社会福祉法人浴風会認知症介護研究・研修東京センター	67-70	高槻北地域包括支援センター	辻田裕之	2019

# 愛仁会看護助産専門学校

## 口頭発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第30回日本看護学校協議会学会	社会人基礎力と実習評価の関連	'18/8	鹿児島市	看護教育部	長嶺洋子

## 論文発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	表題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著者	掲載年
1	看護実践能力の育成をねらいとしたシミュレーション演習	愛仁会医学研究誌	50	128-130	看護教育部	福原真記子	2019

## その他 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	担当者
1	コンピュータ利用教育学会年次大会 (PCカンファレンス2018)	サイバー攻撃確認！インシデントレスポンス机上演習 (TTX) 体験 ワークショップ講師	'18/8	熊本市	医療情報担当 (高槻地区)	山田夕子

No.	表題	掲載誌名	出版社	掲載頁	部署	著者	発行年
1	Bookレビュー 「あなたのセキュリティ対応間違っています」	コンピュータ&エデュケーション vol. 44 ※定期掲載記事 著者	CIEC会誌編集委員会	99	医療情報担当 (高槻地区)	山田夕子	2018
2	Bookレビュー 「あなたの知らないセキュリティの常識」	コンピュータ&エデュケーション vol. 44 ※定期掲載記事 著者	CIEC会誌編集委員会	99	医療情報担当 (高槻地区)	山田夕子	2018
3	Bookレビュー 「ひとり情シス」	コンピュータ&エデュケーション vol. 45 ※定期掲載記事 著者	CIEC会誌編集委員会	167	医療情報担当 (高槻地区)	山田夕子	2018
4	2018PCカンファレンス分科会報告	コンピュータ&エデュケーション vol. 46 「インシデントレスポンス机上演習体験」 著者	CIEC会誌編集委員会	162	医療情報担当 (高槻地区)	山田夕子	2018

# 明石医療センター

## 口頭発表 (2018/4/1~2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	SGIM2018	Assessment protocol for swallowing function after aspiration pneumonia reduces aspiration and choking	'18/4	デンバー, アメリカ	診療部 総合内科	官澤洋平
2	KGMC(研究会)	食べられない…高齢女性の症例(ポリファーマシー)	'18/4	神戸市	診療部 総合内科	大西 潤
3	米国内科学会日本支部年次総会2018	Successful treatment of necrotizing fasciitis caused by Aeromonas hydrophila.	'18/6	京都市	診療部 総合内科	辻本泰貴
4	米国内科学会日本支部年次総会2018	Aspergillus revealed by cessation of antibiotics treatment by removal of spinal implant.	'18/6	京都市	診療部 総合内科	水木真平
5	米国内科学会日本支部年次総会2018	Group A streptococcal pneumonia in a COPD patient	'18/6	京都市	診療部 研修医	小島正樹
6	第23回日本緩和医療学会学術大会	家庭医療後期研修医のアドバンス・ケア・プランニングに対する意識・態度・臨床実践に関する実態調査	'18/6	神戸市	診療部 総合内科	石丸直人
7	第9回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会	頸部リンパ節腫脹と紅斑を契機に診断し子宮頸癌を合併した口腔咽頭梅毒の1例	'18/6	津市	診療部 総合内科	石丸直人
8	第9回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会	アスペルギルス硬膜外膿瘍・インプラント感染の一例	'18/6	津市	診療部 総合内科	水木真平
9	第221回近畿地方会(日本内科学会)	巨細胞性動脈炎と鑑別を要した咽後膿瘍の一例	'18/9	大阪市	診療部 研修医	山本真有佳
10	22th WONCA World Conference	Kikyo-to for Acute Upper Respiratory Tract Infection-associated Sore Throat Pain: a Randomized Controlled Trial	'18/10	ソウル, 韓国	診療部 総合内科	石丸直人
11	神戸内科学セミナー	転倒を繰り返した86歳男性症例(症例報告)	'18/10	神戸市	診療部 研修医	長 陽二郎
12	播磨糖尿病内分泌カンファレンス	口渇, 味覚異常, 倦怠感を主訴とした症例	'19/2	姫路市	診療部 総合内科	辻本泰貴
13	第223回近畿地方会(日本内科学会)	当院における壊血病の3例	'19/3	京都市	診療部 研修医	長 陽二郎
14	ELCC 2018 European Lung Cancer Congress	A phase II trial of nab-paclitaxel and gemcitabine in patients with non-small cell lung cancer previously treated with platinum based chemotherapy	'18/4	Geneva, Switzerland	診療部 呼吸器内科	Y.Hatakeyama
15	第26回びまん性肺疾患勉強会	ステロイド中止後再燃した間質性肺炎の一例	'18/4	神戸市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
16	第58回日本呼吸器学会学術講演会	抗アミノアシルtRNA合成酵素抗体(抗ARS抗体)症候群に併発する間質性肺炎の治療経過に関する検討	'18/4	大阪市	診療部 呼吸器内科	畠山由記久
17	第8回神戸呼吸器の会	EWSを使用した2症例	'18/5	神戸市	診療部 呼吸器内科	川口亜記
18	第5回神戸呼吸器内科勉強会	薬剤性肺障害と鑑別を要した加湿器肺の一例	'18/5	神戸市	診療部 呼吸器内科	川口亜記
19	第5回神戸呼吸器内科勉強会	明らかにリスクファクターを有さず市中大腸菌肺炎・菌血症をきたした一例	'18/5	神戸市	診療部 呼吸器内科	高宮 麗
20	第24回すこやか広場	誤嚥性肺炎とは何か	'18/6	明石市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
21	第121回日本結核病学会近畿地方会・第91回日本呼吸器学会近畿地方会	明らかにリスクファクターを有さず市中大腸菌肺炎・菌血症をきたした一例	'18/7	神戸市	診療部 呼吸器内科	高宮 麗
22	第121回日本結核病学会近畿地方会・第91回日本呼吸器学会近畿地方会	微細粒状影とすりガラス状陰影をきたしたコロナゼムによる薬剤性肺障害の一例	'18/7	神戸市	診療部 呼吸器内科	二ノ丸 平



No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
23	第121回日本結核病学会近畿地方会・第91回日本呼吸器学会近畿地方会	薬剤性肺障害と鑑別を要した加湿器肺の一例	'18/7	神戸市	診療部 呼吸器内科	川口重記
24	第121回日本結核病学会近畿地方会・第91回日本呼吸器学会近畿地方会	診断に4年を要した卵円孔開存による platypnea-orthodeoxia syndromeの一例	'18/7	神戸市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
25	第121回日本結核病学会近畿地方会・第91回日本呼吸器学会近畿地方会	肺腺癌に対して抗PD-1抗体薬を使用し急性発症1B型糖尿病を発症した1例	'18/7	神戸市	診療部 呼吸器内科	畠山由記久
26	第4回高砂市医師会生涯教育研修会	慢性咳の診療の実際	'18/7	高砂市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
27	神戸西区、明石地区リウマチ性疾患治療懇話会	関節リウマチと呼吸器疾患 リスクマネージメントを含めて	'18/9	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
28	第33回明石呼吸器懇話会	呼吸器疾患における症例検討	'18/10	明石市	診療部 呼吸器内科	畠山由記久
29	第33回明石呼吸器懇話会	呼吸器疾患における症例検討	'18/10	明石市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
30	Scientific exchange meeting in Akashi2018	併存症のある喘息患者の治療実態	'18/11	神戸市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
31	第59回日本肺癌学会学術集会	一般臨床3病院におけるPembrolizumab投与症例の臨床的検討	'18/11	東京都	診療部 呼吸器内科	二ノ丸 平
32	フルティフォームエリア講演会 in明石大久保地区	症例検討～気管支喘息～	'18/11	明石市	診療部 呼吸器内科	吉村 将
33	第92回日本呼吸器学会近畿地方会・第122回日本結核病学会近畿地方会	EGFR遺伝子変異陽性肺腺癌から扁平上皮癌への形質転換がみられた一例	'18/12	奈良市	診療部 呼吸器内科	高宮 麗
34	第92回日本呼吸器学会近畿地方会・第122回日本結核病学会近畿地方会	両側肺野にすりガラス陰影が出現し肺水腫との鑑別を要した異所性肺石灰化症の1例	'18/12	奈良市	診療部 呼吸器内科	二ノ丸 平
35	第92回日本呼吸器学会近畿地方会・第122回日本結核病学会近畿地方会	CTにて両側すりガラス濃度上昇部位に重症市中肺炎を発症した肺胞蛋白症の一例	'18/12	奈良市	診療部 呼吸器内科	藤本昌大
36	第92回日本呼吸器学会近畿地方会・第122回日本結核病学会近畿地方会	気胸と関連したと考えられた肺 Mycobacterium avium complex (MAC) 症による胸膜炎の2例	'18/12	奈良市	診療部 呼吸器内科	川口重記
37	第30回すこやか広場	マイコプラズマ肺炎～不思議な微生物 次の大流行に備えて～	'18/12	明石市	診療部 呼吸器内科	吉村 将
38	第27回びまん性肺疾患勉強会	検診で発見された肺内多発結節陰影の1例	'18/12	神戸市	診療部 呼吸器内科	吉村 将
39	淡路呼吸器疾患講演会	COPDの診断と治療 Up To Date LAMA/LABA合剤をより役立てるために	'19/2	洲本市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
40	第40回播磨画像診断研究会	呼吸器内科医の胸部画像診断への苦闘－教科書的から我流読影まで－	'19/2	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
41	Respiratory Symposium in Akashi	当院での咳診療 症例検討	'19/3	明石市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
42	第14回東播リウマチ診療連携研究会	関節リウマチと呼吸器内科の関わり	'19/3	加古川市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
43	KCJL2018	OCT guided PCIの有用性	'18/4	大阪市	診療部 循環器内科	黒田 優
44	EuroPCR2018	The impact of first-generation vs. second-generation DES on long-term arterial healing and neointimal in AMI assessed by OCT	'18/5	パリ, フランス	診療部 循環器内科	黒田 優
45	第8回豊橋ライブ	繰り返すステント内再狭窄に対しRotablatorとExcimerLaserによるdebulkingにより再狭窄を防いだ1例	'18/6	豊橋市	診療部 循環器内科	加藤幸範
46	第125回日本循環器学会近畿地方会	血栓吸引・レーザーに抵抗性の血栓性病変に対してperfusion balloonにてbail outした急性冠症候群の一例	'18/6	大阪市	診療部 循環器内科	小平睦月

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
47	第65回日本不整脈心電学会学術大会	Early performance of leadless cardiac peccemaker: single center experience.	'18/7	東京都	診療部 循環器内科	松浦岳司
48	第65回日本不整脈心電学会学術大会	A case of Catheter Ablation using Four-Dimensional Computed Tomography as a Voltage Map for Recurrent Atrial Fibrillation	'18/7	東京都	診療部 循環器内科	松本晃典
49	第65回日本不整脈心電学会学術大会	A Case of Adenosine-Sensitive Atrial Tachycardia Originating from Middle Layer of Postero-Lateral Tricuspid Annulus	'18/7	東京都	診療部 循環器内科	加藤幸範
50	第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	バルーン大動脈弁形成術と経カテーテルの大動脈弁留置術の術前後のFrailtyscaleとその改善度の比較	'18/7	横浜市	診療部 循環器内科	河田正仁
51	第27回日本心臓血管インターベンション治療学会 (CVIT2018)	Initial and midterm results for coronary stent restenosis treated with Lacrosse NSE scoring balloon and drug-coated balloon PCI	'18/8	神戸市	診療部 循環器内科	河田正仁
52	第27回日本心臓血管インターベンション治療学会 (CVIT2018)	Clinical Impact of Drug-coated Ballon on in-stent Restenosis Compared with Compared with Conventional Ballon Angioplasty: a Prospective Multicenter Optical Coherence Tomography Registry	'18/8	神戸市	診療部 循環器内科	黒田 優
53	第27回日本心臓血管インターベンション治療学会 (CVIT2018)	Comparison of 1.5-year clinical impact between 3rd-generation versus 2nd-generation drug-eluting stents guided by optical coherence tomography	'18/8	神戸市	診療部 循環器内科	近都正幸
54	第27回日本心臓血管インターベンション治療学会 (CVIT2018)	非小血管病変に対するパクリタキセルコーディングバルーンによる治療成績	'18/8	神戸市	診療部 循環器内科	曾我部功二
55	第27回日本心臓血管インターベンション治療学会 (CVIT2018)	全身の著明な動脈硬化を伴った大動脈弁狭窄症患者に対してTF-TAVIを施行した1例	'18/8	神戸市	診療部 循環器内科	鈴木雄也
56	TCT2018	Association between In-stent Neoatherosclerosis and Restenosis in Patients with Acute Myocardial Infarction at 5-years Follow-up Assessed by Optical Coherence Tomography.	'18/9	サンディエゴ, アメリカ	診療部 循環器内科	黒田 優
57	Structure Club Japan2018	A case of AS with severe systemic atherosclerosis successfully treated by TF-TAVI	'18/9	岡山市	診療部 循環器内科	黒田 優
58	第22回日本心不全学会学術集会	Prognosis of super-elderly patients firstly hospitalized from heart failure	'18/10	東京都	診療部 循環器内科	近都正幸
59	Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session 2018	Influence of Left Axis Deviation in HF Patients with Narrow QRS on the Benefit of Mortality from CRT	'18/10	台湾, 台北	診療部 循環器内科	足立和正
60	Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session 2018	The Catheter Ablation of Premature Ventricular Contraction (PVC) Originating from the mid septum	'18/10	台湾, 台北	診療部 循環器内科	平山恭孝
61	Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session 2018	Safety Range of Cryo energy by Cryo Spot Catheter for Atrioventricular Nodal Reentrant Tachycardia	'18/10	台湾, 台北	診療部 循環器内科	松本晃典
62	カテーテルアブレーション関連 秋季大会2018	Rhythmia Mapping Systemにおいて心内膜, 心外膜側共にfocal dischargeを呈したARVCに伴うVTの1例	'18/11	宜野湾市	診療部 循環器内科	足立和正
63	カテーテルアブレーション関連 秋季大会2018	左房後壁からfiringが原因と考えられたクライオアブレーション後の再発例	'18/11	宜野湾市	診療部 循環器内科	平山恭孝
64	カテーテルアブレーション関連 秋季大会2018	数種類の心室期外収縮アブレーション後に焼灼部位を基盤としたリエントリー性心室頻拍を認めた1例	'18/11	宜野湾市	診療部 循環器内科	松本晃典
65	カテーテルアブレーション関連 秋季大会2018	慢性腎臓病合併心房細動に対して造影剤不使用下でのクライオバルーンアブレーションで肺静脈隔離を施行し得た1例	'18/11	那覇市	診療部 循環器内科	小平睦月

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
66	カテーテルアブレーション関連 秋季大会2018	3D Mapping Systemを用いた Atrioventricular Nodal Reentrant Tachycardiaに対するCryoablationの安全性 に関する検討	'18/11	那覇市	診療部 循環器内科	加藤幸範
67	第32回CVIT近畿地方会	EvolurR による経カテーテル的大動脈弁留置 術 (TAVI) 後狭心症に対してPCIが困難で あったFHの1例	'19/2	豊中市	診療部 循環器内科	河田正仁
68	第32回CVIT近畿地方会	腹部大動脈末端の慢性閉塞に対してステント 留置による血管内治療にて治癒し得た一例	'19/2	豊中市	診療部 循環器内科	鈴木雄也
69	第11回植込みデバイス関連冬季 大会	右脚ブロック型wideQRSを呈した虚血性低心 機能心不全患者に対して、His束ペーシング を施行した1例	'19/2	東京都	診療部 循環器内科	小平睦月
70	第11回植込みデバイス関連冬季 大会	心臓再同期療法における慢性腎臓病の予後へ の影響の検討	'19/2	東京都	診療部 循環器内科	松浦岳司
71	Tokyo Valve2019	当院におけるSingle Proglide Vascular Preclose Techniqueの方法と成績に関して	'19/2	東京都	診療部 循環器内科	黒田 優
72	TCT2018	Impact of Optical Coherence Tomography- guided Percutaneous Coronary Intervention on Clinical Outcomes in Comparison between Patients with and without Diabetes Mellitus	'19/3	横浜市	診療部 循環器内科	黒田 優
73	第83回日本循環器学会学術集会	Impact of Optical Coherence Tomography- guided Percutaneous Coronary Intervention on Clinical Outcomes in Comparison between Patients with and without Diabetes Mellitus	'19/3	横浜市	診療部 循環器内科	黒田 優
74	第83回日本循環器学会学術集会	Impact of Quadripolar Left Ventricular Leads in Cardiac Resynchronization Therapy from Long Term outcomes	'19/3	横浜市	診療部 循環器内科	松浦岳司
75	EHRA2019	Usefulness of four-dimensional CT imaging in a catheter ablation for ventricular arrhythmia	'19/3	リスボン, ポルトガル	診療部 循環器内科	松本晃典
76	第83回日本循環器学会学術集会	Long-term Prognostic Impact of Adherence with JCS2017 and ESC2016 Guideline for Cardiac Resynchronization Therapy	'19/3	横浜市	診療部 循環器内科	小平睦月
77	第100回日本消化器内視鏡学会近 畿支部例会	内視鏡的止血に成功した上部結腸静脈瘤破裂 の一例	'18/5	大阪市	診療部 消化器内科	大西紘平, 佐々木一就
78	第100回日本消化器内視鏡学会近 畿支部例会	胆石性慢性胆嚢炎による胆嚢結腸瘻の1例	'18/5	大阪市	診療部 消化器内科	孝橋信哉, 門 卓生
79	第53回兵庫県消化器内視鏡治療 談話会	当院における術後再建腸管に対するバルーン 内視鏡を用いた胆膵内視鏡治療の現状	'18/7	神戸市	診療部 消化器内科	益子由佳子, 門 卓生
80	第360回兵庫県消化管研究会	海外の内視鏡環境と考え方-フィリピン, チ リの経験から学ぶ-	'18/7	神戸市	診療部 消化器内科	石田 司
81	第10回東播淡路胆膵疾患研究会	当院における急性胆嚢炎に対し施行した経乳 頭的胆嚢ステント留置術の検討	'18/7	神戸市	診療部 消化器内科	古松恵介, 益子由佳子
82	4th Singapore International Advanced Therapeutic Endoscopy Course	胃粘膜下層剥離術 (ESD) の実際	'18/8	シンガポ ール	診療部 消化器内科	石田 司
83	第109回日本消化器病学会近畿支 部例会	顕性出血を契機に診断に至ったNSAIDs小腸潰 瘍の3例	'18/9	大阪市	診療部 消化器内科	中井達也, 石田 司
84	第101回日本消化器内視鏡学会近 畿支部例会	超音波内視鏡下経胃経肝ドレナージが奏功し た肝膿瘍の一例	'18/11	大阪市	診療部 消化器内科	大西紘平, 古松恵介
85	第101回日本消化器内視鏡学会近 畿支部例会	膵管癒合不全に合併したIgG4関連硬化性胆管 炎の一例	'18/11	大阪市	診療部 消化器内科	中井達也, 石田 司
86	第54回兵庫県消化器内視鏡治療 談話会	当院における, 早期食道癌に対してのNBI拡 大観察の有用性の検討	'18/11	神戸市	診療部 消化器内科	田中太郎, 石田 司

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
87	第110回日本消化器病学会近畿支部例会	EUS-FNAにより診断し得た胆嚢原発神経内分泌癌の1例	'19/2	大阪市	診療部 消化器内科	孝橋信哉, 古松恵介
88	第11回東播淡路胆膵疾患研究会	EUS-FNAにより診断し得た胆嚢原発神経内分泌癌の1例	'19/2	神戸市	診療部 消化器内科	孝橋信哉, 古松恵介
89	第91回日本内分泌学会学術総会	Luscan-Lumish症候群による巨人症の機序の解析	'18/4	宮崎市	診療部 糖尿病・内分泌内科	隅田健太郎, 福岡秀規, 井口元三, 蟹江慶太郎, 藤田泰功, 小武由紀子, 吉田健一, 坂東弘教, 高橋路子, 千原和夫, 鳴海覚志, 長谷川奉延, 小川 渉, 高橋 裕
90	第91回日本内分泌学会学術総会	下垂体疾患の治療目標：重症成人GH分泌不全症を中心に	'18/4	宮崎市	診療部 糖尿病・内分泌内科	千原和夫
91	第55回日本糖尿病学会近畿地方会	ニボルマブ長期投与中にインスリン依存性糖尿病を発症した非小細胞肺癌の一例	'18/10	神戸市	診療部 糖尿病・内分泌内科	隅田健太郎, 畠山由記久, 大西 尚, 千原和夫
92	第45回日本神経内分泌学会学術集会	成長障害に関与する新規の機序—Eph-エフリン系によるGH-IGF-1系の修飾	'18/10	東京都	診療部 糖尿病・内分泌内科	千原和夫
93	第28回臨床内分泌代謝Update	診断に難渋したTSH単独分泌不全症の1例	'18/11	福岡市	診療部 糖尿病・内分泌内科	隅田健太郎, 千原和夫, 志智大城, 蟹江慶太郎, 藤田泰功, 小武由紀子, 坂東弘教, 高橋路子, 福岡秀規, 井口元三, 小川 渉, 高橋 裕
94	第63回日本透析医学会学術集会・総会	単純血漿交換と選択的血漿交換の併用で治療した抗GBM抗体型急速進行性糸球体腎炎の1例	'18/6	神戸市	診療部 腎臓内科	隈元宣行
95	第63回日本透析医学会学術集会・総会	強皮症を合併した高齢患者に対する腹膜透析導入の経験	'18/6	神戸市	診療部 腎臓内科	平林 顕
96	神戸腎臓内科学術講演会	クローン病治療中に進行性の腎機能障害をきたした一例	'18/8	神戸市	診療部 腎臓内科	隈元宣行
97	第24回日本腹膜透析医学会学術集会	腹膜透析導入後4年で好酸球形腹膜炎を発症しステロイド投与が奏功した一例	'18/10	徳島市	診療部 腎臓内科	大田健人
98	第65回日本小児保健協会学術集会	General Self-Efficacy Scaleを用いたNICU入院中の低出生体重児の母親の自己効力感に関する研究	'18/6	米子市	診療部 小児科	黒川麻里(神戸大学大学院保健学研究科), 横山直樹, 吉井勝彦, 西野昌光, 筒井詠子, 小南伸子, 村林亜樹, 金丸昭子, 高田 哲
99	第342回東播小児臨床談話会	自閉症児に発症したネフローゼ症候群の治療経験	'18/6	明石市	診療部 小児科	植田和宏, 藤井順子, 大西徳子, 権東雅宏, 梁川裕司, 横山直樹
100	明石医療センター 地域医療連携の会	地域周産期母子医療センターとして～明石の周産期医療の現状～	'18/9	明石市	診療部 小児科	横山直樹
101	日本小児歯科学会第37回近畿地方会	出生時に下顎前歯部に菌様石灰化物を認めた3例	'18/9	神戸市	診療部 小児科	春木隆伸(はるき小児矯正歯科), 横山直樹
102	明石地域学校保健セミナー	1.成長曲線からみえるもの 2.肥満がどうして悪い	'18/11	明石市	診療部 小児科	梁川裕司
103	第346回東播小児臨床談話会	下垂体茎断裂によりGH分泌不全性低身長症を呈した一例	'19/1	明石市	診療部 小児科	小島正樹, 藤井順子, 大西徳子, 権東雅宏, 梁川裕司, 横山直樹
104	第138回近畿産婦人科学会総会	当院で経験した aggressive angioyoma の1例	'18/6	大阪市	診療部 産婦人科, 病理診断科	加島洋子, 他

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
105	第73回日本消化器外科学会総会	検診を契機に発見され、手術で切除しえた比較的急速進行性の、稀な上行結腸間膜原発平滑筋腫の1例	'18/7	鹿児島市	診療部 外科, 病理 診断科	水田憲利, 他
106	第118回日本外科学会定期学術集会	早期腹腔鏡下胆嚢摘出術を施行した中等症急性胆嚢炎 (GradeII) 症例の検討	'18/4	東京都	診療部 外科	沢 秀博
107	第55回日本小児外科学会学術集会	小児急性虫垂炎診療におけるガイドラインの位置づけ	'18/5	新潟市	診療部 外科	高成田祐希
108	第49回日本膵臓学会大会	腹腔鏡下脾温存脾体尾部切除術を施行した若年男性膵SPNの1例	'18/6	和歌山市	診療部 外科	沢 秀博
109	第73回日本消化器外科学会総会	N0大腸癌における再発危険因子の検討	'18/7	鹿児島市	診療部 外科	小南裕明
110	第73回日本消化器外科学会総会	進行再発の結腸・直腸癌に対するTAS-102の治療効果の検討	'18/7	鹿児島市	診療部 外科	豊川晃弘
111	第73回日本消化器外科学会総会	腹腔鏡下脾体尾部切除における脾断端処理の検討	'18/7	鹿児島市	診療部 外科	沢 秀博
112	第56回日本癌治療学会学術集会	術後早期の多臓器転移にも関わらず集学的治療にて長期無再発生存している結腸癌の一例	'18/10	横浜市	診療部 外科	中村洋一郎
113	第80回日本臨床外科学会総会	小児女児に発症した膵SPNに対しWarshaw手術を施行した1例	'18/11	東京都	診療部 外科	沢 秀博
114	第31回日本内視鏡外科学会総会	胆嚢動脈分岐異常の1例	'18/12	福岡市	診療部 外科	小南裕明
115	第31回日本内視鏡外科学会総会	腹腔鏡下脾温存脾体尾部切除術の導入	'18/12	福岡市	診療部 外科	沢 秀博
116	第140回山陽循環器病談話会	左室右房短絡を伴った大動脈弁位感染性心内膜炎の外科治療	'18/4	明石市	診療部 心臓血管外科	当广 遼
117	明石市医師会透析医会学術講演会	透析患者に対する心大血管手術	'18/5	神戸市	診療部 心臓血管外科	林 太郎
118	第46回日本血管外科学会学術総会	当院における急性動脈閉塞におけるHybrid手術室が手術に与えた影響の検討	'18/5	山形市	診療部 心臓血管外科	杉山博信
119	ASCVTS2018	Early Outcomes and Effectiveness of Tolvaptan for Management after Cardiovascular Surgery	'18/5	モスクワ, ロシア	診療部 心臓血管外科	三里卓也
120	第61回関西胸部外科学会	僧帽弁弁輪部に発生し増大傾向を示した左房内腫瘍に対して右小開胸下腫瘍摘出術を行った一例	'18/6	名古屋市	診療部 心臓血管外科	当广 遼
121	19th Congress of Asian Society for Vascular Surgery	A Vasucular complication related to spastic iliac artery during mitral valve repair with femoral artery cannulation in minithoracotomy approach	'18/7	中国	診療部 心臓血管外科	渡邊俊貴
122	第141回山陽循環器病談話会	奇静脈および半奇静脈結合を伴う下大静脈欠損合併例における右小開胸心臓手術の体外循環戦略	'18/9	明石市	診療部 心臓血管外科	渡邊俊貴
123	第71回日本胸部外科学会	人工心肺を伴う心臓手術と肺手術を同時に行った5例の初期, 中期成績	'18/10	東京都	診療部 心臓血管外科	杉山博信
124	CCT2018	低左心機能による左室内血栓に対し胸腔鏡下右小開胸アプローチで血栓除去を施行した一例	'18/10	神戸市	診療部 心臓血管外科	渡邊俊貴
125	第32回日本冠疾患学会学術集会	感染性冠動脈瘤の一治療例	'18/11	熊本市	診療部 心臓血管外科	三里卓也
126	第55回明石循環器懇話会	心臓血管外科手術後, 水分管理における新たな取り組み	'18/11	明石市	診療部 心臓血管外科	三里卓也
127	第66回神戸心臓外科研究会	多発性脳出血を伴った大動脈弁位感染性心内膜炎の一例	'18/11	神戸市	診療部 心臓血管外科	当广 遼
128	第49回日本心臓血管外科学会総会	右小開胸心臓手術における体外循環関連イベントの検討	'19/2	岡山市	診療部 心臓血管外科	渡邊俊貴

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
129	P2P Excellence ~for the Best of Best	胸腔鏡下僧帽弁形成をroutine workとするために	'18/4	川崎市	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
130	第140回山陽循環器病談話会	左室右房短絡を伴った大動脈弁位感染性心内膜炎の外科治療	'18/4	明石市	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
131	第65回神戸心臓外科研究会(KCCS)	右小開胸僧帽弁形成術において僧帽弁視野展開に難渋し吊り上げ鉤を併用して完遂した一例	'18/5	神戸市	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
132	ISMICS2018	Feasibility and Efficacy In Fast Track Recovery after Anlmediate Extubation in an Operating Room in Mitral Valve Repair Via Minithoracotomy	'18/6	バンクーバー, カナダ	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
133	Bridge Heart Conference	保険収載された胸腔鏡下弁形成術の可能性	'18/6	神戸市	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
134	神戸慶應倶楽部6月例会	心臓治療最前線~なるべく切らないハートフルな心臓手術~	'18/6	神戸市	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
135	第107回血流会	大動脈疾患の血流解析 (シンポジウム)	'18/6	長野市	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
136	第34回日本文人工臓器学会教育セミナー	保険加算がついた小切開心臓手術 (MICS) とロボット手術	'18/7	大阪市	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
137	第4回U-40 近畿Basic Lecture Course	Keynote Lecture Part2. 体外循環-応用編	'18/9	京都市	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
138	第71回日本胸部外科学会	右小開胸僧帽弁手術における安全性と品質の確立	'18/10	東京都	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
139	第71回日本胸部外科学会テクノアカデミー	Loop Technique	'18/10	東京都	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
140	CCT2018	胸腔鏡下僧帽弁形成に併施した三尖弁輪形成におけるリング縫着により右冠動脈遠位部の高度狭窄を来した一例	'18/10	神戸市	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
141	第32回日本冠疾患学会学術集会	胸腔鏡下僧帽弁形成に併施した三尖弁輪形成におけるリング縫着により右冠動脈遠位部の高度狭窄を来した一例	'18/11	熊本市	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
142	第31回日本内視鏡外科学会総会	シンポジウム12 内視鏡下手術の幕開け~腹腔鏡下小切開心臓手術とロボット支援心臓手術をどう使い分けるか?	'18/12	福岡市	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
143	第9回日本心臓弁膜症学会	弁輪拡大による僧帽弁閉鎖不全に対する僧帽弁輪形成におけるsemi-rigid partial band使用の妥当性	'18/12	京都市	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
144	獨協医科大学Valve Seminar	胸腔鏡下僧帽弁形成をroutine practiceとするために	'19/1	栃木県	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
145	第49回日本心臓血管外科学会学術総会	実践!胸腔鏡下心臓手術～安全な普及をターゲットに～	'19/2	岡山市	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
146	第49回日本心臓血管外科学会学術総会	思い描いた心臓血管外科医像、現実とのギャップ U-40特別企画:そして心臓血管外科医になる-理想と現実のギャップを探る-	'19/2	岡山市	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真
147	第35回日本呼吸器外科学会総会	呼吸不全を来したSwyer-James症候群に対して手術を施行した一例	'18/5	幕張市	診療部 呼吸器外科	田内俊輔
148	第35回日本呼吸器外科学会総会	開窓術を施行せず胸腔ドレーンの高圧持続吸引で改善した有癭性濃胸の検討	'18/5	幕張市	診療部 呼吸器外科	内田孝宏
149	第35回日本呼吸器外科学会総会	縦隔鏡下に切除した 縦隔発生気管支原性嚢胞の1例	'18/5	幕張市	診療部 呼吸器外科	田内俊輔
150	第59回日本肺癌学会学術集会	手術後13年目に胸壁に再発を認めた肺線癌の一例	'18/11	東京都	診療部 呼吸器外科	田内俊輔
151	第59回日本肺癌学会学術集会	縦隔に発生した炎症性筋線維芽細胞腫の1例	'18/11	東京都	診療部 呼吸器外科	内田孝宏
152	第59回日本肺癌学会学術集会	初発から30年以上経過した後に 胸膜転移を認めた甲状腺乳頭癌の一例	'18/11	東京都	診療部 呼吸器外科	田内俊輔
153	第6回伊豆整形外傷スプリングセミナー	貴方ならどうする? :術前に股関節後方脱臼を繰り返した青壮年寛骨臼後壁骨折の一例	'18/4	三島市	診療部 整形外科	脇 貴洋
154	第130回中部日本整形外科災害外科学会	股関節後方脱臼を伴い、診断が遅延した成人Galeazzi骨折の1例	'18/4	松山市	診療部 整形外科	加藤 領
155	第130回中部日本整形外科災害外科学会	脛骨高原骨折に対して後方アプローチを用いた治療経験	'18/4	松山市	診療部 整形外科	脇 貴洋
156	19th European Congress of Trauma & Emergency Surgery	A novel surgical Technique for lateral condylar Fractures in children: Tension band fixation with an absorbable suture	'18/5	スペイン, バレンシア	診療部 整形外科	脇 貴洋
157	19th European Congress of Trauma & Emergency Surgery	Optimal intramedullary nailing for trochanteric fractures:the importance of distal locking screws and reduction position	'18/5	スペイン, バレンシア	診療部 整形外科	脇 貴洋
158	第44回日本骨折治療学会	転位型大腿骨頸部骨折に対する骨接合術の治療成績～ハンソンピンとハンソンピンロックの前向き調査での比較	'18/7	岡山市	診療部 整形外科	松島真司
159	第44回日本骨折治療学会	後方アプローチを用いた脛骨高原骨折の手術治療	'18/7	岡山市	診療部 整形外科	脇 貴洋
160	第44回日本骨折治療学会	高齢者脛骨高原骨折A0-C3タイプに対する一期的TKAの治療経験	'18/7	岡山市	診療部 整形外科	大久保 聡
161	第44回日本骨折治療学会	鎖骨遠位端骨折治療におけるスコーピオンプレートおよびスコーピオンネオプレートの比較検討	'18/7	岡山市	診療部 整形外科	田中秀弥
162	第31回日本創外固定・骨延長学会	閉鎖性下肢骨折に対する急性期創外固定法	'18/8	弘前市	診療部 整形外科	脇 貴洋
163	第131回中部日本整形外科災害外科学会学術集会	当院における逆行性髓内釘を用いた大腿骨遠位部骨折の治療成績	'18/10	倉敷市	診療部 整形外科	安喰健祐
164	第20回日本骨粗鬆症学会	Fix&treat! 外傷整形外科医による大腿骨近位部骨折の2次骨折予防～「骨粗鬆症回診」の導入とその成果について～	'18/10	長崎市	診療部 整形外科	脇 貴洋
165	第43回日本足の外科学会学術総会	手術治療を要した両側距骨骨折の1例	'18/11	木更津市	診療部 整形外科	脇 貴洋
166	ORS ISFR 2018	Optimal intramedullary nailing for trochanteric fractures:Nailing without distal locking screw could be dangerous	'18/11	京都市	診療部 整形外科	脇 貴洋

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
167	第31回日本肘関節学会学術集会	術中ストレスで肘関節後方不安定が判明し、 ラックテクニックを用いて安定化した尺骨鉤 状突起粉碎骨折の1例	'19/2	小樽市	診療部 整形外科	脇 貴洋
168	第49回日本人工関節学会	Trabecular metalコンポーネントによるPS型 セメントレス人工膝関節全置換術の短期治療 成績	'19/2	東京都	診療部 整形外科	安喰健祐
169	第138回近畿産科婦人科学会総会	当院で経験したaggressive angiomyxomaの一 例	'18/6	大阪市	診療部 産婦人科	加嶋洋子
170	日本麻酔科学会第64回関西支部 学術集会	周術期に生じた右横隔神経麻痺と再膨張性肺 水腫によりICU入室直後に再挿管を要した Minimally Invasive Cardiac Surgeryの1例	'18/9	大阪市	診療部 麻酔科	納庄弘基
171	日本麻酔科学会第64回関西支部 学術集会	腹臥位手術中に事故抜管に至ったものの低酸 素に陥ることなく再挿管出来た一例	'19/9	大阪市	診療部 麻酔科	齊藤健一
172	日本麻酔科学会第64回関西支部 学術集会	大動脈弓部人工血管置換術後の心室瘤に対す る左室形成術中に生じた大動脈基部仮性動脈 瘤破裂の一例	'18/9	大阪市	診療部 麻酔科	濱崎 豊
173	日本心臓血管麻酔学会第23回学 術大会	左肺全摘後在宅酸素療法中、重症三尖弁逆流 に対し右側小開胸にて三尖弁形成術を行った 症例の麻酔経験	'18/9	東京都	診療部 麻酔科	河合 建
174	日本心臓血管麻酔学会第23回学 術大会	集学的治療により心機能の改善が得られたア ルコール性心筋症の一例	'18/9	東京都	診療部 麻酔科	齊藤健一
175	ANESTHESIOLOGY2018	Occurrence of Massive Brain infaction just Before Emergency Surgery for Rebentall	'18/10	アメリカ, サンフラン シスコ	診療部 麻酔科	坂本 元
176	第46回日本集中治療医学会学術 集会	PCPS導入時に2本の送血管使用により救命し 得た急性心筋梗塞3枝病変の一例	'19/3	京都市	診療部 麻酔科	坂本 元
177	第20回日本医療マネジメント学 会学術総会	予定の非心臓手術における外来での術前心臓 リスク評価の効果	'18/6	札幌市	看護部 手術中材看 護科	永井京子
178	第68回日本病院学会	異なる勤務形態で働く看護職員の職務満足度 の比較	'18/6	金沢市	看護部 6階病棟看護 科	宮崎真有
179	第5回日本手術看護学会近畿地区 大会	心・血管造影治療室における緊急開心術に対 するシミュレーションの実施と効果	'18/7	大津市	看護部 手術中材看 護科	面代梨香子
180	第32回日本手術看護学会年次大 会	婦人科腹腔鏡下碎石位手術における術前加温 の有用性について	'18/11	横浜市	看護部 手術中材看 護科	中谷昌平, 加藤理利子
181	兵庫県看護協会実践発表会	パンフレットを用いた指導が開心術後患者の 日常生活行動にもたらす効果	'18/11	神戸市	看護部 南3階病棟看 護科	浦川令菜
182	第12回日本医療マネジメント学 会大阪支部学術総会	地域との連携強化～入退院支援センターの活 動～	'19/3	大阪市	看護部 看護部長室	柴崎里美
183	第2回 AKASHI Pharmacy Director Seminar	認知症ケアチームにおける薬剤師の役割 講演	'18/5	明石市	技術部 薬剤科	小椋千絵
184	平成30年度第1回富山指導記録研 修会	薬立つ初回面談の指導記録の書き方	'18/7	小矢部市	技術部 薬剤科	寺沢匡史
185	第3回明石医療センター薬業連携 の会研修会	内服抗がん剤患者指導ツールについて 講演	'18/9	明石市	技術部 薬剤科	橋本早紀
186	平成30年度富山若手薬剤師宿泊 研修会	患者の薬物治療に貢献できる薬剤師を目指そ う！！～疑義照会、処方提案、臨床推論など 様々な切り口から患者の薬物治療に介入して いこう～	'18/9	南砺市	技術部 薬剤科	寺沢匡史
187	金城学院大学 薬学部 実務実 習事前学習	POS (Problem Oriented System) 問題志向型シ ステム～薬物治療に貢献できる臨床薬剤師を 目指して～	'18/11	名古屋市	技術部 薬剤科	寺沢匡史
188	第2回明石薬業連携研修会	薬剤師が地域で取り組むAMR (薬剤耐性) 対 策 講演	'18/11	明石市	技術部 薬剤科	寺沢匡史
189	第40回日本病院薬剤師会近畿学 術大会	外来から入院までを通した薬剤師のシームレ スな周産期患者への関わり 口頭発表	'19/1	奈良市	技術部 薬剤科	大西莉加



No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
190	第40回日本病院薬剤師会近畿学術大会	認知症サポートチームでの薬剤調整への薬剤師の関わり ポスター発表	'19/1	奈良市	技術部 薬剤科	岡本奈美
191	第40回日本病院薬剤師会近畿学術大会	経口抗がん剤の適正使用のための「副作用チェック連絡シート」による保険薬局との情報共有 ポスター発表	'19/1	奈良市	技術部 薬剤科	橋本早紀
192	第74回日本放射線技術学会	ハイブリット型逐次近似再構成法がストリークアーチファクト内血管の形状再現性に及ぼす効果の検証	'18/4	横浜市	技術部 放射線科	小川 亮
193	第22回CTサミット	逐次近似再構成法がストリークアーチファクト内血管の形状再現性に与える影響	'18/7	北九州市	技術部 放射線科	小川 亮
194	ヨーロッパ放射線学会 (ECR2019)	Usefulness of four-dimensional CT imaging in a catheter ablation for ventricular arrhythmia	'19/2	ウィーン, オーストリア	技術部 放射線科	小川 亮
195	兵庫県臨床検査技師会平成30年度病理細胞検査研修会	病理解剖を行うにあたっての注意事項と当院での取組み	'18/10	西宮市	技術部 検査科	小段敦美
196	第57回日本臨床細胞学会秋期大会	EUS-FNAが確定診断に有用であった膵臓グルカゴノーマの一例	'18/11	横浜市	技術部 検査科	梶山和樹
197	第68回日本病院学会	誤嚥性肺炎初回入院患者と既往群を比較した後ろ向きコホート研究	'18/6	金沢市	技術部 リハビリ テーション 科	金光谷 樹
198	第24回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	認知症が進行した拡張型心筋症患者・家族への支援～再入院までの期間を延長できた症例～	'18/7	横浜市	技術部 リハビリ テーション 科	藤原亮平
199	第7回駅前conference研究会	当院におけるOCTGuidePCIへの取組み	'18/10	京都市	技術部 臨床工学科	松原達也
200	カテーテルアブレーション関連秋季大会2018	リズムマッピングシステムで明瞭なフラグメント電位を認めたフルメイズ手術後、心房頻拍 (AT) の1例	'18/11	宜野湾市	技術部 臨床工学科	福井謙治
201	第49回日本心臓血管外科学会学術総会	人工心肺終了後右肺虚脱中のVV-ECMOによる呼吸補助	'19/2	岡山市	技術部 臨床工学科	柴田康成
202	第46回日本集中治療医学会学術集会	補助循環に起因した下肢血流障害を生じ下肢切断を要した一例	'19/3	京都市	技術部 臨床工学科	柴田康成
203	平成30年度明石パワーアップセミナー	本当の連携をとるために～介護と医療「たのみごと」を「一緒に」～	'18/10	明石市	地域医療部 医療福祉相 談室	松葉薫里

## 論文発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	表題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著者	掲載年
1	Microscopic polyangiitis presented with biopsy-confirmed pleuritis	Monaldi Arch Chest Dis	88 (2)	897-890	診療部 総合内科	Naoto Ishimaru	2018
2	The sensitivities and prognostic values of the Wells and revised Geneva scores in diagnosis of pulmonary embolism in the Japanese population	Respir Investig	56 (5)	399-404	診療部 総合内科	Naoto Ishimaru	2018
3	Liver abscess with Citrobacter koseri bacteremia	Infez Med	26 (3)	266-269	診療部 総合内科	官澤洋平	2018
4	Postprandial Blood Pressure Decrease in Patients with Type 2 Diabetes and Mild or Severe Cardiac Autonomic Dysfunction	Int J Environ Res Public Health 共著	16 (5)	812	診療部 総合内科	木南佐織	2019
5	Nivolumab-induced acute-onset type 1 diabetes mellitus as an immune-related adverse event: A case report	J Oncol Pharm Pract		doi: 10.1177/1078155218816777	診療部 呼吸器内科	Y. Hatakeyama	2018
6	十二指腸切除5年後に発症したWernicke-Korsakoff症候群を伴った脚気心の1例	心臓	50 (6)	656-660	診療部 循環器内科	曾我部功二, 河田正仁, 小平睦月, 他	2018

No.	表題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著者	掲載年
7	Implant Characteristics of Quadripolar and Bipolar Left Ventricular Leads for Cardiac Resynchronization Therapy.	Int Heart J	59(5)	1002-1007	診療部 循環器内科	Ando K, Adachi K 他	2018
8	左鎖骨下動脈閉塞を伴ったLeriche症候群に対して血管内治療を施行した1例	心臓	51(2)	168-173	診療部 循環器内科	近都正幸, 河田正仁, 小平睦月, 他	2019
9	Evaluation of thoracic impedance trends for implant-based remote monitoring in heart failure patients - Results from the (J-)HomeCARE-II Study	J Electrocardiol		100-108	診療部 循環器内科	Maier SKG, Adachi K 他	2019
10	急性胆嚢炎に対する内視鏡的胆嚢ステント留置術の有用性	愛仁会医学研究誌	50	1-4	診療部 消化器内科	古松恵介	2019
11	Corrigendum to "Assessment of quality of life on 4-year growth hormone therapy in Japanese patients with adult growth hormone deficiency: A post-marketing, multicenter, observational study" [Growth Hormon. IGF Res. 36 (2017) 36-43].	Growth Hom IGF Res	40	74-75	診療部 糖尿病・内 分泌内科	Ishii H, Shimatsu A, Nishinaga H, Murai O, Chihara K.	2018
12	慢性腎臓病の患者における悪性貧血	愛仁会医学研究誌	50	27-29	診療部 腎臓内科	米倉由利子	2019
13	【新生児黄疸を再び考える】ビリルビンにかかわる検査 ビリルビン測定法-中央検査室, 簡易測定	周産期医学	49(2)	156-158	診療部 小児科	横山直樹	2018
14	緩和療法(痛み)のおくすりのクエスチョン(Q&A/特集)	YORi-SOUがんナーシング	8(5)	446-455	診療部 外科	豊川晃弘	2018
15	Validity of Laparoscopic Gastrectomy in the Elderly	Oncology	96(2)	87-92	診療部 外科	豊川晃弘	2018
16	ヘパリンカルシウム自己注射により抑制可能であった進行性の静脈血栓症合併妊娠の1例	心臓	50(4)	390-394	診療部 心臓血管外 科	杉山博信	2018
17	Minimally invasive cardiac surgery in Japan: history and current status	Gen Thorac Cardiovasc Surg	66(9)	504-508	診療部 心臓血管低 侵襲治療セ ンター	岡本一真	2018
18	呼吸不全を来したSwyer-James症候群に対して手術を施行した1例	日本呼吸器外科学会雑誌	32(7)	842-846	診療部 呼吸器外科	田内俊輔, 内田孝宏, 杉山博信, 戸部 智	2018
19	転位型大腿骨頸部骨折に対するHansson pinlocを用いた骨接合術 人工骨頭置換術との比較検討	骨折	40(2)	452-455	診療部 整形外科	高瀬恭平	2018
20	Hansson Pinlocを用いた大腿骨頸部骨折の治療成績	骨折	40(2)	445-447	診療部 整形外科	松島真司	2018
21	拡大L字切開を用いた踵骨関節内骨折に対する観血的骨接合術の治療成績 手術創部合併症に関する検討	骨折	40(3)	896-90	診療部 整形外科	脇 貴洋	2018
22	股関節後方脱臼を伴い診断が遅延した成人Galeazzi骨折の1例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌	61(4)	767-768	診療部 整形外科	加藤 領	2018
23	閉鎖性下肢骨折に対する急性期創外固定法	日本創外固定・骨延長学会雑誌	30	85-88	診療部 整形外科	脇 貴洋	2019
24	長時間透析による低リン血症の関与が疑われた非高齢者脆弱性大腿骨転子部骨折の1例	愛仁会医学研究誌	50	30-32	診療部 整形外科	脇 貴洋	2019
25	腹腔鏡下子宮全摘術における術後鎮痛法に関する検討(末梢神経ブロック法vs硬膜外自己調節鎮痛法)	日本産科婦人科内視鏡学会雑誌	34(1)	62-69	診療部 産婦人科	堀 聖奈	2018
26	外来化学療法室におけるオキサリプラチン投与後の過敏反応についての後ろ向き調査	愛仁会医学研究誌	50	106-107	看護部 外来看護科	森本佐登美	2019

No.	表題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著者	掲載年
27	当病棟におけるがん看護を行うベテラン看護師と非ベテラン看護師の困難感に関する現状	愛仁会医学研究誌	50	63-66	看護部 5階病棟看護科	高本奈央美	2019
28	薬立つブレイクスルー！メディカル・レコード書き方講座 入院から退院まで患者に継続してかかわろう	薬局	69(5)	2326-2338	技術部 薬剤科	寺沢匡史	2018
29	薬立つブレイクスルー！メディカル・レコード書き方講座 チームで患者にかかわろう 糖尿病への介入事例より	薬局	69(6)	2473-2484	技術部 薬剤科	寺沢匡史	2018
30	薬立つブレイクスルー！メディカル・レコード書き方講座 ポリファーマシーをアセスメントしよう 透析編	薬局	69(7)	2615-2627	技術部 薬剤科	寺沢匡史	2018
31	薬立つブレイクスルー！メディカル・レコード書き方講座 薬剤管理指導業務のオーディット（監査・修正）	薬局	69(8)	2789-2798	技術部 薬剤科	寺沢匡史	2018
32	地域における抗菌薬適正使用に向けた病院薬剤師と保険薬局の連携	日本薬剤師会雑誌	70(8)	993-997	技術部 薬剤科	寺沢匡史	2018
33	薬立つブレイクスルー！メディカル・レコード書き方講座 病棟薬剤業務の記録	薬局	69(9)	2903-2911	技術部 薬剤科	寺沢匡史	2018
34	薬立つブレイクスルー！メディカル・レコード書き方講座 薬剤師間での情報共有 中止薬の再開漏れをなくす取り組み	薬局	69(10)	3074-3085	技術部 薬剤科	寺沢匡史	2018
35	薬立つブレイクスルー！メディカル・レコード書き方講座 入院前の常用薬の確認と中止薬の指導	薬局	69(11)	3227-3238	技術部 薬剤科	寺沢匡史	2018
36	薬立つブレイクスルー！メディカル・レコード書き方講座 短期入院患者へのかかわりと指導記録	薬局	69(12)	3401-3413	技術部 薬剤科	寺沢匡史	2018
37	薬立つブレイクスルー！メディカル・レコード書き方講座 薬剤師の記載するメディカル・レコード	薬局	69(13)	3579-3590	技術部 薬剤科	寺沢匡史	2018
38	薬剤師による外来化学療法室における全患者指導の構築	愛仁会医学研究誌	50	108-110	技術部 薬剤科	小川智孝	2019
39	人工膝関節置換術前における新たなCT画像再構成の検討	愛仁会医学研究誌	50	67-69	技術部 放射線科	羽瀨正樹	2019
40	リンパ節組織に対するone day pathologyの検討	愛仁会医学研究誌	50	70-72	技術部 検査科	梶山和樹	2019

## 著書発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁	部署	著者	発行年
1	特集：腎疾患2 Clinician update	Hospitalist/東京	Vol.6 No.1	268-275	診療部 総合内科	石丸直人	2018
2	実践 臨床生殖免疫学 トキシックショック症候群	中外医学社/東京	第1版第1刷	652, 681-685	診療部 総合内科	石丸直人	2018
3	特集：糖尿病 Clinician update	Hospitalist/東京	Vol.6 No.2	548-555	診療部 総合内科	官澤洋平, 石丸直人	2018
4	Gノート増刊号 終末期を考える：今、わかっていること&医師ができること：すべての終末期患者と家族に必要な医療・ケア（第2章）疾患別の終末期 わかっていることvsいないこと 肝硬変の終末期（解説/特集）	羊土社/東京	Vol.5 No.6	920-926	診療部 総合内科	官澤洋平	2018
5	特集：肝胆膵 Clinician update	Hospitalist/東京	Vol.6 No.3	772-779	診療部 総合内科	官澤洋平, 石丸直人	2018
6	medicina エンド・オブ・ライフを支えるための疾患の知識：可逆性の判断	医学書院/東京	Vol.55 No.11	1788-1791	診療部 総合内科	世戸博之	2018

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁	部署	著者	発行年
7	In The Clinic: Irritable bowel syndrome(翻訳)	Annals of internal medicine/USA		ITC 81-96	診療部 総合内科	辻本泰貴, 水木真平, 大西 潤, 官澤洋平, 世戸博之	2018
8	特集：心不全：Clinician update	Hospitalist/東京	Vol.6 No.4	1064-1071	診療部 総合内科	官澤洋平, 石丸直人	2019
9	トッランナーの感染症外来診療術 感染性心内膜炎	医学書院/東京		340	診療部 総合内科	中島隆弘	2019
10	心臓血管外科手術のまずはここから(岡本一真 編集) 永久ペースメーカー植込み術	メジカルビュー社/東京	第1刷	92-103	診療部 循環器内科	足立和正, 他	2019
11	心臓・大動脈外科手術	医学書院/東京	第1刷	292-296	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真	2018
12	日本人工臓器学会教育セミナー 2018;34回(人工臓器)		第1刷	95-104	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真	2018
13	外科医から見たTAVIの適応, TAVI実践マニュアル	南江堂/東京	第1刷	19-21	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真	2018
14	心臓血管外科専攻医・専門医必修! Off the Job Trainingテキスト	南江堂/東京	第1刷	292-296	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真	2018
15	心臓血管外科手術のまずはここから(単独)	メジカルビュー社/東京	第1刷	1-304	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真	2019
16	低侵襲心臓手術の基本と実践	南江堂/東京	第1刷	27-32 153-152 168-171 180-182	診療部 心臓血管低侵襲治療センター	岡本一真	2019
17	月刊誌ナースマネジャー「病棟看護師と退院支援職員の効果的な役割分担・連携・協働-診療報酬改定にマッチした急性期病棟の入退院支援-」	日総研/大阪	2018年5月号	2-7	地域医療部 入院支援センター	坂本育徳	2018

## その他 (2018/4/1~2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
1	米国内科学会日本支部年次総会2018	In the Clinic 翻訳プロジェクト×ベッドサイド5分間ティーチングコラボレーション 実践ワークショップ 講師	'18/6	京都市	診療部 総合内科	世戸博之
2	米国内科学会日本支部年次総会2018	Point-of-Care Ultrasound ベッドサイドでの超音波を用いたショックアセスメント 講師	'18/6	京都市	診療部 総合内科	官澤洋平
3	米国内科学会日本支部年次総会2018	In the Clinic翻訳プロジェクト×ベッドサイド5分間ティーチング コラボレーション 実践ワークショップ	'18/6	京都市	診療部 総合内科	官澤洋平, 世戸博之
4	第9回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会	予防医療・健康増進②・プライマリ・ケアにおける疫学 座長	'18/6	津市	診療部 総合内科	石丸直人
5	第6回Point of care Ultrasoundコース	Point of care Ultrasoundコース 講師	'18/7	名古屋市	診療部 総合内科	官澤洋平
6	第30回学生-研修医のための家庭医療学夏期セミナー	学生向けに明石医療センターの宣伝	'18/8	熱海市	診療部 総合内科	石丸直人
7	神戸新聞 カルテQ&A	熱中症について	'18/8	神戸新聞	診療部 総合内科	木南佐織
8	第16回秋季生涯教育セミナー	あなたの学びはどこから? ~生涯学習を見直そう!~ ワークショップ講師	'18/9	大阪市	診療部 総合内科	官澤洋平

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
9	足の救済セミナー	MRI診断に基づく骨髄炎を合併した糖尿病性足潰瘍の治療（北播磨総合医療センター 藤井美樹先生） 座長	'18/10	明石市	診療部 総合内科	木南佐織
10	第8回Point of care Ultrasoundコース	Point of care Ultrasoundコース 講師	'18/12	横浜市	診療部 総合内科	官澤洋平
11	Harima Diabetes Afternoon Conference	女性医師であることを強みにしよう 講師	'18/12	加古川市	診療部 総合内科	木南佐織
12	第14回若手医師のための家庭医 療学冬期セミナー	病院総合医に必読！論文Top5 講師	'19/2	東京都	診療部 総合内科	官澤洋平
13	ラジオ関西 みんなの健康相談	ノロウイルス（感染性腸炎）について	'19/2	ラジオ関西	診療部 総合内科	木南佐織
14	第58回日本呼吸器学会学術講演 会	稀なびまん性肺疾患 座長	'18/4	大阪市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
15	Severe Asthma Symposium in Hyogo	座長	'18/6	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
16	NSCLCプラクティスセミナー 2018	ディスカッサント	'18/6	神戸市	診療部 呼吸器内科	畠山由記久
17	Lung Disease Forum	座長	'18/7	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
18	Lung Cancer Seminar	closing remarks	'18/8	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
19	Akashi Medical Conference on Lung Cancer	座長	'18/9	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
20	第11回播磨喘息連携研究会	座長	'18/10	加古川市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
21	SEASIDE INTERSTITIAL LUNG DISEASE SEMINAR	パネリスト	'18/10	神戸市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
22	SEASIDE INTERSTITIAL LUNG DISEASE SEMINAR	座長	'18/10	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
23	Expert-meeting in Kobe	ディスカッサント	'18/11	神戸市	診療部 呼吸器内科	岡村佳代子
24	Scientific exchange meeting in Akashi 2018	座長	'18/11	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
25	フルティフォームエリア講演会 in 明石大久保地区	座長	'18/11	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
26	Non Communicable Diseases Conference in Akashi	座長	'18/12	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
27	淡路呼吸器疾患講演会	COPDの診断と治療Up To Date LAMA/LABA合剤をより役立てるために	'19/2	洲本市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
28	第40回播磨画像診断研究会	呼吸器内科医の胸部画像診断への苦闘—教科書的から我流読影まで—	'19/2	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
29	Respiratory Symposium in Akashi	座長	'19/3	明石市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
30	第14回東播リウマチ診療連携研 究会	関節リウマチと呼吸器内科の関わり	'19/3	加古川市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
31	IPF Expert Summit in Kobe	座長	'19/3	神戸市	診療部 呼吸器内科	大西 尚
32	KCJL2018	Theme Live Theater(Peripheral) 座長	'18/4	大阪市	診療部 循環器内科	河田正仁
33	第140回山陽循環器病談話会	内科セッション 座長, 世話人	'18/4	明石市	診療部 循環器内科	足立和正
34	第35回ライブデモンストラ ション小倉	長期持続性心房細動（low voltageを target としたablation strategy） コメンテーター	'18/5	北九州市	診療部 循環器内科	足立和正

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
35	明石市医師会透析医学会学術講演会	慢性腎臓病の心房細動の管理 特別講演演者	'18/5	神戸市	診療部 循環器内科	足立和正
36	明石不整脈フォーラム	シン・ICDエビデンス創出と進化する機能 座長	'18/5	明石市	診療部 循環器内科	足立和正
37	アトーゼット新発売記念講演会 in明石	フォローアップOCTをして分かったこと～冠 動脈ステント留置患者における脂質管理の重 要性	'18/5	明石市	診療部 循環器内科	黒田 優
38	第4回明石海峡心不全カンファ レンス	超高齢社会における心不全治療を考える 座 長	'18/6	神戸市	診療部 循環器内科	足立和正
39	New Standard of Pacing Seminar	HIS BUNDLE PACING 演者	'18/6	神戸市	診療部 循環器内科	足立和正
40	第16回播磨不整脈カンファレン ス	最新の心房細動アブレーションと周術期抗凝 固療法 演者	'18/6	加古川市	診療部 循環器内科	足立和正
41	Diabetes Seminar in Akashi	当院における糖尿病の実臨床（千原先生） 座長	'18/6	明石市	診療部 循環器内科	足立和正
42	高齢心房細動患者における抗凝 固療法を考える会	超高齢心房細動患者を取り巻く環境 演者	'18/7	明石市	診療部 循環器内科	足立和正
43	第65回日本不整脈心電学会	VT/VF2 座長	'18/7	東京都	診療部 循環器内科	足立和正
44	第65回日本不整脈心電学会	VTセッション 座長	'18/7	東京都	診療部 循環器内科	足立和正
45	心疾患と周術期を考える会 in 明石	脳梗塞を予防するための心房細動治療 演者	'18/7	明石市	診療部 循環器内科	足立和正
46	Rhythmia Workshop	心房細動アブレーション後の心房頻拍に対す るアブレーション 座長	'18/7	大阪市	診療部 循環器内科	足立和正
47	教えて！ドクター 家族の健康	心房細動のカテーテル治療を受けるとき テ レ番組対談	'18/8	東京都	診療部 循環器内科	足立和正
48	豊岡市心房細動フォーラム	心房細動アブレーションFIRE AND ICE 演者	'18/8	豊岡市	診療部 循環器内科	足立和正
49	CRT淡路座談会	CRTノンレスポonderモニター ファシリテーター	'18/8	淡路市	診療部 循環器内科	足立和正
50	Diabetes and Cardiovascular Disease Conference in Akashi	血糖変動は動脈硬化を進行させるのか？～血 管内イメージングデバイスを使ってわかったこ と～	'18/9	明石市	診療部 循環器内科	黒田 優
51	CRT Round Table Discussion in OSAKA	Enhance CRT response for more patients ディスカッサー	'18/9	大阪市	診療部 循環器内科	足立和正
52	第141回山陽循環器病談話会	内科セッション 座長, 世話人	'18/9	明石市	診療部 循環器内科	足立和正
53	CRYSTAL in Hyogo	クライオアブレーション 座長	'18/9	神戸市	診療部 循環器内科	足立和正
54	第31回日本心臓血管インターベン ション治療学会近畿地方会	研修医セッション① 座長	'18/10	大阪市	診療部 循環器内科	河田正仁
55	Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session 2018	Patient Selection, Outcome and Future of Subcutaneous-ICD 座長	'18/10	台湾, 台北	診療部 循環器内科	足立和正
56	Brain and Heart attack conference in AKASHI	心房細動と脳卒中 総司会	'18/10	明石市	診療部 循環器内科	足立和正
57	第55回明石循環器懇話会	OUTBACKリエントリーカテーテルとVIABAHNス テントグラフトを用いて短時間にカテーテル 治療が成功した長い浅大腿動脈慢性完全閉塞	'18/11	明石市	診療部 循環器内科	河田正仁
58	すこやか広場	重症心不全のペースメーカー治療 007も愛 用, これで第二の人生を 演者	'18/11	明石市	診療部 循環器内科	足立和正
59	Harima web conference	心房細動の診断から最新の治療まで 座長	'18/11	明石市	診療部 循環器内科	足立和正

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
60	神戸アブレーションライブカンファレンス2018	Cryoablation for the treatment of AVNRT 演者	'18/12	神戸市	診療部 循環器内科	足立和正
61	Improve Survival with Adaptive CRT	最新データからCRT治療を再考する コメンテーター	'18/12	大阪市	診療部 循環器内科	足立和正
62	循環器疾患トータルマネジメントセミナー	ペースメーカー治療の進歩 リードレスペースメーカーからリード除去 演者	'18/12	神戸市	診療部 循環器内科	足立和正
63	Discussshon about new lead system's performance	HIS BUNDLE PASCING PROMISING 演者	'18/12	京都市	診療部 循環器内科	足立和正
64	播但電気生理カテーテルアブレーション研究会	心内膜, 心外膜側にcentrifugal activation patternを呈したARVCに伴うVTの一例 演者	'19/1	神戸市	診療部 循環器内科	足立和正
65	JACアブレーションライブ	リードレスペースメーカの現状と展望 演者	'19/2	大阪市	診療部 循環器内科	足立和正
66	JACアブレーションライブ	AFアブレーションライブ JIKEI METHOD 座長	'19/2	大阪市	診療部 循環器内科	足立和正
67	循環器関連セミナーin神戸 adbanced course	臨床に役立つ心臓解剖学 日本医大多摩永山 病院 井川修先生 座長	'12/2	神戸市	診療部 循環器内科	足立和正
68	第11回植込みデバイス関連冬季大会	ICD不適切作動 座長	'19/2	東京都	診療部 循環器内科	足立和正
69	日本不整脈心電学会 第11回植込みデバイス関連冬季大会	ICD不適切作動 口述セッション 座長	'19/2	東京都	診療部 循環器内科	足立和正
70	1458Qリードの使用経験	Quartet™ Family Expansion QUADRIpedia 第3版	'19/2		診療部 循環器内科	足立和正
71	手術数でわかる いい病院	心筋焼灼術全国29位 ペースメーカー治療全国9位	'19/2	週刊朝日MOOK	診療部 循環器内科	足立和正
72	心房細動webセミナー	心房細動カテーテル治療の進化 無痛アブレーションと左心耳閉鎖デバイス 演者	'19/3	明石市	診療部 循環器内科	足立和正
73	K-HEART北播磨ライブデモンストラレーション	インターベンション コメンテーター	'19/3	小野市	診療部 循環器内科	黒田 優
74	CRT座談会 Round Table Discussion CRTを再考する	Care Beyond the implant 座長	'19/3	神戸市	診療部 循環器内科	足立和正
75	第91回日本内分泌学会学術集会	Distinguished Education Award受賞講演 座長	'18/4	宮崎市	診療部 糖尿病・内分泌内科	千原和夫
76	第91回日本内分泌学会学術総会	Resident Clinical Tournament	'18/4	宮崎市	診療部 糖尿病・内分泌内科	千原和夫
77	第28回臨床内分泌代謝Update	日常診療からいかに新しい疾患を見出すのか ～抗PIT-1抗体症候群発見からの教訓～ 座長	'18/11	福岡市	診療部 糖尿病・内分泌内科	千原和夫
78	第28回臨床内分泌代謝Update	MIRAGE症候群～新規疾患単位の確立とその後の“思いもよらない”展開～ 座長	'18/11	福岡市	診療部 糖尿病・内分泌内科	千原和夫
79	第29回日本間脳下垂体腫瘍学会	クッシング生誕150年 特別企画「間脳下垂体腫瘍の新たな展開II」 座長	'19/2	大阪市	診療部 糖尿病・内分泌内科	千原和夫
80	第29回日本間脳下垂体腫瘍学会	機能性下垂体腺腫update 座長	'19/2	大阪市	診療部 糖尿病・内分泌内科	千原和夫
81	健康つうしん	「沈黙の臓器「腎臓」からのサイン, 尿検査」神戸新聞	'18/4	神戸新聞社	診療部 腎臓内科	米倉由利子
82	東播小児臨床談話会	座長	'18/6	明石市	診療部 小児科	権東雅宏
83	健康つうしん	災害時の子どもの健康 日頃の管理が備えに	'18/10	神戸新聞社	診療部 小児科	横山直樹
84	東播小児臨床談話会	座長	'19/1	明石市	診療部 小児科	権東雅宏

No.	学会名	表題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
85	Osaka GC Forum2018	座長	'18/5	大阪市	診療部 外科	豊川熹弘
86	消化器がん 地域医療連携合同 勉強会	座長	'18/5	大阪市	診療部 外科	豊川熹弘
87	第5回北大阪大腸癌化学療法カ ンファレンス	座長	'18/6	大阪市	診療部 外科	豊川熹弘
88	第7回Reduced Port Surgery Forum(第13回単孔式内視鏡手術 研究会)	座長	'18/8	札幌市	診療部 外科	豊川熹弘
89	第11回神戸消化器癌勉強会	座長	'18/9	神戸市	診療部 外科	豊川熹弘
90	北大阪消化器外科懇話会	座長	'18/10	大阪市	診療部 外科	豊川熹弘
91	直腸癌CRTセミナー2018	座長	'18/10	大阪市	診療部 外科	豊川熹弘
92	Meet the Expert ~Breast Cancer~	乳がん よもやま話	'18/11	大阪市	診療部 外科	豊川熹弘
93	Millennial Seminar of GI Cancer	座長	'18/12	神戸市	診療部 外科	豊川熹弘
94	第2回北大阪消化器外科懇話会	座長	'19/2	大阪市	診療部 外科	豊川熹弘
95	大鵬社内勉強会	大腸がん化学療法の実際	'19/2	大阪市	診療部 外科	豊川熹弘
96	KCJL Surgical	A弁とM弁の弁輪膿瘍, Manouguian法 座長	'18/4	大阪市	診療部 心臓血管低侵 襲治療セン ター	岡本一真
97	第23回日本冠動脈外科学会	術中グラフト評価 座長	'18/7	和歌山市	診療部 心臓血管低侵 襲治療セン ター	岡本一真
98	ストラクチャークラブ・ジャパ ン ライブデモンストレーショ ン2018 コメンテーター	TRENDジョイントセッション「TRENDの軌跡」	'18/9	岡山市	診療部 心臓血管低侵 襲治療セン ター	岡本一真
99	ストラクチャークラブ・ジャパ ン ライブデモンストレーショ ン2018 コメンテーター	ビデオライブ「MitraClip」	'18/9	岡山市	診療部 心臓血管低侵 襲治療セン ター	岡本一真
100	第71回日本胸部外科学会定期学 術集会	Rapid Responce9 僧帽弁 座長	'18/10	東京都	診療部 心臓血管低侵 襲治療セン ター	岡本一真
101	CCT surgical 2018	Surgical Live Demonstration 今時のAVR CCT surgical 座長	'18/10	神戸市	診療部 心臓血管低侵 襲治療セン ター	岡本一真
102	CCT surgical 2019	22. ランチタイム対談企画 Post平成時代の心 臓血管外科キャリアマーケティング~みんな這い 上がったんだ!~ 座長	'18/10	神戸市	診療部 心臓血管低侵 襲治療セン ター	岡本一真
103	台湾A-nanHospitalでのMICS手 術施行講演	講師	'18/11	台湾	診療部 心臓血管低侵 襲治療セン ター	岡本一真
104	第31回日本内視鏡外科学会総会	シンポジウム「内視鏡下心臓手術の幕開け~ 胸腔鏡下小切開心臓手術とロボット支援心臓 手術をどう使い分けるか?」	'18/12	福岡市	診療部 心臓血管低侵 襲治療セン ター	岡本一真
105	the STS 55th Annual Meeting in San Diego, California (STS University, Instructor)	Minimally Invasive Mitral Valve Plasty	'19/1	サンディエ ゴ, アメリカ	診療部 心臓血管低侵 襲治療セン ター	岡本一真
106	第49回日本心臓血管外科学会学 術総会	MICSのピットフォールと安全に行うためのコ ツ 座長	'19/2	岡山市	診療部 心臓血管低侵 襲治療セン ター	岡本一真



No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市 出版社・地名	部署名	担当者
107	7. テレビ朝日スペシャルドラマ 企画 名探偵・明智小五郎 医 療監修	-	-	-	診療部 心臓血管低侵 襲治療セン ター	岡本一真
108	薬学実務実習グループ化協議会	司会	'18/4	明石市	技術部	小椋千絵
109	第2回AKASHI Pharmacy Director Seminar	チーム医療に貢献できる次世代薬剤師の人材 育成を目指して 座長	'18/5	明石市	技術部	小椋千絵
110	ラジオNIKKEI 薬学の時間	地域における抗菌薬適正使用に向けた病院薬 剤師と保険薬局の連携	'18/6	ラジオNIKKEI	技術部	寺沢匡史
111	第3回明石医療センター薬薬連 携の会研修会	内服抗がん剤について 司会	'18/9	明石市	技術部	小椋千絵
112	第2回明石薬薬連携研修会	抗菌薬の適正使用～地域で考えるAMR対策～ 司会	'18/11	明石市	技術部	小椋千絵
113	第1回西神戸がん薬剤師飛躍の 会	がん治療推進における連携 座長	'19/3	神戸市	技術部	小椋千絵

## 社会福祉法人 愛和会(宝塚地区)

口頭発表 (2018/4/1~2019/3/31)

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	平成30年度4DAS実践発表会	当法人での4DAS実施報告	'19/3	神戸市	宝塚あいわ 苑デイサー ビスセン ター	津田俊治

# 井上病院

## 口頭発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	CKD学術連携フォーラム2018 ～CKD保存期から腎代替療法までの治療戦略～	当院におけるCKD治療と連携	'18/4	吹田市	診療部 内科	藤原木綿子
2	サノフィ 社内レクチャー	CKD診療～透析療法におけるインスリン治療の実際～	'18/5	大阪市	診療部 内科	木津あかね
3	第61回日本糖尿病学会年次学術集会	インスリンデグルク使用により肝機能障害が出現した2型糖尿病の1例	'18/5	東京都	診療部 内科	下村菜生子
4	鳥居薬品株式会社 社内勉強会	CKD-MBDについて	'18/5	大阪市	診療部 内科	福永 慎
5	第22回開業医と勤務医との研修会	地域包括ケア病棟	'18/6	吹田市	診療部 内科	藤原木綿子
6	箕面市医師会学術講演会	慢性腎臓病の早期治療の必要性	'18/6	箕面市	診療部 内科	辻本吉広
7	第38回日本骨形態計測学会	透析患者の骨密度と血管石灰化, サルコペニアの関連および予後への影響	'18/6	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
8	第63回日本透析医学会学術集会	《記念シンポジウム》日本透析医学会50周年記念シンポジウム 透析合併症としての心血管病～仮説・検証・残された課題～	'18/6	神戸市	診療部 内科	西澤良記
9	第63回日本透析医学会学術集会	運動習慣の有無別にみた血液透析患者における栄養摂取の生命予後への影響	'18/6	神戸市	診療部 内科	藤原木綿子
10	糖尿病地域勉強会	当院の糖尿病透析患者でのリラグルチド使用例の検討	'18/7	吹田市	診療部 内科	下村菜生子
11	第8回透析運動療法研究会	運動習慣の有無別に見た血液透析患者の栄養摂取の生命予後へ	'18/7	札幌市	診療部 内科	辻本吉広
12	Baxter Societia Japan at Nagoya University	糖尿病性腎臓病 (DKD) 患者のPD治療とその対策	'18/7	名古屋市	診療部 内科	田畑 勉
13	CKD/糖尿病 合併症連携研究会2018	糖尿病連携	'18/8	吹田市	診療部 内科	木津あかね
14	大阪CKD&CVD Conference	運動習慣の有無別にみた血液透析患者における栄養摂取の生命予後への影響	'18/9	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
15	第24回日本腹膜透析医学会学術集会	原因不明の心臓タンポナーデをおこし, その1年後に結核菌によるCAPD腹膜炎を発症した1症例	'18/10	徳島市	診療部 内科	辻本吉広
16	キッセイ薬品工業株式会社社内研修会	ピートル錠投与によるリン・鉄動態への影響について	'18/10	吹田市	診療部 内科	福永 慎
17	第1回井上病院地域連携の集い	〈病院診療紹介〉 誤嚥性肺炎に対するチームアプローチ	'18/10	吹田市	診療部 内科	下村菜生子
18	第1回井上病院地域連携の集い	〈病院診療紹介〉 DM, 腎臓病に対するサルコペニア・フレイル対策	'18/10	吹田市	診療部 内科	木津あかね
19	キッセイ薬品工業株式会社社内研修会	腎不全治療のエリア連携体制の構築について	'18/11	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
20	平成30年度大阪府医師会医学会総会 (第42回)	運動習慣の有無別でみた血液透析患者の栄養摂取の生命予後への影響	'18/11	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
21	持田製薬株式会社 社員教育	透析施設における消化器内科の役割・便秘に関して	'18/11	豊中市	診療部 内科	大野恭太
22	第61回日本甲状腺学会学術集会	パセドウ病の維持治療中に進行大腸癌を併発し, 低T3症候群を来した一例	'18/11	川越市	診療部 内科	大野恭太

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
23	北摂シャントケアセミナー	当院のバスキュラーアクセス手術について	'18/11	豊中市	診療部 内科	福永 慎
24	鳥居薬品株式会社 北摂チーム社内勉強会	透析治療におけるMBD, 貧血管理	'18/12	大阪市	診療部 内科	松崎慈子
25	市民健康教室 慢性腎臓病(CKD) 予防教室	かん腎かなめ	'18/12	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
26	糖尿病性腎症重症化予防連携会 in 江坂 ～かかりつけ医と専門医の役割とは～	当院における慢性腎臓病治療と連携	'18/12	吹田市	診療部 内科	木津あかね
27	第9回大阪副甲状腺ホルモン研究会学術集会	血液透析患者における酸化ストレスと予後に関する検討 (DREAMコホート研究)	'19/1	大阪市	診療部 内科	佐々木けやき
28	第41回関西透析医学セミナー	下肢筋力の変化に関連する因子の検討と予後への影響	'19/2	大阪市	診療部 内科	宮部美月
29	第9回透析運動療法研究会	《教育講演①》 運動と栄養で改善する透析患者の予後	'19/2	名古屋市	診療部 内科	辻本吉広
30	第92回大阪透析研究会	透析患者の筋肉量と内臓, 皮下脂肪と生命予後についての検討	'19/3	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
31	第9回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	血液透析患者の膝伸筋筋力の経年変化に関連する因子の特定と予後への影響	'19/3	大分市	診療部 内科	辻本吉広
32	排尿障害についてみんなで考える会	高齢者における排尿ケアのポイントについて	'19/2	吹田市	診療部 泌尿器科	大北恭平
33	吹田排尿障害連携の会	プライマリー診療における排尿障害とは	'19/3	吹田市	診療部 泌尿器科	大北恭平
34	第47回日本IVR学会総会	《技術教育セミナー5》透析・バスキュラーアクセス治療に役立つシャントの触診	'18/5	東京都	診療部 放射線科	森本 章
35	第63回日本透析医学会学術集会	血栓閉塞AVGのヘマトクリット値についての検討	'18/6	神戸市	診療部 放射線科	森本 章
36	第22回日本アクセス研究会学術集会	《シンポジウム3 VAVT困難例に対する工夫》 VAVT困難症例でのガイドワイヤー操作	'18/10	広島市	診療部 放射線科	森本 章
37	第92回大阪透析研究会	シースイヤーを用いたpull-through法による非血栓性閉塞治療	'19/3	大阪市	診療部 放射線科	森本 章
38	日本臨床麻酔学会第38回大会学術集会	全身麻酔当日の経口カロリー摂取量の検討	'18/11	北九州市	診療部 麻酔科	稲田拓治
39	第46回日本血管外科学会学術総会	透析患者CLIに対する外科的血行再建は禁忌か？	'18/5	山形市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
40	第46回日本血管外科学会学術総会	重症下肢虚血 (CLI) を呈した膝窩動脈瘤に対する治療経験	'18/5	山形市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
41	第63回日本透析医学会学術集会	透析症例のCLIに外科的血行再建は禁忌か？	'18/6	神戸市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
42	第10回日本下肢救済・足病学会学術集会	CLIに対するバイパス術後のグラフト不全におけるEVTの有用性	'18/7	札幌市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
43	第12回南大阪フットケア研究会	《基調講演》 糖尿病・透析患者におけるPADの治療	'18/8	大阪市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
44	第19回大阪透析末梢循環障害研究会	《特別講演》 透析患者のフットケアー透析患者CLIに対する対策ー	'18/9	大阪市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
45	第4回日本下肢救済・足病学会関西地方会学術集会	《シンポジウムII》情熱と愛をもって治療した足病変 頻回のEVTによるgraft rescueで救肢が得られた症例	'18/10	大阪市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
46	第4回北大阪フットケア勉強会	distal bypassのグラフト不全に対する血管内治療	'18/10	吹田市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
47	第59回日本脈管学会総会	透析施設における浅大腿動脈ステントグラフトの使用経験	'18/10	広島市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
48	第1回井上病院地域連携の集い	(病院診療紹介) フットケアに対する取り組みについて	'18/10	吹田市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
49	第17回日本フットケア学会年次学術集会	透析患者の救肢をめざすdistal bypassとgraft rescue	'19/2	名古屋市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
50	BSコンテンツ	透析患者に対するフットケアの重要性について	'19/3	大阪市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
51	第8回関西血管外科倶楽部 (Kansai Vascular Club:KVC)	Distal bypass ー末梢側吻合部に内膜摘除を加えた一例ー	'19/3	大阪市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
52	第361回岡山県臨床整形外科医会 研修会	高齢関節リウマチのPrecision Medicine	'18/4	岡山市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
53	リウマチエリアWEBセミナー	リウマチ治療における有効性と安全性のマーケティング	'18/4		診療部 整形外科	佐藤宗彦
54	リウマチ治療を考える会	JAK1.2阻害によるリウマチ治療のパラダイムシフト	'18/4	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
55	第6回大阪リウマチコメディカル セミナー	リウマチ治療における有効性と安全性のマーケティング	'18/5	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
56	K2-NET	病診連携なくして骨粗鬆症治療なし	'18/5	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
57	北摂整形外科セミナー	変形性膝関節症治療のパラダイムシフト ～手術回避をエンドポイントとして～	'18/6	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
58	吹田市薬剤師会研修会	痛みの治療入門編・リウマチ治療応用編	'18/6	吹田市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
59	薬剤師セミナー ～疼痛・便秘編～	痛みの治療について	'18/6	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
60	潰瘍性大腸炎治療の最適化を考える会	RA領域における抗体製剤の使い分けと使い方	'18/6	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
61	読売健康講座 あきらめない！ 関節リウマチ治療	関節リウマチの個別化医療 ～あなたにぴったりあったお薬でリウマチを治しましょう～	'18/6	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
62	第4回紀泉薬剤師地域連携講演会	リウマチ治療における有効性と安全性のマーケティング	'18/6	和歌山市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
63	第31回日本臨床整形外科学会学術集会 桜島学会・鹿児島	《シンポジウム2 関節リウマチの薬物治療のこつ～メソトレキサートの上手な使い方》 高齢関節リウマチ患者のPrecision Medicine	'18/7	鹿児島市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
64	第91回大阪透析研究会	骨粗鬆症を合併した透析患者に対するイバンドロネート注の短期成績	'18/9	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
65	リウマチエリアWEBセミナー	リウマチ治療における有効性と安全性のマーケティング	'18/9		診療部 整形外科	佐藤宗彦
66	大阪リウマチ医療連携セミナー	リウマチ治療における有効性と安全性のマーケティング	'18/9	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
67	奈良県臨床整形外科医会 研修会	明日から行って頂きたい骨粗鬆症治療 ～治療の重要性と薬剤選択～	'18/9	奈良市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
68	第5回整形外科診療FACE TO FACE の会	病診連携なくして骨粗鬆症治療なし	'18/10	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
69	豊中市薬剤師会学術講演会	高齢関節リウマチの個別化医療	'18/10	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
70	市民公開講座 骨と膝の病気を 予防しよう ～健康寿命の延伸 のために～	骨の病気の都市伝説vs根拠のある話 ～参加型クイズ形式～	'18/10	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
71	骨粗鬆症リエゾンサービスカン ファレンス ～二次骨折予防に 向けて～	二次骨折予防に向けた骨粗鬆症治療戦略	'18/11	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
72	高槻リウマチMeeting	整形外科医が主導する関節リウマチ治療	'18/11	高槻市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
73	読売健康講座 ここまで来た！ リウマチ治療最前線	患者ファーストの個別化医療	'18/11	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
74	今後のリウマチ治療を考える会	JAK1/2阻害剤がもたらすりウマチ治療のパラ ダイムシフト	'18/12	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
75	第5回高山リウマチフォーラム	高齢リウマチ患者のprecision medicine ～ 有効性と安全性のマリアージュ～	'18/12	高山市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
76	IBD town meeting in Osaka	RA領域における抗体製剤の使い分け	'18/12	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
77	第22回リウマチQ&Aカンファレン ス	関節リウマチ治療に潜む骨粗鬆症Up To Date	'18/12	和歌山市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
78	Effective Vitamin D Meeting	明日から行って頂きたい骨粗鬆症治療 ～治 療の重要性と薬剤選択～	'18/12	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
79	リウマチエリアWEBセミナー	リウマチ患者に対する 5 Star Therapy	'18/12		診療部 整形外科	佐藤宗彦
80	第2回JAK conference in 西宮	JAK1/2阻害剤がもたらすりウマチ治療のパラ ダイムシフト	'19/1	西宮市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
81	Baricitinib Expert Meeting	JAK1/2阻害剤がもたらすりウマチ治療のパラ ダイムシフト ～PRO改善のリアルワールド ～	'19/2	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
82	SAKAI RA town meeting	整形外科医が主導する関節リウマチ治療	'19/2	堺市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
83	リウマチ治療の最前線 ～JAK阻 害薬とBIO製剤の使い分け～	JAK1/2阻害剤がもたらすりウマチ治療のパラ ダイムシフト ～PRO改善のリアルワールド ～	'19/2	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
84	阿倍野リウマチMeeting	〈特別講演〉整形外科医が主導する関節リウ マチ治療	'19/2	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
85	紀州IBDカンファレンス	RA領域における抗体製剤の使い分けと使い方	'19/2	和歌山市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
86	第92回大阪透析研究会	骨粗鬆症を合併した透析患者に対するイバン ドロネート注の短期成績 第2報	'19/3	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
87	第92回大阪透析研究会	骨粗鬆症を合併した透析患者の血清25(OH)D 濃度	'19/3	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
88	豊川骨粗鬆症フォーラム	病診連携なくして骨粗鬆症治療なし	'19/3	豊川市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
89	Biologics Team Medicine Seminar	RA領域における抗体製剤の使い分けと使い方	'19/3	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
90	中河内リウマチMeeting	整形外科医が主導する関節リウマチ治療	'19/3	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
91	骨粗鬆症治療を考える会in春日 井	明日から行って頂きたい骨粗鬆症治療 ～治療の重要性と薬剤選択～	'19/3	名古屋市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
92	オレンシアWEBセミナー	医師が考えるRA副作用マネジメント	'19/3		診療部 整形外科	佐藤宗彦
93	生物学的製剤の適正使用を考え る会	整形外科医が主導する関節リウマチ治療	'19/3	伊丹市	診療部 整形外科	佐藤宗彦

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	発表者
94	第68回日本病院学会	インシデント報告書にもとづいた分析能力向上への取り組み～看護主任会メンバーを中心とした看護安全管理委員会を通して～	'18/6	金沢市	看護部	山口幸枝
95	第91回大阪透析研究会	足病変の予防および早期発見のためのシステム構築に向けた取り組み	'18/9	大阪市	看護部	早川美佳
96	第91回大阪透析研究会	認知症のある透析患者のキーパーソンが移行した過程	'18/9	大阪市	看護部	中瀬美加
97	第21回日本腎不全看護学会	認知症のある透析患者のキーパーソンが移行した過程	'18/11	長野市	看護部	佐藤祐子
98	第32回大阪CAPD研究会	《シンポジウム》長期PD・離脱期の管理 PD離脱期における患者・家族ケア	'18/12	大阪市	看護部	上田恵利子
99	第6回大阪府看護学会	認知症のある透析患者のキーパーソンが移行した過程	'18/12	大阪市	看護部	泉 和裕
100	透析診療Thinking-up party ～患者さんに最適な治療を共に考えましょう～	慢性腎臓病（CKD）患者の療法選択を支えるチーム医療	'18/12	大阪市	看護部	筈谷留美
101	第92回大阪透析研究会	透析施設におけるRTCの献腎移植登録患者の支援について考える	'19/3	大阪市	看護部	渡邊陽子
102	第92回大阪透析研究会	長期PD患者が体験したHD以降に関する思いのプロセス	'19/3	大阪市	看護部	山崎由美
103	第92回大阪透析研究会	腹膜透析から血液透析へ移行した患者の思い	'19/3	大阪市	看護部	濱 水香
104	第91回大阪透析研究会	スクロオキシ水酸化鉄投与における維持透析患者の服用薬の調査	'18/9	大阪市	技術部 薬剤科	足立哲也
105	第28回日本医療薬学会年会	感染対策チームによる抗菌薬適正使用支援活動～特定抗菌薬使用量減少に向けての取り組み～	'18/11	神戸市	技術部 薬剤科	倍味亜矢子
106	日本病院薬剤師会近畿学術大会	骨粗鬆症治療薬の安全な薬歴管理の取り組みについて	'19/1	京都市	技術部 薬剤科	若林亜希子
107	第68回日本病院学会	当院における透析患者に対する頭部MRI画像を用いた無症候性微小出血の検出	'18/6	金沢市	技術部 放射線科	田中伸一
108	第91回大阪透析研究会	中心静脈から鎖骨下静脈にかけての非造影MRA ～DSAとの比較～	'18/9	大阪市	技術部 放射線科	鈴木結太
109	第92回大阪透析研究会	当院透析患者におけるVSRADによる測定	'19/3	大阪市	技術部 放射線科	鈴木真由美
110	第68回日本病院学会	当院生理検査室における感染防止対策の標準化に向けての取り組み	'18/6	金沢市	技術部 臨床検査科	今田夕貴
111	第91回大阪透析研究会	CAPD患者のカテーテル関連感染における超音波検査の有用性の検証	'18/9	大阪市	技術部 臨床検査科	川崎広志
112	Bo' Ao CN-HEALTHCARE SUMMIT 2018	A project for standardized procedure to reduce blood scattering just after hemodialysis session	'18/4	中国, 海南省	技術部 臨床工学科	東田直樹
113	第45回日血液浄化技術学会学術大会	コンソール新規設置時の生物学的汚染の経験	'18/4	名古屋市	技術部 臨床工学科	氏原拓哉
114	第28回日本臨床工学会	透析中の血液凝固トラブルにおける対応方法の標準化	'18/5	横浜市	技術部 臨床工学科	東田直樹
115	第63回日本透析医学会学術集会	DCS-100NXオンライン補充液の清浄化対策	'18/6	神戸市	技術部 臨床工学科	遠藤誠幸
116	第63回日本透析医学会学術集会	B粉末自動溶解装置NPS-BWのB剤不足警報対策の検討	'18/6	神戸市	技術部 臨床工学科	村田哲平

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
117	第91回大阪透析研究会	腹水濾過濃縮再静注法（CART）の体温上昇に対するPMMA膜の効果	'18/9	大阪市	技術部 臨床工学科	安田春樹
118	第91回大阪透析研究会	過剰炎症患者における回路内凝固に対してAN69膜が奏功した1例	'18/9	大阪市	技術部 臨床工学科	櫻井滉貴
119	第92回大阪透析研究会	災害時の支援透析を経験して	'19/3	大阪市	技術部 臨床工学科	柳井真矢
120	第91回大阪透析研究会	大阪北部地震における在宅血液透析の状況	'18/9	大阪市	技術部 在宅透析科	北濃幹人
121	第63回日本透析医学会学術集会	血液透析患者の下肢バイパス術後の経過～膝窩動脈以下の症例について～	'18/6	神戸市	技術部 リハビリテーション科	松藤勝太
122	第8回透析運動療法研究会	外来血液透析患者に対する集団体操の取り組みと効果について	'18/7	札幌市	技術部 リハビリテーション科	李 寿恵
123	第8回透析運動療法研究会	血液透析患者の上肢ADLと身体機能との関連	'18/7	札幌市	技術部 リハビリテーション科	松藤勝太
124	第37回臨床運動療法学会学術集会	外来血液透析患者に対する集団体操の取り組みと効果について	'18/9	東京都	技術部 リハビリテーション科	李 寿恵
125	近畿理学療法学会学術集会	両下腿切断後、段差昇降獲得に至った血液透析患者の一症例	'19/1	奈良市	技術部 リハビリテーション科	山崎雄人
126	第9回透析運動療法研究会	高齢血液透析患者の転倒に関連する身体機能の検討	'19/2	名古屋市	技術部 リハビリテーション科	松藤勝太
127	第92回大阪透析研究会	両下腿切断の術前から介入し、段差昇降獲得にまで至った一症例	'19/3	大阪市	技術部 リハビリテーション科	山崎勇人
128	第9回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	高齢血液透析患者の転倒と身体機能との関連	'19/3	大分市	技術部 リハビリテーション科	松藤勝太
129	第9回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会	両下腿切断後、段差昇降獲得に至った血液透析患者の一症例	'19/3	大分市	技術部 リハビリテーション科	山崎雄人
130	第68回日本病院学会	入院血液透析患者への栄養管理の取り組み～CKDの重症化予防をふまえて～	'18/6	金沢市	技術部 栄養管理科	宮平杏奈
131	第22回日本病態栄養学会年次学術集会	外来維持血液透析患者の栄養取得状況について	'19/1	横浜市	技術部 栄養管理科	宮平杏奈
132	第92回大阪透析研究会	維持血液透析患者の栄養・食事摂取状況	'19/3	大阪市	技術部 栄養管理科	山本祐子
133	第92回大阪透析研究会	外来維持血液透析患者の栄養摂取状況について	'19/3	大阪市	技術部 栄養管理科	宮平杏奈
134	第34回日本環境感染学会総会・学術集会	バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）の集団発生事例では厳重なトイレ環境の整備も考慮すべきである	'19/2	神戸市	感染対策室	安田雅子



No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
135	第68回日本病院学会	当院における外国人透析患者受け入れ体制の構築	'18/6	金沢市	事務部 診療支援科	吉川綾子

## 論文発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	表題	掲載誌名	巻号No.	掲載頁	部署名	著者	掲載年
1	<リン・カルシウム代謝異常を理解するための予備知識> ホルモン：活性型ビタミンD	透析ケア	24(8)	20-21	診療部 内科	辻本吉広	2018
2	<リン・カルシウム代謝異常のプロセス> ビタミンD活性化障害	透析ケア	24(8)	34-35	診療部 内科	辻本吉広	2018
3	慢性腎臓病 (CKD) について	健康すいた	54	2	診療部 内科	前田忠昭	2018
4	A randomized, double-blind, placebo-controlled study of once weekly elcatonin in primary postmenopausal osteoporosis	Current Medical Research and Opinion	2018	447-454	診療部 内科	西澤良記	2018
5	腹腔内遊離ガスや門脈ガス血症を伴う腸管気腫症を合併した血液透析患者の2症例	日本透析医学会雑誌	51(8)	509-515	診療部 内科	下村菜生子	2018
6	Effect of Oral Alfacalcidol on Clinical Outcomes in Patients Without Secondary Hyperparathyroidism Receiving Maintenance Hemodialysis	JAMA (米国医師会雑誌, Journal of the American Medical Association)	2018;320(22)	2325-2334	診療部 内科	西澤良記, 辻本吉広	2018
7	看護師と患者の関係性成立のための「方向づけ」の重要性	愛仁会医学研究誌	50	133-134	看護部	森 章	2019
8	当院での透析患者下肢動脈エコーのとりくみ	大阪透析研究会誌	36(2)	137-140	技術部 放射線科	林 孝治	2018
9	中心静脈から鎖骨下静脈にかけての非造影MRA	大阪透析研究会誌	37(1)	49-52	技術部 放射線科	鈴木結太	2019
10	CARTを透析中に行った際にPMMA膜を使用することで体温上昇を抑えられた1例について	愛仁会医学研究誌	50	44-46	技術部 臨床工学科	安田春樹	2019

## 著書発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	著書名	出版社・地名	版・刷	掲載頁	部署	著者	発行年
1	骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの適正使用ガイド2018年版 (共著)	ライフサイエンス出版/東京	第1版第1刷	iii-iv 2-5 15-17	診療部 内科	西澤良記	2018
2	骨粗鬆症診療 (共著)	医薬ジャーナル社/大阪	初版	47-48	診療部 内科	西澤良記	2018

## その他 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	担当者
1	CKD学術連携フォーラム2018～CKD保存期から腎代替療法までの治療戦略～	《特別講演》 座長	'18/4	吹田市	診療部 内科	西澤良記
2	CKD学術連携フォーラム2018～CKD保存期から腎代替療法までの治療戦略～	クロージングリマークス	'18/4	吹田市	診療部 内科	西澤良記
3	鳥居薬品 社内レクチャー	当院の最近の動向	'18/5	吹田市	診療部 内科	藤原木綿子

No.	学 会 名	表 題	年月	開催都市	部署名	担当者
4	北大阪学術講演	《特別講演》 座長	'18/6	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
5	第38回日本骨形態計測学会	《会長講演》 座長	'18/6	大阪市	診療部 内科	西澤良記
6	第63回日本透析医学会学術集会	《特別講演》 司会	'18/6	神戸市	診療部 内科	西澤良記
7	第63回日本透析医学会学術集会	《教育講演》ベーシック21 透析患者のフレイルと慢性疲労症候群 司会	'18/6	神戸市	診療部 内科	西澤良記
8	第63回日本透析医学会学術集会	《ランチョンセミナー1》 司会	'18/6	神戸市	診療部 内科	西澤良記
9	第63回日本透析医学会学術集会	《ランチョンセミナー39》 司会	'18/6	神戸市	診療部 内科	西澤良記
10	第63回日本透析医学会学術集会	《一般演題》糖尿病/薬物療法 座長	'18/6	神戸市	診療部 内科	田畑 勉
11	キッセイ薬品 社内レクチャー	CKD-MBDと老化 当院でのリン吸着薬の使用について	'18/6	大阪市	診療部 内科	木津あかね
12	キリン 社内レクチャー	当院の最近の動向	'18/6	吹田市	診療部 内科	藤原木綿子
13	第16回CKD合併症研究会	閉会挨拶	'18/7	大阪市	診療部 内科	西澤良記
14	糖尿病地域勉強会	Opening Remarks, 総合司会	'18/7	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
15	第8回透析運動療法研究会	《大平先生追悼記念講演》 座長	'18/7	札幌市	診療部 内科	西澤良記
16	大阪透析医会講演会	《特別講演》 座長	'18/8	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
17	北摂PDセミナー	座長	'18/8	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
18	CKD/糖尿病 合併症連携研究会 2018	座長	'18/8	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
19	CKD/糖尿病 合併症連携研究会 2018	クロージングリマークス	'18/8	吹田市	診療部 内科	西澤良記
20	日本透析医学会創立50周年記念 講演会	閉会挨拶	'18/8	東京都	診療部 内科	西澤良記
21	第91回大阪透析研究会	《企業共催セミナー1》 座長	'18/9	大阪市	診療部 内科	西澤良記
22	第91回大阪透析研究会	《教育委員会企画セミナー》 座長	'18/9	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
23	第91回大阪透析研究会	《ランチョンセミナー5》 座長	'18/9	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
24	第17回Osaka Diabetes Clinical Conference ～病診連 携をめざして～	座長	'18/9	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
25	第19回大阪透析末梢循環障害研 究会	《特別講演》 司会	'18/9	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
26	大阪リウマチ医療連携セミナー	《特別講演》 座長	'18/9	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
27	第4回北摂フットケア勉強会	閉会挨拶	'18/10	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
28	千船byOWN緩和ケア研修会	ファシリテーター	'18/10	大阪市	診療部 内科	大野恭太
29	第20回日本骨粗鬆症学会	《知っておきたいシリーズ8 骨代謝マーカーと血液検査の見方》 座長	'18/10	長崎市	診療部 内科	西澤良記

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	担当者
30	第20回日本骨粗鬆症学会	《ランチョンセミナー4》 座長	'18/10	長崎市	診療部 内科	西澤良記
31	地域連携セミナー ～地域包括ケアを考える～	《特別講演》 座長	'18/12	豊中市	診療部 内科	辻本吉広
32	糖尿病性腎症重症化予防連携会 in 江坂 ～かかりつけ医と専門医の役割とは～	Opening Remarks, 特別講演座長	'18/12	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
33	糖尿病性腎症重症化予防連携会 in 江坂 ～かかりつけ医と専門医の役割とは～	Closing Remarks	'18/12	吹田市	診療部 内科	西澤良記
34	Effective Vitamin D Meeting	Opening Remarks	'18/12	豊中市	診療部 内科	辻本吉広
35	Effective Vitamin D Meeting	《特別講演》 座長	'18/12	豊中市	診療部 内科	西澤良記
36	還暦に思う	大阪神緑会会報	'18/12	第40号	診療部 内科	大野恭太
37	Premium Lecture	座長	'19/1	吹田市	診療部 内科	辻本吉広
38	第41回関西透析医学セミナー	当番世話人, 《一般講演》 座長	'19/2	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
39	第3回 KANSAI ADVANCED PD SEMINAR	座長	'19/2	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
40	透析診療Thinking-up party ～患者さんに最適な治療を共に考えましょう～	《特別講演》 座長	'19/2	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
41	第92回大阪透析研究会	《一般演題 災害》 座長	'19/3	大阪市	診療部 内科	辻本吉広
42	第47回日本IVR学会総会	《技術教育セミナー5》透析・バスキュラーアクセス コーディネーター	'18/5	東京都	診療部 放射線科	森本 章
43	第63回日本透析医学会学術集会	《一般演題》VA/症例報告(手術) 座長	'18/6	神戸市	診療部 放射線科	森本 章
44	第92回大阪透析研究会	《一般演題 バスキュラーアクセス1》 座長	'19/3	大阪市	診療部 放射線科	森本 章
45	北摂シャントケアセミナー	座長	'18/11	豊中市	診療部 外科	藤原一郎
46	第39回済生会中津病院二次救命処置コース	二次救命処置基礎コースインストラクター	'18/5	大阪市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
47	第5回ファシリテーターコース	ACLS (ICLS) インストラクター	'18/6	箕面市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
48	大阪ライフサポート協会AHAコース講習会	BLSトレーニングインストラクター	'18/7	大阪市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
49	大阪ライフサポート協会AHAコース講習会	BLSトレーニングインストラクター	'18/9	大阪市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
50	第4回北摂フットケア勉強会	《特別講演》 座長	'18/10	吹田市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
51	第19回ほくせつフットケアカンファレンス	《教育講演》 座長	'18/10	高槻市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
52	第43回ACLSin高槻病院	ACLSスタッフ	'18/10	高槻市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
53	高槻透析セミナー	《一般講演》 座長	'18/11	高槻市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	担当者
54	大阪ライフサポート協会 心肺蘇生法・AED講習会	講師	'18/11	大阪市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
55	大阪ライフサポート協会AHAコース講習会	ACLSトレーニングインストラクター	'18/12	大阪市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
56	大阪ライフサポート協会AHA BLS ACLSコース講習会	BLS・ACLSトレーニングインストラクター	'19/2	大阪市	診療部 心臓血管外科	谷村信宏
57	薬剤師セミナー ～疼痛・便秘編～	座長	'18/6	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
58	Golimumab User's Meeting in Osaka	座長	'18/6	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
59	第38回日本骨形態計測学会	《一般演題V》骨代謝臨床 座長	'18/6	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
60	高齢者RAの治療を考える会	座長	'18/7	吹田市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
61	Total Care Support Seminar ～フレイルと骨粗鬆症～	座長	'18/8	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
62	Lilly Osaka RA Seminar	総合座長	'18/8	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
63	Lilly Osaka RA Seminar	座長	'18/10	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
64	Lilly Osaka RA Seminar	座長	'18/11	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
65	HUMIRA RA Meet The Expert in OSAKA	座長	'18/11	大阪市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
66	Total Care Support Seminar ～高齢者疾患を考える～	座長	'19/2	豊中市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
67	US Skill up seminar	座長	'19/3	吹田市	診療部 整形外科	佐藤宗彦
68	第4回北摂フットケア勉強会	《教育講演》 座長	'18/10	吹田市	看護部	西原伸美
69	第37回市立豊中病院二次救命処置コース	インストラクター	'18/5	豊中市	技術部 薬剤科	足立哲也
70	第40回千船病院二次救命処置コース	インストラクター	'18/12	大阪市	技術部 薬剤科	足立哲也
71	北大阪学術講演	《特別講演》 座長	'18/6	大阪市	技術部 栄養管理科	山本祐子
72	第63回日本透析医学会学術集会	《一般演題》 オンラインHDF/フィルター性能2 座長	'18/6	神戸市	医療安全管理室	榎本 拓

## 井上診療所(みかん)

### 口頭発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第92回大阪透析研究会	腹膜透析から血液透析へ移行した患者の思いを知る	'19/3	大阪市	透析室	濱 水香, 有木さなえ, 仲宗根純子

## 介護老人保健施設 つくも

### 口頭発表 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	発表者
1	第18回大老協懇話会(事例発表会)	自分たちの手で利用者に喜んでもらえる美しい中庭を作ろう!	'18/7	大阪市	事務科	西島あゆみ
2	第29回全国介護老人保健施設大会埼玉	生きがい感から見たデイケア活動プログラムの実態	'18/10	さいたま市	療養科	平野裕子

### その他 (2018/4/1～2019/3/31)

No.	学会名	表題	年月	開催都市	部署名	担当者
1	第29回全国介護老人保健施設大会埼玉	リスクマネジメント 座長	'18/10	さいたま市	療養科	浜崎智美

## 愛仁会教育研修委員会

委員長 南 宏尚

委員 植田みゆき, 大石有香, 尾形秀子, 川口ひとみ, 倉本孝子  
小杉 正, 柴崎里美, 清水洋志, 台野悦子, 筒井詠子  
寺崎玲子, 富田昌代, 長岡正子, 中川文子, 中西昌平  
平中崇文, 宮本典子, 森本 章, 横山直樹

(50音順)

### 年報 2018

発行日 2019年12月1日

発行所 社会医療法人愛仁会 愛仁会本部

総務・学術人材開発グループ

(学術人材開発担当)

〒555-0001 大阪府大阪市

西淀川区佃2丁目2番46号

TEL (06) 6375-0660 FAX (06) 6375-0560

<http://www.aijinkai.or.jp>